プロレス会心の一撃!! ハッスルが大晦日出撃!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MA

enterbrain MOOK

2007
117
880yen



氷の拳が世界を変えるのか!?
UFC帝国にまさかの宣戦布告!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

PRIDE難民よ、立ち上がれ!!
奇天烈バカサバイバーが激白!
青木真也

日本マット界に光を!
なるか格闘"大連立"!?
谷川貞治FEG代表

前門のヒョードル、後門のクートゥアー!?
UFCクライシスの内幕を激白!!
ダナ・ホワイトUFC代表

旧PRIDE派イベントは何をもたらすか!?
大晦日"格闘祭りの陣"座談会

戦慄すぎる!! 恐るべき"黒"の復帰戦!
秋山成勲 魔王聖誕祭

11.25 ハッスル・マニア2007直前&
12.31 ハッスル祭り2007開催記念ど特集!!
髙田延彦
天龍源一郎×RG
武藤敬司×曙

大好評シリーズ第四弾!!
前田日明"変態"座談会

日本の皆さん、戦争が始まります

どうなる仁義なき格闘大再編!
旧PRIDE派が大晦日に"復活"イベント開催へ!!

kamipro 117 皆さん、戦争が始まります!!

印刷・製本/図書印刷株式会社

enterbrain

RGの"やられっぷり"が観られるのはテレビ東京だけ!!

『ハッスル・マニア』でRGのミラクルバンプがまたまた炸裂!?

やられんのかっ!?



©みのもけんじ

RGの"やられっぷり"が観られるのはテレビ東京だけ!!

2007 No.117 CONTENTS

WORLD WAR

K-1 & HERO'S

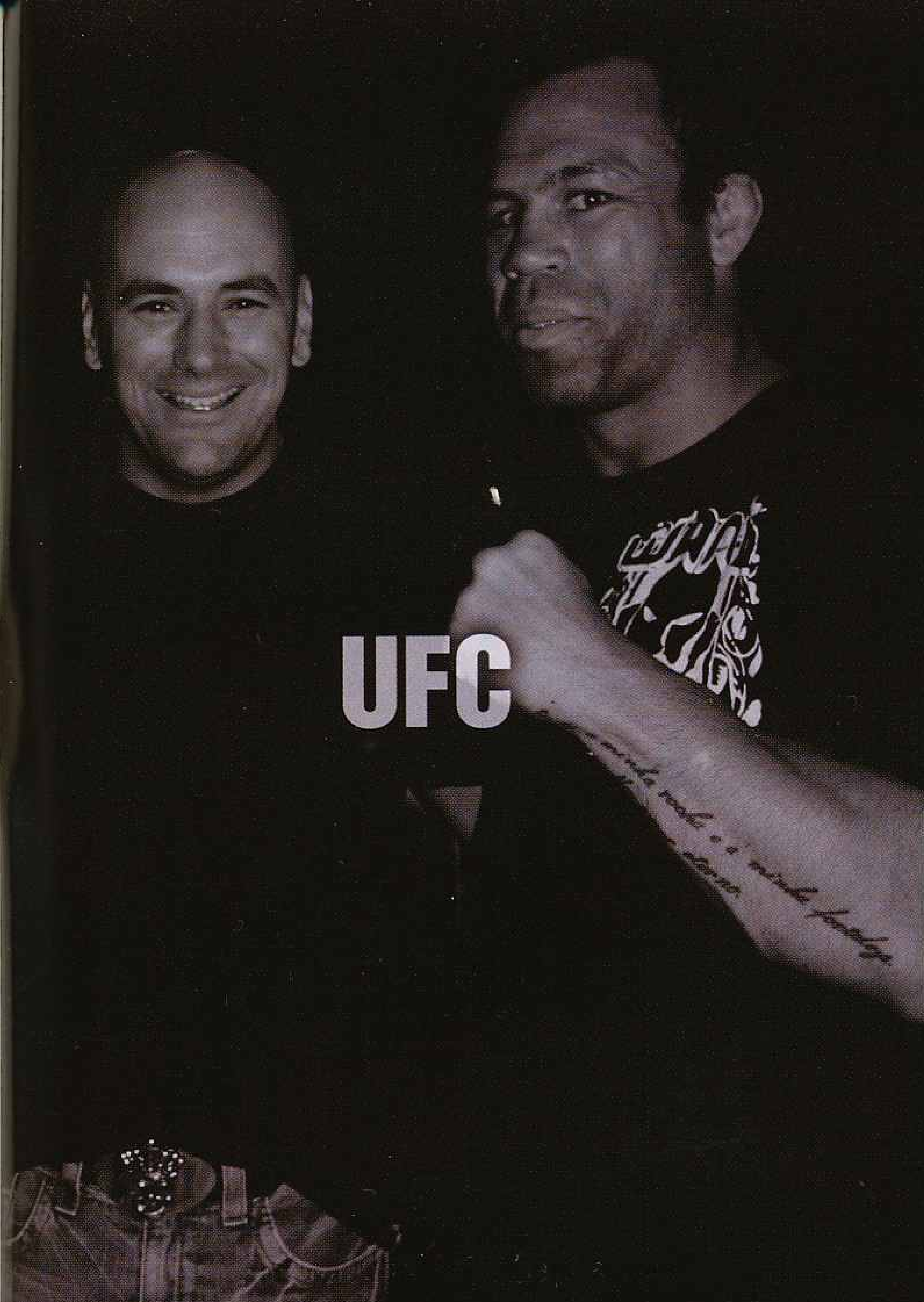
kamipro Special

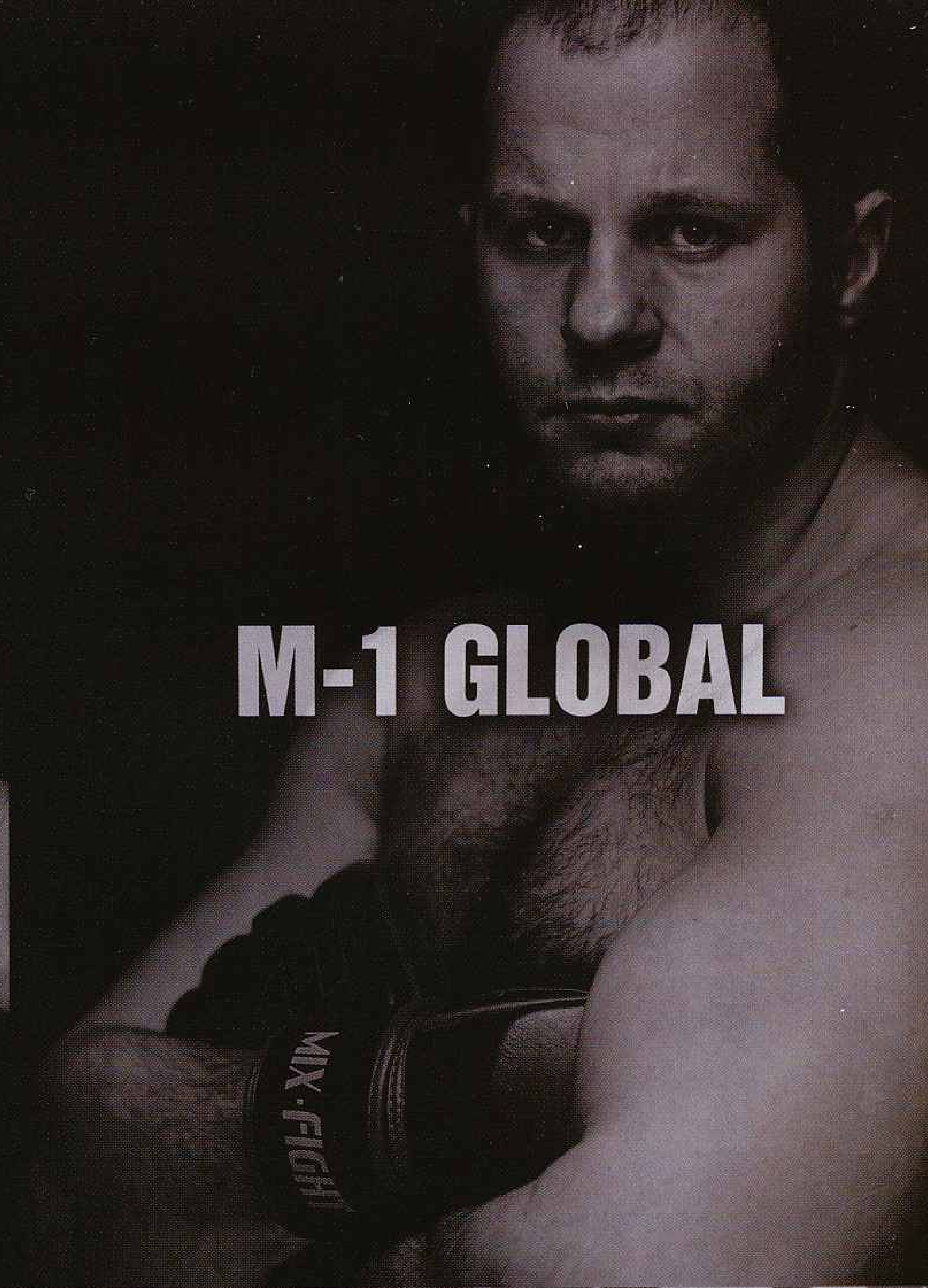
HUSTLE

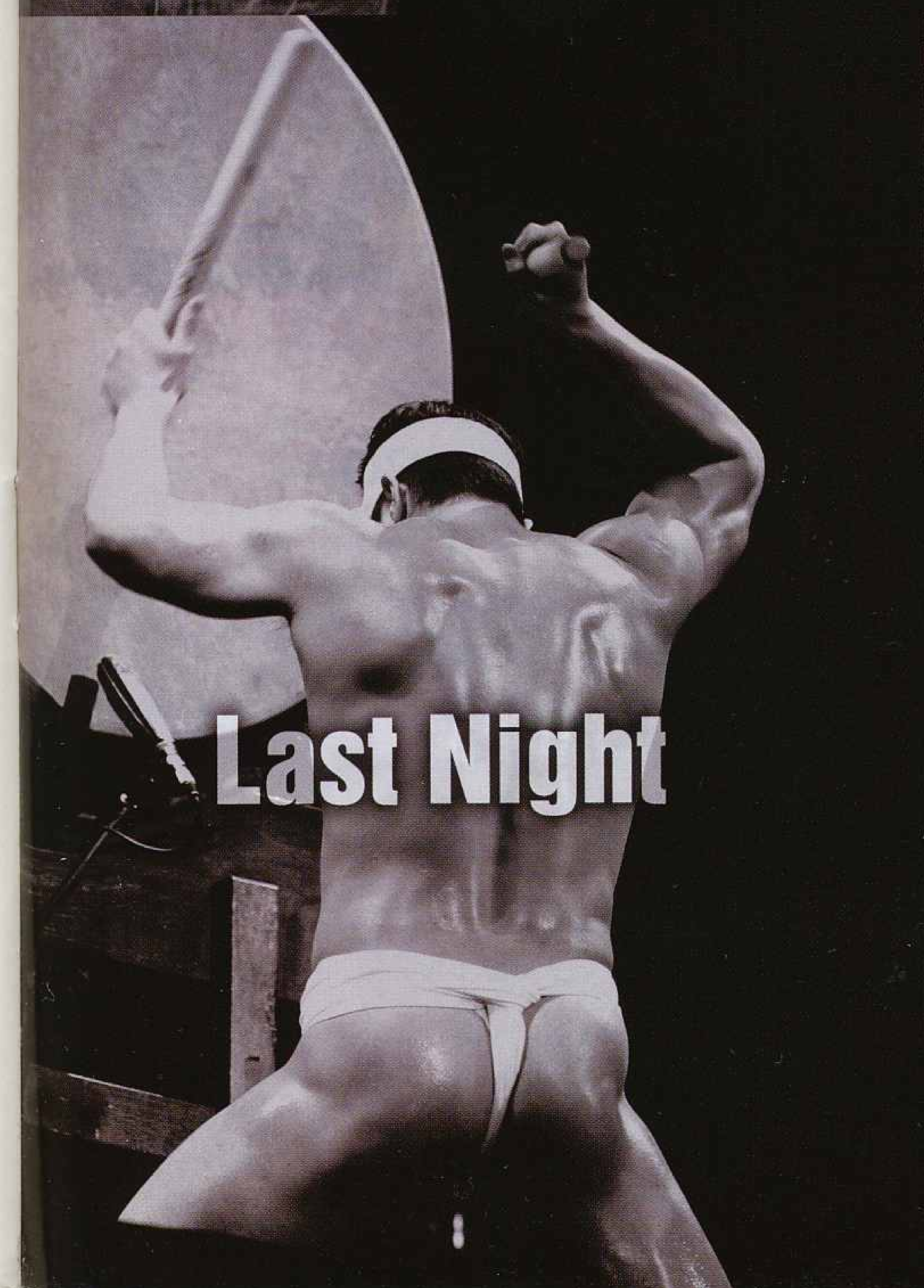
Columns

kamipro

表紙写真／レッドデビル


UFC


M-1 GLOBAL


Last Night


Dynamite!!

格闘新世界の"役者"は揃った!!

『PRIDE』の元スタッフたちが"夢の続き"へ動きだした――!!

10月4日――、『PRIDE』10周年を目前にして起こった、PRIDE FC WORLDWIDEによる日本事務所の全社員解雇、および事務所閉鎖劇。これまで多くファンをとりこにしてきた『PRIDE』の独特の世界観は、彼ら解雇されたスタッフの力によるところが大きかったため、これは事実上の"PRIDE消滅"を表わす出来事だった。

そして、それから約一ヵ月――、本誌締め切り11月8日時点で正式発表はされていないが、解雇された一部の元社員らが、大晦日の格闘技イベント開催に向けて前向きに動いているという。発表のタイミングはまだ明らかにされていないが、何か不測の事態が起こらないかぎり、大晦日に"夢の続き"が観られることになる。

『PRIDE』という名称は、ロレンゾ・フェティータ氏が権利を所有しているため使用はできないが、これは"PRIDEの概念"を持ったイベントといえるだろう。

この動きによってしばらく停滞していた格闘技シーンはにわかに慌ただしくなってきた。中でも興味深いのは、UFCからの破格のオファーを蹴って、格闘新勢力『M―1グローバル』との契約を結んだ皇帝ヒョードルが、"大晦日イベント"への参戦を突如表明したことだ。

現時点で参戦の有無は公式発表されていない。しかし、『M―1グローバル』自体も来年初夏の日本進出を計画しており、いずれ日本との接点は確実に増えていくことだろう。多くの読者は実感がないかもしれないが、豊富な資金力はもとより業界の熟知ぶりはボードッグの比ではなく、「打倒UFC」の可能性を秘めたプロモーションなのだ。すでに数人の日本人選手の獲得にも成功した、という仰天情報も入ってきている。

また、世界制覇目前だったUFCは、まさかの"内部告発"によってつまずきを見せてしまったが、ヴァンダレイやミルコ、ノゲイラなど"日本向けの切り札"は揃っており、これまでと変わらず日本進出に強い意欲を見せている。

外資系イベントのこういった動きに、我らがK―1の谷川貞治将軍様は黙っていない。すでに日本侵攻に備えたダイナマイト・ディフェンスを構築中との噂である。いったい何が起ころうとしているのか。ズバリ言えば、これまでの常識では測れない"出来事"が次々と起こってもなんらおかしくない状況なのである。

UFC、『Dynamite!!』、"夢の続き"――、そして見え隠れするM―1の怪しい影! 今年の大晦日決戦はあくまで"巨大なる通過点"にしかすぎず、各格闘勢力は"大晦日の向こう側"を見据えた陣地獲りに動いている。一手先、二手先どころか十手先の読み合い、騙し合い!

"夢の続き"の実現により、格闘新世界幕開けの"役者"は揃った。あとは、ショック死寸前のウルトラ・サプライズが起こるのを待つだけ!!


さあ、鳥肌立てる準備はいいか……。



夢か現(うつつ)か大晦日!!

徹底追跡座談会

かねてから噂されていた元PRIDEスタッフらによる大晦日、
さいたまスーパーアリーナでの総合格闘技イベント開催がついに決定！
しかもこれは、〝ラスト興行〟を行なわずに、
事実上、消滅してしまった『PRIDE』のケジメのためというだけでなく、
来年に向けた大きな動きの一つだと言われている。
はたして大晦日、そして来年、何が起こるのか？
風雲急を告げるマット界を今月も座談会で徹底追跡します！



"旧PRIDE派"が12・31さいたまSA大会決行！
あの"PRIDE"が一夜限りの復活へ!!

……………されど
これは"始まり"
にすぎない!!

ガンツ いやぁ、凄い発表があったねぇ！

ジャン 本当にビックリ!! 鳥肌立ったとはこのことですよ！

タコ え!? なんの発表があったん？『ハッスル』が大晦日にやるぐらいしか、大きな発表なんかされてないやん。

ジャン いや、この座談会を収録している11月8日現在では、なんの発表もされてませんけど、この号が発売されてる頃には、何かしら大きな発表がある……いや、あったらいいなあ、と。

タコ なんや、なんも決まってへんのかい！

X それはぁ、あなたが知〜らないだけ！（怪しいロレツで）。水面下では凄い動きがいろいろあるんだよぉ！ ……ヒック。

タコ （小声で）ちょっと、この酔っぱらいのオッサン、誰やねん。

ジャン ああ、ご紹介が遅くなりました。名前を伏せずにはいられない、業界一の情報通ミスターXさんです。

X よろひく〜。

ガンツ 匿名なのをいいことに、完全に酔っぱらって座談会に現われた、とんでもない人です（笑）。

X だって夕方スタートだって聞いてたのにぃ、「深夜に変更になりました」って言うから、飲んできちゃったの。えへへへ。

ジャン というわけで、酔っぱらいは気にせず先に進めたいと思います。

タコ で、大きな発表はありそうなん？

ガンツ この号が発売される頃、もしかしたら全然違う状況になってるかもしれませんけど、どうやら旧PRIDEスタッフの人たちが中心となって、大晦日にさいたまスーパーアリーナで総合格闘技イベントを開くことが決定したみたいなんですよ。

タコ ほぉ〜、ほんまに決定したんや！

ジャン やるという噂は10月下旬頃から出ていて、二転三転……四転五転ぐらいしたんですけど、いまのところ「たぶんやる」ということみたいですね。

タコ 「たぶん」ってなんや（笑）。

X 一応内定ってことれしゅ！



加藤元専務や佐藤大輔氏をはじめとした、旧PRIDE派と呼ばれるメンバー。これまで『PRIDE』の世界観を構築してきた彼らが、大晦日のさいたまスーパーアリーナで、どんなイベントを見せてくれるのか。

旧PRIDE派は「その手があったか！」という方法でヒョードル参戦に向けて動いている

ジャン でも、あくまで内定なんで、この号が出る頃には発表されているのか、それとも急遽中止になってるのかわからないんですよね。でも、「たぶんやる」ことを前提に表紙もページも作っているので、いま非常にドキドキしております（笑）。

ガンツ これでやらなかったら、大笑いだよね。

ジャン かつて桜井“マッハ”速人を表紙にして「それでも俺は武士道に出る」っていうコピーを打ったのに、発売直前に「マッハ欠場」が発表されたときの『ゴン格』以来の珍事となりますね（笑）。

X あのとき、クマクマンボ（熊久保英幸）が落ち込んでたなぁ。「なんで出ないんだよ……」って。アハハハ！

ジャン そういうわけで超リスキーなんですが、「たぶんやる」ということを前提に話を進めます。

タコ その旧PRIDE派の人らがやるイベントというのは、どういうメンツなん？

ジャン 選手以外で言えば、榊原信行元代表を除いた旧PRIDEの主要メンバーに、佐藤大輔さんといった外部スタッフを加えた人たちですよね。

タコ へぇ〜、会社がなくなったあとも一致団結してるんや。選手は誰が参加しそうなん？

ガンツ いろんな選手が候補には挙がっていますけど、青木真也、桜井“マッハ”速人、川尻達也あたりの参戦は確実視されてますね。

ジャン それからエメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦も取り沙汰されてますね。

X あとねぇ、日本総合格闘技協会の中核を担うと思われてた、吉田道場勢が協力するって噂も聞いてま〜す！ ヒック。

タコ （小声で）編集長、この話はホント？ さっきから信用できへんけど。

ジャン まあ、吉田秀彦が大晦日の旧PRIDE派の興行に出場するかもしれないという噂はありますね。

ガンツ だから、UFCと契約していない、元『PRIDE』の選手たちは、あらゆる人が大晦日に出場する可能性があるってことですよね。

タコ でも、なんでこのタイミングで大晦日の興行開催に踏み切ろうと思ったん？ もう11月も中旬やで。なんぼなんでも時間がないやろう。

ジャン いや、旧PRIDE派は、10月4日にPRIDE FC WORLDWIDEの日本事務所が閉鎖されて、全社員解雇になった直後から、動き出してはいたんですよ。あと、大晦日のさいたまスーパーアリーナを旧PRIDE派の関連会社が押さえてたから、ということもあります。

タコ やらなかったら会場のキャンセル代がかかるってことか。でも、それは『ハッスル』が大晦日に開催することになったんやから、それでええやん。わざわざ昼夜興

座談会出席者

堀江ガンツ
本誌編集部。子どもの頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らし、本誌入社後もUWF研究家を自称。変態的『PRIDE』支持者でもある34歳。

ジャン斉藤
本誌編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て『kamipro』入り。永久電機などの夢いっぱいなアントン事業をライフワークとする32歳。

原タコヤキ君
元『紙のプロレス』編集者。現在はセクハラ音楽プロデューサー。格闘技業界外の人間なので、今回は情報収集のために座談会に参加。

ミスターX
どこから仕入れてくるのか、格闘技業界のあらゆる情報を集める地獄耳。本誌の座談会に出席するときは、「名前を伏せてください」が口癖。

行でやる必要はないと思うけどな。

ジャン　確かに無理にやる必要はないんですよ。だから、やるかやらないか二転三転してたんですけど、旧PRIDE派のモチベーションは、『PRIDE』がああいうかたちで突然〝消滅〟してしまったじゃないですか。ファンに「さよなら」の挨拶もできてないから、何かしらケジメをつけたいってことらしいんですけどね。権利の関係で『PRIDE』というタイトルは使えないけど、あの独特の世界観を再現しようとしているみたいです。

タコ　大晦日だけの「さよなら興行」ってことか。でも、ええ大人が、「最後はきれいに終わらそう」みたいな、センチメンタルな理由で集まったりするのかね？

ジャン　いや、やるからには、もちろん勝算があるからやるんでしょう。

ガンツ　ほかのジャンルで考えても「解散コンサート」みたいなことって、ビジネスチャンスじゃないですか。あとは「閉店セール」とかね。だから年末、大々的に「閉店セール」をやって、来年「新装開店セール」をやるんじゃないですか？（笑）。

タコ　じゃあ、来年以降も、続ける可能性もあんの？

ジャン　それは現時点ではわかりません！

ガンツ　とりあえず今回ありきですよね。だから『PRIDE・1』と一緒ですよ。あれも実行委員会形式で、一回限りのはずが、『PRIDE・2』もやることになって、それがいままで続いてきたわけじゃないですか。だから、大晦日だけやって解散かもしれないし、続くかもしれないし、別のかたちになるかもしれないし。

タコ　別のかたちって、どんなのがあるん？

ガンツ　たとえば、今回の大晦日もFEGと旧PRIDE派が協力して、さいたまスーパーアリーナで『Dynamite!!』をやるんじゃないかっていう噂があったじゃないですか。そういったかたちで、来年以降、ほかのイベントと合体して続くということも考えられますよね。

タコ　そんなんなったら凄いなぁ。

ガンツ　それか、FEGじゃなくても、ワールドビクトリーロードと合体するとか、『M―1グローバル』の日本進出に協力するなんてことも考えられますよね。

ジャン　実際、10月ぐらいには大晦日は旧PRIDE派じゃなくて、『M―1グローバル』が主催したイベントをやるという噂も一部では出てましたしね。

タコ　えぇ～⁉　そんな噂があったん？

ガンツ　さっき言った、FEGと共催と同じ感じですよね。要はヒョードルを呼んだりすると高いじゃないですか。じゃあ、主催は『M―1グローバル』に譲って、そのイベントの協力を旧PRIDE派がやるってことだったら、逆に仕事を請け負うかたちになるので、金銭的なリスクがないんじゃないかってことですよね。まあ、この噂は立ち消えになりましたけど、旧PRIDE派とヒョードル陣営が接触したことは確かなようですね。

ジャン　だから、大晦日の旧PRIDE派興行にヒョードルが参加するって、普通に考えたらいろいろと難しいじゃないですか。それにいくらヒョードルが望んでるからといって、『M―1グローバル』が2月に旗揚げを控えているこの時期に、他団体にエースを貸し出したくないだろうし。

タコ　そうやなぁ。なんのために高い金を払ってヒョードルと契約したんやってことになるもんな。

ジャン　でも、旧PRIDE派は「その手があったか！」というような方法で、なんとかヒョードルを招聘しようとしてるようですけどね。『M―1グローバル』の幹部たちはヒョードルの大晦日参戦を完全否定しましたけど、聞くところによればヒョードル自身はいまだに前向きみたいで。ただ、時間がないので現時点で出場の可能性は五分五分って感じですけどね。

タコ　へえ～！　ちなみに「その手があったか！」というのは何？

ジャン　……ひ・み・つ‼

X　な～に言ってんのぉ。知ってるなら書いちゃおうよ。言わないなら、なんでも知ってる俺が言っちゃうよ～。

ガンツ　言わなくていいから！（笑）。

タコ　でもさ、なんで無理して世界一ファイトマネーが高いヒョードルを呼ぼうとするのか不思議なんやけど。青木とかマッハ中心でやったらええやん。

ジャン　大晦日はいわば『PRIDE』の〝卒業式〟みたいなイベントなわけじゃないですか。だから『PRIDE』を象徴する選手を呼ぼうとしているんでしょうね。

ガンツ　でも、このタイミングで〝ヒョードル頼み〟というのもありえない。ほかに何かしら大きな仕掛けがあって、充分な勝



元PRIDEファイターの中でも大物中の大物、吉田秀彦。これまでワールドビクトリーロードへの参戦が確実視されていたが、旧PRIDE派の大晦日興行出場もありうるのか？　また『Dynamite!!』からは、秋山戦のラブコールもあり、その決断の行方が注目される。



大晦日の『PRIDE』といえば、やはりこの豪華なセットと、ふんどし暴れ太鼓！　本部長でなくなったとはいえ、旧PRIDE派のイベントにやはり高田は必要だ！

算があると考えるのが普通だよね。

X　とんでもないことをやろうとしてるんだよぉ！　俺は知ってるけどね（ニヤリ）。

タコ　なんや。この酔っぱらい、知っとるらしいで。

ジャン　ボクが聞いている話が実現するなら、大晦日自体も空前のビッグイベントになりつつ、それでいて〝巨大な通過点〟になると思いますけどね。ただ、繰り返しますけど、いかんせん時間がないからどうなるか……。

タコ　へぇ～、〝巨大な通過点〟。これだけじゃ、終わらんってことか。

ガンツ　いまは世界規模でマット界再編に動いてますからね。年末から来年にかけて、何が起こるかは、ホントにわかりませんよ。

タコ　俺の知らんところで、いろいろ動いてるんやなぁ。旧PRIDE派が、そうやって頑張ってる中、『Dynamite!!』のほうはどうなん？　いまの時点では、まだ桜庭vs船木と魔裟斗vsチェ・ヨンスしか発表になっとらんけど、なんか隠し玉はあるんかな？

ジャン　もちろん考えてるでしょうね。今年は『HERO'S』やK-1MAXの視聴率が苦戦してましたから、TBSからのプレッシャーだって、かなりあるでしょうし。

ガンツ　ボクシングも含めて、格闘技番組の風当たりが強いですからね。ここでコケたら、来年はもうないかもしれないから、相当に危機感があると思いますよ。

X　谷川さんもねぇ、すんごいこと考えてるよ！

タコ　お、この酔っぱらい、『Dynamite!!』の目玉も知っとるらしいで。もったいつけずに教えてくださいよ。

X　えへへへ。まだ教えな～い。

タコ　クゥ～、腹立つなぁ！

ガンツ　でも、谷川さんが凄いことを考えてるのは確かですよね。それは朝青龍や亀田大毅を出すとか、そういうことじゃなくて、いままでの『Dynamite!!』とは全然違うベクトルで、画期的なことを考えてるという話ですよ。

タコ　じゃあ、『Dynamite!!』も期待できるってことか。

ジャン　だから旧PRIDE派、FEG問わず、いろんな人がみんな本気になって動いてるということですよね。それぐらい、今年の大晦日というのは、日本格闘技界にとって、起死回生の最大にして最後のチャンスだと思いますよ。このところ、ちょっと下り坂でしたけど。

タコ　ほんまやで。下り坂どころか、もう崖から落ちる寸前やと思っとったわ。

ガンツ　でも、ホントこのままだったら、崖から落ちるのを待つだけだったかもしれませんからね。それだったら、おもいきって博打を打たないと。

タコ　あと、あれはどうなん？　日本総合格闘技協会とワールドビクトリーロードっていうのは。

ジャン　そっち方面は事情通Xさんに聞いたほうがいいんじゃないですか？

タコ　Xさん、そのあたりどうなんですか？

X　………え？　何？

タコ　このオッサン、寝とったで。何しに来とるんや（笑）。

ガンツ　ワールドビクトリーロードはどうなるんですか？

X　2月15日、日本武道館で旗揚げ。

タコ　寝てたくせに、情報だけはやたら詳しいな（笑）。

X　会場および日にちは複数押さえてる

大晦日はFEGも〝凄いこと〟を考えている
日本格闘技界にとって起死回生のチャンス

らしいので、変わるかもしれませんけど、一応いまのところ2月15日らしいで～す。

ガンツ　対戦カードや出場選手はどうなるんですか？

X　な～んにも決まってないようで～す。ドン・キホーテにしても、木下工務店にしても、お金は出すけど、総合格闘技のソフトは作ったことがないわけですからね。

タコ　それで、ちょっと後手に回っとるわけか。

X　だからワールドビクトリーロードの最初の記者会見は前代未聞で、旗揚げの日取りも教えない、出場選手も教えない、ただしスポンサーはいますっていうものだったんですよ。あと、「ウチは公明正大にやります」っていう、半分嘘っぱちみたいなことね。

ジャン　嘘っぱちって、あなた匿名だからってメチャクチャ言ってるでしょ！

ガンツ　ただいまX氏より、不適切な発言があったことをお詫びいたします。

X　でも、ワールドビクトリーロードは、資金力があって、政治力もありますから、思わぬビッグカードが実現する可能性もあると思いますけどね。

ジャン　レスリング協会との結びつきから、山本KIDや五味隆典の参戦も以前から噂されてますもんね。

ガンツ　だから、五味隆典vs山本〝KID〟徳郁という、PRIDE王者vsHERO'S王者のドリームマッチが、なぜか『Dynamite‼』でも旧PRIDE派でもなく、ワールドビクトリーロードで実現する可能性もあるわけですよね（笑）。

タコ　KIDがワールドビクトリーロードに移るっていう可能性は高いんですか？

X　高いとは言えませんけど、条件次第で上がる可能性は充分ありますよ。

ガンツ　KIDも長いスパンで考えたら、レスリング協会とガッチリ組んでいくのは、悪い選択肢じゃないでしょうしね。

タコ　ほんじゃ、ワールドビクトリーロードも注目する必要があるってことか。あとは、UFCが日本に進出するって話は、もうなくなったん？

X　いや、あると思いますよ。でも、「日本進出」というより、「アジア進出」ということを考えていると思います。

タコ　まあ、UFCも当然マーケットリサーチしとるやろうからな。日本で地上波つかんかったら、ほかの国でやったほうがええってなるのかもしれんわけか。

X　UFCは基本的に主な収入源はPPVですから、日本でやろうが、韓国でやろうが、上海でやろうが、変わらないんですよ。だから、条件がいいところでやるんじゃないですかね。

タコ　そうかぁ。じゃあ、いずれにしても旧PRIDE派の興行が大晦日にあるし、ワールドビクトリーロードも来年あるし、あとUFCや『M－1グローバル』も来るかもしれんし、と。日本でメジャーな総合格闘技を観られるのは『HERO'S』だけかと思っとったけど、いろいろ観られそうなんやな。

ジャン　とくに大晦日は凄いことになりそうですよ。『Dynamite‼』、旧PRIDE派、それから『ハッスル』もあるし。

タコ　そうや。『ハッスル』もあったんや。そう考えると髙田も大変やな～。昼も夜も出ずっぱりやん。

ジャン　いや、それが旧PRIDE派にとって一番苦戦しそうなのが、髙田本部長の担ぎ出しになりそうなんですよ。

タコ　え⁉　なんでなんで？

ジャン　『ハッスル』は初の大晦日開催で、しかも初のゴールデンタイム放送じゃないですか。だから、本部長にしたら『ハッスル』に訪れたこのビッグチャンスに全力投球したい気持ちがあるんでしょうね。あとは、新生PRIDEになってから、自分がファンに対して公言してきたことがまったく実現しなかったわけじゃないですか。

タコ　ああ、「UFCとMMA版スーパーボウルをやります」とかやな。

ジャン　だから、PRIDEファンに会わせる顔がないっていう気持ちもあるみたいです。

タコ　でも、ファンはそんなふうに思ってる？

ガンツ　思ってないでしょうけど、そういうことを気にする人なんですよね（笑）。

ジャン　でも、せっかく旧PRIDE派が大晦日にイベントをやるのに、本部長のふんどし暴れ太鼓がないっていうのも寂しいですよねえ。

タコ　年の瀬って感じがしいひんよな。

ガンツ　でも、前日まで「やらない‼」って言っておきながら、当日イベントが始まったら、いつものように天井から太鼓が降りてくるような気もしますけどね（笑）。

タコ　総統の衣装の下には、ふんどし締めてるかもしれへんな（笑）。

ジャン　ホントに大晦日、『ハッスル』と旧PRIDE派興行の両方に出るとなったら、本部長の舞台裏でドキュメンタリー番組作れますよ！

タコ　「髙田延彦の一番長い日」やな（笑）。

ジャン　昔、『レコード大賞』と紅白歌合戦のハシゴをする歌手がたくさんいましたけど、本部長の場合は別人格ですから、これは凄いことになりますよ（笑）。

タコ　いや～、大晦日が楽しみになってきたなぁ！

ガンツ　でも、今日話したことは、あくまで11月8日時点での話ですからね（笑）。

X　明日になったら状況が変わってるような気が……。

ジャン　でも締め切りが明日なんで、ダメになっても載せるしかないんですよ。あ～、ドキドキする（笑）。

ガンツ　読者の皆さん、もしこの座談会で話したことが実現しなくても、11月8日現在では、こんな夢のような話があったということをご理解ください！

ジャン　発売日の頃、とんちんかんな内容になって、「ざまあみろ！」と言われないことを祈りましょう（笑）。

【07月11月8日／『kamipro』編集部にて収録】


ヒョードルを中心に豪華メンバーが揃った、昨年の『男祭り』のエンディング。今年の大晦日もこんな光景が見られるのか？



史上最狂のバカサバイバー

青木真也



待ってた俺ってカッコいい!!

**待ちすぎた男・青木真也が高らかに大晦日出陣宣言！
インタビューの段階ではまだ噂レベルでしかないが、“大晦日はやる！”
という大前提でバカサバイバーを直撃すると……、
うっぷんが溜まりに溜まった青木はいつも以上にハイテンション&大暴走〜ッ！
大晦日、この高く突き上げた拳はいったいどこに振り落とされるのか？ 青木の言葉から探れ！**

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

ラスト興行から8ヵ月――
ついにPRIDEの破片が大晦日に再集結か!?

PRIDE難民よ いざ、立ち上がれ!

実際に待っている選手は、ボクと川尻選手と石田選手ぐらいですよ

——青木さん！　待ちに待った旧『PRIDE』スタッフのイベントが、大晦日にさいたまスーパーアリーナで開催されますね!!　……まだ噂レベルですけど（笑）。

青木　噂レベル！　……いったいどんなインタビューなんですか、これ！

——ダハハハハ！　いや、締め切りの都合で「イベントはやる！　青木真也も闘う!!」という前提でお送りします（笑）。

青木　ククク。でもまあ、ワオ木予想では、大晦日に間違いなくやるでしょう！

——間違いなくやりますか！

青木　やる、やる！　っていうか、やってもらわなきゃ困りますよ!!（ドンッ）。

——ウチも困ります!!　こんなインタビューまでしているのに（笑）。

青木　やってくれないと、ボクを含めた〝PRIDE難民〟たちが一揆を起こしますよ！

——なぜ一揆!?　ターザン山本！じゃないんですから（笑）。

青木（無視して）土一揆、土一揆！　難民一揆ですよぉぉぉ!!

——それくらい選手やファンは〝PRIDE〟に餓えてるわけですね（笑）。それにしても青木さん、今年はずいぶん待ちましたよね。

青木　本当に待ちましたよぉ……（しみじみと）。まだやるかどうかわかりませんけどね。ククク！

——正直、精神的につらかったんじゃないですか？

青木　つらいも何も、ガマンできないですよ！　若者はとくに!!　暴走する青春、絡みつく純情ですよ!!

——そんな爆発寸前の状況でも、青木さんは『PRIDE』の元スタッフについていくというスタンスを貫き通してましたよね？

青木　はい。ボクが闘いたい舞台は、『PRIDE』という名前のイベントじゃなくて、『PRIDE』という世界観が根づいているイベントなんです。

——あらためて聞きますけど、その『PRIDE』が開催されないこの8ヵ月間、青木さんにとってどうでした？

青木　う〜ん、凄く難しい質問しますね。まあ、大人になりましたねえ……（遠い目で）。

——なんか夏休み明けの高校生みたいなセリフですね（笑）。どういう部分で大人になったんですか？

青木　だって『PRIDE』で試合をやりたかったけど、できなかったわけじゃないですか。自分の好き勝手にいろいろできないことがわかりましたねえ……（再び遠い目で）。

——なるほど。世の中の不自由さを感じましたか（笑）。

青木　そう！　今日だって、尾崎豊の『15の夜』を聴いてから、自分のバイクで練習に向かいましたからっ!!

——盗んだバイクでもないし、行き先も決まっていた。まったく自由じゃないですねえ（笑）。

青木　ククク。でもまあ、できることなら一生苦労しないで暮らすほうがいいに決まってますけど、こんなこと、なかなか経験できることじゃないじゃないですか。

YA AOKI

——大人の感想ですね（笑）。

青木　数少ない貴重な体験ですよ。実際に待っている選手はほんの一握りでしたし。だって、本当に『PRIDE』の再開を待っていた選手って、ボクや川尻（達也）選手とか、石田（光洋）選手ぐらいですよ。まあ、待たないのが悪いと言ってるわけじゃないですよ。

——それぞれ事情がありますしね。

青木　だから、何が言いたいかというと、「待った俺って、カッコいいなあ。クゥ〜!!」ってこと!!（一際大声で）。

——ダハハハハハハハハハハハハ！

青木　笑い事じゃないですよっ!!

——あ、すいません（笑）。

青木　だから、ボクは〝PRIDE難民〟と呼ばれるファンの気持ちがわかりますね。本当に苦しかったと思いますから。

——じゃあ、待ち続けた〝PRIDE難民〟も「俺ってカッコイイ!!」と思ってヨシ、と（笑）。

青木　そうそう！　俺ってカッコイイ！

——実際、青木さんはほかにも選択肢はあったわけですよね。

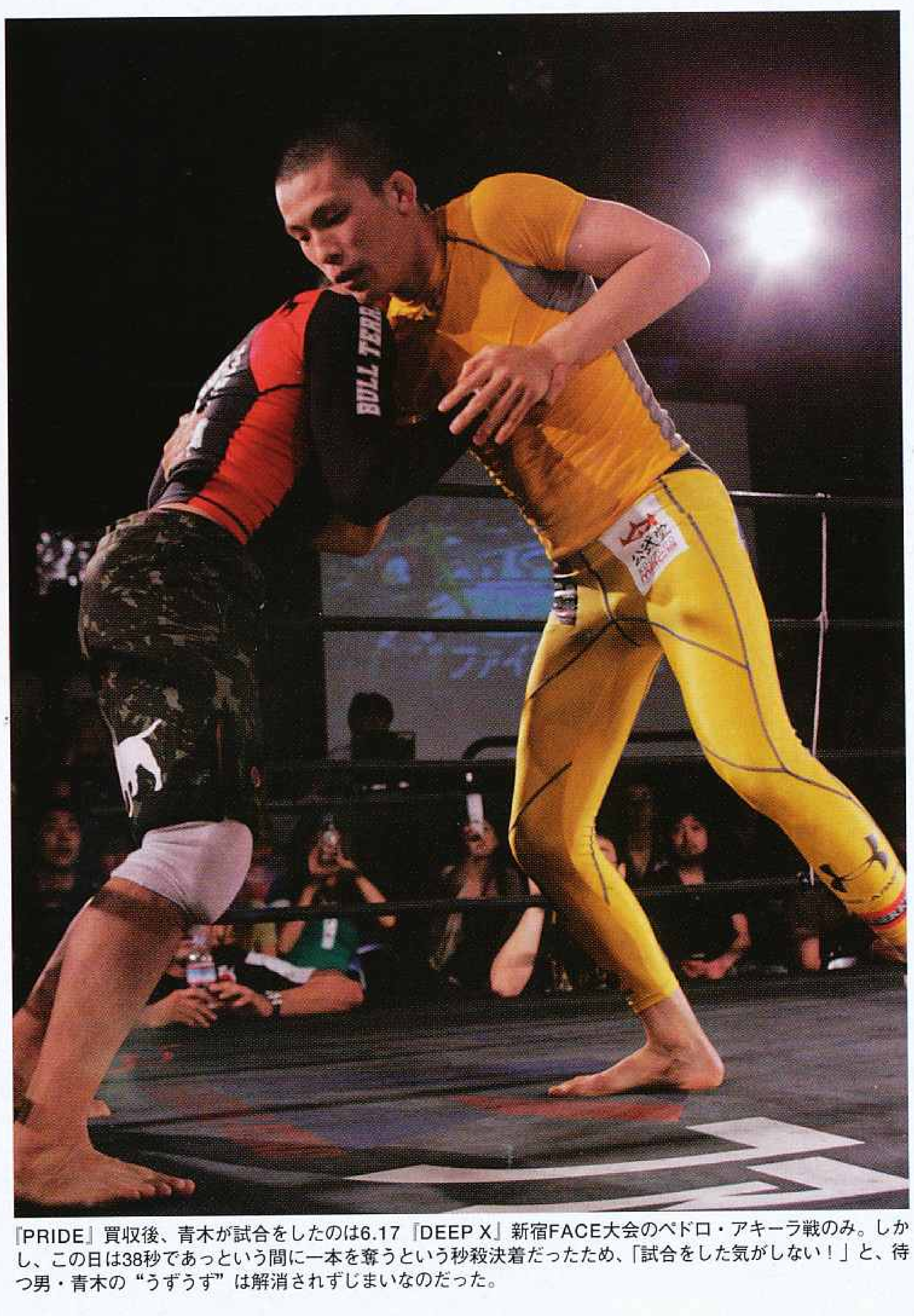
青木　死ぬほどありましたよ！

——死ぬほど！（笑）。

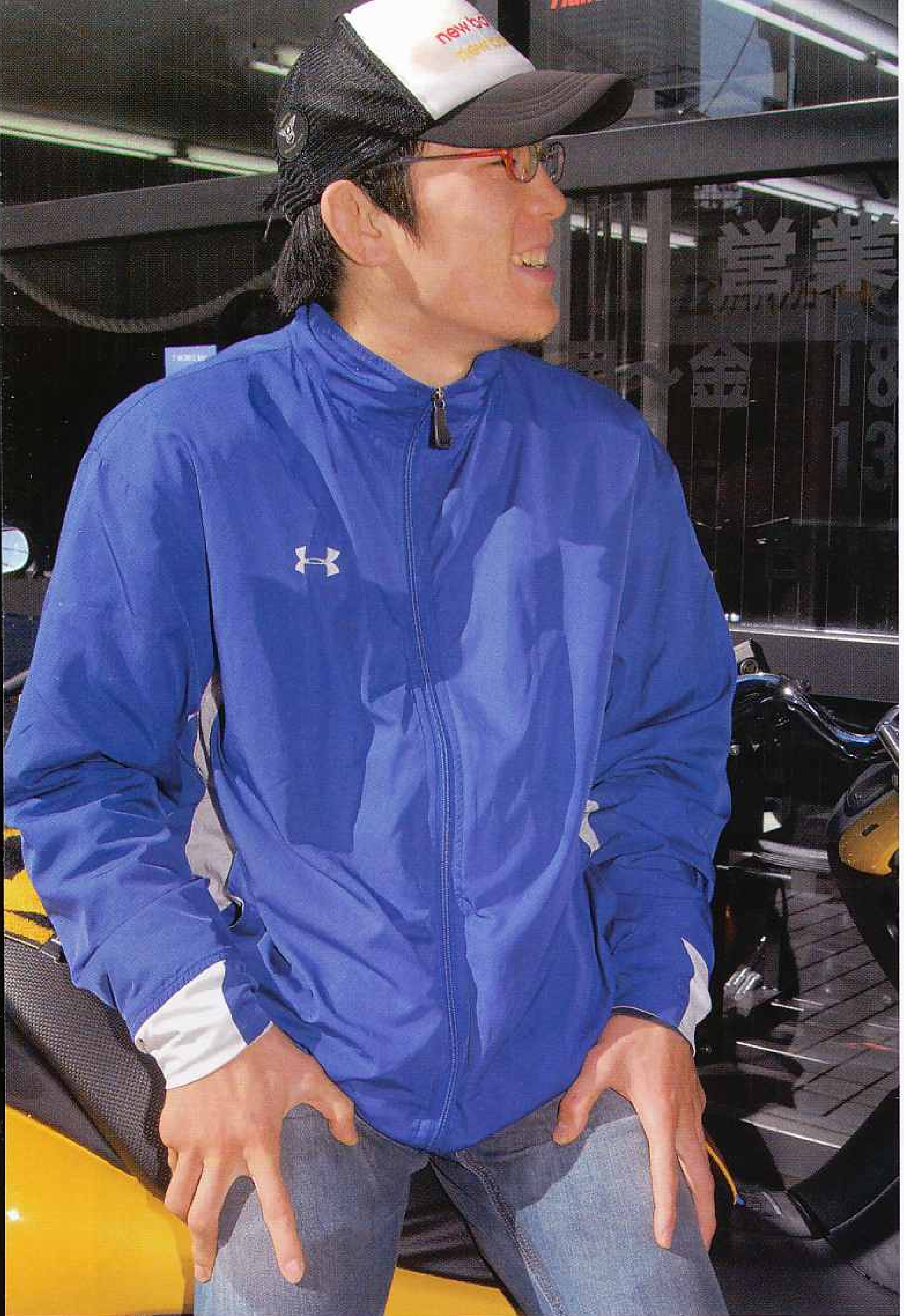
青木　それでも「ボクは行きません！」と……。カッコいいなあ、俺（うっとり）。

——ククククク。

青木　詳しくは言えないですけど、誰もが飛びつくオファーを断ってるんですよ。



『PRIDE』買収後、青木が試合をしたのは6.17『DEEP X』新宿FACE大会のペドロ・アキーラ戦のみ。しかし、この日は38秒であっという間に一本を奪うという秒殺決着だったため、「試合をした気がしない！」と、待つ男・青木の“うずうず”は解消されずじまいなのだった。



（急に小声で）まあ、心の中に〝行ってしまいたい青木〟がいたんですけどね。これはカッコ悪い。うん！

──ボクもいろいろ話は聞いてるんですけど、中でも意外なオファーといえば、10月28日のSB（シュートボクシング）の両国大会出場の話があったみたいで。

青木　そうなんです！　佐伯（繁DEEP代表）さんに話が来たみたいなんですよ。でも佐伯さんはボクに伝える前に「断っといた！　ウシシシ！」って。

──ダハハハ！　勝手に取り消されてましたか（笑）。でも、立ち技で闘う青木さんも観てみたいですけどね。

青木　おもしろいですよね！　あえてキックパンツを穿いて出るとかね。でも、やっぱボクは『PRIDE』かな。だって、『PRIDE』の熱ってやっぱり凄かったじゃないですか。あの熱は凄いですよ！

──大晦日のイベントでは、あの熱を再現したい、と。

青木　そうですね。だから、〝PRIDE難民〟は、大晦日にイベントがあってもなくても、一揆を起こすべきですよ！

──やってもやらなくても一揆（笑）。それにしても、本当に感心するのは、先の試合がまったく見えない中で、よくいつもどおり練習を続けてましたよね。

青木　それはよく言われますね。逆に、試合がなかったたぶん休む期間がなかったから、ずーっと練習してました。しかも、なーんか知らないけど、絶好調なんですよ。練習の水準も一ランク上がってるし、試合はないのに追い込みの練習とかも普通にやってたりしますし。

──体重もキープしてるんですか？

SHINYA A

青木　日によってばらつきはありますけど、朝起きたらだいたい73キロは切ってます。だから、あさってには試合できますよ！

──やっと大晦日の話が現実味を帯びてきてることで、青木さんの周囲もやっと安心できますね。

青木　十段（今成正和）とかはボクのことずーっと心配してくれて。「おまえ、大丈夫けえ？」って。まあ、そこはしょうがなかったですけどね。真面目な話、生活とかは大丈夫なんですよ。銭カネの問題じゃなくて、やっぱり試合をしたいだけですから。

──青木さんは携帯サイト『kamipro Hand』で毎日更新のブログを始めてからだいぶ経ちますけど、毎日のように「試合がしたい！　試合がしたい！」って書いてた時期がありましたもんね（笑）。

青木　ククククク。青木真也の〝ヤルヤル詐欺〟もしくは〝アルアル詐欺〟！

──意味ありげなことを書き出して、完全に愉快犯になっていましたし（笑）。

青木　それも間違いない！（笑）

──青木さんがブログで今後のことに触れるたびに、各地でへんな波紋が起きてますからね。だから、青木真也のブログ、佐伯さんの談話、『kamipro Hand』の「kamiブログ」は、業界関係者から〝大晦日・三大愉快犯〟と呼ばれてるみたいですから（笑）。

青木　いや、勘違いさせていいんですよ！　そうやって情報を欲しているPRIDEファンに少しの希望を与えているんです。来るべき一揆のために！

──そんな壮大な計画があったんですか⁉　まったく知らなかった（笑）。

青木　そうですよ！「オイサー！　オイサー！」って一揆しまくりですよ！　あれ？　なんかかけ声は違うような気がしますけど。

──ところで、一揆の相手……じゃなくて、対戦相手は誰を望んでますか？

青木　相手ですか……。〝PRIDE難民〟が興奮する相手がいいんじゃないですか？　ロマンがある相手か、もしくは〝PRIDE〟が感じられる試合。

──そういえば、ヒョードルが〝大晦日参戦〟をウェブ上で表明してますね。

青木　ヒョードルにはぜひ来てほしいですよね。でも、心のどっかで「来るな！」って思ってるんですよね。

──ん？　それはまたどうしてですか？

青木　なぜなら……、ボクが主役になれるから‼（胸を張って）。

──ダハハハハ！

青木　いやー、ヒョードル来てほしいなー。来てほしいけど、来るなー！

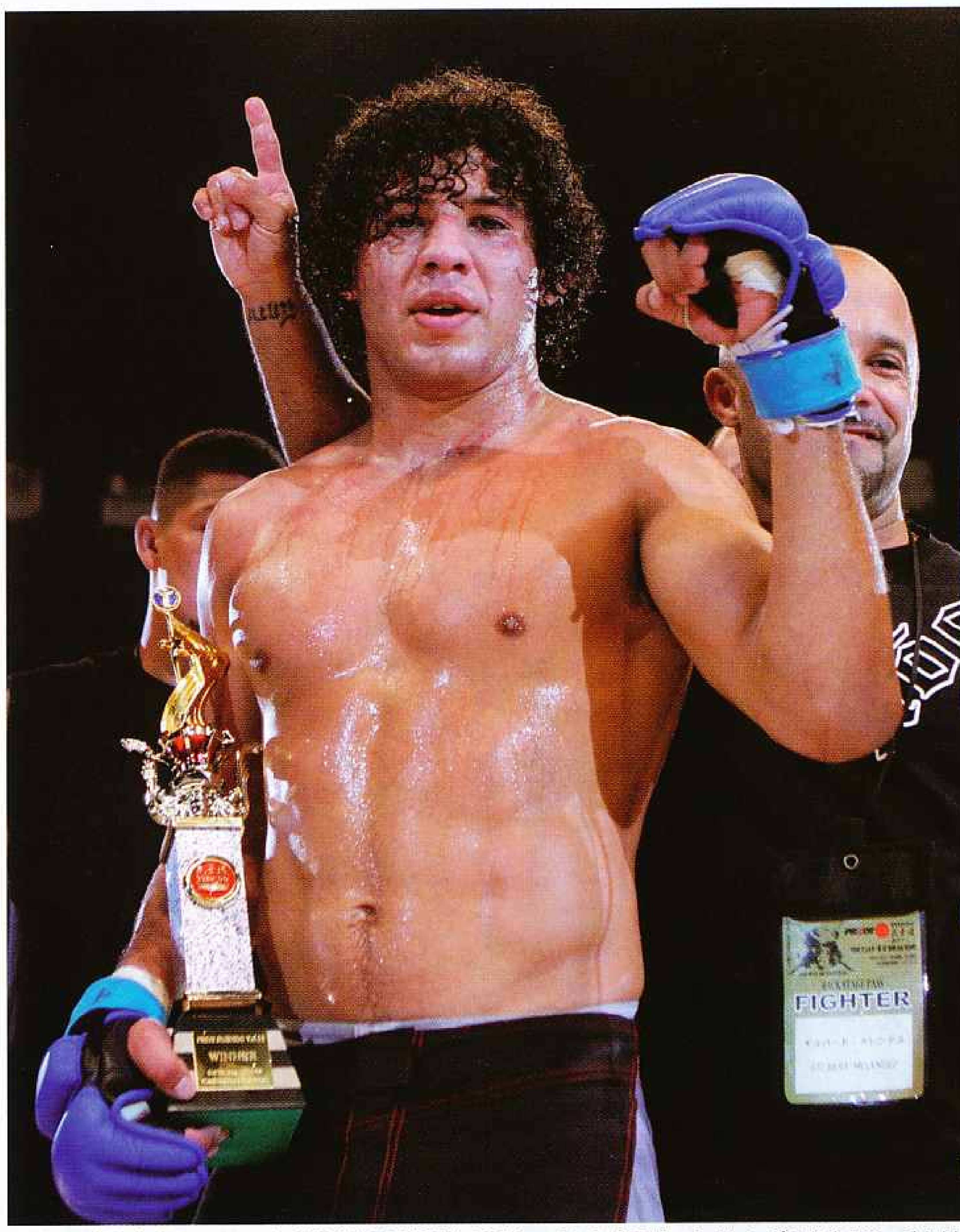
──何を言ってるんだ、この人は（笑）。じゃあ、来てもいいけど「ヒョードル、負けろ！」くらいの気持ちですか？

青木　（即答で）負けたらダメですよ‼　だって、負けたらスポーツ紙の一面になっちゃいますからね。

──ああ、なるほど（笑）。

青木　まあ、一番いいのは、来ないこと！　心の中の〝ちっちゃい青木〟がそう言っ

ヒョードルにはぜひ来てほしいですね でも、心のどっかで「来るな！」って





大晦日に拳を交えるのは、いまだ行き先が不透明な五味か、それともフリーのメレンデスなのか!?　それ以外の強豪と相まみえることはなかなか思いつかないが、はたして何かウルトラCが飛び出すか。

A AOKI

マルセロ・ガルシアに関しては いろいろ言いたいことがあるんですよ

てます！（笑）。

――青木真也が言ってるわけじゃない、と（笑）。まあ、ヒョードルにしても青木さんにしても、強い相手とギリギリの試合をやってほしいですよね。

青木　強いヤツ！　強いヤツがいい！　もう、つえーヤツ!!

――いろいろいますよね、強いヤツ。外国人ファイターもいろいろいますけど、前から対戦表明しているのは五味（隆典）さんですよね？

青木　PRIDEライト級チャンピオンは、怒ったらメチャクチャ強いでしょう！

――石田戦の〝ワル五味〟はホントにヤバかったですよね（笑）。

青木　で、ボクは試合前に確実に怒らせることになると思うんですよ。あることないこと挑発して（笑）。

――なるほど（笑）。

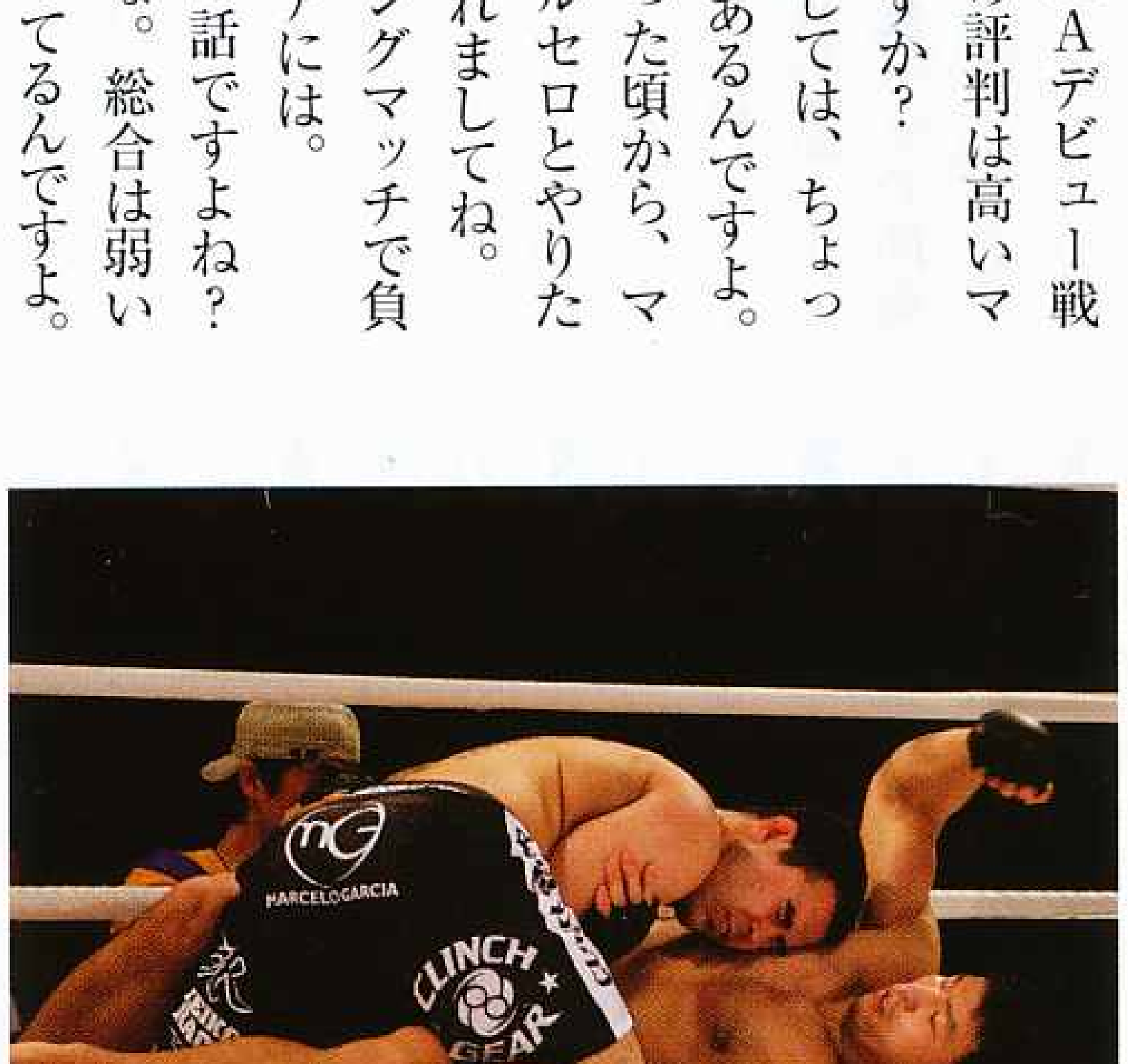
青木　やりたいなあ。

――『HERO'S』のMMAデビュー戦は黒星でしたけど、マニアの評判は高いマルセロ・ガルシアはどうですか？

青木　あ〜、マルセロに関しては、ちょっといろいろ言いたいことがあるんですよ。マルセロが総合やるってなった頃から、マスコミから「青木さん、マルセロとやりたいですか？」とかよく聞かれましてね。

――青木さんはグラップリングマッチで負けてるんですよね、ガルシアには。

青木　でも、今度は総合の話ですよね？　だから「どーでもいいでしょ。総合は弱いんだから」ってずーっと言ってるんですよ。



「MMAに適応するには1年はかかる！」と、青木はなぜか本誌でマルセロ・ガルシアの技術論を大展開！　ADCCで3度も優勝しているガルシアだが、やはり〝神童〟といえどもMMA制覇の道は厳しい！

だって、総合の練習や試合をやり続ければそのうち対応できるけど、いまの総合はいきなり勝てるほど甘くはないですよ。

――そりゃそうですよね。

青木　でも、一部のマスコミは「いやあ、いけます」って言い張るんですよね。言い張るのはいいんですけど、ボクはインタビューで質問されてるからそう答えてるのに、なぜか「いや、でも……ガルシアのアームドラッグが……」とか反論されるわけですよ！（笑）。

――PRIDEファイターに向かって（笑）。

青木　きっとMMAとグラップリングを一緒くたに考えてるんでしょうね。だからボクも「いや、だからですね……」ってずーっと説明してるのに、向こうもいっこうに引かない！「いや、でも……」「いや、だからね……」「いや、でも……」の繰り

返しですよ！
——ダハハハハハ！　どっちもガンバレ！（笑）。
青木　『ｋａｍｉｐｒｏ』さんはどーなんですか？　マルセロ。
——ウチでも大揉めしましたよ。「ガルシア」なのか、「ガッシア」なのかって（笑）。
青木（無視して）で、実際、試合になったら結果はコレじゃないですか。
——確かに1ラウンドはガルシアがチョークを狙うシーンもありましたけど。ガルシアでもあの体勢からなかなか極まらないもんなんですね。
青木　ＭＭＡではそうそう極められないですよ。だって、グラップリングと違って打撃があるから選択肢が格段に増えますし。あと、組み技だとポイントがあって、ポイントを獲られたくないから不利なポジションから逃げるわけじゃないですか。
——なるほど、なるほど。ポイント制じゃないＭＭＡのケースだと「極められなきゃいい」という姿勢でかまわないんですね。
青木　あと、マルセロは背後からのパウンドがあまりうまくなかったですし、対戦相手はラクですよね。一本さえ気をつけて寝技やったらいいわけなので。
——じゃあ、どうしたらよかったんですか、ガルシアは。
青木　まあ、固めて殴るか、相手を動けなくして、それでも嫌がったときにチョークに入るとか。
——しかし、『ｋａｍｉｐｒｏ』しか読んでない読者は驚いてると思いますよ。「あ、青木真也ってマジメな技術論を語れるんだ」って（笑）。
青木　ククククク。まあ、ボクはグラップリングだけだったらそんなにたいしたことないと思いますよ。世界で一番になれるかっていったら簡単にやられる場合もあるわけですよ。日本の中だったトップかもしれないけど。
——そんなお方に「いや、でも、ガルシアのアームドラッグは……」と食い下がるマスコミがいるんですよね（笑）。
青木　ボクを全否定しに来たんでしょうかっ!?（笑）。こっちはインタビューだから一方的に「オレってカッコいい！」ってしゃべりたいのに！
——ダハハハハ！　でも、ガルシアにかぎらず、他ジャンルのアスリートが簡単に勝てる時代ではないということですね。
青木　最低1年はかかるでしょうね。勝ったり負けたりで経験を積んでやっとスタートラインですよ。たとえば、グラップリングが強い選手は、下になったときの恐怖を完全に払拭するまでに1年か2年はかかると思うんです。で、それはいくら練習でやってもわからない。それは試合で覚える感覚なんですよね。だから、もうちょっと軽い相手と試合をやらせてあげないとダメですよね。
——わかりました。いやあ、今日は勉強になりましたね。もし大晦日にイベントがなくても問題のない内容です（笑）。
青木　いや、なかったら問題オオアリですよ！　とりあえず、ＰＲＩＤＥファンは何があっても大晦日はさいたまスーパーアリーナに集合っ!!　みんなで一揆だ！
——了解です（笑）。

【07年11月7日／都内・某所で収録】

大晦日はさいたまスーパーアリーナに集合！　みんなで一揆ですよ!!



あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界屈指の極めの力を持つ若き天才グラップラー。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。『PRIDE』には『武士道ー其の十二ー』から参戦し、怒濤の4連勝で衝撃を与える。その後、ひそかに噂され続けていた旧『PRIDE』スタッフ主催のイベントを待つこと８ヵ月、いよいよ大晦日に出陣となるか!?　180cm、72.5kg。

EMELIANENKO
FEDOR

UFCざまぁみろ!?
巨大帝国の牙城を崩す
M—1グローバルのエースに!



どうする、どうなる、世界大戦!? 大晦日決戦を翌月に控えた11月上旬、ロシアより愛を込めたメッセージが発信された。そのメッセージを綴ったのは、なんと！エメリヤーエンコ・ヒョードル本人！しかも、その内容は、「大晦日に日本で試合がしたい」という衝撃的なものだった!!

ＵＦＣ参戦確実と見られていたものの、一転して、ロシアのＭ―１をベースとした新団体『Ｍ―１グローバル』と契約したヒョードル。その『Ｍ―１グローバル』はアメリカ、ロシアの大資本を背景に、そしてファイターとの太いパイプを持つモンテ・コックスを社長に据えたことで、ＵＦＣの牙城を脅かす存在へと変貌。アメリカのみならず日本進出をも目論んでいるという。

ヒョードルがファンに向けて、Ｍ―１の公式ホームページに掲載した冒頭のメッセージには、日本の大晦日興行に参加したいこと、また、そのために『Ｍ―１グローバル』から「〝理解〟を得た」ことが書かれていたのだった！

「あとは、これまでのようなイベントを開催できるかどうかにかかっています」と、この時期からの大会準備に危惧を示しながらも、「私はベストをつくします」と宣言したヒョードル。ホントに出れんのか!?

この号が書店に並ぶ頃には、大晦日参戦の可否がハッキリしているかもしれないが、ヒョードル、そして『Ｍ―１グローバル』の動きは、ＵＦＣ、旧ＰＲＩＤＥ派、ＦＥＧをも巻き込み、〝大晦日の向こう側〟に影響してくることは必至！

本誌は、ファンへのメッセージが掲載される前の10月22日、ニューヨークで行なわれた旗揚げ会見直後の〝最強皇帝〟を独占キャッチ！ヒョードル、そしてワジム会長が何を語っていたのか紹介しよう。

最強皇帝、大晦日に出陣表明!
旧PRIDE派に急接近!?

世界大戦の火に油を注ぐ氷の拳!!

聞き手／Damon Martin　写真協力／レッドデビル　構成／上杉コミッショナー

『PRIDE』と同じアイデアで新しいプロジェクトを作りたいのです

――ニューヨークにようこそ！

ヒョードル　どうもありがとうございます（微笑）。

――まず最初に、今回なぜUFCではなく、『M―1グローバル』を選んだのか、その経緯からうかがいたいのですが。

ヒョードル　今回の判断は、いま私の隣にいるワジム（・フィンケルシュタイン）さんが指揮を執って決めたものです。ですから、その経緯について詳しいことはワジムさんに聞いてほしいのですが、私たちは『M―1グローバル』からのオファー内容を聞いてすぐ、サインすることを決めました。

――即断でしたか。『M―1グローバル』のオファーは、そんなに魅力的なものだったんですか？

ヒョードル　オファーの条件というよりも、私たちは彼らを信じることができました。そして『M―1グローバル』は閉じられた組織ではありません。本当の意味で、グローバルな組織になるという確信をしたのです。私たちはお互いを理解していますし、同じ目標を目指すことができると思います。

――その目標というのは、具体的にどういうものですか？

ヒョードル　世界中のベストファイターを集めて、最高のイベントを開くことです。私個人としても、世界で最も強い選手と闘うことが目標ですから、この組織ならそれが実現できるわけです。

ワジム　私からも言わせてもらうと、『M―1グローバル』は、UFCのように限られた選手でイベントをするわけではないんです。会見でモンテ・コックス社長が言ったように、ほかの団体の選手も参戦させるし、逆に『M―1グローバル』からほかの団体にヒョードルを参戦させることもできる。

――独占契約しか認めないUFCとはコンセプトが違うわけですね。

ヒョードル　私はUFCが本当にグローバルな団体だとは思いません。そして、私はボーダーレスな視野を持って闘っていきたいんです。ほかの団体のチャンピオンと闘ってもいいですし、そういった点で『M―1グローバル』はベストなオファーをしてくれたと考えています。いまのところ、UFCに匹敵する団体はありませんが、そういう団体が作れたらいいのではないか、と思います（微笑）。

――では、ヒョードル選手がUFCの何人かのファイターとの試合を嫌がったという報道が一部でなされていますが、そんなことはないわけですね。

ヒョードル　私は誰との試合も避けたりすることはありません。UFCが『M―1グローバル』のアイデアに協力してくれるのなら、UFCの選手とも闘うことになるでしょう。

NENKO FEDOR



ニューヨークの一等地で行なわれた『M-１グローバル』の旗揚げ会見には、ヒョードル、ワジム会長、モンテ・コックス社長以外にも、オーナーで大富豪のミッチェル・マクスウェル氏（写真上・右側）も出席。経済誌を含め、100人以上の報道陣が詰めかけるほど、世間の注目を集めた。また、ヒョードルの美人通訳（写真左下）が、米ネットメディアで話題に。

――UFCとの交渉で、最終的に決裂した原因はなんだったのですか？

ワジム　それは私のほうから話しましょう。UFCのオファーは、彼らにとって一方的に有利な条件のもので、対戦相手の変更や契約の打ち切りといった重要な部分で、UFCが決定権を持っているものだったんです。ロシアでのM―1時代から、私はこのファイトビジネスをもう約10年もやってきていますが、あんな契約はとても受け入れられません。

――不平等なものだったんですね。

ワジム　UFC側とは協議してきましたが、話はまとまりませんでした。それに、私たちはそもそもUFCとだけ交渉していたわけじゃないんです。FEGなどほかの団体とも交渉していました。そして、『M―1グローバル』という強い組織を作るために投資家やスタッフが集まったとき、私とヒョードルは、このオファーがベストだと判断をして『M―1グローバル』に参加することにしたのです。

ヒョードル　もう一度言います。私はUFCを避けたわけじゃありません。『M―1グローバル』がベストな機会を与えてくれたのです。世界には多くの強いファイターがいますが、残念ながら、彼らがアメリカでは有名でないという理由だけで、UFCに上がることができません。そういったファイターたちと闘うためにも、私たちは『M―1グローバル』とサインしたのです。カナダのHCFと契約した（エメリヤーエンコ・）アレキサンダーも『M―1グローバル』に来て闘うことになるでしょう。

――弟のアレキサンダー選手も『M―1グローバル』に参戦しますか。

ヒョードル　私たちはオープンな団体ですから、支障はないでしょう（ニッコリ）。

ワジム　『M―1グローバル』のゴールは本当に世界で強いのは誰かということを決めることなんです。UFCやほかの特定の団体のチャンピオンではなくて、本当の世界チャンピオンをね。

――それは理想的でありますが……。ダナ・ホワイトUFC代表はそうした判断をしたワジムさんたちを〝クレイジー・ロシアン〟と呼んでいますが、その発言をどう思いますか？

ワジム　もし私がダナ・ホワイトなら、彼には〝クレイジー・アメリカン〟と言っ

てあげますよ（笑）。

——ワハハハハ！　言い返してやりますか。

ワジム　ダナ・ホワイトのことはリスペクトしています。このスポーツをここまで発展させましたからね。ただ彼はこのマーケットをあまりにも自分の思いどおりにコントロールしたがる。

——確かにそういった姿勢は強く見られますよね。

ワジム　ダナ・ホワイトは選手やほかの団体に対して自分のポリシーを押しつけようとしていますが、でも、それは不可能です。MMAのマーケットは大きいし、世界は広い。ほかの団体が参入するだけのスペースも充分にあります。UFCは支配するのではなくて、協力していかないといけないでしょう。

——UFC側がそこまで強気になるのには、『PRIDE』を買収して世界で唯一のメジャーイベントになったことが挙げられますが、その『PRIDE』が"消滅"したことについて、ヒョードル選手はどう思いますか？

ヒョードル　とても悲しいことです……。『PRIDE』は素晴らしいイベントでした。あのリングは世界中のファイターが集まる、本当の意味で国籍に関わりなく、最強のチャンピオンを決める舞台です。だから、いま『PRIDE』がなくなった以上、私たちは同じアイデアの新しいプロジェクトを作りたいのです。

——『M－1グローバル』は"PRIDEの遺志"を引き継ぐ団体だ、と。

ヒョードル　実際に私たちは来年の夏に日本でイベントを行なうプランもあります。

——日本進出！　日本のファンは、またヒョードル選手の闘う姿を観られるわけですね。

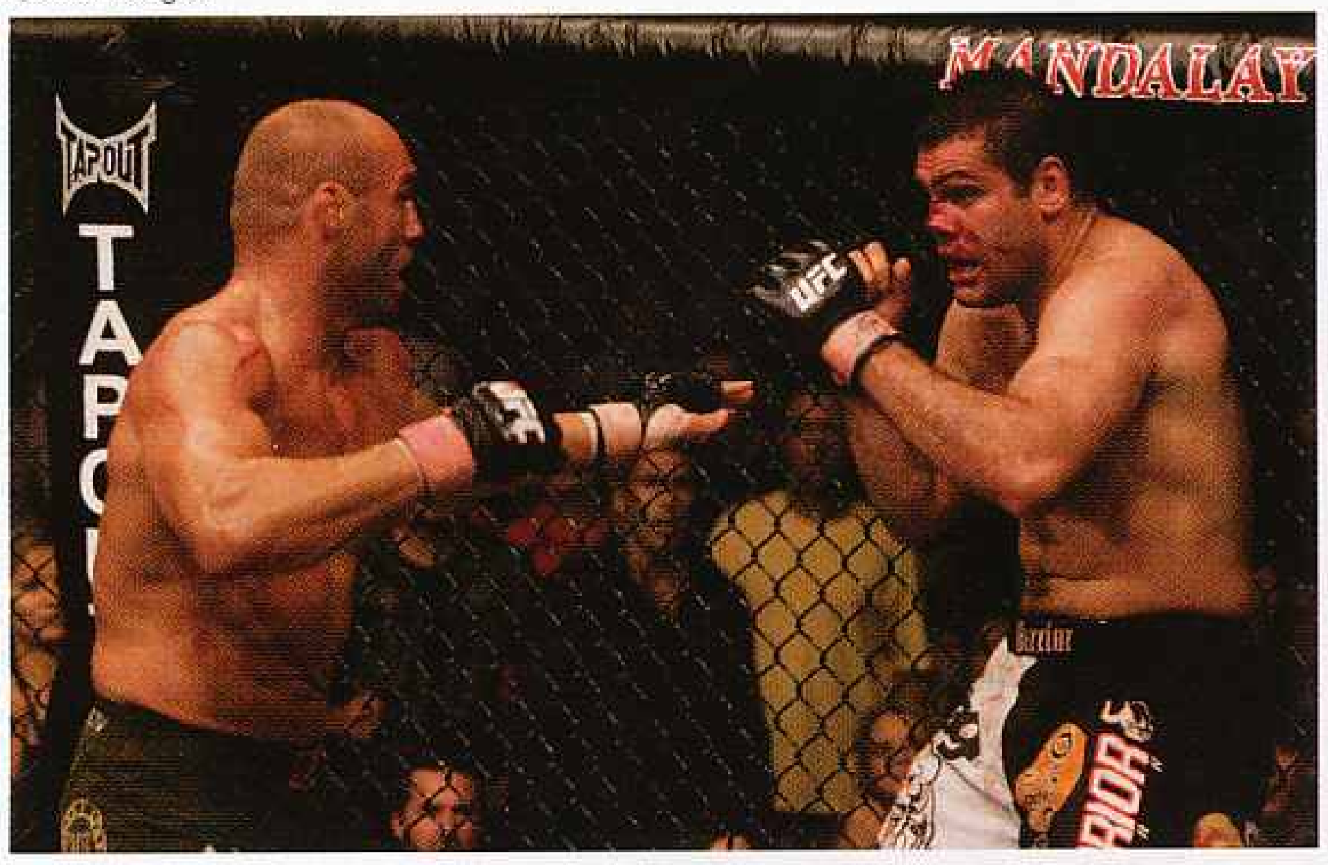
ヒョードル　はい。それが実現するといいですね（微笑）。

——ところでヒョードル選手は4月のマット・リンドランド戦以来、試合から遠ざかっているわけですが、そのことが復帰戦に影響を与えることになると思いますか？

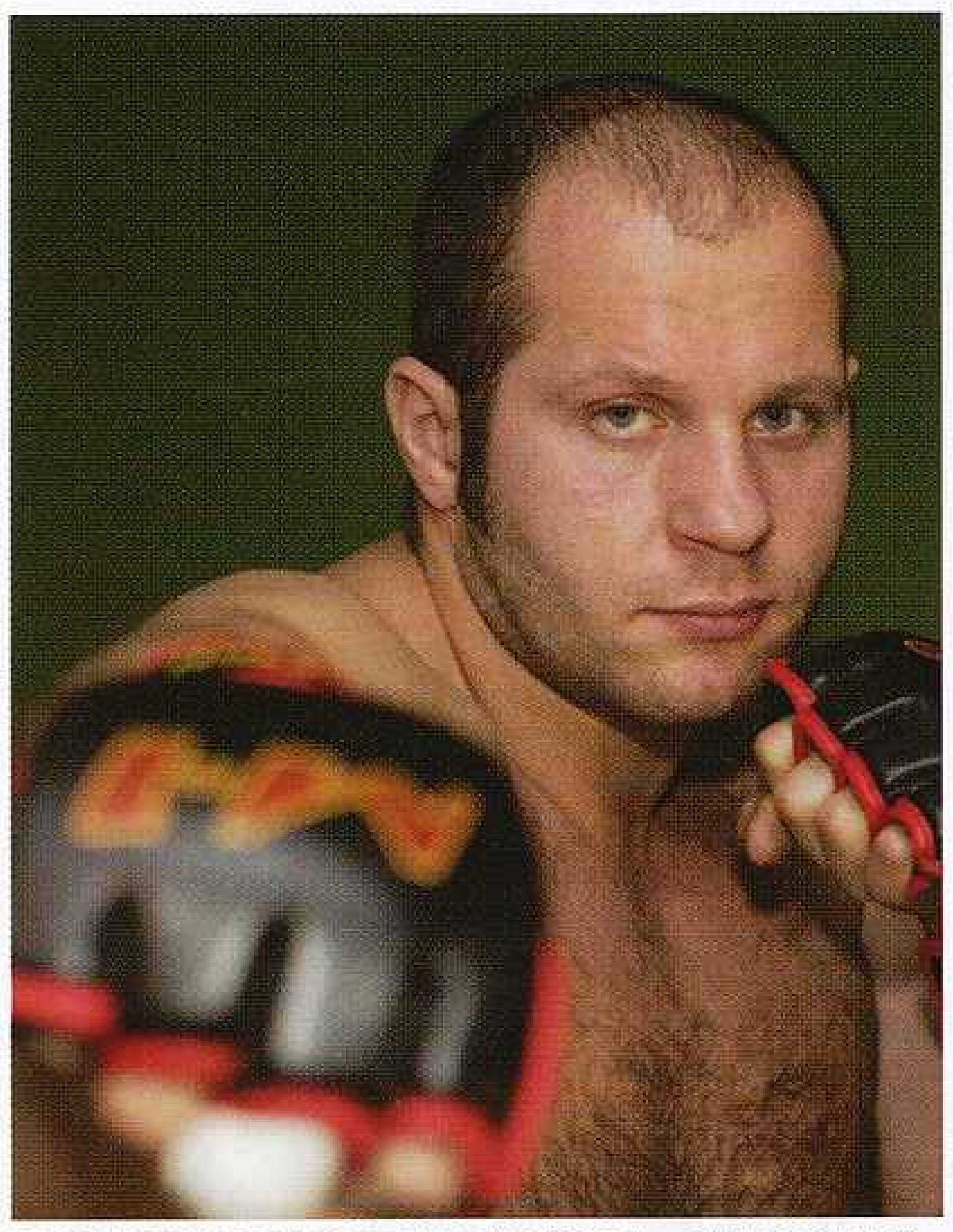
ヒョードル　まったくありません（キッパリと）。コンディションはとてもいいです。

——長いブランクも問題ない、と。で、ヒョードル選手の対戦相手として一番ファンの関心が大きいのは、最近、UFCを離脱したヘビー級チャンピオンのランディ・クートゥアーだと思うのですが、その離脱の理由の一つが、UFCがヒョードル選手と契約できなかったということで、彼はヒョードル戦を強く希望していたわけですが、その試合の実現に興味はありますか？

©Josh Hedges



ヒョードルが『M-1グローバル』と契約したことをUFC離脱の原因の一つに挙げたランディ。44歳といえども、『UFC74』では、ミルコをKO したゴンザガを流血TKOに追い込むなど、"老いてますますお盛ん"。はたして、両者は拳を交えるのか？



EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身。初代リングス世界ヘビー級王者、リングス世界無差別級王者、『PRIDEヘビー級GP』王者、現・PRIDEヘビー級王者の肩書きを持つ、"人類最強の男"。182cm、101kg。

EMELIANEN

ヒョードル　ランディ・クートゥアーが私のことをそんなに高く評価してくれていることを聞いて嬉しいですね。私は彼を深く尊敬していますし、彼の試合はデビュー戦からすべて観ています。

——全試合観ていますか！

ヒョードル　彼も間違いなく世界最強のファイターの一人ですから、ぜひ闘いたいですね。むしろ、彼と試合ができれば光栄です。

ワジム　私もランディ・クートゥアーとの試合はぜひ実現させたいと考えているんです。彼を倒せば、アメリカのファンにも誰が本当に一番強いのかわかってもらえるでしょうから。

——『M－1グローバル』の旗揚げ戦で、その試合が組まれれば、インパクトはありますよね。

ワジム　それから、ヒョードルをヒクソン・グレイシーとも闘わせたいんです。彼は「ヒョードルに勝てる」とメディアで豪語しているらしいですから。

——う～ん、それは非常にグレイシー一族らしい発言ですけど（笑）。

ワジム　それから、ほかにも何人かのファイターの名前が挙がっています。ジョシュ・バーネットやジェフ・モンソンなど、いま現在、フリー・エージェントで世界のベスト10に入るファイターはたくさんいるんです。

——ヒョードルvsジョシュ・バーネットもぜひ観たいカードですね。ヒョードル選手は世界でナンバーワンだと言われていますが、では誰がナンバー2の選手だと思いますか？

ヒョードル　私は自分のことをナンバーワンだとは考えていません。まだ多くの闘っていない選手がいますからね（微笑）。だから、私がこれから真のナンバーワンになるための本当の闘いを見せる場所が『M－1グローバル』になるわけです。

——わかりました。では、新しい舞台での活躍を期待しています！

ヒョードル　ありがとうございます。さっきも言いましたが、私たちは日本に行くプランがあります。日本のファンは素晴らしいですから、またそこで闘えると思うと嬉しいです。

——日本のファンだってもちろん大喜びしますよ。

ヒョードル　そのときはぜひ、応援をよろしくお願いします。それでは、ごきげんよう！（微笑）。

【07年10月22日／米国ニューヨーク州ニューヨーク マークエコー・エンタープライズにて収録】

私は自分のことをナンバーワンのファイターだとは考えていません

なるか格闘“大連立”

FEG＋旧PRIDE

「ボクが望むのは大晦日の吉田vs秋山戦、
そして日本の格闘技界の大同団結です！」



風水的には今後20年は上昇しっぱなしのFEG代表

谷川貞治

聞き手／ジャン斉藤

秋山くんは王道を行きたい人間だから ヒールとして扱われるのは嫌でしょう

谷川　（聞き手の顔を見るなり）いやあ〜、秋山（成勲）くん、強かったねえ！

——はい（笑）。強かったですね。

谷川　ビックリしたねえ！

——ビックリしましたか！

谷川　もう完勝でしょう！　本当に凄いなあ〜。

——さて、一通り感動されたところでインタビュースタートです（笑）。今回はその秋山選手の話題を中心にお聞きしますが、まず始めに白黒ハッキリさせたいのは……。

谷川　ハッキリさせたいのは？

——今大会のテレビ解説が谷川さんじゃなくて、なぜキャイーンの天野ひろゆきだったのかということなんですけど（笑）。

谷川　んあ〜！　あれはねえ、ボクはしゃべる気マンマンだったんだけど、実況は韓国じゃなくて東京での収録だったんですよ。そういう理由です。

——なるほど。てっきり亀田問題の余波かなんかで、主催者の中立性が求められたのかと思っちゃいましたけど。

谷川　それはないです！

——「谷川貞治＝天野ひろゆき」というTBSの方程式は興味深いんですが（笑）、やっぱり解説者といえば谷川さんですからね。

谷川　（鼻をピクピク膨らませながら）まあ、ボクは解説がうまいからねえ！

——ダハハハハ！　よっ、サダハルンバ！

谷川　でも、中立という立場を考えたら、やめたほうがいいかもしれないなあ。まあ、解説はもともと石井（和義）館長がやってたでしょ。だから主催者側がやるのはそんなに違和感はなかったし、どのジャンルも初期の頃は主催者が語ったほうがわかりやすいと思うんですよ。だって、そのジャンル自体をどこの誰よりも詳しく説明できるから。ただ、やっていくうち世の中に浸透したら評論家にチェンジしたほうがいいですよね。



桜庭和志戦のクリーム塗布行為により、無期限停止処分を受けていた秋山成勲が"第二の故郷"韓国にて復帰。強豪デニス・カーンを打ち破った実力もさることながら、"事件前"と比べてなんらぶれない姿勢、発言はさすが"魔王"といったところ。いったい誰がこの秋山を屈服させるのか？

——確かにそのとおりなんですけど、やっぱり谷川さんや髙田（延彦）本部長みたいに、観たものに対して本気で驚きを表現してくれる人は視聴者にとって親切ですよ。

谷川　そっかあ。そういう意味では、ボクや高田さんは逸材なんだなあ……（しみじみと）。

——だから、今回の秋山の復帰戦で足りなかったのは、大興奮する谷川さんの姿なんです！（笑）。

谷川　しかし、秋山くんがあれほど完勝するとは思ってなかったよ。この10ヵ月ぐらいファンからさんざん冷たくされたけど、ある意味、秋山選手はそれに打ち勝ったって感じですよね。いまごろ「ざまあみろ！」と思ってるんじゃないですか（笑）。

——ダハハハハ！　妄想で勝手に代弁しないでください（笑）。

谷川　でも、ビックリしたよね、本当に。戦前の予想だと7対3でデニス・カーンが有利だと思ったんですけどね。

——谷川さんとしては秋山選手が負けてもいいと思ってたんですか？

谷川　思ってました！（キッパリ）。

——へえ〜！

谷川　一つだけ言えることは、秋山選手が自分の役割さえわかっていればいいと思った。それはこの世界で生きていくんだという気持ちを反省としてしっかり見せることですね。

——試合前に何かお話しはされました？

谷川　大会前の記者会見で会ったときに「秋山くん、これは凄いチャンスだよね」って声をかけましたね。そしたら、なんというかな……、凄く嫌そうだったね！（さわやかに）。

——嫌そうだった？

谷川　うん。ボクからの言われ方も含めて。

——ひょっとしたら、ヒールとか〝魔王〟として扱われることが嫌なんですかね？

谷川　それは嫌でしょう！　秋山くんはスターでいたいタイプだし、王道を行きたい人間だから。いまでもそう思ってると思うよ。

——いまでも！　〝魔王〟キャラのほうが合ってるのに（笑）。

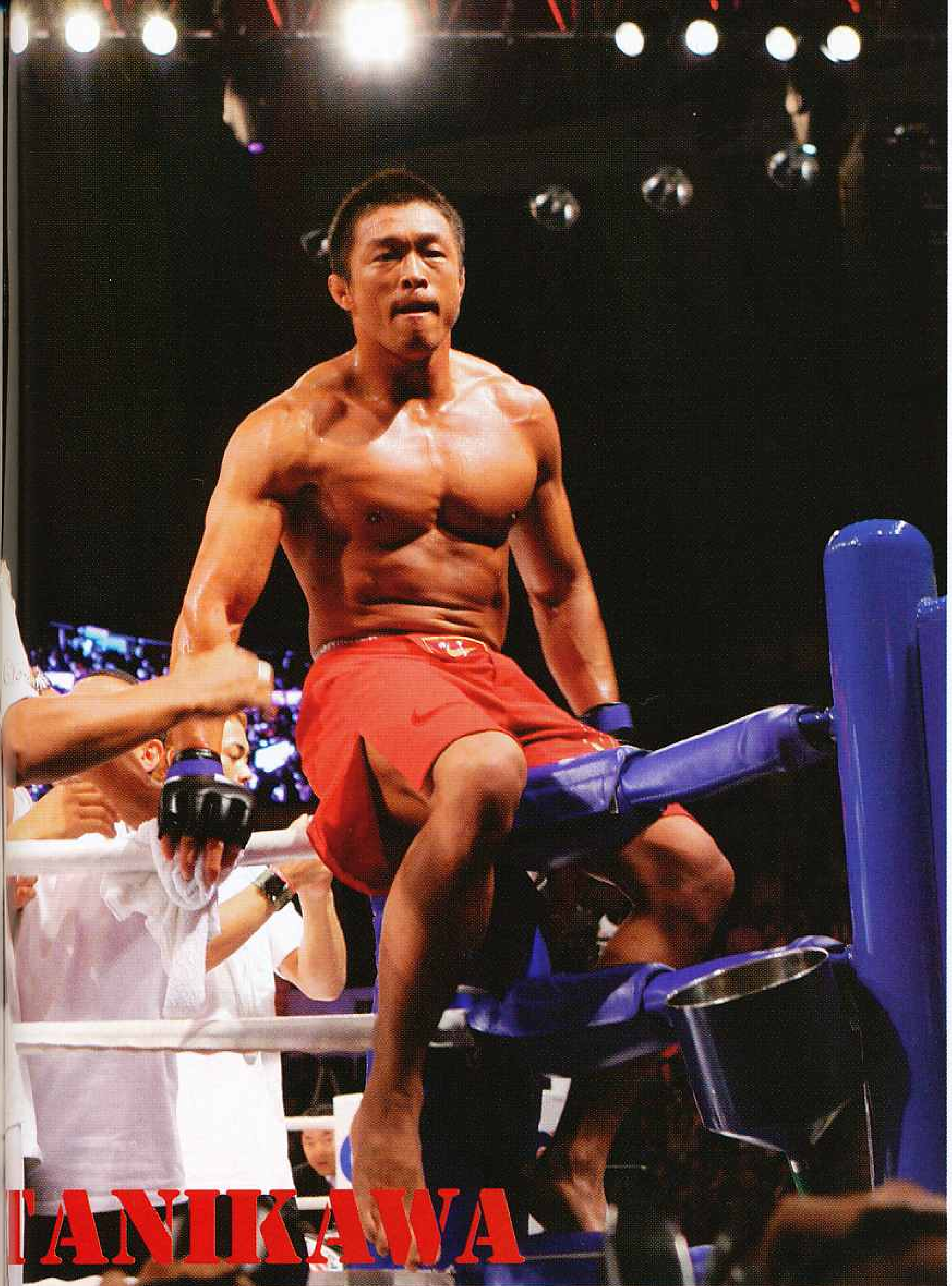
谷川　だから「勘弁してくださいよ〜」という感じでしたね。でも、へんな話、亀田家にしても、あれだけ叩かれたことはチャンスだよね。だって何か一つきっかけがあれば、亀田家を叩いていたマスコミに対してファンが「それはかわいそうだろ！」とか「亀田家は凄い!!」っていう論調になるじゃないですか。

——それにならえば、谷川さんはいまの亀田兄弟を見ると応援したくなるんですか？

谷川　うーん、ボクはまったく違うところを見ちゃいますね。こういう問題の対処の仕方って、立場によってそれぞれ違うじゃないですか。亀田選手の親父さんはどう考えてるのか、興毅選手、大毅選手はどう考え、どう対処しているのか。協栄ジムの金平会長はどう対処してるのか。そうそう。この問題で一番リアリティがあったのは金平会長の姿でしたね。

——ああ、日に日に痩せていく金平会長っていう。

谷川　ねえ。ボクは金平会長とは仲良く



させてもらってるんですけど、今回の問題で人間性を含めていろんなものを感じました。対応が早いし、男らしかった。あと大橋（秀行）会長も現代的な方ですよね。世の中をよく見てるなって。ボクはそういうところしか見てないです。

――問題にどう対応しているのか、と。

谷川 うん。相撲もそうだよ。北の湖理事長や高砂親方もそういう視点で見てる。……ボクはどっちかというと高砂親方みたいなんだけどさぁ。

――ダハハハハ！　谷川さんは「お肌ツルツル！」タイプ（笑）。

谷川 そうなんだよね～。

――それにしても、世間に叩かれて亀田や沢尻エリカはポーズかもしれないけど涙を流しているのに、秋山選手だけですよ、弱った姿を見せないのは（笑）。

谷川 でも、バックステージに戻ったときは、お母さんの言葉に泣いたって聞いてますけどね。秋山選手のリアリティがそこにありますよね。

――まあ、秋山選手本人は反省してるんでしょうけど、周りからするとまったく反省してないように見えてしまうんですよね。たとえば、勝ったあとのはしゃぎっぷりとか。

谷川 喜んでたねえ～。まさかコーナーに上がってあそこまでアピールするとは思わなかった（笑）。非常に秋山くんらしいけど。

――試合前日のクリーム発言も確実に誤

観てみぃ、この喜びっぷり!!　いまだに秋山許すまじなファンの感情を逆撫でする行為である。なにしろ怖いのは、秋山本人は決してそんな意図がないということだ！

亀田騒動で興味があるのは問題への対応の仕方。ボクは高砂親方みたいなんだけどさぁ

解を招くじゃないですか。いくら試合当日に塗らないとはいえ（笑）。

谷川 なんかナチュラルなんですよね。無頓着で気を使わない。

――谷川さんは秋山選手と接していて、「秋山くんってホントに反省してるのかな」って疑う瞬間はないですか？

谷川 逆に言うと、物事を必要以上に過敏に受け取る人っているじゃないですか、被害妄想的というか。秋山選手にはそんな感情がまったくないですね。だからバッシングはけっこう気にしてたと思うんですけど、「最後はみんなオレのことをわかってくれるはずだ」というポジティブな考え方ができると思うんですよ。

――だから〝復帰前〟とまったく見え方が変わってないんですね。

谷川 本人は変わってると思ってるけど、見た目はホント良くも悪くも変わってないかもしれないよね。

――自分はデニス・カーンに勝ったことよりも、その変わりのなさに〝魔王〟として片鱗を感じました。

谷川 おそらく、これから亀田兄弟でも変わるでしょ。

――変わるでしょうね。

谷川 でも、秋山くんは変わらないんだろうなあ。そういう芯の強さは珍しいですよ。ああいうタイプのファイターはあんまり会ったことがないですね。いまの格闘技界には魔裟斗くんがいて、ＫＩＤくんがいて、サクちゃんがいたりとか、いろいろな人間がいる中でも秋山くんは異質だなあ。

――いないですねえ。たとえば、猪木さんの場合はスキャンダルを強引にネタに変換したりするわけじゃないですか。坊主になったり、もしくは開き直ったり。

谷川 秋山くんはそういうことすら考えてないだろうなあ。

――試合後のマイクアピールも、謝罪のシーンとして絶好の機会なのに、なぜか韓国向けの内容だし（笑）。

谷川 んあ～！「大韓民国サイコー！」って言ってましたよね（笑）。

――ウチの読者はまだおもしろがれますけど、こういった誤解されやすい選手の魅力を一般大衆に届けるのって、かなり難しくないですか。ハードルはかなり高いですよ。

谷川 奥が深いよねえ～。逆に言えば、いま一番、コアな格闘技・プロレスファンに響く人間だと思うんだけどね。

――いまの一般世間のものさしに当てはめると、単なるバッシングの標的という。

谷川 亀田選手たちも世間からすれば〝喜べるキャラ〟じゃない。へんな話、ボクは全然、亀田選手たちが憎たらしくないんだけどなあ。それに、確かに悪いことは悪いことで反省しなきゃダメだけど、亀田家のやってることってデビューから何も変わってないでしょ？

――じつはそうなんですよね。

谷川 いまになって批判対象になるのがよくわからない。だから大毅選手について聞かれたときに、「18歳のわりには頑張

ボクはサクちゃんの気持ちもわかるので秋山くんとの再戦はやらせたくないです

ってるんじゃないですか」ってコメントしたんですよ。ボクはもっとアッサリやられると思ったから。

——ちなみに、大毅をほめたのは猪木さんと谷川さんくらいです（笑）。

谷川 んあ〜！ まあ、憎悪という部分では秋山選手の場合はまだマニア層は受け入れやすいでしょ。どうしよう？ このまま宇宙最強の男になったら（笑）。

——今回、デニス・カーンに負けて秋山選手の価値が下がる心配はありませんでした？

谷川 心配はしなかったですけど、負けたとしてもその事実を受け入れるしかないですよね。ボクはねえ、秋山選手であろうがなかろうが選手にチャンスの場は設定しますけど、そこをクリアするか、しないかは本人次第だと思ってるんですよね。ダメだったらダメでしょうがないかなって。

——でも、いままでの谷川さんのマッチメイクのやり方からすると、ここでデニス・カーンと当てるのはありえなかったですよね。

谷川 うん。でも、今回ばかりは中途半端なことをやるのが一番、秋山選手にとってよくないと思ってたんです。だから厳しい相手と闘ってほしかった。で、秋山くんがデニス・カーンを選んだ時点で50点、これでいい試合になれば70点。カッコ悪い試合をやったら50点以下の評価になるだろうくらいしか考えてなかったんですけど、まったく予想もしなかった結末で１００満点以上ですよ。ホントにたいしたタマです。

——デニス・カーンは途中で心が折れているように見えましたもんね。

谷川 ええ。本人の弁によると、秋山くんのパンチが鼻と目に当たって距離感がつかめなくなってから、前に出られなくなったみたいですけどね。

——しかし、あのデニス・カーンを倒しちゃうと、次の相手探しが難しくなりましたね。



今年の大晦日『Dynamite!!』の第一弾カードして発表された、桜庭和志vs船木誠勝戦。同イベントに参戦予定の秋山成勲という圧倒的な存在感や実力を持つ"魔王"を向こうに回して、この"UWF対決"は何を提示できるのか？ 勝敗以外の興味も尽きない。

SADAHARU T



谷川 そうですね。でもまあ、〝厳しい相手と闘う〟という基本姿勢は変えないですけどね。

——大晦日の相手はどうするんですか？

谷川 大会後に言っちゃったんだけど、個人的に一番おもしろいのは吉田秀彦選手ですよね。J—ROCKの国保社長にはお願いしましたけど。出てきてくれないかなあ、吉田選手！

——ほかの候補はいないんですか？

谷川 ないです。誰かいます？

——ボクは桜庭さんとの決着戦が観たいですね。実現したらもの凄くヒリヒリしますよ！

谷川 う〜ん。ボクはサクちゃんの気持ちもわかるんで、サクちゃんとはやらしたくないです。サクちゃんがやる気になるんだったらもちろん組みますけど。その気持ちはいまのところはないと思うので。

——大晦日にやってほしいなあ。

谷川 んあ〜！ 船木（誠勝）さんとの試合を発表したばかりじゃない（笑）。

——確かに桜庭vs船木戦もおもしろそうですけど、秋山選手がデニス・カーンを倒した衝撃に打ち消されちゃった感は否めないですよね。

谷川 いやいや、船木vs桜庭戦は観ればおもしろいですよ。ボクはあんまりその試合は観たくないなあ。サクちゃんの気持ちを凄く考えちゃうから。

——それはもちろん、わかります。でも、そこで桜庭さんが勝ったら凄く気持ちいいはずですよ！

谷川 それは気持ちいいファンも多いでしょうねぇ。

——それに誰もが全力で桜庭さんを応援すると思うんです。いまはなんか「桜庭はひどい目に遭わなければいい」くらいの応援じゃないですか。

谷川 そうなんだけどさ……、まあ、ボクは吉田戦が一番おもしろい気がしますけどね。吉田選手にとっても、いま相手がいないと思いますよ。じゃあ誰と闘うの？ ってなったときに、サクちゃんじゃあないでしょ。物語でいえば、秋山選手しかいない。ジェームス・トンプソンと再戦している場合じゃない！（笑）。

——わかりました（笑）。話は変わりますけど、『PRIDE』日本事務所閉鎖に伴なう事実上の〝消滅〟の件についてはどんな感想がありますか？

谷川 まず一番思うのが、何があったか知らないけれど、UFCは何をやりたかったんだろう？ って純粋に思いますよね。だって莫大なお金で『PRIDE』を買ったわけじゃないですか。

——そうなんですよね。

谷川 選手は別で契約して獲ってるわけだし、あんな大金を払って『PRIDE』の名前と過去のアーカイブを手に入れただけでしょ。

——「潰すために買った」みたいな言い方もされてますけど、そのわりには金をかけすぎで、効率は悪いんですよね。

谷川 だから不思議だし、理解不能だし、日本の格闘技界をダメにしたという意味では非常に腹立たしいことですよ。ロレンゾ（・フェティータ）さんにも言い分はあるんでしょうけど、傍目から見てると「何してるんだろう⁉」って思います。それともう一つ。『PRIDE』が閉鎖したことによって、『PRIDE』を観てたファンがいなくなるのが一番もったいないですね。3つ目は『PRIDE』を作ってきた人たちがこれからどうするのか気になりますね。

——大晦日のさいたまスーパーアリーナは、旧『PRIDE』派が押さえていたわけですが、同所での『Dynamite!!』開催に向けて話し合いはされていたんですよね。

谷川　その可能性は探りました。結局、『ハッスル』に決まったみたいですけど(笑)。山口（日昇）さんには、「おめでとうございます！」と言わなきゃいけないなあ〜。

——今回の大晦日はともかく、来年以降、FEGと旧『PRIDE』が一緒に何かをやるんじゃないかという噂もありますよね。

谷川　う〜ん、島田裕二がいるかぎり、それは難しいかもなあ(笑)。

——ダハハハ！　やっぱりあの男だけは許せませんか(笑)。

谷川　まあ、一つ言えることは、島田以外はみんなもの凄く優秀だってことですよ。素晴らしいイベントを作る集団です。これは『PRIDE』と闘っているときからずっと思ってました。

——では、大晦日のたまアリ開催は何がネックになって断念したんですか？

谷川　『ハッスル』の件もあったし、それはたまアリを抱えている元『PRIDE』の人たちから言わしてみると、ほかの選択肢がある中で調整ができないということだったんです。だから、ボクらは大阪ドームの開催を決断したんですよ。で、「今後のことをどうするかというのはまた話しましょう」と。まあ、ボクから言えることは、島田がいるかぎり協力はできないということですね(笑)。

——向こうからすると、前田日明スーパーバイザーがいるかぎりFEGには協力はできないのかもしれないです(笑)。

谷川　んあ〜！

——しかし、前田さんの「『PRIDE』ざまあみろ！」発言のために、謝罪した谷川さんは災難でしたね(笑)。



普段は温厚で大人物の谷川代表の顔色がガラリと変わるのは、島田裕二とボブ・サップの話題になったとき。誌面では笑い話っぽく読めるかも知れないが、冗談ではない。“キラー谷川”の登場なのである。サップに関しては、会見や新聞紙面を通じて大晦日『ハッスル祭り』出場に牽制球を投げている。はたしてどうなる？

U TANIKAWA

調整はつきませんでしたが、『Dynamite!!』のさいたま開催についての可能性は探りました

谷川　前田さんも「言っちゃった……」って感じで。ボクが「謝罪文を出しますね」って伝えたら、ボクらの立場も理解してくれてるので「ゴメン、ゴメン」って言ってましたけどね。でも、なんかのイベントでまた言ってたみたいだけど。

——ダハハハハ！　二回目の「ざまあみろ！」発言の裏にはそんなことがあったんですか(笑)。

谷川　二回目についてはもう知りません！(笑)。ただ、やっぱり『PRIDE』で頑張ってきた選手やスタッフには関係ないことですからね。『PRIDE』に対する前田さんの個人的な感情もわかりますけど。

——まあ、今回解雇されたスタッフには関係のない話ですからね。もっと言えば、ロレンゾからすれば噛みつかれた意味がわからないと思うんですよ(笑)。

谷川　とにかく、今後はどうなるかわからないですけど、『PRIDE』には凄く熱いファンがいたんで、そのファンを守る動機としてはいろんな動き方があると思うんですよね。ボクは島田以外の人間とは仲良くやっていけるので(笑)。

——マット界の行方は島田裕二が鍵を握っている、と(笑)。そういえば、日本総合格闘技協会とワールドビクトリーロードが立ち上がりました。谷川さんは「よくわからない」とコメントされてましたけど。

谷川　まだ当事者の方々も何をやるのか決めかねていると思うんですよ。まず、何をやられるのか、何をしてほしいのかが明確になった時点で考えようとは思ってます。コミッショナー制度の発想は悪くないと思うんだけどね。

——まだ話し合いはされてないんですか？

谷川　いや、しましたよ。でも、何をやられるのかはまだわからないです。それが固まったら、おいおい説明していきますということでしたけど。福田会長は力がある人だから、これからいろいろ動いていくんでしょうけど。

——それで大晦日が迫ってますが、『GONKAKU』でのインタビューによれば、今年は硬派路線でやられるとか。

谷川　……それがちょっと迷ってんだよねえ。

——ダハハハハ！　というか、あのインタビューの見出しで「硬派」と「格闘甲子園」が並んでいる時点で編集者も大迷いしてますよ(笑)。

谷川　ふふふふ！　でも、“格闘甲子園”は観たいでしょ？　HIROYAくんvsタイの高校生をやったり、オランダの高校生を呼んでさ、みんなガクランを着せてやりたいですねえ。

——谷川さんが校長先生役で。それはシリアスだなあ(笑)。

谷川　そんなシリアスでさわやかな大会をやりたいなあって。まあ、今年はタレントを使うつもりもないですし、シリアスにやりますよ。

——去年もそんな目標設定をしたインタビューの翌日に、曙vsジャイアント・シ

ルバ戦を発表されましたけども（笑）。
谷川　んあ～！　じゃあ明日、曙vsミノワマン戦を発表しますよ（笑）。
――本当にやってもおかしくない（笑）。そろそろ最後の質問ですが、″大晦日の向こう側″のテーマはなんですか？
谷川　ボクが望むのは日本の格闘技界の大同団結です！
――旧『PRIDE』派も含めた団結。いまの格闘技界の情勢を見てると、ファンの視線は大晦日に集中しますけど、じつは来年に向けていろいろと水面下で動いてますよね。
谷川　はいはい。外資の格闘技団体がたくさん日本に入ってくるという噂もあるし。だから、格闘技のいいときを見て自分たちもなんとかやれるって思う方が国籍を問わずたくさんいると思うんですよ。『PRIDE』とかK―1のいいときを見て「これをやりたいな」「これだったら自分でもできる」っていう。その感覚のなかでお金を出したり、皆さんいろんなことをするんだけど、その業界にいた人たちじゃないから初めは難しいと思うんですよね。あとは、一つの団体がなくなると派閥が分かれるんですよ。だからいまは30年前のキックボクシングに似てますよね。
――キックボクシングですか？
谷川　ええ。キックボクシングには凄くいい時代があったんです。テレビが全局中継してて、どれも30パーセント台の視聴率を獲ってましたからね。

いまのマット界は、分裂によって衰退した30年前のキックボクシング界に似ている

――それが衰退したきっかけはなんだったんですか？
谷川　一番は沢村忠さんの引退とコンプライアンスの問題。いまと同じような状況ですよ。で、みんな凄く華やかな時代を知っているから、「俺が俺が～」で分裂していたんですよね。この業界は、そういうふうにはしたくはないですし、そんなに簡単な業界じゃないですから。新しく立ち上げるといったって、ファンに認知されるというか、ブランド力がつくまでかなり時間はかかりますよ。『PRIDE』だって初期はメチャクチャ苦労してましたからね。
――『PRIDE』が強大化したのはミルコの参戦以降ですよね。
谷川　そうですよ。5年くらいかかってますよ。それくらい時間は必要だし、そのぐらいのお金は注ぎ込まなくちゃならない。だけど、その汗の部分を本当に理解しているのは、いまいる中では旧『PRIDE』勢だけですよね。
――旧『PRIDE』勢には″戦友″めいた感情が谷川さんの中にあるんですね。
谷川　島田以外にはね！
――ククク。じゃあ、『ハッスル』にも登場したベストフレンドのボブ・サップはどうですか？
谷川　サップ？　アイツも絶対に許さないぞぉ！（怒）。
――ダハハハ！
谷川　アイツが『ハッスル』に出た夜に会いましたけどね。契約違反を伝えたら、サップは知ったことかみたいな感じでしたけど（笑）。最終的に「12月31日の大阪ドームで待ってる」と伝えました。試合をして名誉挽回すればいいじゃないかということでね。
――じゃあ、大晦日は″魔王″vs″暗黒肉弾魔神″の暗黒対決をやりましょうか（笑）。
谷川　んあ～！　サップにもいいときがあったんですけどね。彼の絶頂期を知っているからよけいに残念ですよねぇ。
――ちなみに谷川さんの絶頂期はいまだったりするんですか？
谷川　いや、全然、絶頂じゃないよ。風水によれば、ボクの人生ってあと20年は上がりっぱなしなんだって。
――20年間上がりっぱなし！　じゃあ、『kamipro』は、あと20年は谷川さんに付いていきます！（笑）。

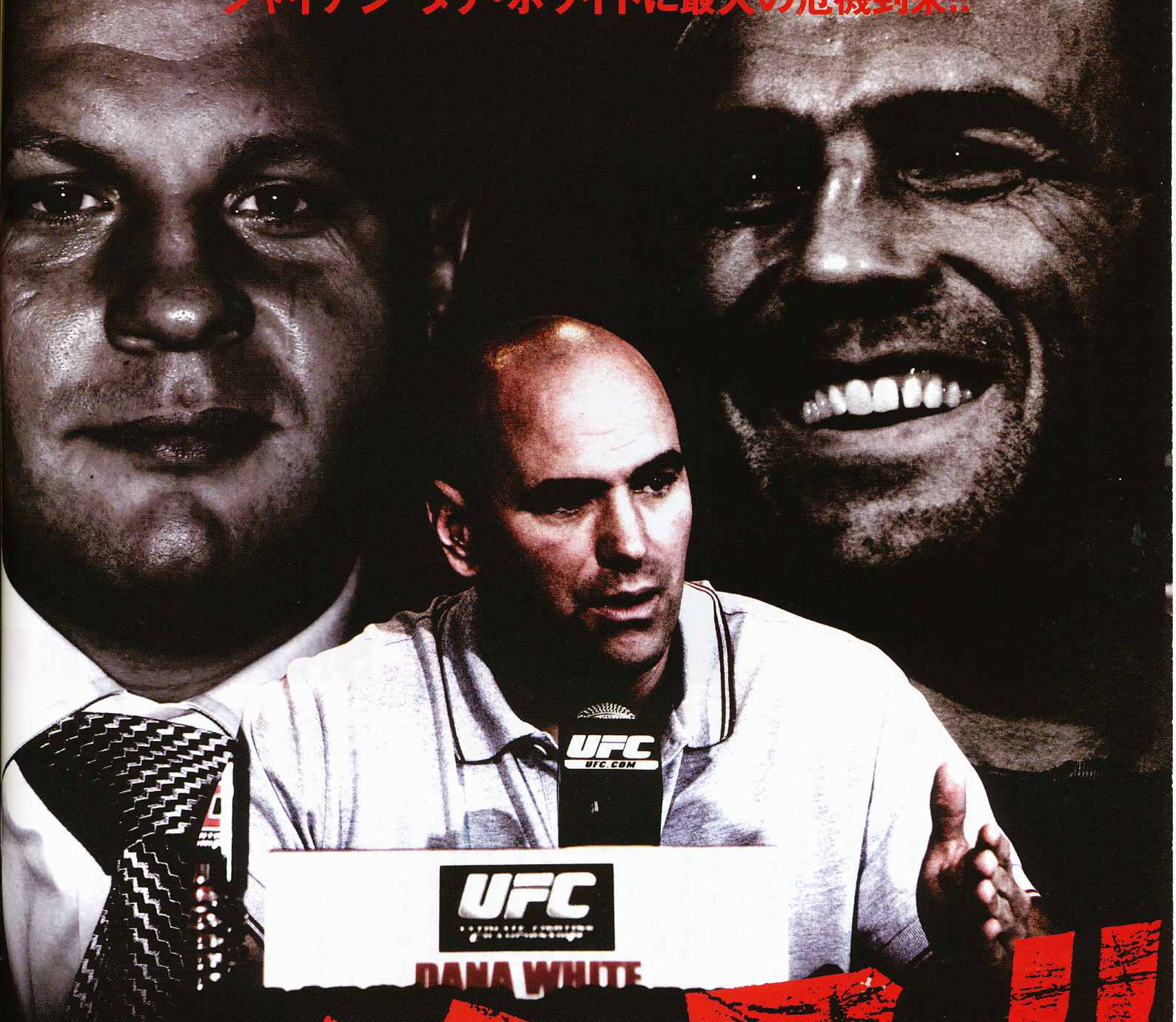
【07年11月2日／都内某所にて収録】



本誌No.116のインタビューで韓流ドラマの素晴らしさをとうとうと語ったためか、韓国の格闘技記者から韓流ドラマのDVDを大量にプレゼントされた谷川代表。さすが今後20年は上がりっぱなしの男である。ただし、字幕がないため「まったく意味がわからない」とのこと。んあ～!! 韓国の皆さん、日本語字幕つきのDVDを送ってくださ～い！

SADAHARU T

ヒョードルを擁する『M-1グローバル』の外圧と
ランディ・クートゥアーによる内部告発のサンドイッチ!
"ジャイアン"ダナ・ホワイトに最大の危機到来!!



ライシス!!

構成／堀江ガンツ　撮影／George Napolitano(ヒョードル)、MMA WEEKLY(ダナ)

買収というかたちで『PRIDE』を飲み込み、PPVや観客動員も絶好調、世界のMMAを制圧したかに見えたUFC。しかし、好事魔多し。一転して、いまUFCに最大の危機が訪れている。

危機の始まりは10月22日、ニューヨークで行なわれた新団体『M―1グローバル』の設立記者会見だ。M―1といえば、これまでヒョードルが所属するレッドデビルが主催し、主にロシアで行なわれてきたMMAイベント。このM―1に米投資会社が参加し、巨額の資本を得て大きく生まれ変わったのが『M―1グローバル』だ。

記者会見ではPRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルが参戦を表明。CEOには、ティム・シルビア、ショーン・シャークらのマネージャーであり、『エクストリーム・チャレンジ』などのプロモーターでもあるモンテ・コックスが就いたことが明らかにされた。

これだけならば、ダナ・ホワイトがいつものように「ジョーク」と切り捨てる、MMA競合団体が一つ増えただけだが、ヒョードルの獲得失敗は、大きな痛手としてUFCに跳ね返ってくることになる。

なんと、〝ミスターUFC〟といってもいい、UFCヘビー級王者ランディ・クートゥアーが、「ヒョードル戦が実現しないのであれば、このMMA界でやり残したことはない」と、2試合の契約を残して、UFCを電撃退団してしまったのだ。

このランディ退団について、UFC側は「ランディの引退」と発表。しかし、当のランディは10月24日にラスベガスで記者会見を行ない、「あくまでUFCからの離脱であり、引退ではない」と、UFC側の発表を真っ向から否定したのだ。

しかも、UFC退団の理由を「ヒョードル戦が実現しなかったこと」に加え、「私はUFCから正当に評価されていない。ガブリエル・ゴンザガ戦でも、ほかのトップファイターのように〝ロッカールーム・ボーナス〟がもらえなかった」と、金銭面での不満があったことを表明したのだ。

このランディの告発はUFCを大いに慌てさせた。なぜなら、PPV収益によるインセンティブをはじめとした〝ロッカールーム・ボーナス〟は、業界内では暗黙の了解とされていたが、公にはされていなかったことだからだ。

公にされているのは、あくまでアスレチック・コミッションに届け出ている基本ファイトマネーのみ。ロッカールーム・ボーナスは、たとえ基本ファイトマネーが同等の選手同士でも、大きく開きがある場合がある。それが選手間で知られたとき、今回、ランディ・クートゥアーがミルコ・クロコップをはじめとした、ほかの選手の額を知ってUFCと大きな溝ができたようなことが、これから次々と起こりかねないのだ。

また、ロッカールーム・ボーナスという不透明な金銭は、場合によってはUFCのオーナー、ロレンゾ・フェティータの本業であるカジノにも影響を与える可能性がある。ラスベガスのカジノ業界は許認可制だから、金銭の流れについては、とくに敏感にならなければならないからだ。

だからこそ、UFC側は10月30日に緊急会見を開き、ランディの発言に反論。ダナ・ホワイトだけでなく、オーナーのロレンゾまで同席したのは、極めて重要かつデリケートな問題を含んでいるからだろう。

しかし、このUFC側の会見はランディに対して反論はしたものの、「あの発言はランディの誤解だ」として訂正するだけで、ランディ側を攻撃することはなかった。それどころか、「来年、ランディ・クートゥアーvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのタイトルマッチのオファーをしたい」と〝歩み寄り〟の姿勢を見せたのだ。

UFCを慌てさせたランディの告発「法廷闘争に持ち込みたくない」のはUFC側に分が悪いことの表われか?

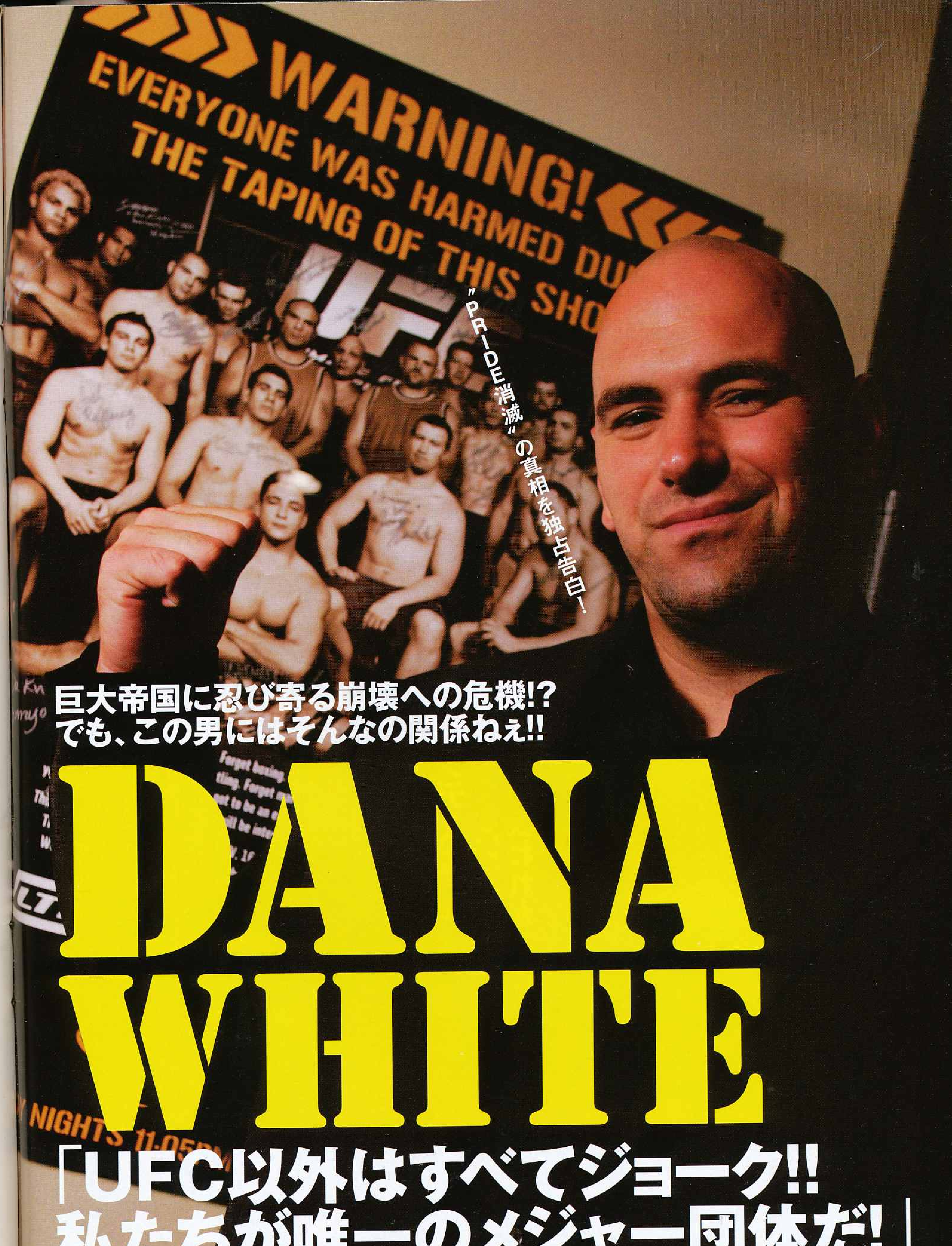
ダナ・ホワイト自身、「法廷闘争には持ち込みたくない」と話しているが、これは、徹底抗戦したらUFC側は分が悪いことの表われとも考えられる。だからこそ、なんとか〝和解〟に持ち込みたいのだ。

巨大資本と〝世界最強の男〟ヒョードルを擁する『M―1グローバル』という外圧と、ランディ・クートゥアーによる〝内部告発〟。この外と内、両方からの攻撃により、UFCはいま最大の危機を迎えているのである。

まさに「一寸先はハプニング」である世界のMMA。刻一刻と変わり続ける状況を本誌は徹底的に追っていく次第だ。



UFCク



"PRIDE消滅"の真相を独占告白!

巨大帝国に忍び寄る崩壊への危機!?
でも、この男にはそんなの関係ねぇ!!

DANA WHITE

「UFC以外はすべてジョーク!! 私たちが唯一のメジャー団体だ!」

聞き手／上杉コミッショナー　撮影／黒田史夫、Josh Hedges (UFC)

〝最強皇帝〟ヒョードルの獲得失敗、現ヘビー級王者ランディ・クートゥアーの離脱、そしてPRIDE FC WORLDWIDE東京事務所閉鎖による日本市場からの撤退。PRIDEファイターを参戦させ、最盛期を迎えつつあったUFCにほころびが見え隠れし始めている。いったい、いまUFCに何が起きているのか？　ダナ・ホワイト代表を独占直撃した!!

『PRIDE』は消滅せざるをえなかった。日本独特のビジネス構造の問題に加えて、私たちにとっての必要な情報が入ってこなかったからな

―代表！「日本のマスコミは『東スポ』だけが、真実を書いている」とおっしゃってましたが、『kamipro』も、ちゃんとあなたの言葉を伝えてますよ！

ダナ　ん？　なんのことだ？

―いや、〝スポーツ新聞の王様〟『東京スポーツ』で、代表がそういった発言をしていることがデカデカと掲載されていたんですよ。

ダナ　トーキョー・スポーツ？　よくわからないな。まぁ、海外のメディアの名前はイチイチ覚えてないんだ。

―まぁ、そうでしょうね。それはそれとして、日本のファンは『PRIDE』の東京事務所閉鎖に驚いているんですけど、いったい何があったんですか!?

ダナ　フッ……。また、その質問か。日本のメディアは、『PRIDE』について同じ質問ばかりしてくる。以前は「『PRIDE』はどうなるのか？」。そしていまは「どうして閉鎖したのか？」とね。そっちこそ答えを知っているくせにな。でも誰もそれを活字にしない！

―いやいや、推測する以上のことはわからないから聞いているんですけど……。

ダナ　これまでも言っているが、『PRIDE』の内情はメチャクチャだった。加えて、フリーテレビ（地上波放送）の契約を獲得することができなかった。その理由は、私にはいまだにハッキリとはわからないがね。だから、事務所を閉鎖するしかなかったんだ。でも一つ言いたいのは、私は『PRIDE』のファンでもあったし、そのブランドの強さを知っている。だから『PRIDE』を存続させるために、できるだけのことはトライしたよ。

―あくまでも、閉鎖せざるをえなかったいうことですか。

ダナ　そうだ。だから日本のファンに誤解のないように伝えてほしいが、私たちが『PRIDE』を殺したのではない。『PRIDE』は消滅せざるをえない環境だったんだ。おまえたちは、日本に住んで仕事をしているなら、日本のビジネス構造をわかっているだろう。私たちが何をやろうとしても、権力を持った人間がブロックしてくる。しかも！　UFCさえも日本市場に参入できなくなったんだ。

―しかしUFCに関して言えば、地上波ではありませんが、かつて放映していたWOWOWは「主に予算などの条件が合わなかった」と話しています。UFCブランドの日本での価値算定に過信があったのではないですか？

ダナ　そういった問題じゃな〜い!!

―ヒャッ!?　違いますか！

ダナ　日本のマーケットは特殊なだけで、我々外国人を排除する動きがあるだろう。そこのところは、ちゃんと伝えてくれよ。

―しかし金融でも、なんでもほかの分野で外資は日本に参入してきていますけど……。誰が事務所を閉鎖するという最終的なビジネス判断をくだしたのですか？

ダナ　それは私たちだ。つまり、私とロレンゾ（・フェティータ）とフランク（・フェティータ）だ。いつか日本でイベントを開催しようという望みを捨てずに、あのオフィスをキープしていたが、どうしてもダメだということがわかった。だからサジを投げたんだ。

―日本で『PRIDE』はもう開催しない、と捉えてもいいのですか？

ダナ　ないだろうな。何か日本のシステムが変わらない限り。もちろん、日本でビジネスをしたかったよ。いいマーケットだし、ファンのMMAに対する理解もある。だが、障害が大きかった。

―しかし、お話をうかがった限りだと、日本ではなんらかの事情により地上波のテレビと契約できず、『PRIDE』開催をあきらめたということですが、発表された声明文では「『PRIDE』の元役員たちが協力しなかった」とありましたよね？

ダナ　それも真実だ。彼らは私たちに情報を提供するはずだったが、それが私たちの手元には届かなかった。

―情報というと？

ダナ　（不機嫌になって）情報といったら情報だ！　ある情報が私たちに上がってこなかった。このことは私たちのビジネスにとって大きな問題なんだ。なぜならフランクとロレンゾはラスベガスのゲーミング・ライセンスを持っている。

―それは、つまりカジノを経営する権利ということですね。

ダナ　そうだ。そのライセンスをキープするためにはさまざまな厳しい規制がかけられているんだ。

―その規制に準ずるために、必要な情報があったということですか？　それは、スタッフのバックグラウンド・チェックということですか？

ダナ　そうだ。

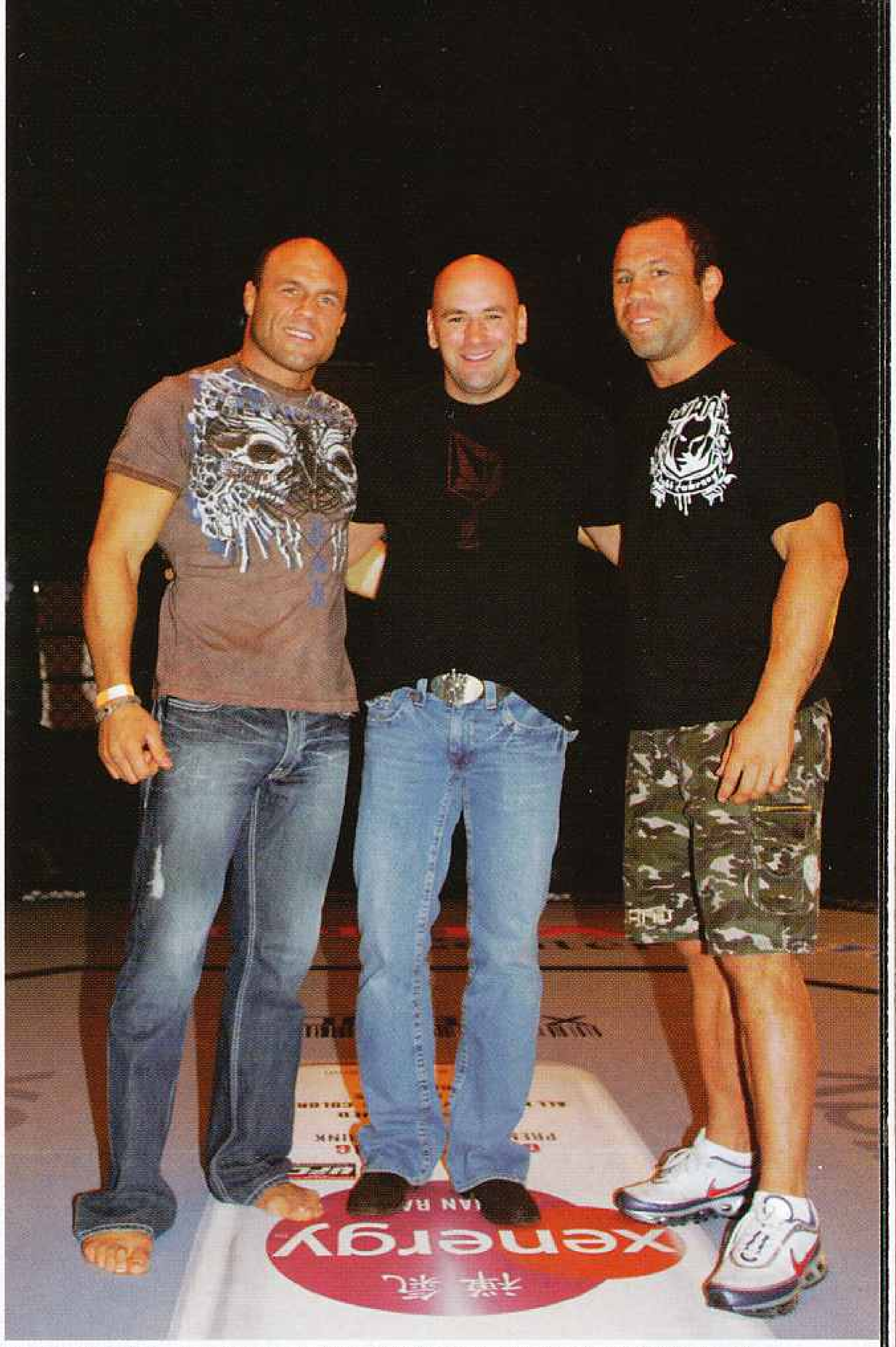
―それはつまり……？

ダナ　（さらに不機嫌になって）おまえらはわかっているだろう！　『PRIDE』がビジネスから撤退せざるをえなくなった理由を。それはさまざまな問題の組み合わせでもあるが、しかし、とにかく、私たちには必要な情報が入ってこなかったということだ。

―そうですか……。ではいまから振り返ってみて、『PRIDE』を買収したことを後悔していますか？



ついに12.29ラスベガス大会でついに実現する“ミスターPRIDE”ヴァンダレイ・シウバvs“ミスターUFC”チャック・リデルのレジェンド対決。PRIDEブランドの日本市場進出に失敗しようとも、“MMA版ワールドシリーズ”をUFCで行なうことができるようになったダナにとって、『PRIDE』買収に悔いはない。



9月に開催された『UFC76』では仲良く写真に写り、談笑していたダナとランディ。まさか、その1ヵ月後にドロ沼の争いになるとは。"UFC一のジェントルマン"として人望の厚いランディによる体制批判だけに、UFCのイメージ低下は免れない。

ランディは嘘つきだ！ ほかのファイターたちから「私はあなたの味方だ」というメールが届いている

A WHITE

ダナ （キッパリと）ノー！ それはないな。『PRIDE』の素晴らしいライブラリー（映像権利など）は手に入れられたし、ファイターたちもUFCに移籍した。実際のところ、UFC vs『PRIDE』の"MMAのワールドシリーズ"はオクタゴンですでに始まっているんだ。あとは、いつかこれが日本のテレビで放映されることを願うだけだ。

――日本でのテレビ局との交渉を代表がやれば、よかったんじゃないですか？

ダナ やったよ。5000万回は日本に行ったね！

――ワハハハハハ！ それは言いすぎでしょうけど（笑）。

ダナ 自分でも行ったし、スタッフにも行かせたし、日本からも人が来た。それでもうまくいかなかった。繰り返すが、できる限りのことはすべてやった。なのに、マスコミどもは私を悪者にしようとしている。

――してないですよ！ 少なくとも私たちは（笑）。ファンは代表の強いキャラクターを愛していると思いますけど、メディアから敵視されていると感じますか？

ダナ 日本で私がどう捉えられているかはわからないが、ただ（3月27日に六本木ヒルズで開かれた）『PRDE』とUFCの資本統一会見のときもファンやマスコミからは歓迎されていた。なのに、なぜうまくいかなかったのかわからない。誰かが、私たちを押さえつけているんだ。誰だかわからないがな。おかげで、UFCも日本市場に入れない。

――UFC本体としては、今年になって進出したイギリスでの広告費のため財政面で厳しいという情報もありますが、それも今回の『PRIDE』事務所閉鎖に影響を与えていますか？

ダナ （苦笑しながら）確かに、イギリスではかなり経費がかかっている。海外でのイベントはすべてのことに対して経費が倍以上かかるからな。そして、それも『PRIDE』事務所の閉鎖と関係なくはない。なにせ、UFCはこのスポーツを世界に広めているんだ。それには金がかかるし、世界全体を見て、動かさないといけない。『PRIDE』が日本で利益を生まないのならば、ほかの地域に経営資源を集中させる必要もあるだろう。

――日本事務所閉鎖は、世界戦略の一環でもあった、と。

ダナ そうだな。だが、あくまでそれは、日本でのビジネスがうまくいかなかったからだ。もうこれ以上、『PRIDE』について話はしたくないな。

――スミマセン！ でも、もう一つだけ聞かせてさい。日本では旧『PRIDE』のスタッフたちがイベントを開くというウワサもあるのですが、もし、ビジネスとして利益になるのなら、そのときは『PRIDE』のブランドを貸し出したり、もしくは売る意向はありますか？

ダナ ハッハッハッハ！ それはわからないな。というより、そんなこと考えもつかなかったよ（笑）。

――もはや、『PRIDE』よりもUFCのことで頭がいっぱいなんですよね。ヘビー級王者だったランディ・クートゥアーが離脱した件も、大騒動になっていますし。

ダナ ランディについて一つ言おうか。アイツは嘘つきだ！

――ガハハハハ！ ランディは会見を開いて、『UFC74』のガブリエル・ゴンザガ戦では25万ドル（＝約2900万円）のファイトマネーしか支払われなかったし、ほかのファイターのようにボーナスももらってない」と発言していましたが。

ダナ それは真実ではない！ 私たちは、彼が『UFC68』のティム・シルビア戦で現役復帰したときにサイニング・ボーナス（契約金）を払っているし、ファイトマネーももっと多く払っている。

――そうなんですか？

ダナ 私たちは、明日、会見を開く予定なんだ。そこで、彼に支払った小切手を提示し、私たちが真実を語っていることを明らかにするつもりだよ。（※インタビュー翌日、ダナはロレンゾと会計責任者を同席させて記者会見を開催。小切手のほか、帳簿を提示してランディへの支払い金額を明かした）。

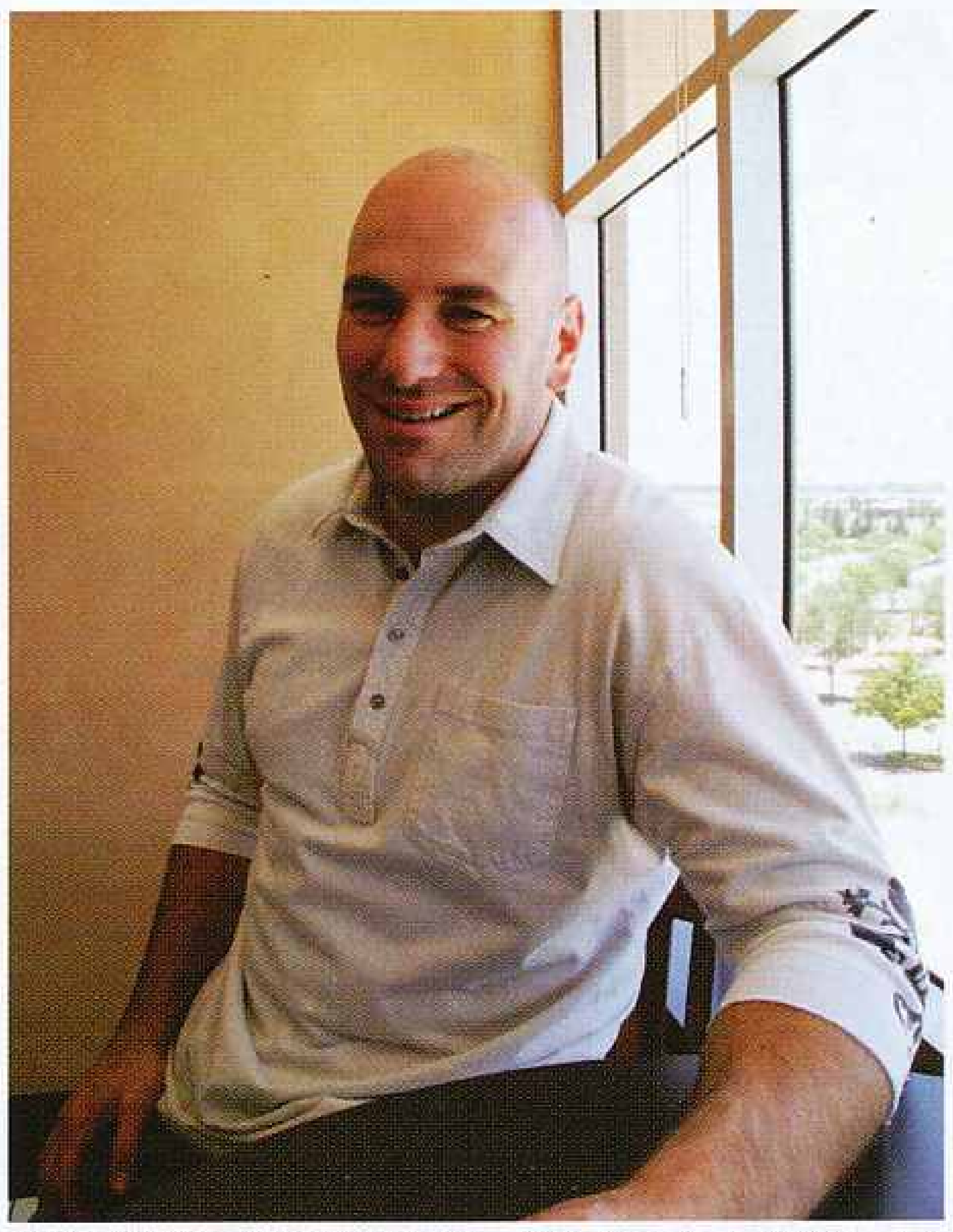
――ランディはUFCの公式発表とは違って、引退することを否定していますが、彼がUFCに復帰する可能性は何パーセントぐらいありますか？

ダナ 彼は私たちとの契約が2試合残っ



UFCでまだ1戦しか闘ってないにも関わらず、タイトル挑戦の可能性が高まってきたノゲイラ。もともとダナはノゲイラのことを高く評価しており、ノゲイラが大逆転勝利をはたした03年のミルコ戦を観戦した際は、「こんな試合をUFCで実現させることが夢だ」と本人に直接語っていたという。

ている。引退しないということなら、100パーセントここで闘うことになるよ。
――自信満々ですね。しかしランディは、その契約期限があと9ヵ月だと主張しています。
ダナ （繰り返して）彼は2試合の契約が残っている！ ほかの団体で試合がしたいのなら、その試合を消化してからになるだろう。
――そういった契約の解釈といった部分にも関しますが、ランディは「こんな思いをするのは、自分が最後でいいし、自分こそが立ち上がらないといけない」と話し、ほかの選手からもUFCの待遇に対して不満が高まっていることを訴えていますが。
ダナ ハッハッハッハ！ 笑わせてくれるな、あの男は。いいか、ほかのトップファイターたちからは「私はあなたの味方だ」という内容のメールやレターが届いているんだ。なんなら、それも公表してやってもいいがね。とにかく、ランディはちゃんと真実を話して、試合をしてくれればいいよ。（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとの防衛戦をオファーするつもりだ。
――ノゲイラですか！ ところで、ランディが離脱した理由の一つとして、ヒョードルの『M―1グローバル』参戦が挙げられていましたが、"最強の男"を逃がしたダメージは大きいですか？
ダナ ヒョードル？ そんな男もいたな（笑）。いいか、あいつにはもう用はない！ 私たちがヒョードルと契約を結ぼうとしたかった理由は、ランディが望んだからだ。もっとも、ランディなら簡単にヒョードルを叩き潰していたと思うけどな。
――あれだけほしがっていたのに、ヒョードルにはもう興味がない!?
ダナ いいか、アメリカでは誰もヒョードルのことを知らないんだ。それにあいつはトップ5にも入らない選手だろう。
――トップ5にも入らない！ ずいぶんな言い方ですね（笑）。
ダナ そう思うか？ じゃあ、ヒョードルが最近闘った選手を挙げてみろよ。マット・リンドランドは185ポンドで、（クイントン・）"ランペイジ"・ジャクソンに負けた選手だ。そしてマーク・ハントはキックボクサー。マーク・コールマンは42歳のロートル。ズールに至っては、誰も知らない選手だ。そんな相手に勝っただけのロシア人がUFCから逃げたところで、まったくビジネスに影響しない。
――はぁ～。ヒョードルには150万ドル（＝約1億7400万円）のオファーをしたと聞きましたけど、最終的に決裂した理由はなんですか？
ダナ それはヒョードルよりも、その取り巻きの"クレイジー・ロシアン"どものせいだ。




DANA WHITE■1969年7月28日、米国コネチカット州出身。ハイスクールの同級生であるロレンゾ・フェティータらとボクシングジムを経営。チャック・リデルやティト・オーティズの代理人として活躍後、01年よりズッファ社の代表となりUFCを運営。今年、『PRIDE』を買収したロレンゾとともにそのイベント再開を目指すも、結局、日本事務所を閉鎖することになった。

――そのフレーズ、待ってました！（笑）。
ダナ あいつらは、ヒョードルのことなんか考えてない。自分たちの懐にいくら入ってくるかだけを考えているんだ。
――その"クレイジー・ロシアン"たちに言わせれば「提示された契約は、打ち切りや対戦相手の変更について、UFCに一方的に有利な契約だった」ということですが？
ダナ あいつらは、そうやって、なんでも文句をつけたがる。なんにせよ、最終的には関係ない。ヒョードルはトップファイターではないからな。
――では、ヒョードルを獲得した『M―1グローバル』については脅威を感じていない、と？
ダナ ネバー!! 業界にとってはいいことだよ。これで選手を育成するファームが一つ増えただけだ。いいか、UFCだけが唯一のメジャー団体なんだ！ ほかは、すべてジョーク団体だ！
――とはいえ、『M―1グローバル』は資金的には、大きなバックグラウンドがあるようですが？
ダナ ボードッグを見ただろう？ エリートXCはどうだ？ 大きな資本が入ってきては廃れていく。ファイティング・ビジネスは甘くない。
――しかし、そのCEOにこの業界での経験の深いモンテ・コックスが就任しました。
ダナ ふん、あのジジイか！
――あ、二人の仲が悪いという報道は本当なんですね（笑）。しかしモンテ・コックスがマネージメントするチーム・ミレティチは、UFCにも選手を派遣していますが。
ダナ ああ、アイツは（UFCのマッチメイカー）ジョー・シウバと仲がいいからな。だが彼はそれもできなくなる。規約に違反することになるからな。
――チームは別の人間に任せるみたいですね。
ダナ まあ、どのみち私には関係ない。アイツとは4年以上も話してないし、挨拶すらも交わしてない。私のビジネスの邪魔ばかりするからな。
――モンテ・コックスとのあいだには、マット・ヒューズの契約を巡ってUFCとトラブルがあったそうですが？
ダナ そのことは知らないな。ヒューズはチームを離れたから、私たちと直接契約したんだ。彼がチームを離れた理由はわからないがな。とにかくアイツと関わるとロクなことはない。しかし、M―1もとんでもない人間をCEOに据えたものだ。いいか、そんなジョーク団体がUFCのライバルになることなどありえないとハッキリ言っておくよ！
――ダハハハ！ 今月もあいかわらずハードトークのダナ・ホワイトUFC代表でした～（笑）。

【07年10月31日／国際電話にて収録】

モンテ・コックスと関わるとロクなことがない。
M―1はとんでもない人間をトップに据えたな

DANA W



UFCに最大のライバルイベント誕生

『M-1グローバル』が世界と日本のマット界を変える!?

元・新聞記者がファイターのマネージャーを経て
巨大MMA団体の経営最高責任者に！

©George Napolitano



アメリカ版サダハルンバ谷川!?

ヒョードルを擁する『M-1グローバル』CEO

モンテ・コックスとは何者か？

構成／堀江ガンツ

〝皇帝〟エメリヤーエンコ・ヒョードルを獲得（2年・6試合契約）したことで、一躍、UFCにとって最大のライバル団体になるのではないか、と注目され始めた『M―1グローバル』。10月22日にニューヨークで行なわれた記者会見では、米国のエンターテインメント投資会社が出資、PRIDEルールを踏襲することなどとともに、団体の代表ともいうべき、CEO（経営最高責任者）の座には、モンテ・コックスが就くことが発表された。

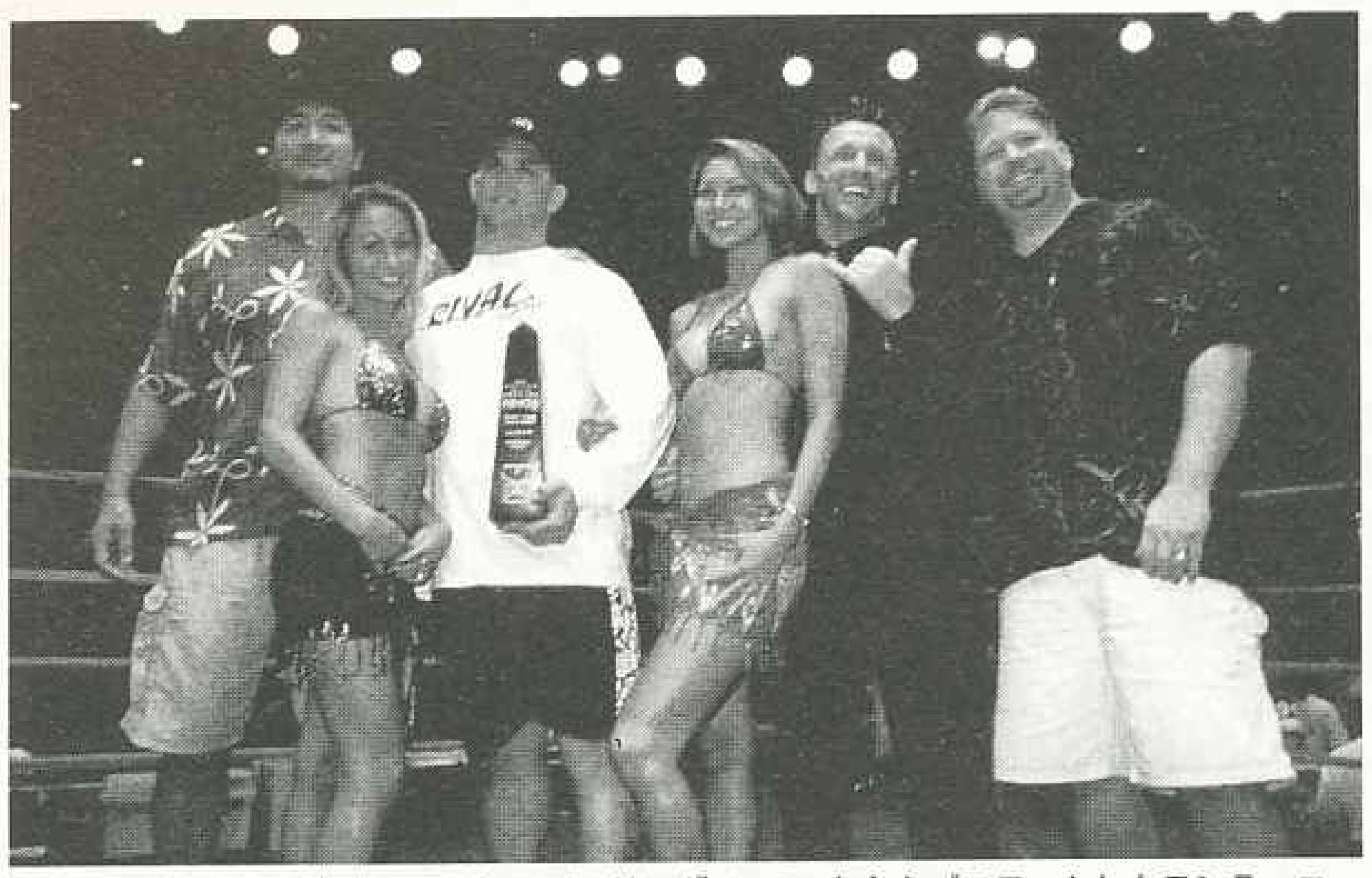
モンテ・コックスといえば、ティム・シルビア、ショーン・シャークらをはじめとした約60人のMMAファイターをマネージメントする敏腕マネージャー。『エクストリーム・チャレンジ』等、選手育成のためのMMAイベントのプロモートも手がけるプロモーターでもある。

MMAのマネージメント、プロモート歴は13年にも及ぶベテランだ。しかし、これまでメディアに登場する機会が少なかったことから、ファンには、それほど馴染みがない名前であることも確か。自分自身を語ったロングインタビューは、日本では本誌No.108に掲載されたものぐらいだろう。はたしてモンテ・コックスとは、いかなる人物なのか？

モンテは1961年生まれの46歳。プロボクサーであった父親の影響で、ボクシングを始め、アマチュアで24勝4敗24KOの戦績を残す。それと平行し、大学ではジャーナリズムを専攻していたため、大学卒業後はインディアナポリスで新聞記者となる。その後、アイオワ州に移りスポーツエディターとして15年間、さまざまなスポーツを取材。そのスポーツエディター時代に、ボクシング興行の知識を活かしプロボクシングのプロモートも2年間経験している。

そんなモンテがMMAに関わるきっかけとなったのが、のちにUFCライト級（現・ウェルター級）王者となるパット・ミレティッチとの出会いだ。

1995年当時、まだ「アルティメット・ファイト」と呼ばれ、「スポーツと呼べない野蛮なケンカ」と思われていたMMAをモンテが取材する際、パットはモンテに連絡をとり、「このスポーツがいかにちゃんとしたスポーツなのか」ということを熱心に解説し、実際に試合を見せたことで、ボクシングやレスリングの知識があったモンテは、MMAのよき理解者となったのだ。



2000年夏には、写真のハワイほかで、リングスUSA大会をプロモートしたモンテ・コックス。日本格闘技界との結びつきが強いモンテだけに、『M-1グローバル』の日本進出にも期待が高まる。

その後、モンテはパットをアドバイザーとして、MMA興行のプロモートをスタート。当時はまだMMAが禁止されている州が多かったが、もともとボクシングのプロモーターとして、アスレチック・コミッションとの人脈があったことから、各州を周りMMA開催の許可を取っていく。

さらに、当時のMMAはマネージメントの体制が確立してなかったため、これまでのボクシングでの経験を活かして選手のマネージメントもスタート。盟友パット・ミレティッチをはじめ、ジェレミー・ホーン、マット・ヒューズ、デイヴ・メネー、ジェンス・パルヴァーらを手がけ、近年は60人ものファイターをマネージメント。7人のUFC王者を生んだ名伯楽として知られるようになる。

モンテはMMAプロモート歴13年を誇るベテラン
“MMA素人”だったほかの“ジョーク団体”とは違う

『M-1グローバル』は世界と日本のマット界を変えるか!?

また、プロモーターとしても3000～5000人規模の会場で開催される『エクストリーム・チャレンジ』を頂点に、1000～1500人規模の『XFO』、『カレッジ・ファイト』、さらにはアマチュア大会『ウィークリー・ファイト』も毎週開催。小規模な選手育成大会が中心ながら、年間200大会ものイベントを手がけているのだ。そして、これらの大会で育成した有望な選手をUFC、『PRIDE』といったビッグイベントに送り込む。これがモンテのやり方だ。これらの小規模な選手育成イベントを持っていることは、『M―1グローバル』にとっても大きな力となるだろう。

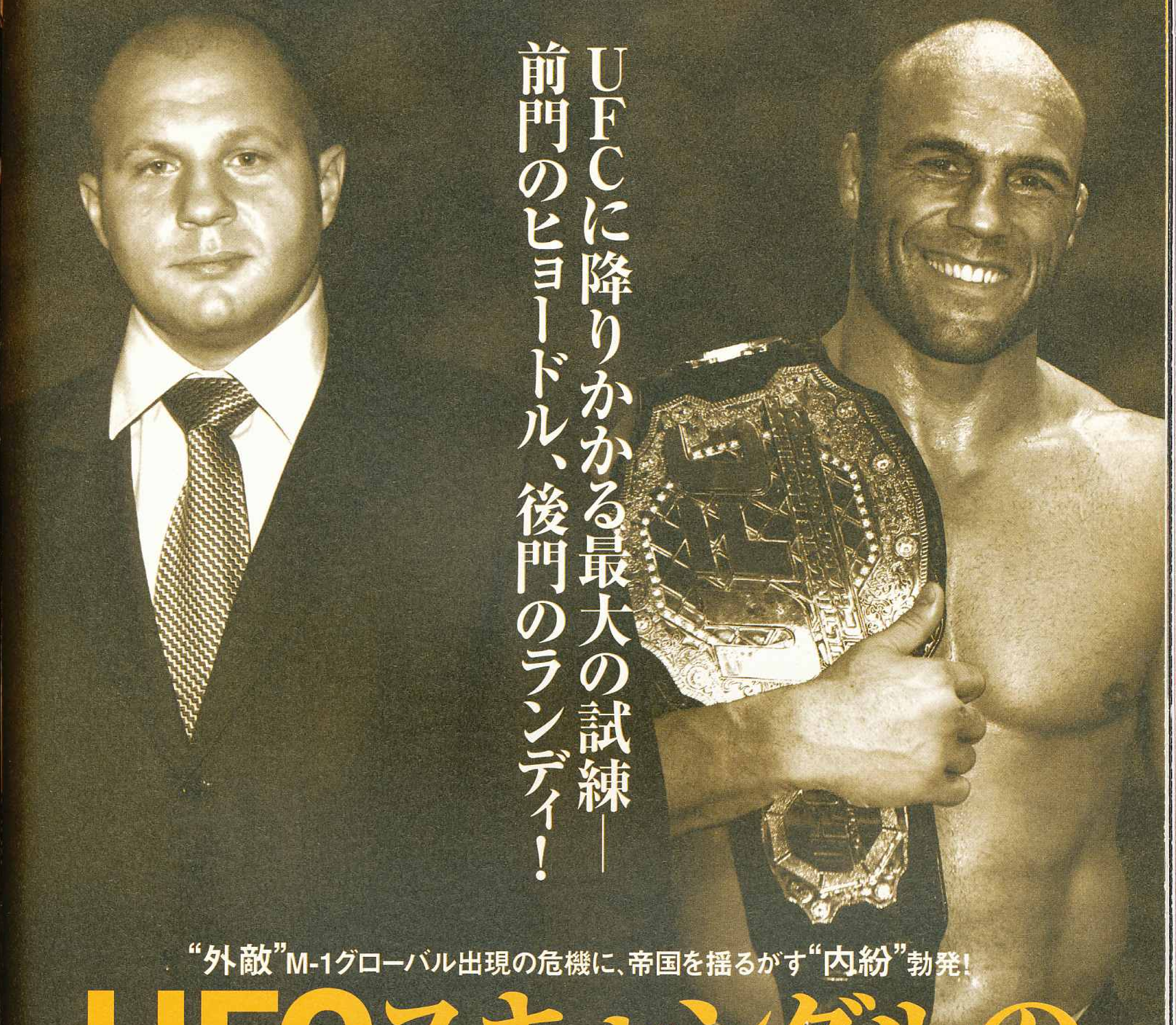
また、モンテは日本格闘技界との結びつきも強い。99年に開催された第1回リングス『KOKトーナメント』にジェレミー・ホーンらを派遣したのを皮切りに、KOK以降のリングスに多くの選手を派遣。プロモーターとしては、2000年にはリングスUSA大会のプロモートも行ない、リングスのアメリカ進出を支援した。そして、リングス活動停止後も、モンテの日本側代理人であるU氏を通じてZST、『LEGEND』、『PRIDE』などにも選手を派遣。U氏とのパートナーシップ関係はいまでも続いている。

大会プロモート、選手マネージメントの両面でMMAに精通し、日本マット界についても深い造詣がある人物、それがモンテ・コックスなのである。

これまで海外では、『ボードッグ・ファイト』をはじめとして、巨大資本をバックにした新興MMAイベントが雨後のタケノコのように次々と誕生してきた。しかし、いずれもMMA興行の〝素人〟がプロモートを行なっていたため、マーケティング等の失敗から、金をドブに捨てるような状態となり失敗してきた。しかし、『M―1グローバル』は、MMA業界に精通するモンテ・コックスをCEOに据えたところに、ほかの〝ジョーク団体〟とは大きな違いを感じる。もともとジャーナリストであり、マスコミ対応やプロモーションにも長けているだろう。そういった意味では、アメリカ版・谷川貞治（FEG代表）とも言えるだろう。

しかし、モンテにも課題や不安材料がないわけではない。プロモーターとして13年のキャリアがあるといっても、彼がプロモートしてきたのは最大で数千人規模の中小イベントのみ。『M―1グローバル』という、UFCや『PRIDE』規模の興行開催、またアメリカだけでなく、日本、ロシア、欧州などにアピールするイベントができるかどうかは未知数だ。

いずれにせよ、MMAに精通し、日本格闘技界にも理解があるモンテ・コックスのような人物がヒョードルを擁し、PRIDEルールを採用するビッグイベントのCEOに就いたことは朗報。来年夏にも予定される日本進出ともども、モンテの手腕に期待したい。



UFCに降りかかる最大の試練――
前門のヒョードル、後門のランディ！

"外敵"M-1グローバル出現の危機に、帝国を揺るがす"内紛"勃発！

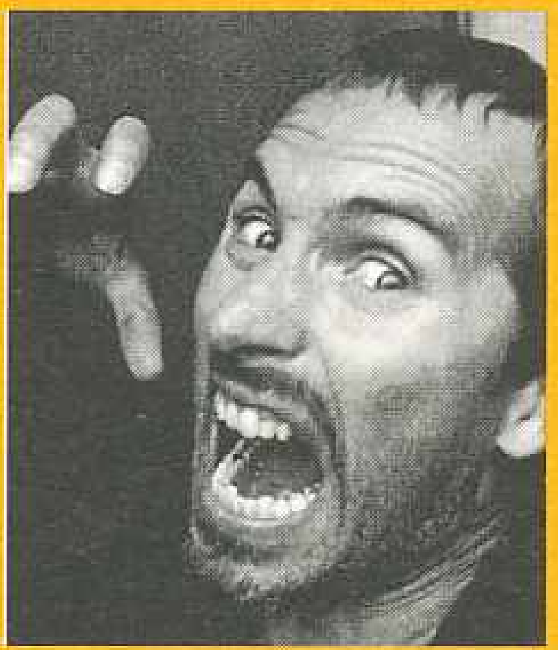
UFCスキャンダルの全舞台裏

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け！

USA COOL 宅急便

ヘビー級チャンピオン、ランディ・クートゥアーがベルトを持ったまま離脱をするという前代未聞の事態に陥ったUFC。しかも両者のあいだで舌戦が展開される中で、ビジネスの仕組みが次々と明らかになるなど、ピンチに見舞われている。その一方、ヒョードルを獲得した『M-1グローバル』がついに発進！　いったい、アメリカで何が起っているのか!!

聞き手／デューク東郷　撮影／Gearge Napolitano、Josh Hedges（UFC）



PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイ「MMA WEEKLY」（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。日米格闘技事情に精通。ビッグマッチのたびに来日していたが、「PRIDE」の活動停止に伴ない、八王子のアパートを撤去。現在は米国ユタ州在住。

UFCと契約しているファイターたちも『M―1グローバル』とサインしたいはずだ

――アメリカでMMA地殻変動を起こすような派手な動きがあったんだってね。

スコット　そう、ロシアのM―1が新資本を注入して完全リニューアル！　ニューヨークに本社を持つ総合エンターテインメント企業「Sibling Entertainment Group」の子会社が、スポーツマネージメント分野で名高い「Garlin Holdings」と新生『M―1グローバル』を設立。10月22日に行なわれたニューヨークでの記者会見では、ヒョードルとのあいだに〝2年間・6試合契約〟を結んだことを発表して、来年2月をメドに大会を開催することも発表したんだ。

――なんだかんだ言っても、ヒョードルはUFCと契約することになると思っていたけどね。

スコット　獲得に失敗したダナ・ホワイトUFC代表はあんなにほしがっていたヒョードルのことをボロクソに言っている。「あのロシア人は、本当ならヘビー級のトップ5にも入らない。プロテクトされた選手だ」ってね。

――見事な手のひら返しだね（笑）。

スコット　で、その会見で、ヒョードルを擁するレッドデビルのワジム・フィンケルシュタイン会長は「UFCはグローバルな団体じゃない」とアメリカンファイターを中心に選手を囲いこんでいるUFCを批判。新社長に就任したモンテ・コックスも、独占契約にこだわらないオープンな大会で〝世界最強決定トーナメント〟開催を目指すと話している。

――それは理想的だけど開催はムリでしょ！　ところで、モンテ・コックスって誰よ？

スコット　モンテ・コックスは、ティム・シルビアやリッチ・フランクリンらのトップファイターが属する「ミレティッチ軍団」を統括している有力なブッカー兼プロモーター。UFCにも多くの選手を派遣しているモンテ・コックスがついたことで、『M―1グローバル』は選手供給の太いパイプを確保したことになるんだ。

――ヒョードルという看板以外の人材にも困らないということだ。

スコット　そして人材を確保するための資金面も凄い。『M―1グローバル』にとって親会社になる「Sibling Entertainment Group」は豊富な資金を誇る立派な店頭上場企業だからね。同社オーナーのミッチェル・マクスウェル氏はサンフランシスコ・ジャイアンツのバリー・ボンズが打った、大リーグ最多本塁打記録となる756号ホームランボールを50万ドル（＝約5800万円）で競り落としてしまうほどの超リッチなニューヨーカー。いまアメリカで急成長するMMAに目をつけたらしい。

――また新しいセレブの登場かよ！　オンライン・カジノの成功者、カルビン・エアー様といい、IT富豪のマーク・キューバンといい、ホント、アメリカのMMAシーンは金持ちがどんどん参入してくるね。

スコット　このマクスウェル以外にも、ロシアで『M―1グローバル』を支えているビッグスポンサーがいるらしく、資金面でも盤石の構えだね。

――ヒョードルを参戦させていた頃の全盛期のボードッグをしのぐ資金力があるわけだ。

スコット　それはファイター獲得に重要なことだし、モンテ・コックスは「UFCファイターたちも、私たちとサインしたいと思っているはずだ」と待遇に自信を示して、引き抜きも辞さない構えを示している。



ヒョードルの対戦相手として名前が挙げられているのが、現在フリーのジョシュ・バーネットやマーク・ハントら元PRIDEファイターたち。もっとも、最大のマーケットであるアメリカでの知名度を考えれば、ジェフ・モンソンらUFCで活躍したファイターとのマッチメイクのほうが、より注目を集めることになる。

――ヒョー！　全面戦争だ！　これで現在のUFC一強体制が崩れることになるかもしれない、と？

スコット　その可能性はあるけど、現段階でそう言うのは、さすがに時期尚早かもね。実際、資金だけあっても、うまく利益を出せないのがこのファイティング・ビジネス。ボードッグも本業のオンライン・カジノの不振が影響しているにせよ、MMAに参入して以来、興行面では大苦戦しているし、IFLにいたっては、利益を出すことができず、株価が全盛期の30分の1になったまま。ヘタするとこのまま、市場からフェードアウトしかねない状況になっている。

――なるほど。資本があっても、イベントを成功させることは簡単じゃないわけだ。

スコット　それに『M―1グローバル』の問題を挙げるとすると、ヒョードルという一人のスターにより成り立とうとしていることだね。たとえば、もしヒョードルが負けたら？　そうなってしまうと一気にイベントの求心力はなくなってしまう。

――それはヤバいね。

スコット　だからファンがケージ慣れしているアメリカで、わざわざPRIDEルールに準じた〝リング・ヒジなし〟というルールを採用するというのは、ヒョードルがそのルールに慣れていて、力を発揮しやすいからだとも言える。

――元PRIDEファイターがオクタゴンで苦戦している状況では、それは妥当な判断だろうね。で、気になるのは、旗揚げ戦でのヒョードルの対戦相手だけど？

スコット　ジョシュ・バーネットやマーク・ハントといった元PRIDEファイターや、ヒクソン・グレイシーの名前が挙がっているけどね。

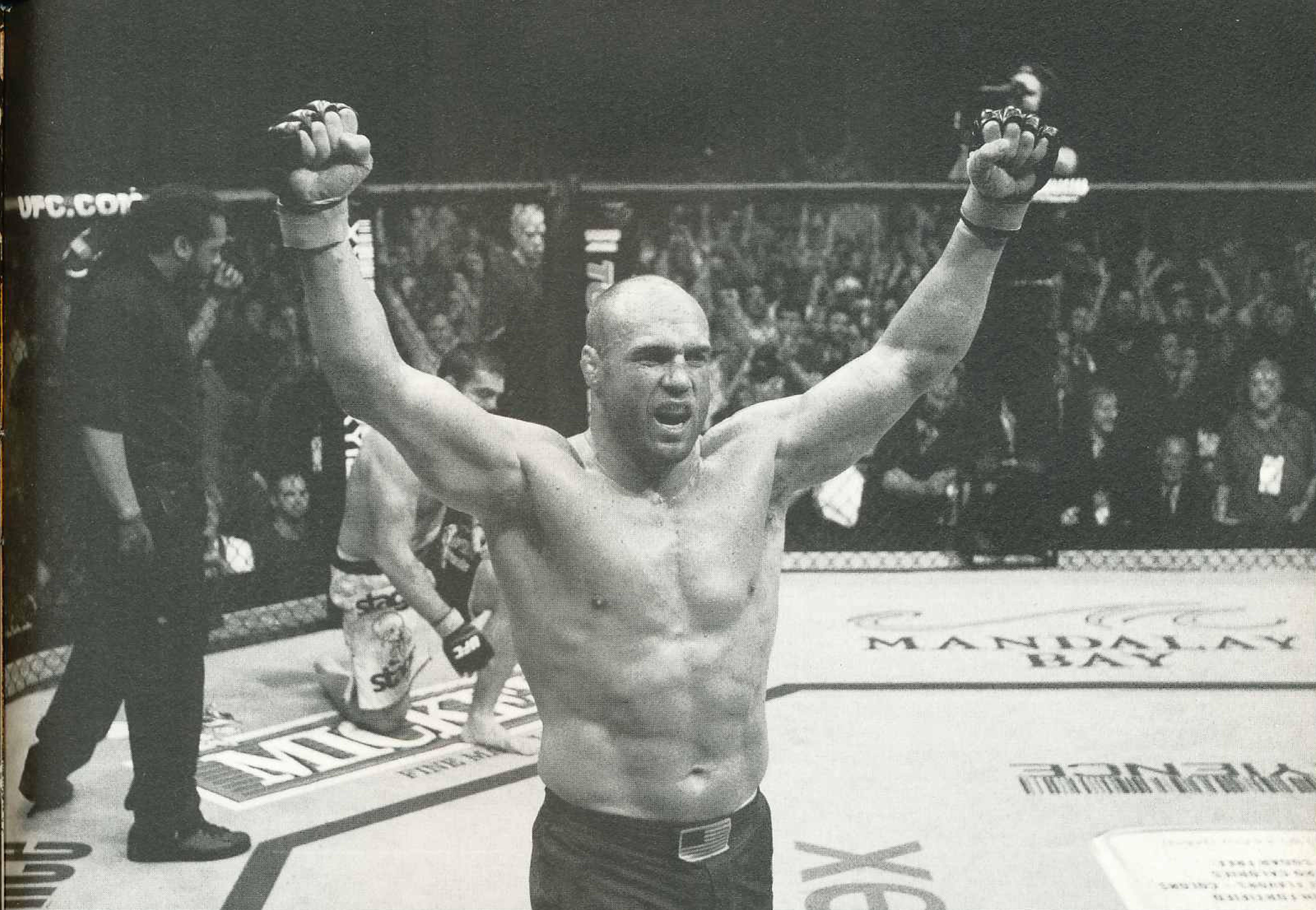
――ヒクソン！　さすがに、それはないでしょう（笑）。

スコット　それから、もっとも対戦の可能性が高そうなのはジェフ・モンソン。

――「どうせ金持ちは高価な合法の薬を使うのだから、平等に、すべての薬物を解禁すべきだ」という過激な〝ステロイド容認〟発言で知られるようになったモンソンね。

スコット　もっと普通の覚え方をしろよ！　〝『PRIDE』のラストイベントでフジタ（藤田和之）と闘った相手〟とかさぁ。ちなみにモンソンは共産主義崇拝者だから、さっきのような発言になったんだけどね。

――モンソンは去年11月にUFCでタイトルマッチに挑戦したこともあるくらいだから、ファンの認知もあって強い選手なんだろうけど、それよりやっぱり、UFCを電撃離脱した現ヘビー級王者、ランディ・クートゥアーとの試合が観たいよね。これこそ『PRIDE』vsUFCの頂上対決なんだけど！



UFCを11年間も支え、尽くしてきた私に対して ダナからはリスペクトが感じられなかった

スコット　でも、二人が旗揚げ戦で闘う可能性はまずないだろうね。クートゥアーは少なくともあと9ヵ月間はUFCの契約に縛られている。

——2月の旗揚げ戦には間に合わない、と。

スコット　それに加えて、ヒョードルのアメリカでの知名度はハードコアファン層以外では、まだまだ低いんだ。一般のファンにPPVを買わせるためには、『M―1グローバル』はヒョードルに何試合かアメリカで闘わせて、売り出す必要があるね。

——ヒョードルクラスでも、選手のブランディングは大変なんだね。

スコット　たとえば、もしUFCがヒョードルvsランディをマッチメイクするのなら、それを売り出すのは、もっと簡単かもしれない。DSEから買い取った『PRIDE』の映像を、提携しているスパイクTVでガンガン流しちゃえばいいんだからね。そうやってヒョードルの過去の凄い試合を見せれば、その強さと知名度は一気に浸透することになる。

——なるほど。こういうときに映像権利を持っていると強いのか。ダナが『PRIDE』のライブラリーを買い取って満足しているのは、UFCでのマーケティングに有効だからだね。

スコット　それに、その映像は将来的にこのスポーツが発展すればするほど、DVD化などで利益を生むからね。とにかく話を戻すと、ヒョードルをランディと闘わせるのなら、マーケティング的にも、ランディの契約面でも、しばらく経ってからだね。ただダナは「2試合の契約が残っているかぎりは、残りの契約期間の9ヵ月が過ぎても、永遠にフリー・エージェントにならない」と主張して、ランディにUFC復帰か引退かを迫っている。

——UFCは選手を永久に拘束できるってこと？　さすがダナ！　言うことがメチャクチャだ（笑）。

スコット　そういった片務的な契約内容や自分に対する扱いへの不満が募ったランディは記者会見を開いて、「ほかのファイターには、ボーナスを支払っているのに、『UFC74』のガブリエル・ゴンザガ戦では25万ドル（＝約2900万円）のファイトマネーしか支払われなかった」と話して、「UFCを11年間も支えて、尽くしてきた私に対して、リスペクトが感じられなかった」とダナを批判する発言を繰り返したんだ。

——〝UFC〟のジェントルマン〟として知られていたランディがこんなことを言うのだから、説得力があるよね。

スコット　ようやく一般層からスポーツとして認知を受けつつあるUFCにとって、イメージ低下は避けたいところ。だから、ランディの会見の時間に「新しいテレビ契約の発表」なんてタイトルで記者会見をぶつけて、広報合戦に出てきたんだ。わざわざチャック・リデルやヴァンダレイ・シウバ、ブロック・レスナーを参加させてね。でもウワサになっていたESPNやHBOなどの有力テレビ局との契約が決まったかと思いきや、中身はただのスパイクTVとの契約延長だった（笑）。

——UFC側はよっぽど焦ってたん

だろうね。

スコット　で、さらにランディの会見の一週間後に、今度は逆にUFCが会見を開催。ダナが「ランディが『UFC68』で復帰したときに、契約ボーナスとして50万ドル（＝約5800万円）を支払っているし、PPVボーナスも支払っている」とその小切手を提示して、真っ向から反論したんだ。

――わざわざ小切手まで持ってきたのかよ！　結局、ランディもPPVボーナスをもらっていたんだ。

ケビン　そう。でも、じつはこれはUFCが初めて公にPPVボーナスの存在を認めたことで、大変なことなんだ。

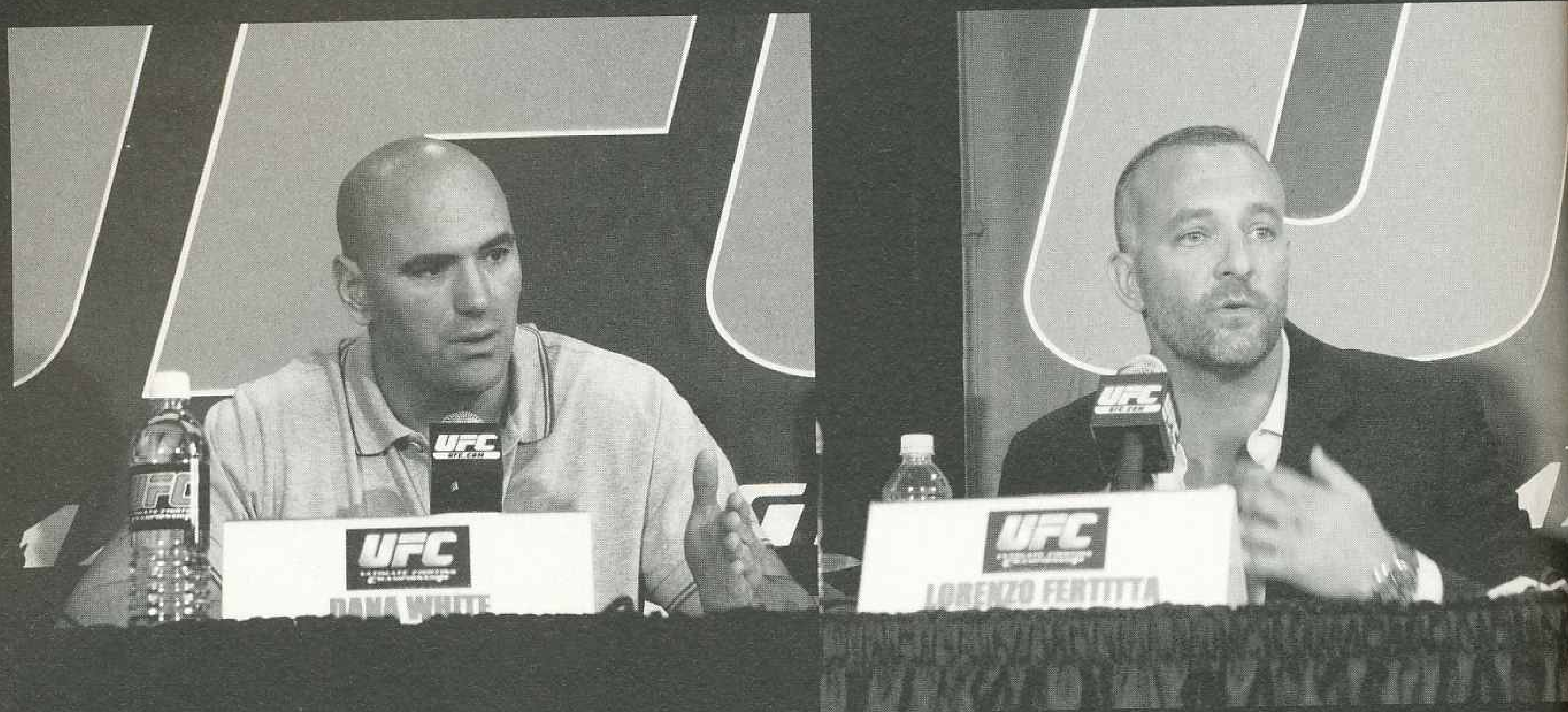
――え、そうなの!?

スコット　アスレチック・コミッションが公表しているファイトマネー以外に、PPVボーナスがあるということはMMAビジネスとしては〝暗黙の了解〟だったけど、UFCは一切その内容を明かさなかったし、UFCと付き合いのあるメディアもこの件についてはこれまで報道してこなかったんだ。

――UFCと付き合いのない、アンタらネットメディアだけが、遠慮せず好き勝手に書いていたというわけね（笑）。

スコット　そんなことはないって！　いまUFCと仲良くしようとしているんだから、誤解を生むようなことを言うなよ！　『MMA WEEKLY』では、「選手のファイトマネーについては、アスレチック・コミッションから発表された金額を掲載しています」と、書いただけだって！

PPVボーナスの存在というビジネスの〝暗黙の了解〟が明らかになってしまった



現地時間10月31日に行なわれたUFCの〝ランディへの反論〟会見には、ダナ・ホワイトに加えて、普段はメディアに出ないオーナーのロレンゾ・フェティータまでもが出席。事態の深刻さがうかがえる。また、この会見にはUFCの会計責任者もが出席。ランディに支払った小切手や帳簿を公開する異常な事態に。

激震! UFC帝国
USA
COOL宅急便

――PPVボーナスの存在をほのめかしただけってことね。

スコット　ほかのMMAサイトはもっとあからさまにPPVボーナスに触れているところもあったよ！

――わかった。わかったから、ムキになるなよ（笑）。

スコット　とにかく、ランディが会見で「試合後のロッカールームでボーナスとしてチェックが支払われていて、それはUFCの裁量によるもので、ちゃんとした契約書もない」なんてことを暴露したことで、UFCもその対応をせざるをえなくなってしまったわけ。

――へぇ～。でも、ランディが言っている〝ロッカールームのやりとり〟がどこまでホントかどうかわからないけど、そういったビジネスの仕組みをオープンにしちゃうと、マズいんじゃないの？（笑）。

スコット　そうなんだ！　UFCはこうやってギャランティの総額をオープンにしないことで、ほかのプロモーションに選手を引き抜かれないようにしたり、〝入札合戦〟に陥らないようにしてきたわけだからね。ちなみにランディがシルビアと闘った『UFC68』のPPV購入件数は54万件、ガブリエル・ゴンザガと闘った『UFC74』のPPV購入件数は48万5000件で、それぞれランディには93万6000ドル（＝約1億857万円）と78万7000ドル（＝約9129万円）が支払われていることが公表された。ファイトマネーやそのほかのボーナスを加えると、ランディはそれぞれの試合で100万ドル（約1億1600万円）以上稼いでいることが明らかになったわけだ。

――最近、表に出てこなかったPPVの件数もボロっと出てきたわけだね。

スコット　ただ小切手や帳簿という出したくもない〝物証〟を突きつけただけあって、「UFCにうまく利用されて、かわいそう」とランディに同情が集まっていた状況がひっくり返り、メディアもUFC寄りの報道になってきていた。でも、ファンはオクタゴン外の話にいい加減ウンザリしてきている。

――え～、こんなにおもしろいスキャンダルなのに!?　ホント、アメリカのファンは競技としてのMMAにしか興味がないんだなあ。

スコット　だから、これ以上この問題を長引かせたくないためか、UFCはランディに歩み寄る構えも見せている。ダナは以前「『UFC77』でブランドン・ベラに勝ったティム・シルビアとノゲイラで新王者決定戦を行なう」と話していたのに、一転して、ランディにアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラとのタイトル防衛戦のオファーを出すと話している。またロレンゾも「法廷闘争には持ちこむつもりはない」と話しているように、ここらで早めに〝手打ち〟にしたい意向が見えるね。

――は～！　『M-1グローバル』という新たな外敵との競争に加えて、UFCは大きな内紛も抱えているわけだ。ちょっとUFCの動きから目が離せないね。

【07年10月31日／国際電話にて収録】



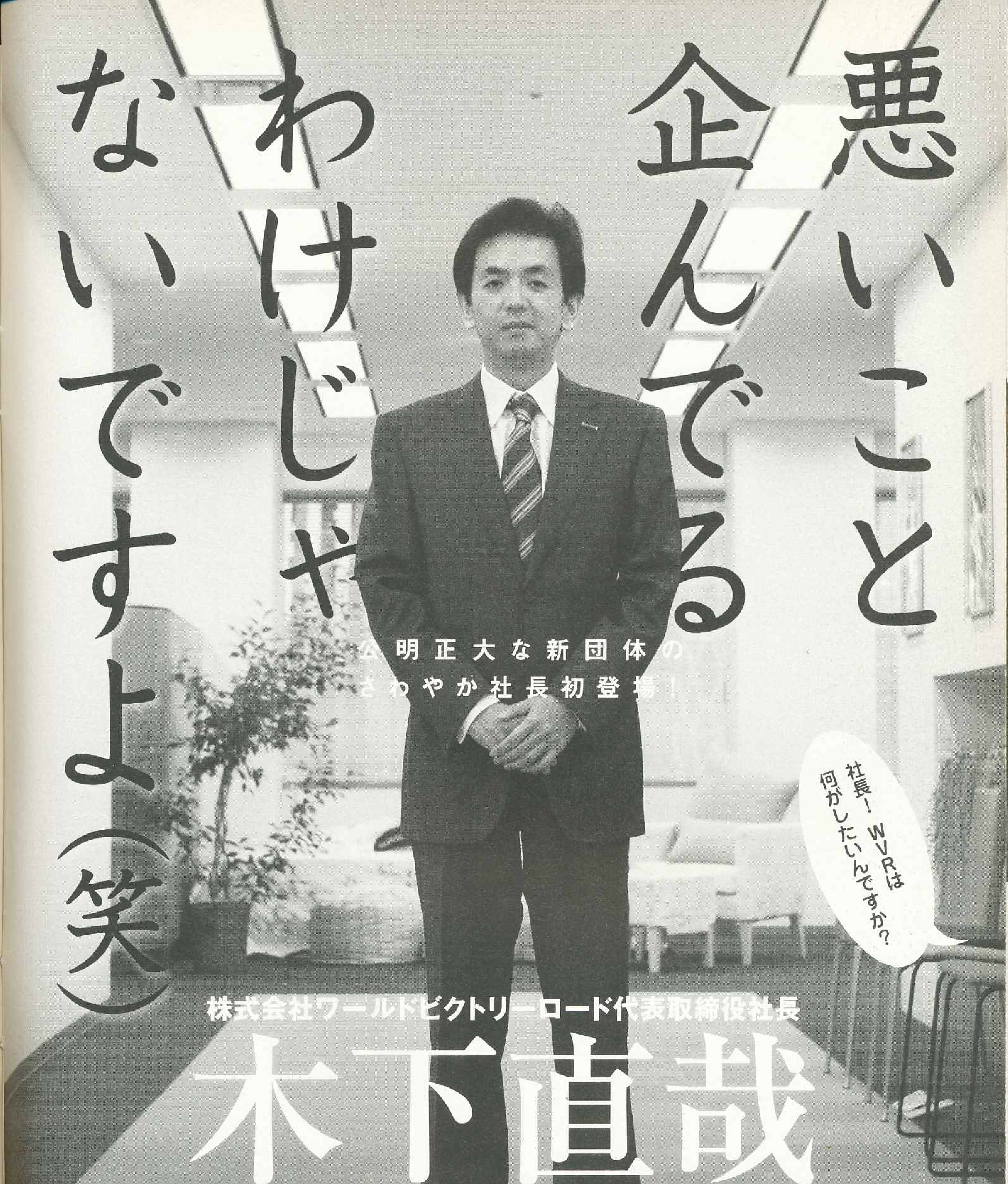
格闘新勢力はワールドでビクトリーなロードを歩めるのか……

ワールドビクトリーロード WORLD VICTORY ROAD とは何か？

15ページ
ぶち抜き
大特集

10月15日に都内ホテルでの会見で大々的に発表されたのが日本総合格闘技協会、コミッション委員会、そして株式会社ワールドビクトリーロードの設立だ。しかしながら、この会見のあとは、公式ホームページ上で大会名を募集するぐらいで、締め切り間際の11月8日現在、会見や発表ごとは何一つされていない。格闘新勢力の主要人物を直撃し、何がやりたいのか聞いてきたぞ、コラッ！

撮影／乾晋也



悪いこと企んでるわけじゃないですよ（笑）

公明正大な新団体の
さわやか社長初登場！

株式会社ワールドビクトリーロード代表取締役社長

木下直哉

INTERVIEW

PRIDE FC WORLD WIDE日本オフィスの全社員解雇が発表された11日後の10月15日に発足した日本総合格闘技協会。その大会運営会社が（株）ワールドビクトリーロードであるが、会見では“公明正大な総合格闘技”というコンセプトこそ明確ながら、具体的な出場選手、大会日時、さらには大会名すら発表されなかったことから、ファン・関係者のあいだからは「いったい何がしたいんだ？」という声が続出してしまった。はたしてワールドビクトリーロードは、どんな経緯で設立され、これから何をしていくのか？　新会社の社長に就任した（株）木下工務店の木下社長に、新団体の“正体”をうかがってみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

ワールドビクトリーロードとは何か？

—今日はワールドビクトリーロードが主催する新団体がどういったビジョンがあり、何がやりたいのかっていうことをうかがいに来ました。

木下　皆さんに言われるんですよね。「いったい何がやりたいんだ？」って（笑）。

—やっぱり言われますか（笑）。『PRIDE』が旗揚げするときもそうでしたけど、格闘技界って〝よそ者〟に対して冷たいというか、閉鎖的な部分がありますからね。

木下　そうみたいですね（笑）。私自身、これまで格闘技界では仕事をしていないので、内部がどうなっているのかがわからないんですよ。ただ、いろいろ携わってる人たちの話を聞いたときに、閉鎖的というか、いろんなものを排除しているのかな、というのは感じますね。あとは利権としてのものが非常に多いかな、と。

—そういった格闘技の世界に、そもそもなぜ参入しようと思ったんですか？　ドン・キホーテの安田（隆夫）会長やレスリング協会の福田（富昭）会長は、以前から『PRIDE』と関係があったからわかるんですけど、木下工務店の木下社長って、どこから出てきたんだろうって、そこが不思議だったんですけど（笑）。

木下　いや、安田会長や福田会長とはもともと知り合いで、ウチはスポンサーにはなっていませんでしたけど、『PRIDE』を一緒に観には行ってたんですよ。

—『PRIDE』観戦仲間だった、と。

木下　やっぱり企業イメージと個人の趣味は違うので、ウチのお客さん層を考えるとフィギュア（スケート）が合ってると思って、冠スポンサーになったりしてたんですけど、自分個人が好きなのは格闘技なんですよね（笑）。

見ぶり手ぶりを交えて、熱心に質問に答えてくれた木下社長。うしろに見えるのは木下グループがスポンサードするフィギュアスケートのポスター。スポーツを愛する人なのだ。



経営者同士が集まると「なかったら作っちゃおう」って発想になるんですよ（笑）

—では今回、一ファンという立場から、あえて企業イメージと違う格闘技の社長を務めようと思ったきっかけはなんだったんですか？

木下　まあ、企業イメージとは違いますが、これをやることで木下工務店のイメージが悪くなることはないと思いますし、今回はとくに透明性を持たせるということに重きを置いているわけじゃないですか。そういうキレイなものであれば、もともと好きなものでもあるし、やってみたいな、ということですよね。

—記者会見では「半年ぐらい前から動き始めた」ということでしたけど……。

木下　そのことについてなんですけど、半年前からイベントを立ち上げようとしていたわけじゃないんですよ。安田会長や福田会長とは、昔からよく『PRIDE』を一緒に観に行ったり、集まって話をしたりしてたんですよ。でも、その話の内容が昔は「今日の試合はどうだった？」とか、ファンと同じような会話だったんですけど、『PRIDE』の状況が悪くなるにしたがって、『PRIDE』の今後や格闘技の今後を危惧するような会話になっていったんです。

—単なるファンの会話から、格闘技界をどうすべきかに変わっていった、と。

木下　そうなんです。『PRIDE』がなくなっちゃったら、せっかくいい選手がたくさんいるのに、どこで闘うんだろう、と。で、経営者同士が集まって話をすると「なかったら作っちゃおう！」っていう発想になるんですよ（笑）。

—ダハハハ！　なるほど（笑）。

木下　その「なかったら作っちゃおう！」という発想が生まれたのが、『PRIDE』が買収されたあとですから、半年弱前ということですよね。でも、最初はUFC（ズッファ）が『PRIDE』を変わらず運営していくっていう話だったんで、「いつかやれたらいいね」くらいの話だったんですけど、『PRIDE』を取り巻く状況がどんどん変わっていったんですよ。

—一向に大会が開かれる気配がなかったり、外国人選手はどんどんUFCと契約しちゃったり。

木下　そうすると、こっちのスピードもどんどん上がっていって、最後は凄くスピードを上げて、記者会見までいった感じですね。

—では、PRIDE FC WORLDWIDE日本支社の全社員解雇後、一気に具体化していった感じですか？

木下　あのタイミングを狙ってたわけじゃないんですけど、きっかけにはなりましたね。格闘技界のためにも、一日でも早く記者会見を行なって、こういう動きがあることを知らせなきゃいけないと思いましたから。

—では、ある種、見切り発車な部分もあったんですか？

木下　確かに準備万端とは言えませんけど、『PRIDE』の行く末を危惧している最中に準備は進めていましたので、見切り発車ではあったかもしれないけれど、かなり確固たる自信のある見切り発車かもしれないですね。みんな総論がOKなわけですから。あとは各論をちょっと詰めなきゃいけないだけですからね。

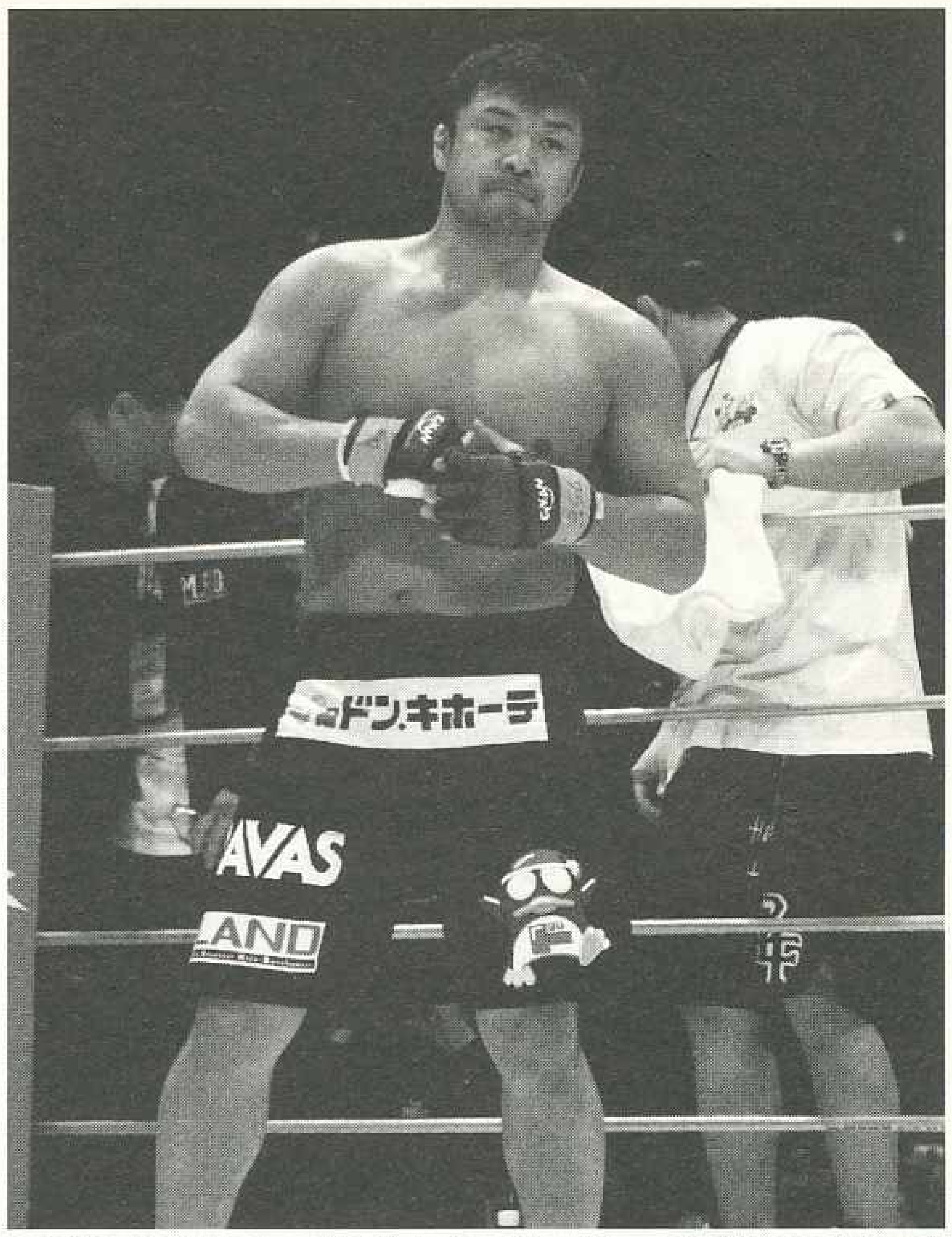
—選手っていう部分でいうと、もともとドン・キホーテさんとの関係から吉田道場とは、夏前から、当然今回のプランについて話をしていたんですか？

木下　（闘う）場がないですよね、という話はしていました。そういう待ってる人がいるなら、それを誰かが作らなきゃいけないんじゃないかというね。

—では、正式に新イベント旗揚げが決まったいま、もちろん吉田選手とは前向きに話をしているわけですか？

木下　吉田選手とは話をしています。でも、吉田選手だけでなく、いろんな選手と話をしているんですよ。昨日、福田会長とも話したんですけど、上がる可能性がある選手にはだいたい話はいってますね。元『PRIDE』の選手や外国人選手。それから総合でデビューしてなくても、福田会長のルートで、ロシアのアマチュアレスラーとか、もの凄く強い選手がいますし、そういうのを普通に連れてきたりもしますから。

旧DSEスタッフとの協力関係は向こうも望んでいると思います



そのトランクスを見ても一目瞭然なように、ドン・キホーテとの結びつきが強い吉田秀彦。やはり新団体のエースはこの男か？ 新団体の出場選手発表会見が待たれる。

――普通に（笑）。

木下 だから、けっこうおもしろいカードになると思いますよ。

――あとは、運営母体と選手だけでなく、イベント制作の人材も必要だと思うんですけど。

木下 それは外部委託しますから、問題ありません。そもそもイベントってそんなに難しくないですからね。ウチも本業の木下工務店では、フィギュアスケートや、ブルーマングループというショーをウチの冠でやってたり、映画も一緒に作ってたりしてるんですよ。なので、ものを作って、人を集めて、それを手配してっていう、裏方の仕事は慣れてますから、その点については心配してません。スタッフも集まってきているし、あとは外注にしますので、そこはまったくもって問題ないですね。

――その外注の中に『PRIDE』を制作していたチームに発注したりすることも、ありえますか？

木下 そうですね。まあ、そのときに応じてですけど、取引先の一つとしてはいいと思いますね。

――現時点ですでに話をしていたりするんですか？

木下 具体的に「○月○日の大会で、こういう仕事をしてください」という話はしていませんが、接触はしています。これはね、向こうも望んでいることだと思います。というか、向こうがウチの出方を凄く気にしてるんですよ。

――気にしてますか（笑）。

木下 だってボクら不気味じゃないですか（笑）。

――ダハハハ！ 不気味（笑）。確かに関係者にとっても、そしてファンから見ても、期待感とともに、何をしてくるんだっていう、警戒心、猜疑心みたいなものはありますね。

木下 でもね、最初はそれがいいと思うんですよ。やっぱり全部見せちゃダメ！ ちょっとずつですよ。

――では、ワールドビクトリーロードはすでにビジネスとして成立するメドがついているわけですね。

木下 それはそうなんですけど、我々にとっては、ビジネスとして成り立つかというのは、ある意味で二の次なんですよね。

――二の次ですか。

木下 お金儲けだけを考えるならば、本業をやってますよ。我々は業績が悪くて、格闘技に手を出したわけじゃありませんから。単純におもしろい試合が観たいんですよ。そして、おもしろい試合を見せてくれる舞台がなくなったから、自分たちでやってみたいんです。それが一番。次に選手に対して手厚い保護をするためには、会社として成り立たなきゃいけないんですよ。これが二番ですね。そして三番目が金儲けです。ほかの団体は金儲けが上にいっちゃうんですよね。でも、ウチにとって、儲かる、儲からないはプライオリティとしては、凄くうしろのほうなんです。なぜなら、我々はほかの会社、本業で成り立ってますから。そこが大きな違いです。

――確かにワールドビクトリーロードが、木下グループのおもな収入源にはなりませんよね（笑）。

木下 ならないどころか、現時点ではまだ収入ゼロですから（笑）。みんな手弁当のボランティア状態ですからね。だから、とにかく楽しいものを作りたいんです。そして具体的にどんなものにするのかというのは、徐々に明らかにしていきます。

――では、べつに何か企んでるわけじゃない、と（笑）。

木下 そんな悪いことは考えてませんよ（笑）。だって我々はもっと守るべき大きな会社がありますから。福田会長だって来年、北京オリンピックの監督ですからね。本来は総合格闘技をやってる場合じゃないんです。でも、我々がそこをあえてやるのは、この格闘技が好きだからですよ。盛り上げたいだけなんです。そんな悪いことしません！（ニッコリ）。

――第一回のイベントはいつ頃になりそうですか？

木下 会場はすでにいくつか押さえているんですよ。でも、現実的には春先ぐらいですかね。

――ボクらがつかんだ情報では、2月が有力ということなんですけど。

木下 よく知ってますね。2月も押さえてます（アッサリ）。

――あ、ビンゴでしたか（笑）。

木下 ただ、2月だけじゃなく、3月も4月も押さえてるんですよ。ですから、2～4月のあいだで、準備が整い次第やりたい、と。最初はコケたくないですから、焦らずしっかりとしたイベントにしたいと思ってます。

――大会名はどうなりそうですか？

木下 いま募集してるんですけど、現時点で応募は7000を超えましたね。こちらは決まり次第、発表したいと思います。

――いやぁ、こちらとしても早く大会名が決まってもらわないと、ワールドビクトリーロードって、長いし、略しにくくて困ってるんですよ（笑）。

木下 ハハハハハ。すいません（笑）。大会名は早急に決めたいと思いますね。そしてカードや出場選手なども、随時発表していきたいと思いますので、期待してください。

――では最後に、格闘技ファンである木下社長がいま一番観たいカードってなんですか？

木下 う～ん、その観たいカードがウチがやりたいカードなので、記者会見をお待ちください（笑）。

――わかりました（笑）。では、正式発表に期待してます！

【07年10月26日／西新宿・木下工務店本社にて収録】



きのした・なおや■1966年11月16日生まれ。90年に（株）エム・シー・コーポレーション（現・株式会社キノシタ・マネージメント）の社長に就任。その後、（株）エム・シー、（株）木下工務店、（株）キノシタライフ、（株）キノシタホールディングス、（株）東京住宅の代表取締役に就任（以上すべて現任）。今年、（株）ワールドビクトリーロード代表取締役、日本総合格闘技協会副理事長に就任した。



FEGも公明正大な協会に登録してください!!

会長！　谷川さんがラブコールしていますが？

“吉田vs秋山”実現のカギは
この男が握っている!?

日本総合格闘技協会会長

福田富昭

INTERVIEW

ワールドビクトリーロードとは何か？

07年10月、“PRIDE消滅”直後、日本総合格闘技の発展のため日本総合格闘技協会が発足！その会長に日本レスリング協会会長であり、国際レスリング連盟（FILA）副会長でもある福田富昭氏が就任した。発足会見では具体的な発表はなかったものの、“公明正大”な格闘技界を目指すという福田会長を直撃！　団体の垣根にとらわれない、そのビジョンを語ってもらった。

聞き手／橋本宗洋　撮影&構成／上杉コミッショナー

――これまで、レスリング界は格闘技界と積極的に関わってこられたわけですが、今回はさらに踏み込んだ挑戦になりますね。

福田　やはり大きいのは、UFCが『PRIDE』を買収して、興行をやらなくなったことですよ。『PRIDE』は、室内競技ではどのスポーツよりもファンを集めていたわけですからね。5万人も集める競技なんて、ほかにないわけですよ。それだけファンのいるものをね、なくしてしまうわけにはいかない。選手もたくさんいるわけだし、『PRIDE』を引き継ぐ受け皿が必要だろう、と。

――既存の団体との協力、提携ではなく協会の立ち上げを選択したのは、どうしてですか？

福田　団体だと、浮き沈みがあるんですよ。〝こっちが浮かんだら向こうは沈んで〟ということの繰り返しではしょうがないんでね。それを避けるためには、全体を統括する協会が必要だろう、と。協会があることで、団体の浮き沈みを避けるリスクヘッジになるから。

――確かに、業界を統括する組織の必要性は以前から叫ばれていたんですけど、実現はしてないですね。

福田　やっぱり、格闘技の選手っていうのは個性が強いからねぇ。なかなかまとまるもんじゃないんですよ。だから、レスリング界が動かなきゃいけないんですよ。総合格闘技って、レスリング出身者が本当に多いでしょ。団体が分かれてはいても根っこは一緒なんだから。レスリング界が動けば、うまくまとまれるんですよ。また格闘技団体もね、会社なわけだから利害が生じてくる。だけど我々のような協会があれば、利害に関係なく大同団結できると思いますよ。

――目指すのは〝一般スポーツ化〟なわけですよね。一般紙に掲載され、NHKのスポーツニュースで報道され、オリンピック競技になるという。

福田　それを目指すのがなぜかといったら、真剣勝負だからですよ。スポーツというのは、真剣勝負の中で気力、体力を尽くすもの。そういう意味では、総合格闘技だってまぎれもないスポーツなんだから。

――真剣勝負である以上、オリンピック競技を目指さない理由はない、というか。

福田　ただ、オリンピック競技になるためには、多少ルールを変える必要が出てくるでしょうね。

――それは会見でもおっしゃってましたね。『PRIDE』とも『HERO'S』とも違うルールにする、と。

福田　オリンピック・スポーツとして考えた場合、サッカーボールキックや踏みつけ、ヒジは危険なんですよ。普通の蹴りにしてもね、オリンピックにはテコンドーがあるけど、防具を着けるでしょう。そのへんで、総合格闘技がどこまで受け入れられるかが問題になってくる。

――場合によっては、総合格闘技協会認定のルールはプロテクター着用になるかもしれない、と……。

福田　そうはいっても、一方でプロとしての魅せるスリルもありますからね。実際にやってみて、大衆がどこまで受け入れるか、世界的にどこまで普及するか。そのへんを探りながらやっていく必要があるでしょう。机上のプランだけで決められるものじゃないから、こういうことは。2、3年で答えが出るものじゃないと思いますよ。女子レスリングだってね、始まってからオリンピックまで20年かかってるんですから。

――それくらいの長いスパンで、正解を導き出していこう、と。

福田　そう。まずは継続することが大事でしょうね。

――協会の立ち上げにあたって、コンプライアンス、経営面での透明性の問題も非常に意識されてるな、というのを感じましたが。

福田　公明正大であることというのは、本当に大事でね。会社を作るというときに、誰もが思うのは「そのお金はどこから出てきたの？」ってことでしょう。わけのわからない、へんなお金が入ってきてるんじゃあ、問題があるから。その点で、我々は木下工務店とかドン・キホーテという上場企業のお金で動いてますから。〝闇の金〟っていうのは一つもなくて、非常に公明正大なわけですよ。

――そうですか。

福田　お金の面だけじゃなくて、社会通念とか道徳上の問題に関しても、協会がしっかりコントロールしなければいけない。それが野放しになっているから、いろいろと問題が出てくるわけでね。

――そのへんも公明正大に、と。まさにいま、いろんなジャンルで問題が出てきてますからね。

福田　コントロールする機関がないと、そうなってしまうんですよ。亀田問題だってそうでね。以前から、スポーツ界では「ああいう態度はどうしたものか」っていう意見があったわけだから。それが一つの事件をきっかけに噴出して、いまは世間も認めてないわけでしょう。結局、世間で認められなかったらスポーツとしての普及もないんだから。

――そういう意味で、亀田家に批判的だった具志堅さんが協会の役員に名を連ねているのは象徴的ですよね。

福田　具志堅さんはね、じつはもう外れたんですよ。

――え！　役員じゃなくなったんですか？

福田　具志堅さんは東日本ボクシング協会の役員でもあって、そこの規定で兼務はしちゃいけない、と。そのことは本人も我々も知らなくてね。でも、わかった以上は外れていただくのが筋道だから。そのへんをね、ま

福田会長の

華麗なる団体交流遍歴



PRIDE視察！

04年大晦日、『PRIDE男祭り』のリングにFILAのラファエル・マルティニティ会長とともに上がった福田会長。『PRIDE』にレスリングの日本王者や世界王者を出すと言い切ったが、このあと、レスリング協会経由でリングに上がったのは、『PRIDE.29』で田村に金的を蹴られて悶絶したアリエフ・マックモドだった。



IWGP実行委員に！

かつてレスリングの指導を施した草間政一氏が新日本の社長に就任したことから、IWGP実行委員会の委員になったこともある福田氏。05年7月には、日本レスリング協会のビーチレスリング大会に新日本の選手が参加。当時FILAは『PRIDE』と提携していたが、福田会長は「支障はない」と全方位外交宣言。

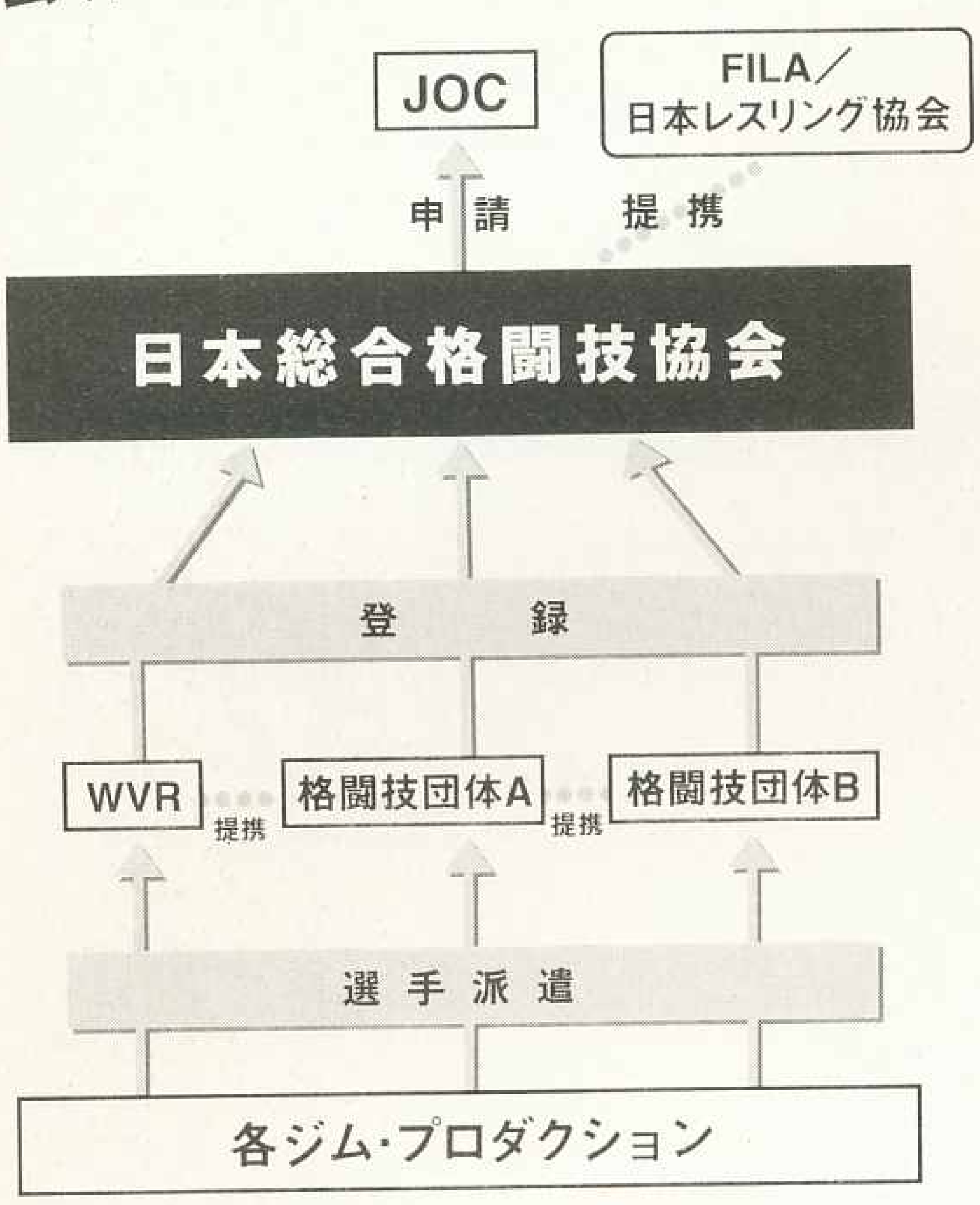


KIDがレスリングに復帰！

「やり残したことがある！」と北京五輪出場を目指すべく、レスリングへの復帰を希望した山本KID徳郁に対して、レスリング界に刺激を与えたかったという福田会長は、二つ返事でOK！ そのKIDが参戦した07年1月の天皇杯全日本選手権は、日本テレビで中継されるなど、世間の注目を集めた。

我々は上場企業のお金で動いてますから“闇の金”というのは一つもないんですよ

これが協会が理想とする公明正大な格闘技業界図だ!!



さに公明正大にやっていこうというのがこの協会なんですよ。

――そうですか。では、柔道などほかの競技との付き合い方はどうなっていきそうですか？

福田　柔道に関してはね、参加できないっていうのが最初からわかってますから。総合格闘技協会に入るためには、全柔連を辞める必要がある。そういう選手を受け入れるために、協会で団体登録だけじゃなく個人登録も受け付けようと思ってます。窓口は開けておかないといけないから。

――団結を求めるというより、〝来る者は拒まず〟という姿勢で。

福田　相手のスタンスを崩させて、軋轢を生んでまで……っていう気は、こちらにはないですから。

――それから、既存の総合格闘技団体との関係も気になるところなんですけども……。

福田　各団体とのうまい提携の仕方を考えていきますよ。ワールドビクトリーロード（WVR）とほかの団体が、選手の貸し借りとか、いい関係を築いていければいいんでね。そう問題は起こらないと思いますよ。

――図式でいうと、協会が加盟団体を統括していくというかたちになるわけですよね。

福田　そう。協会があって、その下にWVRなり、たとえば『HERO'S』なりパンクラスなりの団体があってね。さらにその下に、いろいろなジムやチーム、プロダクションがある、と。そういう縦のつながりだけじゃなくて、選手の貸し借りとか団体間の横のつながりも出てくるし。その一方で、協会としてFILAやJOC（日本オリンピック委員会）に加盟したり、日本レスリング協会と提携する。協会が直接、大会を開くこともあるでしょうね。そういう大会には、各団体から選手が集まってくる、と。

――まさに総合格闘技界の一本化ですよね。

福田　海外の選手もね、協会で呼ぶかたちにすればいいと思いますよ。団体がそれぞれに呼ぶとね、ゴチャゴチャするでしょ。あっちに行ったりこっちに出たりで。

――それが引き抜き問題とか、ファイトマネーの高騰につながってますからね。

福田　そういうことも、協会が呼べば解決できるんですよ。

――FEGの谷川さんは「協会と敵対するつもりはない」とコメントしてますが、それぞれの団体と具体的な話し合いは進んでるんですか？

福田　水面下ではね、話がいろいろ出てきてますよ。正式にどういうかたちになるかはまだわからないけど、決まったら必ず発表しますから。我々のスタンスとしては、やはり〝窓口は開ておきますので、どうぞ〟と。「我々は自分たちだけでやっていく」という団体があれば、それはそれでいいですしね。

――じつは、『HERO'S』韓国大会のあとに、谷川さんが秋山成勲vs吉田秀彦戦をやりたいとコメントしてるんですよ。吉田選手はドン・キホーテとのつながりからWVR参加が濃厚視されてるんですが、このへんの関係はどうなりそうですか？

福田　これから、いろいろ話し合いがされていくんじゃないですか。「吉田選手がWVRに参加した場合、吉田を出すかわりに、WVRにも『HERO'S』の選手を貸してください」であるとかね。そのへんはうまく交渉して、いい提携関係ができればいいと思いますよ。

――もし吉田選手がWVRに参加して、その上で『Dynamite!!』に出るとしたら、協会はどう関わるかたちになるんでしょう？

福田　もし、その試合をやるんなら、FEGも協会に団体登録してください、ということになりますね。

――協会加盟団体が、非加盟団体と提携するのもおかしな話ですもんね（笑）。となると、吉田vs秋山戦実現のカギは協会が握っているということでよろしいんでしょうか。

福田　そのへんはね、まとまりつつあるというか、ま、それこそ、これからの話し合いですよ。

――それから、旧DSEスタッフによる新団体設立の噂も根強いですが、そこととの関係は……？

福田　自分はまだ、正式な話し合いはしてないんですけどね。スタッフが水面下で動いてると思いますよ。そこで話がまとまれば、加盟してくることになるでしょう。

――いま、格闘技界には〝○○系〟みたいな分け方がありますよね。K-1系とか旧PRIDE系とか。協会の理想としては、そういった区分けをなくしていこう、と。

福田　さっきも言ったように、無理に入ってもらおうとはしませんけどね。ただ、協会に加盟するかどうかで、その団体の姿勢がはっきりするという面は出てくるでしょうね。協会に加盟して大きなつながりを持つのかどうか。公明正大な団体運営を目指すのかどうか、というね。協会に入るためには、当然その団体も公明正大でなければいけないわけだから。その団体がどういう姿勢のものなのか、協会に加盟するかどうかでわかってくるんじゃないですか。

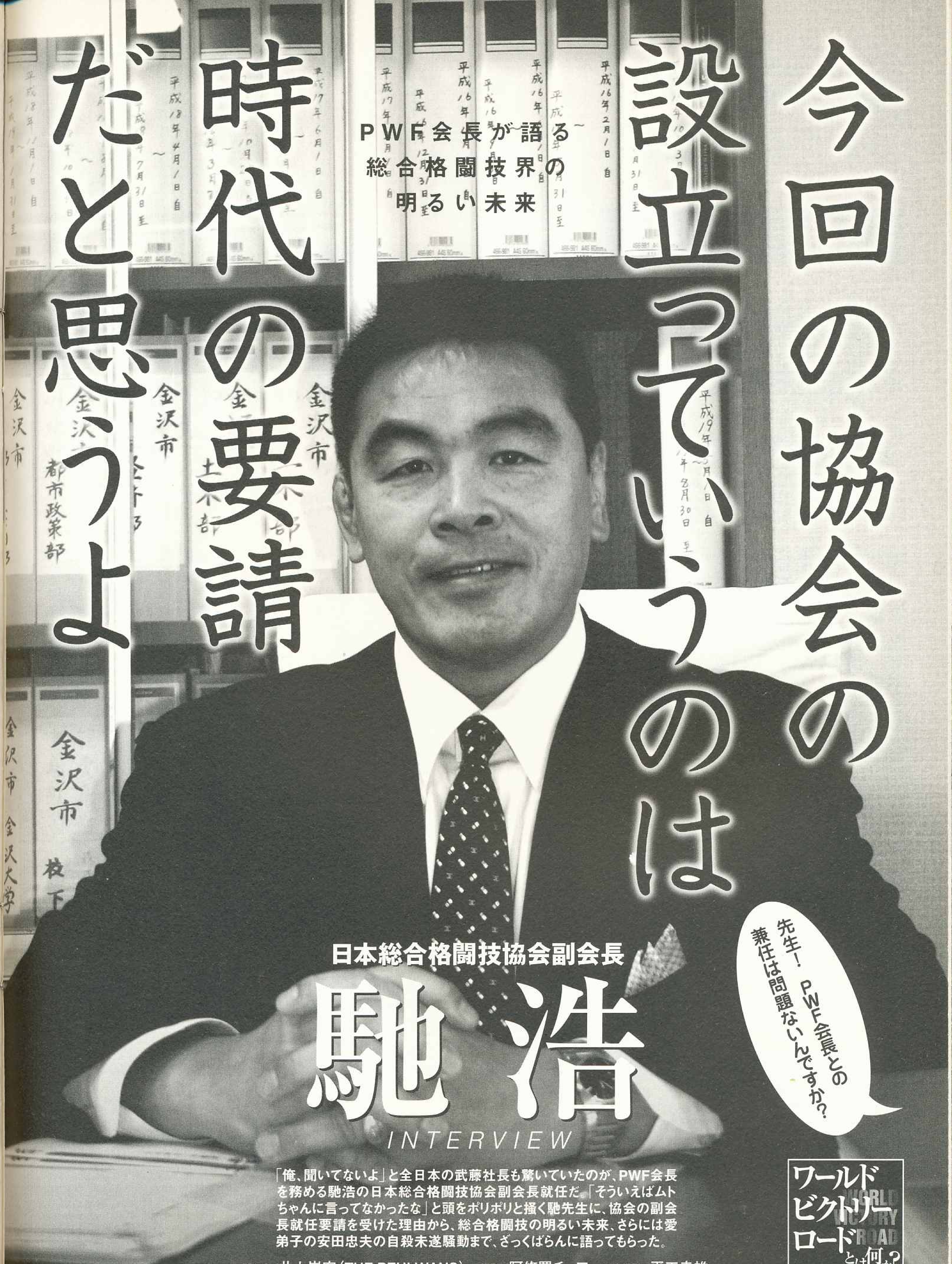
【07年10月29日／麹町・UHIシステムズ株式会社にて収録】

このように、〝ポスト・PRIDE〟時代の日本総合格闘技について、公明正大な理想を熱く語ってくれた福田会長。しかし、現在のところ、まだWVR以外で協会に加盟する団体は現われていない。はたして、福田会長の理想は実現するのだろうか。



ふくだ・とみあき■1941年12月29日、東京都出身。65年のレスリング世界選手権フリースタイル・バンダム級で優勝。現役引退後は指導者となり、84年のロス五輪ではフリースタイル監督を務めた。03年日本レスリング協会会長に就任。07年10月、日本総合格闘技協会の発足とともに会長に就任。また、FILAの副会長でもある。

ワールドビクトリーロードとは何か?
WORLD VICTORY ROAD



今回の協会の設立っていうのは時代の要請だと思うよ

PWF会長が語る
総合格闘技界の
明るい未来

先生！ PWF会長との兼任は問題ないんですか？

日本総合格闘技協会副会長

馳浩

INTERVIEW

ワールドビクトリーロードとは何か？
WORLD VICTORY ROAD

「俺、聞いてないよ」と全日本の武藤社長も驚いていたのが、PWF会長を務める馳浩の日本総合格闘技協会副会長就任だ。「そういえばムトちゃんに言ってなかったな」と頭をポリポリと掻く馳先生に、協会の副会長就任要請を受けた理由から、総合格闘技の明るい未来、さらには愛弟子の安田忠夫の自殺未遂騒動まで、ざっくばらんに語ってもらった。

聞き手／井上崇宏（THE PEHLWANS）　撮影／阿修羅チョロ　試合撮影／平工幸雄

――馳先生！　今日はよろしくお願いします。
馳　おう、なんでも聞いてくれ。
――はい。まずはちょっと整理をしたいんですが、馳先生は現在、何種類の肩書きをお持ちなんですか？
馳　え～っと衆議院議員だろ、そして専修大学のレスリング部監督、日本レスリング協会の常任理事。それとこないだ、なりたての日本総合格闘技協会の副会長、……そして怪しいＰＷＦ会長だな（笑）。
――あ、ご自分でも怪しいという自覚があるわけですね（笑）。
馳　俺、ムトちゃんのことが好きだからさあ。
――武藤敬司のことが好きだから、要請をされて快諾をした、と。
馳　快諾だね。ホント、ムトちゃんには選手を紹介したりもしながら、できるだけの応援をしたいんだよ。まあ、いままで自分がお世話になった業界だから恩返しをするのはあたりまえだよな。
――なるほど。で、今回そのプロレス業界から自殺未遂者が出てしまったわけですけど（笑）。かつてデビュー戦で馳先生が胸をお貸しになった男ですよね。
馳　いやあ、俺は、いまこそ安田の時代だと思うね！（笑）。
――馳先生もそんな抗いようのない時代の空気を、永田町から嗅ぎとっていましたか（笑）。いまのプロレスに〝自殺未遂者の社会復帰〟以上のリアリティがあるアングルなんて存在しませんからね。
馳　安田のようなどうしようもないヤツだって、大事な一つの命なんだよな。世の中にはいろんな人がいるんだって。安田の場合はな、これからもずっと闘い続けて借金を払い続ける、と。そしてまた元気になったらやっぱりバクチにうつつを抜かす、と（笑）。その繰り返しだよ。



日本総合格闘技協会の会長に就任した福田富昭氏とは、レスリングを通じ、長い付き合いの馳。福田氏が会長を務める日本レスリング協会での馳の肩書きは財務・事業委員長。財務・事業委員会の委員にはノアの三沢光晴、新日本の永田裕志の名前も。

――これはもう死ぬまでバクチを打ち続けなきゃダメですか。本人はこれを機にカウンセリングを受けて、ギャンブルからは足を洗うつもりだそうですけど。
馳　絶対無理!!（キッパリ）。べつに、いまの自分のまんまでね、いいんじゃないの？
――素顔のままのキミでいて（笑）。
馳　今回の一件だって、なんかいつもどおりの生活をしてたらこんなことになっちゃったってだけの話でさ。まったく、どうしようもないですなあ（笑）。
――そんな、嬉しそうに（笑）。ちなみに亀田問題についてはどうお感じになりました？　こちらもある意味、素顔を晒しちゃったわけですけど。
馳　亀田な。う～ん、やっぱりマスコミも悪いわな。なんとなく朝青龍問題とか時津風部屋問題とか、あるいは安倍晋三問題とかも全部似通った空気を感じるんだけどさ、それってマスコミのちょっと嫌らしい空気だよね。俺はさ、マスコミっていうのは、〝黒〟と〝白〟の両方を盛り上げるのがマスコミの仕事だと思っているわけだ。いいときだけは〝白〟で、そうじゃないときはここぞとばかり一斉に〝黒〟っていう持っていき方は仕事としてどうなのかなって思って俺は見てたけど。

安田？　元気になったら、またバクチにうつつを抜かすだろうな（笑）

――「おまえらはどんな立派な人生を送ってんだ？」と思いますよね。もちろん自戒の意味を込めてですけど（笑）。なんか、マスコミに限らず日本全体がそういう風潮になってきてますよね。
馳　なってるね。ヒステリックっぽくなってきてるよな。ちょっとこういう世の中がおかしなときこそ、『ｋａｍｉｐｒｏ』の出番じゃないかなって俺は思うけどな！（ニヤリ）。
――ぷぷぷっ。編集部の人間は誰もスタンバイしてないと思いますよ（笑）。
馳　アングルっていうのはさ、やっぱり〝表のアングル〟と〝裏のアングル〟っていうのがあるんだから。みんな〝表のアングル〟に踊らされちゃってるよね。
――馳先生、暮らしやすい日本にしてください（笑）。
馳　なんだよ、急に（笑）。
――ひそかに馳先生の文部科学省大臣就任を期待してるんですけどねぇ。
馳　大臣になる可能性っていうのはこれからもあるわけだから、まっ、頑張りますよ！
――というわけで今回、文科省大臣より先に日本総合格闘協会の副会長に就任という運びになりましたが。
馳　そんなわけですよ（笑）。
――これもやっぱり福田会長のことが好きだからですね？（笑）。
馳　まぁ、適材適所だよな。
――なんでも当初、この協会の理事に名を連ねていた具志堅用高さんはもともと東日本ボクシング協会の副会長も務めていらっしゃったようで、そのボクシング協会の規定で兼務がＮＧということで外れたみたいですね。馳先生はＰＷＦ会長との兼務ということで、ＰＷＦの規定では問題はないんでしょうか？
馳　問題があるわけないだろ！（笑）。
――それは安心しました。あ、ついでにお聞きしますが、現・文科省副大臣の松浪健四郎さんがコミッション委員会の副委員長に就任しているのは、これはマズくはないんですか？
馳　ん？　全然マズくないです。なんでマズいのかな？
――そもそもＪＯＣ（日本オリンピック委員会）は文科省の傘下であり、レスリング協会はそのまたＪＯＣの傘下にあたるということで、文科省の副大臣が民間の一組織に名を連ねているのは問題なんじゃないかと、かの谷津嘉章さんが懸念をされているらしいんですよ（笑）。
馳　谷津さんらしいマトモなことを言ってるなあ（笑）。率直に言うと、直接的な利害関係を行使するような関係になった場合には役職が停止になるのはあたりまえだよな？　ただそれだけの話ですね。直接的な利害関係ではない以上、気にすることじ

総合はあんまり好きじゃない。俺は生粋のプロレスラーだから！

ゃないです。

——なるほど。それではこちらも率直におうかがいしますが、福田会長が好きということ以外に、利害関係が行使されない協会の副会長就任の要請を受けたほかの理由を教えてください。

馳　じゃあまじめに話をしていい？

——はい、谷津さんばりにお願いします（笑）。

馳　（急にまじめな表情になり）あの～、アマチュアレスリング界もですね、ついに本格的にプロレスとか総合格闘技といった分野に積極的に乗り出して、選手の支援をする段階にきたんじゃないかということです。そういう時代の要請もありますし、そもそも八田（一朗）会長の頃からですね、「レスリングにプロもアマも関係ないよ」という精神できていますよね。我々はその〝八田精神〟を受け継いでいて、そのタイミングがね、いまが一番いい時期じゃないかと思ったわけです。選手の発掘、育成、養成、そして興行の開催などを含めてですね、その〝八田精神〟というものを具現化させていく段階にきたんじゃないかな、と。たまたまそのとき、私がこういう立場にいるので、「協力しますよ」と。こういうわけです。

——つまり、日本総合格闘技協会の理念の根本には〝八田精神〟があるというわけですか。あの～先生、できればさっきまでのようなフランクな口調でお願いします（笑）。

馳　そういうこと。今回『PRIDE』が消滅したことで、やっぱり総合格闘技のファンの皆さんのね、行き場がない。選手も行き場がない。それを作る側も行き場がない。『『PRIDE』がなぜ崩壊していったのか？』っていう部分は、やっぱり資金面とか運営面の一部に不透明な部分があったことが要因になってますから。やっぱりコンプライアンス……、コミッショナーは元警視総監の井上（幸彦）さんだったかな？　そういったコンプライアンスの部分をどっから突つかれても、誰がスポンサーになっても安心して参加できるような母体にしようじゃないかっていうことだよね。

——いわゆる〝公明正大〟な協会や委員会作りっていうことですね。

馳　そう。だから、いまがいいタイミングっていうか時代の要請だよな。

——馳先生はこれまで『PRIDE』とか『HERO'S』などの総合のイベントはテレビなどでご覧になってたんですか？

馳　いや、そんなには観てない。会場に行ったことも一度もないし、テレビで何回か観たことがある程度だね。

——総合はそもそも馳先生の嗜好としてはいかがなんですか？

馳　好みから言ったら、あんまり好きじゃないね。まあそれは俺がたまたま生粋のプロレスラーだから「好きじゃない」っていうのはあくまで個



10.18全日本プロレス代々木大会で行なわれた中嶋勝彦とシルバー・キングの世界ジュニアタイトルマッチはキングの足がロープにかかったままレフェリーが3カウント。納得のいかない双方からのアピールもあり延長戦に突入するも、結局、両者KOの不完全決着に。ブーイングが飛び交う中、リングに上がった馳浩PWF会長は近日中に再戦を行なうことを発表した。

協会として、選手の居場所を準備するのが我々の役割だと思ってます

人的な考えだけどね。だから専修大学レスリング部の監督として言えば、ウチの部には総合にきわめて興味を持っている人間がいっぱいいるよ。「自分もやってみたいです」っていう連中がね。

――しかし、馳先生は橋渡しというか仲介業が非常にお得意ですから、こういった役職はまさに適任なんですよね。今年6月の『Dynamite!! USA』でも谷川さんに頼まれてチェ・ホンマンが出場できるようにカリフォルニア州知事のアーノルド・シュワルツェネッガーに手紙を書いたそうですね。

馳　うん、紹介状っていうか要請状をね。医者の診断を受けてもいたし、いままでの興行にも問題なく参加してたわけだから「選手としてリングに上がることに問題はないので、リングに上がらせてやってほしい」と。でも最終的にはアメリカのコミッショナーの判断だから、その判断が下されたなら従わなきゃいけないけども、外交上のルートを使ってできるだけ上がれるようにしてやるのも我々の務めだから。だから、当時外務大臣だった麻生（太郎）さんもずいぶん動いてくれたんですよ。

――今回、その谷川さんは「協会とは敵対するつもりはない」と言ってますけど、そのあたりはやっぱりうまくお付き合いをしていくおつもりなんですか？

馳　まあ、K―1関係者とも、ちょっと話をしてるんですけどね。「お互いに協力をし合いましょう」というふうな話をしてますから。

――えっ、すでに馳副会長自ら、お話をされてるわけですか？

馳　ええ、直接。

――さすがですねえ。先生以外の協会役員の名を見てますと、（株）ドン・キホーテの安田会長っていう方は、もの凄く総合格闘技に対して熱い人みたいですね。

馳　安田さんもそうだし、木下（直哉）さんもそう。福田会長自体がね、八田学校の直弟子にあたるわけだから、そりゃあもう熱いよね。で、私が孫弟子だから。

――福田会長はこれまでもパンクラチオンであったりアブダビコンバットに関わったりといろんなことにチャレンジされている方ですけど、それもすべて〝八田精神〟という一言に集約されるわけですか？

馳　そうですね。我々アマチュアの世界の人間がこうやってね、アマチュアの選手の受け皿を作っていくっていうのは大事なんじゃないですか？　さっきも言ったように、ウチの大学にも「なんでレスリングを始めたの？」って聞いたら「総合格闘技に憧れて」とかっていう答えが増えてきましたからね。以前は「プロレスが好きでしたから」とか「柔道をやってましたから」っていうのが多かったんですけども、いまはやっぱり総合格闘技。実際ウチのOB、あるいは現役の選手でも近くに田村（潔司）選手の道場があるんで顔を出したりしてますよね。

――あっ、U―FILE CAMPと専大レスリング部は交流があるんですか。

馳　うん、田村選手もまじめな人だよね。生田にある専修大学の道場が彼のジムから1キロ圏内という近場にあるから顔を出してくれるときもあるからね。

――田村選手は専大で練習もしてるんですか？

馳　練習に来てくれることもあります。日体大のほうにも行ってるみたいですけどね。そういう意味ではプロとアマでこういった交流ができていいじゃないですか。

――話は少し戻りますが、福田会長はパンクラチオンルールをオリンピックの正式種目にしたいという夢のほかに、これを機に総合の選手がオリンピックに出場できる環境を作りたいとお考えのようですね。馳先生から見て、これらの野望の実現の可能性っていうのは本当にあるんでしょうか？

馳　当然ですよ。パンクラチオンというルールのもとで総合格闘技の選手の中から参加できる、あるいは準備がある選手がいるならば、充分イケるんじゃないですか？

――ははあ、やはりJOCの常務理事や国際レスリング連盟副会長という要職に就く人の構想なだけに、決して絵空事ではないわけですね。

馳　可能性を作り続けていくんですよね。いまは小さな穴をこじ開けている作業をしてるんです。たとえば、もともとはレスリングだって下半身を使うことができないグレコしかなかったわけですよ。古代ギリシャ、ローマスタイルのグレコローマンスタイルね。そこにのちにイギリスで起こった、全身を用いることができるルールのいわゆるフリースタイルというかたちも出てきたんです。だから、いまはその中にね、「サンボが入ってもいいんじゃないですか？」とか「パンクラチオンが入ってもいいんじゃないですか？」と。そうすると、ま、総合格闘技というかたちでいえば、パンクラチオンルールになるわけですけど、「総合の選手がそれに参加してもいいんじゃないですか？」と。

――なるほどぉ。いまのご説明は凄くわかりやすかったですよ。しかも、すぐにでも実現しそうな気がしてきました（笑）。

馳　だから世界の民族格闘技としてもですね、その要素を含んだ種目としてパンクラチオンルールが入ってもまったくおかしくはないんです！

――わかりました！　こんなに聡明な馳先生ですが、協会の運営だけでなく興行にも関わったりはしないんですか？

馳　基本的に俺が資本金を出すわけじゃないから（笑）、興行に関わるっていうのは全然ない。組織としてキチッとするものにしていくための貢献ができればなっていうね。ホント、それだけだよ。

――統括本部長的な立場としての馳先生の勇姿も見てみたい気がしますけど（笑）。それでは最後に協会副会長として格闘技ファンの皆さんにメッセージをお願いします！

馳　はい。これはまじめにですね、選手の居場所を準備するのが我々の役割だと思ってるんですね。とにかく選手の居場所作り！　これを用意するために私は一生懸命裏方をやります！　以上！

――それとついでにPWF会長としてもプロレスファンにも一言ください（笑）。

馳　あのね、言っておくけど俺はプロレスが一番好き！　PWF会長の仕事も一生懸命やります！

――頑張ってください！（笑）。

馳　あと、プロレス界には大型の新人をドンドン紹介したいなぁと思ってる。やっぱりヘビー級のね、スケールのおっきい日本のプロレス界を背負って立つような人間をプロレス界に送り出していきたいなあ、と。そういう意味では期待してください、ってことですね！　以上！

【07年11月2日／都内・永田町の衆議院会館にて収録】



はせ・ひろし■1961年5月5日、富山県出身。高校入学後にレスリングを始め、専修大学ではレスリング部の主将を務めるかたわら、教員免許を取得。大学卒業後は母校、星陵高校で教鞭を執りながら、1984年、レスリングでロス五輪に出場。翌年、ジャパンプロレスに入団。その後は新日本や全日本に所属したのち、昨年8月プロレスラーを引退。現在は衆議院議員、PWF会長など、さまざまな分野で精力的に活躍中。妻はタレントの高見恭子。



もし、テレビがつくんだったら日テレで間違いないな！

『kamipro』のご意見番がひさびさに登場!!

福田会長はじめ“新格闘技勢力”の面々と縁の深い、この男が激白！

谷津嘉章 INTERVIEW

谷津さん！ そんなに言って大丈夫ですか？

新設された日本総合格闘技協会、そしてコミッション委員会には、日本レスリング協会会長の福田富昭氏や、元プロレスラー＆衆議院議員の馳浩氏をはじめ、レスリング関係者の名前がズラリ。となれば、話を聞くのはこの男しかいない。そう、レスリングで五輪出場経験を持ち、『kamipro』のご意見番的存在の谷津嘉章だ！総合格闘技参戦経験も持つ谷津が日本総合格闘技協会について大放談!!

聞き手＆撮影／阿修羅チョロ

ワールドビクトリーロードとは何か？

——谷津さん、おひさしぶりです！

谷津　おう！　今回はなんの話だ？

——谷津さんにも縁の深いレスリング協会の福田（富昭）会長たちが日本総合格闘技協会、さらにはコミッション委員会を立ち上げまして、同時にワールドビクトリーロードという興行会社の設立まで発表されたんですよ。ちなみに、こちらが役員の構成表です（と言って、左に掲載の表を手渡す）

谷津　福田さんに、馳浩、高田裕司に富山英明……って、なんだよ！　み〜んな〝福田シンパ〟じゃねえか、ここにいるのは（苦笑）。

——皆さん、福田さんのシンパでしたか（笑）。そういった部分はよくわからないので、谷津さんにガッチリと解説していただければと思います！

谷津　まかせとけ！　ヤバそうな話は伏せといてくれよ（笑）。

——もちろんです！（笑）。ちなみに谷津さんは〝福田シンパ〟じゃないんでしょうか？

谷津　まあ、話せば長くなるけども、福田さんっていうのは俺の（日本）大学の先輩で、この人に日大に入れてもらったし、プロレスの世界に入ったのも、福田さんの紹介だから。猪木さんに会わせてもらってね。

——いってみれば谷津さんの恩師になるわけですよね？

谷津　そう。でもな、最近、俺は袂を分かったから。●●●の関係で。

——え、●●●って、●●●●とかの●●●ですか？

谷津　そう。●●●っていうのはレスリングの大会のスポンサーとかもやってるんだけど、ドン・キホーテの安田（隆夫）さんとかも、みんな●●●の関係で福田さんと知り合ってるしな。岐阜の二区だか三区にいたじゃん？　昔、郵政大臣やってた女性議員。

——野田聖子さんですか？

谷津　そうそう。その人の関係で福田さんと知り合ったわけ。ドン・キホーテの安田さんっていうのは岐阜出身だからな。

——へぇ〜、いろいろとつながりがあるんですね（笑）。ドンキの会長の安田さんはかなりの総合格闘技好きみたいですけども。

谷津　そうなんだよな。俺もレスリング協会と袂を分かつ前に会ってるから。いま俺は、ちょっといろいろあって、一切レスリング協会にタッチしてないけどな。

——あ、そうなんですか？

谷津　そう。山本ＫＩＤ（徳郁）がレスリングの大会に出たでしょ。あの3ヵ月ぐらい前から俺は一切タッチしてない。もう、あの連中とは一生会わなくてもいいと思うようなことがあったわけよ。ある意味、レスリングって俺の聖域の部分だよ。それを知ってて、俺の話も何も聞かないで、金持ちの話を聞いちゃったんだよな。俺はそれが許せないんだよ。話は脱線しちゃうけども……（※この後、谷津がレスリング協会と距離をおくようになった理由を赤裸々に語るも、ページの都合および、内容の過激さに本誌はまったく責任を負いたくないので泣く泣くカットしま〜す！）。

——へぇ〜、それは大変でしたねぇ。話を戻させてもらいますが、総合格闘技協会は福田さんのシンパばかりってことですけど、ボクシングの具志堅（用高）さんなんかもそうなんですか？（※具志堅氏はこの取材の後、辞任）。

谷津　全部そうだよ。具志堅さんの場合は、本人もそうだけど家族ぐるみでお世話になってるからな。そういうつながりもあって、名前が入ってるんだろうな。具志堅さんは文句も何も言わないし、ファジーな人だから。

役員名簿を見たら、ぜ〜んぶ、福田さんのシンパじゃんかよ!

——具志堅さんはファジーでしたか（笑）。

谷津　ファジーというか彼は天然だから（笑）。

——ちょっちゅね（笑）。理事長の高田裕司さんも福田会長つながりですよね。

谷津　高田さんもシンパ。事務局長補佐ってなってる木名瀬重雄っていうのは福田さんの元秘書だから。

——へぇ〜、そういう関係なんですね。

谷津　コミッショナーの井上（幸彦・元）警視総監とかもそうだよ。とにかく、ぜ〜〜〜んぶ、福田さんのシンパだよ。

——ぜ〜〜〜んぶ、シンパですか（笑）。

谷津　まあでも、見た感じでは、錚々たるメンバーで、国家権力を持ってた人も入ってるわけじゃん。だから聡明さをうたって、一層オフィシャル的ではあるよな。じゃあ、「何をしたいの？」っていったら、いまは日本で総合格闘技の大会があっちこっちでやってるけども、それをコミッショナーを作って牛耳りたい、と。そういう考えだと思うよ。

——なかなか簡単にできることではないでしょうけども。

谷津　できないよ、絶対に。ただ、そういう選手にいままでどおりの試合の機会を与えて、満足なギャラを与えて、スポンサーも全部持ってきて、そういうのができて、安定させれば、ほかの団体の人間たちも動くかもしんないけどな。

——いまある団体とかもメリットがあれば協会に加盟するでしょうね。

谷津　それがない限りは結局『HERO'S』とか既存の団体と変わらないのよ。俺が袂を分かつ前から、そういうことをやろうとしてたけど、それをいま頃やってるだけの話で。やるからには収益を上げようと思ってやるんだろうけど、「その収益はどこにいくの？」って話でしょ。収益が上がる、上がらないは別にして（笑）。

——いまのところ、そのへんはちょっとわからないですね。

谷津　昔、壮行試合かなんかで「頑張れニッポン」ってことで駒沢オリンピック体育館でプロレスの大会をやったことあったじゃん。

——ありましたねぇ。谷津さん以外にも（ケンドー・）カシンさんや永田（裕志）さん、（本田）多聞さんとかも出てましたけど。

谷津　その収益はみんな選手のところに行ったかたちになってるんだよ。あのときはそういったかたちで収益を使ったわけだよ。建前と本音は知らないけども（笑）。で、この協会やイベントの収益っていうのは、格闘技の運

ぜ〜んぶ、福田会長のシンパ!?　こちらが格闘新勢力の役員構成だ!!

［日本総合格闘技協会］

会長	福田 富昭	国際レスリング連盟(FILA)　副会長 （財）日本レスリング協会　会長
副会長	馳　浩	衆議院議員、元プロレスラー
副会長	安田隆夫	（株）ドン・キホーテ 代表取締役会長
理事長	高田裕司	（財）日本レスリング協会　専務理事
副理事長	木下直哉	（株）木下工務店　代表取締役社長
理事	富山英明	（財）日本レスリング協会　選手強化委員長
理事	七戸穣	（株）木下工務店　代表取締役
事務局長	七戸穣	
事務局長補佐	木名瀬重雄	全日本女子レスリング連盟　理事

［コミッション委員会］

コミッショナー	井上幸彦	元警視総監
副委員長	篠沢恭助	元大蔵省事務次官
副委員長	松浪健四郎	衆議院議員
委員	浅井和子	弁護士・前ガーナ全権特命大使
委員	大高時男	元内閣調査室室長
委員	古村澄一	元文部省初等中等教育局長
委員	原和雄	税理士・元日本橋税務署長
委員	日野正晴	元名古屋高等検察庁検事長
委員	福田富昭	国際レスリング連盟(FILA)副会長 （財）日本レスリング協会会長　（五十音順）

［株式会社ワールドビクトリーロード］

会社名	株式会社ワールドビクトリーロード
代表取締役社長	木下直哉

営、協会の発展のために使うのか、それともオリンピックのために寄付したりするのか、どうなってんだろうな？ 趣旨がわからないよな。

――運営資金はどこから出るのかっていう質問が出たんですけど、いまのところはないっていうことで、逆に協力者を募ると、会見では言ってましたね。

谷津 そんなもん、運営資金なんて木下工務店だとかドン・キホーテから出るに決まってんじゃん。俺が言ってるのは運営資金じゃなくて、利益を何に使うのってことだよな。日本総合格闘技協会って「協会」ってなってるわけだから、公的なポジションなんでしょ。

――まあ、そうなりますよね。

谷津 記者会見をやったんだったら、そこまで突っ込まなきゃダメだよ。

――そのへんは誰も突っ込んでなかったですね（笑）。

谷津 これまでもレスリング協会は何回も総合格闘技を牛耳ろうと思って、いろいろと手を出してきたんだよ。アブダビコンバットとかにも関わってたでしょ。

――谷津さんを筆頭に現役のレスリングの選手が大挙してアブダビに出場したことがありましたよね。

谷津 あったでしょ。あのときはレスリング協会の選手を束ねて行ったわけだけども、全国にはチャンピオンはいっぱいいるわけでしょ。その中で「先生、俺も総合がやりたいです」って言っても、「それはダメだよ。レスリング協会の傘下の協会に登録しなきゃいけない」とかって、そういうかたちにしなくちゃダメだよ。そこから『HERO'S』なり、昔の『PRIDE』やDEEPに派遣するようなかたちにしないと。人身売買じゃないけどな（笑）、その上で、協賛金だとか加盟料をレスリング協会に入れてくれ、と。そういうシステムにしないと意味はないわな。

――そうですね。でも、そういうシステムを作り上げるのは、かなり難しいことなんじゃないですか？

格闘技の世界で、これだけの人間を集めたのはたいしたもんだ！

「日本総合格闘技協会」
「株式会社ワールドビクトリーロード」



10月15日に都内ホテルにて行なわれた、日本総合格闘技協会と株式会社ワールドビクトリーロードの発足会見でWVR木下社長、ドン・キホーテ安田会長とガッチリ握手を交わす福田富昭会長。谷津も「無尽」と評する福田会長の人脈で新たな強豪の発掘に期待だ！

谷津 過去にも、やろうと思ったことはあったけど、それはできなかったんだよ。みんな反発しちゃって。やっぱり、やるからには何かしら恩恵を与えないと無理、絶対に。昔っからあるなら別だけど、いまやろうと思っても「なんでいまさら？」ってなっちゃうわけ。そういうのをわかってて、この協会っていうのは、何を目的にやるかだよな。いまのところ、やる目的とか意義やビジョンが見えないわけよ。

――確かに、そう思っている人は多いでしょうね。

谷津 へんな話だけど、普通、格闘技の世界でこれだけの人間が必要かって思うぐらい集まってるからな。そこだけ見ると、たいしたもんだと思うよ、この面々は。

――それだけのメンバーが集まっても、協会の傘下に日本の他団体を入れるのは難しいことだと？

谷津 できない。そこまでする権利がないんだよ、ハッキリ言って。だって、文部科学省の松浪（健四郎）さんなんかは、いまも現役の副大臣をやってるわけでしょ。

――確か、そうですね。

谷津 相撲協会じゃないんだからよ。松浪さんの力を借りて文部科学省の傘下に入れるかっていっても、こんなの認められないよ。それがわかってて、なんで（コミッションに）入ったんだろうな。入っちゃいけない人なんだよ、絶対に。公の人間が一民間の協会に入ったらまずいだろ。

――馳さんも協会の副会長になってますけども。

谷津 文部科学省の人間じゃないでしょ、馳っていうのは。それはいいと思うんだよ。でも、マズイでしょ、松浪さんは。昔じゃないんだから、いまは叩かれるよ、絶対に。

――いま馳さんは全日本プロレスのPWFの会長ですけど、そういうのとは別ですかね（笑）。

谷津 それは別だけど、文部科学省の傘下にあるのがJOCでしょ。その中のレスリング協会でしょ。だから、傘下に入ってるわけだよ。逆に言えば松浪さんはもっと上なわけだよ、位でいったら。それがなんで傘下になっちゃってるのって話でさ（苦笑）。それに、いまのマスコミの風潮はね、スポーツに寛容じゃないでしょ。叩いてるでしょ、みんな。

――ボクシングも大相撲もそうですよね。

谷津 テレビによく出てるスポーツライターっているじゃんか？ 誰だっけ？

――二宮清純さんですか？

谷津 そう。アイツにこの組織表見せてみな。すぐに叩かれるよ。だって、胡散臭いだろ、これ（笑）。

――胡散臭いですか（笑）。

谷津 そうでしょ。ちょっと安易すぎるよね。俺は福田さんと袂を分かったから言ってるんじゃなくてね、普通の一般の感覚から見て、おかしいでしょ、と。そうじゃなくたって最近のスポーツ界は叩かれてるわけだからな。で、メディアで、いま福田さんと仲がいいのは日テレなんだよ。

――レスリングの中継は日本テレビで放送してますけど、もしかして新組織の大会がテレビ中継の可能性もあるってことですか？

谷津 だっていま日テレはやってないでしょ、総合格闘技は。まあ、日テレの松永（二三男）さんに紹介したのは俺なんだけどな（笑）。いまはアナウンス部長でお偉いさんになっちゃってるけど。

――あ、そうなんですか？

谷津 そうだよ。俺がまだ全日本プロレスの馬場さんのところでやってる頃、「谷津、紹介してくれよ」って松永さんから言われてね。たまたま日本テレビが当番でレスリングやることになっちゃったの。

――当時は当番制で放送してたんですか？

谷津 当時はクジ引きでね。それで福田さんと会わせたんだよ。それからガッチガチの関係だから。いま、松永さんの権限は凄いからね。

――じゃあ、もし、ワールドビクトリーロードの大会が日テレで放送されたら、谷津さんの手柄でもあると？（笑）。

谷津 そうとも言えるな（笑）。

――『PRIDE』もそうでしたけど、いま日本で総合格闘技の大きなイベント

ワールドビクトリーロードとは何か？
WORLD VICTORY ROAD

をやるとなったら、テレビがつかないと話にならないって言いますしね。

谷津　無理、無理。そうすると、日テレはノアしかやってないだろ。

――そうですね。

谷津　だから、ほしいわけよ。『HERO'S』はTBSで、フジテレビはK－1やってるからな。次に総合格闘技をやるってなったら、日テレが一番臭いな。

――匂いますか？（笑）。

谷津　単発だったらわかんないけど、継続してやっていくっていうんだったら日テレで間違いない！　日テレはね、民放以外にもG＋って持ってるでしょ。CSのデジタル番組。G＋は、いまでもレトロのプロレスやったりね、ノアの中継やったりしてるけど、材料がないの。ソフトがほしいわけですよ。だから、G＋でやる可能性は高いと思う。それか民放かのどっちかだろうな。あとは目玉だよな。

――テレビがついても、目玉になるような選手がいなければ、お話にならないですからね。

谷津　そうでしょ。たとえば『HERO'S』でいえばKID。それから現役じゃないけど、葉巻の前田（日明）。『PRIDE』は高田（延彦）を使った。要するに最初は牽引力のある人間が必要なんだよ、絶対に。

――誰か牽引力がありそうな選手はいますかね？

谷津　KIDなんかもレスリング協会とは長いからね。だから、KIDっていう可能性もあるな。そういった目玉がいないとな。ただ、そう考えると、専属契約になってくるわけよ。だから、最終的には高田みたいに現役辞めても保証するかたちにしないと難しいだろうけどな。

――レスリングつながりでいうと、五味（隆典）選手も新組織の大会に参戦するんじゃないかと、たびたび名前が挙がっていますが。

谷津　いや、出たとしても五味はまだ牽引力はない、ハッキリ言って。インパクトはあるよ。確かに強いよ。でも、「五味が出るから絶対に観に行こう！」っていう気になる？　やっぱ、いまビジネスで考えたらKIDだよ。それか秋山（成勲）。

――秋山選手は牽引力がある、と？

谷津　アイツはある。やっぱりね、本気を出すと強いし、ビジュアル的にもいいしね。経歴も素晴らしいし、しゃべれるし。ヌルヌル事件でちょっとミソつけちゃったけどな（笑）。

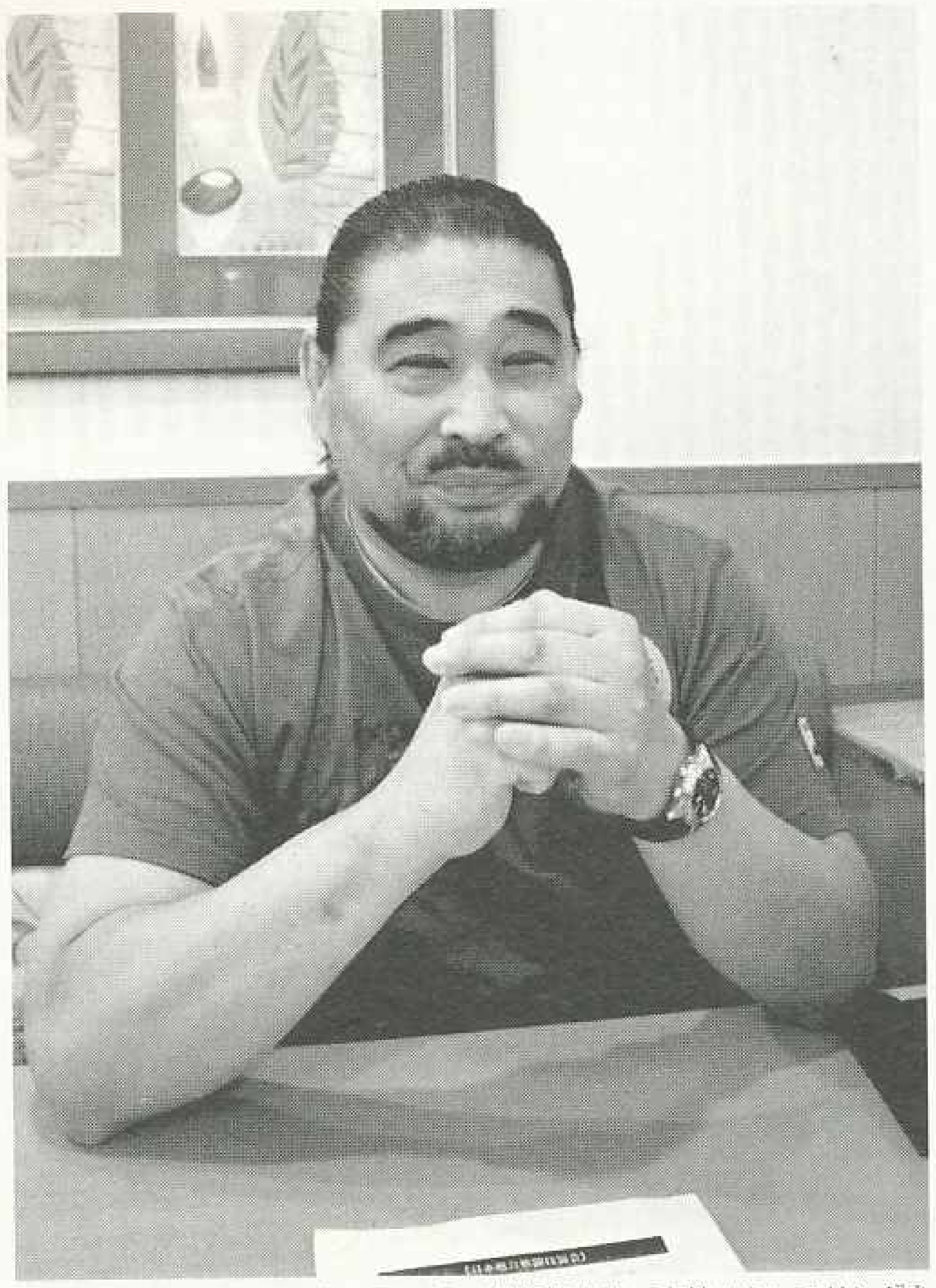
――確かに、マイナスイメージも強いですけどね。

谷津　まあでも、秋山も『HERO'S』と契約があるし、それはありえないか。だったら、やっぱKIDだよ。で、あとほしいのは谷川（貞治）さんだな（笑）。

――選手じゃなく、ほしいのは谷川さん（笑）。

谷津　あの人は頭いいからね。どこだって金になれば行くから。セコイっていえばセコイんだけど（笑）。

――一見、のほほんとしているように見えて、じつはかなりのキレ者という評価は多いですからね。



やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。高校からレスリングを始め、卒業後は日大レスリング部で活躍。76年のモントリオール五輪では8位入賞、80年のモスクワ五輪ではエントリーされるも日本がボイコットしたためメダル獲得は幻に。その後はプロレス界で活躍しつつ、86年に全日本選手権に出場し、フリー130キロ級で見事優勝を飾っている。

谷津　そうでしょ。あの人はハンパじゃないよ。谷川さんに勝てるのは二宮さんぐらいじゃない？（笑）。

――二宮清純さんも評価は高いんですね（笑）。

谷津　ただ、彼は最近、国際スポーツコメンテーターとか言ってんじゃん。「何が国際だ！」って俺は思うけどな（笑）。

――実際、ワールドビクトリーロードの大会には吉田秀彦さんの出場が確定視されてるんですよ。ドン・キホーテが吉田道場のスポンサーをしているというのもあって。

谷津　まあ、彼も牽引力があると思うよ。でも、吉田っていうのはもうピーク過ぎたんじゃないのか。彼はいくつ？

――もう38歳ですね。

谷津　ちょっと厳しいよな。一時はそれでいいけどね。あと、ドン・キホーテつながりで言えば、アニマル浜口さんとさ、京子ちゃんもコマーシャルに出てるでしょ。

――そういえばそうですね。京子さんも北京オリンピックが難しくなったので、総合挑戦もない話ではない？

谷津　いや、まだ可能性はなくなったわけじゃないからな。ただ、京子ちゃんは知名度もあるよな。

――京子さんはノーマークでした。

谷津　だろ？　だから俺に聞けばいいんだよ。なんでも知ってるから（笑）。

――さすがです（笑）。じゃあ、外国人選手で誰か牽引力がありそうな選手は呼べますかね？　トップどころはUFCをはじめ、複数試合契約の選手が多くなってしまいましたけど。

谷津　そうだよな。まあ、長期的に見れば、外人選手は福田さんがその気になれば発掘はいっくらでもできるよ。

福田さんの人脈だったり
ルートは無尽にあるから期待できる

――レスリングで世界中にネットワークがありますからね。

谷津　レスリングだけじゃなくて、柔道、レスリング、ボクシング、全部ルートがあるから。だから、発掘は簡単ですよ。ただ、時間はかかるよな。

――総合用の技術を教えなきゃいけないわけですからね。

谷津　そうそう。まあでも、福田さんの人脈だったりルートっていうのは無尽にあるから。そこは期待していいんじゃない。

――人脈やルートは無尽!?

谷津　だって、（ウィリエム・）ルスカを連れてきたのも、（アレキサンダー・）カレリンを連れてきて前田とやらせたのも福田さんだからな。

――へぇ～、カレリンは知ってましたけど、ルスカを連れてきたのも福田さんでしたか。

谷津　まあ、最短でも2年は教えないとな。そうじゃないとファンに笑われちゃうよ、「ハッハッハッ、素人じゃないか」って（笑）。だから、当面のつなぎとして、吉田とかファンを引っぱってくれる看板選手を早急に集めなきゃダメだろうな。

――看板になれる選手も限られてはいますからね。

谷津　そうだよな。もう、5年ぐらい前みたいにね、プロレスラーが総合なんかやる時代じゃないからな。もっともっと高度になっちゃってるから。

――でも、ひょっとしたら、谷津さんにも選手として声がかかる可能性もあるんじゃないですか？（笑）。

谷津　俺はもういいよ（苦笑）。勘弁してくれ！

【07年10月19日／都内某所にて収録】

“大晦日格闘大戦の“原点”を読み解け！

<RADICAL特選劇場>

03年大晦日三つ巴戦争、すべてはここから始まった!



no.68 大晦日戦争を大検証

●日本テレビで『猪木祭り』、TBSで『Dynamite!!』、フジテレビで『PRIDE男祭り』が放送された03年の大晦日大戦を「4・6・8まがいものはどれだ！」と大検証したNo.68。この時点の相関図や暴走するアントン成田会見などカオスぶりが大爆発！



no.70 「猪木祭り」暴動寸前!?

●怒濤の03年大晦日をプレイバックしたこのNo.70の目玉は、なんといっても「殺すぞコノヤロー！」「ルールを守れっ！」とアントンが絶叫する『猪木祭り』の狂気の年越しセレモニーの誌上完全再録。トンデモ大晦日を締めくくる大混乱ぶりがビンビン伝わってくる。

史上最大級の大混乱！ 03年大晦日、3大会同時開催の“カオス”ぶりは RADICALで読める!!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。



バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00～19:00

元祖！紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50% OFF

特集 神秘とは何か？
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白凰・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄祝・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16～87

格闘ノストラダムス！
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

“新”プロレスとは何か？
no.32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ！
no.34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証！
no.35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か？
no.38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か？
no.39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは？
no.40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の駄浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚”ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌＆再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也＆小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也＆小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志] “異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙：橋本＆小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙：桜庭和志] “道場破り”の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙：前田日明＆髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕＆大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。 ※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



あの素晴らしい"日明兄さん"をもう一度

ダメな大人に大好評！ UWF"変態"シリーズ第4弾

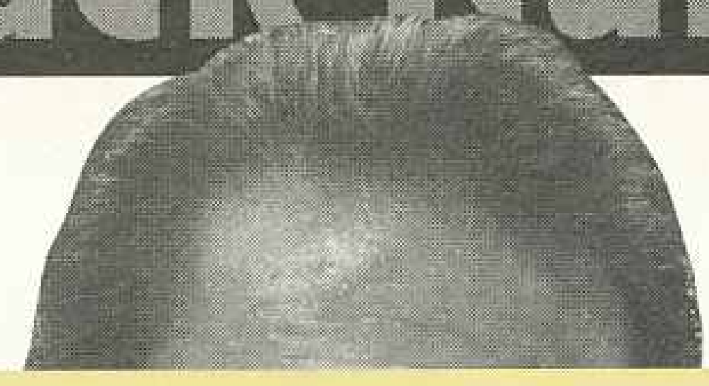
僕たちが好きだった

前田日明座談会

～青春の新日本プロレス＆第一次UWF編～

30代を中心にした変態的読者から大好評の「UWF変態座談会」シリーズ。早くも4回目となる今回のテーマは、禁断の「前田日明」だ！ UWFというムーブメントの最重要人物でありながら、最近の格闘技ファンには「『ざまあみろ』発言の偉そうな人」というようなネガティブな感じで見られがちな日明兄さん。しかし、本来の前田日明は強くてカッコよくて、愛すべき存在なのだ。そんな日明兄さんの魅力を、変態たちがおおいに語り合います！

構成／堀江ガンツ



前田のスロイダーはとにかく美しかった ヘビー級のタイガーマスクだったよね（椎名）

ガンツ　え〜、この変態座談会シリーズもおかげさまで大好評。早くも4回目を迎えました！

タコ　なんか30代以上の読者に好評なんやろ？

ガンツ　やたらと好評ですね。中には「自分もこの座談会に加わって話したい！」っていう変態読者もいるんですよ。

井上　犬笛ならぬ、変態笛が聞こえちゃったんだろうなぁ（笑）。

椎名　凄く敷居が低い座談会だよね。変態的プロレスファンだったら誰でもOKみたいな（笑）。

タコ　高尚なことはちいとも話しとらんから、「自分でもええこと言えそう」と、読者に思われとるんやろな。

ガンツ　まあ実際、プロレスファンがテレコ回しながら飲み会やってるだけですからね（笑）。

タコ　では、そんなヨタ話をさっそく始めたいと思いますけど、変態座談会も4回目にして、触れてはならないところに来てしまいました！

椎名　ついにボスキャラが来たね(笑)。

井上　俺、ガンツくんから今回のテーマを聞いたあと、お腹痛くなってきちゃったもん。「やっちゃっていいんですか、星野さん!?」って。

ガンツ　「俺に聞くな！」(星野調)って感じですけど、ヘタなことを言ったら、身の危険がありますからね(笑)。

タコ　というわけで、今回のテーマは僕らが大好きだった「前田日明」さんです！（拍手）。

ガンツ　非常にデリケートなテーマですので、なるべく地雷を踏まないように、ひたすら前田日明さんの美しく素晴らしい思い出を語り合いましょう！

タコ　そういうことです！　あと、この座談会は敬称略ですので、「前田」と呼び捨てにしても決して怒らんといてください。それは声を大にして言っておきたいと思います。では、まずは皆さんに「私と前田日明との出会い」みたいなところから聞いていこうと思うんですが。

井上　その前に、ちょっといいですか？　ガンツくんが事前に「何かお宝を持参で」って言ってたんで、今日は『HERO'S』韓国大会の帰りの金浦空港で前田にもらった爪楊枝を持ってきたんですよ（と、大事そうにケースから取り出す）。

タコ　おぉ〜！　船木とメル友なだけやなしに、前田日明に爪楊枝がもらえるような仲なんや。井上くん、やるな〜！

井上　いや、たまたま飯を食ったところで居合わせたんですよ。そしたら「韓国の爪楊枝ってな、デンプンでできてるから食えるんやで」って、くれたんですよ。で、前田もその爪楊枝でシーハーしてたから、「前田さんが使ってるヤツももらえないですか？」って言ったら、「君、変態か？」って言われました。

椎名　変態座談会だけに（笑）。

タコ　つかみとしてはバッチリやね（笑）。

井上　はい、変態だけにこうして使わずに大切に保管しています。それと唯一、ウチの「ペールワンズ」っていう社名を「シブいやんけ」ってほめてくれるのも前田日明だけ！　んもう、大好きっ!!（笑）。

タコ　そんな変態の井上さんは、前田日明との出会いはなんですか？

井上　ボクはですね、タイガーマスクブームの頃に買った子ども向けの『プロレス大百科』に、当時イギリス遠征中の「前田明」っていう、背が高くてルックスのいいレスラーの写真が載ってたのを見たのが最初ですね。そこに「次代のエース」とか、いいことばっかり書いてあるから、それ以来、気になってて。それで初めて試合を観たのは凱旋帰国第一戦のポール・オンドーフ戦。

椎名　俺も同じだな。第1回IWGPに合わせて帰ってきたんだよね。

ガンツ　ヨーロッパ代表として出場。長州や藤波も出られないIWGPに若手の前田が出場するんだから、いかに期待されてたかわかりますよね。

井上　新日本の売り出し体制も万全で、帰国前にゴッチさんのとこに寄って帰ってきてるんですよ。最終調整ということで高田（伸彦）を帯同して。

椎名　それで「七色のスープレックス」を身につけて帰ってくるんだよね。

タコ　あったな〜、七色のスープレックス。あれ七色って言うてるけど、実際は12種類あったよね。

ガンツ　そうです。その12種類の中には使えない技もたくさんという。

タコ　デアポートなんとか、みたいな。いまだにどんな技かわからんわ。

椎名　凱旋帰国前にヨーロッパヘビー級のタイトル獲ったのが、スロイダースープレックスっていう片腕を極めるフロントスープレックスだっていうんで、中学のとき「きっとこういう技だ」って、自分で開発して陸上部のマットでバンバン投げたりしてたよ。

ガンツ　さすが実践派ですね（笑）。

タコ　スロイダーとフロントスープレックスって一緒やったっけ？

ガンツ　何を言ってるんですか、別ですよ！

椎名　片腕を抱えるかどうかの違いだよね。

ガンツ　まあ、言ってしまえばそれだけの違いなんですけど、前田がやるスロイダーって、ほかのレスラーがやるフロントスープレックスと、カッコよさが全然違うんですよね。

椎名　縦にひねるんだよね。前田ってべつにアマレスのバックボーンがあるわけじゃないのに、スープレックスが誰よりも美しいって不思議じゃなかった？　谷津（嘉章）のワン

UWF"変態"シリーズ第4弾

前田日明座談会出席者プロフィール



椎名基樹
本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負にあくなきこだわりを持つ。リングスファンでもあり、写真は「リングス・オランダ」のTシャツと、「リングス・オランダ」特製オープンフィンガーグローブを着けたものだ。



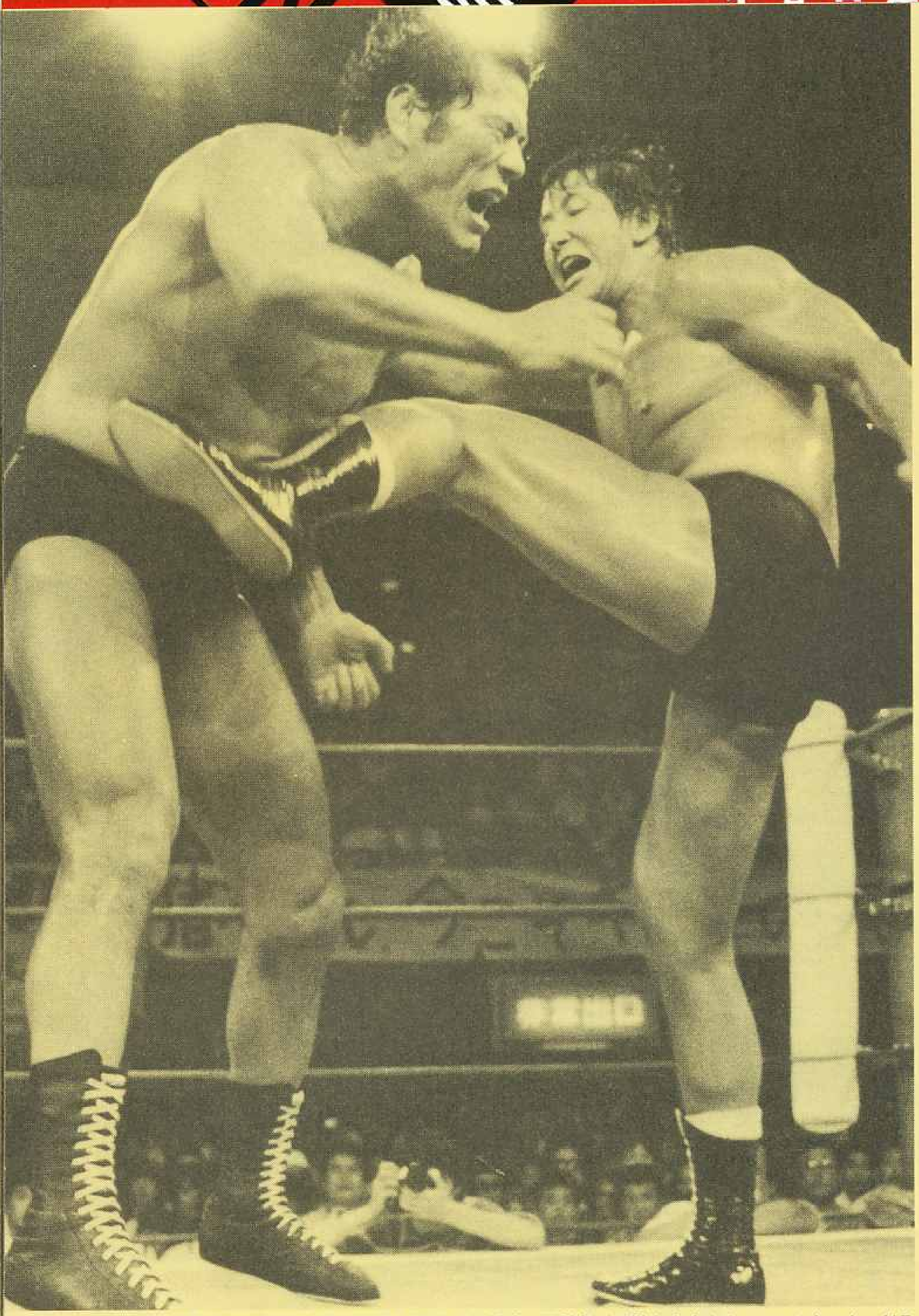
井上崇宏
携帯サイト『スカパー! バトルLIFE !!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。高田延彦にあくなきこだわりを持ち、船木とはメル友。かつては、ショップ『グレート・アントニオ』のプロデューサーとして、写真の「クイック・キック・リー」Tシャツや、「リングス・ラスト興行」Tシャツを手がけた。



堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称する。とくに前田日明&リングスへのこだわりは異常なほどで、その愛情が高まりすぎてついつい筆がすべり、リングス・エカテリンブルグ大会では前田総帥に正拳突きを頂戴したこともある。



原タコヤキ君
小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。現在は音楽プロデューサー兼カリスマ司会者。いまでこそジャイ子へのセクハラで憂さを晴らす日々だが、旧『紙のプロレス』ダミー編集長時代には、前田日明との交流もあり、前田総帥の得意技である「デコピン」を100発ほど頂戴したこともある。



83年5月、第1回IWGの公式戦で前田は猪木と初対決。延髄斬りで敗れたものの、ニールキック、ドラゴンスープレックスなどで猪木を追い込み、大きく評価を上げる。この年の11月には維新軍の総大将、長州力とも名勝負を展開し、24歳にして猪木の後継者と目されるようになる。

ダースープレックスなんて、全然きれいじゃなかったじゃん。

ガンツ　そうなんですよ。馳浩とかソ連のレッドブル軍団とか、フロントスープレックスがうまい選手は、のちにたくさん出てきましたけど、前田のスロイダーは誰よりもきれいなんですよね。

タコ　スープレックスだけやなしに、フライングニールキックなんかも、前田みたいにきれい、かつダイナミックに蹴れる人って、いまだにおらんもんね。

ガンツ　だから前田って、プロレスラーとして「ヘタクソ」って言われてましたけど、そういう部分では特異な才能の持ち主なんですよね。他人と同じ技をやっても、オリジナルに見えるぐらい美しいという。

椎名　そういう点では、ヘビー級のタイガーマスクだよね。カッコよくなきゃ、子どもに人気が出るわけないもん。

タコ　うん。カッコよかったよなぁ。だから技もそうやけど、やっぱりルックスって重要ですよね。後年、あんなに太るとは思わへんかったけど（笑）。

ガンツ　現役末期は「黒髪のダスティ・ローデス」と呼びたくなるような身体してましたからね（笑）。

椎名　あとやっぱり、凱旋帰国第一戦のインパクトって凄かったよ。ポール・オンドーフを3分くらいで一方的に倒しちゃってさ。あれはタイガーマスクのデビュー戦（vsダイナマイト・キッド）に次ぐインパクトだね。

ガンツ　普通に考えたら、当時のポール・オンドーフって次期WWF（現WWE）世界王者候補って言われていた大物じゃないですか。それが一方的に秒殺負けってありえないですよね。

タコ　破格やんな、扱いが。しかも当時なんか、フォール勝ち自体が少なかった時代に凱旋でいきなり取らせてさ。あれでオンドーフの日本での価値なんて、ほとんどゼロになったもんな。

ガンツ　それまでは、藤波にも長州にもフォール勝ちして、猪木ともいい勝負した大物だったんですけどね。

椎名　そのオンドーフを凱旋で潰しちゃったっていうのは、凄い不思議だった。

ガンツ　3分で倒したっていうのは、いま思えば前田のプロレスのスキルを考慮して、秒殺にしておこうってなったという、妄想も成り立ちますけどね。

タコ　それ、あると思うわ。ロード・ウォリアーズと同じで、ボロが出る前に一方的に勝つという。

井上　ちょっとちょっと！　何言ってんの!?　あのときは試合前にオンドーフが「マエダの危険なキックやスープレックスを禁止させろ！」ってゴネてきて、それを伝え聞いたゴッチさんがキレて「あんなチキン野郎は3分で潰せ」指令を出したんですよ！　その瞬間に前田の頭から「ビジネス」の4文字が消えたんだから。俺はそう聞いてるよ!?

タコ　〝プロレスの教科書〟ではそう習ったよな（笑）。

椎名　有名な話だよね。でも、大人になってから考えると「ホントかよ!?」って思うけど（笑）。

ガンツ　でも、実際に何をしてくるかわからない前田にビビってたっていうのはあると思いますけどね。

井上　いや、超ビビってるから！　そう習ったんだから！

タコ　ホンマかいな（笑）。

ガンツ　いや、ホントにビデオで観返してみると、前田がニールキックをやってきたとき、オンドーフは胸で受けずに背中向けちゃってるんですよね。

椎名　腰のあたりに当たるんだよね。

ガンツ　だからあながち嘘じゃないと思ってますけどね。まあ、ゴッチさんが生きてたら「『潰せ』なんて言ってない」って言うかもしれないけど（笑）。

タコ　いずれにしても、異例の凱旋帰国やったってことは確かですよね。そういう意味では、前田ってバックボーンなしにプロレスに入ってきたけど、扱いは最初からスター候補生やったよね。

井上　いや、田中正悟先生に習った空手があります。

タコ　ああ、そうやそうや。

ガンツ　でも、前田がやってた空手って無想館拳心道っていう、どマイナーな道場で、実戦といえば、試合より路上のケンカっていうとんでもない流派ですけどね（笑）。

タコ　「空手の路上教習」と称してケンカ売って歩いてたってヤツやんな（笑）。

椎名　で、田中正悟が公園で空手の練習してるところに、佐山が現われて前田をスカウトしたんだよね？

井上　そこで佐山と前田が一緒に練習して、そのあと佐山が新間（寿）さんに「大阪にでかくていいのがいました」って報告して、後日、新間さんが大阪に直接スカウトに来るんですよ。

タコ　「ビフテキ」と「倍賞美津子のノーブラ」やんな。

椎名　何それ、「ビフテキ」と「ノーブラ」って。

井上　当時、貧乏で毎日チキンラーメンばっかり食ってた前田が、新間さんにビフテキを食わせてもらったんですよ。

ガンツ　それで「レスラーになったら、こんなの毎日食えるんだぞ」って言われるんですよね（笑）。

井上　そのあと飛行機で東京に行こうってなって、飛行機が満席なのに〝新間マジック〟で全日空に席を空けさせて、ビビるんですよね。で、そのまま猪木さんの自宅に連れていかれたら、ノーブラの倍賞美津子がいて「なんて華やかな世界だ！」って舞い上がるという。

椎名　それでプロレス入りを決意するんだ（笑）。

ガンツ　まさに肉欲目当てのプロレス入りという（笑）。



84年4月、UWF旗揚げ。前田は凱旋帰国からわずか1年、25歳にして新団体のエースとなった。若きエース、前田の凛々しさと、ラッシャー木村の熊のようなゴツさを見よ!

井上　本当は前田はプロレスに興味がなかったんですけど、新間さんに「君をモハメド・アリのジムに行かせようと思う」「プロレスラーとしてデビューしたあと、アリのジムを通じてアメリカに空手の道場を出すのもいいんじゃないか」とか言われて、その気になっちゃったんですよ。

椎名　最初は「女優にしてあげる」って言う、ＡＶのスカウトと手口は大差ないね（笑）。

ガンツ　だから、ほかのレスラーとはプロレス入りの経緯からして全然違うんですよね。この時代にそんな伝説が成り立つ人間がいること自体が凄いですよ。

タコ　前田自身が伝説を仕立てるというか、自分の人生をドラマチックに見せるのに長けてたっていうのもあるんやろな。猪木さんの伝説を仕立てたのって、新間さん、井上（義啓）さん、村松（友視）さんといろんな人がいたけど、前田って自分発信やったんかね？

ガンツ　前田は前田自身が語り部でしたよね。

井上　自己申告ですよ。ドン・ナカヤ・ニールセン戦のときも直前まで新日本は対戦相手のリストをよこしてくれなかったんですから。あきらかに潰しにきてましたよ！

タコ　そう聞いてますか（笑）。

井上　『パワー・オブ・ドリーム』（前田日明の自伝）にそう書いてありましたよ！

タコ　また、あからさまに自己申告な参考資料やな（笑）。

ガンツ　その『パワー・オブ・ドリーム』がまたボクらの中学生時代に出るんですよね。あのリアリティあるファンタジー具合に中学男子はコロッと騙されますよ（笑）。

井上　「許すまじ新日本！」って唇震わせながら読んでたから（笑）。

ガンツ　検証のしようがない伝説だらけなんですよね。でも、全部が全部フィクションじゃないと思うんですよ。ニールセン戦にしても、陰謀めいたことがおそらくあったんでしょう。それを自分の中で消化して、自分で口にした物語が〝真実〟になっていく。たぶん『パワー・オブ・ドリーム』は、前田日明の自分の中のノンフィクションなんでしょうね。

タコ　だからほんまに猪木さんと井上義啓さんの作業を一緒にやってたようなもんやな。

ガンツ　猪木さんと井上さんの合体って、とんでもないモンスターですね（笑）。

タコ　モンスターやなぁ（笑）。

椎名　前田って凱旋帰国してから、ＵＷＦに行くまで新日本にはどれぐらいいたの？

ガンツ　ちょうど1年じゃないですか。83年春のＩＷＧＰに合わせて帰国して、84年4月にはＵＷＦに移籍してますからね。

タコ　そんなに短いんや。メチャクチャ濃い1年やなぁ。

ガンツ　その短い期間に凄く鮮烈な印象を残してますよね。ボクは前田がドラゴンスープレックスやってるのを初めて観たとき、「藤波にしかできない技を前田はできるんだ！」って、驚いたりしてましたから（笑）。

椎名　ああ、ＩＷＧＰ公式戦で猪木とやったときだよね。

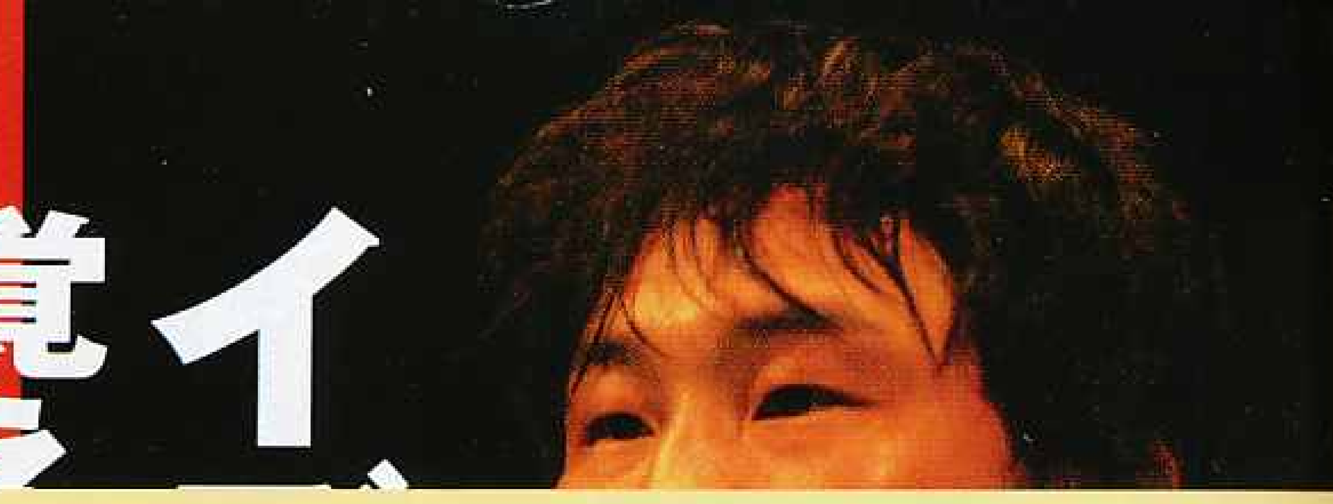
井上　高松だ！　俺、岡山に住んでたから「早く瀬戸大橋作れ！」って思ってたんだ。

一同　ガハハハハ！

井上　早くブリッジを描いてほしかったんですけど。

PAN

WRESTLING



イ
覚え

山宮恵一郎
にして初
イズムを離
離れて3年
たか？古
のは、山宮
門した、イ

自らを言語化してた前田は、猪木とI編集長の作業を一人でやってたようなもんやな（タコ）

タコ　うまいねどうも（笑）。だから前田って、「プロレスがヘタ」って言われるわりに、純プロレスでも緊張感があるええ試合が多いんですよね。

ガンツ　名勝負だらけですよ！　IWGP公式戦でやったアンドレ（・ザ・ジャイアント）戦とかも最高ですからね。ニールキックでグラつかせて。

井上　アンドレはチキンのポール・オンドーフと違って、「俺には何をやってきてもいいから」って試合前にささやいてきたんですよ。

タコ　そう聞いてますか？（笑）。

井上　ええ。歴史的事実です（キッパリ）。

ガンツ　前田はアンドレ戦の前に「ジャーマンで投げる」って予告をしたんですよね。

井上　そう！　ゴッチさんの教えで、「クラッチさえできれば誰でも投げられる」って言ってね。

ガンツ　でも、アンドレの胴回りはでかすぎて、クラッチできなかったから未遂に終わったという（笑）。

タコ　ファンタジーやなぁ（笑）。そのあと第一次UWFが旗揚げされて、前田は新団体に移るわけやけど、あのときは何が起こったかサッパリわからんかったよな。

椎名　あれは意味がわからないよね。新間が作った団体なのに、旗揚げシリーズが終わったら、もう新間がいないんだもん（笑）。

井上　最初はフジテレビがつくって話だったんですよね。それで当時の『週プロ』によく「フジプロレス」って言葉が踊ってて、中学生の俺にはよく意味がわかんなかったですよ。

タコ　旗揚げシリーズの最終戦、蔵前国技館に「俺が裏切り者の前田を成敗してやる！」って藤原が参戦したはずなのに、ちょっとしたら、その藤原もUWFに移籍しちゃったり。まあ、蔵前のときは要するにレンタルやったんやろうけど、何がなんやらサッパリわからへんかったわ。

ガンツ　あの頃の『週プロ』って小中学生がメイン読者ですよ。それなのに、金と契約の話ばっかり載ってるって、考えられないですよね。

井上　だから俺、思ったけど、小学生が対象の雑誌だからって小学生に向けて作っちゃダメなんだなって。小学生も意味がわかんなきゃちゃんと調べようとするんだよね。

ガンツ　ボクも『週プロ』読んでいろんな言葉覚えましたからね。『週プロ』のおかげで小学生なのに「移籍」とか「業務提携」って言葉を知ってましたから（笑）。

タコ　あと古舘の実況聞いて「髣髴とさせる」って言葉覚えたりとかな。

井上　俺、小学生の頃に喧嘩して、職員室に呼ばれたときに「だってあいつがおっとり刀で……」って言ったら先生が意味わかんなくて。「おっとり来たんじゃ喧嘩になってねえだろ、おまえ！」って。

一同　ガハハハハ！

椎名　でも、やっぱり古舘と『週プロ』の影響はデカいよね。

ガンツ　ボクも田コロ決戦で古舘が言ってた、「夜の帳が降りて」っていう言い回しを妙に覚えてて、林間学校の作文とかで「夜の帳が～」って書いてましたからね（笑）。

タコ　さすがプロレスセレブ！

井上　古舘さんのおかげで、プロレスファンはずいぶん語彙が増えましたよ。

タコ　これは次回、古舘伊知郎変態座談会やらんといかんかもしれんなぁ（笑）。

ガンツ　話を戻すと、前田って25歳で新団体UWFのエースになったわけじゃないですか。それって特別すぎますよね。

タコ　プロレスの歴史を見ると、猪木さんはそれぐらいの歳で東京プロレスを旗揚げしたわけやんか。そういうイメージも含めて、猪木さんみたい！　って思ったわ。

椎名　前田ってカッコいい！　と思ったよね。

ガンツ　よく考えると、当時の藤原がいまのボクと同年代ですからね（笑）。

井上　そうだよ。俺らが小学生の頃って、猪木さんもまだ30代だもんね。

タコ　大人になっちゃったなあ……。前田も急激な状況で大人にさせられたんでしょうね。だっておぼこい25歳の、プロレスラーの中でも天然やトンパチって言われるヤツがエースにさせられてね。

椎名　プロレスの団体生活をこよなく愛してる感じがしたよね。それが最後まで抜けないというか。

タコ　だからやっぱり家庭が不幸な状況やったっていうことで、合宿所というファミリーみたいなものに凄く愛着あったでしょうからね。で、試合に話を戻すと、第一次UWFが崩壊して、新日本にカムバックしてくるわけですけど、新日本vsUWFのイリミネーションマッチとかおもしろかったですよね。

井上　おもしろかったぁ！　東京体育館！

ガンツ　あれ全員自分のテーマ曲で一人ずつ入場してくるのが、いいんですよね。

井上　もうビデオテープが擦り切れるくらい観たよ！

ガンツ　あのとき初めて木戸修のテーマとか、星野勘太郎のテーマとか聴いて。これがけっこういい曲なんですよね。

タコ　あのへんはゲーム性と新日本の緊張感と合わさってよかったよね。だから前田も、新人時代、凱旋帰国、それからUWF、リングスといろんなキャリアがあるけど、俺は新日本にカムバックしてきたときの前田が一番好きやな。

ガンツ　多くの人がそうでしょうね。カッコいいし、凄く前衛的な感じがしたし、なんといっても一番強く見えましたしね。



86年3月6日、東京体育館で行なわれた新日本vsUWFの5対5イリミネーションマッチ。負けた選手、場外に落ちた選手が一人ずつ姿を消していくこのルール。前田は上田馬之助の"場外心中"に遭い、猪木を仕留めることなく姿を消した。

井上　古舘さん曰く「肉体のローマ式戦車」だからね。

タコ　あと「黒髪のロベスピエール」とか（笑）。

ガンツ　カッコいい名前をつけてくれてるんですよね。それに対して藤原は「顔面だるま大使」とか「顔面リアス式海岸」なんだから、ひどい話なんですけど（笑）。

椎名　UWF勢が新日本にカムバックしたとき、猪木への挑戦者決定リーグ戦をUWF内でやったじゃん。あれで藤原に負けたのが納得いかなくなかった？

井上　前田のスリーパーで藤原が落ちるんだけど、その直前に藤原のレッグロックが極まってて、前田が先にギブアップしてたってやつですよね。

椎名　俺は猪木vs前田戦が観れるもんだとばっかり思ってたからさ、なんで猪木vs藤原なんだよ！　って。

ガンツ　あの猪木vs藤原戦のあと、3月の東京体育館は当初、猪木vs前田戦が発表されてたんですよね。

井上　そうだ、それが中止になって5対5イリミネーションマッチになったんだ。

ガンツ　坂口が勝手に猪木vs前田

新日vsＵＷＦにはミスター高橋の暴露本じゃわからないところの闘いが確実にあったよね（井上）

戦を発表して、猪木が激怒して撤回したんですよね。

井上　「やるわけねえだろ！」って。

タコ　猪木さんはリアルに前田を恐れてたっていうのはホンマなの？

椎名　『週刊プレイボーイ』で猪木と前田が対談したときは、前田に「あのとき、なぜ闘ってくれなかったんですか？」って聞かれて猪木自身がそう言ってたよね。

井上　「逃げてたから。ムフフフフ」ってね（笑）。

ガンツ　当時の前田はＵＷＦに来なかった猪木をホントに恨んでたから、試合中に何をやってくるかわからないっていうのがあったんでしょうね。

タコ　でも、ホンマに衆人監視のもとでプロレスのルールを超えてくるっていう危なさを感じてたわけ？

ガンツ　プロレスのふりして、ホントに極めてきたり、ハイキックを入れてきたりすることも考えられるわけじゃないですか。それがタッグだったらカットとかでなんとかなるけど、シングルだと、アクシデントに見せかけて前田が勝ちにきかねない。要は信用がおけないってことなんでしょうね。

井上　タッグとかイリミネーションマッチとかでも、猪木さんはけっこう前田との絡みを避けてたよ。

椎名　あと、猪木vs藤原戦の試合直後に、前田が猪木をハイキックで倒したのはショッキングだったよね。

井上　あれは裏・教科書でいうと、試合が終わった瞬間、胸に蹴りを入れるはずが、前田がヘタだったのか、そのときの感情だったのか、アゴに入れちゃったらしいですね。

ガンツ　ボクは「アクシデント」と言いながら、ホントはアゴ狙って蹴ったと思いますけどね。

椎名　でも、あれは危ないよね。突然、来るはずもないハイキックがアゴに来るんだから。

ガンツ　テレビ局も試合後に前田が蹴るなんて知らないから、そのシーンはカメラがちゃんと抜いてないし。

井上　画面が切り替わった瞬間に蹴りが入ってたよね。

ガンツ　試合に勝って『猪木ボンバイエ』のイントロが流れたところでハイキックが決まるんですよ。

井上　そうなんだよ！　俺、ガンツくんみたいな友だちが当時ほしかったなあ！　俺と見てるとこ、まったく一緒だよ!!

一同　ガハハハハ！

タコ　変態の友情や（笑）。

椎名　猪木へのハイキックも含めて、当時の前田とかＵＷＦ勢って、けっこうやりたい放題やってたよね。

タコ　そうやんな。ＵＷＦ勢って自分らで興行できなくなったのを、新日本に拾ってもらったわけやないですか。普通の会社で考えたら、出戻りで肩身狭くて、昔の後輩が上司になってたりするもんやのに、ＵＷＦの連中はメチャクチャやっとったもんな。

ガンツ　出戻りのクセに社長をハイキックでぶっ飛ばしたりしてるんですからね（笑）。

タコ　ロープにも飛ばへんとかさ、あとは対抗戦でもＵが勝率高かったりとか、あれはどういうことなんやろうね？　Ｕで商売しようとしてたんかな。あのときは誰が絵を描いてたの？

井上　マッチメイカーはビッグ・サカ（坂口征二）ですよね。

ガンツ　だから対戦カードや試合結果はともかく、試合内容は当人同士で勝手につばぜり合いしてたっていうのが、かなりあるんじゃないですか？（藤原）組長が木村健吾とシングルでやったときなんて、試合中、メチャクチャ極めまくっておきながら、スモールパッケージホールドであっさり負けて。涼しい顔で一礼して帰ったりしてましたからね。誰が観ても藤原のほうが強いってわかるように（笑）。

井上　だからさ、プロレス内ガチンコじゃないですけど、ミスター高橋の暴露本だけじゃわからないところの闘いは確実にありましたよね。確か前田vs坂口戦も、坂口のリングアウト負けなんだけど、坂口が試合後マスコミが追っかけてくる中、控室に戻って、そのままベンチプレスをしたんですよ。

タコ　余力充分なところをベンチプレスでアピールしたんや（笑）。

ガンツ　確か『週プロ』に載ってましたよね。

井上　そうそう。ベンチプレスしてる写真に「『まだやれるよ〜』と坂口」みたいなキャプションが書いてあって。

タコ　なんでキャプションまで覚えとんのや（笑）。

井上　だから、試合結果としての勝敗とは別に、ホントは俺のほうが強いっていう無言のメッセージみたいなのって、当時はあったんですよね。でも、いま思えば、「マッチメイカー自らそんなことしていいのかよ」と思いますけど（笑）。

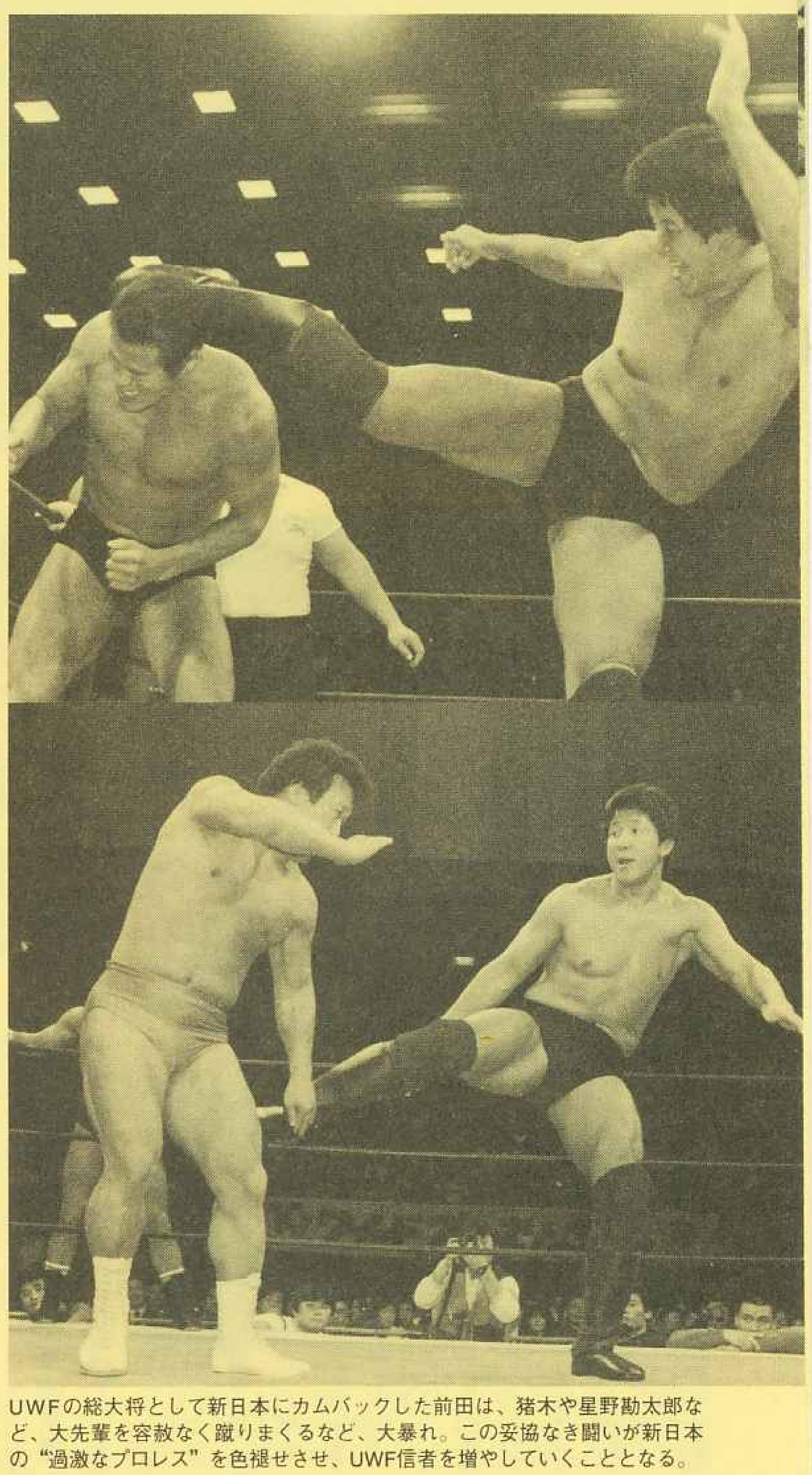
タコ　試合中、相当ムカついたんやろな（笑）。

ガンツ　その坂口をはじめ、星野勘太郎とか上田馬之助とか、陰の実力者が前田とやるときになると、本気になるというか、ムキになるところがおもしろかったですよね。

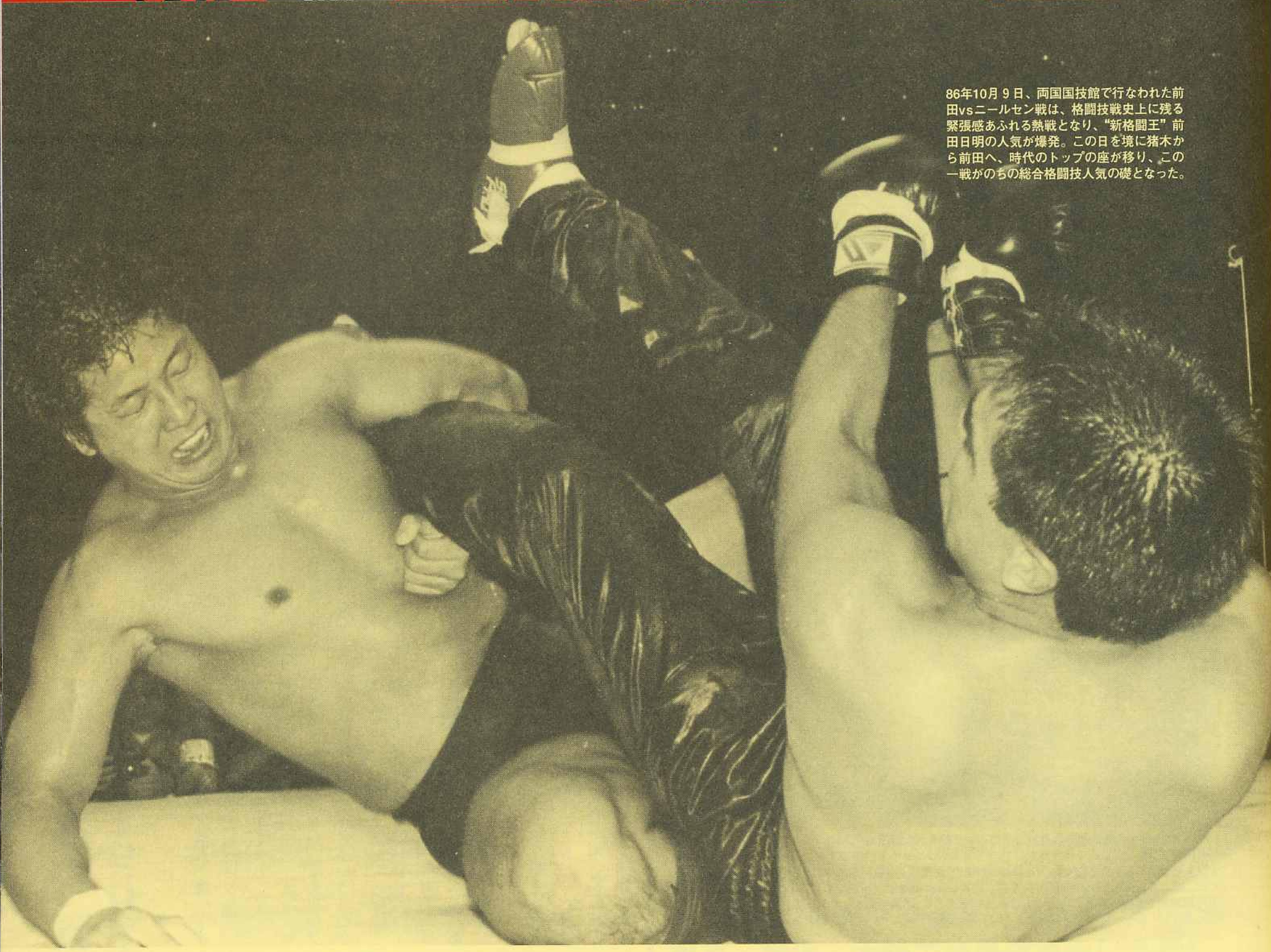
タコ　あと、これは昔からごっつ不思議やねんけどさ、前田vsニールセン戦ってあったやん。あのときって、イベント名が『ＩＮＯＫＩ闘魂ＬＩＶＥ』で、主役は猪木さんのはずやのに、その猪木さんがレオン・スピンクス相手に絵に描いたような凡戦やって、セミの前田は歴史に残る名勝負やんか。なんであんなふうになったんやと思う？　あんなの猪木さんを落として前田を上げるための興行にしか見えへんのやけど。

ガンツ　元・新日本関係者の○○さんが言うには、猪木さんは打ち合わせをやらなかった。でも、前田はちゃんとやったってことらしいですけど。

タコ　そうなんや。



UWFの総大将として新日本にカムバックした前田は、猪木や星野勘太郎など、大先輩を容赦なく蹴りまくるなど、大暴れ。この妥協なき闘いが新日本の“過激なプロレス”を色褪せさせ、UWF信者を増やしていくこととなる。



86年10月９日、両国国技館で行なわれた前田vsニールセン戦は、格闘技戦史上に残る緊張感あふれる熱戦となり、"新格闘王"前田日明の人気が爆発。この日を境に猪木から前田へ、時代のトップの座が移り、この一戦がのちの総合格闘技人気の礎となった。

井上　ちょっと待ってよ（笑）。打ち合わせなんてやってるわけないですよ！　も～う、○○ちゃんも冗談がすぎるなあ。

ガンツ　そうですよね。バカ言ってんじゃないって話ですよ（笑）。

井上　まあ、普通に考えれば猪木さんの力量が落ちてたっていうことに尽きるんじゃないですかね。

ガンツ　それは絶対にありますよね。だって片や前田は20代後半の全盛期、片や猪木は40代の糖尿で痛風ですからね（笑）。

椎名　前田とやったドン・ナカヤ・ニールセンって、２年ぐらい前に『kamipro』のインタビューに出てたじゃん。俺、あれを読むまで、前田vsニールセンって完全にガチだと思ってた（笑）。

ガンツ　それは素晴らしい！

タコ　俺もそうやで。大人になって、完全なガチやないとは思っとったけど、○○ちゃんが言うような、打ち合わせがあるようには見えへんもんな。

ガンツ　ボクは高田vs北尾戦や、のちのリングスの試合と同じようなものだったんじゃないかと思ってるんですけどね。いつひっくり返ってもおかしくない、そういったことがありえる試合。Ｉ編集長が言うところの「ホンマもんに近い試合」ってやつですね（笑）。

井上　１ラウンドに食らったパンチがホントに効いちゃって、前田がずっとフラフラしてたのがリアリティを生んだっていうのもあるでしょうね。

ガンツ　前田も「普通、いきなり顔面パンチこないでしょ？」って言ってましたけど、あれはホントに効いてましたよね。

椎名　そういう体験でリングス作ったのは間違いないと思う。真剣勝負具合のさじ加減とか、ニールセン戦が基になってるんじゃないかって。

タコ　いずれにしても、格闘技戦の中でもトップクラスの成功例ですよね。俺なんか、猪木さんの異種格闘技戦をリアルタイムで観た世代やないから、あれ以上の緊張感ある試合って観たことなかったからな。

ガンツ　ボクらの世代がリアルタイムで観た猪木の異種格闘技戦って、よりによってアノアロ・アティサノエ戦とかですよね（笑）。

タコ　そうそう、小錦の実兄ね。あれ大阪でやっとったから、俺、生で観に行ったで。

ガンツ　猪木vsアティサノエを生で観てますか！

タコ　あのときはね、ＩＷＧＰ決勝でやった猪木vsホーガンのリマッチをやるって触れ込みやったんですよ。だから「これは絶対に見逃せん」と、早めにチケット買ったら、結局、アティサノエ戦やったんよ。

ガンツ　ひどい話ですね（笑）。

椎名　なんかアティサノエって、巨体なのにヤシの木に登るのが得意とかいう触れ込みじゃなかった？　シャカシャカ登るのが凄い、みたいな（笑）。

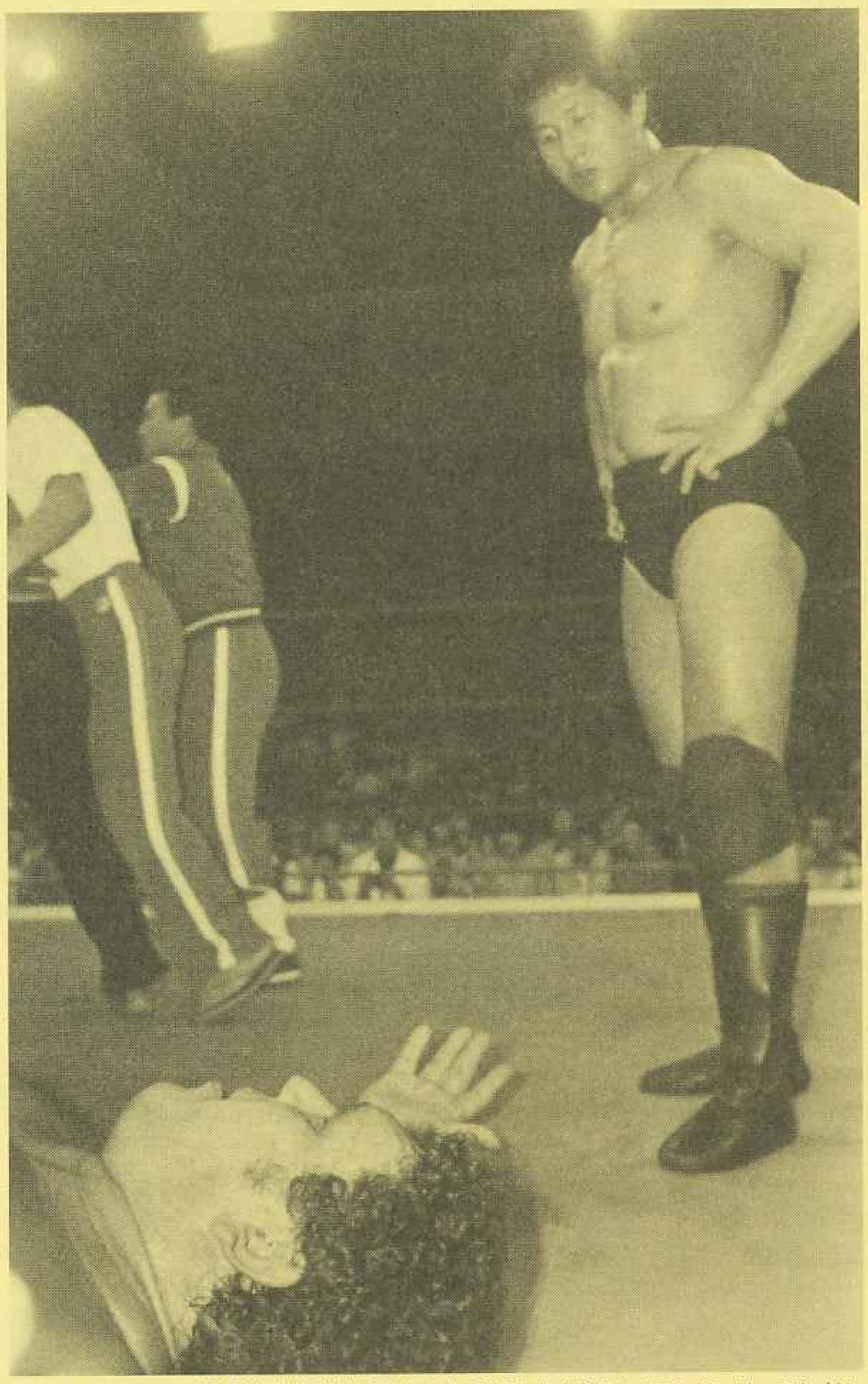
井上　「プロレスvs木登り」ですか（笑）。

タコ　全然、格闘技の話ちゃうやんっていう。

ガンツ　アティサノエって確か、猪木戦の前にガッツ（石松）にボクシング習ったんですよね？

タコ　そう。ガッツがセコンドついとったわ。

井上　おかしな格闘技戦には、必ずガッツが絡んでるんですよね。猪木vsスピンクスのレフェリーもガッツだし、藤波vsリチャード・バーンのときも、ドラゴンに「幻の右」を授けてましたから（笑）。



86年４月29日、三重県津市体育館で突如として組まれた前田vsアンドレは、アンドレが前田の"プロレス"につき合わず、"壊す"ためのシュートを仕掛けてきたことで"セメントマッチ"となる。しかし、前田がこれまたヒザへの"壊す"ローキックを連発すると、アンドレは大の字になり試合放棄。結局、この試合はノーコンテストとなるが、不可解すぎる展開のため、地上波での放映は見送られ、"裏ビデオ"として流通することとなった。なお、なぜアンドレがシュートを仕掛けたかについては、諸説あるがいまだに不明だ。

タコ　そんな猪木vsアティサノエが初めて観た異種格闘技戦やから、前田vsニールセンを観て、「異種格闘技戦っていうのはこんなに普段のプロレスと違うもんか！」ってヒリヒリしたものを凄い感じたんですよね。あれが、ホンマに打ち合わせしてるの？

椎名　ニールセンのインタビューでもあやふやなんだよね。

ガンツ　藤原戦や山田恵一戦は「ビジネスファイト」って言ってるのに、前田戦だけは、他の格闘技戦と違うって言ってるんですよね。

椎名　「『すぐ終わらせるな』とだけ言われた」って言ってたよね。

井上　ボクは前田が勝った瞬間、セコンドのシーザー武志が号泣してたのを見て、「うわ、これがガチンコか！」と思ってたけど、のちにただの泣き上戸だったことが判明して、証拠不充分になっちゃったんですけど（笑）。

一同　ガハハハハ！

椎名　シュートボクシングのビッグマッチのたびに泣いてるよね。あれ、凄い好き！

井上　あと、シーザーともう一人のセコンドだった高田が、試合中に前田の関節技が極まってニールセンがゴングに救われたとき、前田が勝ったと勘違いして小躍りしながらリングに上がってきちゃったんですよ。

ガンツ　小鉄イズムで上半身裸でリングに駆け上がったんですよね（笑）。

井上　高田ウォッチャーの俺に言わせれば、あそこまではしゃぐ高田は北尾戦以外では記憶にありません！

タコ　そう考えると、どこまで決まっとったんやって思うよな。

椎名　前田自身はいまでもニールセン戦を真剣勝負として語ってるよね。２年ぐらい前に永田を批判してたときも、「俺は普段、プロレスをやりながらもニールセン戦をやった」言ってたじゃん。

ガンツ　永田に「俺のヒョードル戦とあんたのニールセン戦を一緒にするな！」とも言われてましたけどね（笑）。

前田絡みの〝裏ビデオ〟を必死で手に入れたのはYou Tubeなき時代の美しい思い出（ガンツ）

椎名　それも一理あるよね（笑）。

タコ　でもさ、「俺にはニールセン戦がある」っていうなら、ほんならリングスの試合とかはどういうことやねん？　ってなるやんか。

ガンツ　リングスでの試合も、ニールセン戦と同じように、前田的には真剣勝負なんですよ。そのへんはあとで話しますけど。いろいろ用意してきたんで（笑）。

タコ　ガンツはプロレス探偵やなあ。

椎名　どこまでシュートだったかはともかく、あの試合が総合格闘技のエポックになったことは間違いないよね。

ガンツ　絶対にそうでしょうね。

タコ　あと前田の真剣勝負というか、セメントマッチってアンドレ戦があるけど、前田はそのアンドレ戦や長州の顔面蹴撃によって、「プロレスの裏ビデオ」というものを生んだ人でもあったよね。

椎名　テレビ局でお蔵入りになって、放映されなかったのが、なぜか裏ビデオとして流通しちゃって、よくリングスの興行のあととかに路上で素人が売ってたよね（笑）。

井上　ありましたねぇ。「北尾あります」とか貼り紙してあったり。

タコ　いいなぁ、「北尾あります」（笑）。そういう裏ビデオをプロレスセレブたちが高値で買っとったんやもんな。

ガンツ　You Tubeなき時代の美しいエピソードですよね。

椎名　俺も前田vsアンドレ戦は買ったもんな。

ガンツ　ボクもそのあたりの裏ビデオは、『週プロ』の「譲ります」コーナーを通じて、だいたい手に入れましたね（笑）。

タコ　セレブやなぁ（笑）。

椎名　新日以降だと、坂田（亘）を控室でボコボコにした裏ビデオは衝撃だったなあ。

ガンツ　カメラが回ってる前で、いまの時津風親方みたいなことをしてたわけですからね（笑）。

椎名　ホントだよね。坂田も偉いよ、よくここまできたよね。

タコ　途中で辞めんとやってるんやもんな。だから前田の伝説的な試合って、なかなか観れへんかったから、それがよけいに想像力を刺激して、前田幻想を巨大化させていってたよね。いつもファンに飢餓感を与えてたってことも、人気の秘密だったんやないかな。

井上　それが新生ＵＷＦになると、なかなかそういった伝説みたいなものが鳴りを潜めるようになっちゃうんですけどね。

ガンツ　というわけで、前田について語りだすと話は尽きないんですけど、そろそろ誌面が尽きてきちゃってるんですよ。

タコ　なんや、もう終わりか。まだ新日時代の話しか、してへんやんか。

ガンツ　ですから、変態座談会シリーズ初の前編後編で分けて掲載することにして、第二次ＵＷＦ、リングス時代の話は次号で掲載ということにしたいと思います！

椎名　こんだけ話して、まだ半分なんだ（笑）。

タコ　でも、なんかリングスの話とかになると、ますますデリケートな内容にならざるをえないような気がするんやけど……。

井上　なんかまた、お腹痛くなってきちゃったな。このへんで今回は俺、帰っていい？

ガンツ　いやいや、リングスは謎と伝説の宝庫ですからね。たっぷりといろんな話をしていただけたらと思います。では、続きは次号をお楽しみに！

【07年10月31日／新宿・変態座談会の聖地『リビングバー』にて収録】

HYBRID WRESTLING
PANCRASE



イズムを覚えているか。

山宮恵一郎。元パンクラス・イズムにして初代ライトヘビー級王者。イズムを離れて4年、パンクラスを離れて3年弱。その選択は正しかったか？ 古巣のリングで待っているのは、山宮のグラバカ移籍後に入門した、イズムの新星・川村亮だ！

PANCRASE 2007 RISING TOUR

11.28(水)後楽園ホール

OPEN／18:00 START／18:30 当日券16:00から発売

SS・¥12,000 A・¥8,000 B・¥6,500 C・¥5,000 D・¥4,000
※当日券は一律500円増しとなります。

メインイベント ミドル級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ
(フリー／第6代王者) **中西裕一** [3R] **竹内出** (SKアブソリュート／1位)

セミファイナル フェザー級戦
(フリー／1位) **DJ.taiki** [3R] **マルロン・サンドロ** (ノヴァ・ウニオン／初参戦)

第5試合 ライト級戦
(TEAM坂口道場／4位) **松田恵理也** [3R] **ハクラン・ディアス** (ノヴァ・ウニオン／初参戦)

第4試合 フェザー級戦
(P's REAL／5位) **砂辺光久** [3R] **浅野倫久** (KILLER BEE)

第3試合 ヘビー級戦
(U-FILE CAMP 登戸／2位) **水野竜也** [2R] **河野真幸** (NEW JAPAN FACTORY)

第2試合 ウェルター級戦
(SKアブソリュート) **和田拓也** [2R] **梁正基** (スタンド)

第1試合 ライト級戦
(KILLER BEE) **小路伸亮** [2R] **高橋渉** (チーム桜畑／初参戦)

パンクラスゲート フェザー級プロ昇格トーナメント準決勝開催

12.22(土)ディファ有明(ism主催興行)

NOW ON SALE OPEN／15:00 START／16:00

SS・¥12,000 A・¥8,000 B・¥6,000 C・¥4,500 ※当日券は一律500円増しとなります。

ライトヘビー級戦
(パンクラスism／2位) **川村亮** [3R] **KEI山宮** (GRABAKA)

無差別級戦 キャッチレスリング
佐藤光留 (パンクラスism) [2R] **ジョシュ・バーネット** (フリー／第10代王者)

ライト級戦
(パンクラスism／3位) **伊藤崇文** [3R] **昇侍** (K.I.B.A.)

ライト級戦
(パンクラスism) **アライケンジ** [3R] **カク・サジン** (チームタックル／5位)

ライト級戦
(パンクラスP'sLAB東京) **五十里祐一** [2R] **矢野卓見** (骨法烏合会)

パンクラスゲート フェザー級プロ昇格トーナメント決勝開催

本大会終了後にファンクラブイベント開催!

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」
東京／横浜／大阪で会員募集中! お問い合わせ：(03)5792-7079

●主催：(株)ワールドパンクラスクリエイト ●後援：インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●お問い合せ：パンクラス 03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+で! 全大会をどこよりも早く!

New **07.11.28 後楽園ホール大会**

12月9日(日)23:00～25:00／12月15日(土)24:30～26:30(再)

12月 2日(日)19:30～21:30 ▶ 03.07.27 後楽園ホール大会(夜)
12月23日(日)24:30～26:30 ▶ 07.09.30 梅田ステラホール大会
12月28日(金)14:30～16:30 ▶ 07.10.14 ディファ有明大会

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。


スカイ・A sports+をご覧いただくには

お近くのケーブルテレビ

e2 by スカパー!

スカパー! スカパー! えらべる15
「よくばりパック」(3500円)から15ch選べる「えらべる15」(2800円)がお得です！

sky・A sports+
最新情報は www.sky-a.co.jp



ミルコが自信なくしちゃったの
もしかして俺のせいかな(笑)

セーム・シュルト、チーク・コンゴをKOし
ミルコをスパーリングで悶絶させた男

ギルバート・アイブル

GILBERT"HURRICANE"YVEL

With イワン・ヒポリット

リングス無差別級王者の肩書きを引っさげて、鳴りもの入りで『PRIDE』に登場しながら、なかなか結果が出ず、ここ数年は亀田大毅も裸足で逃げ出す反則殺法だけがクローズアップされていたアイブル。しかし、もともとはK-1絶対王者シュルトや、ミルコを倒したチーク・コンゴをKOするほどの実力者だ。ヒョードルを獲得した新団体『M-1グローバル』参戦も噂されるアイブルを、10.28シュートボクシング両国大会前日にキャッチ。8月にミルコを鍛えたトレーナーでもある、イワン・ヒポリットとともにハチャメチャ男の近況をうかがってみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史

——アイブル選手、おひさしぶりです！本誌ではじつに7年ぶりのインタビューなんですよ。

アイブル　オー、そうか。おまえのこと覚えてるよ。

——ありがとうございます（笑）。

アイブル　ちょうどいいや。ひさしぶりに会ったんだ。ヤキトリでも食いにいこうぜ、ヤキトリーッ！　ヤキトリーッ！

——焼き鳥屋さんへはインタビューが終わってから行きましょう（笑）。明日、試合を控えてるとは思えないほどリラックスしてますけど、体調はどうなんですか？

アイブル　コンディション？　まぁ、悪くはないな。今回の相手だったら、これぐらいで充分だろ。

——でも、ちょっと身体が大きくなったというか、緩んでるというか……（笑）。

アイブル　俺のことデブだって言いたいんだろ？（笑）。

——え～、ズバリ言ってしまうと、そのとおりなんですけど（笑）。

アイブル　まあ、確かにもうちょっとフィットネスをやる必要はあるけど、明日の相手だったらノー問題！　来年にはちゃんとしぼるから、それでいいだろ。明日はフリーウエートの契約だしね。だから、俺はたらふくヤキトリを食ってるんだ（キッパリ）。

——試合前なのに、焼き鳥を腹一杯食べてますか（笑）。では、ひさしぶりのインタビューなんで、近況をお聞きしていきたいんですが、4月の『PRIDE．34』での小路晃戦では、寝技の上達が見られましたけど、寝技もちゃんと練習してるんですか？

アイブル　寝技の練習？　あんまり好きじゃね～な。だからグラウンドスキルに関しては、正直言ってそんなにうまくはなってないよ。でも、寝技になっても以前よりリラックスして闘っているのが、いい結果を生んでるんだろうな。

有名人になったからもうケンカは卒業したよ でも、ガールハントはいまでも絶好調だ！（笑）

——それは寝技の闘いに慣れたから、リラックスできるということですか？

アイブル　それもあるし、前のトレーナーのときは、「寝技になったら、とにかく立て！」って言われてたんで、焦って立つことだけを考えてたんだ。だけど、いまのトレーナー（イワン・ヒポリット）には「寝技になったら、そのまま、グラウンドで闘ってもいい」って言われているから、寝技になっても落ちついて闘っていられるんだ。

——そもそもゴールデングローリーからボスジムに移った理由はなんだったんですか？

アイブル　ん～、なんて言ったらいいんだろうな。ゴールデングローリーというのはジムではなくて、マネージメントをする組織なんだ。そこと契約したトレーナーについてもらってたんだけど、俺にはちょっと合ってなかったから、移ったということだろうな。



［10.28　シュートボクシング GROUND ZERO TOKYO 2007］
東京・両国国技館
○ギルバート・アイブル vs 桜木裕司×
（1R 1分48秒、TKO）
SB初出場となったアイブルの相手は、佐山サトルの一番弟子、掣圏会館の桜木。アイブルは身体の緩みが心配されたが、「人生を懸けて闘う」と意気込む桜木をあざ笑うかのように、フックの連打で次々とダウンを奪い、わずか1分48秒で3ノックダウンのＴＫＯ勝ちを奪った。

——トレーナーであるヒポリットさんから見て、アイブル選手がボスジムに来たとき、どこを直せばもっといいファイターになると思いましたか？

ヒポリット　本人もさっき言ったように、とにかくリラックスすることだね。ギルバートは身体能力も高いし、その潜在能力は世界でもトップクラスのものを持っている。でも、なかなか自分の力を出せずにいたんだ。だから、とにかくリラックスして、自分の力を出すことさえできれば問題ないはずだと思っていたよ。

——これまでは意気込みすぎてた部分もあるんですかね。

アイブル　そうだな。リングスの頃は何も考えずにただ暴れていたけど、『PRIDE』は世界中から注目されるビッグイベントで、ビッグマネーも入ってくるから、プレッシャーも大きかったんだ。それで頭の中では「こうしなきゃいけない」「これはやっちゃいけない」って、いつもパニックになってて、いい試合ができなかった。でも、いまはいいトレーナーといい友だちに恵まれてリラックスできているんで、いいファイトもできているんだ。

——私生活も変わりましたか？　以前はリング上より路上での闘いが多かったみたいですけど（笑）。

アイブル　そりゃ変わったよ。30歳すぎてバカやってられないだろ（笑）。昔は、あんまり有名じゃなかったから、ケンカもし放題だったけど、いまは顔が知られちゃってるので、ケンカをしたら有名人なりのクレームが来るし、かつ格闘家ということで暴力を振るうこと自体が、凶器と見なされてしまう。大きなトラブルになっちまうので、いまはケンカから足を洗ったんだ。同じ人を殴って蹴ってぶっ飛ばすなら、しっかり金をもらって、リング上でやったほうがいいって気づいたんだよ。

——やっと気づきましたか（笑）。

アイブル　昔は金がなかったからケンカで憂さを晴らしていたってこともある。でも、いまはバイクもあるし、X—box360も買ったから、それでストレス解消できてるから大丈夫！　やっぱりお金ってサイコーッ！　ダハハハ！

——世の中、金だと（笑）。あと、アイブル選手といえば、来日するたびにいつも違う美女を連れてましたけど、ナンパ方面ももう卒業したんですか？

アイブル　そっちは絶好調だよ（笑）。

——ナンパはまだまだ現役（笑）。

アイブル　昔は直接、声をかけて口説いていたけど、いまはインターネットがあるから、ガールハントはイージーになったんだ。自分のホームページを開設して、ギルバート・アイブルへのメッセージ欄を作って、セクシーポーズをとった写真を載

せとけば、向こうからバンバン寄ってくるからね。いまはサイバーハンティングとして活動してるよ（笑）。

——サイバーハンターでしたか（笑）。では、そんな公私ともに絶好調のアイブル選手ですけど、『ＰＲＩＤＥ』がなくなって、これから上がりたいリングはありますか？

アイブル　とくにこれといって上がりたいリングはないけど、とにかくいい条件で、いい金をくれればどこでもいいよ。

——ヒョードルが契約した『Ｍ—１グローバル』には興味ありませんか？

アイブル　もちろん、いい契約を提示してくれれば、喜んで闘うよ。じつは俺の友だちがＭ—１のヨーロッパ担当エージェントなんだ。だから、いいオファーを持ってくるのを期待してるよ。

——そういえば、ちょっと前にヒョードルの相手として噂になりましたよね？

アイブル　ああ、そういう噂があったのは知ってるよ。もしチャンスがあればやりたい……というのは、インタビュー用の答えで、ホントはあんな化け物とやりたいわけねーだろ！（笑）。

——ダハハハ！　正直なお答えありがとうございます。

アイブル　でも、ロシア人のレフェリーはぶん殴ってやりたいな。

——なぜ、ロシア人のレフェリー？

アイブル　Ｍ—１でダニエル・タベラと闘ったときのレフェリーが、ホントに何もわかってない大バカ野郎だったんだ。こっちが４～５回マウント奪ってるのに、その都度、ブレイクさせられるんだよ。あのバカ、「ポジションを変えて動け」とか言ってやがったけど、マウントっていうのは一番いいポジションじゃねーか。そこをキープするのはあたりまえだろ！　あの大バカ野郎のおかげで、結局、引き分けになっちまったんだ。だから、一番闘いたいのは、あのロシア人レフェリーだ！

——そういえば、『ＰＲＩＤＥ』のときも島田レフェリーとの〝抗争〟がありましたね（笑）。

アイブル　シマダ！　あいつもバカだったなぁ。イエローカードばっかり出しやがって。次の相手はシマダでもいいや。

——では、『ハッスル』でお待ちしてます（笑）。そんな話はいいとして、この夏はクロアチアでミルコ・クロコップと一緒に練習していたようですが、いかがでしたか？

アイブル　よかったよ。トレーナーとレミー（・ボンヤスキー）と３人で、１ヵ月間クロアチアに滞在して、ミルコに厳しい練習をしてやったけど、なかなか充実してたし、よかったよ。

——スパーリング中にヒザ蹴りでミルコをダウンさせたらしいですね？

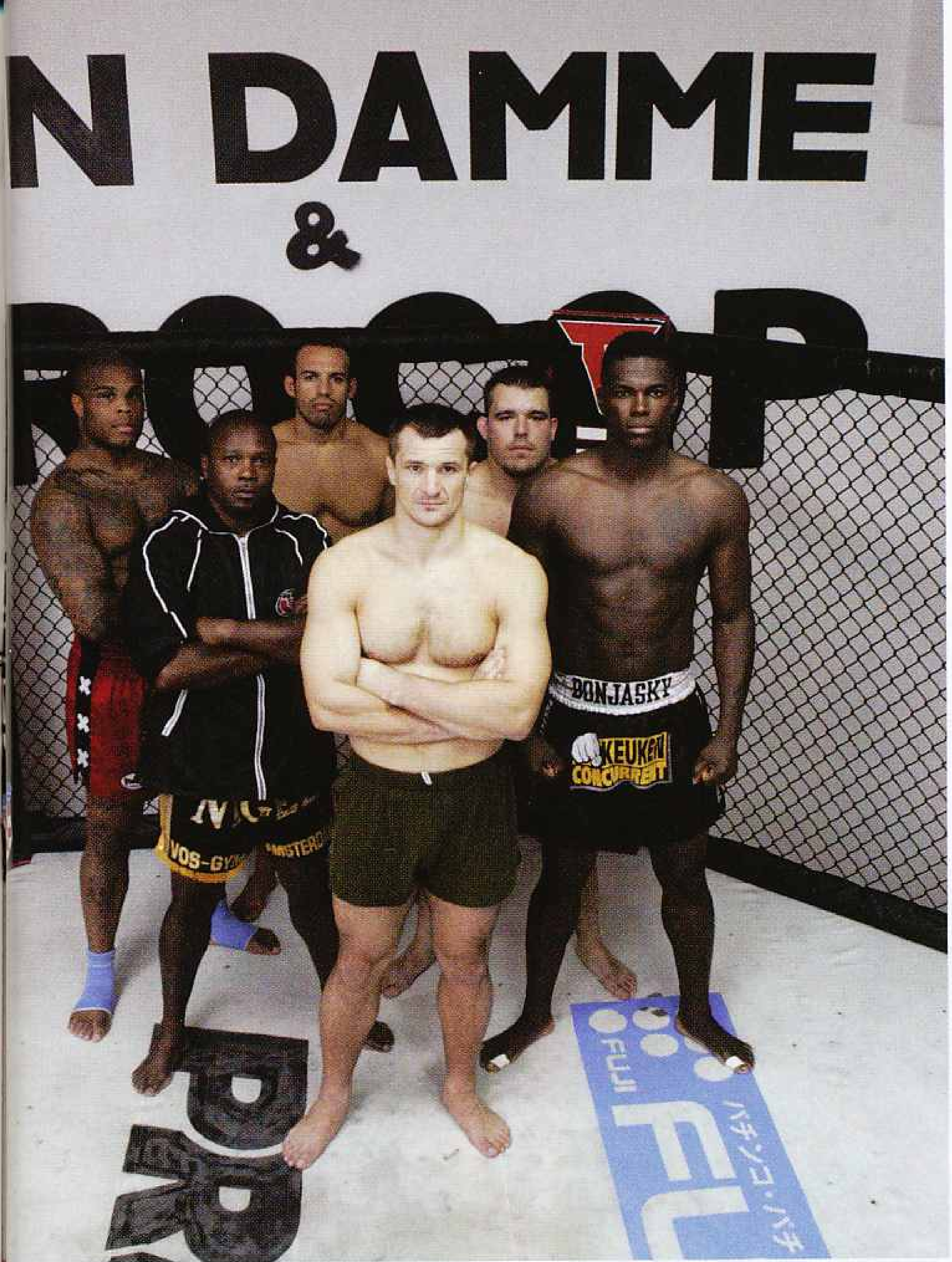
アイブル　オー！　なんで知ってんだよ（笑）。それはシークレットだよ。まだ噂の段階なんだったら、噂のままでいい。スパーリングパートナーとして呼ばれて、いい金もらってるのに、ミルコをぶっ飛ばしちゃったなんて俺の口からは言えないからな（笑）。

——おもいっきり言ってます（笑）。

アイブル（小声で）内緒だけど左ヒザだよ。ミルコ、苦しそうだったな～。

——全然、悪いと思ってませんね（笑）。

ヒポリット　ミルコはＭＭＡをずっとやってたことで、正直言って、スタンディングの能力が落ちてたんだ。それをブラ



今年８月、トレーナーのヒポリット、レミー・ボンヤスキーとともに、クロアチアへ行き１カ月にわたってミルコのトレーニングキャンプに参加したアイブル。来年１月には、今度はミルコがオランダに来て一緒にトレーニングする予定だという。

スパーリングパートナーとして呼ばれたのに、ミルコをぶっ飛ばしちゃった（笑）

GK金沢隊長も大興奮!

国連支援児童福祉・ガン難民救済チャリティーイベント

BATTLE SUMMIT GROUND ZERO TOKYO 2007

両国国技館

PUTIT REVIEW



○横田一則vs ファディル・シャバリ×
（3R 判定3-0）

BRABAKAの横田が、"立ち技バーリ・トゥード" SBのルールを最大限に利用し、打撃とタックルを組み合わせてシャバリを幻惑。3R、首投げでシュートポイントを奪い、見事"本職"から勝利を奪った。



○及川知浩 vs 阿部裕幸×
（3R 1分06秒 TKO）

総合格闘家である阿部兄ィが、SB日本フェザー級王者と対戦。阿部はDEEPの今成戦でも見せた古武術の構えを見せるが、終始打撃のめった打ちに遭いKO負け。あの構えの謎は深まるばかりだ。



○石川剛司 vs 村浜武洋×
（3R 判定3-0）

90年代を支えた元SBのエース村浜が９年ぶりに古巣に登場。村浜は終始、積極的に前に出るがローキックを中心に距離をとる石川を攻めきれず、逆に２Rにダウンを奪われ判定負けを喫した。

ッシュアップさせるために、レミーとギルバートを連れて、トレーニングさせてたんだけど、レミーはジェントルマンだからきちんと指導してたんだけど、"もう一人の男"はトンパチだから、ついついやりすぎちゃったんだ（笑）。

――必然的にハードトレーニングになっちゃうわけですね。ではミルコはなぜチーク・コンゴに負けてしまったんだと思いますか？

アイブル　ミルコは自信をなくしたから負けたんだよ。

――それはアイブル選手がダウンさせたから？（笑）。

アイブル　あ、もしかしたらそうかも。ゴメンナサーイ、スイマセーン（笑）。ガハハハハ！

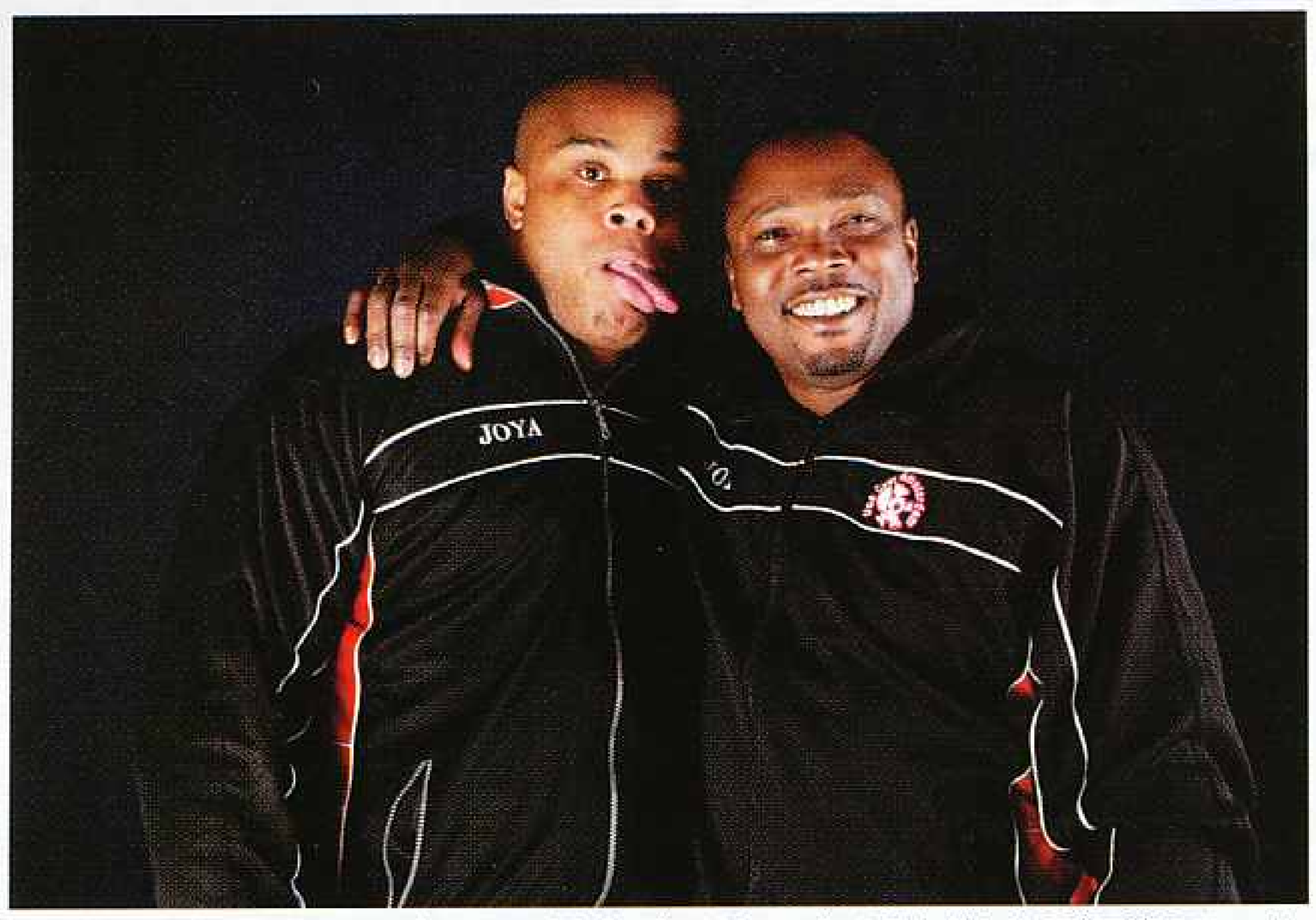
ヒポリット　真面目に答えると、あの試合はミルコにとって、チャーク・コンゴとの闘いではなく、自分自身との闘いだったんだ。ミルコは自分自身に勝てなかったんだよ。ミルコ本来の実力だったら勝てる相手に負けたわけだからね。

――ミルコが復活するには何が必要だと思いますか？

ヒポリット　ただひたすら闘うしかないだろうな。失なった自信は試合でしか取り戻せないものさ。まず彼はUFCでゴンザガにKO負けを喫した。そのKOのダメージもある。次にチャーク・コンゴに判定負けしてしまったことで、さらに自信をなくしている。しかもクロアチアのサポーターの前で負けてしまったというプレッシャーがある。その3つがいま、彼の肩にのしかかっているんだ。それを乗り越えるには、闘って自信を取り戻すしかない。ミルコは成功への道にかかる橋から落ちたんだ。でも、まだ生きている。生きているなら、もう一度這い上がって橋を渡るしかない。ほかの方法はないんだ。

――次にオファーが来たら、またミルコと一緒にトレーニングしたい気持ちはありますか？

アイブル　もちろんやるよ。1月から一緒にトレーニングする予定なんだ。お互いのためにも、またガンガンやるつもりさ。



左・GILBERT YVEL■1976年オランダ出身。"ハリケーン"の異名どおりの破天荒のファイトが信条のストライカー。99年リングスに初来日。2000年には田村潔司をKOし、リングス無差別級王座に輝くも、その直後に『PRIDE』移籍。その『PRIDE』では結果が出なかったが、母国オランダではセーム・シュルトやチーク・コンゴをKOしている。187cm、104kg。

右・IVAN HIPPOLYTE■I1964年オランダ出身。ラモン・デッカー、ライアン・シムソンらと並ぶ、オランダ中量級史上に残る名キックボクサー。90年代前半は中量級世界最強の名をほしいままにし、本場タイでも活躍。日本では94年『K-3グランプリ』で金泰泳を破り優勝。コーチとしてもアーネスト・ホーストを育てた手腕は高く評価されている。178cm、73kg（現役時代）。

目標はでかい家を建てて、ポルノガールをはべらかせて生活することだ！（笑）

――明日の試合が終わったら、K-1 WORLD GP決勝トーナメントを控えたレミーのサポートもするんですか？

アイブル　彼が頼んでくれば考えるよ。レミーはいいヤツなんだけど、あいつは変わってるからわからないな（笑）。

――でも、アイブル選手はレミーにとって最大の敵であるセーム・シュルトをKOした男じゃないですか。

アイブル　そのとおりだよ！　ああいうバカでかいヤツを倒すのは、飛びヒザ蹴りが有効なんだ。レミーも飛びヒザ蹴りが得意だから、ちゃんとやれば勝てるだろう。じゃあ、K-1のイベント後のパーティに連れてってくれることを条件にヘルプしてやろう（笑）。

ヒポリット　ギルバートは冗談で言ってるけど、チーム内でヘルプし合うのは当然だからね。レミーやギルバート、そしてミルコを含めて、ヘルプし合いながら、いい結果を出していきたいと思ってるよ。

――わかりました。では、アイブル選手、最後にこれからの目標を聞かせてください。

アイブル　目標？　それはだな、金をしこたま稼いで、高級車を6～7台買って、バイクも11台買って、でかい家を建てて、ビバリーヒルズの誰かさんみたいにポルノガールをはべらかして生活することだな。ガハハハハ！

――素晴らしいお答えありがとうございました（笑）。

アイブル　じゃあ、ヤキトリ食いに行こうぜ！　ヤキトリーッ！　ヤキトリーッ！　ガハハハハ！

【07年10月27日／浅草ビューホテルにて収録】



○アンディ・サワー vs アンディ・オロゴン×
（3R 判定3-0）

K-1 MAX王者と"最強の素人"、ミスマッチかと思われたこの対戦だが、アンディが1Rにカウンターのストレートでダウンを奪う大善戦。2Rから本気モードのサワーに判定負けしたが、大きく株を上げた。



○ブライアン・ロアニュー vs 緒形健一×
（2R 0分44秒 KO）

初代K-1 MAX王者クラウスの欠場により、4.8『PRIDE.34』で青木と対戦したロアニューが急遽、緒形と対戦。緒形は対戦相手変更がメンタルで響いたか、まさかのKO負けを喫した。



○桜井"マッハ"速人 vs ヤニ・ラックス×
（3R 判定3-0）

プロデビュー前にSBに入門していたマッハがプロとしてSB初登場。『PRIDE』のテーマで入場したマッハは、重いフックとボディブローで攻め、KOこそ奪えなかったものの勝利を挙げた。



○宍戸大樹 vs ビッグベン・ケーサージム×
（3R 判定3-0）

2月にエース緒形に何もさせずにKOしたムエタイ王者ビッグベン。宍戸は絶対的不利と思われたが、パンチの連打で徐々にスタミナを奪い、猛攻をしのぎきって判定勝ち。完全復活をアピールした。

12月6日発売!

価格￥5040(税込)



K-1がDSに初登場!

シュルトを倒すのはキミだ!

“絶対王者”を育成せよ!!

お待たせしました！　これまでもK－1関連ゲームを数多く手がけてきた株式会社ディースリー・パブリッシャーが、K－1の今年最後のビッグマッチ12・8『K－1 WORLD GP 2007 FINAL』横浜アリーナ大会を前に、NINTENDO DS用ソフト『K－1 WORLD GP 絶対王者育成計画』を発売するって！　買うしかないって‼

K－1ゲームがDSに登場するのは今回が初。これまで野球やサッカーなど、スポーツ関係の育成ゲームはいくつかあったが、格闘技、しかもK－1の育成ゲームはもちろん初めて。ゲームタイトルに「絶対王者育成計画」とあるように、このゲームの最終目的はK－1 WORLD GPの絶対王者の育成なのだ。

なんとも遠大な目標ではあるが、男なら（女でも）やると決めたら育てるっきゃない！　待ってろよ、セーム・シュルト！（何年かかるかわかりませんが）。

というわけで、K－1絶対王者育成のはじめの一歩は、自らがオーナーとなりジムを新設するところから。そこからは、世界各国から自身でスカウトしてきたファイターに、さまざまなトレーニングや試合経験を積ませ、世界に通用する選手にするべく、ひたすらレベルをアップさせていくしかないのだ。

さまざまな困難や試練を乗り越えた先には、きっとK－1 WORLD GP優勝という結果と輝かしい未来が待ち受けているはずだ。間違いない！

もちろん、そう簡単にK－1王者になれるわけはない。現実の世界と同様に、華々しい舞台の裏側では、たくさんの血と汗と涙が流れているものだ。……とはいっても、さすがに血と汗と涙ばかりでは、K－1王者になる前に挫折しちゃう人も多いはず。そんな人のために（？）このゲームでは成長過程に、実際のK－1の大会や年間スケジュールとリンクしたゲームイベントも多数登場し、現実のK－1のリングを早い段階からヴァーチャル世界で体感することだって可能なのだ。素晴らしい！

しかも、トライアウトやスパーリングが目に止まったら谷川貞治イベントプロデューサーが登場し、直接、試合へのオファーをかけてくることも。んあ〜。

もちろん、K－1全面協力のもと、実名ファイターも多数登場し、キミの育てた選手とスパーリングをすれば、彼らの得意技も習得することだってできるぞ。

ほかにも、ワイヤレス通信で、友人の育成選手と対戦したり、友だちのジムへ移籍したりということもできてしまうのが、このゲームの魅力の一つ。



そんなこんなで、K－1本戦への出場のチャンスをつかんだら、否が応でも相手は世界の強豪ファイターばかり。キミはセコンドとして自ら育成するファイターへ的確な指示を送り続けなければ、K－1王者なんて夢のまた夢に終わってしまうが……はたしてキミは、やれんのか？　やれんのか？　やれんのか？　とにかく、頑張って！

「育成モード」以外にも「WORLD GPモード」や「エキシビションマッチモード」では、実在の選手を操作しての格闘アクションゲームだって可能。今年のK－1マットで大活躍のバダ・ハリや澤屋敷純一も登場！　さらに、現実のリングでは惜しまれつつも引退してしまった、あの選手もこのゲームの中では現役ファイターとして登場するぞ！

何はともあれ、現在のK－1の〝絶対王者〟といえばセーム・シュルトで間違いなし。巨大で強靭なシュルトを倒すには、オーナーのキミの腕次第！　目指せ、K－1絶対王者‼　キミならできる‼

K-1 WORLD GP 絶対王者育成計画

LET'S PRODUCE A GREAT CHAMPION

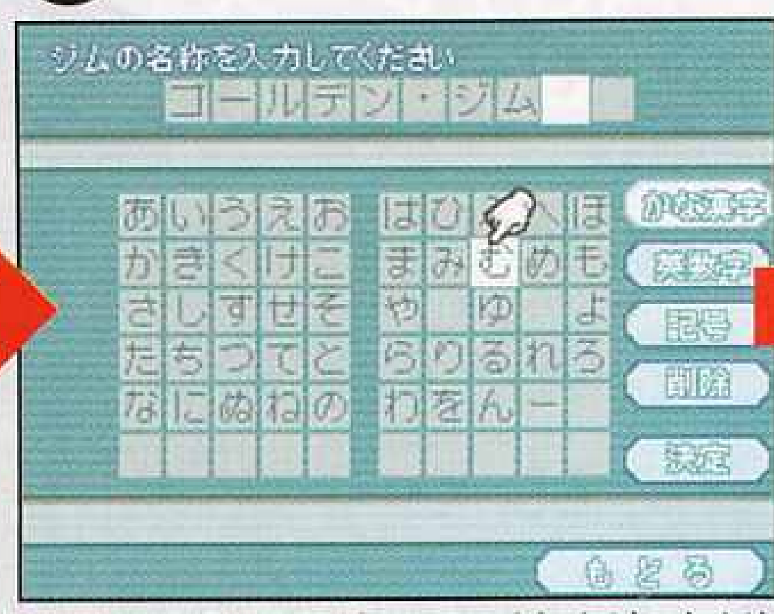
ここでは、キミが一流ジムのオーナーになるため、そしてK-1の絶対王者になるためのゲームの流れを順を追って説明しよう。これを読まないとK-1の絶対王者は育成できないぞ！

1



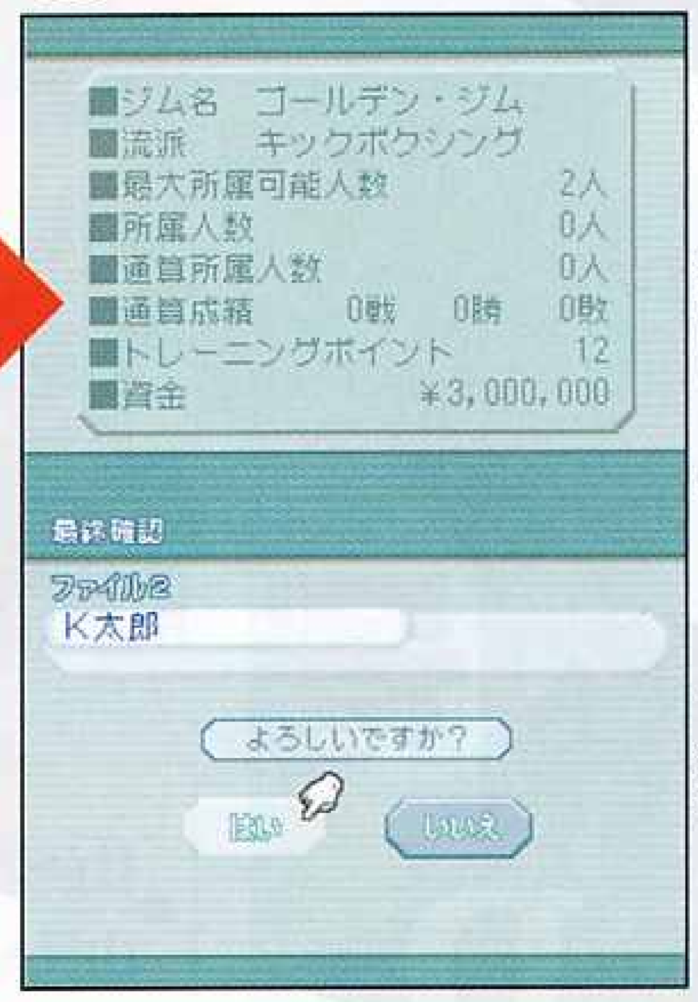
まずはメインメニューから「絶対王者育成計画」を選択するんだ。これは育成シュミレーションがメインのゲームモードだ。操作はタッチペンで！

2



続いては自分の名前（オーナー名）とジム名を決めよう。架空のジム名をつけるのもよし、有名ジムの名前を拝借するのもゲームなら問題なし！

3



次に決めるのはジムのスタイル。キックボクシング、ボクシング、ムエタイ、空手の中から好きなスタイルを選択せよ！

4



諸々の登録が終わると、いよいよジムオープン当日だ。トレーナーが登場し、ナビゲートをしてくれるぞ。えっ、谷川イベントプロデューサーが!?

5



んあ〜。なんとジムのオープンを祝って谷川イベントプロデューサーがかけつけてくれたぞ！　谷川氏の期待に応えられるよう、名伯楽を目指せ！

6



次は所属選手の契約だ。「プロフィール」「ステータス」「スキル」をよく見て有望な人材をスカウトしよう。ちなみに最初の資金は300万円だ！

7



選手との契約が無事に終わったら、その選手にリングネームをつけてあげよう。憧れのあの選手と一緒でもいいですよ！

8



ここからは、いよいよ地獄のトレーニングの始まるぞ。K-1の絶対王者になるには生半可な練習では不可能だって！

9



明日のK-1王者を目指し、フィジカル、オフェンス、ディフェンス、実戦、メンタルなどトレーニング内容を決めたら、血と汗と涙を流し特訓あるのみ！

10



トレーニングにはミット打ちをはじめとするミニゲームも組み込まれている。写真は滝から落ちる流木を避ける特訓だ。一歩間違えば、あの世行きです！

11



必死にトレーニングを積んでいると、突如怪しげな男が登場！　自らのジムの選手を連れて現われたこの男は、なんとスパーリングを申し込んできた！

12



「いつ何時、誰の挑戦でも受ける！」とばかりに、スパーリングの申し出を受諾。もちろん、ジムの会長のキミが自らセコンドにつくことも可能だ！

13



初の実戦は無惨なKO負けという結果に……。しかし、K-1王者になるためには、こんなところで挫けちゃいられないぞ。また明日生きるんだ〜ッ！

育成だけじゃない。あのファイターと本格格闘アクションゲームも可能だ！



実際の試合ではバンナに完勝した澤屋敷だったが、ゲームでは思うようにはいきません。



今年3月の横浜大会でバンナを下し、一躍脚光を浴びた澤屋敷ももちろん登場します！



ご覧のとおり、シュルトvsアーツのオランダの実力者同士の一戦も簡単に実現ですよ！



エキシビションマッチモードでは"絶対王者"のシュルトも登場！　相手はどうする？

今回のゲームのメインは選手育成だが「WORLD GPモード」や「エキシビションマッチモード」では実在の選手を操作しての格闘アクションゲームも可能だ。ホンマン、ボンヤスキー、バダ・ハリといった常連ファイターはもちろん、今年のK-1 GP決勝トーナメントに日本から唯一参戦する澤屋敷純一、ほかにも武蔵、角田信朗、曙などなど、実在のK-1ファイターが20名以上も登場！　さらには引退したあの選手も現役として登場！　誰かって？　それは買ってからのお楽しみ！

[お問い合わせ] 株式会社ディースリー・パブリッシャー サポートセンター
東京＝TEL.03-5428-3458　名古屋＝TEL.052-774-0638　http://www.d3p.co.jp
ユーザーサポート受付時間＝年中無休 24時間サポート



この世の終わりの始まりか……

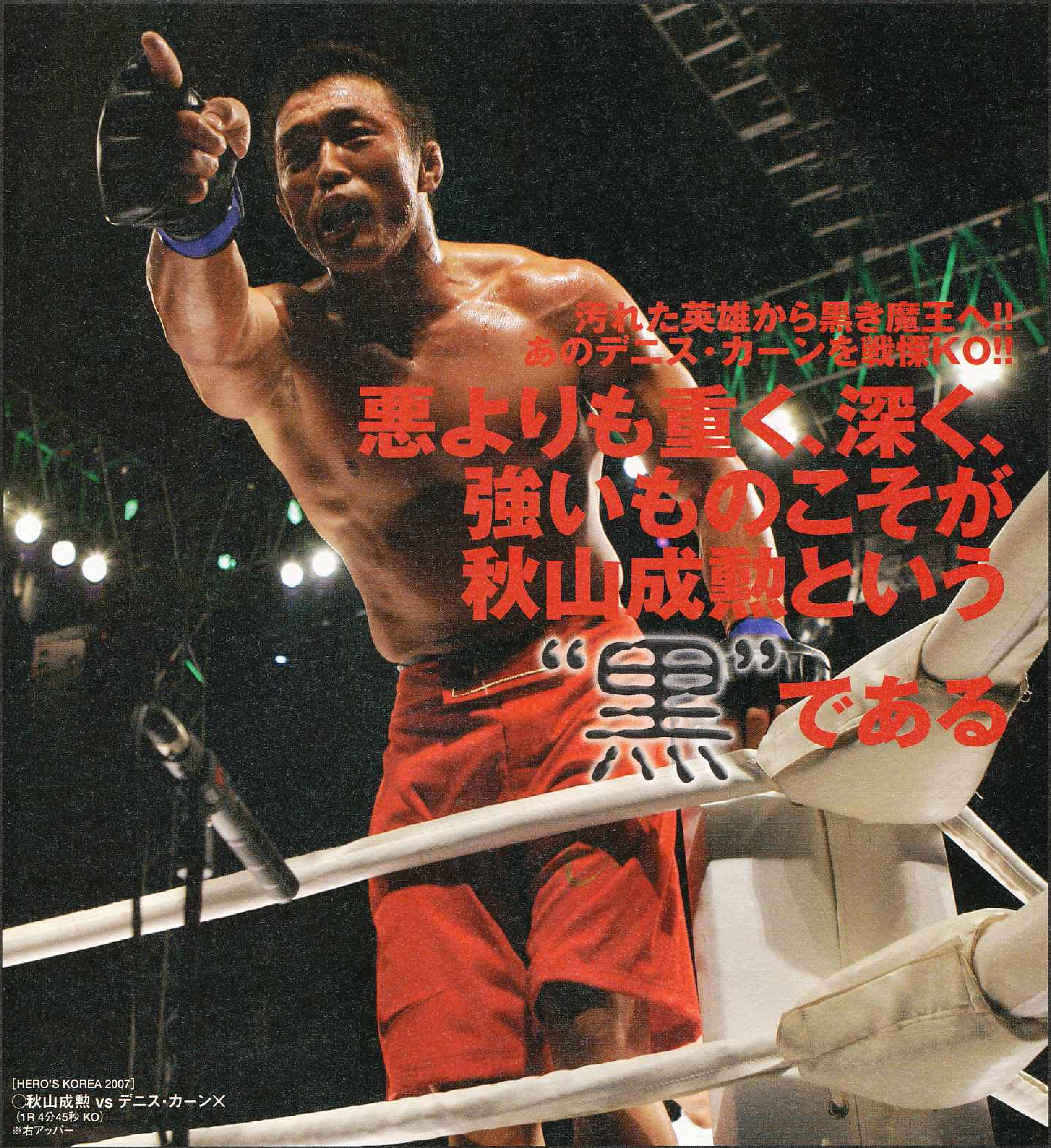
10.28HERO'S 秋山成勲復帰戦

黒魔王聖誕祭

撮影／乾晋也

汚れた英雄から黒き魔王へ!!
あのデニス・カーンを戦慄KO!!

悪よりも重く、深く、強いものこそが秋山成勲という“黒”である



[HERO'S KOREA 2007]
◯秋山成勲 vs デニス・カーン×
(1R 4分45秒 KO)
※右アッパー

この上なく強烈な復帰劇であった。強豪デニス・カーンを豪快に打ち倒し、〝MMAの問題児〟秋山成勲が帰ってきてしまった。

やまぬバッシング。10ヵ月のブランク。強豪相手のプレッシャー。戦前にこれほどのネガティブ要素を抱えてしまっては、モチベーションの低下どころか基礎能力の発揮すらままならぬのが普通である。しかし秋山は、以前と変わらぬ〝凄み〟と〝怪物性〟を伴なってそこにいた。より厚みを増した胸板の印象も手伝ってか、オーラは以前よりも大きくなった感すらある。仮にほかの選手が秋山と同じ境遇に置かれたとして、これほど完璧な状態で復帰戦に臨めるものだろうか。

やはり強さや技術とは別次元のところで、この男は特異なのである。特別ではなく〝特異〟なのだ。試合の内容もまた怪物的なものであった。序盤はカーンの立ち技スキルを測るかのように打撃を交え、脅威でないとみるやたびたび大胆に間を外し、常に優位な距離をキープする。そしてカーンが鼻先をカットし集中力を欠いたとみるや、徐々に圧をかけてコーナーへ追い込みコンビネーションブローでKO。柔道家らしからぬ勝ち方はいつものことだが、今回はもはや格闘家らしさをも超えた〝野獣性〟すら匂わせてしまっていた。あれほど爽快な勝ちっぷりでありながら、どこか目をそむけたくなるような凄惨さが漂っていたのもそのせいだろうか。

そしてなによりも戦慄を覚えたのは、秋山が見せたあの〝回転〟である。秋山は身体をくるりと一回転させることによってカーンのタックルを切ってみせたが、あれはまさしく桜庭和志戦において〝ヌルヌル疑惑〟のきっかけとなったムーブそのものではないか！

桜庭がタックルを仕掛けたときも、秋山は同じように回転して逃れた。桜庭が〝すべり〟をはっきりと意識してアピールを始めたのはその瞬間からであるし、事後の検証においても「あのような逃れ方は不自然（すべらなければ難しい）」とされた。つまりは秋山にとっても観客にとっても、あの〝回転〟は〝ヌルヌル疑惑〟を即座に連想させる忌まわしきムーブであるはずなのだ。

そのような背景をものともせず、華麗にクルクルと回りカーンのタックルを完封してしまった秋山の強さと図太さに、きわめて特異なものを感じてしまったのは筆者だけなのであろうか。むろん「ああいう事件のあとなんだから、疑われるようなムーブはどうか」というような批判はまったくもって的外れである。だが、秋山成勲というファイターの精神構造を測るうえで、この〝回転〟はきわめて重要なポイントであるといえよう。

おそらく秋山は、疑念をまったく恐れていない。彼にとってバッシングは〝障害〟でこそあれ、決してモチベーションの低下にはつながらないのだ。決戦前日にはわざわざ「多汗症のため（桜庭戦で使用した）クリームは日常的に塗っている。いまも使ってます」と宣言し、試合では〝疑惑の種〟となりかねないムーブをためらいなく繰り出す。同じ立場になれば誰もが疑念やバッシングを恐れ、必要以上に神経質なふるまいに出るのであろうが、秋山にはそういった細かさがまったくない。この図太さ、まさしく怪物的である！

とにかく秋山は戻ってきてしまった。しかもデニス・カーンという強豪を悪魔的な内容で圧倒し、同階級最強の座にまた一歩近づくというオマケ付きである。この衝撃により、我々が思い描いていた『HERO'S』の未来予想図は粉々に消し飛んだ。秋山の今後は？ UWFは？ 『HERO'S』はどんな物語を描いてゆくのか？

単なる勝ち負けには収まらないこの異常すぎる結果、すなわち今回、秋山が見せつけたその〝特異性〟と〝怪物性〟には、我々の展望をはるかに超える質量があったと言っていい。









そもそも日本のファン不在のまま強引に復帰をはたした秋山は、たとえ勝利したところで、その栄光を日本には持ち込めない。そこまでは展望どおりで、問題はそこからヒールとしての立場を確立するか、再び〝みそぎ〟の道を歩み直すかであったが、どうやら今回の結果は秋山を巨大にしすぎてしまったようなのである。MMAはプロレスではないから、あくまで〝強さを競う競技〟であらねばならない。したらば秋山が〝最強〟の一角に名乗りをあげてしまったいま、物語の外側に置いておくことは難しくなった。たとえファンが秋山の存在を拒否したとしても、〝最強に最も近い男〟をミソにして綴られるMMA物語は、どうやったってスケールが小さくならざるをえないのである。

そうなると心配なのは、『HERO'S』のメインストーリーに位置しているUWF物語の商品価値だ。〝ヌルヌル事件〟をいまだ許さぬファンの中にも、「秋山は桜庭より強かった」とする声は悲しいほどに多い。ならば反則のいかんに関わらず、秋山は桜庭を〝踏み台〟にしていまの強大な存在感を勝ち得たといっても過言ではないのである。これは、あいもかわらず独特の節回しでファンをやきもきさせている田村潔司の動向によってはあっさり解決する問題でもあるのだが、とにかくいまのままだとUWFは〝強さを競う競技〟に参加することはできない。勝敗を超えたウェットな世界でのみ繰り広げられる彼らの物語は、はたして『HERO'S』の主軸であり続けることができるのだろうか。

それは「誰が秋山を倒すのか？」というきわめてエキサイティングな構図をも上回り、MMAファンの支持を集められるほどのドラマになりうるのだろうか。いずれにせよ秋山はすでに、存在するだけでUWF物語をおびやかしてしまうほど巨大になっている。

いまや秋山の怪物性、ならびに特異性は、多くのファンが認知するところだ。いままで秋山に対して「単なる卑怯者」程度の認識しかなかったライトな層も、あの悪魔的ファイトには打ちのめされたはずである。おそらくは反則など、秋山の一部でしかない。もっともっと強大な〝黒き要素〟の集合体こそが〝秋山成勲〟なのであり、それはひょっとすると〝悪〟ですらない。〝悪〟よりも重く、〝悪〟よりも深く、〝悪〟よりも強いものこそが〝悪〟であり秋山なのだ。罪を犯して罰されながらも、まるで色を薄めぬまま〝黒の戦士〟は帰ってきた。むしろ暗黒の闘気はよりいっそう深みを増し、もはや手のつけられない大きさになってしまったようでもある。

MMA史のあとにも先にも、これほど黒く凝り固まったファイターは存在しえないであろう。歴史に残るナチュラル・スーパーヒールの誕生である。10・28『HERO'S』韓国大会は、まさしく〝黒き魔王〟の聖誕祭となった。「観る価値のない嫌われ者」から「無視できぬ強大な存在」へと変貌を遂げつつある秋山。赦されぬ罪によって〝英雄〟の座を追われた男が、いま最もふさわしい席へと導かれたのだ。

こうなってくると問われるのは、観る側の覚悟であろう。〝魔王〟秋山を「嫌いだから」といって意識からシャットアウトしてしまうのはたやすいが、それはおそらく秋山以外の選手を、ひいてはジャンルそのものを守ることにはつながらない。いまこそ観客は、選手とともに秋山と闘うべきなのである。〝魔王〟の台頭により、観る側が無傷でいられる時代は終わった。選手とともにリングへ上がり、ともに闘い、ともに傷つけなければならない。覚悟さえ決まれば、その先には最高のカタルシスが待っているのだから。

（田中太陽）

“被害者”サクは沈黙！ 田村は秋山戦、撤退宣言!?



“魔王”秋山復帰戦証言集

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

選手&関係者が見た秋山復帰戦

強豪デニス・カーンに右アッパーで失神KO勝ちという衝撃的な復帰戦を飾った秋山成勲。

復帰戦をどう見たのか、一番気になるのが、やはり桜庭和志だ。しかし、現在ブラジルでトレーニング中の桜庭からは何一つ発言は聞こえてきていない。

一方、秋山に対戦表明をしていた田村潔司は、試合内容は評価するも、試合後すぐにカーンのもとへ挨拶に行かなかった秋山を、礼に欠けると指摘。さらに秋山vs吉田戦が持ち上がると「それだったら譲ります」と秋山戦からの撤退を示唆する発言も。しかし、田村のことだけに、その発言をストレートには受け取らないほうがいいだろう。

秋山復帰戦をどう見たのか？ 関係者の証言集を一挙に公開！



韓国大好きっ★
谷川貞治

「サクちゃんはブラジルのシュートボクセで練習していたので、秋山成勲vsデニス・カーン戦は観てないです。試合結果は関係者が伝えたそうですけど、なんて言ってたのかなあ……。『今日は雨が降ってジメジメしてる』とか、まったく関係ないことを言ってたみたいです（笑）。だから秋山選手の〝あ〟の字も出てないですよ」



復活マッドネス
船木誠勝

「秋山選手は、たぶん、凄い自信満々でやった試合ではないと思うんですよ。カーン選手は強いですから、負けたら負けたで仕方ないぐらいの気持ちで闘ってて、それでも試合になれば必死に抵抗するじゃないですか。そしたらいいパンチがだんだん入ってきて、ジャブが2～3回クリーンヒットしてるんですね。で、鼻が切れて出血して。あのジャブで自分のペースになって、逆に相手が追い込まれていって、最後にアッパーが入ったっていう感じですよね。だから、本人が一番ビックリ仰天なんじゃないですかね（笑）。ホント、失うものはないというか、さんざん叩かれて1年近くきてたっていうのが、逆に彼に強さを与えたのかもしれないですね。そういう意味では図太いというか（笑）、気持ちが凄く強い選手だと思いますね」



永遠のボヤキング
金原弘光

「秋山の復帰戦は、俺はテレビで観たけど、試合自体は良かったんじゃない？ 前に前に出て下がらずに闘ってたし。以前より動きは良くなってるよね。テレビでは『コーチも去った』とか言ってたけど、謹慎処

分中もいい練習できてたんじゃないかな。デニス・カーンが彼本来の動きじゃなかった気はしたけど、それを差し引いても、最後のアッパーは衝撃的だったし、良かったと思うよ。

でも、試合後のあのはしゃぎっぷりはないよね。あれは、つい最近まで謹慎処分中だった男の振る舞いじゃないでしょ。あれ観て、『こいつ反省してねぇな』って思ったよ。

たとえば亀田だってさ、会見で謝罪したけど、次に試合したとき、また態度悪くて、試合後『シャーオラーッ！』とか言って騒いでたら、『反省してないな』って思うでしょ？　秋山も同じだよね。謹慎明けの試合というのは、試合内容自体とともに、その振る舞いも見られてるってことがわからないんだろうな。

本当に悪かったと思ってるなら、マイクを持っても、まずは桜庭に対して謝ってさ、迷惑かけた人にも謝って、『これから頑張りますのでよろしくお願いします！』っていうのが普通でしょ。でも、あのはしゃぎっぷりみたら、悪いことしたなんて全然思ってないんだろうなってわかっちゃったよね。

田村さんが、あの秋山の態度を『礼を欠いてる』って批判してたけど、その部分では同じ考えだよ。同じぐらいのレベルの選手同士の闘いだったら、ホント勝った負けたなんて、そのときの運というものがあるからね。相撲で勝ってガッツポーズしないでしょ？　試合というのは相手あってのものだからさ、そういうことって大切だよ。俺も昔は礼節なんて考えなかったけど、これぐらいの歳になると、わかってくるもんなのかな（笑）。そういう意味では、秋山は試合は良かったけど、まだまだですよ。

カーン相手にあの勝ち方したから、秋山とやりたがる人って少なくなるかもしれないけど、俺はメチャクチャやりたいよ！　秋山は打撃センスあるし強いけど、俺はカウンター当てる自信もあるしね。以前は『ぶん殴ってやりたい』って気持ちだけだったけど、いまは純粋にいい選手だから闘ってみたいっていう気持ちもあるよね。

でも、俺の力でマッチメイクがどうなるもんじゃないから難しいよね。俺ができることといったら、神様に祈ることぐらいだからさ。いつも神頼みしてるよ。『秋山と闘えますように』ってね（笑）」



UFCファイター
岡見勇信

「秋山さんとは一緒に練習もしていましたけど、打撃が凄く好きで、打撃中心の練習を取り入れていたので、カーン選手とやるって聞いて打撃戦になるんじゃないかなっていうのは予想していました。でも、同じ階級のトップクラスで、しかも打撃のうまいカーン選手に打ち勝つっていうのは凄いなって思いましたね。（秋山選手と対戦したい？）一緒に練習してるので、あまりそういうふうには考えたことはないですね（笑）。秋山さんとも同じ階級になるので、自分も凄く刺激を受けました」



クワックワッ！
ミヤマ★仮面

「僕は総合格闘技に関しては素人なんで、技術的にはわからないですけども、秋山選手にとって、今回のデニス・カーン戦っていうのは人生の中で大きなターニングポイントの試合だったと思うんですね。その試合で勝つか負けるかで、全然その後の彼の格闘人生が違ってくると思うんで。その大一番で勝ったんで、ホント勝負運が強いっていうか、精神的に強いんだろうなと思いましたね。今後が楽しみだクワ〜〜!!」



自称ハッスルの神の子
RG

「デニス・カーンって強いじゃないですか。『PRIDEウェルター級GP』準優勝ですよね？　そのカーンを、ああやって右アッパー一発で倒すんだから、凄いですよ。弓矢と同じで、やっぱりこう引っぱったぶんだけ戻るというか、上にあがってくるんですかね。でも僕は秋山選手の顔を見ると、どうしてもSHIHOさんの顔を思い出しちゃうんですYO！『FRIDAY』されたじゃないですか？　だから、あの二人はまだ続いているのかなあ？　とか、SHIHOさんは"ヌルヌル事件"のことをどう思っているのかなあって考えちゃうんですYOYO！」



世界のTK
髙阪剛

「あの復帰戦は、全編打撃だったし、総合的な部分は、正直ちょっと見えないところもありましたね。でも、ジャブで鼻が折れたかなんかしたんですよね。ジャブ一発で、あれだけダメージを与えるっていうのは、パンチにウエートを乗せる指導をちゃんと受けないとできないだろうし、相当練習したんだなって思いましたね」



音楽家であり文筆家
菊地成孔

「秋山の復帰戦は観ていませんが、私は秋山は復帰すべきだと思っていたのでなんら抵抗ありません。すでに本誌で述べてきたとおりです。

今回の一件も、秋山のキャラの質を明確にしたと思います。つまり『日本人離れ』しているわけです。日本人は『神経が太くて強いヤツは、ズルいことをしない』と信じており『神経が太くて強くて、しかもズルいことまでする』という強さのあり方が咀嚼できないのではないでしょうか。亀田家のページでコメントしましたが、日本人が言いたいのは結局、『恥を知れ』ということだと思います。

だけど"真の厚顔無恥"ということが世の中にはホントにあって、それを秋山はやってると思うし、はっきり言ってそれが韓流だと思います。ただそれは日本人から見た錯覚みたいなもので、視点を変えれば整合性はもちろんあるはずです。

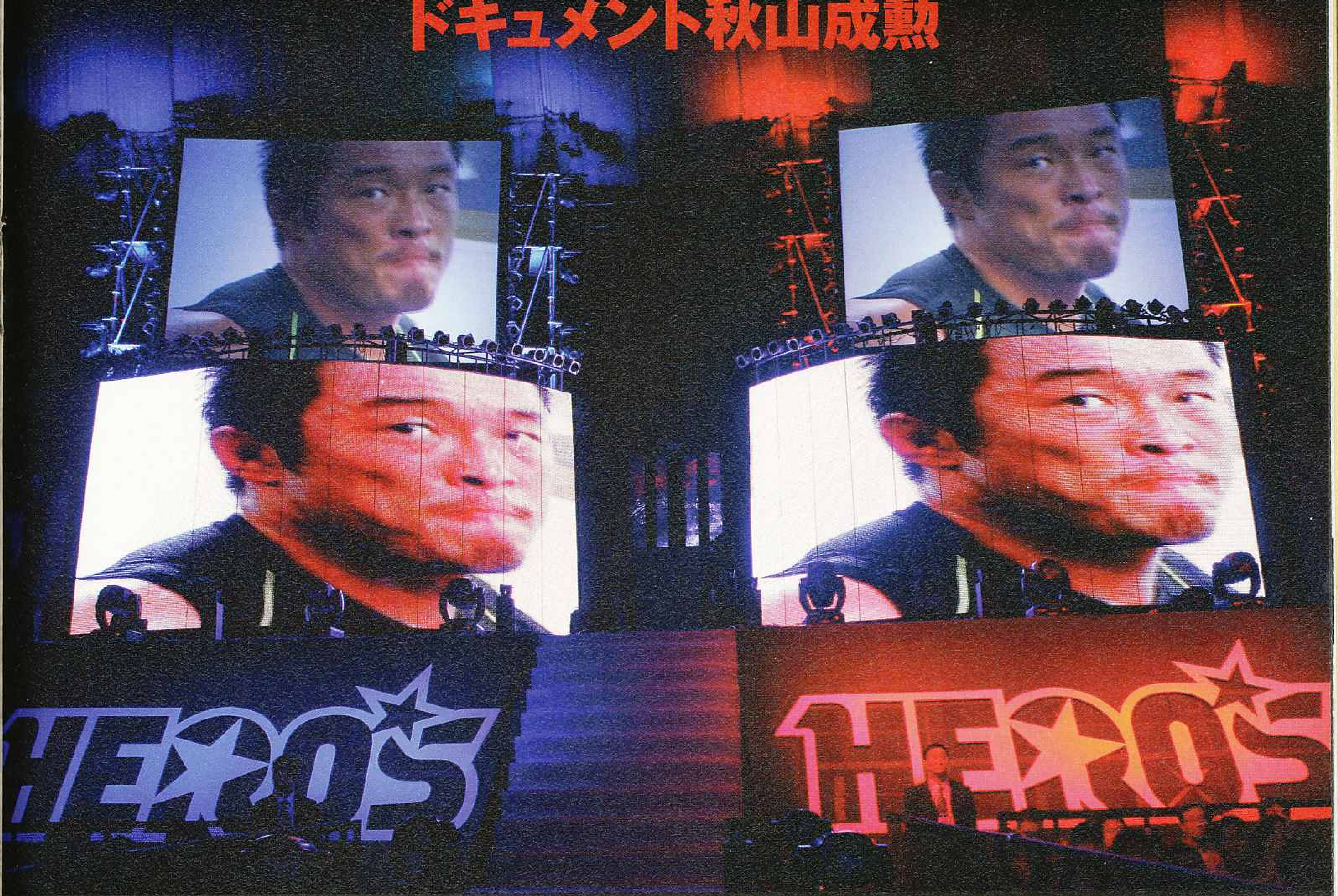
日本に来た欧米人のバックパッカーが、公共ルールを守らなくとも『風体からして違う』ということであきらめますが、秋山のように在日韓国人は姿かたちだけじゃわからない。なので怖いわけです。

これもとても古い構図です。韓国人差別と韓流ブームの根本でしょう。だから日本人のナショナリズム的な感情から見て、秋山が許せないというのは仕方ない。

あとは個々人のナショナリズムに対する考えに還元されるだけです。私は『日本人は脆弱で、韓国人はタフで強い』などと言っているのではない。今回は秋山の強さと太さが問題の焦点に置かれているということです。つまるところ、我々は『恥知らずに勝つ人間』と『恥を知り、正々堂々と負けをとった人間』のどっちを評価するか？　というところを最終的に問われると思うんです。問いとしてじつにいいと思います。

谷川氏が『秋山に"甘えの構造"は許されない』とコメントしましたが、やはりさすがだと思いました。"甘えの構造"は日本人の国民性です。ナショナリズム、脱ナショナリズムは大きな問題ですが、興行としての格闘技は伝統的に、その問題の至近距離に位置し、現在の秋山はそれを必要以上に鮮烈に見せているので、これからも楽しみです。一応明言しておきますが、私は純然たる日本人です」

いま、あらためて振り返る“恐怖の魔王”復帰までの軌跡
ドキュメント秋山成勲



인사이드 코리아（インサイドコリア） 第19回

魔王復活前夜

文／大川“隊長”義之　撮影／乾晋也

“魔王”が10ヵ月ぶりに韓国の地で復活

昨年の大晦日の桜庭和志戦におけるクリーム塗布事件により、無期限出場停止処分を受けていた秋山成勲は、祖国韓国で大観衆からの歓声を浴びながら10ヵ月ぶりの復帰をはたした。

総合格闘家として非凡な力を持ち、また大晦日の事件をきっかけとして世間的にも大きく注目される存在となった秋山成勲は、ＦＥＧとしても早い段階で復帰させたい選手であった。夏場にはミドル級のトーナメントが計画されたり、秋山復帰のためのアンケート調査が会場で行なわれたりするなど、少しずつ復帰に向けた動きが見られるようになっていたが、世間的な反発が消えないためか、実際の復活の日時は不透明なものだった。

一方、韓国における秋山成勲は“祖国を愛しながらも、国籍を捨てざるをえなかった悲運の同胞”という肯定的なイメージがあり、人気の高い選手の一人である。実際に、現在韓国で最も人気のある韓国人格闘家は、1位＝チェ・ホンマン、2位＝デニス・カーン、3位＝秋山成勲、4位＝ユン・ドンシクと続く。そういう意味で、日本で苦境に立たされている秋山が、大晦日に向けて韓国でプレ復活戦を行なうことは、ある意味予想できた流れであった。

韓国での秋山人気の秘密

では、どうして韓国で秋山はこれほどまでに肯定的に受け入れられて

いるのだろうか？　あらためてその歴史を振り返ってみよう。
　韓国籍を捨てた秋山に対して〝祖国の英雄〟として声援を送り続ける韓国。しかし、この秋山人気は、最初から存在していたものではなく、むしろ差別をもって秋山を苦しめた国だった。柔道家時代の秋山は、帰化しない限り日本代表としてオリンピックに出ることはできない立場にあった。才能はあったものの大学時代に実績を残すことができなかった秋山は、韓国・釜山に渡って柔道を続ける道を選ぶ。1998年4月のことだった。
　韓国でメキメキと頭角を現わした秋山だったが、〝在日同胞〟であった秋山はオリンピックの選考試合など、優勢に進めていた試合でもことごとく不可解なひいき判定によって負けてしまう。そんなことが続き、結局、韓国代表の道が断たれると、秋山は2001年の全国体育祭のあと、大勢の報道陣の前で「韓国柔道界は、こんなことやっていてはダメですよ。変わらなきゃ。……柔道を続けるためには、（日本に）帰化するしかない。むしろ韓国で受けた差別のほうが、日本で受けた差別よりひどかった」という言葉を残して、国籍を放棄して日本に帰化する決断を下す。
　祖国を捨てた秋山に対する韓国メディアの報道は「売国奴」、「祖国を捨てた男」と厳しいものだった。秋山の当時の発言を見ても、韓国に対する〝愛国心〟というフィルターはかかっていない。例を挙げると、韓国籍を放棄した際に受けた日本での取材には「日本で生まれて、育ったので韓国にいるとき、日本のことをバカにされるのが嫌だった。だから、国籍を変えるときも迷わなかった。頑固に『韓国人じゃなきゃいけない』っていうのはなかったんです。僕にとって国籍を変えることは『服を着替える』程度の認識しかなかった」と答えている。このあたりを突き詰めて考えていくと、当時から「黒の道」を突き進もうとしていた姿が見てとれる。それは現在、韓国向けに〝愛国心〟を強調する秋山の姿とは明らかに違っている。
　そんな韓国が秋山と韓国の関係が好転したのは、2005年の『HERO'S』韓国大会のときにKBSが制作した『秋山もしくはチュ・ソンフン物語』というドキュメンタリーによるところが大きい。このドキュメンタリーは秋山の半生が詳しく描かれており、内容の質の高さもあって番組は韓国で大きな反響を呼んだ。これを機に秋山は一転して「悲劇の柔道家」、「たとえ国籍を捨てたとしても、彼こそが本物の韓国人」として迎え入れられるようになる。
　2006年の大晦日で彼が反則を犯してからも、韓国で秋山を英雄視する風潮は変わらなかった。いや、むしろ韓国内の世論は「秋山は在日韓国人だから、日本人から不当な過剰処罰が与えられている」との主張を繰り返し、〝日本人にいじめられている秋山〟を徹底擁護するようになっていく。日本で〝無期限出場停止〟処分を受け、厳しい批判に晒されているあいだにも、韓国では『Men's Health』という男性ファッション誌の6月号で秋山が表紙に取り上げられて特集記事が組まれるなど、その人気に翳りは見られなかった。



『PRIDE』時代は思うような結果を残せなかったユン・ドンシクだが、今年は絶好調。6月のマヌーフ戦、9月のガレシック戦、そして今回のファビオ・シウバ戦と、ここ最近は得意の腕十字で連勝中。いずれは秋山との対戦もあるか？

　そんな秋山が10月28日に『HERO'S』韓国大会で復帰戦を行なう。しかも相手はデニス・カーンである。このカードは韓国人とっては特別なカードであった。

韓国人にとっては最高のカード 秋山成勲vsデニス・カーン

　秋山が韓国で復帰するということは、英雄が凱旋試合を行なうことを意味しており、さらにもう一人の英雄でもあるデニス・カーンとの対戦は、試合前から韓国内で大きな反響を呼んだ。
　韓国のメディアはその熱狂ぶりを「このカードは韓国ファンにとってミルコvsヒョードル戦以上の名勝負になるかもしれない。本当にどっちを応援していいかわからない。それよりも、こんなビッグカードをあまりにも早く組んでしまっていいのか」というネット上の反響を紹介しながら報道した。
　韓国人は「恨」の民族だという「恨の精神」の「恨」とは怨恨、痛恨、悔恨、悲哀などといった感覚のことであり、挫折した感受性、社会的抑圧により閉ざされ沈殿した情緒の状態のことである。これは何度も侵略を受け、現在も分断国家として存在する悲哀が表出した民族性なのであろう。韓国で悲劇的なドラマが好まれるのも、涙を流せる番組を観て悲しみを排斥していかないと生きていけないからだ。こうした傾向はスポーツ界でも同じで、不運・悲劇の背景を持つ選手は、苦難を感じさせないスター選手よりも人気があるという特徴を持っている。
　韓国人の父親に捨てられた混血児のデニス・カーン、国際大会47連勝という実力を持ちながらも不公平な判定でオリンピック代表が阻まれた〝不運のヒーロー〟ユン・ドンシク、日本と韓国で差別を受けながらも韓国を愛し、闘い続ける秋山成勲。韓国で人気選手の上位にいる選手は、どこかに傷や悲哀を持つ選手ばかりである。
　日本人にとっては単なる〝いいカード〟である秋山成勲vsデニス・カーンも、韓国人にとっては〝民族の悲劇〟を刺激する強力なカタルシスを享受するドリームマッチであり、試合そのものも大事だが、両者の人生を懸けた人間ドラマも注目されていたのである。事実、『HERO'S』韓国大会が発表されたときにはそれほど話題にならなかったが、秋山vsデニス・カーン戦が発表されると、チケットが飛ぶように売れ、一般メディアからの注目度も格段に増えたという。会場には日韓合めて約150人の報道関係者が訪れ、会場も超満員札止め（5289人）だった。奨忠（ジャンチュン）体育館があれほど熱狂した観客で埋めつくされたのは、第一回のスピリットMC大会以来のことだろう。当時はかなりのタダ券がバラまかれていたことを考えると、今回の秋山成勲vsデニス・カーン戦の熱

はホンモノだったと言える。

秋山復活狂想曲

2006年12月31日に行なわれた桜庭和志vs秋山成勲という試合は、韓国人の視点から見ると、かつて桜庭和志が韓国の柔道界の英雄ユン・ドンシクを秒殺した過去を持つため、再び韓国の英雄が〝日本の格闘技界の象徴〟と対戦するという意識が働いていた。試合が秋山の圧勝で終わったことによって、この試合を観ていた韓国人はおおいに溜飲を下げた。

しかし、試合後に保湿クリームを塗っていた事実が判明し、秋山には反則負けとギャランティ没収、無期限の出場停止処分が下された。こうした秋山に科された処分は、韓国人にとっては〝反則をした選手は過去にもいるのに、秋山だけが不当な過剰処罰を受けた。これは彼が在日韓国人だから〟という印象を与えた。そうした韓国のファンの反応やメディアでの報道は、本誌連載の『インサイド・コリア』でも伝えてきたとおりである。

そのように日本で不当にいじめられてきた韓国の英雄がついに復帰するため、韓国では大会前から格闘技の枠を越えた関心事となっていた。

『HERO'S』韓国大会を前にして、秋山成勲は10月20日に現地入りし、空港からその足で韓国の秋山ファンクラブが主催するファンイベントに参加している。この野外イベントの会場には当初、ファンクラブの会員数十人程度しかいなかったが、付近を通りかかった人が秋山が来ることを知って合流し、あっという間に会場は300人以上のファンであふれかえった。交通渋滞により一時間半遅れて到着した秋山は、大歓声で迎え入れられた。

質疑応答では「韓国での人気の秘訣はなんだと思いますか?」という問いに、韓国語が話せるのになぜか日本語で「愛国心だと思います」と答えるなど、過去の秋山の発言を知る人間にとっては眉をひそめるようなコメントを残している（もちろん会場は拍手喝采）。イベントでは大勢のファンのサインに応じたり、持参したプレゼントや柔道着を手渡すなど大盛況のうちに幕を閉じた。その熱狂ぶりとファン層の幅広さは、大手格闘技サイトなども「ハリウッドスターも羨む秋山の人気」として報道するほどだった。

もちろん秋山の復帰戦は、韓国でだけ注目されていたわけではない。日本からも多くのメディアがこの大会を見届けるために押し寄せた。桜庭戦では反則問題が話題となったため、大会前の記者会見、選手計量などの注目度も高かった。まさに秋山成勲の一挙手一投足にメディアの注目が集まっていたと言っていい。



カーン戦での秋山の入場シーンを見て〝ヌルヌル事件〟に対する謝罪の土下座と見る向きもあるが、セコンド陣とともに正座して礼をするというのは以前から秋山の入場ではおなじみだ。はたして、日本での復帰戦となる「Dynamite!!」の相手は？

無期限出場停止からの復帰戦だけあって、大会前の個別インタビューや選手計量では、日本や韓国の記者からきわどい質問が飛び交った。二日前の記者会見では「多汗症だと聞きましたが、手術をする予定は?」という韓国メディアの質問に、「現役から引退をしたあと、手術をしたいですね」と答えたり、計量の際のインタビューで「保湿クリームはいまでも塗っているんですか?」と聞かれると、昨日も今日も塗っていることを認めた上で、「大会当日はダメなんで使いませんが」と語るなど、彼らしい〝黒発言〟も続出した。

結局、復帰戦での秋山は、総合ではめったに見られないほどに完璧で、美しく、強烈な右アッパーでカーンを下した。10カ月のブランクやプレッシャーをものともせずに最高の結果が出せる秋山は、間違いなく〝選ばれた人間〟であることを感じさせた。

秋山成勲の往く道

デニス・カーンとの復帰戦で、これ以上ない劇的な勝利を収めた秋山。韓国では戦前、秋山よりも知名度・実績で上をいくカーンが有利という予想が大半を占めていたが、衝撃的なKO勝利と試合後の「大韓民国サイコー!」というマイクアピールが感動的だったという報道がなされた。

実際に、10月28〜29日のあいだの人物検索語ランキングで、秋山は堂々の1位を記録している（2位＝デニス・カーン、3位＝ユン・ドンシク、6位＝イ・テヒョン）。韓国のohmynewsというニュースサイトはこのような『HERO'S』韓国大会の反響の大きさを取り上げ、〝格闘技全盛時代〟というタイトルの記事で「この検索語ランキングに見られるように、芸能人でないスポーツ選手がこのように多くの関心を引いているのは異例の事態」と報道している。

また『HERO'S』韓国大会は、韓国のスポーツチャンネルXTMで生放送され、平均15.9パーセントを記録し、秋山とカーンとの試合は「3世帯中1世帯が観た」、つまり約33パーセントを記録したと伝えている。そしてその幅広い層からの視聴率も高い総合格闘技は、「成人ならば誰でも楽しめる〝キラーコンテンツ〟」と締めくくっている（『聯合ニュース』10月29日付の記事）。

韓国の新聞記事が指摘するように、今後さらに秋山の韓国での人気は上がっていくに違いない。しかし、一方で柔道時代の秋山のことを知る韓国の記者は「彼は過去に国籍を変えるときも迷わなかった。秋山は最近〝愛国心〟と言っているが、過去の経緯を考えると〝愛国心〟を利用して、韓国でお金儲けをしているだけ」と書いており、厳しく批判する者も存在する。

秋山は柔道時代から、のし上がるために〝国籍〟、〝ヌルヌル道衣〟、〝保湿クリーム〟、〝愛国心〟といった、きわどい手段を結果的に利用してきた過去がある。それらに対して、「故意に違いない」、「いや過失だ」といった議論が絶えないことも事実である。しかし、その誰もが秋山成勲という存在に対して、格闘技界において類をみないほどの才能を持った選手であることは否定できなくなってきている。

格闘技のリング上は実力がモノをいう世界である。強い者は、王者となって絶対的な権力を手にすることができる。日本や韓国で秋山の過去がどんなに批判されても、これから彼がそのリング上で圧倒的な力を見せ続ければ、民衆は沈黙せざるをえないのだ。



韓国の一般メディアが見た

秋山と韓国とMMA

〝国籍問題〟や〝ヌルヌル事件〟など、秋山成勲に対する反応は日本と韓国ではかなりの温度差があるというのは、これまで本誌でも何度か報じてきた。ぶっちゃけ、実際のところはどうなのか、人気上昇中という韓国の総合格闘技事情も含め、地元の一般メディア「マイデイリー」のイ・ソンム記者に話を聞いてみました！

聞き手／阿修羅チョロ　通訳／大川〝隊長〟義之

──さっそくですが、ソンム記者は普段はおもにどのような取材をされているのでしょうか？

ソンム　私はさまざまなジャンルのスポーツ報道をしているんですが、いまはちょうどプロ野球の韓国シリーズをやっているので、その報道がメインですね。あとはバスケットボールとか、最近はK−1や総合格闘技の取材も増えてきました。

──韓国では総合格闘技の人気が上がってきていると、よく耳にしますが、実際、ほかのスポーツと比べてどんな状況なんでしょう？

ソンム　3年前までは、格闘技といえば、ボクシングが知られているぐらいで、それ以外は一部のマニアにしか知られていない状況でした。それが、約3年前からK−1など、さまざまな格闘技がケーブル放送で放映され始めてから、多くの人が知るようになってきたと思います。

──3年前というのは、何か具体的な動きがあった時期なんですか？

ソンム　やっぱり、チェ・ホンマンがK−1に出てからですね。それからは格闘技にはそれほど興味のなかった韓国の大衆も注目するようになりましたから。ホンマンのほかにも何人かの韓国人選手がK−1に出て、実際、よくない成績の選手もいましたけど（笑）、それぐらいの時期からK−1は韓国の中で大衆化されたスポーツとして認知されたと言っていいと思います。

──正直、そこまでK−1が認知されているとは思いませんでした。

ソンム　以前は「格闘技」と聞いても「なんだろうな？」と感じてた人が大部分だったと思うのですが、いま韓国では〝格闘技＝K−1〟というイメージがあって、「格闘技の選手だ」っていうと「K−1の選手だ」という意味と同じような捉えられ方をされるんですよ。

いまの韓国では〝格闘技＝K−1〟というイメージがあると思います

──日本でも一時期、女の子がいる店で「仕事は何やってるの？」と聞かれて「K−1ファイターだ」とアピールするプロレスラーもいたみたいですから（笑）。

ソンム　それと同じような状況だと思います（笑）。

──韓国で一番人気のある格闘家はチェ・ホンマンみたいですが、その次は誰なんですか？

ソンム　純粋な韓国人ではないですけど、やはり2番目はデニス・カーンでしょうね。

──ちなみに秋山選手は？

ソンム　3番目ってところでしょうね。秋山選手に関して言えば、国籍を変えたっていうこともありましたし、柔道時代のほうがよく知られていると思います。ただ、その部分で意見が分かれて、秋山選手に対して愛情を持って応援しているファンもたくさんいるんですけど、逆に国籍を捨てたっていうことに関して反感を持っている人たちもかなりいるというのが事実です。

──その後、秋山選手は昨年の大晦日に〝ヌルヌル事件〟を起こしたわけですけど、そのことに関しての韓国での反応は？

ソンム　もちろん批判の声もありましたが、むしろ、あの事件に関しては、普通の選手だったら3カ月、長くても6カ月あれば復帰できたはずなのに、秋山選手が韓国系だから日本人から排斥されているんじゃないか、という意識を持っている人が多いなと感じましたね。

──やはり、そうでしたか。で、今回の秋山vsカーン戦というカードは韓国の格闘技マスコミ的には「もの凄いマッチメイクだ！」と興奮している人も多いみたいですが、一般マスコミ的にはいかがでしょう？

ソンム　この試合に関しては、総合格闘技のファンだけではなく、一般層もかなり関心を持っていると思います。その理由というのは、二人とも韓国系で、背景にいろいろな事情があるということを大部分の人が知っているからです。正直に言うと、チェ・ホンマンが韓国で試合をするときよりも今日は記者は少ないですが、それでもかなりの一般メディアも取材に来ていますからね。

──報道陣は日本と合わせて約150人も来ているみたいですからね。5000人規模の会場も超満員札止めですし。

ソンム　やっぱり、デニス・カーンとか秋山選手が韓国人として受け入れられていて、しかもみんなが注目していたという結果でしょうね。それともう一つ、今回の大会が満員になったのは、韓国人選手がたくさん出ているというのもあるでしょうが、外国人でも、いい試合を見せてくれる選手を受け入れるような文化ができてきたんじゃないかなと思っています。

──確かに、ミノワマンにはキム・ミンス以上の大声援が飛んでましたからね。ちなみに、K−1や今回の『HERO'S』を主催するFEGの代表の存在はご存知ですか？

ソンム　谷川貞治氏ですね。私は日本にも取材に行ったことがありますので、そのときもお会いしています。

──谷川代表には、どういう印象を持たれています？

ソンム　対外的に凄く親しみのある方だと思いますし、韓国に限らず、K−1が人気を得るために凄く神経を使って頑張っているという姿が印象に残っていますね。ただ、昔からK−1を好きで観ていた人は、ここ何年かのK−1はおもしろみばかりを追求しているんじゃないかという批判の声もあります（苦笑）。

──そのへんは日本も一緒です（笑）。谷川代表は、いま韓国にハマってるらしくて、韓流ドラマとかもよく観ているみたいですよ。

ソンム　そうなんですか。ますます親しみが湧きますね（ニッコリ）。これからもK−1や『HERO'S』に注目していきたいと思います。

──ありがとうございました！

【07年10月28日／『HERO'S』韓国大会の休憩中、プレスルームにて収録】



写真はオープニングマッチ前の会場全景。第1試合が始まる頃には会場はほぼ満員状態となり、最終的には超満員札止めの5289人が秋山vsカーンという韓国的には、ヒョードルvsミルコ戦に匹敵する黄金カードを目撃しようと集結。



語ろう

秋山復帰から大会の舞台裏まで

10.28『HERO'S』韓国大会

"ヌルヌル事件"からの復帰戦を見事なKO勝利で飾った秋山成勲。その瞬間、超満員札止めの場内は大爆発！
試合終了から数時間後、大会を取材した4人で、大成功に終わった韓国大会について座談会を敢行！
秋山復帰戦から、テレビでは放送されなかった大会の裏側まで語りまくり。韓国大会は"サイコーッ!"だったのか？

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

チョロ　本日はお疲れさまでした！　チラッとうかがった話では、Xさん的には今日の大会は今年のベスト興行だとか？

X　そう、ベスト興行！　もう、このノリはね、ホントに力道山時代と遜色ないですよぉぉぉ！（すでに、ほろ酔い気味で炎上）。

チョロ　力道山時代！　そこまでさかのぼりますか!?

X　（無視して）あのね、今日の興行は、リングと観客席が一体化するシーンが何度もあったけど、こんな興行は日本の大会場の興行ではない！（キッパリ）。

高崎　というか、Xさんは力道山時代、見てたんですか？（冷静に）。

X　は、はい？（ちょっと固まる）。

大川　ボクも思ってましたが、あえて突っ込まなかったんですけど（笑）。

高崎　ここは突っ込まないと（笑）。

座談会出席者

高崎計三
格闘技専門誌&WEBなどへ執筆&編集を行なう（有）ソリタリオ代表。『kamipro』では主にボードッグ関連の記事を書いていたが、今回の韓国取材は、気づいてみれば今年初めて、ボードッグじゃない海外出張だった（笑）。ほかにも日本人記者がたくさんいた安心感で、この座談会では舌が回りすぎた感も若干……。

大川"隊長"義之
跳韓7段（渡韓7年目）。韓国某都市の大学で日本語教員をするかたわら、出版業界では韓流雑誌の通翻訳、格闘技雑誌やビジネス雑誌などで連載コラムを執筆。本誌では『インサイド・コリア』を連載中。生活ブログ→http://www.doblog.com/weblog/myblog/11072

ミスターX
格闘技業界きっての事情通として知られるライター。キックボクシングの経験もあるため、技術論もお手のもの。お酒が大好きで、アルコールが入ると饒舌になるものの、言いたいことを言ったら、すぐに寝てしまうのが玉にきず。今回はわけあって匿名での参加となる。

阿修羅チョロ
なぜだか、最近は"阿修羅"チョロを名乗っている本誌ダメ編集者。今回の取材でも、持っていったパソコンの設定ミスでインターネットに接続できず、携帯サイトの速報を、宿泊していたホテルのビジネスセンターのパソコンから更新するというダメッぷりを発揮。

10.28『HERO'S』韓国大会 PETIT REVIEW



○大山峻護 [3R 2分42秒 タップアウト]
カーロス・ニュートン×
互いに一年ぶりの『HERO'S』参戦となるニュートンと大山の一戦は、スタンドで終始優勢に進めた大山が鉄槌&パウンドの連射でニュートンを下した。



○ホ・ミンソク [2R 1分31秒 KO]
柴田勝頼×
前回、桜庭に一本負けを喫した柴田がミンソクと激突。開始早々からスタンドの打撃戦となったこの試合、最後はミンソクが右フックで柴田を倒しKO勝ち！



○中村大介 [3R 3分09秒 腕ひしぎ十字固め]
クォン・アソル×
セコンドに田村潔司をつけた中村が韓国のクォン・アソルと対戦。黒のレガース姿の中村は打撃が得意なアソルと打ち合うも、最後は腕十字で一本勝ち。



○ポアイ菅沼 [1R 3分05秒 TKO]
ベルナール・アッカ×
アッカが、かつてテコンドー留学をしていた韓国でポアイ菅沼と対戦するも、グラウンドでコントロールされ、最後は腕十字が極まりレフェリーストップ。



○RYO [1R 1分30秒 TKO]
外岡真徳×
オープニングファイトに登場のRYOは正道会館の外岡真徳をパンチで秒殺。試合後はセコンドについたプロレスラーの弟、崔領二とともに記念撮影！

この日の観客のノリは力道山時代と遜色ないですよぉお！（X）

X　今日の大会後、観客席にいたファンを無作為にインタビューした人間が言ってたことが、ホントに「やらせか⁉」っていうような答えがバンバン返ってきてね。みんな「秋山サイコーッ！」って大興奮してるわけよ。

チョロ　ボクも大会後、ファンの話を聞いたので、そういった反応は凄い感じましたね。

X　その話の流れで力道山どころか韓国人の口から豊登の話まで出てきてね（笑）。56～57の親父がね、「力道山と一緒にやってた、ちっちゃい日本人の名前なんだっけ？」って言ってたんで「豊登？」って言ったら、「そうそう！　あの頃のことを思い出したよ！」って大興奮してたの。

チョロ　いまの読者的には豊登なんて言われても、なんのことやらさっぱり、わからないでしょうけど（笑）。

X　ホントね、今日、韓国で力道山から秋山成勲がつながったんれすよぉぉぉ！（酔いが回って炎上）。

チョロ　Xさん、ちょっと呂律が回ってないです（笑）。

X　ほんなことないよぉ。

チョロ　Xさんはベスト興行とのことでしたが、ほかの皆さんは？

高崎　ボクは興行自体はベスト興行とは思わないんだけど、メインが締まったっていうか、最高のメインっていう意味では今年一番っていうのは確かかもしれない。

チョロ　力道山時代の盛り上がりを感じた、と？（笑）。

高崎　それは世代的にわからないけど（笑）、観客のノリは確かに異常だった。

大川　じゃあ、あの右アッパーは空手チョップだったんだ（笑）。

高崎　でも、日本からしたらテレビでやるとはいえ、韓国でやってる試合だから、普段の『HERO'S』ほどの関心はないと思うんですよ。

チョロ　そうですよね。この本の発売も、だいぶ先ですし、この座談会では、日本のファン向けに、テレビとかでも放送されないようなネタを中心に語っていただければと思ってまして。まず、今回、秋山が韓国で復帰戦を行なったことに関してはどう思います？

高崎　正解でしょ。

大川　ブーイングもなかったし、日本で復帰してたらこうはいかない。

高崎　正解なんだけど、正解なのが、あまりにも主催者の思惑どおりな感じで、腑に落ちない感じはする（苦笑）。

大川　ボクも同じです。……言っちゃっていいのかなぁ。

チョロ　よくわかんないですけど、言っちゃってください！（笑）。

大川　ボクは韓国に住んでますけど、ホント、韓国人は都合のいい人たちだなって（笑）。だって、普通に見たら秋山に対して何か引っかかるものを感じるじゃないですか。でも、それを韓国人はあからさまにスルーするわけですよ。それは、したくてしてるのかもしれないし、無意識でそうしてるのかもしれないですけど、ちょっと気持ち悪かったですね。

チョロ　具体的にはどういう場面でそう感じたんですか？

大川　日本のテレビではカットされると思いますけど、秋山の試合前の煽り映像で、秋山のこれまでのいろんな人生が映像で流されて、最後に桜庭との試合があってクリームを塗った、と。それまでの映像で「ワ～ッ！」とか言ってたのに、ヌルヌル事件のあいだだけは、みんな「シーン」としてたり。

チョロ　おとなしかったですね。

大川　それで、過去の秋山の入場シーンで礼をするところが何回か映されると、みんな土下座と受け取ったのか、「秋山は反省した」って感じで、ス～ッと通りすぎるようなところが、ボクはちょっと都合よすぎるんじゃないかなって。

X　あれは柔道の礼だけどね。でも、俺もスルーしたっていうのは感じた。ただ、俺は頑張ってスルーしてるって思った。だから、背負いながら背負いながら一生懸命スルーしてたっていう感じで（笑）。

大川　あと、試合前に和田良覚レフェリーが秋山の身体を入念にチェックしてたじゃないですか？

チョロ　必要以上に触ってましたね。

大川　あのときは観客席から一斉に「塗ってねえよ！」って韓国語でアピールがあったし。

高崎　あ～、そういうリアクションだったんだ。

大川　だから、韓国のファンも疑われてることについて、引け目を感じてないことはないんだなって。あの事件について秋山自身の非を問う気持ちがどっかにはあるんだけど、なかったことにしたいっていうのがあったと思います。だから、Xさんが言ったように頑張ってスルーしようとしてたってのはボクも同じ気がしますよ。

高崎　でも今日の大会を観て感じたんですけど、観客はライト層が多かったですよね。

大川　いや、ライト層だけじゃないです。コアなファンも凄くきてたと思うし。

高崎　そうですかね。ボクは、どこでそれを思ったかっていったら、ストップ・ドント・ムーブで選手を引っぱるときに凄い笑いが起こったじゃないですか。笑うのって、やっぱりライト層だと思うんですよ。

X　ライト層っていうか、まだ韓国は総合の歴史が浅いってことでしょ。



◯秋山成勲［1R 4分45秒 KO］デニス・カーン×

秋山のジャブがカーンの鼻っ柱を捉えると鼻から大量の出血が。この一撃で自信を得たか秋山の表情は一変、数分後、フィニッシュの強烈な右アッパーが炸裂！　もちろん、会場は大騒ぎ!!



◯ユン・ドンシク［1R 6分12秒 腕ひしぎ十字固め］ファビオ・シウバ×

『HERO'S』参戦以来、好調のユンがシュートボクセのファビオ・シウバ相手に得意の腕十字で完勝。試合後「ドンシク」コールが場内に鳴り響いた。



◯ゼルグ“弁慶”ガレシック［1R 0分36秒 TKO］金泰泳×

金泰泳とガレシックの一戦はゴングからわずか36秒、ガレシックのハイキックで金の目尻から大流血。ドクターストップにより金が無念の敗北を喫した。



◯キム・ミンス［1R 3分46秒 TKO］ミノワマン×

韓国出身のミンス以上の声援を受けたミノワマンが約20キロの体重差をもろともせず突進するも、最後はミンスの打撃を食らってTKO負けを喫した。



◯イ・テヒョン［1R 1分03秒 TKO］山本宜久×

吉田道場に所属していたテヒョンが山本相手に『HERO'S』デビュー戦を敢行。試合は右ミドルでダウンを奪ったテヒョンがパウンドの連打で秒殺勝利！



◯キム・デウォン［2R 0分20秒 TKO］マルセロ・ガルシア×

グラップリング界では“神童”と呼ばれるガルシアの総合デビュー戦はデウォンの強烈なヒザ蹴りを食らったガルシアが大流血レフェリーストップ負け。

大川　歴史が浅い中で、さらに浅いライト層のファンが来てるというか。

チョロ　ボクはずっとプレスルームで観てたので、わからないですけど、今大会で総合デビューとなったマルセロ・ガルシアには、かなり声援が飛んでたんですよね？

高崎　かなり声援が飛んでましたね。

大川　日本はプロレスとか空手とか柔道とか、いろんな総合格闘技につながるような格闘技がありますけど、韓国の場合は総合格闘技＝UFCとか、総合格闘技＝柔術っていうイメージが強いんですよ。総合格闘技っていうのは習える格闘技だという認識があって。だから、総合＝柔術っていう感じで、柔術信奉者とか、柔術を学んでいる人たちが、かなり会場に来てたと思います。

チョロ　ボクも大会後、ファンに話を聞いたんですが、確かに総合や柔術を習っている人は多かったですね。

大川　そういう人たちから観ると、マルセロ・ガルシアっていうと、「俺らがやってる柔術の神様」みたいなイメージが強くて声援も多かったと思うんですよ。

高崎　ガルシアが日本でデビューしてたとしても、あそこまでほかの選手以上に声援が飛ぶってことはないと思うし、一番意外でしたね。

チョロ　ガルシア以外では、ミノワマンの人気も凄かったですよね。地元出身のキム・ミンス以上に声援が飛んでましたし。

大川　それはやっぱり、諸岡さんの力でしょう。

チョロ　諸岡さんといえば、ミノワマンの後見人にしてCMAの会長として、韓国人選手を早くから日本に呼んだりしてた人ですよね。

大川　継続は力なりですよ。やっぱり、諸岡さんがパンクラスの時代からミノワマンを韓国に連れてきたり、グラジエーターとか、ことあるごとに韓国の大会に出場させたり、セミナーとかしていたことも大きいでしょうね。試合前の煽り映像でミノワマンが「韓国での試合で、韓国の選手と闘うけど、試合を観てもらって韓国のファンと共有できるものがあればいい」って言ったら、客席が沸いて、みんな拍手してましたから。それは、ミノワマン自身の日本だけじゃなくてファンを大切にしたいっていう気持ちが伝わってるんだと思います。あとは、無条件におもしろいファイトスタイルっていうのも伝わってると思います。

今回の大会は誰が何にすり寄っているかが見えた大会だった（高崎）

チョロ　勝ったキム・ミンスはミノワマンの〝SRF8回〟をパクってやってましたけど（笑）。

高崎　アホ丸出しでしたねぇ（笑）。あと思ったのが、誰が何にすり寄ってるかが意外と見えた大会っていうか。（ベルナール・）アッカだけだったでしょ。煽り映像で、ハングルでしゃべってたのは。

チョロ　アッカはテコンドー留学で韓国に住んでたことがあって、韓国語もペラペラみたいですからね。

高崎　そうかと思えば、秋山は試合後「我が大韓民国サイコーッ！」って言ったじゃないですか。あれも言い方は悪いけど、すり寄りじゃないですか。

大川　悪くないですよ、あれは完全なすり寄りです（笑）。

高崎　そうかと思えば、カーロス・ニュートンはBONNIE PINKの曲で入場してきたりして（笑）。おまえは何にすり寄ってんだって思いましたけどね（笑）。

大川　ニュートンは煽り映像でも日本に向けて話してましたからね。「今日は大山に勝つから日本の皆さんには申し訳ないけど、ボクの勝つ姿を楽しみにしてくれ」って韓国の会場で言ってましたから（笑）。

X　ニュートンの中では、朝鮮半島はまだ日本なんじゃないの？（笑）。

高崎　日本で試合したと思ってたんですかね（笑）。

大川　日本をリスペクトしてる日本マニアっていう部分ではズレてなかった、と（笑）。

X　でも、メインであの試合を見せられたら、それ以外の試合はやっぱり印象薄くなっちゃうよな。

チョロ　そうですよね。それぐらい、秋山vsカーン戦のインパクトは凄かったですからね。

大川　今回の試合を観て、なんか自分らは秋山の一挙手一投足に踊らされてるようなイメージができたんですよ。「おまえらどうせ、俺を追うことしかできないんじゃねえか」っていうぐらいの巨大さを秋山は持ってるのかもしれないなって。よく言われる〝黒さ〟っていうのを超えてるんじゃないかと。

チョロ　肌の色も以前よりも黒さが増してるようにも見えましたし（笑）。

大川　（無視して）それぐらいの強さを見せられるような予感は今回の試合で持ちましたよね。いろいろと批





煽り映像で、その顔が映し出されると、なぜか客席は失笑だったミンス。勝利後はミノワマンばりの“SRF8回”を披露し強引に会場を盛り上げた。MMAデビュー戦の“神童”ガルシアはデウォンのヒザ蹴りを食らい大流血TKO負け！

『kamipro Hand』ユーザーはどう見たのか!?
秋山復帰戦をジャッジ！

Q1 10・28『HERO'S』韓国大会で〝ヌルヌル事件〟からの復帰戦をデニス・カーンと行ないKO勝ちを収めた秋山成勲。試合の感想と、今後の秋山に望むことを書き込んでください！

●秋山の一回り大きくなった胸から肩の見事な筋肉にWWEのレスラーの肉体を見ているようでビックリ！（松田康洋）

●以前より打撃が鋭かったんでビックリ。これは田村や柴田じゃ相手にならないな～（東スポ買って）

●やっぱり強かったけど物足りない気がしたからもっと危険な対戦相手でもよかった気がする（イエコ・クロコップ）

●度肝を抜かれた。カーンを倒したいま、世界を獲りに出るマッチメイクを期待しています（シマ）

●カーンに勝ったのは凄い。でも亀田ばりの謝罪会見はするべき（ラジャ）

●言動や立ち振る舞い、全身から人に嫌われるオーラを発散していて凄いと思いました。これからも憎らしくいてほしい（ブリューワー）

●見事!!　格闘技の潜在能力の高さを存分に感じた試合。センス抜群。（金ちゃんに花道を）

●UFCにいっちまうのが一番スッキリするなぁ。日本での試合をみると、間違いなく桜庭戦を思い出しちゃうから。世界で闘う強い日本人ってことなら、ちょっと見方もかわるかな（かんち）

●感想は、さすがFEG。よく考えているという感じです。秋山はこれから『PRIDE』と日本を破壊する担い手になるのでしょうね（faith）

●認めざるをえない完璧な勝利だったと思います。秋山選手にはできれば入場テーマ曲を変えてほしいです。あの曲は『PRIDE』ファンにとっても思い出深い曲なのです（ツヨシ）

●KO勝ちしたけど、そのあとのマイクアピールとか引いた。最高とアピールするまえにもっと言うことあるっしょ。反省の色なし（ビィラ）

●もともとプロレスファンなんで、こういう展開は大好きです。本人が意図してなくても勝負論以外で話題になってこそプロ！　将来、ハッスルデビューしてくれないかなぁ（東條じゅん）

●強い！　あのタックルされても足をスルッと抜いちゃうディフェンスも健在だったし！どんどん強いのと闘わせよう！（T2）

●試合の感想は秋山はスタンドが強い。パウロ・フィリオやアンデウソン・シウバにも勝てる気がするので挑戦してほしい（ばばるそぶらる）

●試合後の喜ぶ姿はまさに魔王！　彼は謹慎からではなく怪我からの復帰ぐらいにしか思ってないと思う（はまやらわ）

※携帯サイト『kamipro Hand』にて大会翌日から11月4日までのアンケート結果です。

あのフィニッシュを観て、デニスと一緒にひざまずいたもん（X）

判とかもあるけど、結局、復帰して有無も言わせない力を見せたら、しょうもない批判とかは吹っ飛ぶじゃないですか。

X　ホント、そうだよね。でも、秋山自身もあんな勝ち方ができるとは計算外だったんじゃない？

高崎　試合後のコメントで、「勝った要因はなんですか？」って聞かれて、「この勝ち方は万が一にも想像してなかったから、こういう勝ち方のコメントは用意してません」って言ったんですよ。

大川　勝つことは考えてたんですね（笑）。

高崎　「フルラウンド闘うから」ってセコンドに言ってて、その準備をしてた、と。でもね、「この勝ち方のコメントは用意してません」っていうコメントを用意してたんじゃないかって気がしちゃうんですよ（笑）。

大川　自分の力に対する絶対的な自信があるんですよ、たぶん。だから、自分がこれからどうやるかによって周りの目なんて変えられるんじゃないの？　ぐらいの気持ちがあるんじゃないかな。

X　試合後、最後の右のアッパーに関して何か言ってた？　あのパンチは前から準備していたとか。

高崎　「あのパンチは咄嗟に出たものなんですか？」って聞いたら、「いや、咄嗟というか、練習したものが少しは出せたかなという気はします」って言ってましたね。

X　え〜〜っ、それは信じられない！　だって、右のアッパーだよ!?

チョロ　Xさんは以前、キックボクシングをやっていただけに、その驚きに説得力がありますね（笑）。

X　右アッパーを打つと身体ががラ空きになるわけ。しかも、デニス・カーンが相手だよ。それが出せたっていうのは、流れか、もしくは準備してないと無理。俺の感覚で言えばだけど。

チョロ　なんか『kamipro』らしくない技術論になってきましたね（笑）。



試合後、リング上から「我が大韓民国サイコーッ！」と秋山が絶叫すると場内からは大歓声。控室へ戻る秋山のもとへ興奮した多数のファンがかけ寄った。大晦日も「サイコー！」と叫べるのか？

X　でもホント、あのフィニッシュを観たときに、デニスと一緒にひざまずいたもん（笑）。

一同　アハハハハハ！

X　あの右アッパーは年末のあの事件から全部、ひっくり返したと思って。俺はひざまずいた上に、ひっくり返ったねぇ……（突然、ひっくり返るように眠りに落ちる）。

高崎　あらら、言いたいことだけ言って寝ちゃった（笑）。

チョロ　気にせず続けましょう（笑）。

大川　そのフィニッシュも含めて、そういう能力があるって意味では、選ばれた人間だと思うし、逆に窮地に陥っても自分の力で困難な道も切り開いていける人間なんじゃないかなって。批判したいところはもの凄くあるんですけど、そういうものを全部忘れさせるぐらいの強力なアピールポイントがある選手だなって思わされましたね。

高崎　なんかでも、復帰戦っぽい感じがしなかったんだよなぁ。

大川　でも、試合中には凄く感じましたよ。開始直後は、打撃がうまいデニス相手に「俺の感覚はどこまで生きてるのか」って凄い探りながら闘ってる感じで。それが、ジャブが鼻に入って鼻血を出したデニスが「やべぇ」ってちょっと表情が変わったら、秋山の表情もガラって変わったのが、遠くで観てたんですけど、わかったんですよ。

チョロ　確かに変わりましたよね。

大川　あの瞬間、「全然鈍ってないし、全然越えられない壁じゃないじゃん」って確信したと思うんですよ。相手も焦ってるし、打撃をよく見て闘えば絶対にコイツを倒せるって顔に出てましたから。

チョロ　それも見えた、と？（笑）。

大川　見えました（笑）。表情が変わってからプレッシャーのかけ方も全然変わったし、二人の意識の差が完全に逆転したのは観てて、すぐわかりましたね。

高崎　試合後、本人も言ってた。「自分が主導権を握ったと思った瞬間はあったんですか？」って聞かれて「ジャブが入って鼻をケガして、相手の顔が変わったのを見たときに、手応えがあったんじゃなくて、それがわかった自分が冷静だなと思ったのが大きかった」って。

大川　凄い選手だと思いますよ。

チョロ　試合後はさっそく、谷川さんの口から『Dynamite!!』当確という話が出てましたけど、誰と闘えばいいんですかね？

大川　相手が誰でも本人的な軸はぶれないんじゃないですか。それだけ自信があると思うんですよ。だって、日本のメディアとか気にしてたら、試合後に「大韓民国サイコーッ！」なんて言えないッスよ（笑）。

X　（突然ムクリと起きだして）ん、サイコーって何が？

チョロ　おっ、Xさんが目を覚ましました。Xさん、大晦日は秋山は誰とやればいいですかね？

X　大晦日？　大晦日はね、秋山vsヒクソン………（ふたたび眠りに落ちる）。

チョロ　あらら、また寝ちゃいましたか（笑）。大晦日は秋山vsヒクソンという〝サイコー！〟な提案があったところで、本日の座談会はお開きにしたいと思います（笑）。

大川　全然〝サイコー！〟じゃないですよ、その締め（笑）。

【07年10月29日／『HERO'S』韓国大会終了後、ソウル市内の韓国料理屋で収録】

Q2 大晦日の『Dynamite!!』出場が当確となった秋山成勲。あなたは誰との対戦が見たいですか？　また、その理由を教えてください！

秋山と闘ってほしい選手ベスト10

1位	田村潔司	126票
2位	吉田秀彦	104票
3位	金原弘光	96票
4位	ユン・ドンシク	68票
5位	三崎和雄	62票
6位	パウロ・フィリオ	58票
7位	セルゲイ・ハリトーノフ	54票
8位	ミノワマン	46票
9位	エメリヤーエンコ・ヒョードル	42票
10位	桜庭和志	38票

●田村か三崎。三崎はカーンに勝ったから田村はファンだから（ラジャ）

●魔王と闘えるのは神様しかいない。またはそれに近い人。人類最強のヒョードル。彼しかいない（タイショー）

●吉田もしくはユンとしてくれ！　本物の強い柔道家と闘うべきだ！　田村ファンだけど、負けそうだから見たくない。（赤パンツ）

●ユン・ドンシク。韓国最強決定戦。ベタだけど（村松亮三）

●無理だけどショーグン、ミルコ、シウバあたりに。『PRIDE』らしさを目指すなら危険なマッチメークは一度は体験すべきだ（イエコクロコップ）

●桜庭の敵討ちに最初に名乗りを上げた、男の中の♂、金原！　金ちゃんに負けたら、即引退、いってみよう〜。（金ちゃんに花道を）

●ミノワマンか吉田選手が、いんでないですかね。大晦日だし。知名度のある選手がいいと思います。視聴率も大事です！　大晦日に格闘技が消えてしまうのは最悪ですからね！（神のコ）

●金原ですね。U世代の僕にはやはりUvs柔道は最高に興奮します！　それと金ちゃんの本当の実力を最後にみたい！（ドリームファイター）

●田村しかいないです！　秋山の試合はどっちが強い弱いじゃなくて、感情移入できる試合が見たいです。だって勝負論だけなら秋山は強すぎてつまんない。（東條じゅん）

●それでもやっぱり田村か金原！　桜庭の仇を取ってほしいから！（Toshi）

●吉田秀彦。同じ柔道出身で凄い噛み合うと思うしどっちかが日本一強い選手だと思う（CROCOP）

●瀧本選手との試合は見てみたい。過去・現在・未来と線になりそうだから（ネイチャー）

●誰でもいいが秋山はオープニングのときにリングにあがってファンに謝罪するべきだ。そうしたら俺はもう許してやるよ（ジョニィ）

●パウリョ・フィリオ。憎たらしい強さ対決ということで（クッシー）

●三崎和雄。実現可能な線を考慮して。85キロ日本一決定戦も観たいので（RT）

●田村潔司。でもカーンに勝ったの見たら田村はもう試合をしたいとは言わないと思いますが……。三崎和雄もおもしろそう（鮮血ニュートン）

●ソクジュ。同じ柔道家の吉田秀彦と比較してもソクジュのほうが打撃のセンスがいいと思う（コウスケ）



秋山ファンクラブ会長を会場でキャッチ！

「"ヌルヌル事件"の影響はないです。いまでもファンクラブの会員は5000人はいますから」

秋山成勲FC TEAM CLOUD
パク・ジュフン会長

『HERO'S』韓国大会終了後、「秋山サイコー！」と会場の外で絶叫しながら喜んでいたのがパク・ジュフン会長率いる秋山ファンクラブ「TEAM CLOUD」の面々だ。一目見ただけで秋山ファンとわかるパク会長と、その仲間たちに大会前、秋山の"サイコー！"なところを聞いてみました。

構成／阿修羅チョロ　通訳／大川"隊長"義之

今回の『HERO'S』韓国大会は試合開始が17時で、プレス受付は16時となっていた。ボクは大会前、会場近くで取材の予定があったため、現地在住の大川氏とともに14時すぎには会場に到着していた。

取材の時間までは、まだ時間があるため、会場周辺にいるファンにいろいろと話を聞いてみようと思い、めぼしい人を探し回ってみた。

すると、会場の2階付近に、何やら巨大な垂れ幕を壁に貼りつけている人たちの姿が目に飛び込んできた。その人たちは、それぞれが微妙にデザインの違う秋山の名前入りのTシャツやらパーカーを身に着けていた。よく見ると首元には"秋山成勲"と書かれたお揃いのネックレスがキラキラと輝いている。

どっからどう見ても、この人たちは秋山の大ファンに違いない。そう確信したボクは通訳の大川氏とともに"柔道王"と書かれたTシャツを着ていた人物に声をかけてみた。



秋山選手と同じように"自由魂"を持って生きていくのが目標です！

「あの〜、秋山さんのファンの方ですか？」

すると、その人物は「もちろんです」とニッコリ。そりゃあそうだろう。全身秋山ずくめのファッションで、ファンでないわけがない。

「私たちは秋山選手のファンクラブ『TEAM CLOUD』のメンバーなんです。私はファンクラブの会長のパク・ジュフンです。ニックネームは"レッド・クラウド"です」

レ、レッド・クラウド!? さすがに、ニックネームはどうかと思うが、最初に話しかけた人物がファンクラブの会長だったのだ。そうとわかれば話は早い。さっそく、パク会長に直撃取材を敢行。まずは、秋山の一番の魅力を聞いてみた。

「秋山選手のモットーに"自由魂"というのがあるんです。自分の意志のままに生きていくという意味なんですが、自分たちも秋山選手と同じように"自由魂"を持って生きていくことを目標としているんです」

へぇ〜、そんなモットーがあったとは初耳。でも、帰化したとはいえ、やはり秋山には韓国の血が流れているというのが、ファンになった理由の一つなんだろうか？

「国籍は関係ありません。私に限らず、ファンクラブのほとんどの人が柔道時代も含め、格闘家・秋山成勲のことが好きなんです」

会員たちは会長の話を聞いて深々とうなずいている。ぶっちゃけ"ヌルヌル事件"後はファンクラブの会員もかなり減っているのではないか。おそるおそる会員数を聞いてみた。

「会員は全部で5000人ぐらいいますよ」

ナヌ〜〜ッ!? 会員が5000人！ "ヌルヌル事件"の影響はなかったのだろうか。

「ないこともないです。正直、あの問題が起こる前は、かなりの勢いで会員数が増えていたんですが、事件のあとは少しずつ増えていってる感じで。でも、減ってはいないです」

そうですか。不幸中の幸いって感じですかね。でも、会員が5000人って、今日の復帰戦はもの凄い数のファンが駆けつけるってこと？

「いや、会場に来るのは全部で50人ぐらいですかね。私たちと一緒に観戦するのが約20人で、ほかの30人は高いチケットを買って秋山選手を応援する予定です」

せっかくの復帰戦に50人だけかよっ!? 一瞬、ツッコミを入れようかとも思ったが、今回の会場のキャパは約5000人。会員全員が来てたら大変なことになっていただろうから、それはそれでよかったのかもしれない。

話を聞いたのは大会前だったので、パク会長をはじめ会員たちはどことなくソワソワしているように感じられた。やはり、対戦相手が強豪のデニス・カーンだから、当然、不安もあるのだろう。

「私たちは秋山選手が勝ってくれると信じています」

パク会長がこう語ると、隣にいたヤングな会員が何かをしゃべりたそうにしている。

「もちろん、ボクも秋山選手が勝つと思ってるけど、正直ちょっと不安もあったから、二日前に占い師に見てもらったんだ」

う、占い!? おそるおそる、その結果を聞いてみた。

「秋山選手が勝つって出たんだ。しかも、サイコーな勝ち方をするって。間違いなく秋山選手が勝つよ！」

そう言ってガッツポーズを決めた会員。結果的に、この占いはドンピシャリ。その会員は試合後「秋山サイコー！」とともに「占い師もサイコー！」と叫んでいたに違いない。

最後にファンクラブの集合写真を撮らせてもらい取材を終えると、「カミプロ、サイコー！」と親指を突き出しポーズを決めたパク会長。秋山といい、ファンクラブの人たちといい、つくづく「サイコー！」な人たちであった。カムサハムニダー！



パク会長のこの日のファッションは「JUDO SAIKO」と書かれた白の長袖Tシャツに黒の"柔道王"Tシャツの重ね着。胸元には"秋山成勲"がキラリ。サイコーです！ 欲しかったけど非売品らしいです。残念。



日本でも、ちょっとした有名人

韓国双子兄弟を直撃

『HERO'S』韓国大会の取材先で、ある意味、選手よりも目立ちまくっていたのが今回紹介する双子のビョン兄弟だ。プロレス好きが高じ、現在はYahoo! KOREAでカメラマン（兄）＆ライター（弟）として活躍中のこの兄弟。大会直前でドタバタするプレスルームの前で、直撃取材を敢行！

聞き手＆撮影／阿修羅チョロ　通訳／大川"隊長"義之

大仁田とリー・ガク・スーの試合を観てプロレスにハマりました！

――あれ、お兄さんは？

弟　アニキはちょっと忙しいみたいで、どっかに行っちゃいました。

――あらら、写真だけ撮られて消えちゃった、と（笑）。時間もないので、さっそくお話を聞かせてもらいますが、お二人は日本のマット界事情にかなり詳しいみたいですね！

弟　はい！　ボクらは日本のプロレスが大好きなんです！

――具体的には、どんな団体が好きなんですか？

弟　だいたい全部好きなんですけど、メジャーはあまり好きじゃない。やっぱり、ダイニホンプロレスがサイコーで～す!!（日本語で絶叫）。

――お～、デスマッチ好きでしたか！（笑）。大日本の中で一番好きな選手は？

弟　たくさんいるんですけど、やっぱり伊東竜二が一番です！

――ちなみに伊東選手のどんなところがサイコーですか？

弟　自分は蛍光灯が大好きで（笑）。それで蛍光灯を使う伊東竜二が一番カッコイイ！　あと"黒天使"沼澤邪鬼も好きです！

――大日本以外では？

弟　あとは、666も大好きです。バカ社長（クレイジーSKB）は凄いクレイジー！　とくに、あの花火はサイコーですね！

――確かにバカ社長はクレイジーですけど（笑）。そもそもプロレスに興味を持ったきっかけはなんだったんですか？

弟　お父さんが子どもの頃からプロレスが大好きで、その影響もあって7歳ぐらいのときから観始めたんです。最初に好きになったのは韓国では大木金太郎で、日本だったら大仁田厚がサイコーでしたね！

――お～、大仁田好きでしたか⁉

弟　そうです！　電流爆破はすっごい燃えましたね！

――よく燃えてましたからね（笑）。韓国でもFMWとか普通に観られるもんなんですか？

弟　テレビでは観られなかったんだけど、お父さんがビデオを手に入れてきたのを偶然観たんです。そのビデオに入ってたのが大仁田厚とリー・ガク・スーの試合で。それでプロレスにハマりました！

――最近は韓国で格闘技の大会を開いているリー・ガク・スーですね。日本のプロレスの情報はどうやって入手しているんですか？

弟　ビデオ以外だったら、やっぱりインターネットですね。日本のプロレスファンのサイトはしょっちゅうチェックしてるし、あとは日本からビデオを買ってきた友だちがドンドンドンドン、コピーして、それを回して観たりしてます。ちょっとイリーガルな方法だけど（笑）。

――確かに（笑）。何度か日本でもプロレス観戦してるんですよね？

弟　はい。仕事とプライベート合わせて、いままで10回ぐらい行ってます。最初に行ったのは中学3年のときなんですけど、そのときはスポーツをやるために行ったんでプロレスは観られなかったんです。

――ちなみにスポーツって何をやっていたんですか？

弟　ラグビーと柔道をやってました。アニキも一緒です。

――かなり、いい身体をしてますけど、自分もプロレスラーになろうと思ったことは？

弟　（日本語で）いや～、無理です。痛いからイヤ（苦笑）。

――そうですか（笑）。選手の知り合いも多いみたいですが、仲のいい日本人選手は誰なんですか？

弟　たくさんいるんですけど、菊タロー、CIMA、伊東竜二さんとかはメールのやり取りとかもしてるし、金村キンタローさんとは電話でも話したりしますね。

――金村さんは韓国語もできますし、ちょくちょく韓国でも試合をしてますよね？

弟　韓国で大日本が試合をするときは自分が金村さんに電話をして、WWA（韓国のプロレス団体）とかに話をつなげたりもしてます。

――へぇ～、ブッカーみたいなこともやってるんですか？

弟　いやいやいや、ブッカーなんてしてないです（恐縮して）。ちょっと連絡をしてあげるだけです。

――近々、日本に行く予定は？

弟　12月に行く予定です。取材じゃなくて遊びでですけど（笑）。タイミングが合えばドラゲーとか大日本を観に行こうと思ってます。

――では、日本で会えるのを楽しみにしてます！

弟　カムサハムニダ！（ありがとうございます）。

【07年10月28日／『HERO'S』韓国大会直前のプレスルーム前にて収録】

観客も「サイコー！」だったのか？　大会直後、ファンを直撃!!



「カーンも好きだけど今日の秋山は強すぎた。あとはガオグライも好きです」（右）「秋山の試合はドラマみたいだった」（中）「金泰泳とアソルは残念だったね」（左）



「秋山サイコー！」（右）「今日は秋山につきるね」（右から2番目）「今日は出てないけど、セフォーが好き」（右から3番目）「私はミノワマンがよかった（照）」（左）



「秋山最高！　ほかに好きな日本人選手はTK、藤田和之、ミノワマン。中村カズもいいよね！」（右）「ボクは秋山オタクなんでヘアスタイルもマネしてるんだ」（左）



「秋山はカッコよかった。ボクはキム・デウォンと同じ道場で練習してるんだ。早く試合がしてみたい」（右）「ボクにとっての英雄は秋山と金泰泳の二人だね」（左）



“大韓民国サイコーッ!?”
『HERO'S』韓国大会滞在記

アンニョンハセヨ〜！　行ってきました10.28『HERO'S』韓国大会。秋山の復帰戦が行なわれるということで日本からも多くの報道陣が訪れていた今回の韓国大会。大会以外にも、さまざまなハプニングが続出した韓国滞在記をお届け！　大韓民国サイコーッ!?

文＆撮影／阿修羅チョロ



大会前日に行なわれた公開計量で、なんと契約体重を3・2キロもオーバーしてしまったのがシュートボクセのファビオ・シウバ。事態を飲み込めていないシウバは、のんきに報道陣にポーズを決めていた。



同じく公開計量の際に関係者のあいだで話題となっていたのがミノワマンの隣にいるブロック・レスナー似の男だ。じつはこの男、デニス・カーンの弟で現役のボクサーとのこと。絶対に意識してると思う。

10月26日(金)12時30分 ソウル到着

『HERO'S』韓国大会の取材へ行くことは早くから決まっていたのだが、いろいろあって航空チケットを手配するのが遅くなった。その結果、航空チケットを取った某旅行会社には手頃な値段のホテルの空きがないという。

空いているのは日本円で一泊2万近くするホテルばかり。貧乏性（というか貧乏）のボクには、そんなホテルに泊まる資格はない。

困ったボクは本誌で「インサイド・コリア」を連載中の韓国在住のライター・大川氏に相談したところ、「もっと安いホテルを取ってあげますよ」とのありがたいお言葉をいただき、大船に乗った気分でソウル行きの飛行機に乗り込んだのだった。

約2時間半のフライトののち韓国に無事到着。空港には大川氏が出迎えに来てくれ（初対面）、挨拶もそこそこに、『HERO'S』の記者会見が行なわれているソウル市内のホテルまでバスで向かうことにした。

30分ほどバスに揺られホテルに到着。予想はしていたが、会見はすでに終了し、会見場では谷川さんが囲み取材を受けていた。取材を済ませ、大川氏に取ってもらった一泊・約1万円のホテルに向かった。

ホテルに到着し、早速、先ほどの谷川さんの囲み会見の記事を書こうとしたのだが、インターネットが接続できず早くもパニック状態に。

この日、『HERO'S』韓国大会が行なわれるジャンチュン体育館では大木金太郎の追悼興行が行なわれており、日本からTAJIRIやKUSHIDAら『ハッスル』勢も出場するということで、頼みの綱の大川氏は観戦に行ってしまっていた。

パソコン関係が苦手なボクは一人ではどうすることもできず、申し訳ないと思いながらも、大川氏に電話して助けに来てもらう。しかし、結局うまく接続することができず、ホテル内のビジネスセンターにあるパソコンで記事を書き、そこから『kamiproHand』の記事を更新したのだった。



会場の前に横づけされていた秋山がデカデカと写し出された『HERO'S』バス（反対側はカーン仕様）。ソウル市内の街中では秋山とカーンの顔入りの大会宣伝用ビルボードも見かけました。

10月27日(土)11時00分 ハプニング続出の公開計量

この日は午前中からソウル市内のホテルにて公開計量。会見場には、顔なじみの日本からの報道陣が何人もいて、ちょっと一安心。本誌でも、ちょくちょく仕事をしてもらっているペールワンズの井上さんに山本君、ライターの高崎氏、〝Show〟大谷氏と、なぜかソウルまで来てターザン山本！さんの日記ネタで盛り上がる、ダメな30代。

ファビオ・シウバが計量で3・2キロもオーバーしたり、秋山から「いまでもクリームを塗ってます」発言が飛び出すなどした公開計量と、そのあとの囲み取材の記事を、ホテルに戻ってからまたしても一人でビジネスセンターを占拠し、夜中まで原稿書き。たまに見回りに来るホテルマンがミゼットで、ちょっとビックリ。



上の写真が二日目に泊まったホテルの部屋。ホテルの都合で、なぜか二日目だけ韓国名物のオンドル（日本でいうところの床暖房）仕様の部屋に案内されました。公園のベンチでも余裕な自分としては雨風をしのげればノー問題！

10月28日(日)14時00分 『HERO'S』韓国大会当日

いよいよ大会当日。大会前に何件か取材の予定があったため早めに会場に向かう。会場入りしようとした谷川さんが受付で現地スタッフに足止めされているところを目撃。谷川さんは「んあ〜」とばかりにバックからプレスパスを取り出し無事会場入り。他人事ながらホッとする。一番偉い人の顔ぐらい覚えておけって。

現地のファンを取材しようと思っていたら突然の大雨。取材どころではなくプレス受付のテントに緊急避難。しかし、あまりの報道陣の多さに押し出され、身体半分ハミ出したボクはびしょ濡れとなり大会前から半泣き状態。

開場となり、取材の準備に入るも、またしてもネットがつながらず大パニック。原因はボクが持っていったパソコンの設定の問題だったが、報道陣の多さからか大会途中で回線がパンク状態に。結果的にボクと同じくパソコンが使えない人が続出し、プレスルームはちょっとした混乱状態に。心の中で、誰かさんのように「ざまあみろ」とブツブツ独り言。嫌な30代。

大会は皆さんご存知のとおり、秋山のKO勝利で場内は大爆発！　大会終了後は、またしてもホテルのビジネスセンターに直行し、シコシコと原稿書き。日付が変わってから韓国料理屋で座談会。解散したのが深夜3時すぎ。ホテル近くのバーガーキングでテリヤキバーガーセットを買ってホテルに戻りエレベーターに乗ると、ミゼットホテルマンがボクの部屋がある6階のボタンをジャンプして押してくれた。なんだかわからないけど、ちょっと感激。

朝方、ホテル近くを散歩。すっかり明るくなっているのに何件か営業中の韓国名物・風俗床屋をチラリとのぞく。すると、中には50歳ぐらいの小太りのおばちゃんが診察台のようなベットで熟睡中。入る気はなかったが、なんだか怖くなりホテルまで全力疾走。



韓国事情に詳しい人なら、この写真を見ただけでピンとくるはず。いわゆる一つの風俗床屋ってヤツです。金も時間も勇気もなくて入れませんでしたよ。残念。

10月29日(月)11時00分 ソウル最後の日

3泊4日の韓国取材もこの日で終了。10時半にホテルのロビーで大川氏と待ち合わせ。そこから空港行きのバス乗り場まで親切に案内してもらう。最後の最後まで大川氏に世話になりっぱなしの韓国滞在記でした。

曙も大プッシュ！ UFCで一番活躍している日本人

岡見勇信 "Thunder"

×

日本人初のUFC定期参戦ファイター


髙阪剛 "TK"

新旧UFCメジャーリーガー対談

UFC魂連鎖

"PRIDE消滅"を前後して、多くのトップファイターがUFCに戦場を移すも、なかなか結果を出せないでいるのが現状だ。そんな中、日本人ファイターとしてただ一人、気を吐いているのが和術慧舟會の岡見勇信だ。現在、MMAのメジャー団体UFCで5勝1敗という好成績を残している岡見と、UFCに定期参戦した初の日本人戦士・高阪剛の二人が、新旧UFC事情を語りまくります。いけっ、サンダー！

聞き手／橋本宗洋　撮影／梅木麗子　試合写真／Josh Hedges（UFC）



しょっぱめのパフォーマンスも含めて頑張ってもらいたい！

〝ユーシン・サンダー・オカミ〟として頑張ります！（笑）

自分も、日本人がUFCで勝つのがどれだけ大変かよくわかります（TK）

—今回は岡見選手のUFCでの活躍をさらに盛り上げるべく、髙阪さんとの対談を行なわせていただくことになりました！ いま、UFCは日本ではなかなか観ることができない状況なんで、誌面で盛り上げていきたいな、と。

髙阪 なかなか観られないっていうか、全然観られないですからね（笑）。

—それに岡見選手には、曙さんの強力なプッシュもありますし（笑）。じつは先日、『kamipro』で曙さんの取材をしたときに、「なんで『kamipro』は岡見さんを載せてあげないの？ 日本の選手でもトップなんだから」って言ってたそうなんですよ。

髙阪 （曙から）「先生！」って言われてたもんね（笑）。

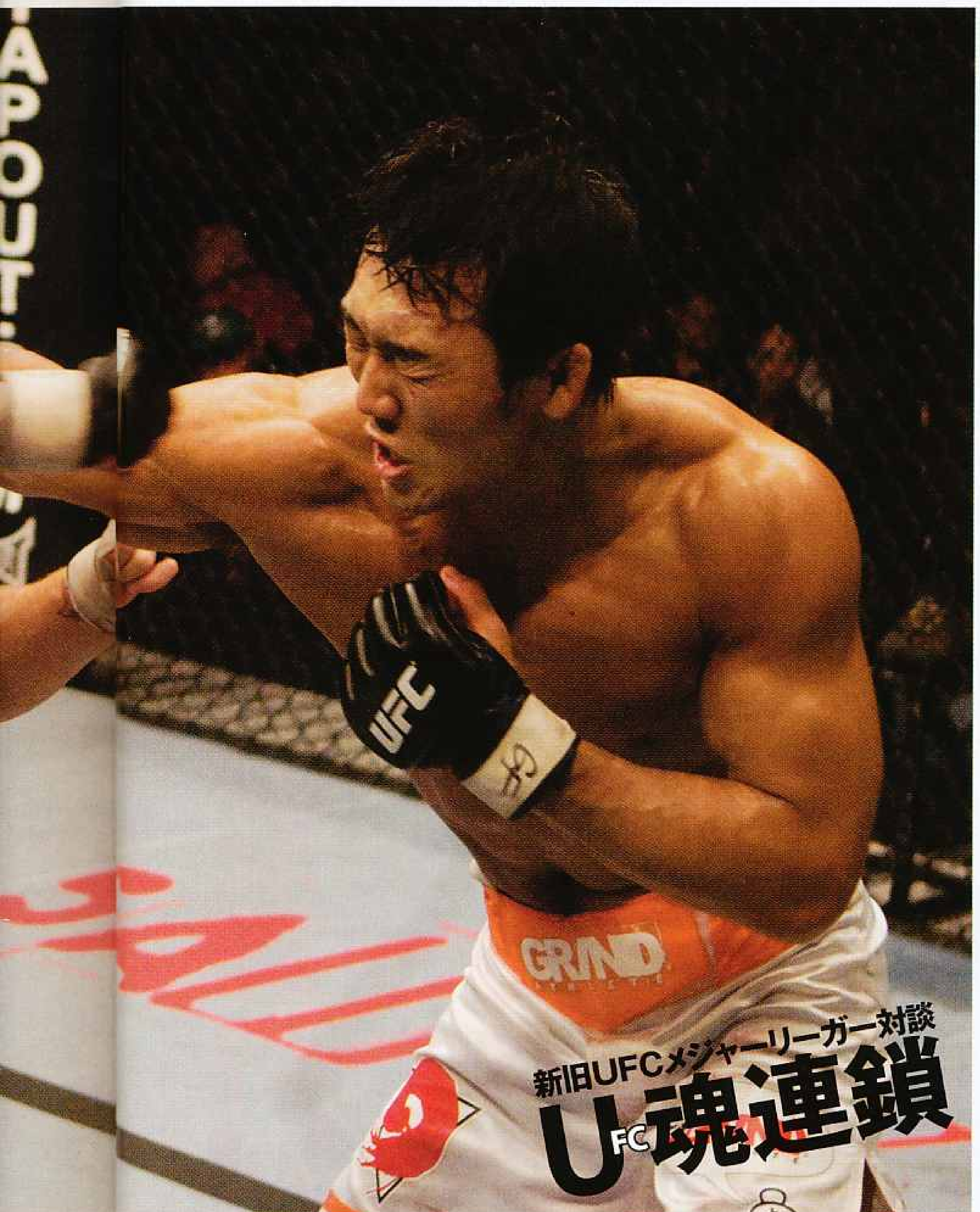
岡見 先生っていうか……総合の試合があるときは一緒に練習してるので、はい。横綱、毎回UFCを観ているらしいですね、生で。米軍のキャンプではPPVが観られるらしくて。

—アメリカでのUFC事情を知っているだけに、岡見選手の凄さもより感じるんでしょうね。

髙阪 ああ、そうでしょうね。自分も、日本人がアメリカでやってるUFCで勝つのがどれだけ大変かわかるんでね。「頑張ってんなぁ〜！」って思いますよ。

岡見 ありがとうございます！

髙阪 まあ、あのちょっと、しょっぱめのパフォーマンスも含めて頑張ってるな、と（笑）。



07.6.16『UFC72』のメインでリッチ・フランクリンと対戦した岡見。これに勝利するとタイトルマッチも見えていた岡見だったが、善戦むなしく判定負け。UFC登場以来の連勝は4でストップ。その後、10.20『UFC77』でジェイソン・マクドナルドと対戦した岡見はパウンド等で終始優位に進め、フルマークの判定勝ち、アンデウソン・シウバの持つミドル級王座戦線に踏みとどまった。この大会から「サンダー」というニックネームがつけられた。





—ちょっと読者の方に説明しておくと、岡見選手は勝ったあとの（刀で斬る）サムライ・ポーズがおなじみになってるんですよね。

髙阪 ああいうのって大事なんですよ。試合に勝つ、いい試合をするっていうのは大前提なんですけど、それだけだとアメリカのファンとか関係者には選手のパーソナルな面がつかめないんですよね。だからしゃべらなきゃいけないし、動きで表現しなきゃいけない部分がどうしてもあって。アメリカの選手は、それをナチュラルにできるんですけどね。自分も、いつも「どうやったらええのかなぁ……」って考えながらやってましたよ。

岡見 一番感じるのは、煽り映像で……。

髙阪 あれなぁ！（苦笑）。

岡見 常連選手っていうのは、〝この人はこれ〟っていうお決まりの動きがあるんですよ。それが繰り返し（煽り映像で）流れるんですけど、僕の場合はサムライ・ポーズがフィーチャーされてて。

髙阪 UFCの煽り映像って、計量の前日に撮影するんですけど、とにかく注文が多いんですよ。「カメラを睨みつけて！」とか、腕を組んで見下ろすようなポーズとか、何パターンか素材を撮るんですよ。ただ、その選手が本当はどんなキャラクターかっていうのはおかまいなしなんですよ。あれ、2〜3時間かかるよね。

岡見 かなりかかりますね。

髙阪 それで消耗しちゃうんですよね。宇野（薫）くんのセコンドで行ったときも、ディレクターに「宇野っていうのは闘志を内面に秘めたタイプだから、カメラを睨むようなのは違うんだ」って言っても「NO！」って（笑）。あげくのはてに「もっとテンション上げろ」って、ラジカセ持ってきてヘビメタ流し始めて（笑）。だからもう宇野くんに「いいから言うとおりにやっちゃいなよ。そうしないと終わんないよ、これ」って。

岡見 ほんと、そんな感じですよね。向こうは「ボコボコにしてやる！」とか「ぶっ殺してやる」みたいなことを言ってほし

ニックネームは〝クラッシュ〟って案もあったんですけど、ありきたりかなって（サンダー）



いんですよ。僕はそういうキャラじゃないので「ちょっとそれは」って最初は言うんですけど、向こうは引き下がらなくて。結局は翻訳するんだから、向こうで勝手にやってくれればいいと思うんですけど（笑）。いまは慣れましたけど、最初は疲れましたね。

――サムライ・ポーズっていうのは、最初から考えてたんですか？

岡見　最初にやったのは3戦目だったんですけど、流れっていうか勢いで。勝ってテンションが上がっちゃって「やっちゃうか！」みたいな。カメラもずっと追ってきているので、「なんかやらなきゃ」って。最初から決めとかなかったから中途半端になっちゃったんですけど（笑）。

高阪　しつこいんだよね、あのカメラが。勝ってレフェリーに手を上げられるじゃないですか。そのときにカメラが寄ってきて離れないんですよ。「さあ、なんかやってくれ！」っていう感じで。そういう部分も含めて、いろいろ大変なんですよね。試合以外のことを乗り越えて、なおかつ試合に勝たなきゃいけないんで。

――じゃあ岡見選手の6戦5勝1敗という戦績は、単なる数字以上の重みがあるというか。

高阪　いや、ホントそうですよ。自分でも凄いって思うでしょ？

岡見　いやぁ……。高阪さんにそう言ってもらえると。

高阪　芯の弱い選手だったら、試合にたどり着く前に気持ちが萎えちゃうと思いますよ。あの雰囲気とか、人を選手扱いしないスタッフとかね（笑）。入場の仕切りとかヒドいもんな。

岡見　あぁ～（笑）。

高阪　「早くこっち来い、オラ！」みたいな感じですもん。「あと2秒！」とか（笑）。

岡見　「時間がない」っていうのはとにかく言われますね。入場曲が鳴った瞬間に「出ろ出ろ！」とか。

――イントロで集中力を高めて、サビで入場とか許してくれないわけですね。

岡見　許してくれないですね。

高阪　いっつもアレがシャクにさわってましたからね。まあ、向こうは向こうの仕事をしてるだけなんですけど。で、バックステージではそんな感じで慌しくて、いざ入場したらお客さんは完全にでき上がってるじゃないですか。そういう温度差みたいなのとも闘わなくちゃいけないし。そういう中で勝つためには、やっぱりしっかりした芯がないといけないんですよ。

――岡見選手は、そのへんはどうクリアしていったんですか？

岡見　僕の場合は、UFCの前に海外で試合経験を積んでいたというのが大きいですね。ハワイとかロシアとかでやってるので、「そこに比べればUFCはマシかな（笑）」って。いきなりUFCに行って勝てたかと言われたら、ちょっとわからないです。最初はロシアだったんですけど、とにかく雰囲気にやられちゃったんですよ。何がなんだかわからない状況で闘って、何がなんだかわからないうちにボコボコにされたっていう（笑）。そのときに、「海外で勝つっていうのは大変なんだな」というのが身に染みましたね。そういう経験があってのUFCなので。

――今回の試合ではニックネームもついたんですよね？

高阪　おお、凄いじゃない！　どんなの？

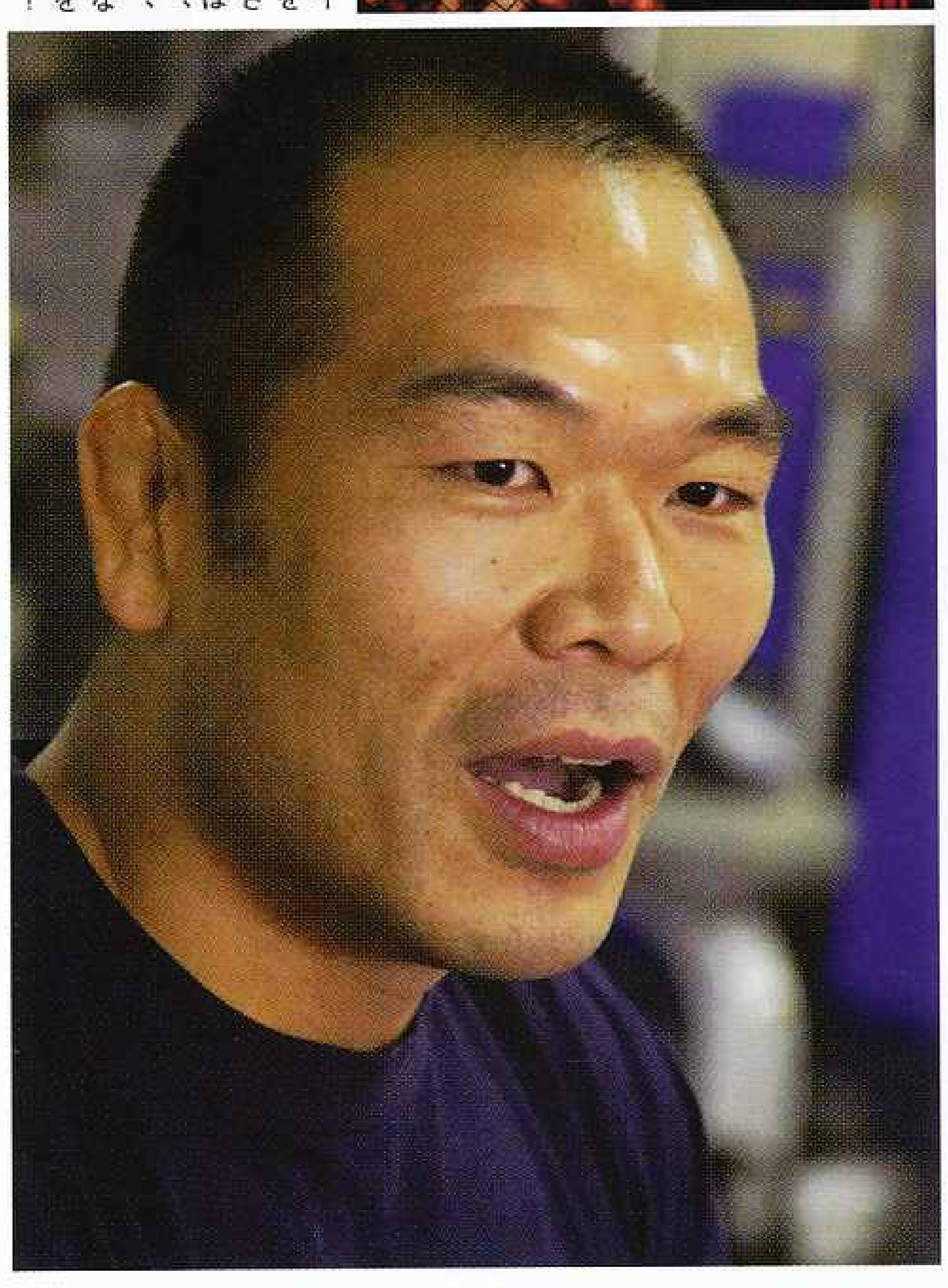
岡見　自分ではあまり言いたくないんですけど（笑）。〝サンダー〟っていう……。

高阪　サンダー？　カッコいいじゃない。

岡見　UFCのスタッフが「サンダーでどうだ？」って言ってきて、理由を聞い



UFCに定期参戦した初の日本人ファイターは高阪剛だ。98年の初参戦でキモを下した高阪は、99年11月に日本で開催されたUFC-Jも合わせるとUFCにはトータル6試合に出場。バス・ルッテン、ティム・レイシック、ペドロ・ヒーゾ、リコ・ロドリゲスといった日本でもおなじみの強豪相手に3勝3敗という戦績を残している。さすが〝世界のTK〟だ！



たら「日本のプロレスラーで獣神サンダー・ライガーっているだろ？ ジューシンとユーシンが似てるから」って。

高阪 安易だなぁ（笑）。それってジョー・シルバ（マッチメイカー）じゃない？

岡見 ジョー・シルバは〝クラッシュ〟っていうのを提案してきたんですよ。で、どっちがいいって言われたんですけど、クラッシュはありきたりかなぁって。宇野さんも首かしげてたんで（笑）。ちょっと迷いながら。

高阪 獣神サンダー・ライガーとユーシン・サンダー・オカミ（笑）。……いるからなぁ、UFCにもプロレスオタクが。でも、それで名前が覚えられたらいいじゃない。

岡見 試合にも勝ってましたし、いろいろな面で次につながったかなと思いますね。

――ただ、残念だったのは今回の試合がPPV枠から外れてたことで。そのへんはシビアですよね。

岡見 でもまあ、前回負けてますし、消極的な試合をしてしまったので、今回は出直しと思って、そのへんは考えなかったです。勝って、次につなげることだけ考えていました。

――PPVでも確実に観られるわけじゃないとなると、いよいよ現地で観たくなりますけどね。

岡見 会場の雰囲気、お客さんの盛り上がりが凄いので、できれば現地で観てほしいですね。なかなか、あの雰囲気は日本では作れないと思うので。

――アメリカの観客は沸き方が凄いし、沸きっぱなしですもんね。そういうのに乗れるか乗れないかっていうのも大きいんじゃないですか？

高阪 逆にね、乗りすぎちゃうのが怖いんですよ。声援に乗っていきすぎちゃう場合があるんで。だからテンションを下げちゃダメだし、上げすぎてもダメだし。普段よりちょい上がってるくらいで試合ができるのがベストかなと思いますね。

岡見 お客さんが試合を動かすっていうか、声援とブーイングの波っていうか差が激しいので……。

高阪 そうなんだよねぇ。

岡見 ブーイングされたら、慣れていない選手は「いかなきゃ！」ってペース乱しちゃうかもしれないですね。

――いま、岡見選手はタイトルマッチまであと一歩というところまで来てますよね。そういう状況で、何か高阪さんからアドバイスはありますか？



おかみ・ゆうしん■1981年7月21日、神奈川県出身。学生時代は柔道を経験、その後、友人に誘われ和術慧舟會に通い始め、第4回PRE-PRIDEで優勝をはたす。プロデビュー後はパンクラス、『PRIDE武士道』、『HERO'S』など、さまざまなリングで活躍。06年8月からはUFCに参戦、現在まで5勝1敗の好成績を残している。188cm、84kg。ブログ→http://blog.olga.to/okami/

会場の雰囲気や盛り上がりが凄いので できれば現地で観てほしい（サンダー）

高阪 そこがねぇ、自分とまったく同じ状況なんですよ。自分も「これに勝ったらタイトルマッチだぞ」っていう試合で2回負けてるんで。だからまあ……負けないことだよね、大事なのは（笑）。

――それしかない、と（笑）。タイトルマッチ寸前までいくと、選手としての意識も変わってくるものなんですか？ プレッシャーとか。

高阪 自分の場合、バス（・ルッテン）に負けたあとにティム・レイシックとやったんですけど、そのときマッチメイカーから「強い相手を連れてきたから」とだけ言われたんですよ。それって要は「そういう相手だけど、しっかり勝てよ」ってことだと思うんですよね。

――「勝ったらまたチャンスがあるぞ」と。

高阪 そこで初めて「期待されてるんだな」っていうのを感じて、それを意識するようになりましたね。試合だけじゃなくて、練習とか普段の生活から。UFCってもの凄い数の選手と契約してるんで、マッチメイカーから声をかけられて、具体的な話があるってこと自体、凄く幸せなことだと思いますよ。

岡見 「見られてるんだな、僕のこと考えてくれてるんだな」というのは感じますね。言葉でも感じるし、マッチメイクからも感じますし。そういう面は凄く嬉しいし、僕も期待に応えなきゃなって思います。

――出場してる時代でいうと、高阪さんはUFCのブレイク前、岡見選手はブレイク後ですよね。そのへんで何か違いってありますか？

高阪 自分は宇野くんのセコンドで、ブレイクしかけの段階も見てるんですよ。だから「うわ、エライことになってんな」っていうのは感じましたね。自分が出てた頃は、大会のたびにルールが変わるような状況でしたけど。ルールミーティングって、いまもしっかりやってるの？

岡見 いや、レフェリーが来て、「何か聞きたいことは？」っていう程度ですね。そ

れよりもダナ・ホワイトが来てお金の話をするんですよ。
——お金の話（笑）。
岡見 「いい試合したらボーナス出すぞ！」みたいな。それでみんな盛り上がって。
高阪 選手みんなで「やろうぜ！」みたいなね。そういうとき、横に対戦相手がいたりして集中力が削がれるんですけど（笑）。向こうの選手にしたら、「オレたち二人で明日のベストバウトにしようぜ！」って感覚なんでしょうね。
——以前、聞いた話だと、最近は空港のイミグレーションも「ＵＦＣファイターだ」って言うとすんなり通してくれるらしいですね。
高阪 僕らの時代は、説明から入りましたけどね。「柔道とかレスリング、キックボクシングをミックスした試合があって、それに出るんだ」って。で、それ聞いた係員が「へぇ～、大変なことやってんだねぇ」とか言いながらハンコ押してくれて（笑）。でも、こないだ高橋（和生）さんのセコンドでアメリカへ行ったら、自分のこと知ってる人がいましたからね。ＵＦＣがブレイクしたんで、過去のＤＶＤも観てるらしいんですよ。そういうレベルまで浸透してるんで、いま現役の選手はどれだけ凄いんだろうって思いますよ。
岡見 今回の試合でも、声をかけられたりはありましたね。選手が泊まっているホテルにも出待ちのファンがいたり。街全体が、ＵＦＣの色に染まっているって感じで。そういうところからも、「凄いイベントなんだな」というのを感じますね。

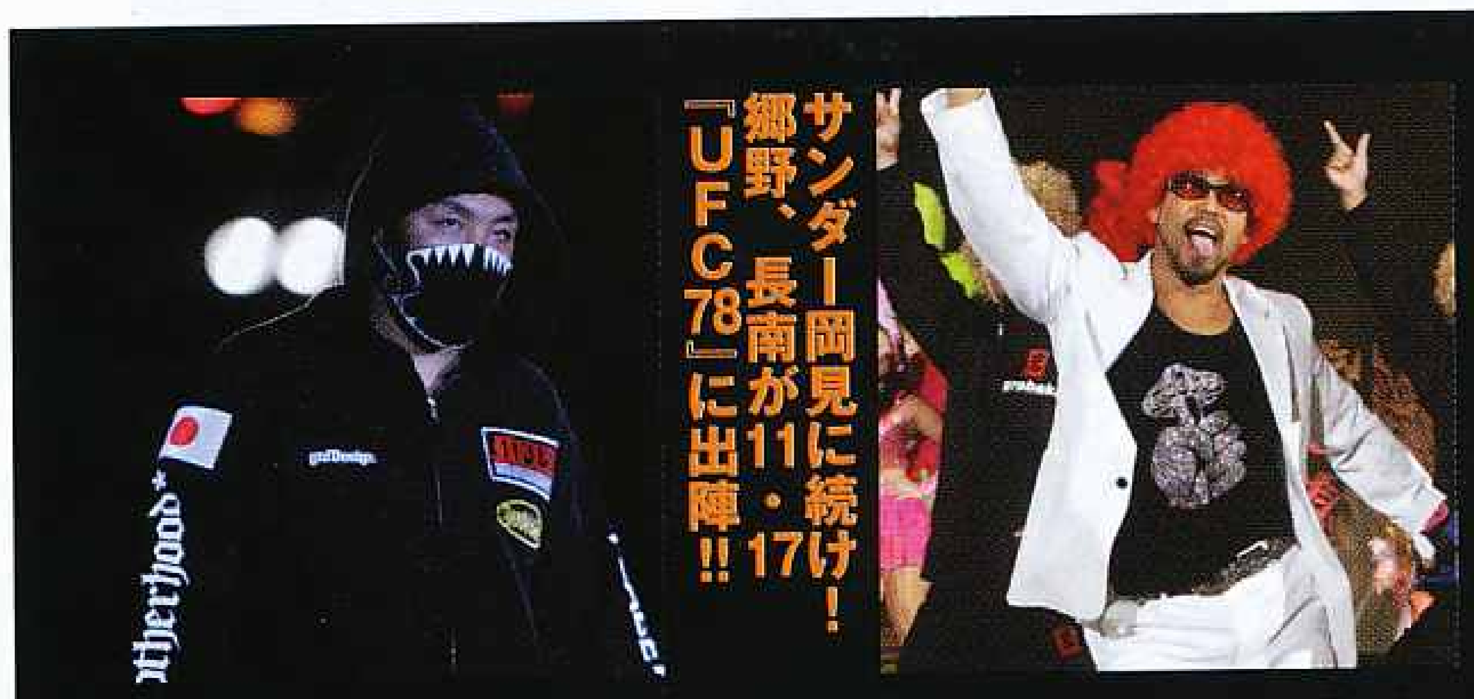
ハニカミつつ、これからは〝サンダー〟として頑張ってよ（TK）

——いま、ＵＦＣには日本人選手がどんどん増えてきてますよね。中村カズ選手とか長南（亮）選手、郷野（聡寛）選手とか。そのあたりは意識しますか？
岡見 純粋に嬉しいですね。皆さん日本のトップ選手なので。仲間意識というか、一緒に日本人の強さを示していきたいなって。ただ、ミドル級の日本人は僕だけなので、同じ階級にも来てほしいなって思いますけど。
——たとえば郷野選手の入場パフォーマンスは、アメリカでやってもウケそうですか？



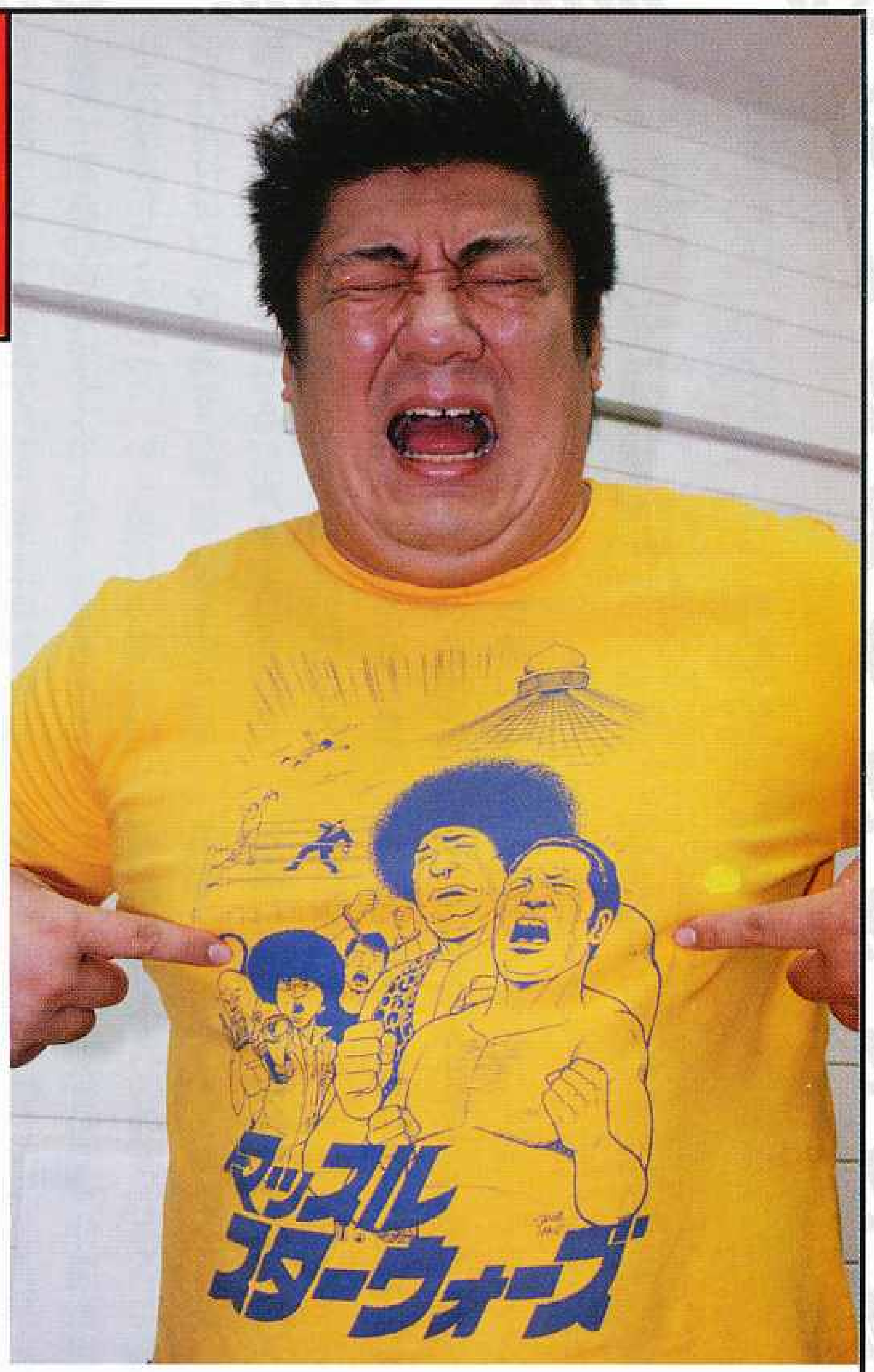
こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。93年リングスに入門、94年8月、鶴巻伸洋戦でプロデビュー。その後はリングスはもちろん、UFCやアブダビなど海外でも活躍。04年にはウォーターマンを下しパンクラス・スーパーヘビー級初代王者に。06年5月、『PRIDE』でのマーク・ハント戦を最後に現役引退。現在は後進の指導に力を入れつつ、その話術を活かし、解説者としても活躍。181cm、102kg。

高阪 やったらウケると思うんですけど、なにしろ向こうは仕切りが細かいですからね。「そのパフォーマンスは何分何秒かかるんだ？」とか、そういう話もしなきゃいけないと思いますよ。
——あ、秒単位の話ですか（笑）。
高阪 ＰＰＶの枠に収めないといけないんで。当日の進行台本って、「何時何分何秒にここでスタンバイ」みたいなことまで決まってるんですよ。そういう中で、郷野くんがあのパフォーマンスをやって、しかも勝ったら凄いですよ。
——日本人の活躍が増えれば、先駆者としての岡見選手の凄さもよけいに伝わるんじゃないですか。
高阪 岡見にはこのまんま行ってほしいですね。見てていつも思うのは、「芯が強いな」ってことなんですよ。
——動じないというか。
高阪 たぶんだけど、ケンカ売られてても気づかないタイプじゃない？
岡見 あ～、そうかもしれないです（笑）。あまり「この野郎！」みたいにならないんですよね。そうなったほうがいいのかなって思うときもあるんですけど。
高阪 いや、いまのままでいいと思うよ。そのくらいのほうが、むしろ格闘家向きなんだよ。試合って自分をコントロールしなきゃいけないから。それが自然にできたら、なおいいしね。いまのね、ハニカミ気味の感じでいけばいいよ（笑）。
——ＭＭＡのハニカミ王子として（笑）。
高阪 ハニカミつつ、〝サンダー〟として頑張ってよ（笑）。
岡見 ……頑張ります（笑）。
【07年10月31日／都内・赤坂『A-SQUARE』にて収録】



UFCで活躍する岡見勇信に続き、『PRIDE武士道』で活躍していた郷野聡寛と長南亮が11.17『UFC78』ニュージャージー大会で揃ってオクタゴンデビューをはたす。郷野はタムデン・マックローリーと、長南はカロ・パリジャンと、それぞれアメリカの強豪ファイターとの対戦が決定している。この大会の模様は11月30日（金）発売予定の『kamipro Special 2008 WINTER』にて、たっぷりとお届け。郷野、そして長南よ！やれんのか？ やれんのか？ やれんのか？ もう、やっちゃってください!!

kamipro SHOPPING



マッスル坂井も思わず嬉し泣き!!
うわ〜ん、うわ〜ん、バカ売れだよ〜ん!



このTシャツを着れば"ミノモマン"になれる!

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S·M·L·XL イエロー] ¥3,150(税込)



男なら当たって砕けるマサイズムに酔いしれろ!!

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]
¥3,150(税込)

©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.



T.J.シンTシャツ
[XS·S·M·L·XL ブラック]
¥4,200(税込)



高田総統MONSTER Tシャツ
[XS·S·M·L·XL ホワイト] ¥4,200(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元/(株)ダブルクロス



KamiproマスクTシャツ[☆]
[S·M·L·XL ホワイト×レッド]
¥3,990(税込)



I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブルー]
¥3,990(税込)



HEAD HUNTERS Tシャツ
[S·M·L·XL ライトブルー]
¥3,990(税込)



\(^o^)/Tシャツ
[XS·S·M·L·XL ホワイト×ネイビー]
¥3,990(税込)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24





インリン様M字Tシャツ
[XS·S·M·L·XL ホワイト/ピンク]
¥3,990(税込)



ニューリン様"BERO"Tシャツ[☆]
[LADY'S M·M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)



ニューリン様"SIGN"Tシャツ[☆]
[LADY'S M·M·L·XL ブラック]
¥3,990(税込)

ケータイサイトは
もちろん
24時間受付OK!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo	iMenu	▶	メニューリスト	▶	スポーツ	▶	格闘技/大相撲	▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!								
au/TU-KA	トップメニュー	▶	カテゴリで探す	▶	スポーツ	▶	格闘技	▶
SoftBank	メインメニュー	▶	メニューリスト	▶	スポーツ	▶	格闘技	▶
WILLCOM	趣味&スポーツ	▶	スポーツ	▶	総合	▶		
	エンターティメント	▶	TV・メディア・本	▶	本	▶		

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです



実録

三途の川を渡り損ねた男

退院記念スペシャルインタビュー

安田忠夫

退院直後に“借金王”のズンドコ節炸裂!?
いや、今度こそ本当に更正した……はず!

自殺未遂騒動で日本中に衝撃を与えた安田忠夫が、ついにその心を入れ替えた! “借金王”“ナマクラ”などさまざまな肩書きでスポーツ紙や専門誌をにぎわせてきた安田が今回引き起こした騒動で、ようやく改心したのだ。退院直後に“エア”ではない焼肉を食べながら直撃インタビューを敢行! どんな話が飛び出すのか!?

聞き手/金沢“GK”克彦　構成/坂井ノブ　試合写真/平工幸雄



10月4日、日本中をかけめぐった安田忠夫の自殺未遂報道――。"借金王"のニックネームで生活苦をネタにしながらプロレス界で浮き沈みを繰り返してきた安田が、まさか本当に自ら命を絶とうとするとは、いったい誰が考えただろうか？自宅アパートで練炭と、睡眠薬の大量摂取で自殺を図ったという第一報が入った瞬間、業界関係者の多くが「まさか？ これ、アングルじゃないの？」と疑ったという噂も聞く。安田というプロレスラーの虚実入り交じった微妙なスタンスを物語っていると言えるだろう。

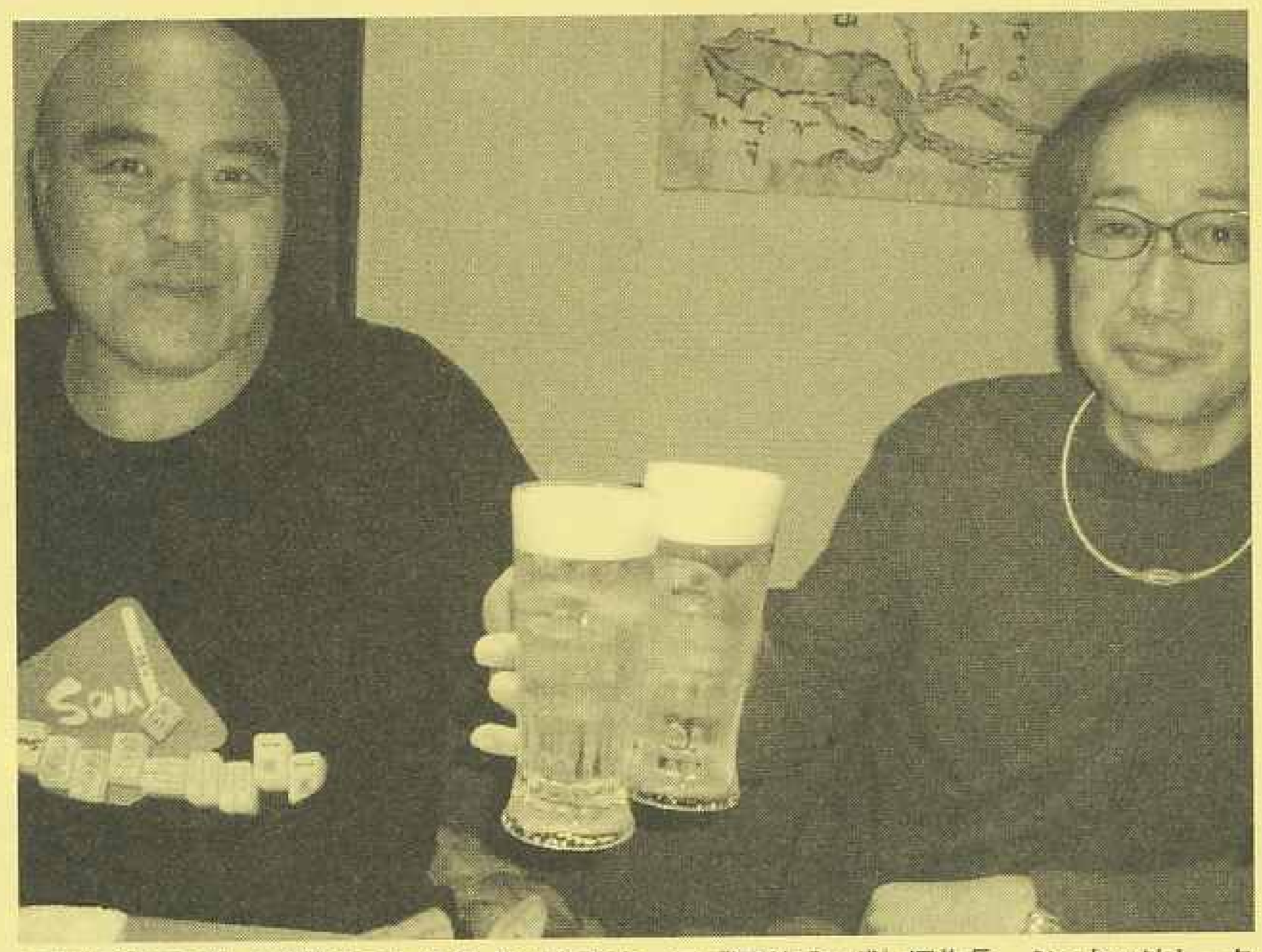
とはいえ、これはアングルではない。まぎれもない事実である。自殺を図る直前に関係各方面に連絡を入れていたため、新日本プロレスの田山正雄レフェリーが安田のアパートにかけつけて119番通報。発見が早かったおかげで後遺症もなく順調に回復して、同月24日には無事退院することとなった。このインタビューは病院から退院した安田が、ケジメとして理髪店で頭を丸めた直後に行なわれたものである。

入院中に10月11日付けの『東京スポーツ』紙上で「確かに睡眠薬は飲んでいた。あの日は、とても焼肉を食べたかったけれど、ガスは料金未納で止められている……。で、七輪を二つ入手したところ、今度は肉を買う金がなくなってしまった。それで一人むなしく"エア焼肉"を楽しんでいたら、不覚にもそのまま眠ってしまった」と抜群のコメントを出していたこともあり、本誌は退院祝いに焼肉屋での取材を敢行！

インタビュアーは、安田に3万2000円を貸したままになっていたという因縁を持つ元『週刊ゴング』編集長・金沢"GK"、克彦氏にご登場いただき、事件の真相と安田の今後について、フランクに話をしてもらった。旧知の仲のGKだからこそ聞けた安田の"ぶっちゃけトーク"をお楽しみください！

――本日、晴れて退院ということですね。

安田　（恐縮して）はい、ありがとうございます。ホントご心配おかけしました。退院してシャバに出たんで、これからはまじめにやりますよ。



安田と親交の深いGK隊長こと金沢"GK"克彦・元『週刊ゴング』編集長。ぶっちゃけトークのオンパレードで途中からは活字化できない話も飛び出した。

――それでまず頭を丸めたんだ？

安田　はい、いまの気持ちを現わして。

――（ここでビールが運ばれてくる）退院して一杯目？ もう飲んでもいいの？

安田　ま、一杯ぐらいなら大丈夫でしょ。医者にも止められてないし、アルコール依存症とは言われてないもん。「タダ酒しか飲まない」って言ってあるから。

――今日は『kamipro』の経費だから、確かにタダ酒だよ。間違ってはいない（笑）。ところで（七輪を指差して）これにトラウマない？

安田　ない（キッパリ）。

――じゃあ写真を撮ろう（笑）。

安田　炭が違うからね（笑）。

――それにしても、今回の騒動は凄い反響でしょ？ しかも、そのせいで娘のAYAMIちゃんが仕事をキャンセルしたんだよ。

安田　そんなに売れっ子だと思わなかったんだけどね、正直言って。ホントに申し訳ないと思ってます。

――幸か不幸か、おかげでAYAMIちゃんが有名になったから、それをまたプラスに転化するのが猪木イズムでしょう。

安田　（さらに恐縮して）今回だけは各方面に迷惑かけちゃって……、これを機にギャンブル依存症のカウンセリングも受けます。

――いわゆる自殺願望であるとか、

田山レフェリーは安田忠夫の"命の恩人"

安田のアパートにかけつけた第一発見者、田山正雄レフェリーは安田が新日本プロレスに在籍した時期から仲が良かったという。緊迫の現場を振り返ってもらった。

●

安田さんとは仲良かったし、家も近所だから新日本を退団してからも一緒に食事したりお茶飲んだりしてたんですよ。ネガティブになった時期はメールの文章も暗いし、皆さんもご存知のとおりこれまでに"自殺未遂の未遂"みたいなことも何回かあったんですけどね。今回も暗いメールが来てたんですけど、文章の最後に「娘をよろしく」って絵文字つきで書いてあったんです。いつもはそんなこと書いてないんですけどね。そのときは僕も新橋で焼肉を食べてたんですけど、帰り道で安田さんの家に寄ったんです。

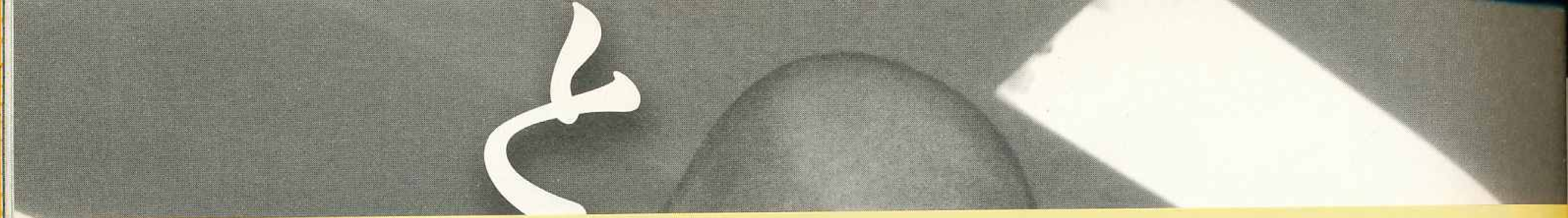
呼び鈴を押しても返事がないんで、ドアを開けたら煙がもくもく出てきたんでヤバいと思いました。中に入ったら安田さんの布団の左右に置かれた七輪で練炭が燃えてました。すぐに窓を全開にして、幸い水道は止められてなかったから、すぐに水をかけて消火しましたよ。本人はイビキかいて寝てたし、七輪も消火したし、僕も何度か安田さんの"自殺未遂の未遂"みたいなメールを受けてたから感覚が麻痺してたんですね。「これで一件落着だ」と思って家に帰ろうと思ったんですけど、電話した高木記者に「一酸化炭素中毒は後遺症が残る可能性があるから病院に連れていかないと絶対にダメだ」って言われたんです。こんなこと表沙汰にしたくないから躊躇しましたけど、安田さんを救うのが最優先だって、すぐに119通報しました。

意識が戻ってから最初にしゃべったときは「迷惑かけてすみません」みたいな話でしたけど、そのときにはAYAMIちゃん、橋本かずみさんもいたし、高木記者もいて「復帰戦はカート・アングルと闘って、五輪レスラーvs七輪レスラーだ」なんて話をしてました（笑）。あれで性格が悪かったら誰も相手にしてないと思いますけど、とにかく人はいいんですよ。ただ、凄くデタラメなんです。以前「ギャンブルやめてください」と言ったときに、「おう、やめるよ。賭けてもいいぜ！」って言ったぐらいですからね（笑）。まあ、いつかまた一緒に仕事ができれば嬉しいですけど……、12月20日の復帰戦で、特別に安田さんの試合だけレフェリーをやらせほしいですねぇ（談）



新日本プロレス
田山正雄レフェリー

たやま・まさお■1971年1月2日、愛知県出身。91年11月10日、新日本プロレスでレフェリーデビュー。外国人係も担当するなどマルチな才能を発揮する。問題の七輪は現在、田山レフェリーが持っており、その処分方法を検討中。「安田さんにサイン入れてもらってオークションに出しましょうか？」とのこと。170cm、77kg。



ホントにご迷惑をおかけしました！　これを機にギャンブル依存症のカウンセリングを受けます！

そういうことのカウンセリングじゃなくて？

安田　最初はそういうカウンセリングにも入ってたんだけど、「もうそんな（自殺する）気はない」って言ったから。娘に懇々と怒られて、こういうことはしちゃいけないって気がついたよ。「じゃあ問題はギャンブルだ」っていうふうになったんだけど、意外にああいうカウンセリングってズバズバ言うんだよね。優しい言葉もかけてくれるよ。でも、ズバッと言われるの。最初に「ギャンブル依存症」って言われたとき、ちょっとめまいがしたけど。

——依存症なんてもんじゃないでしょ。カウンセリングは病院側が勧めてくれるの？

安田　精神科の先生が勧めてくれました。そこで言われるのが「ギャンブルをやめろとは言わない。とりあえず、今日だけやめてみよう」って。

——『禁煙セラピー』みたいな話だね。

安田　そう。それで自分のギャンブルの失敗談を、同じような失敗した人ばっかり集まった教室の中で話すんだ。他人の失敗を聞くと勇気づけられるって言ってたけど……。

——でも、安田選手の失敗を聞いた人は勇気づけられるかもしれないけど、ほかの人の失敗を聞いても安田選手には屁でもないんじゃない？　これ以上の人はいないと思うよ。

安田　いや、いるみたいだよ。

——いるんだ!?

安田　ギャンブル依存症にはそういう人が多いらしい。

——あまり大きな声じゃ言えないけど、そこに猪木さんも入ってきたりとか？（笑）。

安田　猪木さんはスケールが違うよ！

——そんなところに収まらないか（笑）。

安田　だから俺はスケールが小さいんだな。まだまだバクチでもトップには立ってない。猪木さんは直接お見舞いには来てくれなかったけど、会社の人が来て、非常に優しい言葉を伝えてもらったから。

——それにしても『東スポ』の一面に出たのなんて03年8月11日（愛知県体育館）の『Ｇ１　ＣＬＩＭＡＸ』以来だよ、覚えてる？

安田　覚えてるよ。

——さすが記憶力だけは抜群だ。自ら寝転がって柴田（勝頼）選手にフォール負けして、「金返せ」コールが発生したとき（笑）。あれ以来の一面だから。

安田　今回のことが一面になった新聞は見てないんだよ。あの日のことは記憶が全然ない。医者にも「思い出さなくてもいい」って言われてるの、カウンセリングで。搬送された病院で暴れたみたいだけど、それも記憶にないんだよ。田山（正雄）レフェリーには凄く迷惑かけたよね。

——安田選手が暴れたら、病院の人じゃ押さえられないでしょう（笑）。でも、暴れたっていうのは意識が戻ってきたってことなんでしょ？

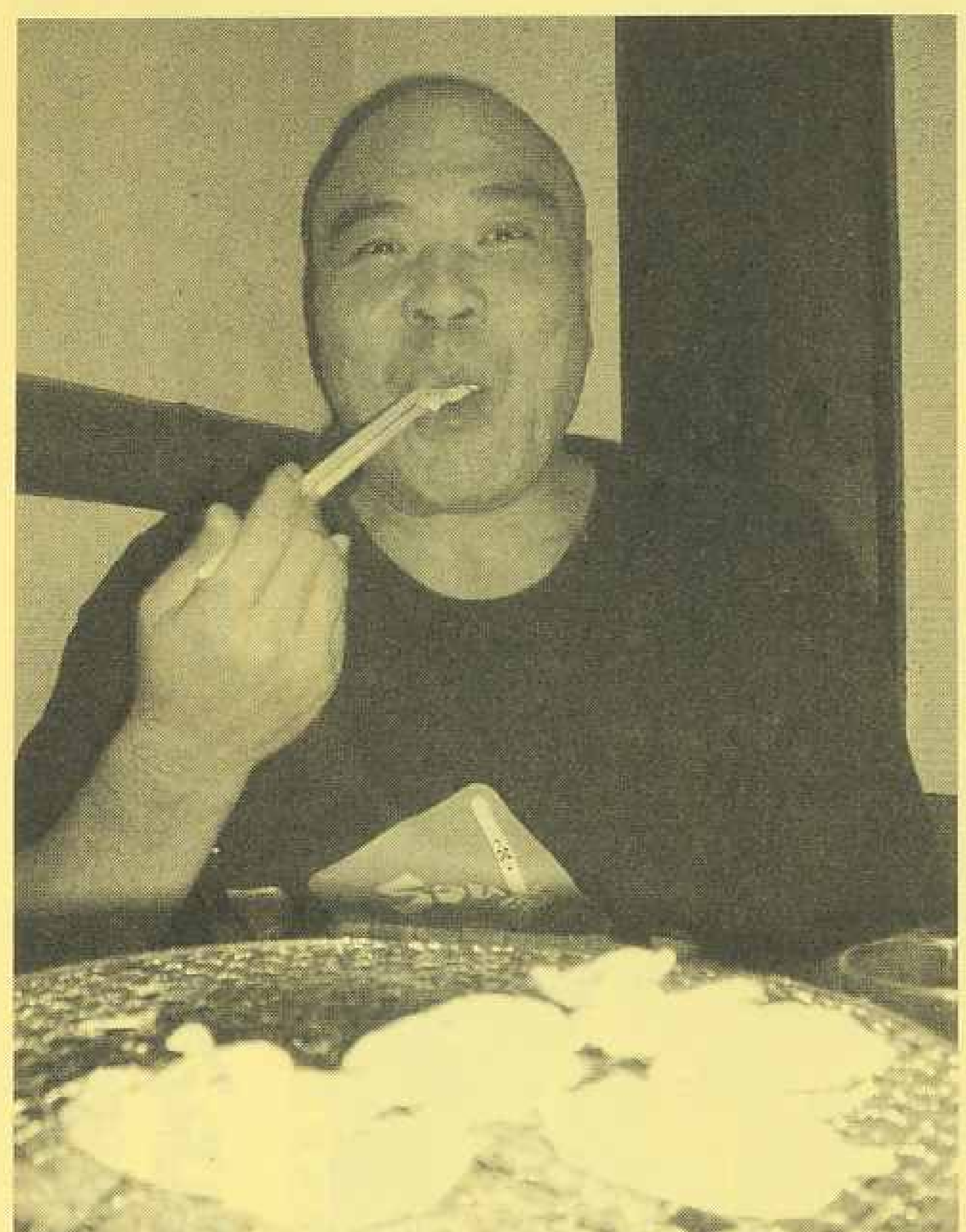
安田　そうらしいんだけど、記憶がないんだよねぇ。治療のために高圧酸素カプセルに入るのも嫌がったらしい。あとになってベッカムも使ってるって聞いたから、「もう一回入りたいな」って（笑）。意識がないままカプセルに入って、暴れちゃう人もいるんだって。そういう人には付き添いで看護士さんがつくんだけど、看護士さんも余裕ぶっこいてて、患者が動かなかったら「これ、美容にもいいのよね」ってグーグー寝てるもん。

——それに入ると気分いいんだ？

安田　うん、いい。本とか読んだら入り込むし、もうほとんど寝ちゃう。でも、耳抜きしないといけないの。それが抜けなかったりすると、寝てても耳が痛くて起きちゃうけど。

——でも、最初搬送された病院ではＭＲＩに入れなかったんでしょ？

安田　そうそう。ＭＲＩの機械が小さすぎて。



七輪で本物の肉を焼いておいしそうに頬張る安田。この素晴らしい表情を見たら、もうなんとも言えない幸せな気分になってくる。

——いや、安田選手がデカすぎるんだよ（笑）。

安田　それで病院を移ったんだけど、そこは先生が凄くよくしてくれた。そういうカウンセリングも完備してるんだよね。カウンセリングで「（自殺未遂をする）以前の気持ちはどうでしたか？」って聞かれるけど、思い出せないんだよね。思い出したくないんだろうね、いまの自分は。先生も「思い出さなくていい」と言ってくれてるけど。

——そんなに、追い詰められてた？

安田　何もかも嫌になったんですよ。こんな惨めな自分がもう嫌だったんです。最近はあまりにも仕事がなかったのに遊んじゃってたし。それもよくないんだけどね。まあ、自分が悪いんですよ。

——あの騒動の前、一ヵ月間は俺にもまったく連絡がなかったもんね。

安田　就職活動もしたんだけど、「安田さんが働くの？」みたいに言われるから。人づてに普通の仕事の面接に行ったりすると、プロレスを知らない人は「俺はこれぐらい稼いでるんだけど、あんたプロレスでどれぐらい稼いだの？」とか聞かれるから、「いいときはこれぐらい」とかって言うと「じゃあプロレスやったほうがいいんじゃない？　いまさら、若いヤツに『おい』とか言われてこき使われて、暴れられたら困るから」とか言われて、それで仕事が流れるわけよ。「それでも使ってみてください」って頭を下げたら、そういう日に限って朝早くから起きて弁当作って朝飯食ったら出勤時間まで1時間半ぐらいあるの。それで、ちょっと寝たら寝坊よ。で、「もう来なくていい」だって（笑）。

——なるほどね。一応、普通に仕事をしようと思ってたわけね。

安田　いろいろね。だからプロレス業界に頭下げて「安いギャラで使ってくれ」って言うのはイヤだったの。

——それがよくないんだよ！

安田　永田裕志選手がお見舞いに来てくれたときにも「安田さん、自分で動かなきゃダメですよ」って言われた。それは痛感してるよ。

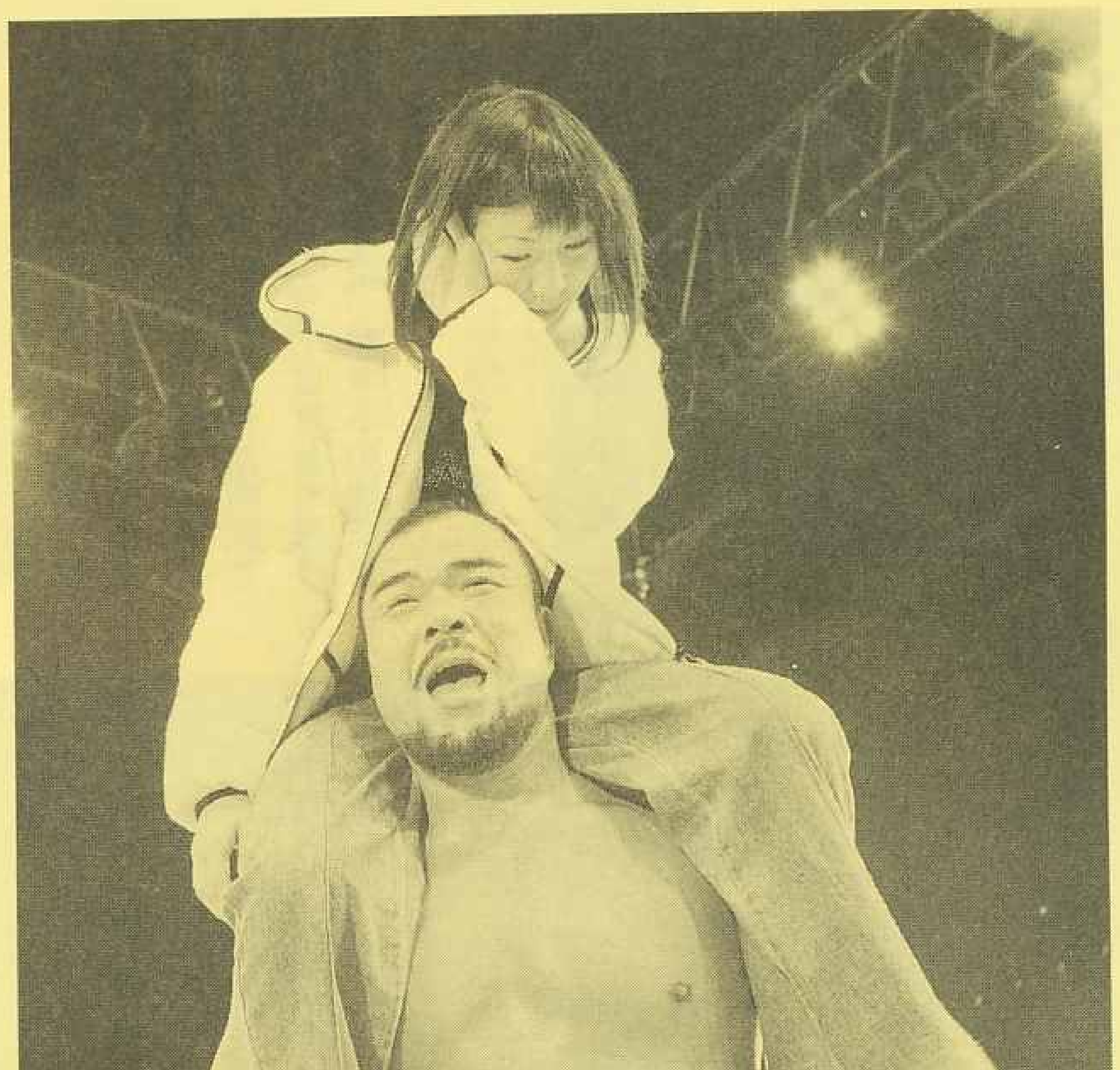
——あとは大谷晋二郎にも言ってほしいよね。切符一枚売る大切さとかね。

安田　それを言われるとね……、こんな言い方するとアレだけど、プロレスラーになりたくてプロレスラーになったわけじゃないから。相撲で挫折して、家族を養うためにプロレスラーになったんですよ。それが稼げないんだったら、安いギャラでプロレスやって何になるの？　って気持ちもあったんですよ。自分の中にへんなプライドがあって。いまはもうそういうプライドもないし、落ちるとこまで落ちたから、頭下げて使っていただけるならいくらでも下げるけど。それ以前の問題で、まずは



身体を作らないと。
――「安いギャラでもいいから使ってくれ」と言えないプライドが邪魔して仕事をなくしたのも事実でしょ。
安田　まあね。自分が悪いっていうのは反省してる。怒られても仕方ない。でも今回、自分のことがこんなに話題になると思わなかった。生きてたから話題になったんでしょ？
――生きてて、しかも大丈夫だっていうのがわかったからギャグになってるんだよ（笑）。それが向こうに逝っちゃってたらシャレにならないよ。個人的には「自殺未遂直前に俺に連絡がこなくてよかった」って思ったもん。
安田　なんで？
――もし俺のとこに電話がきて、それを「なんだよ」ってシカトしてさ、それであの世に逝っちゃったらやりきれないもん。連絡したのは田山レフェリーだけ？
安田　田山氏と（『東京スポーツ』の）高木（圭介）記者と娘だけ。田山氏も「たまたま酒を飲んでなかったからよかった」って言ってたよ。「飲んでたら（車を運転できないから）来てない」って言ってたもん。飲酒運転で捕まっちゃうから。そういうのもラッキーだった。金のないヤツは三途の川も渡れないのかと思ったけど。
――三途の川の渡航費さえ払えなかった（笑）。
安田　まあ、いまだから冗談で言えるけどね。
――無事だったからギャグで済むけどさ、安田選手がその3人にメールして"エア焼肉"してる時間に、俺はちょうど永田選手と焼き肉を食ってたんだよね。電話くれれば呼んだのに。ところで、入院中には別の事件も起こしちゃったんでしょ？　差し入れでもらったワッフルを食べすぎて胃痛を起こしたって（笑）。
安田　『東スポ』の水沼（一夫）記者がお見舞いに来たときに、俺は寝てたんだよ。それで「安田さんに渡してください」ってワッフルを預けて、そのまま帰っちゃったって聞いたからさ、それ捨てるわけにいかないじゃん。入院中は病院の敷地から出なければ、歩くのも自由だし、何を食ってもいいって言われてたんで、ワッフル食べたら、食いすぎちゃって胃がムカムカしてさ。
――普通に食事も食べるんでしょ？
安田　病室でも1・5人前出るんだけど、それじゃ足りないの。病人用の1・5人前だから、普通の人の1人前しかないんだよ。それでワッフル食べすぎたんだ。試合前にきんつば20個食ってプロレスやったこともあったから、甘いものには自信があったんだけど。
――甘いものに自信を持ってどうする（笑）。だから甘い人間になったんだよ！
安田　橋本（真也）さんの知り合いで京都の和菓子屋さんがいたの。そこのきんつばが凄くうまいんだけど、あまり日保ちしないわけよ。それが箱で来るから、試合前に20個ぐらい食べて試合やって。
――それで大丈夫だったの？
安田　全然大丈夫。
――甘い試合しなかった？
安田　いつも甘い試合してたから（苦笑）。
――まあ、しょっぱい試合するよりはいいのか（笑）。結局、ワッフルも一気に20個食べたんでしょ？
安田　そう。病院にローソンがあるんだけど、病院内のローソンには普通のローソンみたいに胃薬を置いてないんだよ。仕方ないから看護士さんに「すいません、胃薬をもらえますか？」って言ったら「え、安田さんお腹痛いの？」って言うから、「ワッフル食べすぎて胸焼けしてるんで、胃薬出してもらえませんか？」って。そしたら、担当の看護士さんが「冗談じゃありません！　ここは病院です！　そんな理由で薬は出せません！　今日はガマンして寝てください」って言われて（笑）。それ以降、みんなカルテを見て「安田さん、胃がもたれるって大丈夫ですか？」って聞いてくるんだよ。だから、いちいち「ワッフル食べすぎちゃって」って説明するとみんな笑うの。

ワッフルを20個食べたら胸焼けしちゃって、「胃薬ください」と言ったら看護士に怒られた



01年12月31日の『INOKI BOM-BA-YE 2001』でジェロム・レ・バンナに一本勝ちして娘の彩美ちゃん（現AYAMI）を肩車。全国のお茶の間が感動に包まれた。

――それ、看護士もからかいに来てるんじゃないの？（笑）。
安田　まあ、俺はおもしろかったからいいけど悪い気がするよね。同じ病室には寝たきりの人もいたから。
――でも、食欲は人間の根源的な欲求だからね。食欲、性欲、睡眠欲が三大欲求とか言われてるけど、もともと人間には博打欲なんていうのはないんだよ。それは後天的に身についたものだから治るよ、たぶん。
安田　（天を仰いで）ああ、真人間に戻りたい。いろいろありすぎたね。こんなマンガみたいな人生を送ってるヤツはほかにいねえよ、ホント。それにも疲れたって状態だったからね。仕事でもあれば練習しようって気にもなるんだけど。いかんせん、ＩＧＦはカードが決まるのが一週間前とかだから。
――ギリギリまで決まらないよね。
安田　最初にＩＧＦに出る前に猪木さんに挨拶したんだけど、会った瞬間に「おまえ、とにかく日焼けして腹を引っ込めてこい」って金をくれたんだ。やっぱり猪木さんは見るところがほかの人と違うよ。
――病院に入って痩せた？
安田　痩せたみたい。でも、もっと痩せてたよ。10日前に着替えを取りに一度アパートに戻ったんだけど、そのときは118キロだった。それからお見舞いが来てメシをバンバン食べてたら、いま125キロだから（笑）。





02年2月16日、新日本プロレス両国国技館大会で安田は永田をフロントスリーパーで破ってIWGPヘビー級王座を獲得。ここから人生の歯車が狂い始めた。

いろいろありすぎたね。こんなマンガみたいな人生を送ってるヤツはほかにいねえよ!

——回復が早いなぁ（笑）。

安田 いや、俺らの5キロ10キロはすぐだよ。

——まあそうだけどね。

安田 今回の件でさすがにアパートは出ていかないといけないから、家を見つけないと。でもその前に先立つものが……。

——ちなみに、俺が3万円貸してたの覚えてる？

安田 （GKの）電話番号を思い出したときに、一緒に思い出したよ。

——ああ、人の電話番号を全部ソラで覚えてる男だからねぇ（笑）。

安田 娘が携帯を持ったまま海外に行っちゃったから、誰にも連絡がとれなかったんだけど、電話番号を覚えてる人だけは自分で連絡したんだよね。そのときに思い出した（笑）。

——「金がなくて三途の川を渡れなかった安田です」って電話がかかってきて。そのとき、会話の最後に「そうだよ、編集長に金返さなきゃいけなかったんだよな」って言うから、覚えてやがるなと思って。

安田 香典代わりにもらっとこうかと思ったんだけどさ（笑）。まあ、それは冗談だけど。

——「それ返してくれたら焼肉をおごってやる」って話だったけど、それをいま……。

安田 『kamipro』さんのおかげでゴチになります。

——でも、俺の金はまだ返ってきてないから。まあ、その約束は引き続き続行ということで。

安田 3万円返したら焼肉ね。游玄亭（※注＝高級焼肉店）でいいから。

——振り込み手数料も入れると3万2000円なんだけど。

安田 （驚いて）えっ？ 振り込み手数料なんて315円でしょ!?

——いや、振り込み手数料で2000円かかった。俺は●●●銀行から、△△△銀行に振り込んだよ。

安田 それでも手数料は315円だよ！ 嘘言うなよ！（怒）。

——そんなことでムキになるなよ！（怒）。

安田 ぼったくられたらいけないからな。

——そういうことは金をちゃんと返してから言いなさい！

安田 ……すいません。

——その3万円で焼肉をおごるから。エア焼肉じゃなくて（笑）。ちなみに、その3万円は何に使ったの？

安田 今年の1月と2月ぶんの電気代、ガス代、水道代。2ヵ月払わないと止められちゃうからね。

——ちなみに、3年前の秋にも「電気が止まるから金を貸してくれ」っていうメールが毎日来てたの。そのとき俺はちょうどタイに遊びに行く直前だったから無視してたんだけど。

安田 冷たいなあ……。

——だって、これからタイに遊びに行くってときに空港で携帯を見たら留守電入ってるし、「金貸してくれ」ってメールが入ってて、振り込み先が書いてあるんだよ!? それは無視



娘のAYAMIちゃんはレースクイーンとして活躍中で、6月のIGF旗揚げ戦では父親のセコンドにもついている。



ここ何年かホントに貧乏だったもんな、稼ぎがないからね。稼いでも、そのぶん使ってたね

するでしょ（笑）。

安田 ここ何年かホントに貧乏だったもんな、稼ぎがないからね。稼ぎはあるんだけど、そのぶん使ってるんだよね。

——また稼がないと。復帰戦は12月のIGFになるのかな?

安田 それもわからない。まず身体を作らなきゃいけないし、やることいっぱいあるから。カウンセリングも受けなきゃいけないし。

——気持ちとしては12月にぜひ出たい、と。

安田 猪木さんがそうやって言ってくれるなら。結果を出すのはリングの上だと思ってるから。リングの上で結果を出さないことには、何も始まらない。

——試合に出て、いろんな人に恩返しだ。

安田 恩返しできるならしたいという気持ちで。まず、明日は猪木さんにご挨拶に行ってきます。ホントは今日行かなきゃいけなかったんだけど、猪木さんと時間が合わなくて。

——猪木さんは12月のIGFで対戦相手にレネ・ローゼを用意するって言ってたけど。レネローゼも刑務所入ってたとか、以前からいろんな噂のある人間だよね。

安田 悪いけど、俺はまだ警察の厄介にはなってないから！（胸を張って）。

——一度なってるじゃん。知らない人の家の玄関先で寝ちゃって。

安田 ああ～、あのときは中華料理屋でごはん食べたんだけど、飲みすぎたら凄く眠くなってきちゃって……。知らない人の家の玄関で寝てたらしいね。

——ビックリするよね、こんな巨体が家の前で寝てるんだから（笑）。それで家の人が警察に通報して。で、警察に保護されたら、署内で「新日本プロレスの安田じゃないか?」ってことで、新日本の寮に電話がいったんだよね。それに出たのが長尾（浩志＝現ジャイアント・バボ）だったんだけど「いや、安田さんはもうウチの選手じゃないんで」って言ったんだよね（笑）。確かにZERO1・MAXに上がってた時期だけどさ。

安田 あの野郎！ ホンットに役に立たないね（怒）。

——そのあと、なぜか坂口（征二）さんの家に電話がいったらしいよ。「ヤスはいまたぶんZERO1・MAXさんにお世話になってると思いますよ」ってことでZERO1・MAXに連絡がいったんだけど、巡業中でどうしようもないから、居残りの山笠（〝Z信介〟）選手と大谷選手の友人Sさんが引き取りに行って。あまりにもその寝てる姿がおもしろいんでSさんが写メを撮ったら、その日のうちに選手や関係者に回っちゃったんだよね。

安田 その次の日、家の前が交番だったんだけど、お巡りさんに「大丈夫?」って言われて、「何かやったんだな、昨日」って思って、「すいません、大丈夫です。ご迷惑かけました」って（笑）。全然記憶がないから、なんのことだかわからないんだけど。

——山笠選手が家に運んで寝かせたら「痛い！ 痛い！ 痛い！」って暴れてたらしいよ。

安田 なんてワガママなヤツなんだろうね（苦笑）。でも、これからは違うよ。このまま仏門に入ろうかと思ってるんだから。まあ、そこまではできないから、カウンセリング受けてまじめになりたいな、と。

——じゃあ、ギャンブルからは一切足を洗う?

安田 いやいや、そういうプレッシャーをかけないで。

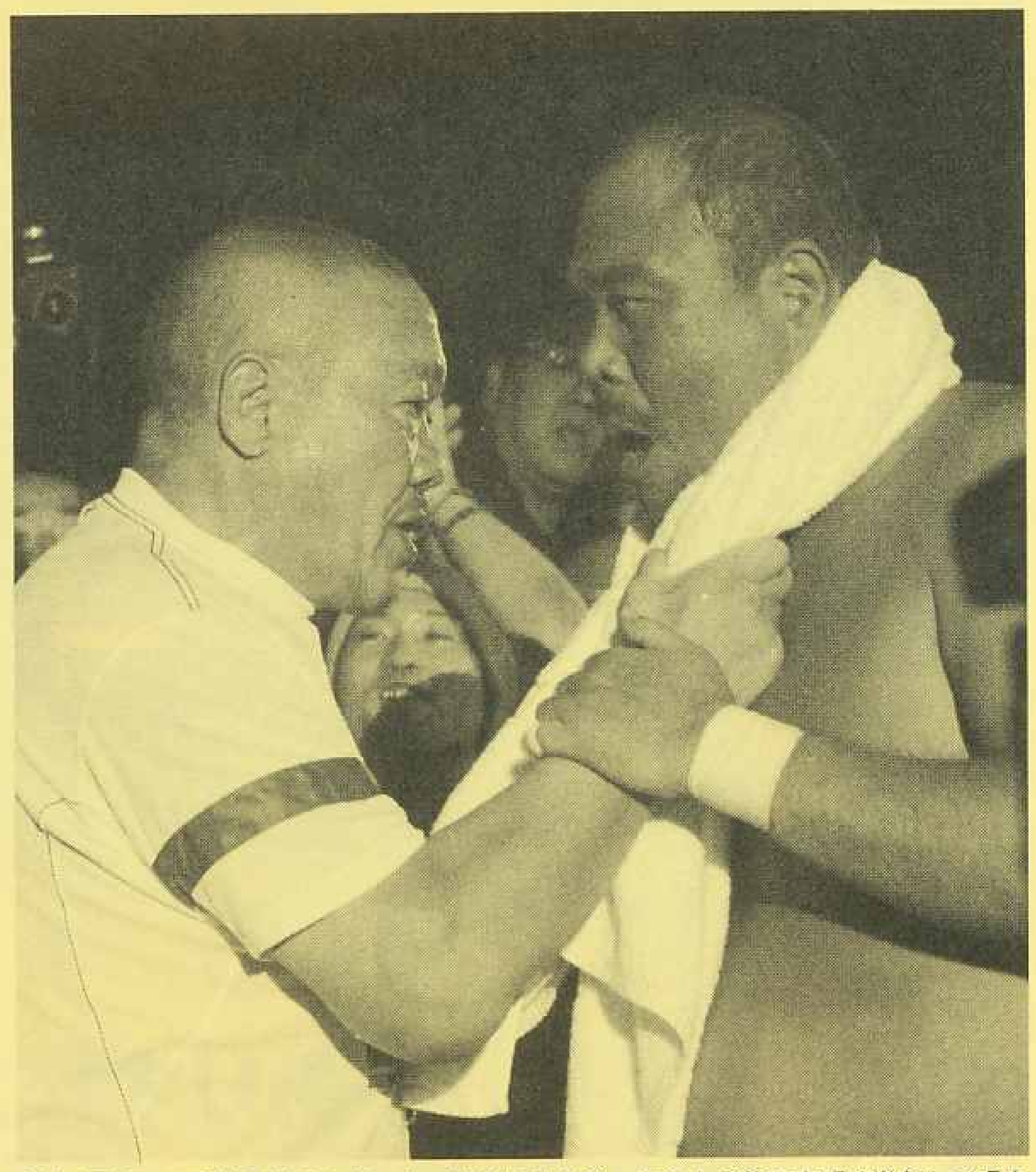
——あ、そうかそうか。ひとまず今日だけはやらないようにしよう、と。

安田 そうそう。あまりプレッシャーをかけると、それが引き金になるらしいよ。そういうところに近づかないっていうのも大事なんだ。ちょっとでもギャンブルしちゃうと、そのまま入り込んじゃうから。「だけど安田さんの場合、いままでそれの繰り返しでしょ。このまま（ギャンブル生活に）戻ったら、また救急車の二の舞ですよ」って言われると、ドキッとするよね。生まれ変わらないとダメだな。過去を振り返ってもロクなことないから。

——過去も捨てたもんじゃないでしょ。01年の大晦日（『INOKI BOM-BA-YE2001』さいたまスーパーアリーナ大会）、ジェロム・レ・バンナに勝ったときは、一日だけ日本一の親父だったのに。

安田 あそこで階段を踏み外したんだろうな。

——あのあと新日本プロレスでIWGPヘビー級チャンピオンになった



過去2回のIGFでは安田のふがいない試合に試合後、立会人の藤原喜明が激怒して喝を入れるというシーンが繰り広げられている。次回も組長のビンタが炸裂するか!?

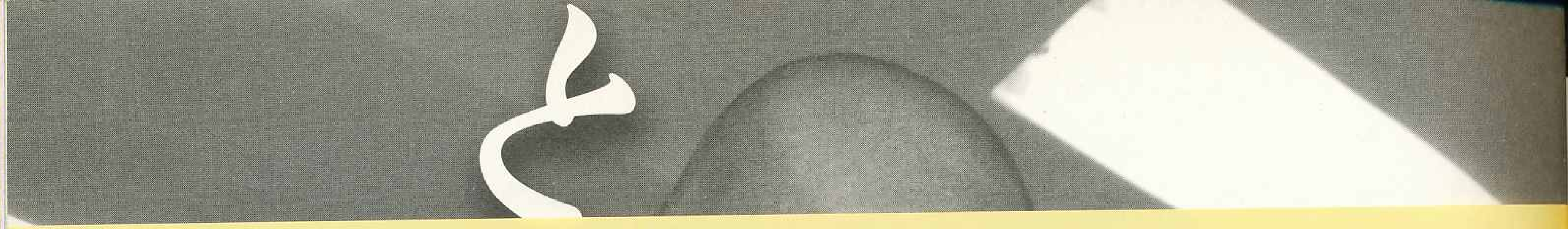
橋本真也前夫人・橋本かずみさんが語る 素顔の安田忠夫伝説

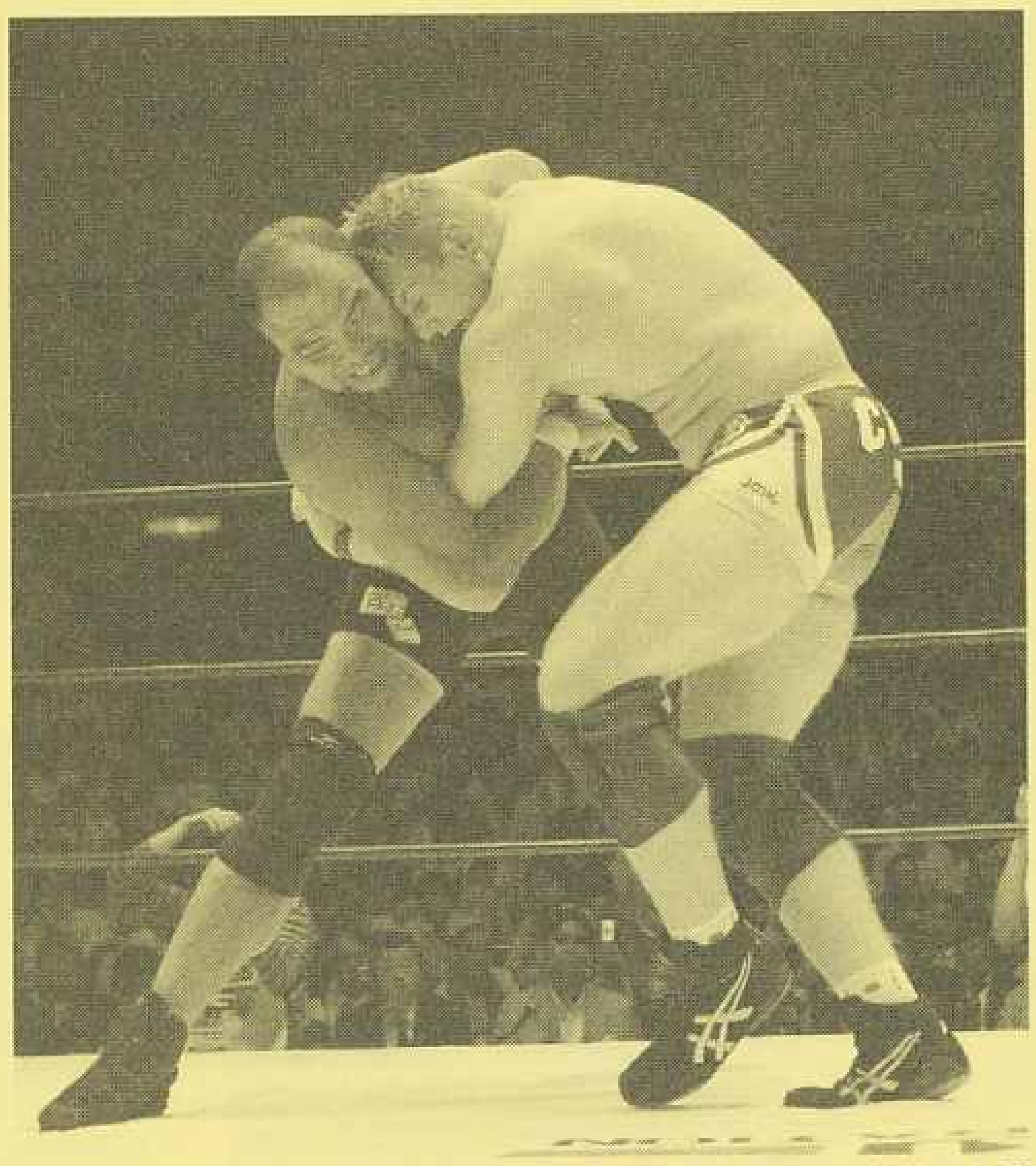
〝借金王〟安田忠夫が〝破壊王〟橋本真也の付き人を務めていた関係で、家族ぐるみのお付き合いがいまも続いている。そんな二人の〝王〟をよく知る橋本かずみさんに今回の騒動を間近で目撃した気持ちをうかがってみた。

●

第一報を聞いたときは、ホントに驚きましたね。田山レフェリーからの着信を見た瞬間、「安田さんに何かあったのかな?」って直感しました。私も病院にかけつけて安田さんが寝てるあいだはふつふつと怒りが沸いてきましたよ。娘（＝AYAMI）にあんなに心配をかけて……。あれだけ大きな身体があるんだから死ぬ気になればなんでもできるのに。

一時期、安田さんが橋本の付き人をやってた頃はずーっと家にいましたよ。生前の橋本が「大きな家を建てるんや！」と設計図を用意してたんですけど、安田さんも「じゃあ、俺の部屋も用意しといてください」なんて言ってましたね。橋本の付き人をやってたときも凄く繊細で気が利く人だったんですよ。ただ、バンナに勝ったのがよかったのか、悪かったのか……。いつも我が家では座る場所も決まってたんですけど、バンナに勝ってからはソファに腕乗っけて「俺はさぁ～」みたいな感じだったんですよ（笑）。わかりやすい人なんです。そこから違う世界を見てしまったのかもしれないですよ。今回で落ちるところまで落ちたから、これからは娘のためにも、ファンのためにも、プロレス界のためにも頑張ってもらいたいです！（談）





やすだ・ただお■1963年10月9日、東京都大田区出身。大相撲・九重部屋で孝乃富士として活躍。最高位は小結。廃業後に新日本プロレスに入門して、94年2月に馳浩戦でデビュー。故・橋本真也の付き人となり、公私ともに親交が厚かった。01年に『PRIDE.13』で佐竹雅昭に勝利。『INOKI BOM-BA-YE』ではジェロム・レ・バンナに勝利して、その名を轟かせた。05年に新日本を離脱するとZERO1・MAX、IWA JAPAN、『ハッスル』などに出場。今年6月に旗揚げしたIGFには連続参戦している。193cm、125kg。

でしょ？

安田　そこからおかしくなったもん。試合に遅刻したりして。

——ちなみに、01年は8月の『G1』で準決勝までいったんだよね。それで『G1』が終わったらロサンゼルスに遊びに行くつもりだったでしょ？　その先に猪木軍なんて地獄が待ってるとは思わなかったろうね。

安田　それで成田空港に向かってる途中に猪木さんから「出れるか、オイッ！」って電話がかかってきて、いきなり一週間後にK—1 vs 猪木軍の試合に出ることになっちゃったんだよなぁ。「さあ、遊びに行こう」と思ったら、地獄の召集がかかって。

——で、その試合でレネ・ローゼにKOされて、白目むいてぶっ倒れたけど、控室に誰も来てくれなかったんでしょ？

安田　いや、病院まで運ばれたら、猪木事務所の人が誰もいなかったの。あのときはブライアン（・ジョンストン）が倒れて、藤田（和之）君がミルコ（・クロコップ）との試合で目を切ったから、俺のとこなんて誰も来やしねえよ。こっちは救急車で「ここがどこかわかりますか？」って聞かれて、「両国！」って言ってたっていうんだから（苦笑）。

——あのとき、すぐに病院から出てきて「頭にきたから、これから●●の●●●行ってやる！」って言ってたよね（笑）。

安田　ただ、これは一応言っとくけど、『BON-BA-YE』出場が決まる前から決まってた行事だからね。「先生、●●●行ってもいいですか？」って聞いたら、「一人で行くわけじゃないよね？　そばに誰かついてるよね？」。「はい、ついてます」。「じゃあ行っていいよ」って。あのときのメンバーは武藤（敬司）さん、永田選手、大谷選手、あとタニマチと俺だった。

——武藤選手はあの日、みちのくプロレスの仙台大会に出てたんだよね。で、メンバー全員で東京駅に集合して、お出迎えっていう（笑）。一人だけよく事情をわかってない武藤選手が降りてきて「こんなにお迎えが来てて嬉しいな」って喜んでたらしいからね。

安田　それで●●●に行ったら、もう閉まってたんだ。その日は焼肉食べて帰ったよ。あの頃は連帯感あったよなぁ（遠い目）。

——おもしろかったたねぇ。

安田　いい時代だったよ。

——ちなみに、新日本プロレス時代の仲間は誰かお見舞いに来た？

安田　永田選手はお見舞いに来てくれたよ。小原（道由）さんがお見舞いに来たんだけど……。

——えっ、来たの？

安田　そしたら看護士さんからはヤ●ザに見えるんだろうね。入り口で止められてたよ。揉めてるところを俺がたまたま通りかかって、「あ、小原さん！」って気がついたからよかったけど。背広を着てるとヤ●ザに見えるみたい。俺は小原さんを怖いと思ったことないけど。

——一般の人は怖いだろうね。身体はごついし、耳も潰れてるから。

安田　あと、高岩（竜一）君も来てくれましたよ。

——ギャンブルに誘ってこなかった？

安田　「毎日、大井競馬場に行ってる」とか言ってたけど。さすがに俺は「ギャンブルはやらない。とりあえず今日一日だけはギャンブルやらない！」

——その積み重ねだからね。話をしてて感じるんだけど、以前より頭の回転が速くなったね。

安田　そりゃそうだよ、高圧酸素カプセルに入ってるから！

——もともと頭の回転速いんだよ。ただ、ギャンブルに向いてないだけで。記憶力も抜群だし。ある種の天才なんだよね。それがマイナス方向に向かってただけで、天才と紙一重なのかもしれないよ。

安田　ここまでマイナスが重なったら、あとはプラスになるしかないよ。

——これで次のIGFでは主役だろうしね。

安田　猪木さんも空港で言ったらしいよ。「みんな聞きたいのは安田のことだろ？」って。それぐらい気にかけてくれてるんだよ。猪木さんがあの電機みたいのやってなきゃ、いくらでも面倒を見てくれるんだろうけど（笑）。

まず身体を作って、カウンセリングも受けて、自力で営業する。もう娘に迷惑をかけられないよ

——不肖の息子ほどかわいいっていうのもあるだろうし。

安田　今回は猪木さんのお見舞いのおかげで優雅な入院生活を送れたよ。病院の定食も全種類食べたし。

——猪木さん様様だね。

安田　でも、あんまりおんぶに抱っこだと、いつハシゴをはずされるかわかんないから、自分で営業するようにする。それ以前にまず身体を作って、カウンセリングも受けないと。もう娘には迷惑かけられないよ。

——実現するかどうかわからないけど、次回のIGFでレネ・ローゼを倒して、あのときのメンバーを集めて晴れてみんなで●●●に行く、と。そして、俺に3万円を早く返すこと！

安田　（恐縮して）……はい、頑張ります。

【07年10月24日／東京・自由が丘にて収録】

「死ぬならリングで死ね！」猪木、安田にビンタで闘魂注入！

11月2日、安田忠夫が都内ホテルにアントニオ猪木を訪ねてIGF参戦を直訴した。「ご心配をおかけしました。頑張っていくので、これからもよろしくお願いします」と頭を下げた安田に、猪木は「誰も心配なんかしてねえよ、ンムフフフ」「博打を頑張るのか!?」と言いたい放題。苦笑いする安田に「関わった以上、しょうがねえ。おまえと付き合ったらお先真っ暗だよ」と猪木。「本気を見せてくれ」と結論を出すまで1～2週間、安田の様子を見ることになったが、「相手は誰でもいいんだろ？　棺桶作らなきゃいけないくらいの強い相手を用意する。死ぬ気でやれ、死ぬ気で!!」とビンタで闘魂を注入した。安田はトータルワークアウトや沖縄の平仲ジムでトレーニングを積むという。今度こそ本当に立ち直るのか!?





kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作!

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

B6変型判　344ページ
定価＝1,890円(本体1,800＋税)



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録!

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円(本体1,800＋税)




泣けて笑える
トンパチエピソード満載!
またまた時は来た!
橋本真也三回忌追善本

★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳浩★スティーブ・コリノ★田中秀和★田山正雄★ライガー夫人★折鶴兄弟★AYAMI★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦　ほか

破壊王本第二弾!! "愛すべき馬鹿"橋本真也を多くの"証言者"が語り尽くす! 破壊王の原点とも言うべき新日本プロレスの選手・関係者や破壊王ファミリーらが、いまだ知られざる破壊王のバカネタを大放出した珠玉の一冊!!

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円(本体1,800円+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



バッシングとは何か？

亀田家、沢尻エリカ、朝青龍騒動……暴走する時代性を斬る!!

なぜ本誌で「バッシング特集」なのか？　亀田親子や朝青龍など格闘技のつながりが理由ではない。観る側にスタンスを置く本誌からすれば、加熱する“劇場型バッシング”をどう捉えるかは至極重要な問題でもあり、秋山成勲騒動が大きな渦を起こしたマット界からしても決して他人事ではない。暴走する時代性の本質を探る特別企画!!

日本人とバッシング その根源を考える!!

「池に落ちた犬を叩くことで不安を植えつけられた人間は安心することができるんです」



映画監督／ドキュメンタリー作家

森達也

独自の視点で日本を切り取ったドキュメンタリー作品を多数発表している映像監督・ドキュメンタリー作家の森達也氏に、亀田家から安倍晋三前首相まで巻き込まれた“日本のバッシング”について話をうかがってみた。世論が一気にバッシングへ流れる背景にあるものとはなんなのか？　プロレス・格闘技の業界も決して無縁ではないこの問題を考えてみたい。

聞き手／坂井ノブ

秋山、朝青龍、沢尻、亀田。僕はそこに安倍晋三前首相も加えたい



——今回の企画の説明からさせていただきたいと思います。亀田問題で日本中にバッシングの嵐が吹き荒れましたけど、07年のバッシングはかなり過剰になってると感じたんです。亀田家の前は沢尻エリカ、ちょっと前は朝青龍、正月には秋山成勲のヌルヌル問題というのがありました。日本におけるバッシングについて、森さんにお話をうかがいたいと思います。まず、亀田問題についてはどのような印象を受けましたか？

森 メディアに関してはひどい状況でしたね。各局が横並びで同じことを繰り返し放送している。ジャーナリストの大谷昭宏さんに聞いた話ですけど、彼が出てるテレビ朝日の夕方のニュースで、「明日、亀田興毅が謝罪会見をやりますよ」という金平会長の記者会見の様子を、つまり記者会見の予告の記者会見を長々と放送していた。じつにバカバカしいでしょ？

——そうですね（笑）。

森 さすがに嫌気が差したようで、そのときは記者会見を途中で打ち切った。ところがそこで視聴率が激減した。他局は最後まで金平さんの記者会見を放送したそうです。だから仕方なく、翌日の謝罪会見は全部放送しろということになったらしい。言い換えれば視聴者がその亀田の話題を求めていたわけで、テレビとしてはそれを放送するのは仕方ない部分もあるわけですよ。「メディアはけしからん！」という話だけではないですよね。

——テレビ局も営利企業ですから、視聴率が稼げる話題をわざわざ放送しない、というわけにはいきませんよね。

森 そりゃそうですよ。『kamipro』だって売れる企画をボツにしたりしないでしょ？

——もちろんです！

森 でも、『kamipro』は売れるからといって沢尻エリカを特集したりはしないでしょ？

——まあ、さすがにエリカ様特集は厳しいですね（笑）。

森 それが志というものだし、テリトリーでもあるわけですけど、そこがいまテレビではズブズブになっているという部分はあります。それとテレビを観ている側の閾値（いきち）が凄く下がってきたなと思うんですよ。

——閾値……ですか？

森 はい。閾値ってものごとが変わる瞬間の値という意味なんですが、わかりやすく説明すると摂氏0度で水が氷になったり、氷が水になったりしますよね。

——はい。

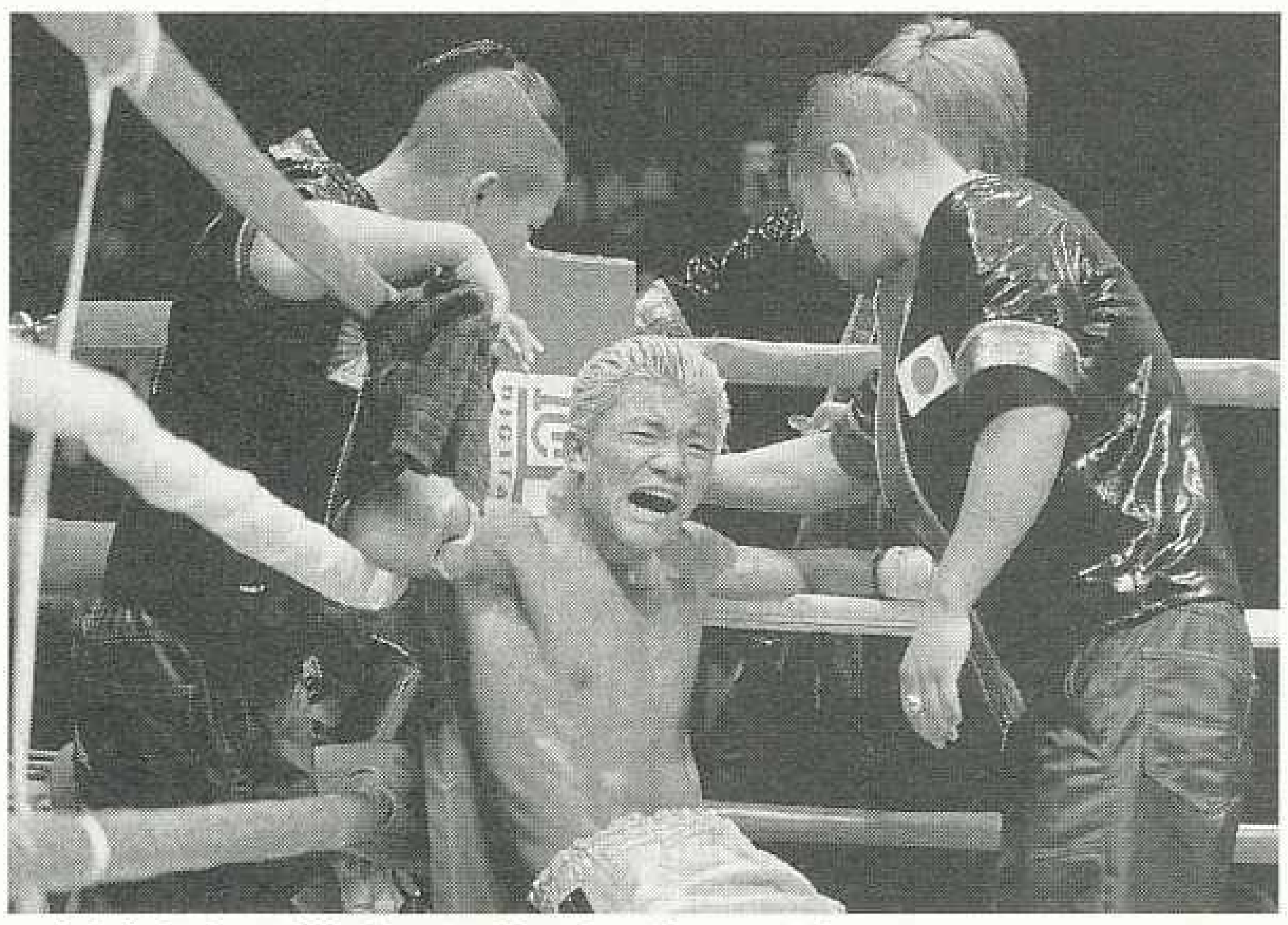
森 水であろうと氷であろうと水蒸気であろうと、H_2Oという分子は変わらない。分子の運動量が変わるから氷になったり、水蒸気になったりしますけど、運動量が元に戻ればまるで夢がさめたように水に戻ってしまうわけです。0度で水が氷になりますけど、0度のときは水か、氷か、どっちかわかりますか？

——どっちですかねぇ……。

森 0度の水も0度の氷も両方あるんですよ。だから、どちらであるかは決められない。0度の状態の水もしくは氷を臨界というんですが、その臨界に達する値を閾値というんです。テレビの話に戻りますけど、閾値が下がっているということは、簡単に相転移してしまうということなんです。

——昨日まで水だったものが、あっという間に氷になってしまう、と。

森 亀田問題でいえば昨日までほめそやしていたものが、一夜明けると「けしからん！」とみんなで怒りまくってる。昔だったらもう少し閾値が高かったから、「いくらなんでも、そこまでバッシングするのは……」という意識が働いたけど、最近はそれが機能しなくなってますよね。


日本を代表する"家族"といえば亀田家。彼らの反則指示行為もテレビの生中継では見過ごされたが、『YouTube』には問題のシーンの字幕入り映像がアップされて、何十万件ものアクセスがある。

——閾値が下がってきた原因はなんですかね？

森 メディアと民意は相互作用しますから。民意が変われば、メディアもそれを追いかけるし、メディアによって民意は増幅される。だからいろんな意味で時間の経過とともにヒートアップする。だけどとにかく、今回の亀田問題も沢尻エリカにしても、第三者が怒りすぎですよね。

——内藤選手や映画の配給会社が怒るならわかるんですけどね。

森 亀田興毅選手は世間に頭を下げる必要はない。内藤選手には頭を下げないといけないけど。「お騒がせしてすみません」って謝罪したけれど、騒いでるのはこっちなんだから（笑）。斎藤美奈子さんという評論家は「日本中が家族主義になってる」と言ってますよ。

——家族主義？

森 家族に対しては他人には言えないことも言えるし、必要以上に感情移入もしてしまう。テレビで誰かが殺されたというニュースをやっていたら、身内が殺されたように怒ってしまう。斎藤美奈子さんは「日本は民主主義じゃなくて家族主義だ」と言ってました。

——家族って、凄く根源的なものですね。

森 でも、社会全体がそうなってしまったら、それは原始共産的な社会ですよ。

——そうですね（笑）。それもバッシングが加熱する一因ですね。

森 今年に入ってから秋山、朝青龍、沢尻、亀田と、そういう状況が立て続けに生まれてますけど、僕はそこに安倍晋三前首相も加えたい。

——すみません、大事な人が抜けてました！（笑）。

森 彼は退陣会見で健康問題のことを言わなかったでしょ？ 日本的な浪花節の価値観でいえば、「よくぞ病気のことを口にしなかった。立派に闘った」と評価されても不思議はない。たぶん安倍サイドとしては、議員生命を残すためにはこれしかないという感じでいたんじゃないかな。だから退陣会見終了後に、早々と慶応病院に直行した。これ見よがしに。ところが思惑どおりにはいかなかった。同情や称賛の声はまったくあがらない。正しいんですよそれで。首相の健康問題は国民に対して隠すべきことじゃない。でもバッシング一色というか、国中がとても冷淡でしたよね。あれほど期待されて登場した宰相だったのに。僕は反・安倍でしたけど、安倍を支持しようかなと思ったもん（笑）。まあ、それは冗談ですけど、この冷え方はなんだろうと思いましたよ。

——安倍首相、朝青龍、沢尻エリカ、亀田家は、多少の批判もあったけど、もともとは人気がありましたよね？ ワイドショーでは彼らがバッシングされる状況がずっと流され続けたわけですが、ああいう話題は視聴率が稼げるんですか？

森 ニュースというのは基本的に他人の不幸ですから。それまで雲の上にいた人が転落する瞬間は、利害関係のない第三者にとっては大きなカタルシスとなる。以前だったら「いくらなんでも、そこまで放送するのは……」という意識がメディア側にもあったし、視聴者にもうしろめたさがあって、転落

いまは人の意識に資本主義の原理が、しっかり重なってしまっている

する瞬間がおもいっきり露呈することはなかったですけど、最近は歯止めがかからなくなってますよね。水に落ちた犬は徹底的に叩けという風潮になってますから。

―確かにそうですね。そういう意味では今年最も豪快に水に落ちたのは安倍前首相かもしれないですね。

森 参院選の前あたりから、確かにメディアがだんだん安倍離れしてましたね。メディアは民意の先を読みますから、賞味期限が切れかけてると思うと一転してバッシングが始まるんです。

―民意の先を読む！

森 それを半世紀やってますから。絶対的中とは言わないけれどかなり正確です。それと、オウム事件以降にとくに高揚した危機管理意識も大きいでしょうね。今日ここに来るときも、駅の周りには監視カメラがあったし、駅には「特別警戒実施中」というポスターが貼ってある。ずっと特別警戒。明らかに論理矛盾だけど誰も気にしない。JRの車内の液晶モニターには「不審なものを見かけたら……」のメッセージ。構内を歩く警察官の数も増えているし、職質も多い。ならばこんな状況で不安が緩和するかというと、むしろ逆で不安は増幅しますよね。そういう状況で不安や恐怖を緩和するために何をするかというと、敵を見つけることなんです。敵が見えないから不安になるのであって、「敵はこいつだ！」となれば、そいつをやっつければいいわけで、敵をやっつけてるあいだはみんなが多数派になるから安心できるんです。

―なるほど。

森 だから仮想敵を作ってしまう。オウムや北朝鮮だったり、パナウェーブだったり、おそらく朝青龍や亀田もこの延長にあります。学校のイジメと同じ構造です。「なぜ最近になってイジメが増えたんだ？」とか言われてますよね。実際には増えていない。アナウンス効果が大きい。もし仮に増えているとしても、社会がそんな状態になっているのだから、子どもの社会に感染してあたりまえですよ。



もり・たつや■1956年5月、広島県呉市出身。デビュー作はミゼットプロレスのテレビ・ドキュメント作品。オウム真理教をめぐるドキュメンタリー作品『A』『A2』は非常に高い評価を受ける。『放送禁止歌』（光文社知恵の森文庫）ほか著書も多数。昨年はグレート東郷の謎に迫った『悪役レスラーは笑う』（岩波新書）を発表している。

―バッシングが多発する背景も同じですか。

森 そうでしょうね。メディアの商業主義が強くなってきたということもあるでしょうし、かつてなら見過ごされたこともいまはインターネットで公開されてしまう。マスメディアがネットに追随するという構造ができあがってしまっていますね。

―凄い状況ですよね。

森 第二次世界大戦後のアメリカは、平和を欲しながら仮想敵を作り続けて戦争を行なってきた。不安と恐怖が絶えないんです。朝鮮戦争にベトナム戦争、ソマリアにイラク戦争、仮想敵にされてきたのは、共産主義だったりイスラム原理主義だったり。ずっとその繰り返しです。日本も似たような状況になりつつあります。

―そういった背景の中で安倍前首相は憲法を改正して戦争を行なうことができる国家にしようという方向に突っ走っていきましたよね？　それが、国民にそっぽを向かれてしまいました。

森 思想やイズムへの反駁というよりも、安倍さんの資質を見限ったんじゃないかな。国民も「この人に任せるのはちょっと……」と感じ始めたような気がします。

―まあ、そうでしょうね。バッシングをする側の心理の中には、勧善懲悪の物語を自分の中で作っているという部分もありませんか？

森 不安や恐怖が高まると物事を単純化したくなるんです。複雑なことを考える余裕がなくなってしまうから。白か黒か、右か左か、善か悪かということになってくる。現象は本来、そんな単純なものではないはずなのに、それを無理に分けて中間を見なくなってしまう。

―自分は善で、敵を悪に見立てて徹底的に叩く、と。

森 『A』や『A2』がテレビ局から制作中止を言い渡されたのも、それが大きな理由でしょう。オウムも彼ら一人一人は悪い人間ではないんです。でも、そんな彼らが大量殺人を行なった。凶悪で狂暴だから人を殺すのではなく、純真で善良だけど人を殺す場合もあるということ。それはとても大事なことなんですけど、マスメディアとは相容れないレトリックなんです。マスメディアにおいてのオウムを語るレトリックは、凶悪な殺人集団か、洗脳されたロボットのような集団のどちらかなんです。彼らが普通だという視点を提示すると、視聴者からもの凄い反感が来るでしょうね。善と悪の境界が融解してしまいますから。

―つまり、それは自分だって加害者になる可能性があるよ、ということを突きつけられてるわけですよね？

森 それを考えたくないんでしょう、一般の意識としては。それこそ一番大事なことなんだけどね。それがマスメディアの限界です。いまは誰もが不安で常に敵を探している状態なんですけど、その敵が本当に危険な存在なのかどうかを検証する必要がある。北朝鮮は本当に危ないのか、パナウェーブは本当はどういう存在なのかを、本来であればメディアが検証しなきゃいけない。でも、いまはメディアが危機感を煽るほうにいっちゃってますから。あとは暴走するしかないですよ。

―みんな敵を探してはやしたてる側になってるんですね。

森 太平洋戦争のときも、当時の『朝日新聞』と『東京日日新聞』（現在の毎日新聞）は軍部の大陸進出には否定的でした。でも日日がちょっと好戦的な記事を書いたら部数が伸びたんです。すると朝日が追随して、そこに読売も加わってきた。あとは競争です。気づいたらイケイケドンドンになっていた。その後に軍部の検閲が入るようになるんです。

―自発的にメディアが暴走して、そこに民意が追従していったんですか。

森 どっちもいえます。鶏と卵です。僕はメディアと民意との相互作用だと思っています。二つがあってはじめて成立する。とはいえメディアも商売でやってるわけですからね。これは資本主義経済のある種の閾値かもしれない。いまは人の意識にメディアの構造、つまり資本主義の原理がしっかり重なっちゃいましたからね。これは暴走しますよね。

―こういう状態は、どこかでリセットしますかね？

森 かつてない状況に日本だけじゃなくて、世界中が陥ってますから。やはりメディアに対するリテラシーが必要になってくるんじゃないでしょうか。メディアはもう手放せないけれど、でもとてもきわどい存在なんだということを認識できれば、少しは緩和できるかもしれないですね。

【07年10月31日／「Kami-Pro」編集部にて収録】



亀田家に〝悪の潔さ〟なし！

有言不実行が招いた
バッシングの構造

切腹と日本人

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

10・11有明コロシアムで行なわれたプロボクシングWBC世界フライ級タイトルマッチにおいて、挑戦者・亀田大毅が王者・内藤大助に再三の反則をはたらいた上で判定負け。戦前、「内藤に負けたら切腹する」と宣言していながら、反則負けを狙うような蛮行に批判が集中した。この〝有言不実行〟をおなじみ骨法・堀辺師範がブッタ斬るとともに、「切腹」の意義を解説します！

聞き手／堀江ガンツ

——先生！　前号で相撲の話をしていただいてたいへん好評だったんですけど、今回はまたしても総合格闘技から離れて、ボクシングについてうかがいたいんですよ。

堀辺　そうですか。やっぱり、いま話題の亀田大毅の話ですか？

——そのとおりです（笑）。亀田といえばビッグマウスや暴言がつきものですけど、今回は内藤（大助）との世界戦の前に「負けたら切腹する」って言ってたんですよね。

堀辺　凄いこと言ってますね（笑）。

——そこで今日は、切腹発言の是非とともに「切腹」とはそもそもなんなのか、ということをお話しいただきたいと思います。

堀辺　わかりました。では、切腹について語る前に武士の起源について説明したいと思いますけど、日本が武家社会になる前は律令体制というものをとっていたんですね。この律令体制の根幹をなすものが、班田収授法というものなんですよ。

——学校で習いましたね。内容はすっかり忘れてしまいましたが……（笑）。

堀辺　これは、すべての農民は口分田というものを国家、天皇から借りて、それを耕して年貢を納めるというものです。つまり土地の私有は許されてなかったんですよ。でも、だんだん律令体制が崩れてきて、地方の土地を自分で開拓して私有地にしていくということが起こるんです。でも、そのわざわざ開拓した土地を他人に奪われたら、なんのために開拓したかわからないですよね。だから自分の田畑を守るために武装する農民が現われた。これが武士の起こりなんです。

——武士はもともと武装農民だったんですか。

堀辺　ええ。だから織田信長の時代までは、侍は普段は農業をやってるんです。そして田畑を守るだけじゃなく、武力で土地を奪って領土を広げてくる者が出てくる。このポイントは何かというと、自分の土地と武力を持っている武士の一つの精神は、小さな独立国家みたいなことなんです。

——自分自身が一つの国みたいな。

堀辺　そういう侍の精神を福沢諭吉なんかは、あとになって「独立自尊」という言葉で表わしてるんだけども、まさにそのとおりなんですよ。その「独立自尊」というものが切腹とどういう関係があるかっていう話に戻すと……。

——やっと戻ってきましたね（笑）。

堀辺　結局、独立自尊というものが精神の中核になっている人からすると、戦争に負けたりしたとき、他人に従属したりやられたりすることを、一番嫌がる人種が誕生するんですよ。だから戦争の途中で「これは絶対に勝てないな」とわかると、人に殺されるぐらいだったら自分で自分を殺してしまおう、と。しかも単なる自殺ではなく、自分がいかに武人として素晴らしいか見せつけようとする。そのために一つしかない命を潔く絶つだけでなく、一番痛くて、しかも即死できない腹を切って勇気を誇示するわけです。

——腹を切るというのは、一瞬で死ねないから長い時間苦しんで死ぬわけですからね。



1970年11月25日、三島由紀夫は自衛隊の決起・クーデターを促すべく陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地東部方面総監室に森田必勝ら「楯の会」メンバー4名とともに侵入し、益田兼利総監を人質に捕り籠城。バルコニーから檄文を撒き、演説を行なったあと割腹自殺を行なった。

切腹をしなかった亀田大毅には三島由紀夫と逆のことが起きた

堀辺　そういう自分に打ち克つ精神というものが切腹には含まれているんですよ。「俺はこれだけの勇気の持ち主であり、おまえたちには絶対侵させない」と。だから武勇と独立自尊の精神が結びついたものが切腹なんです。あとは武士の政府、鎌倉幕府が誕生したあとになると、主君に従えたとき、その恩義が忠義という言葉に変わってくる。だから、自分が所属する軍が滅びるというときに、これまでの主君への恩義を示すためにも腹を切るということがあります。

——人のために腹を切る場合もあるわけですか。

堀辺　武士の腹切りというのは、「奉仕」と「独立」が結びついて生まれたわけですね。だから亀田の話に戻すと、亀田が本当にボクシングを愛し、恩義を感じていて、それなのに内藤戦でのとんでもない反則というボクシングを汚すようなことをしてしまったとき、ボクシングに対する献身性みたいなものを表明するために腹を切るっていうことはあってもいいわけです。

——あってもいいですか！

堀辺　でも、ああいうかたちでボクシングを破壊させるような侮蔑した行為をやったあとに、現に腹を切れなかったということは、まさに彼の言動はすべてパフォーマンスだったということですよ。

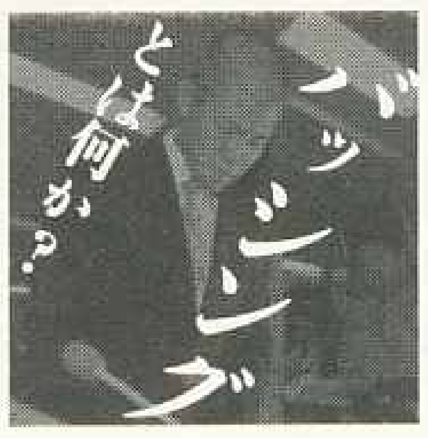
——やったことは、せいぜい頭を丸めたぐらいですからね。

堀辺　髪の毛なんて1カ月ぐらいで伸びてきちゃうんですよ。だから切腹という言葉で表わされるような精神状態ではなかったということが明々白々なんですよね。しかも、日本人が築いてきた、武士の命懸けの精神というものを軽々しく口に出して、なおかつそれを実行しないのであるならば、ボクシングを侮辱したのと同時に、日本の文化を侮辱している！

——切腹なんていうのは、軽々しく言うものじゃないですよね。

堀辺　そうです！　切腹という「自決」と「自殺」とでは、あきらかに違う価

亀田大毅と秋山成勲の不快の元は悪党としての往生際の悪さです！



値観がそこに存在してるんですよ。「自決」とは命以上に大切なものを、自分の手で自分の命を断つことによって、言語で現わせない何かを表現する。戦士としての最後の行為なんですね。

—切腹は武士として最大に崇高なものだと。

堀辺 そう！ だから切腹なんていうことは安易に口走ってはいけない言葉の中の最大のものなんです。その言葉の深さというものを、日本人であれば詳しくは知らなくても、その感性はまだ遺伝子として我々の中に残ってるんですよ。だから三島由紀夫という人がいましたけど、彼が「楯の会」っていう民兵組織を作ったときにバカにされてたんですよ。

—あ、そうなんですか⁉

堀辺 徹底的にバカにされてた。流行作家が趣味で軍服を着て、オモチャの軍隊みたいな私兵まで作って、何を遊んでいるんだ、と。思想運動や政治運動をやってる人からは、当時の「楯の会」というのはそういう評価でしかなかったんです。でもいま、「楯の会」と三島由紀夫に対する評価っていうのは、かなり違いますよね。

—確かに違いますね。

堀辺 なぜ違うかというと、彼は自分が言ってきたこと、やってきたことはすべて真実であった、心からの叫びであったことを、切腹という一つの行為ですべて証明したんですよ。だから、切腹したあとの三島を批判できる人がいなくなっちゃったんです。「あんなの遊びだ」とか、「金持ちの趣味だろ」とか言われてきたけれど、趣味に命を懸けられますか？ 遊びで命を捨てられますか？

—政治同好会じゃ命を捨てられませんからね。

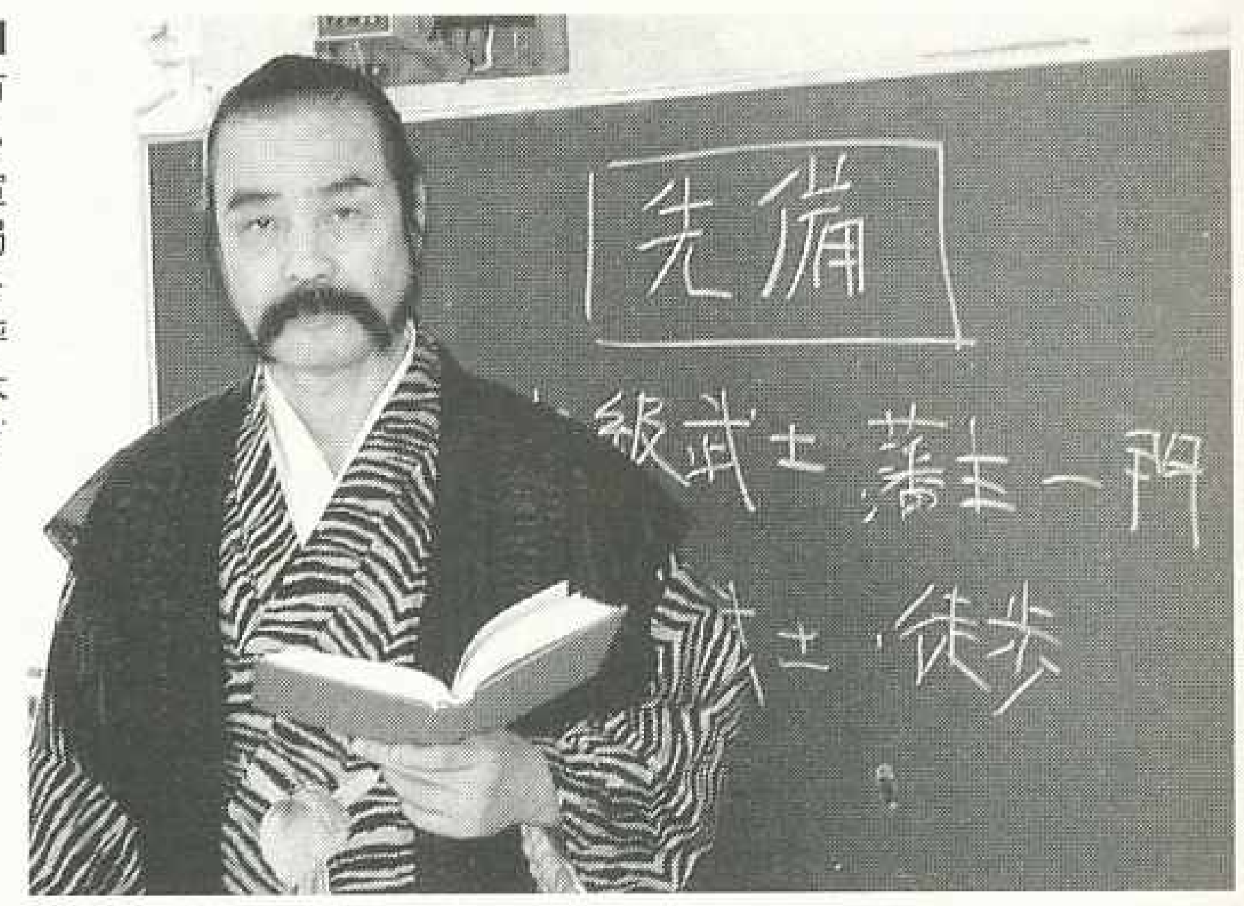
堀辺 それが切腹という、命を懸けた行為の持つ重みというものなんです。だから、「負けたら切腹する」と言いながらやらなかった亀田大毅というのは、三島由紀夫の例とまさに反対になっちゃったんですよ。三島は切腹によって、彼の主張が遊びではなく、命懸けの叫びだったとわかったわけですよね。でも、亀田大毅の場合は、「切腹する」と言っていたのに切腹しないことによって、すべてが嘘だった、いい加減だったということが証明されてしまったんです！

—逆・三島由紀夫現象が起こってしまったんですね（笑）。

堀辺 だから、「切腹」という二文字を口にしたことが、彼のすべての間違いですね。あれを口にしながら何もしないことで、いままでの言動がすべて無責任に見えるわけです。

—まさに往生際が悪くなってしまったわけですよね。

堀辺 そう！ だから武士としてだけでなく、悪党としてもみっともないというか、往生際が悪いんですよ。『水戸黄門』なんかでも、悪党が最後に悪事が露見してしまったとき、自ら腹を切るというシーンが出てきますよね。



ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や『わしズム』などでも活躍している。

「確かに俺は悪事をはたらいた。でも、その悪事が他人の不浄役人や、世間によって裁かれるということは、武士の最後の誇りとしてできない。自分のやった悪事は自分で刈り取る」と、腹を切るんです。悪人であっても自分の始末は自分でつける。これが独立の精神です。

—ワルにもワルのルールがあるということですよね。

堀辺 悪人ながら見事というやつですよ。「俺は悪人だったよ。でもこれは俺が選んだ人生なんだ。俺の人生は俺が始末つけるから、おまえら手を出すな。俺の命は俺が自分で切り裂く。文句あるか？」と。だから、その切腹の中の精神にあるものというのは、世間が承認する倫理性や道徳性とはかけ離れた部分があるわけです。でも、悪人は悪人の掟に従った精神というものがあるんですよね。

—逆にいうと、亀田大毅や秋山成勲には自分自身を始末するような、悪人の掟すら持ってないことが不愉快なんですよね。

堀辺 結局そういうことです。私も秋山くんには亀田と同じような感じを受けた。そういった武士としての精神を、長年、柔道をやっていながら全然養ってきてないんですよ。柔道のやり方だけを学んで、柔道の中に流れる精神をまったく汲み取っていない。純白の柔道着が心に入ってない。柔道着がなぜ純白かというと、あれは男の潔さを意味してるんです。江戸時代までは死に装束は白だったんだから。

—なるほど！

堀辺 喪服が黒になったのは明治以降ですからね。だから空手着や柔道着がなぜ白いのかっていうと、死をも覚悟した精神。あるいは切腹の心というものを、その白い道着の中に象徴してるわけです。秋山にはそれを感じられないんです！

—全然感じませんよね（笑）。

堀辺 だから柔道着がホントの意味で似合ってないんですよ。潔さがないから。堀辺の考えを言わせてもらえば、この世に悪人がいてもいいと思うんですよ。「俺はこの世の中はおもしろくない。正義なんか必ずしも実現されてないじゃないか。だったら俺も悪人として生きる」って男が出たってね、一概にその人を責められない。でも悪人でも「あいつ見事な悪人だったね」と言えるような、清々しい悪人になってほしいわけ。それが切腹というものなんですよ。

—ヤクザ映画だって大衆の共感を得るわけですからね。

堀辺 そうそう。昔から高倉健や鶴田浩二の任侠ものが人気があるのは、たとえヤクザ者であっても、その生き様の根底にあるのは、自分のことは自分で律して、自分で責任を持つというね、その男としての潔さってものがあるから、みんなが共感するんですよ。ところが亀田大毅は、小悪党であり、なおかつ「切腹」という神聖なものを軽々しく口にしてしまった。そんな亀田大毅みたいなのを助けちゃったら、男が命を懸けて何かをやるという、このある種バカな、ある種純粋の極致みたいなね、そういうものをこの世から捨て去ることになるんです。

—悪党の純粋さを否定して、小悪党のズルさを肯定することになるわけですよね。

堀辺 ハッキリ言って、私が格闘技や武道に関わる一番の理由というのは、男が命懸けで何かをやるという純粋。そういう究極の部分に自分というものをいつも触れさせていたい。場合によってはそういう生き方ができるかどうかってことを自分自身に問うためにやってるんですよ。だから、亀田大毅のように、武士の魂のようなものを侮辱した人間は、ハッキリ言って腹が立つね！

—腹立ちますね。

堀辺 腹立つねえ。「おまえら、『日本』ってことがわかってんのか」と。こういった男のバカな純粋、それがなくなったら、こんなにつまらない格闘技界はないですから。そこを私は声を大にして言いたい！

—わかりました。次の機会もよろしくお願いします！

【07年10月24日／東中野・骨法武術館にて収録】

バッシング、ブームの加熱装置

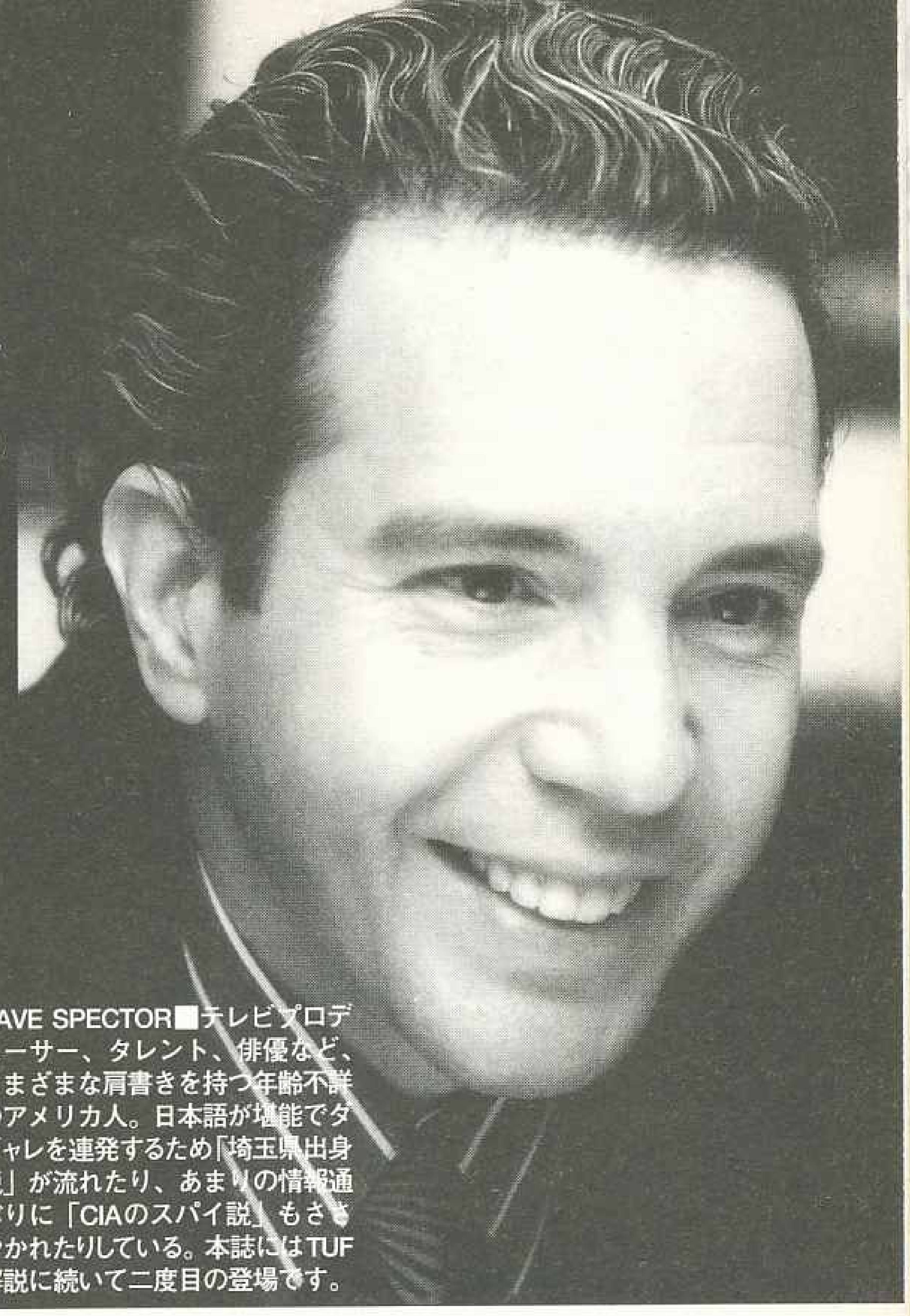
ワイドショーとは何か？

バッシングを語るうえで、その現象を見事に仕立てあげるワイドショーを取り上げないわけにはいかないだろう。“サンジャポファミリー”の一員にして、テレビプロデューサーのデーブ・スペクターにその“構造”をうかがった!! 教えて、デーブ!!

聞き手／ジャン斉藤

デーブ・スペクター

テレビプロデューサー、あるいはCIAのスパイ



DAVE SPECTOR■テレビプロデューサー、タレント、俳優など、さまざまな肩書きを持つ年齢不詳のアメリカ人。日本語が堪能でダジャレを連発するため「埼玉県出身説」が流れたり、あまりの情報通ぶりに「CIAのスパイ説」もささやかれたりしている。本誌にはTUF解説に続いて二度目の登場です。

――今日はデーブさんと何かと接点がある亀田一家についてお聞きしたいんですけども。

デーブ 亀田ねぇ！ いまは毎日、何かしら報道されてるね。

――ホントに凄いですよね（笑）。ブームのときも大騒ぎでしたけど、いまはバッシングが過熱気味で。

デーブ まあ、ブームにしろバッシングにしろ、日本のテレビはちょっとやりすぎなんですけども（笑）。なぜそうなってしまうかといえば、どのテレビ局も予算がないからなんですよ。

――といいますと？

デーブ ワイドショーには独自の番組を作れるだけの予算がないんです。だから旬のネタにみんなが群がってしまって大騒ぎになるんですよ。

――まるでピラニアですね（笑）。

デーブ ヨソもやるからウチもやるという群衆心理もある。『真相報道 バンキシャ』（日本テレビ系）とか予算を持っている番組だったら独自で北朝鮮ネタとか追えますけど、基本的にワイドショーと情報番組はどうしても前日に話題になったものをやるしかない。やっぱり視聴者が興味あるのかどうかわからない“新ネタ”にヘタに手を出すよりも、“続報”のほうがラクでしょ？ ヘタに意外なものをやって数字（視聴率）を獲れなかったら、上からいろいろ言われるわけですからね。

――“新ネタ”は視聴率的には冒険になるんですね。

デーブ そう！ 冒険です。だから、作る側の立場からすれば、なるべく同じものを引っぱりたいっていうのはわかるんですよね。だっていまは殺人だってありふれた事件になってるからね。それともう一つ、視聴者にとっての“悪者”がいないとダメなんですよ。

――やっぱり劇場に“悪者”は必要！

デーブ 亀田は“悪者”に見えてるからやりがいがあるんですよ。あのホリエモン（堀江貴文）もそうだったけど、テレビは“悪者”がやっつけられるまで徹底的にやる!! 起訴か逮捕されるまでね。なぜなら日本はあまり裁判に興味がないから。裁判で結審されるまで時間がかかるし、アメリカの裁判みたいにおもしろくないんです。

――アメリカには裁判の模様を伝える番組があるくらいなんですよね。

デーブ 裁判がエンターテインメントになってるから（笑）。日本はそうはいかないから、ワイドショーが裁判代わりになってしまう。あとワイドショーが続報に頼らざるをえないのは、スポーツ新聞にもの凄く頼っているところもあるんですよね。いまはテレビ独自のスクープなんか全然ないですよ。全部後追い。スポーツ新聞や女性週刊誌や写真週刊誌で話題になったものなら、お金もかかんないしね。

――それはテレビに行動力がないということでもないんですよね。

デーブ 行動力はありますよ。ただ、怒られるからねぇ。

――いわゆる“タブー”がある、と。

デーブ あります。テレビ局は（対象が所属する）芸能事務所とか企業とか、いろいろ付き合いがあるから、いまはなかなかハデにはできないんですよ。昔は日本だってパパラッチ顔負けの取材力がありましたよ。でも、いまは活字が先にやってからじゃないと、テレビは後追いできないですよね。

――でも、いったん火がつくと、バッシングのほうが熱が入る傾向があるように見えるんですけど。

デーブ それはもちろん。バッシングのほうが楽しいですから!!

――ダハハハハハハ！

デーブ 一番わかりやすいのが映画の批評記事ですけども、けなしたり批判したりするほうが、皮肉とかギャグもたくさん入れられる。ほめるときってわりとストレートになっちゃうので、読んでもおもしろくもなんともないんですよ（笑）。

――視聴者も“他人の悪口”を期待してるとこがありますもんね。

デーブ そうそう！ やっぱり毒舌や悪口を聞きたいんですよ。だからそういうタイプの司会者のほうが人気があるんですよねえ。やしきたかじんがいい例だけど、バッサリ斬ってくれるから気持ちがいい。

――関西のワイドショー番組は元気がいいみたいですし。デーブさんもワイドショーによく出演されていますけど、対象者を持ち上げたり落としたりする計算をされるんですか？

デーブ まあ、あまり大衆迎合するとよくないし、みんなが同調しているような論調に便乗するのはみっともないから、最後は独自の思想ですよね。でもね、誰って言わないけど、わざとみんなと違うことを言う人もいるんですよ（笑）。そんなことを思ってもいないのに。

――それは“役割”としての発言なんですかね？

デーブ そうです！ たとえば、ある番組にゲストが6人いて、全員が同じことを唱えたらおもしろくないじゃないですか。「沢尻エリカは自由でいいじゃないか」とか、ホントは全然思ってないんだけど、そう言ったほうが目

日本はワイドショーが裁判代わりになってしまう

立つわけですよ。

――そこはワイドショーにおけるポジション取りですね（笑）。

デーブ　ええ。『朝まで生テレビ』なんかもそうですよ。みんなが同じことを言ったらおもしろくもなんともないんですよ（笑）。

――やっぱり討論番組といえどもエンターテインメントなんですね。

デーブ　まあ、本当はもっと深刻な社会問題をやったほうがいいんですよ。でも、朝から老人の孤独死とかをやってもねぇ……。

――それはちょっと厳しいですね。

デーブ　やっぱりテレビは商売ですから、確実に（視聴率）8パーセント獲れるのに、4か5しか獲れないものをやるわけがないよね。雑誌もみんなそうでしょ？

――大きな声では言えないですけど、そのとおりです（笑）。で、亀田一家はテレビによってたかって叩かれてますけど、そもそもはテレビによって怪物化した部分もあるわけですよね。

デーブ　まあ、彼らの生い立ちを含めてテレビが取り上げないほうがおかしいじゃないですか。親父もああいうキャラクターだし。途中からジャッジの問題が出てきたんですけども。

――あと、あまりにもテレビが群がるから、どっか隙があったら……という意識は視聴者の中にあったと思うんですよね。

デーブ　そうですよ。儲けすぎた人とか調子に乗りすぎた人に何か落ち度とか不正があったら、その人の不始末を見たいんですよ。ただ、アメリカですと、成功者にそんな意識はないんですよ。日本だと儲けることが罪みたいな意識があるじゃないですか。

――妙にねじ曲がった清貧主義がありますね。

デーブ　だから日本の場合、よく「外車を乗り回してる」って言い方するでしょ？　完全に嫌味なんですよね、あれ（笑）。

――ダハハハハ！　外車も乗り回せないのかという（笑）。

デーブ　あとね、これは大事なポイントなんですけど、誰かが人気が出ると、まず週刊誌が動くんですよ。それで悪いことが発覚すれば、それをテレビが当然ながら無視できない。それがバッシングにつながるんです。だからテレビが主導でバッシングしてるわけじゃなくて、活字にリードされちゃってるんですよ。政治家のスキャンダルも全部そう。若乃花（花田勝）の元・奥さんの美恵子さんの不倫だって、『週刊現代』に出たからみんなやってるんですよ。

――そういう仕方のない後追いって現場サイドにジレンマはあるんですかね。

デーブ　ない!!（キッパリ）。

――ダハハハ！　ないんですか（笑）。

デーブ　深くは考えてないですよ。彼らには〝ジレンマ〟っていう概念はないんです。

――じゃあ、「叩いてるからウチもやっちゃうか！」というノリなんですね。

デーブ　そんな感じ。結局、どうせヨソもやるから自分もやらないと損なんですよ。

――でも、TBSは亀田一家に対してギリギリまでスターとしての光を当てていたじゃないですか。

デーブ　でも、内心はみんな思ってたんじゃないですか。ちょっと保護しすぎかな、と。でも、そこは膨大な額のお金が動いていたから。たとえば、世界水泳とかバレーボールとか、テレビ局が権利を買うじゃないですか。そうなったら守るに決まってるんですよ。なにしろ凄い金額で買ったわけですから！

――よくよく考えると、自己批判するほうがおかしいですね（笑）。

デーブ　最初からけなすわけがないんです。ただ、ボクは思うんだけど、テレビはスポーツはスポーツとしてある程度、中立に報道しないといけないと思うんですよね。アメリカみたいに一歩引いて、中立にスポーツとして伝えていれば、万が一、不正があっても恥をかかないで済むわけですよ。だから日本のテレビ局はちょっと興奮しすぎなんですよ。

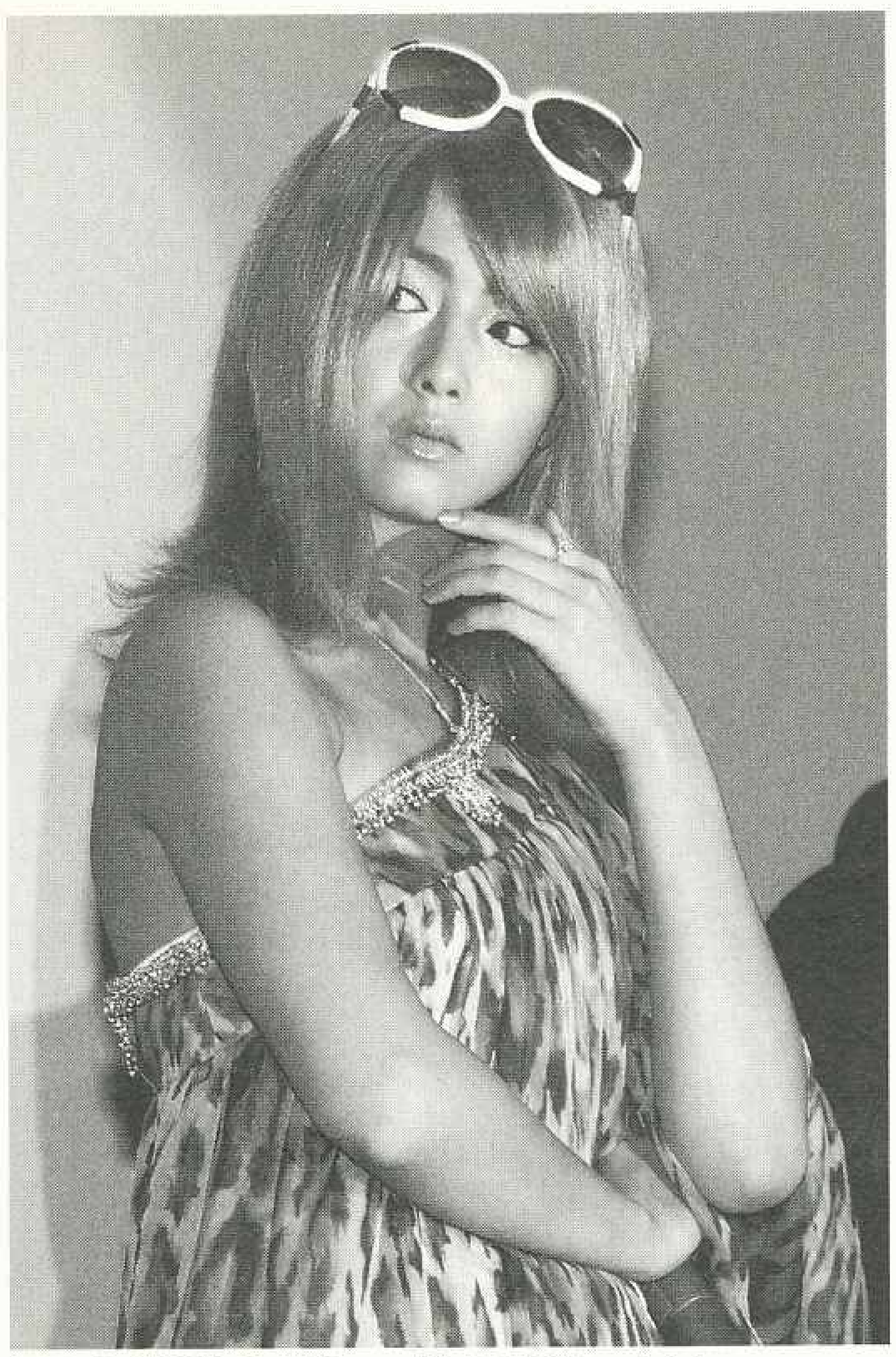
――こないだの『サンデージャポン』の亀田論争のときも、デーブさんは「もっと力を抜いたほうがいい」と言われてましたね。

デーブ　あれ、ウケたね。ひさしぶりのヒットだった（笑）。

――おめでとうございます（笑）。テレビ局側もそういったあの姿勢が必要なんですかね。

デーブ　そう。日本はね、スポーツになるとちょっとやりすぎ。伝え方が全然スポーツ報道じゃない。だって日本だと実況アナウンサーの苦情をよく聞くけど、アメリカではアナウンサーの苦情は聞かないですよ、全然。

――それはいまだに「前畑、頑張れ！」を引きずってるっていうことなんでしょうか（笑）。



沢尻エリカ騒動もワイドショーが仕立てあげた。よくよくふり返るとそこまでバッシングするかという感じではある。叩いた理由？　とくにないです（エリカ様調）。



デーブ　でも、バッシングは仕方のないところはあるんだよね。政治家も有名人もそうだけど、何かマズイことがあれば、いずれわかっちゃうので、わかった時点で叩かないといけないじゃないですか。で、芸能人の場合だとプロダクションがもみ消すのはよくあることなんですよ。まあ沢尻エリカは大きな事務所だから、止めようと思えばできたんですけど、もう事務所が沢尻にあきれてたから。だから、マスコミはやりたい放題になるし、そういった圧力がないネタに集中しちゃうこともあるんです。

――なるほど。日本のテレビ局の構造がバッシングを生んでいるところもあるんですね。

デーブ　構造的なことをいえば、最大の問題は普通の番組だけでは2時間を埋められないってことですよ。生活情報とかでは数字をそんなに獲れないわけですから、亀田たちがホントに〝終わる〟までやっちゃうんですよ。時津風部屋も逮捕までやっちゃいますよ。で、それでおしまい！

――あとは知らん、と（笑）。

デーブ　だってヒューザーの欠陥住宅も起訴されるまでやってたけど、もういまはこれっぽっちもやってない。欠陥住宅は全部直ったのかと疑うぐらい、もうキッパリとやめたんですよ。

――テレビは亀田問題の本質を問うよりも、いまは〝第二の亀田〟が現われるのを待っているだけなんですね。

デーブ　待ってるだけです。まあ、そんなテレビがイヤだったら観なきゃいいだけですよ！

――ダハハハハ！　今日はありがとうございました（笑）。

【07年10月24日／電話取材にて収録】

過剰バッシングの“背景”に潜むもの
ネットに「出し抜かれたくない」

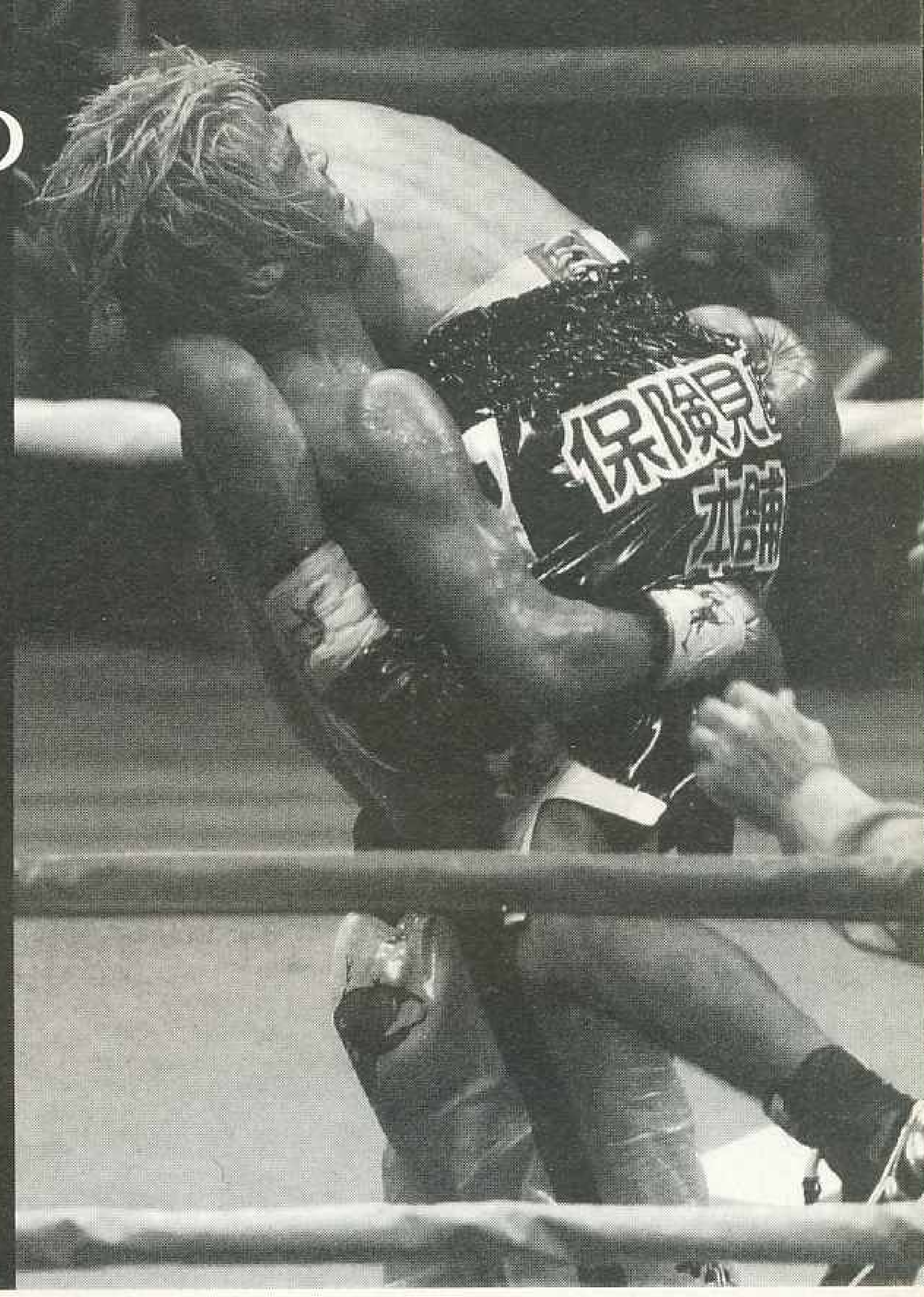
テレビの事情

このところ谷川貞治氏の“黒魔術”論や、武蔵の“永遠の命”論など、さまざまな論説をズバリ展開して好評の菊地成孔氏が、今回は亀田一家の過剰バッシングに潜むメディア問題、ボクシング界の構造に深く切り込んだ!!

聞き手／真下義之

音楽家であり文筆家

菊地成孔



――今日は亀田一家を代表とする〝バッシングとは何か？〟というテーマでうかがいたいと思います。

菊地　バッシングに関しては素人ですが世界で一番、協栄ジムの近くに住んでいる『ｋａｍｉｐｒｏ』論客としてコメントしたいと思います。

――ご近所さんでしたか（笑）。

菊地　ここ最近は人だかりの騒ぎで目が覚める感じです、本当に。とはいえ、とくに貴重な情報は何もないんですが（笑）。興毅とファン・ランダエタ戦後の最初の記者会見のときには報道陣に凄い緊張感があったんですけど、最近は半笑いです。そういう微妙な変化はありますね。まぁ、四季のような。

――不可解な判定勝ちで騒がれたランダエタ戦と今回では、マスコミの質や報道の過剰さが変わりましたよね。

菊地　テレビを観れば明白ですが、ボクシング誌じゃなくワイドショー主体になってる。いきおい、この問題はボクシング界を飛び出して〝アンチ亀田（堕ちたスター）〟派か、〝アンチ大衆＆マスコミ〟派の議論にもつれ込む、と。爆笑問題の太田（光）さんなどが、〝アンチ大衆＆マスコミ〟派の代表だと思いますが。

――確かに太田さんは亀田を擁護されてますね。

菊地　まあ、自分を含めた衆愚を嘆くというか。いつもの太田節ですが、「亀田一家をおもしろがっていた段階で反則やスキャンダルも射程に入れてたのに、いざ騒動が起きたらコキ下ろすのは、天にツバを吐くようなものだ」というヤツね。私もあえてどっちかといえばそっちですが。まあ端的にいえば亀田一家には〝作家〟が入ればよかったかもなと思っています。

――つまり、優秀なプロデューサーが必要だったわけですね。

菊地　のど自慢大会で素人がとんでもない衣装を着ちゃったりするじゃないですか。作家がいればああいうエスカレーションを避けられたと思うのと同時に、こんな汚らしいまでのおもしろさもなかったかもしれない。

――なるほど（笑）。

菊地　素人のセルフプロデュースはボクシング界の伝統です。輪島（功一）の団子屋、具志堅（用高）の〝カンムリワシ〟、ガッツ石松の三度笠などなど、実際は知りませんが、作家がついているようには見えません。

――過剰な自己プロデュースを素人がやってしまった、と。

菊地　ただその伝統は「試合が第一、演出はオマケ」ということだったわけで、これがアンチ亀田の論法の根幹ですよね。でもそんな論法はもし亀田一家が強かった場合、霧散してしまうつまらぬ正論です。亀田一家を責めるべきはボクシング界の伝統にのっとっていながら、元ネタがすべて他ジャンル。つまりプロレスと格闘技と野球マンガだった点じゃないでしょうか？　そこまでするのなら伝統を破ってでも作家を導入すべきだったと思ったわけですが、まあ有名人が何かやって袋叩きに遭うことはあたりまえのことであって、今回の騒動に現代的なエスカレーションを感じられるとしたらメディアの部分でしょうね。

――そういう意味で、今回の過剰なバッシングの一因に動画サイト『ＹｏｕＴｕｂｅ』で暴かれた試合中のセコンドの反則指示の場面などがあって、これが増幅された部分も大きかったと思いますが。

菊地　ありきたりなメディア論を言うならば、新聞とテレビはネットを恐れています。つまり報道機関としてネットのほうが早くて正確でマニアックで優れてる、と。テレビが帝国なのは言うまでもないけど、新聞はテレビの前帝国としてテレビと同盟関係にありますね。昔は仇敵だった。

――その二つとネットが相対している感じですね。

菊地　ネットはニューメディアとして一億総記者であり、一億総ジャーナリストであり、一億総評論家である状況を現出させました。要するにネットにどんどん「抜かれて」しまうわけですよね。

――ニューメディアが古いメディアを駆逐する、と。

菊地　私の考えでは一回できあがったメディアはなくならないです。昔はテレビの登場で「ラジオはいらない」「新聞は終わりだ」と言われたんですから。しかし「端に追いやられる」という可能性だけでも恐ろしい。ネットが何かを暴いたときにテレビがとる道は、「素人がやってること」と黙殺するか、「やばい！　抜かれた」と対処する方向ですよね。

――そこはテレビ側のプライドも関わってきそうですね。

菊地　黙殺できないのだとしたら、「こっちのほうがちゃんとやってる」と組み伏せることしかできない。10倍返しで面目を保とうとするから、まぁそのフランスで当たった小さい娯楽映画をハリウッドがリメイクするようなものです。妥当なたとえではないかもしれませんが（笑）。

――なるほど（笑）。

菊地　私は『ＹｏｕＴｕｂｅ』を見

ないんで詳しい経緯は知りませんが、ネットで火がついたものをテレビが百倍返しするのが日常的なのであれば、そりゃあホゾを噛む思いでしょう。

——しかも他社じゃなく、ネットに抜かれるわけですから。

菊地　マスコミと団体の関係も今昔あり、みたいな話はプロレス誌や芸能誌の定番ですが、いまや最終段階にリーチがかかった感があります。素人が最高速度、最高精度、最ヲタ度でどんどんパパラッチするわけですからね。

——そこで報道もエスカレートしていく、と。

菊地　上げて下ろすのは人類の属性ですし、バッシングはテレビの創成期からあったと思います。「天地真理が楽屋で煙草を吸っていた」とか（笑）。まぁテレビの中世の話ですよね。しかも全部リークなわけです。

——そういった暴露もテレビ側は把握していた。

菊地　ええ。テレビの黄金時代はマスコミと芸能プロが癒着していて、情報コントロールのやり放題だったわけですよね。

——凄まじい帝国だったんですね。

菊地　私は個人的にはパソコンはあまり使わないテレビっ子ですが、民の声という意味ではネットはあるべきだと思う。権力者の情報コントロールを揺るがせられるんなら、けっこうじゃないですか。帝国の恩恵にあずかりたい人々には邪魔だろうけれども。内部リークか、外部リークかという話じゃない。名もなき民が凄い早さでトップ記事を抜いちゃう。その対処法がヒステリックになるのはしょうがないですよ。ネットばかりは権力の子飼いになる可能性はないでしょうし。

——そこは民衆の力ですからね。

菊地　ある意味、完全に左翼的と言えますね。でも〝バッシング〟という現象は根源的で、ネットもちょっと加担してるだけです。それに日本人は許すのが早いし。

——〝ヌルヌル事件〟で叩かれた秋山成勲も復帰しましたしね。

菊地　「永久追放だ！」「殺せ！」と言ってた人はどうするんだろうって思っちゃいますよ。95年にフランスが核実験したときに、「一生フランス製品買わない」っていう人がいたのを覚えてます？

——ええ、ありましたよね（笑）。しかし日本人は許し方が早いですよね。

菊地　「謝れば許す」のが前提だから、責めてるときも「一生、日の目も見れないようにしてやる」「一族郎党みな、孫子の代まで虐殺」っていう肉食や欧米型の血も涙もない感じではなく、「謝れ、謝れ」って言って土下座したら「よしよし」って戻してあげる日本人の特有の感覚でしょうか。フランスなんて謝ってもいない。泣き寝入りも我が国の文化です。亀田一家が全員で首をくくるのを見たい人はいない。ラッシャー木村さんの愛犬の件はお気の毒ですが。

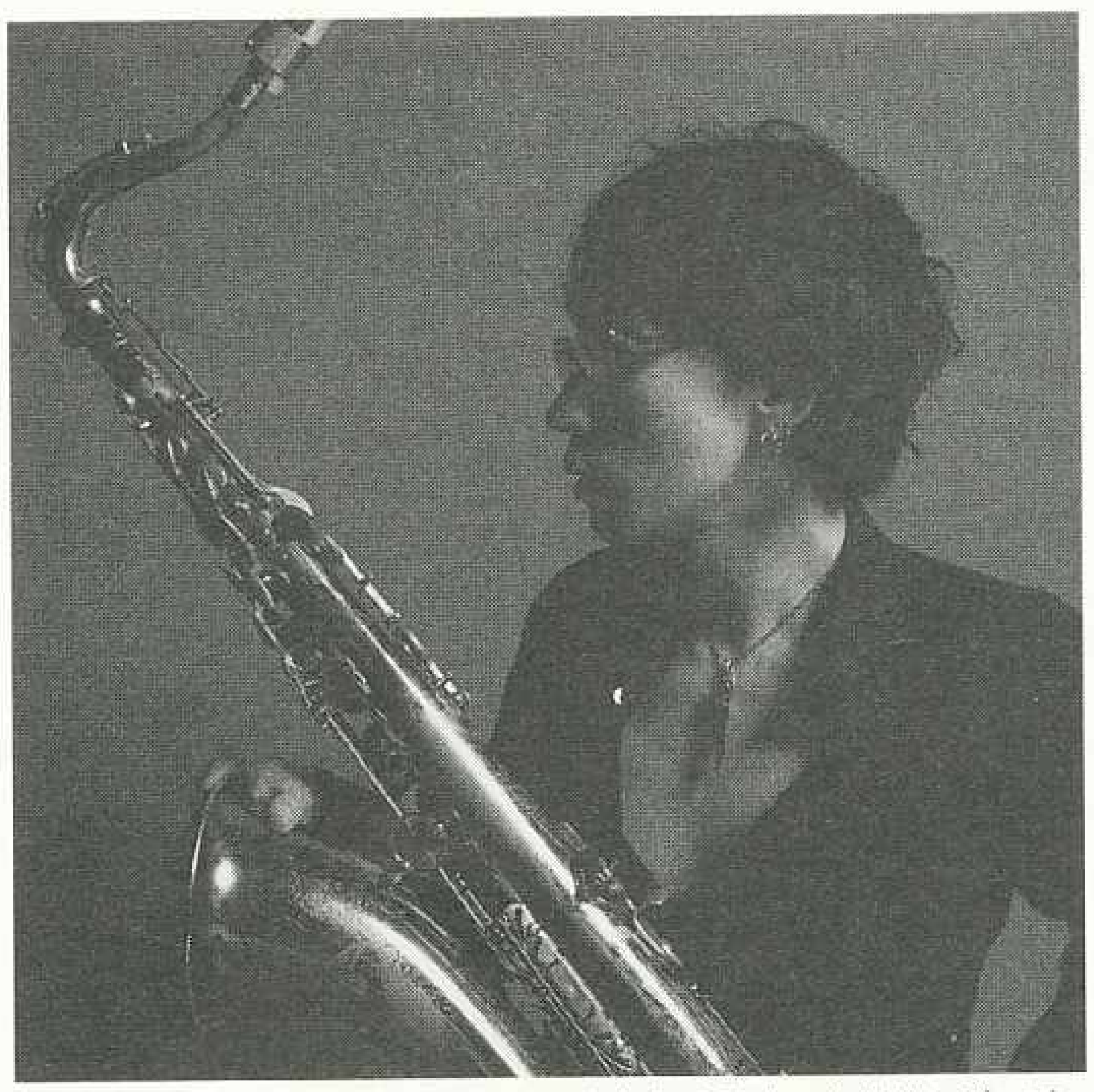


——木村さんが新日本プロレス参戦時代にヒールに徹したことで、ファンが自宅に卵を投げつけたり、嫌がらせが多発して木村さんの愛犬がストレスで円形脱毛症になった、という伝説的なエピソードですね。

菊地　ええ。プロレスが日本人を暴虐にさせたパワーの象徴です。でも日本

亀田一家は「罪を犯した」んじゃなく「恥をさらした」という日本的な考え

ではアメリカみたいに、「こいつは過去、幼児にいたずらしました」と玄関に貼られて、ライフルを持った人間が殺しに来るようなことはない。アフリカなら亀田の家は投石ぐらいされているでしょう。日本は掲示板に「おまえの家に火をつけてやる」と書かれ、訴えるという国です。



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～」（白夜書房）も出版。

——日本はきちんと謝罪したとたん、あっさりと許しますよね。

菊地　日本人は〝恥の文化〟で欧米は〝罪の文化〟ってよく言われますけど、21世紀になっても変わらない。

——〝恥の文化〟は人に迷惑をかけないことが基準の倫理観で、〝罪の文化〟は宗教的な戒律や良心を重視する考え方ですね。

菊地　亀田一家は「罪を犯した」んじゃなく「恥をさらした」んだ、と。その恥はすでに謝罪したことでぬぐったから許される、という構えね。日本人のアメリカ人化によって、半分形骸化してきた構えですが。

——あとネット側で気になるのは、やたらと正義感を振りかざしている部分なんですけど。

菊地　それもよく聞きますが、見たことがないので推測になりますけれども旧左翼的な正義感、つまり「体制側はいかん」といった、カビの生えたアレではないのだとしたら、あまりよろしくないと思います。ネットが記者となってマスコミが暴けなかったものを暴くのは凄く痛快ですよね。でも「真剣に許せない」とか始まっちゃうと、それは自分が大マスコミになって情報をコントロールしたいという心理と直結しますから、「いじめ掲示板」みたいな力の持ち方と同じになります。それよりはアウトサイダーやアウトローや愉快犯としておもしろがってるほうが健康的ではないでしょうか。

——いまはネット世論自体にパワーを感じますよね。

菊地　ネットがある種の社会正義みたいなものを背負っているという自覚があるとしたら、もうちょっといろいろ考えたほうがいいですね（笑）。

——ただ、そこで教育もできないですからね（笑）。

菊地　この話はちょっと大きすぎますなぁ。亀田に戻しますが、この事件がボクシング史から見ると大痛手になったのかどうかもまだわからないですよ。

——あ、まだわからない。

菊地　っていうか、ここが一番言いたいことなんですが、あの一家が元ネタを全部他ジャンルから引いてることが問題だと言いました。それで私が最初に亀田大毅を見たときに強く思ったのは「ヤマケン（山本喧一）に似てるな」ということです。

——ハハハハ！　確かに似てますね。

菊地　断っておきますが、私はヤマケンも弟くんも大好きですよ。ただ、顔が似てる人間は考え方も似てきますから。万能感によって大ボラが止まらなくなる、というのは二人に共通したクセです。そしてヤマケンは噛ませ犬というか、殉教者タイプで己の死をもって高山（善廣）や田村（潔司）や桜庭（和志）を上げる才能を持っていた。みなまで言うな、という話ですがそもそもお兄ちゃんは辰吉（丈一郎）に似ていたわけです。あの一家唯一のボクシング界からの依拠例です。お父さんはアニマル浜口さんの最劣化コピーなのだから。これからお兄ちゃんがもの凄くいい感じになるかもしれない。弟が殉教者になることで。素晴らしいファミリーチームワークです。宗教的とさえ言える。

——そこは期待したいですね（笑）。今日はありがとうございました。

【07年11月3日／東京芸術大学の学食にて収録】

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

昨日の味方は、今日の敵！　油断しているとあっという間に危険な状況に陥る今日この頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？　そんな場面に遭遇したときは、相手を地面に倒してひたすら一ヵ所を攻めろ!!　何事も基本は大事ですからね。それでは始めましょう！　3、2、1、強振、強振、う～、ビクトリー!!（逮捕）。

kamipro116号へのお便り紹介

『PRIDE』10年間の裏側ページがおもしろかった。人は失なってみて、大切さがわかると改めて思った。『PRIDE』は奇跡みたいなものだったのかもしれない。
【東京都・野村直人さん・宣伝マン・39歳】

⬇ジョシュ・バーネットも確かそんなことを言っていたはず～。でも、ジョシュの心はすでにIGF！

日本総合格闘技協会と株式会社ワールドビクトリーロードが気になります。『PRIDE』とは別なんでしょ？　馳浩さんが「出てこいやぁ～！」とか叫ぶのでしょうか？
【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

⬇今号では、その気になる人たちを揃ってインタビューしているので、ぜひ読んでみてください。しかし、相当な格闘技ファンと噂のドン・キホーテの安田社長にもぜひ出てもらいたかったです！　次号にでもよろしくお願いします。

今回のGKスペシャル・プロレス探検隊はショックを受けた。あんなにいい試合をしてK―1MAXの王者に輝いたアンディ・サワーが、『kamipro』にダマされて「探検隊に入りたい」と言っていたからだ。事情を説明して、ちゃんと脱退してほしい。
【埼玉県・ど根性ガエルさん・高校生・15歳】

⬇そんなつまらないこと言わずに、あなたも探検つなぎを着てみましょう！



やっぱり青木真也インタビュー。記事からDEEPのリングサイドに『PRIDE』元スタッフや佐藤大輔さんが並んでいたと知りました。その写真を見ると、何か期待してしまいます。私も青木選手と同じで、作ってる人が一緒ならば〝PRIDE〟だと思ってます。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

⬇『PRIDE』への熱いメッセージでした～。さて、年末はどーなるのでしょーか？

西村修のインタビューが載ってたので、オッ！と思ったが、今回の『無我ワールドプロレス』電撃脱退のことじゃなかったので、ちょっと残念でした。でも、ゴッチさんを語るインタビューでも、やっぱりおもしろかったです。とくに、ジョシュ・バーネットのところは最高でした（笑）。
【京都府・坂本コージさん・会社員・33歳】



⬇無我の内部事情については『kamipro Hand』にアップされてるケロちゃんインタビューに要注目！

UFCはズバリこうやって観ろ!!　の企画がよかったです。まさにタイムリーな企画！　ぜひ参考にしてチャレンジします。
【石川県・浅井清治さん・会社員・35歳】

⬇あのページは、いまだ名前の決まらない編集部・上杉の努力の結晶でございます。ようやく編集部でもリアルタイムでUFCを観られるようになりました～。バンザーイ。

『PRIDE』消滅で雰囲気が湿りがちですが、いつ何時でもステキな笑顔を見せてくれるドラゴン・藤波のゴッチさん話が一服の清涼剤でした。いつの日か、新たな総合格闘技イベントでリアル・ドラゴンスクリューを見せてくれる選手が現れてほしいです。
【宮城県・毒柴さん・無職以下ニートすれすれ・36歳】

⬇自分のドラゴンスクリューを〝見てくれ重視〟と言ってしまうあたり、さすがです！　西村の無我脱退で大変な時期だと思いますが、ドラゴンスマイルで頑張ってほしいです。

吉田のインタビューに「ドンキの社長にさいたまスーパーアリーナを買ってもらおう！」とあったけども、ドンキってそんなにお金持ちなのかと思って衝撃を受けた。ボクにも何か買ってほしい。
【北海道・阿修羅さん・会社員・35歳】

⬇自分で稼ぎましょう。

堀辺さんの大相撲を語った記事を読んで、日本自体がいろいろな価値観を持っているのにも関わらず、いまは借り物のスポーツの流れに乗っているだけ。いまだけを観るのではなく、大きな流れの中でさまざまな相撲の方向性を認め、捉えていかないと流行に流される。これはいまの日本の政治経済すべてに言えるのではないか？　この記事を『kamipro』だけで終わらせるのはもったいない。ぜひインターネットや新聞に載せてほしい。
【東京都・森宏之さん】

⬇〝堀辺信者〟からは同様の熱いご意見を多数いただきました。さすがに、『kamipro』の記事は新聞には載せてくれないと思うのですが……。

RGと小林聡の対談がおもしろかった。とくに、小林聡が専門誌の「なんとか委員会」のことをボロクソに言っていたので、なんだか溜飲が下がる感じがした。ちなみに、『kamipro』は「なんとか委員会」みたいなのは作らないのか？
【福島県・トドロキさん・医療関係・32歳】

⬇『kamipro』にも、「武蔵を優勝させる会」というものがありますよ。12月8日のK―1WGP決勝に向けて、『kamipro』読者も士気を高めましょう！　武蔵はスーパーファイトでの出場ですが……、〝マジック〟が起きるかもしれませんし！

おもしろかった記事＝海川ひとみ淫タビュー。理由＝かわいいから。
【東京都・小坪弘良さん・会社員・26歳】



⬇皆さん、この投稿者の名前によ――く注目してみましょう！

116号 おもしろかった記事ランキング

1位	PRIDE名勝負ベスト100
2位	PRIDEそのとき何が起こったか
3位	堀辺正史、相撲を語る
4位	"PRIDE消滅"座談会
5位	藤波辰爾

前号の1位に輝いたのは、なんと大好評！変態座談会つきでお送りしたPRIDE名勝負ベスト100。なぜかヤマヨシが大フィーチャーされるという不思議な展開が、読者の心をキャッチしたのか!?　そのほか『PRIDE』関連の記事が上位にランクイン。また、大騒ぎの相撲界について語った堀辺師範は堂々3位に。ゴッチさんとの思い出を語ったドラゴンも上位に！

kamipro Special 2007 AUTUMN おもしろかった記事ランキング

1位	青木真也
2位	所英男×ヴォルク・ハン
3位	五味隆典
4位	ロシア特集
5位	父が語る山本KID徳郁



9月下旬に発売された『kamipro Special 2007 AUTUMN』にも多くのおハガキをいただきました～。ありがとうございます！　当誌で1位に輝いたのは、『HERO'S』ミドル級王者J.Z.カルバンに噛みついた青木真也ダー！　大晦日はいったいどこのリングに上がるんでしょーか!?　2位はついに実現した夢の"ヴォルク・ハン"対談！　また、ヒョードルの行方をほのめかすレッドデビル・ワジム代表のインタビューを含むロシア特集が4位に。本人は出てないのに、山本KID特集は5位にランクイン。やっぱりKID人気は凄い！



紙の森嶋

読者ページのヒーローをみんなで応援しよう！

『kamipro』読者に森嶋ブーム到来！　と思ってしまうほど、なぜかここ最近、森嶋関連のイラストが多く届く『kamipro』編集部。本誌では一度も取り上げたことはないのに、なぜ……？　その疑問はいまだに解消されずじまいだが、読者のニーズにお応えして、今回からこの『ハガキ愛ランド』内で森嶋情報を取り上げようと思います。

森嶋の近況

10月6日 ナイジェル・マッギネスに敗れ、20回も防衛を重ねたROHヘビー級王座からまさかの陥落。

10月7日～22日 11代、13代と2度もGHCタッグ王座に君臨した森嶋&モハメド・ヨネ組。今回のリーグでは王座奪還に期待が集まったが、無念にも王座には返り咲けず。

10月27日 日本武道館での6人タッグマッチ（森嶋猛&モハメド・ヨネ&石森太二 vs 小川良成&D・ウイリアムス&B・フィッシュ）で勝利したにもかかわらず、ノーコメントで退場。サンドイッチラリアットを同士討ちしてしまうなど、ヨネとの“不協和音”が原因かとの見方が濃厚。

11月27日 DDT後楽園大会にてなんと！ マッスル坂井戦が決定!!

もりしま・たけし■1978年10月15日、東京都出身。高校時代に柔道を経験し、全日本プロレスへ入門。98年3月、志賀賢太郎戦でデビューをはたす。その後、ノアの旗揚げに参加し、力皇猛とのタッグチーム「WILD II」を結成。02年には高山&大森組の持つGHCタッグ王座に挑戦し、見事王座に君臨する。また、07年2月には米国ROHに参戦し、ホミサイド破ってROHヘビー級王座を奪取。その後、20回も王座防衛をはたすなど、凄まじい実力を持つ。190cm、135kg。



東京都・サカモトカズヤさん◎どちらも直球のダジャレでビックリでございます。

衝撃ショット!!

なんと、本誌常連投稿者 S波氏が逆スクープされていた!?

某写真週刊誌の編集次長である我らがS波氏が、なんと！　雑誌『BUBKA』の特集で大フィーチャーされていた。この情報を教えてくれたのはもちろんS波氏本人なのだが、記事には「『フライデー』の顔といえる名物編集者」や「ヒラ記者がジャニーズやバーニングといった大手に取材をかけても返事はS波さんに返ってくるほど有名人」など大絶賛！　また別の日、S波氏は『人ったらし』（亀和田武著・文春新書）を読め！　とばかりに編集部に大量のFAXを送付。そこには「S波氏はアントニオ猪木の“人ったらし”を継承した人物である」と、やはりS波氏を絶賛する内容が!!　明らかに自慢の要素を多分に含んだ情報提供であるにもかかわらず、「いやあ、ちょこっとしか載ってないんだけどさあ～」と、あくまで謙虚なS波氏。えー、皆さんもよかったら記事を読んでみてください。



これが、S波氏イラスト入りの記事。S波氏は「似顔絵が似ていない」となぜか読者ページに猛抗議をしてきた。

スクープ！ ザ・目撃!!

●上野動物園に子どもを連れて行ったのですが、なんと！　そこでインリン様の姿を発見!!　インリン様はなぜか動物たちをぶっ叩こうと、ムチを振り回していました。とても子どもには見せられないと思い、そこは避けて通りました。でも、インリン様、やっぱりキレイでした。
【東京都・親バカさん・会社員・30歳】

●宇野商店にて、退院されたばかりの宇野薫選手にお会いしました。退院したばかりだというのに店員として接客をし、サイン、写真撮影など、気軽に応じていました。プロとしての意識、そして紳士的な人格。素晴らしい方でますますファンになりました。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

●先日、『ハッスル』を観に行ったら、お忍びかご招待なのかわかりませんが、ミヤマ☆仮面こと垣原さんが客席に座って観戦していました！　さすがにこの日はミヤマ☆仮面の格好ではありませんでしたが、いつかフルコスチュームで『ハッスル』のリングに上がり、あのクワクワポーズを決めてほしいと思います！
【kamipro Hand投稿】

●K-1MAXの決勝大会を会場に観に行ったときに、魔裟斗の奥さんである矢沢心と坂田の奥さんの小池栄子が一緒に観戦しているところを目撃しました。この二人ってドラマでも共演してましたが、本当に仲良しなんですね。二人ともテレビで見るよりキレイでした！
【kamipro Hand投稿】



さあ、明るい未来への列車に乗ろう！ 上井駅長の人生相談

さあ、今回も深刻な相談が届いておりますよ！　いつものように、上井さんにズバッと解決していただきましょう！　それではさっそくスタート!!

同僚がライバル会社に給料倍額で引き抜かれました

お悩みごと

■会社に関する相談
（鹿児島県・キリンさん・32歳・♂）

上井さんに相談したいことがあります。僕は某文房具用品会社で働いていますが、先日、僕の同僚がライバル会社に給料倍額で引き抜かれてしまいました。社長含め社員5名というもともと小さな会社なので、突然の事態にいま全社員が意気消沈。ヘタしたら会社自体が解散ということもあり得ます。出て行った彼を呼び戻すことはもはやできませんが、せめて会社が倒産しないようにみんなの士気を高めたいのです。こんなときはどういう行動をとるのが得策でしょうか？　教えてください！

上井駅長

何、バカなこと言ってんだよ！　そんなのオレに相談している場合じゃないでしょうよ!!（怒）。相談する前にまず動かなきゃ。チャンスだと思わないとダメだよ。西村（修）くんが『無我』を抜けたときに、吉江（豊）くんが「チャンスに変えていきたい」と思ったのと一緒だよ!!　プラス思考でいかなきゃ～（あきれた口調で）。だって、まだ社員が5名いるんでしょ？　その抜けた人がどれだけ優秀な人だったか知らないけど、5人で負担すればいいじゃない。え？　何？　給料が倍？　何言ってんのお!!（怒）。そんなもんね、社長に「倍以上働きますから、給料上げてください！」ぐらいの誠意を見せられるでしょ！　オレなんかね、ビッグマウスやってたときに、最初は前田も船木もいたし、村上だって柴田だっていた。でもいまはだーれもいないよ。それでもまだ続けてやってるんだから。オレはある人に言われたんだよ。「いまいない人は、たとえまだいたとしても、何年か先にはいなくなる。それが早いか遅いかだけだ」って。それを聞いて、もう奮い立ったよね。だから、オレは結果を見せる、続けていくことで証明したいと思ったんだよ。オレだって悩むことはあるよ。でも、オレの悩みをプチシルマの社長に話したら、「上井さん、そんな米粒みたいなことで悩んだらダメだよ」って言われるよ。オレから見るとこの悩みも米粒みたいなんだよ！　……まあ、こう言うと失礼になるけど。でも、まだやれるだけのことをやってないんじゃないか!?　相談する前に、まず動け!!

キリンさん、おわかりになりましたでしょうか？　ぜひ、社員一同奮い立って、世間を見返してやりましょう!!
※人生相談ドシドシ送ってください！　また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部
「レモンスカッシュ」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

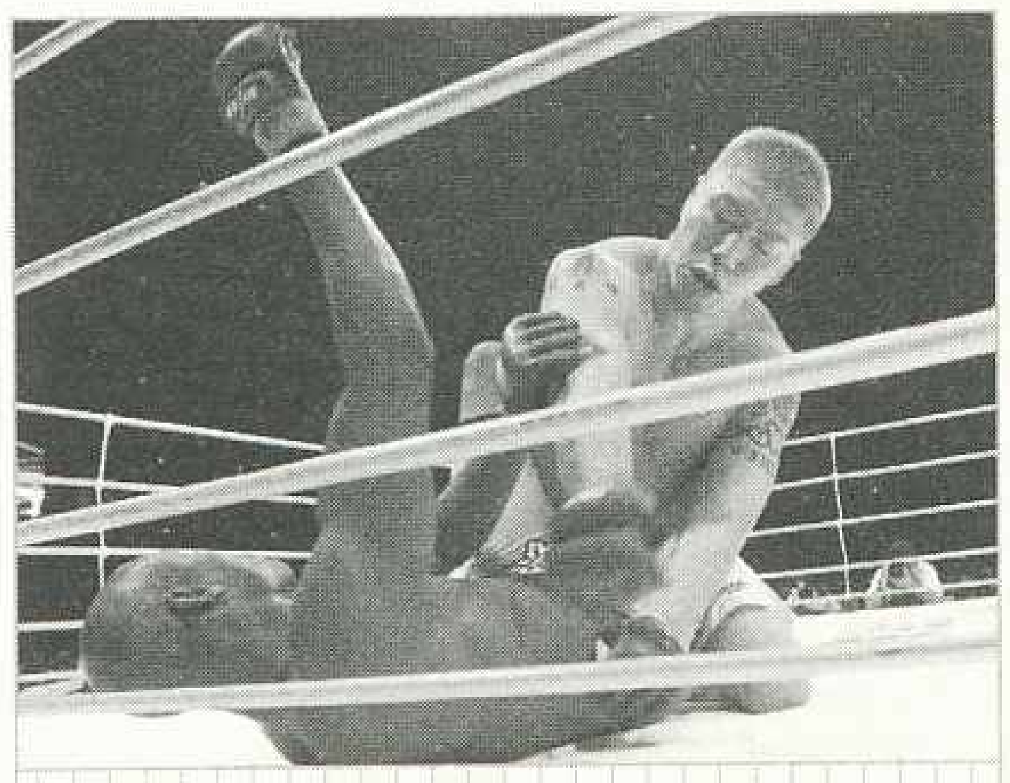
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

11 Fight & Event November

17 SAT.

現ミドル級王者アンデウソンを倒した男!
"ピラニア"長南亮が念願のUFC初参戦!!



『UFC78 VALIDATION』
米国ニュージャージー州ニューアーク、プルデンシャルアリーナ

決定対戦カード
長南亮 vs カロ・パリジャン
郷野聡寛 vs タムデン・マックローリー
マイケル・ビスピング vs ラシャド・エバンス
フランク・エドガー vs スペンサー・フィッシャー
チアゴ・シウバ vs ヒューストン・アレキサンダー

◆NOAH/神奈川・相模原市立総合体育館(18:00)
◆大日本/新潟・新潟フェイズ(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆宮本和志自主興行/東京・新木場1stRING(18:30)
◆JWP/東京・板橋区立赤塚公会堂(19:00)

18 SUN.

◆DRAGON GATE/福岡・博多スターレーン(16:00)
◆DDT/愛知・Zepp Nagoya(13:30)
◆大日本/富山・小杉町民体育館(15:00)
◆El Dorado/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆無我ワールド/大分・国東体育館(18:00)
◆MAKEHEN/東京・新木場1stRING(12:30)
◆全日本キック/東京・後楽園ホール(18:00)
◆新日本キック/東京・ディファ有明(16:00)
◆仙台女子/宮城・Zepp Sendai(15:00)

19 MON.

◆NOAH/新潟・新潟市体育館(18:30)
◆DRAGON GATE/熊本・興南会館(18:30)
◆大日本/石川・もてなしドーム(18:30)

20 TUE.

◆DRAGON GATE/鹿児島・鹿児島市民体育館(18:30)
◆無我ワールド/大阪・新大阪イベントホール(18:30)
◆WAVE/東京・新木場1stRING(19:00)

21 WED.

◆DRAGON GATE/宮城・延岡市民体育館(18:30)

22 THU.

◆ハッスル/東京・後楽園ホール(19:00)
◆ソウルコネクション/東京・新宿FACE(19:00)

23 FRI.

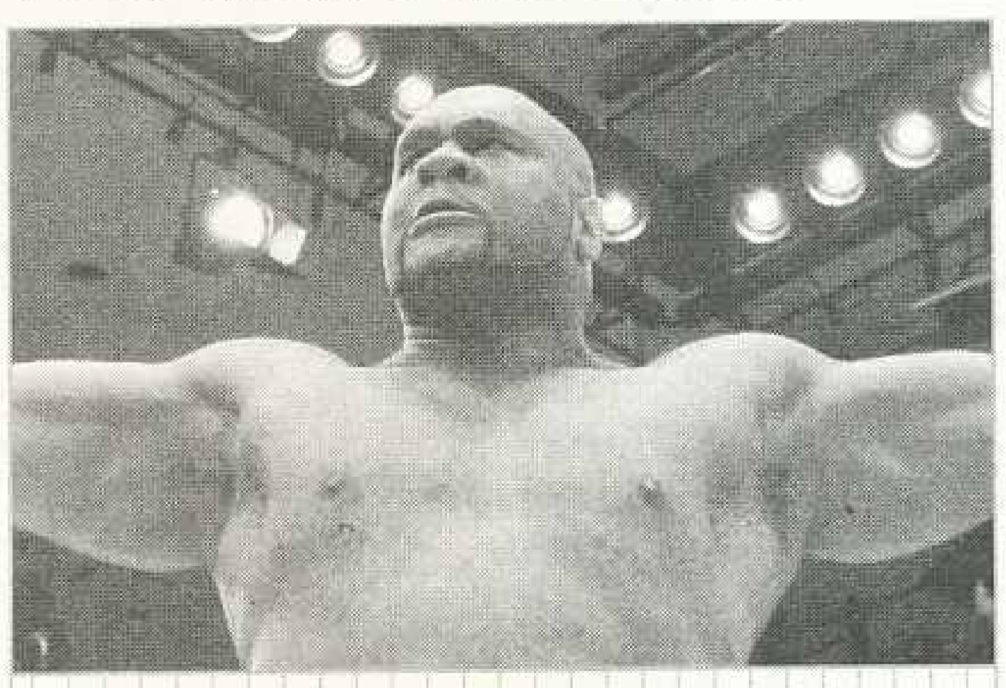
◆新日本/埼玉・桂スタジオ(16:00)
◆全日本/東京・後楽園ホール(12:00)
◆NOAH/北海道・浜頓別町多目的アリーナ(16:00)
◆ZERO1・MAX/兵庫・兵庫県立武道館(15:00)
◆みちのく/岩手・矢巾町民総合体育館(15:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆IWAジャパン/東京・新宿FACE(18:30)
◆ZST/東京・ディファ有明(17:30)
◆OZアカデミー/東京・新宿FACE(12:30)

24 SAT.

◆LOCK UP/東京・後楽園ホール(18:30)
◆全日本/神奈川・相模原市立総合体育館(18:00)
◆NOAH/北海道・札幌STVスピカ(17:00)
◆みちのく/宮城・仙台港ビジネスサポートセンターアクセル(18:30)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆WMF/東京・新木場1stRING(19:00)
◆Beginning実行委員会/東京・新木場1stRING(12:00)

25 SUN.

ボブ・サップにケロロ軍曹も参戦!
インリン様&ボノが母子タッグ結成!!



『ハッスル・マニア2007』
神奈川・横浜アリーナ(17:00)

決定対戦カード
インリン様&モンスター・ボノ vs 天龍源一郎&RG

チケット料金
ハッスルVIP=20,000円、RRS=10,000円、花道シート=10,000円、S=5,000円、ケロロ軍曹応援シート=4,000円、A=3,000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆新日本/京都・京都市体育館(16:00)
◆NOAH/北海道・札幌STVスピカ(16:00)
◆DRAGON GATE/大阪・大阪府立体育会館(16:00)
◆みちのく/新潟・新潟フェイズ(15:00)
◆大阪プロ/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆ソウルコネクション/東京・新宿FACE(19:00)
◆フーテンプロ/神奈川・ラゾーナ川崎(17:00)
◆HEAT/愛知・名古屋国際会議所イベントホール(15:00)
◆格闘王国/東京・新宿FACE(15:00)
◆R.I.S.E./東京・ゴールドジムサウス東京アネックス(17:30)
◆JWP/東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
◆NEO/東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
◆LLPW/山梨・小瀬武道館(14:00)
◆WAVE/東京・新木場1stRING(18:00)

26 MON.

◆全日本/山形・鶴岡市藤島体育館(18:30)
◆大日本/東京・後楽園ホール(19:00)

27 TUE.

◆全日本/新潟・長岡厚生会館(18:30)
◆ZERO1・MAX/福島・いわき市立平体育館(18:30)
◆DDT/東京・後楽園ホール(19:00)

28 WED.

◆全日本/富山・富山産業展示館テクノホール(18:30)
◆NOAH/宮城・Zepp Sendai(19:00)
◆パンクラス/東京・後楽園ホール(18:30)

29 THU.

◆ミスター雁之助自主興行/東京・新木場1stRING(19:30)
◆VKF/大阪・アゼリア大正(19:00)

30 FRI.

◆全日本/千葉・千葉公園体育館(18:30)
◆NOAH/山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
◆ZERO1・MAX/宮城・仙台市新田東総合運動場(18:30)
◆666/東京・新木場1stRING(20:00)
◆シュートボクシング/東京・後楽園ホール(未定)

12 Fight & Event December

1 SAT.

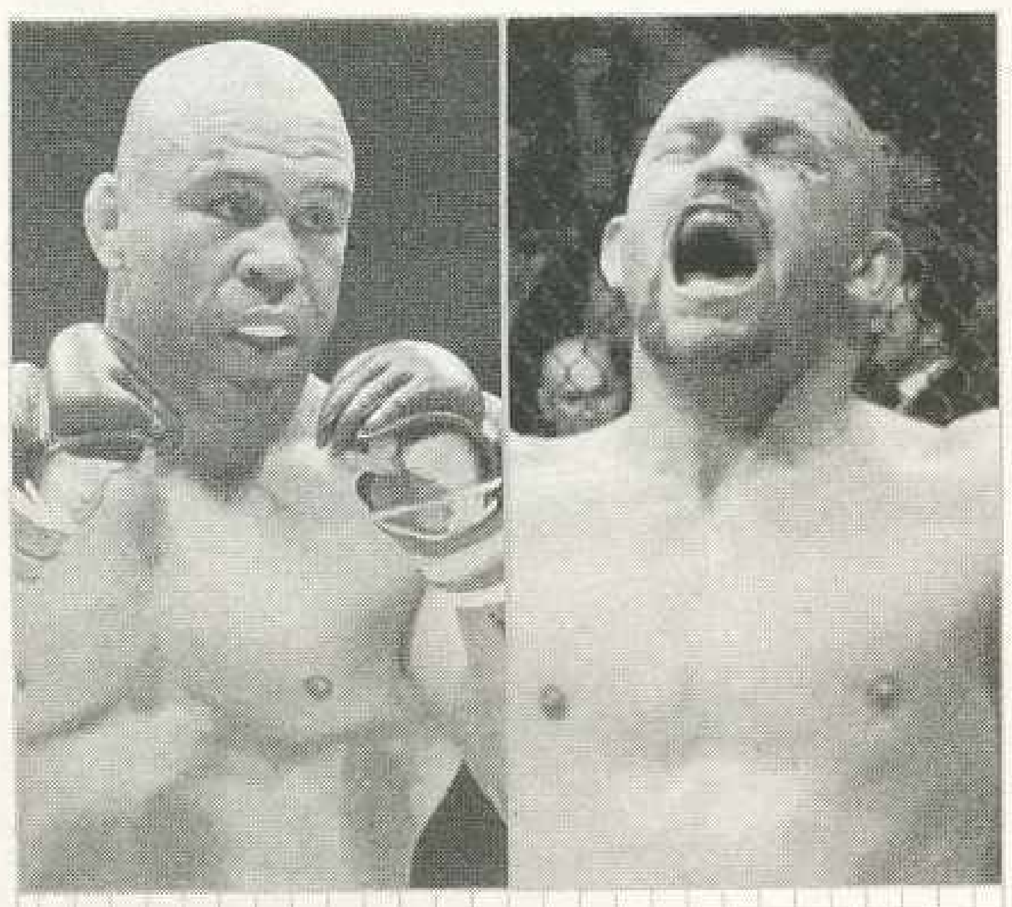
◆全日本/静岡・浜松市体育館(18:00)

28 FRI.

◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大日本／神奈川・ラゾーナ川崎（18:30）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（18:30）

29 SAT.

ヴァンダレイついにUFC再登場!
リデルとの因縁対決がついに実現!!



『UFC79 NEMESIS』
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター

決定対戦カード
ヴァンダレイ・シウバ vs チャック・リデル
【UFCウェルター級タイトルマッチ】
マット・セラ（王者） vs マット・ヒューズ（挑戦者）

◆大日本／神奈川・ラゾーナ川崎（18:00）
◆El Dorado／東京・後楽園ホール（19:00）
◆WMF／東京・新木場1stRING（未定）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（19:00）

30 SUN.

◆DDT／東京・後楽園ホール（19:00）

31 MON.

現役復帰の船木がサクと対決!
"魔王"秋山は日本再起戦へ!?



『K-1PREMIUM 2007 Dynamite!!』
大阪・京セラドーム（15:00）

決定対戦カード
桜庭和志 vs 船木誠勝

チケット料金
SRS＝32,000円、RS＝22,000円、SS＝18,000円、S＝12,000円、A＝6,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

◆ハッスル／埼玉・さいたまスーパーアリーナ（13:00）
◆プロレスサミット／東京・後楽園ホール（20:00）
◆VKF／大阪・アゼリア大正（未定）
◆JWP／東京・後楽園ホール（12:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆新日本／大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
◆DRAGON GATE／香川・高松シンボルタワー（18:00）
◆無我ワールド／群馬・グリーンドーム前橋（18:30）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆修斗／東京・新宿FACE（18:00）

9 SUN.

◆新日本／愛知・愛知県体育館（18:00）
◆全日本／大阪・大阪府立体育会館（16:00）
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋国際会議場（17:00）
◆DDT／新潟・新潟フェイズ（18:00）
◆DEEP／石川・石川県産業展示館（未定）
◆新日本キック／東京・後楽園ホール（未定）
◆JWP／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（18:00）
◆大向美智子自主興行／東京・新宿FACE（18:00）

13 THU.

◆無我ワールド／東京・後楽園ホール（18:30）

14 FRI.

◆DRAGON GATE／山口・シーモール下関（18:30）
◆大日本／神奈川・横浜文化体育館（18:30）
◆LLPW／東京・後楽園ホール（19:00）

15 SAT.

◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）

16 SUN.

◆DRAGON GATE／兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
◆大阪プロ／東京・新宿FACE（13:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（16:00）
◆フーテンプロ／神奈川・ラゾーナ川崎（17:00）
◆R.I.S.E.／東京・ディファ有明（未定）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（18:00）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（17:00）

17 MON.

◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

20 THU.

◆IGF／東京・有明コロシアム（19:00）
◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール（18:30）

22 SAT.

◆DRAGON GATE／岐阜・岐阜商工会議所（18:30）
◆パンクラス／東京・ディファ有明（16:00）
◆DEEP／大阪・梅田ステラホール（16:00&18:00）
◆風香祭り／東京・新木場1stRING（18:00）

23 SUN.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・サンボーホール（17:00）
◆みちのく／東京・後楽園ホール（12:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（未定）
◆SWAT!／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス（16:00）
◆WAVE／大阪・デルフィンアリーナ（17:00）

24 MON.

◆新日本／東京・後楽園ホール（12:30）
◆ZERO-SUN／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（18:00）

25 TUE.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（未定）

26 WED.

◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）
◆R.I.S.E.／東京・ディファ有明（未定）
◆スマックガール／東京・後楽園ホール（未定）

27 THU.

◆大日本／神奈川・ラゾーナ川崎（18:30）

◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（18:30）
◆K-DOJO／東京・新宿FACE（18:30）
◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明（17:00）

2 SUN.

◆新日本／神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館（18:00）
◆全日本／三重・四日市オーストラリア記念館（16:00）
◆NOAH／東京・日本武道館（17:00）
◆ZERO-SUN／埼玉・桂スタジオ（16:00）
◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（14:00）
◆大阪プロ／大阪・IPMホール（15:00）
◆El Dorado／東京・新木場1stRING（18:00）
◆DEEP／東京・新宿FACE（13:30&17:00）

3 MON.

◆全日本／愛知・名古屋国際会議場（18:30）
◆無我ワールド／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）

4 TUE.

◆ZERO1・MAX／愛知・豊橋市総合体育館（19:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

5 WED.

◆新日本／高知・ウェルサンピア高知（18:30）
◆ZERO1・MAX／東京・小松川さくらホール（18:30）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

6 THU.

◆新日本／愛媛・テクスポート今治（18:30）
◆全日本／広島・グリーンアリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／神奈川・小田原アリーナ（18:30）

7 FRI.

◆新日本／徳島・徳島市立体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆全日本キック／東京・後楽園ホール（18:30）

8 SAT.

"巨人"シュルト3連覇なるか!?
2007年K－1の頂点に立つのは誰だ!?



『K-1 WORLD GP 2007 FINAL』
神奈川・横浜アリーナ（17:00）

決定対戦カード
【決勝トーナメント】
ジェロム・レ・バンナ vs チェ・ホンマン
セーム・シュルト vs グラウベ・フェイトーザ
バダ・ハリ vs レミー・ボンヤスキー
ピーター・アーツ vs 澤屋敷純一
【リザーブファイト】
マイティ・モー vs ハリッド"ディ・ファウスト"
【スーパーファイト】
武蔵 vs ソーレイマン・コナテ

チケット料金
SRS＝35,000円、RS＝22,000円、S＝13,000円、A＝6,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

Seminar
気がつけば25回目！『VIVA JUDO!』が11.23に開催！



なんと、早くも通算で25回目！ 吉田道場主催の小学生対象の柔道教室『VIVA JUDO!』が、11月23日（金・祝）に東京・世田谷の講道学舎（13時～）で開催！ 今回も吉田秀彦、瀧本誠、中村和裕など吉田道場のプロ選手が講師を務める。参加費は無料ながら定員は100名。自分の子どもの心と身体を強く鍛えたいアナタ、申し込みはお早めに！

★問／株式会社ジェイロック　03-5485-5555
★HP／http://j-rock.jp/pc/vivajudo/index.html

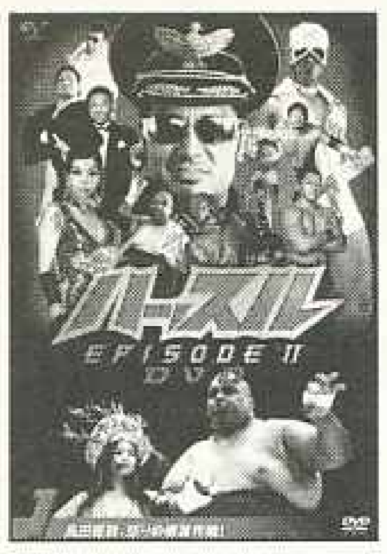
Gym
金ちゃんが道場をオープン！『RINGS金原道場』いよいよスタート！



本誌連載コラムでもおなじみの金ちゃんこと、金原弘光が指導者にドンっと就任！ 自らコーチする道場『RINGS金原道場』が10月28日にゴールドジムウェスト東京内でスタート！ 現在、金原道場では会員を募集中。練習時間は金曜20時～22時と、日曜12時～14時の週2回。入会費と月会費はそれぞれ10,500円。だが、11月中に入会すれば入会金無料！ 金ちゃんの直接指導を受けたい人は、金原道場にGO！

★問／ゴールドジムウェスト東京　03-5318-7351

Dvd
ハッスル劇場を復習したまえ！『ハッスル』新作DVDがいよいよ発売！



念願の地上波放送も始まり、年間最大のイベント『ハッスル・マニア2007』に向けて加速中の『ハッスル』の新作DVD『EPISODE II DVD1』が11月28日（水）に発売される。高田総統の『ハッスル』買収から幕を開けた07年の新生ハッスルを、5月9日の『ハッスル・ハウスvol.24』まで完全収録。まだ地上波でしか観たことのない諸君も、このDVDを観てハッスル劇場を復習したまえ！

★「ハッスル EPISODE II DVD1」（エンターブレイン）5,040円（税込）11月28日発売
★HP／http://enterbrain.co.jp

Event
野良犬が長野で一夜復活!? 小林聡が『野良犬祭り』エキシビションに出場！



2006年12月を最後に現役引退し、現在は全日本キックGMとして絶賛活躍中の小林聡が、11月24日（土）故郷・長野のサンパルテ山王でイベント『野良犬祭り』（18時～）を開催。プロレスやキック、キッズ空手に加えて、なんと小林自身もエキシビジョンで一夜限りの復活をはたす！ ディナーショー形式のため予約のみの受付となるが、現時点で料金は未定のため、詳細は下記の連絡先で要確認！

★問／サンパルテ山王　026-228-3011

Dvd
せきしろ氏の"妄想文学"ドラマ『去年ルノアールで』DVD-BOX発売中！



本誌連載コラム『サムライシロー三昧』も好評、せきしろ氏の同名エッセイ集をドラマ化した『去年ルノアールで DVD-BOX～深煎り妄想セット～』が好評発売中。喫茶室『ルノアール』に通う"私"が店員やお客の様子を観察するシュールで脱力系なこのドラマ。テレビ東京で放送されたものに加え、未放送の4話も含む全16話をディレクターズカット版で完全収録！ 君もこの無気力ドラマで異次元世界に没入しよう。

★「去年ルノアールで DVD-BOX～深煎り妄想セット～」（JVCエンタテインメント）2枚組　7,980円（税込）　発売中

Dvd
"王者"たちの新日本列伝 35周年DVD第2弾『王者の系譜』発売中！



新日本プロレス創立35周年記念DVDシリーズの第2弾は『王者の系譜』と題して、歴代王者のベルトをめぐる闘いを大特集。"昭和の巌流島"と呼ばれた74年の猪木vsストロング小林のNWF戦をはじめ、"我らがドラゴン"藤波辰巳（現・辰爾）、初代タイガーのWWF＆NWAジュニアから、IWGPのヘビー、タッグ、ジュニアの数々の激闘をあますところなく収録！ プロレス黄金時代の熱気がここにある！

★「新日本プロレス35周年DVD 王者の系譜」（エイベックス・マーケティング）7,140円（税込）　発売中

Fight
今年も大晦日にやれんのか？『プロレスサミット』の12.31開催が決定！



昨年の大晦日、東京ドームでジャニーズ軍団がカウントダウンするのを尻目に後楽園ホールで開催。異様な盛り上がりを見せたインディー・サミットが『プロレスサミット in 後楽園～カウントダウンプロレス～』として、今年も大晦日に開催決定！ 『Dynamite!!』での船木誠勝復帰の向こうを張って(!?)鈴木みのるの参戦も決定！ 蛍光灯デスマッチも決定など、見どころ充分の大会になりそうだ。

★HP／http://players.tv/summit/

Event
酒と訛りと笑いと涙!! グレート小鹿のトーク＆食事会開催！

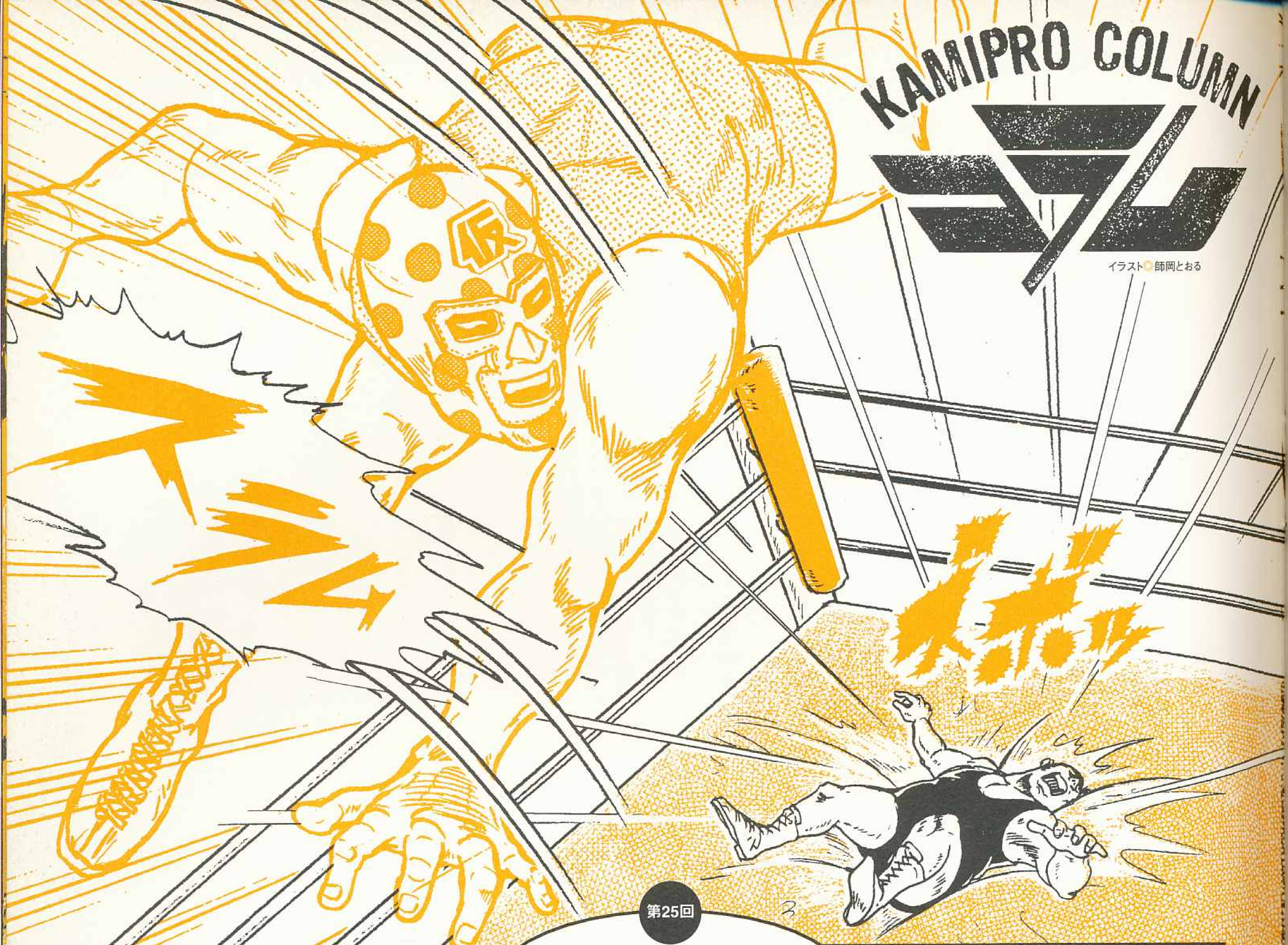


"古きよき昭和を知る男"、あの大日本プロレス代表取締役社長・グレート小鹿を囲む食事会＆トークイベント『グレート小鹿の3丁目トークショー・昭和の夕べ～酒と訛りと笑いと涙～』が11月24日（土）横浜・居食酒屋海坊主（17時～）で開催！ 参加料金は4,200円で飲み放題にコースメニューつき。小鹿社長のハートウォーミングなトークに酔いしれよう！

★問／大日本プロレス　045-314-5977

KAMIPRO COLUMN コラム

イラスト◎師岡とおる



第25回

～残念な10月～ 諸悪の根源はTBS

花くまゆうさく **リングの汁**

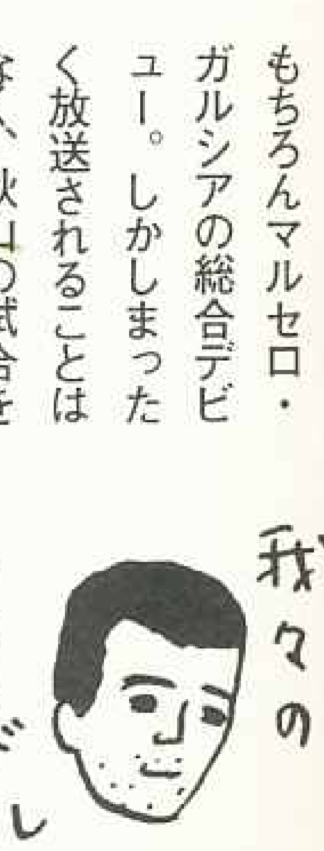
亀田問題で真っ先に目に付いたのは、亀田家のガードマンしてるホイッスル渡辺さんの姿だ。内藤戦で敗北し、さっさとリングを降りて帰る亀田陣営を誘導し、テレビフレームにバッチリいい位置で入ってる渡辺さん。朝から生中継で協栄ジムへ会見に行く亀田長男の誘導でもバッチリ映っていた。

そんなホイッスル渡辺さんの姿を観るたんびに、脳裏に浮かんでくるのが彼の名言〝豆ブラシ〟だ。整備会社の人として『浅ヤン』(『浅草橋ヤング洋品店』テレビ東京系)に出演し、浅草キッドにいじられて人気キャラとなり、キッドのラジオなどでおもしろ発言を残してきたが、中でも永遠に残る彼の下品な発言が〝豆ブラシ〟。

鼻と口のあいだに伸ばすヒゲ、これを渡辺さん流の隠語では、なんと呼んでいるのか？　その問いに嬉しそうに「豆ブラシ」と答える渡辺さん。過去ラジオで鶴光などさまざまなプロの方たちが、下品なおもしろ発言をしてきたが、この渡辺発言が一番おもしろくて心の底からふき出して笑った。アマチュアの強さ、路上の強さ、シンプルな下品の強さに感銘を受けました。

そんな亀田問題の諸悪の根源であるTBSで、深夜『HERO'S』を観た。目当てはもちろんマルセロ・ガルシアの総合デビュー。しかしまったく放送されることはなく、秋山の試合を二回も見せられるというイヤがらせを深夜に受けてしまった。

以下『HERO'S』の感想。テレビ向きキャラとしていい待遇にいる美濃輪だが、秋山（賢治）や佐々木（有生）と闘っていたパンクラス時代のほうが試合はおもしろかった。得体の知れない底力を発揮してたし。いま「ミノワマン最高～。おもしれ～」と喜んでいる人は、あの頃の試合知らなそうだね。



柴田は、WK（和術慧舟會）やパンクラスの日本人などシビアでリアルな相手と闘ってほしい。

ニュートンが体型もファイトスタイルもすっかり別人になっていて悲しい。

打ち合いばかりの大味な試合ばかりの中、寝技を見せてくれたユン・ドンシクとポアイ菅沼は好印象。しかしキャリア10戦もあるポアイのことを、「まだキャリア10戦そこそこですよね」と意味不明な説明するアナは、どうかと思った。

勝ってはしゃぎまくる秋山のイヤがらせ映像をTBSに見せつけられて、なんともいえぬ夜をすごし、翌日ネットで『スポナビ』見るとガルシアはカットされてKO負けという衝撃の結果!!　しょんぼり。

そして亀田問題は、井口（成人）レポーターのマヌケな質問（「お父さんのどんなとこが好きですか？」）などによって興毅株が上がってしまいTBSニンマリの流れ。これで今後もTBSは亀田＆秋山をバックアップしていくのかと思う残念な10月でした。



Hanakuma Yusaku
◎12月20日ライブで初バンドと紙芝居します。

リング上からプライベートまで！
"なんでもあり"の質問コーナー

第10回
所英男のトコロ天国



本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

聞き手／松下ミワ

――さて、今日は『ZST15』への出場が発表された所さんにお越しいただきました！

所 はい！　よろしくお願いします!!

――試合前に恐縮ですが、今日は「食」に関するお悩みが届いております！

所 （目を細めて）あー。なんか、いつものパターンからして、また時事ネタが来てるんですか？　それだったらだいたい質問が想像できる感じがするんですけど……。

――ええっと、ま、とりあえず質問を見てみましょう～。それではスタート！

衛生管理に関する質問

岡山県・おみやげマニアさん・24歳・学生

私はおみやげマニアの女子大生です。とくに各地の名菓が好きなのですが、私の中でトップ5に必ず入っていた「赤福」と「白い恋人」が食べられなくなってしまいました。個人的には賞味期限切れでもいいので食べたいのですが、残念な事態になっている最近の食の衛生管理をどう思いますか？

――予想どおり、時事ネタでしたねえ～（白々しく）。

所 やっぱり。でもお菓子って、わりと賞味期限が切れてても大丈夫じゃないですか？

――おっ！　所さんは賞味期限はあまり気にしないタイプですか。

所 赤福はちょっと怖いですけど、白い恋人は全然食べられると思うんですよね。そこまで潔癖になんなくてもいいのかなって思うし。僕だったら、そんときの腹の減り具合で食べちゃいます！（キッパリ）。

――じつに清々しいですね（笑）。

所 でも、最近思うんですけど、安いお金で安全って買えないんだろうなって。

――ちゃんとしたものを食べるには多少お金を払わないとダメですか。

所 そう。お店とかでも、静かなお店に行きたかったらちょっと高いお店に行かないといけないし。

――へえ～。じゃあ、最近はそういう高いお店にも行ってる、と。ちなみに、どのあたりを物色してるんですか？

所 「ちゃんこダイニング若」とかですね！

――あ、いま話題のっ!!

所 でも、ちゃんこ屋って閉まるのが早いんですよお。昨日も緑が丘（都内）のちゃんこ屋に行こうと思ったら、22時にラストオーダーだったし。遅くまで開いてる店があったら確実に入り浸ってるんですけどねえ。

――なんでそんなにちゃんこにハマってるんですか（笑）。

所 どっかないかなあ～。

――えー、どなたか深夜営業のちゃんこ屋情報をお持ちの方は、ぜひ所さんにご一報お願いします（笑）。



「白い恋人」「赤福」に始まり、続々と不祥事が発覚する食品業界。名菓とともに、それを愛する人々の笑顔まで消えてしまうのは、なんとも口惜しいかぎりである。

お金に関する質問

埼玉県・真田ヨシヒロさん・32歳・会社員

いま務めている会社に5つ年下の女性の先輩がいます。たまに二人で飲みに行く機会があるのですが、お会計のときにどっちがお金を出すかで、いつもへんな空気になります。先輩ではありますが、5つも年下の女性にお金を出させるのはどうかと考えてしまうのと同時に、先輩を差し置いてお会計をするのも戸惑ってしまうのです。こういう場合、所さんだったらどうしますか？

――質問者が32歳だから、27歳の女性の先輩がいるということですよね。

所 ボクが格闘技やめて社会に出たらそういうことですよね。

――そうですけど、なんでそんなこと考えてるんですか！（笑）。

所 （無視して）まあボクだったら、会社の先輩でも自分が年上だったら払うと思いますよ。少なくとも平成生まれにおごってもらうわけにはいかないし。

――それは気が引けますね。でも、こういう場合に限らず、お会計って難しいですよね。たとえば合コンとかだとどうですか？

所 あー、（一瞬考えて）あれってなんで男が多く払うんですかね？　あれは凄く不思議なんですけど……。

――確かに不思議ですよねえ～。

所 同じだけ飲むんだし、むしろ女の子はチヤホヤしてもらえるじゃないですか！

――所さんもチヤホヤしてもらったらいいじゃないですか。せっかくそういう場なんだし。

所 ボクなんか全然チヤホヤされませんよ！　むしろ気持ち悪がられます……（寂しそうに）。

――ワハハハハ！　いつも会場で黄色い声援をもらってる人が、なぜ気持ち悪がられてるんですか（笑）。

所 ま、でもこの人の場合は合コンじゃないんで、払ったほうがいいんじゃないかと思いますけどね。

――なるほど。

所 最悪、割り勘で。相手が「払います」って言ったら「年上なんで払いますよ」って言って、「払います」「いや払います」で、最終的には割り勘になるだろうし（遠い目で）。

――そうですか（笑）。では、結果はどうなるにせよ、ひとまず「払いますよ」と言いましょう！　ってことで。

家族に関する質問

神奈川県・塚本翼さん・5歳・幼稚園生

僕は3人兄弟の一番下です。一番上の兄ちゃんが10歳、2番目の姉ちゃんが7歳です。ウチでは夕ご飯のあとに、たまにデザートが出てくることがあるのですが、いつも兄ちゃんと姉ちゃんに先に食べられてしまい、僕は少ししか食べられません。所さんも兄弟の一番下だと聞きましたが、僕みたいに兄ちゃんたちに先に食べられてしまうというような目に遭ったことはありますか？

所 あー、ボクは「あとで食べよう」と思って冷蔵庫に入れておいたものを、勝手に食べられたことは何度かありますね。だから、いまだに買ったらすぐに食べるっていう習慣はあります。

――このコもきっと悔しいんでしょうね。

所 だから、これはもう親がデザートを準備している段階で、「残しておいて」とか言ったほうがいいんじゃないですか？　根回しですよね、要は！

――5歳から根回しを覚えますか（笑）。

所 でも、それは一番年下の特権ですからねえ。三男の道というか。

――そうか、所さんも3人兄弟の末っ子ですよね。でも、所さんは以前年下の兄弟がほしいって言われてませんでしたっけ？

所 ほしい！　だってボク、兄ちゃんたちに「○○買ってきて」って言われるのが凄く嫌だったんですよ!!

――そんなこと言われてましたか。

所 だから、ボクも年下に言いたかったです！（真剣に）。

――ワハハハ！　でも、いまだったらジムの後輩に言えたりするんじゃないですか？

所 そう！　だから、ボクもベテラン選手になってきたのでもっと下のコたちを使っていいと思うんですよ。

――じゃあ、やってみましょうよ！（笑）。

所 でも、できないんです……。奥出（雅之）くんとかも全然使ったりしないし。逆に太田（裕之）さんとかに「○○買ってきて」とかは言いますけどね！

――完全に何かが逆転してますね（笑）。

所 まあ、これが末っ子の生きる道なんですかねえ～。

――えー、ハガキをくれた翼クンも、末っ子という運命を受け入れてたくましく生きてください！

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/ 【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部 トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第20回

私だけが知っている大変身前のヒース・ヒーリング

"オランダのハリケーン"ギルバート・アイブルが、10・28シュートボクシング両国大会に来日。SBルールで桜木裕司選手と対戦し、1ラウンドでKO。見事に勝利を飾りました。

アイブルの来日は、今年4月の『PRIDE・34』以来になりますが、マニアのファンならご存知のとおり、リングスを主戦場としていたアイブルの『PRIDE』移籍は、マット界に大きな波紋を巻き起こしたものです。仲介した私もたいへんな目に遭いました（笑）。

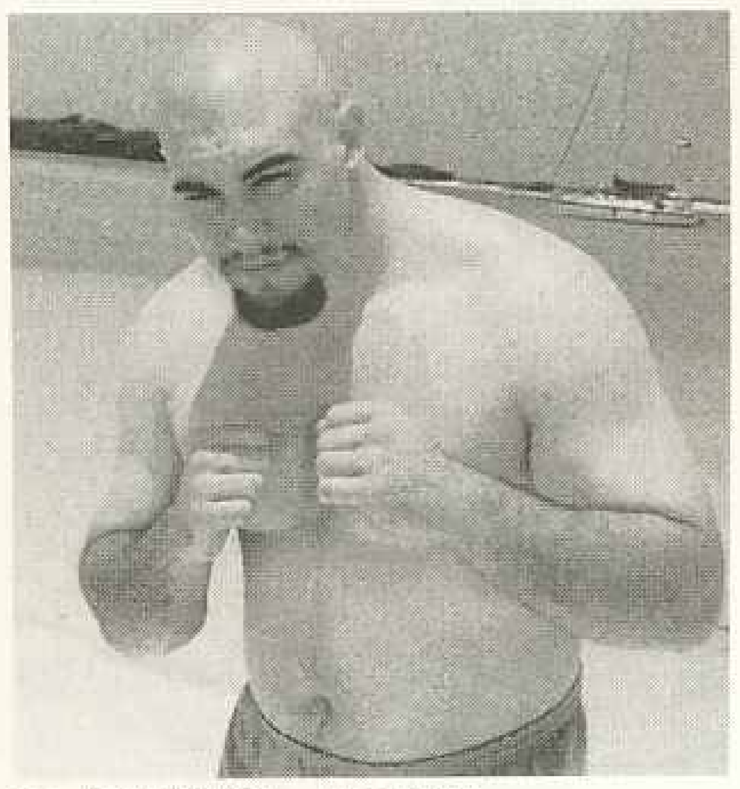
アイブルがリングスから『PRIDE』に移籍したのは2000年の5月ことです。田村潔司選手を下してリングス無差別級王座に就いたばかりの緊急アクションでした。もともとアイブルは日本でもまだ知られてないときに、アグッレスブな選手として『PRIDE』に売りこまれたことがあったんですが、そのときはノーネームで使ってもらえなかったのは残念に思っていました。

『PRIDE』移籍時、アイブルのマネージャーを務めていたのは、ロン・ニクエイストという人物。彼の素性はオランダの"顔役"で、現在は刑務所に服役中。理由？　大きな声では言えませんが、マシンガンで双子のビジネスパートナーをぶっ放したからです……。彼は刑務所内から海外にも電話連絡が可能なそうですから、その"実力"はおわかりでしょう。

そんな人物から「アイブルを『PRIDE』に出してくれ」という売り込みが再三にわたってありました。私は何回も断わりましたが、その代わりロンがマネージメントしているヒーリングに目をつけました。でも、当時のヒーリングはいまからでは想像もつかない冴えない風貌。坊主頭にデブで、ヒゲ面で、レスリング吊りパンツ。彼の潜在能力を見抜いた私は「『PRIDE』に出たいのなら、痩せて、ヒゲを剃って、髪の毛を伸ばして、パンツを変えてから」とアドバイス。それから3ヵ月後、彼は私の要望どおり変身した姿を写真に撮って郵送してきました。

こうしてヒーリングの『PRIDE』参戦は決定的になりましたが、ロンはここぞとばかりにアイブルとヒーリングのセット参戦を持ちこんできました。私もどうにも断りきれなくて、DSEに相談したのですが、契約してくれとのこと。それを境にアイブルの話も即行で進行。二人の『PRIDE』初参戦は、同じ『PRIDE・9』だったのはそのためなんです。

アイブルはイマイチ結果が残せませんでしたが、ヒーリングの活躍ご存知のとおり。とにかく、ヒーリングの変身によって、アイブルの人生は変わったと言えなくもないのです。



これが変身前のヒーリングだ!!

10月28日から、いよいよ東京・中野のゴールドジム・ウェスト東京で『リングス金原道場』がスタートしました。

俺にとっては初めて一般の人たちを教える格闘技道場。いったいどんな人が来るのか、それよりホントに人が集まってくれるのか、やる前は心配だったんだけど、初日は無料体験デーにしたこともあって、おかげさまでスペースがキツキツになるぐらい、たくさんの人が来てくれて、嬉しかったよ。

ただ、そこから何人、入会してくれるかわからないからね。指導が終わった帰りに、同じゴールドジムでキックボクシングを教えている人に話を聞いたらさ、「ボクがほかのところで無料体験やったら60人ぐらい集まったけど、入会者はゼロでした」とか言ってたからさ（笑）。ジム経営は大変なんだなって、あらためて思ったよ。

俺、全然知らなかったんだけど、いろんな人に「なんで中野にしたんですか？　中野は格闘技の道場だらけですよ。この近辺で格闘技やりたい人は、もうどこかしらのジムに入ってます。ここからさらにジム生を集めるのは無理ですよ」とか言われちゃってさ（笑）。東京って、格闘技の道場がホントにたくさんあるって、今回あらためて知って驚いたよ。

俺がプロレスラーを目指してた頃なんて、総合格闘技を教えてくれる道場なんてスーパータイガージムぐらいしかなかったからね。佐山さんが一番厳しくて、スパルタで有名だった時代だよ（笑）。

いまはあんな厳しい道場なんてできないだろうね。今回、格闘技道場を始める前に、先輩であり、道場の経営者でもある宮戸さんと食事したんだけど、「ジム生が教えたことをできなくても、絶対に怒鳴るなよ」とか「足の運動（スクワット）でもいまの人間は50回ぐらいしかできないんだから。おまえらの若いときみたいに2000回とかやらせるんじゃないぞ」とか、いろいろ言われたよ。「足の運動、何千回もやらせたのあなたじゃないですか」って言いたかったけどね（笑）。

でも実際、無料体験に来てくれた人たちは、予想以上に運動ができないんだよね。グラウンドやる前に、マット運動の基本の動きとしてヒザで歩いたり、アヒル歩きするのもできないし、側転もできない人が多かったから、これは大変だなぁ、と思ったよ。技を覚えるのがおもしろいだろうなと思って、スリーパーやアキレス腱固め、腕ひしぎ十字固めなんかも教えたんだけど、何回やってみせてもわからないんだよね。これが新弟子だったら、ひっぱたいてるんだけど、そういうわけにもいかないからね（笑）。何度も「なんでできないの!?」って言いそうなところをグッとこらえてたりして。でも、2回、3回とやるうちにできるようになるから、それが嬉しいけどね。

ジムに来てくれた人が体力的に追いつかないのは、年齢層が高いってこともあるんだよ。もっと若い人が来るのかと思ったら、ほとんどが30歳以上だったからね。やっぱりUWFファン、リングスファンってだいたい30代から40代前半なんだよね。まあ、来てくれる人はみんなありがたいよ。

いずれにしても、『リングス金原道場』がオープンということで、「リングス」の名前がわずかながら復活ですよ。まあ、小さな一歩でしかないのは確かだけどね。ホントに小さな一歩だよ。だって、集まってくれた人が側転できないんだもん（笑）。ここから「世界最強の男はリングスが決める！」って言えるようになるまでには、長い長い道のりだよ。

このコラムを読んで『リングス金原道場』に興味を持った方は、120ページに詳しい連絡先が載っているので、ぜひご連絡ください！



金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

第18回　金原道場オープンの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

せき詩郎の
サムライ三昧

シロー

第19回

大沢啓二は屋上にいた

大沢啓二は屋上にいた。

　昼休みはもうすぐ終わる。数分後にはチャイムの音が授業の開始を告げることだろう。だが大沢は教室に戻ろうとは思っていなかった。屋上で寝転びながら授業をさぼり、気ままな時間を過ごそうと思っていたのだ。それは今日始まったことではなく、何かしらの妨害がない限り、大沢はいつもそうしていた。

　授業は退屈だった。特に午後の授業はその極みだ。教師の話し声など子守唄に過ぎない。どうせ教室にいても寝てしまう。ならばここでこのまま寝ていても同じだ。不自由な学校の中で、この屋上が、唯一大沢が自由を感じる場所だった。

　大沢はだらしなくボタンが開けっ放しの学生服の内ポケットに手を伸ばす。中から出てきたのはヨレヨレになったソフトケースの煙草。大沢は一本取り出し、口に咥える。ライターがないことに気づき、上半身を起こして学生服のほかのポケットを叩くように探す。続いてタックが2つ入った学生ズボンのポケットを叩く。固い感触を得て、ポケットに手を入れライターを取り出す。

　大沢は風を避けるようにライターに手をかざしながら火をつけ、炎の先を咥えたままの煙草の先に近づける。軽く息を吸い、最初の煙を吐き出しながら煙草に火がついたことを確認すると、大沢はまた寝転んだ。コンクリートの冷たさを背中に感じながら、空と煙草の煙を眺めていた。

　不意に何かの影で視界が暗くなる。続いて煙草を奪われる。

「何しやがるんだ！」

　大沢は強い口調で言い、上半身を起こして影の主を睨みつけた。そこにいたのは大沢と同じクラスの女子だった。

「なんだよ、また委員長かよ……」

　面倒臭そうに委員長の手から奪われた煙草を取り返そうとする。

　委員長は煙草を持った手を大沢から遠ざけ、『消火用』と書かれた赤いバケツの中に放り込んだ。

　大沢は「仕方ないな」みたいな表情をした。

「大沢君、煙草はダメって言ってるでしょ！」

　いつものように小言が始まった。

「いいじゃねーか、煙草くらい」

「ダメなの。未成年者の喫煙は法律で禁止されているんだから」

「誰かが決めた法律なんてしらねーよ」

「身体にもよくないの。身体にも喝なの」

「俺の身体なんだから、あっぱれか喝かなんて俺が決めるよ」

「ダメ！　煙草は喝。どうするの、大沢君が病気になったりしたら」

「おせっかい野郎だな……」

　委員長が喝と言ったら喝。いままで何度もこのようなやり取りが行なわれたけど大沢が勝ったことはなかった。大沢はわざとらしく大げさにため息をつき、今回もまたしぶしぶ納得した。

「わかればよろしい！」と、同級生なのに年上っぽく委員長が満足げに言った。

「ところで、委員長。委員長はどうして俺におせっかいばかりやくんだ？」

　大沢は日ごろから抱いていた疑問を何気なく口にした。

「どうしてって、それは……」

　委員長が口ごもった。若干、頬が赤く見えたのは太陽の光のせいだろうと大沢は思った。

「俺に話しかけてくる奴なんてほとんどいない。話しかけられるとしたら、上級生がケンカを売ってくるときくらいだ。なのに委員長はなぜ？」

「いいでしょ！　そんなことは！　うるさいわね！」

「何怒ってるんだよ。はは〜ん、もしかして委員長は俺にホの字だな。なんちゃってな！」

「な、な、何言ってるのよ！」

　大沢は冗談を言ったつもりだったのだが、委員長は怒り出した。

　次の瞬間、委員長の手が大沢の頬を張った。乾いた衝突音が屋上に響いた。

「もーっ、大沢君のバカ！　もう知らない！　大嫌いよ。大沢君なんて喝よ！　だい、だい、だい、だい、大喝なんだから！」

　そう言って走り去っていく委員長。

　授業開始を告げるチャイムが鳴り出した。大沢は委員長の後ろ姿を見ながら、いまさっき張られたばかりの頬をさすった。

「委員長のビンタ、なかなかあっぱれだったな……」

　見上げると、昨日よりもさらに高く感じられる秋空が広がっていた。委員長がなぜ怒ったのか、その理由がわからないまま、大沢は空を見上げ続けた……。

＊

　放課後の教室。乱暴にドアを開け、息を切らせながら大沢が入ってきた。ひとり教室で日誌を書いていた委員長は驚いた表情で大沢を見た。

「どうしたの大沢君？　そんな慌てて……」

　委員長の言葉を遮り大沢は話し出す。

「委員長、転校するんだって!?」

　委員長は落ち着いた手つきで日誌を閉じ、「そっか、ばれちゃったんだ」と呟き大沢に向かってうなずいた。

「うん……。明日の朝、出発するの」

「なんで黙ってたんだよ！　どうして転校なんかするんだよ！」

「ごめんなさい。家庭の事情で……。なかなか言い出せなくて……」

「なんだよ、家庭の事情って！　どうにかならないのかよ！」

　大沢はやり場のない怒りを教室の壁にぶつけた。大沢の拳と壁が鈍い音を奏でる。

「バカヤロー……バカヤローだよ……」

　委員長から目をそらし、唇を噛み締めながら大沢は呟いた。

「……ほら、でも、一生の別れってわけじゃないし、またいつか会えるわよ」と、場の雰囲気を少しでも変えようと委員長が明るく振る舞うが、大沢には届かない。

「バカヤロー！　喝だ、喝！　そんな喝野郎は転校でもしてしまえってんだ！　俺は絶対に見送りになんか行かないからな！」

　大沢の大声に何事かと集まった生徒たちをかき分け、大沢は教室を飛び出した。

＊

　次の日の朝。駅。ホームは見送りに来たクラスメイトでいっぱいだった。

「ありがとう」と、委員長はひとりひとりに礼を言いながらも、視線は大沢を探していた。しかし大沢の姿はない……。

　委員長は昨日のことを思い出す。

「バカヤロー！　俺は絶対に見送りになんか行かないからな！」との大沢の言葉。

「そうだよね。大沢君が来るわけないよね……。黙っていた私が悪いんだから。私が喝だったんだから。怒らせて当然だもんね……」

　やがてホームに鳴り響く発車ベルの音。ゆっくりと走り出す列車。流れ出す景色。

「さようなら、大沢君……」

　窓からの景色を見ながら呟いた。

　そのときだった。景色の中に誰かがいた。見覚えのあるシルエットがこっちに向かって大きく手を振っている。

「…………！」

　委員長は絶句した。それは大沢だったからだ。慌てて窓を開け、身を乗り出す。

「大沢君〜〜〜！」と、委員長がありったけの声を出す。

「委員長〜〜〜！　新しい学校でも頑張れよ！　いじめられて泣いたりするんじゃねーぞ。泣いたら『喝』だからな！」

　大きくうなずく委員長。

「俺は……俺はお前のことが……あっぱれだ！　大、大、大、あっぱれだーっ！」

　しかしその大沢の言葉は汽笛にかき消され……。

＊

　10月8日、両国国技館。

　かつて天山の付き人を務めていた後藤洋央紀が天山に勝利した。「天山越え」を成しえたわけである。

　天山が凱旋帰国し、次々と先輩レスラーを破っていったのが昨日のことのように思えるが、すでに遠い昔のことらしい。いつしか天山は若手ではなく、若手の目標になっていたようだ。

　ときは流れていたのだ。時代は変わっていたのだ。それを強烈に意識すればするほど、相変わらず時代とは無関係なことを書いている自分がむなしくなった。大沢親分に関する作り話など、時代のニーズにまったく応えてはいなかった。

　試合後、天山はこう言った。

「アホンダラ！　あー、クソ。最悪や、最悪。いまに見てろ、これで終わりちゃうぞ。ふざけんな、アホ！」

　アホから始まりアホで終わるコメント。天山にとってこの試合は「喝」だったことがわかる。だが、これは後藤への天山なりの祝福の言葉だったのかもしれない。

「アホンダラ！　あー、クソ。最悪や、最悪。いまに見てろ、これで終わりちゃうぞ。ふざけんな、アホ！……でも、あっぱれ！」

　無理矢理、大沢親分の話と結びつけたところで、今回のコラムは終わりだ。寝ます。

※前号は諸事情でお休みだったためか、今回届いたコラムは軽く300字オーバーの力作。多少読みづらいかもしれませんが、ご了承ください。

椎名基樹の サムライ三昧

第20回

40を目前にして

40を目前にして（来年の4月11日↑第一次UWFと同じ誕生日！）本格的に暇である。暇といえばここ15年余り、たいていは暇なのであるが、現在は数年ぶりの大閑波の真っ只中だ。

勤めに出る奥さんの帰りを、金麦と待ってる〜！　日々である。焦ると言えば、焦る。情けなくもなる。また昼夜も逆転した生活を送っている。それがさらに、無気力に拍車をかける。

しかし、こんな生活でも、観たいスポーツをテレビで追っているうち、一日がきっちりと、ときにはそれに追われるように過ぎていくから不思議だ。つーか困ったものだ。忙しくないのに忙しいとはこれ如何に？　べんべん。

そもそもWOWOWの平日朝方のリーガ・エスパニョーラ（サッカーのスペインリーグ）の生中継とかいったい誰が観ているのだろう？　筆者のような人間をテレビ画面の向こう側に想像して、シンパシーを勝手に覚える。サッカーのWOWOWのアナウンサーさん、よく勉強してるけど、ちょっと偉そうだよね？

と、まあ、サッカーと格闘技がこの無気力生活の基本なのである。この二つが夜中から朝方のテレビの王だ。たとえば、G＋（ジータス）では、ボクシング高校6冠で現日本フェザー級王者・粟生の防衛戦が印象に残っている。スウェーバックが凄くうまい。上体の動きだけで相手のパンチをかわしてしまう。でも、ひょっとしてパンチ力がないかも。かなり当てていたけど、倒れてくれない。

サムライTVでは、無我ワールドを電撃退団した西村の話題。吉江だけでなくあのヒロまで怒りを露わにしていたし（ヒロは控えめだったけどね）ヤスカクと呼んでちょんまげさんは、「西村は伽織夫人まで批判した」と穏やかな口調ながら厳しく糾弾。高木三四郎も、西村はよくインディーの選手は礼儀もできてないと批判したが、「この退団の仕方はなんだ！」と批判返し。ひさびさにプロレスのガチ部分を見た気がした。

このニュースを観て思い出したのが、去年お邪魔した、無我のBBQ大会in藤波メルヘン御殿。そー言われてみると、そのとき、西村は一人だけ大遅刻してきていたし、全然選手の輪に加わってなかった。無我のほのぼのメンバーから一人だけ浮いていた。だから、それがどーというワケではなく、外野としては無責任に「双方がんばれって」てなもんだが、高木三四郎が言っていた、理不尽なインディー選手の批判だけは、聞いてるほうも気分悪いね。

さて、今月のスポーツ観戦生活のメインイベントは、シュートボクシングのビッグイベント10・28『グラウンドゼロ』両国大会。これはザッピングで偶然観たワケではなく、何日か前から楽しみにしてチェックしていた。この大会はシーザー会長いわく、「垣根を越えてさまざまな団体から選手が出場すると、お客さんが喜ぶ。純粋にそれだけ」というコンセプトの大会だ。会長がそう言うだけあって、バリエーションに富んでいるし、夢のカードもあるし、何よりお祭り的で開放感があっておもしろい。中継を観て、つくづく観に行けばよかったと思った。

試合も最高だったが、何より全体を覆うそのシュートボクシング的世界観にモッテいかれる。まず大会名がたまらん。シュートボクシングは最大のイベント『S−cup』を観てもわかるように既存の単語を大会名に付けるのが好きなようだ（ダブル・クロスって大会名もあったよね）。〝エスカップ〟といえば、角田師範の軽やかな歌声が流れるCMでおなじみの栄養剤を、たいていの人が思い浮かべるだろう。〝グラウンドゼロ〟といえば9・11同時多発テロ跡地の名前である。さらに正式大会名は、『グラウンドゼロ・バトルサミット』。大会コンセプトからきてるだろうとはいえ、どことなく不謹慎ではないか。

エスカップもグラウンドゼロも、ほかの団体の大会名だったら、ちょっと首をかしげてしまうが、シュートボクシングだと「素敵だ！」と思うから不思議だ！

勝利者賞として贈られる、いまやおなじみとなった羽子板も素敵だ。とくに外国人選手が嬉しそうに羽子板を掲げてカメラマンに向かってポーズをとる姿は、いつも微笑ましい。この微笑ましさはリングス・メガバトルトーナメントの表彰式にもあったな（毎度、「前田結婚しろ〜」のヤジが飛ぶ）。

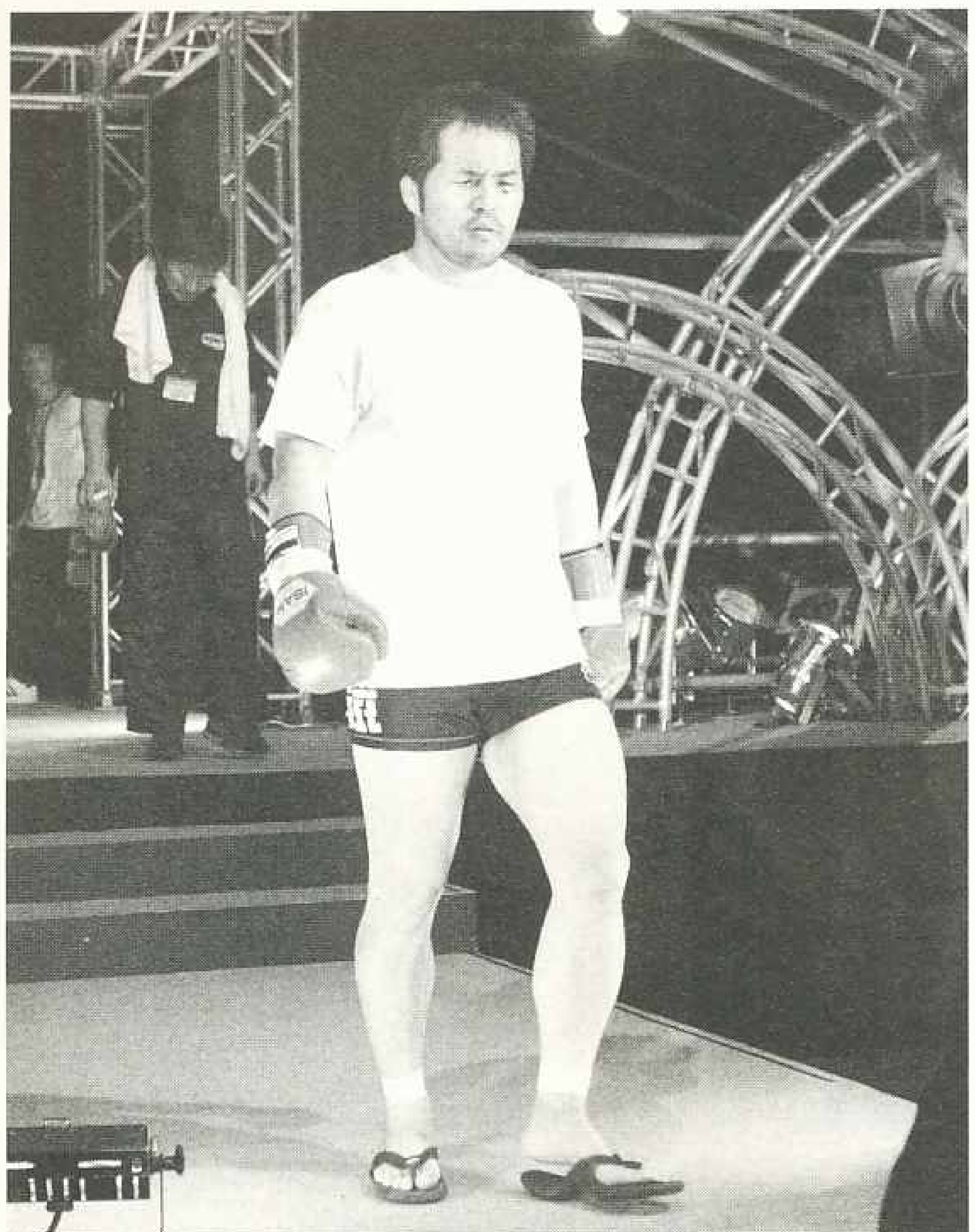
毎度気になって仕方がないのは、解説を務める吉鷹の髪型だ。いや、これは彼が現役の頃から気になっていた。サイドを極端に短くして、トップが長い、いわばスーパー・ソフト・モヒカンと言うべきあの髪型。なぜ吉鷹はあの髪型にこだわり続けるのだろう？

JSPORTSの中継番組では、おなじみになった、シーザー会長による芸人・三又イジメは、もはやお約束ギャグにまで昇華。三又の全身芸人ともいうべきあのダメダメな姿勢、芸風のグダグダぶり、大好物である。

そして、特筆すべきは、シュートボクシングのイメージギャルを務める矢吹春奈が良い！　〝ダサくてモテない君〟のプロレス・格闘技ファンは、少しでもプロレス・格闘技に理解を示してくれる女を、すぐに好きになってしまうものである。サムライの三田さんでさえ、好きになっちゃうのである。矢吹春奈は格闘技わかっているよ！　しかもあのボディだよ！　結婚してください！

余談ばかりになってしまったが、試合のほうも少しだけ。筆者が今回もっとも注目したのが、村浜の9年ぶりのシュートボクシング復帰。前にこのコラムで「前田日明はただの選手ではない論点だ」と書いたことがあったが、村浜もそういう種類の選手。試合内容はわりと平凡であったが、村浜を考えることは、プロレス、総合格闘技、立ち技格闘技を考えることだ。まあ、40にもなって仕事もしないでそんなこと考えてる場合ではないのですが。

あと、マッハが入場曲に『PRIDE』のテーマを使ったのがよかった。センスよいぞ！





撮影／丸山剛史

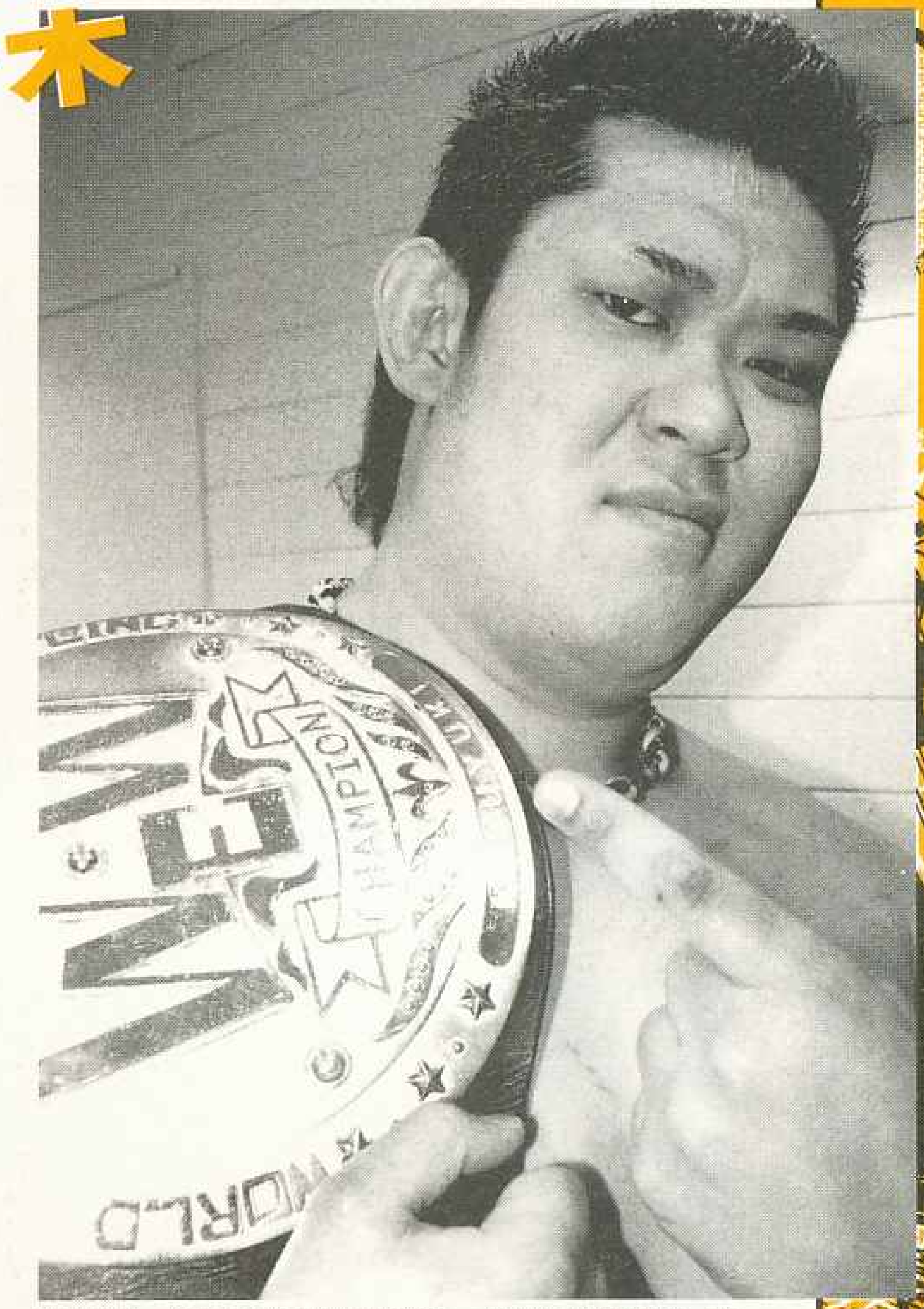
PRIDE消滅で試合から遠ざかっていたマッハがシュートボクシングに初参戦。入場時『PRIDE』のテーマを使用し、場内を沸かせたマッハは『HERO'S』参戦経験を持つヤニ・ラックスに完勝。一方、9年ぶりに古巣に登場となった村浜は石川剛司に完敗。

イナズマKのハードコアドージョー Special

インディー王は“極貧生活”経験者!?

曙、大仁田、天龍を支えた“付き人のプロ”!

マンモス佐々木



まんもす・ささき■1974年7月23日、大阪府大阪市出身。東関部屋所属の元大相撲力士と活躍していたが、相撲廃業後の97年にFMWに入団。FMW解散後はWMFに合流するも、05年からはアパッチプロレス軍のメンバーに。以降、メジャー団体の選手との対戦機会も増えており、今年9月のアパッチプロレスの後楽園大会では、新日本プロレスの矢野通からWEWヘビー級ベルトを見事に奪還するなど、活躍の幅を広げるインディー界きってのヘビー級戦士。188cm、125kg。

188センチ、125キロの巨体を誇るアパッチプロレス軍のマンモス佐々木。9月に新日本プロレスの矢野通からWEWヘビー級王座を奪還し、いまやインディー界を牽引する存在となった彼に今回は直撃だ。

ハードコア列伝1 曙の付き人時代は肉恐怖症!?

マンモスはプロレスラーになる前、相撲の東関部屋に所属していた。二年目で三段目に昇進する出世コースの実績を残していた彼は、大関から横綱へ突き進んでいた頃の曙の付き人も務めていたことがある。

現在、プロレスラーとして活躍する曙は、当時もプロレスは大好きで「よく水道橋の『チャンピオン』にWWF(現・WWE)のビデオを借りに行かされました(笑)」。

また「深夜2時にいきなり“まぐろ丼作れ!”」と無茶を言われたりもしたが、持ちまえの要領のよさでクリア。さらに「曙さんが優勝すると贈呈品が一年単位でくるので、肉の塊が業務用の冷蔵庫2台にパンパン(笑)。毎日、肉ばかりでしゃぶしゃぶも焼肉も大嫌いだった(笑)」と当時の贅沢な悩みを振り返る。

マンモスは、「ヒザのじん帯を切る大ケガを負って」相撲廃業を決め、そこで「自分が本当に好きなプロレスをやろう」と決意。もともと大仁田厚の熱狂的なファンだったマンモスはFMWの門を叩き、今度は大仁田の付き人を務める。

「先輩から“大仁田さんは大変だぞ”と言われて覚悟してたんですが、横綱で免疫ができてたので、そこまで大変ではなかったです」と重宝がられた様子。「ただ朝、起きてくれないのが大変で、起こしに行くと“うるせー、おまえも寝ろ!”って怒鳴られました(笑)」。また恵まれた身体とパワーで注目されたマンモスは、デビュー一年半ほどでハードコアタッグベルトを争ったりと充実した若手時代をすごす。

ハードコア列伝2 半年間収入ゼロの極貧時代!?

さらに、後期FMWではメインにも登場するようになるが、これからと思っていた矢先、当時のエースだったハヤブサがマンモスとの試合中に大ケガ……。やがて歯車が狂い始めたFMWは倒産!

失意のマンモスはその一週間後というタイミングで伝説の『PRIDE』の登竜門的大会の『THE BEST』で“最初で最後の”総合の試合も行なっている。

だが倒産ショックで充分な練習ができなかったマンモスは「失礼なくらいまったくやる気がなかった、自分の中で一番消したい試合です。家に帰ったら悔しさでワンワン泣きました」とつらい過去を語る。

さて解散後のFMWは、冬木弘道を中心としたWEWとミスター雁之助が中心のWMFに分裂、彼は「ハヤブサが帰ってくるリング」という理由でWMF入りを選択したものの、現在のマンモスのプロフィールには“FMW~○○(ホームレスの意)~アパッチ”とあるように、彼を待っていたのは過酷すぎる現実だった。

「“○○”は、金村(キンタロー)さんが勝手に書いたんですよ! でも旗揚げまで6ヵ月間収入もないし、ヒドいときは冷蔵庫にタマネギ1個、米の残りが3合、サイフに100円ってときもあった。団体が始まっても、翌月から給料止まってましたから(笑)」と極貧生活ぶりを告白。

WMF時代の彼の朝の日課は、「まず起きて、ビデオのカウンターが光ってるかを見るんです。次は水道をひねって、そしてコンロの火をつける」という“ライフラインの確認”だった。それでも「3年は辞めない」と決めていたマンモス。その理由は、「こっちを選んだ意地です(キッパリ)」と答える。なんとも男らしいじゃないか。

ハードコア列伝3 おもちゃ屋で生活費捻出!!

そんな過酷さを切り抜く術として、マンモスは大のフィギュア好きを活かし、一時期はおもちゃ屋『ガキ大将』を開いていた。

「WMFで食えないときに、おもちゃショップで働いて、買い取りのノウハウも学んで古物商の免許も取ったんです。大宮で小さな店舗を借りて自分で仕入れして。夕方5時に佐川急便が来るから、一人で朝からずっと梱包(笑)。これで生計を立ててたくらいです」。

そんなマンモスの心に、プロレスの光を灯したのは3人目の付き人を務めた、天龍源一郎との出会いだ。「天龍さんは僕が押しかけで付き人になった、と言われてますけど、じつは天龍さんの指名だったんです(笑)」とこの頃には付き人のプロ状態。

さらに「プロレス観も天龍さんと出会ってからだいぶ変わりました。天龍さんはレスリングの細かい部分や、どうやってお客を惹きつけるかってことも教えてくれた」と心酔ぶりを語る。

そしてWMF旗揚げから3年、晴れて金村キンタロー率いるアパッチプロレス軍に入団。そこからのマンモスは一転して活き活きとしたファイトを繰り広げていく。

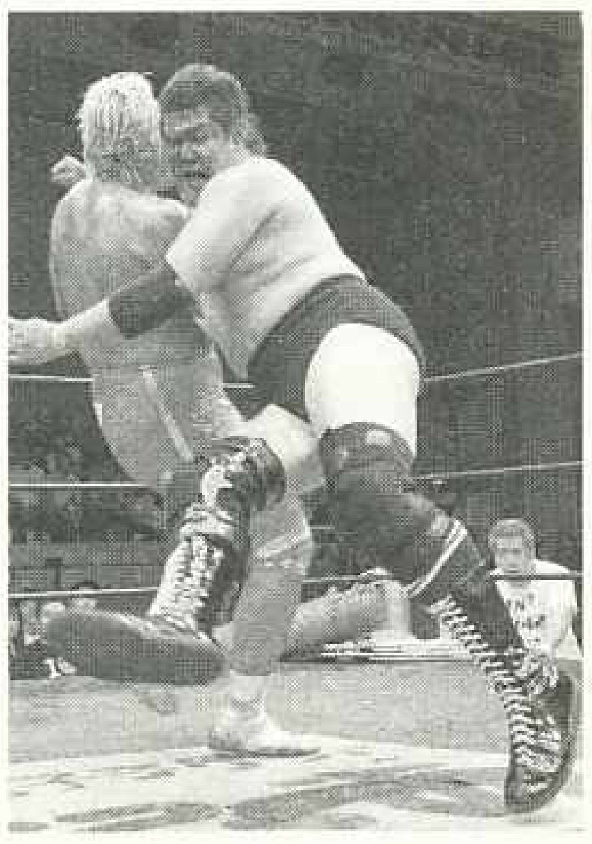
「金村さんと一緒にいると、ホント吹っ切れますよ。肝臓は痛みますけど(笑)」

そこからノアの森嶋猛、新日本プロレスの真壁刀義、全日本プロレスの小島聡などのメジャー選手とも対戦、マンモスの存在感はグングン上がっていく。

「いまの選手って、痩せマッチョみたいでカッコいいけど、僕はあんこ型のデブキャラを貫きます(笑)」と語るマンモス。

曙、大仁田、天龍という、ビッグネームの付き人を経験し、過酷な人生の試練を乗り越え、「若手時代から見ていた」WEWのベルトも手中にした彼。

「いままでインディーがメジャーに勝つ可能性は1パーセント。それを自分らの世代で五分五分にしたい」と語るマンモスが、さらに大暴れしてくれることを期待したい。



見てみィ! この“あんこ型”重爆ラリアット。ノアの森嶋猛もビックリの体型を誇るマンモス。9・23アパッチ後楽園大会で矢野通から奪取したWEWヘビー級王座を、10・21には葛西純との4コーナーガラスクラッシュデスマッチを制して初防衛に成功。“次の標的”として今年2月に敗戦を喫した新日本の真壁刀義とのリベンジマッチを表明するなどヤル気マンマンなのだ!



掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

メンズだっていいじゃない？ 萌え萌えだもの。11月7日のロマンポルシェ。10年記念隊コンサートで精根尽き果てつつも、"萌え"は別腹の掟ポルシェがお届けする『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは、もはや説明不要、"姉さん"として、すっかりおなじみのMEN'Sテイオーの登場よ！

掟 GAY世界アナル級チャンピオン、今日はよろしくお願いします！

テイオー いやいやいや、あれは、私、個人的には認めてないんで（苦笑）。

掟 とはいいながら、防衛記録更新中じゃないですか？（笑）。

テイオー まだ一回ですけどね（苦笑）。

掟 でも、客席からも「絶対王者！」みたいな声も飛んでますし。

テイオー 一回しか防衛戦してないのに絶対王者もクソもないですよ（苦笑）。いや～、はめられましたね～、うまく。

掟 は、はめられたんですか？ それはどなたに？

テイオー まあ、DDT側とうちの登坂（栄児・大日本プロレス統括部長）に、いつもうまくはめられますねぇ（苦笑）。

掟 あのベルトは男色ディーノさんと大森隆男さんが闘ったり、由緒正しいベルトだと思いますよ。

テイオー 由緒正しいんですかね？（ベルトを）ほしい人がいれば、いくらでも勝手に持っていってくれっていう感じで（苦笑）。

掟 そうなんですか（笑）。正直、こんなかたちでのブレイクは予想されてました？

テイオー いや、予想もしてないですし、ブレイクとも思ってないし、私の中で公式戦から抹消してる試合なんで（苦笑）。

掟 ミラニート（コレクションa.t.）選手との選手権試合ではテイオー選手の必殺技「ミラクルエクスタシー」をさらにデンジャラスに進化させた「セクシャルエクスタシー」という技で決められてましたけども。

テイオー やってしまいましたねぇ、そんな技を（苦笑）。

掟 最終的に股間をつかんで投げるという、何かストロング小林選手もビックリな技で（笑）。

テイオー いや～～、それは私はなんにも言えない（笑）。その件に関しては、まあ業界の大先輩なんで（笑）。

掟 ブレーンバスターのときは必ず股間を握りしめてたっていうのは、スタン・ハンセンの本にも書いてありましたよ。

テイオー あっ、ホントですか!? ホントに握ってたんですか？

掟 はい、著書の中で書かれてました。

テイオー 知らなかったです。

掟 かなりの破壊力があると思うんですよ。それゆえに（笑）。

テイオー まぁ、そうでしょうねぇ（苦笑）。

掟 最終的に試合後のマイクで「ミラニートのあそこはミラニートじゃなかった」とも言ってましたね（笑）。

テイオー まあ、あれもサービスで（笑）。

掟 いまは、メンズクラブっていうユニットもやってらっしゃいますけど、なんでも入会条件はテイオー選手の家で行なわれる鍋会の参加が条件だとか。

テイオー いやいや、条件ではないんですけど（笑）、最初はたまに外の団体で試合があったときに、メンズクラブでやってて、でも最初のメンバーの関本（大介）も伊東（竜二）も一本立ちしたんで開店休業状態だったんですよ。

掟 二人とも一本立ちしてますからね。

テイオー それで、メンズクラブとして何かするってこともなくなって、そんなときに「入りたい？」って聞いたら「入れてください」なんていうヤツがいたので、「じゃ、またやろうか？」って感じで始まったんで。べつに鍋会が条件じゃないんですけどね（笑）。

掟 でも、実際、鍋会もされたりしてるんですよね？

テイオー もっと試合のレベルを上げるために、「勉強会でもしないといけないね」ってことで、鍋をしながらビデオを観て勉強会を何度かしただけですけどね。

掟 その勉強会はキツイんですか？

テイオー キツイですね（笑）。まあ、勉強会っていっても、私が持ってるプロレスの昔のビデオを8時間ぐらい見せられるだけですよ。

掟 8時間耐久のメンズ・テイオー選手特選ビデオ観賞会!?

テイオー そうですね。最近はやってないですけど、やっぱり、若い選手にプロレス教えるときって、リングの上や道場だけじゃ難しいんですよね。

掟 ときにはビデオ観賞も必要だと？

テイオー そうですね。プロレスの歴史じゃないんですけど、昔の名選手の動きとか、なんでこの試合のこのとき右足から動いたのかとか、そういうことを突き詰めていかないとプロとしての試合を見せられないと思うんですよ。いまは行き当たりばったり適当にやりました、適当に終わりましたっていう試合が多いじゃないですか。昔のレスラーたちはもの凄く細かいところまで考えてるのか、たまたま、できてるのかは知りませんけど、ビデオで観てると「なるほど！」というのが、山積みされてるんですよ。

掟 ビデオを観ながら、手取り足取り指導をされている、と？

テイオー まあ、そうですね。そういう動きを、いまのレスラーは知らないですから。

掟 若いレスラーはクラシックなレスリングを知らない？

テイオー まあ、しょうがないですよね。ゴールデンタイムでやってるわけじゃないし、いまやってるプロレス自体にそういう試合が少ないですから。

掟 鍋代とかは会費制なんですか？

テイオー 誰も払わないですよ。「次からは会費制にするぞ」って言ってるんですけど（笑）。みんな来て適当に騒いで「あ、そうすか。そうすか」って終わって、「じゃあ帰ります」って、俺一人で皿とか洗ったりしてますからね（笑）。

掟 え～～、後輩レスラーは皿も洗ってくれないんですか？

テイオー まあ、いまどきの男たちばっかりってのもありますけどね。

掟 いまどきすぎますよねぇ。では、最後にファンの皆さんにチャンピオンとして一言お願いします！

テイオー 何度も言ってるんですけど、あのベルトは自分の中で公認してるベルトではないんで（笑）。

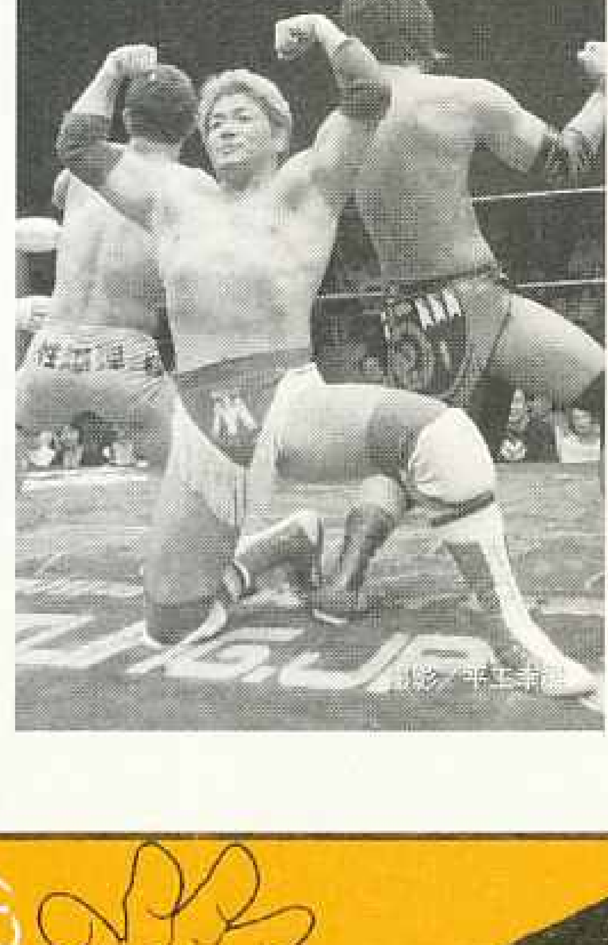
掟 あくまでも非公認だと（笑）。じゃあ、これからもメンズクラブの"ハッテン"を目指すということでいいですかね？

テイオー どうなんですかねぇ（苦笑）。

掟 どういうハッテンかわかりませんけども（笑）、今後もメンズ姉さんの変わらぬ活躍期待してます！



めんず・ていおー■本名＝おおつか・たけお。1966年12月16日、東京新宿区出身。テリー・ファックのリングネームで学生プロレスで活躍した後、ユニバーサル・プロレスリングに入門。92年9月にスペル・ティグリート戦でプロデビュー。その後は、みちのくプロレス、WWF（当時）を経て、現在は大日本プロレスに所属し活躍中。170cm、80kg。



アメプロ、ルチャ、デスマッチから男色スタイル（？）まで、そのレスリングスタイルの幅の広さは他の追随を許さない。テイオーの学プロ時代、その試合を観たディーノが憧れ、自ら学プロを始めたというのは、あまりにも有名（ちなみにコスチュームも一緒）。

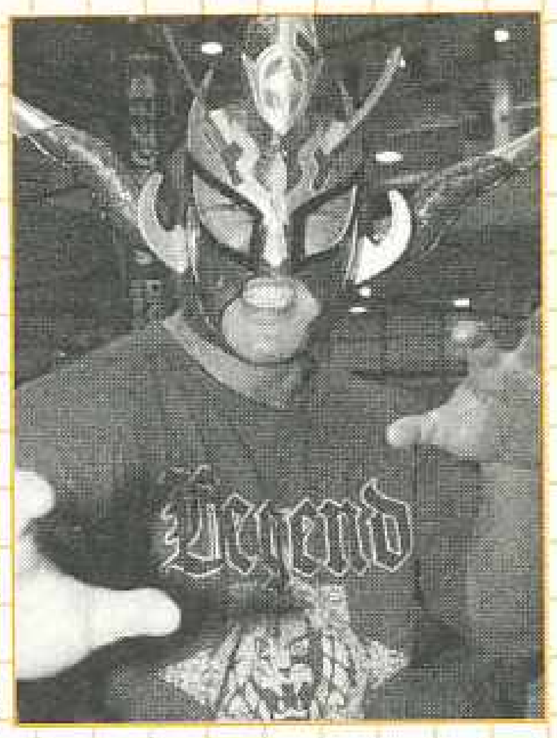
Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■掟ポルシェがDJ・掟ポルシェ申し訳ジュニアとして登場のイベント『（有）申し訳ないと』が11月22日（木）神戸『Troop Cafe』、11月23日（金）大阪・西心斎橋『LIVE&BAR 11（オンジェム）』にて開催！ 詳細および、その他の出演情報は掟ポルシェブログを参照！
[http://blog.excite.co.jp/porsche]

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

獣神サンダー・ライガーの 僕が好きな特撮作品、ベスト5

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキングを選出! 第11回目の今回は、現在“レジェンド”として猛威をふるう獣神サンダー・ライガーが登場! 『ゴジラ』から『ウルトラマン』まで、その特撮&怪獣マニアぶりを存分に発揮してもらった。



じゅうしんさんだー・らいがー■84年4月24日、小林邦明戦でデビュー。90年にIWGPジュニア王座を奪取。以降、ジュニア界の中心として活躍。現在は蝶野正洋、長州力らの“レジェンド”に在籍。170センチ、95キロ。

「目つきが悪い!」後藤達俊、ライガー作の怪獣人形破壊!!

僕が特撮好きとか怪獣好きってのはいろんなとこで言ってますけど、小さい頃は『ウルトラマン』や『ゴジラ』や『仮面ライダー』とか怪獣、特撮ものの全盛期だから子どもなら誰でも好きになりますよ。

最初に好きになったのは『仮面ライダー』。死神博士とか、蜘蛛男みたいな怪人に夢中になったし、あと『仮面ライダースナック』のカード! アレを懸命に集めましたね(笑)。カードを集めてアルバムをもらうのが一つのステータスでね。お菓子を捨てたりするヤツもいたけど、僕はもちろんガッチリ食べてました(笑)。

そのあと、中高生でしばらく離れるんだけど、新日本プロレスに入門した頃に当時、国技館が蔵前にあったんですよ。その会場に行く途中に問屋街を通ったら、バンダイのリアルホビーシリーズのモスゴジ(映画『モスラ対ゴジラ』のときのゴジラ)やガメラとか、バルタン星人なんかが箱でドーン! と積んであった。

「いまでもこういうのがあるんだ!」って感激して、道場の近所のおもちゃ屋さんに行ったら『3D怪獣大全集』って本があって、そこで「ガレージキットっていうのがある」と知ったりして“こっちの世界”に戻ってきてしまった(笑)。

その頃、道場で組み立てた怪獣のおもちゃを酔った後藤(達俊)さんに「目つきが悪いっ!」って壊されたりしましたね。怪獣だから目つきは悪いよって(笑)。

当時、後藤さんは酒グセが悪くて、包丁を振り回すので有名だったけど僕はヒジをバックリ切られましたから。試合ならまだしも道場で血がバーッと噴き出して。どんな世界なんだって! まぁ、道場にも怪人がいたってことですかね(笑)。

ガメラ派か? ゴジラ派か? そんなの関係ねぇ!

特撮作品のベスト5なんですけど、大人になって見直して「凄いな!」と思ったのが『ウルトラセブン』。とくに42話の『ノンマルトの使者』がベストワン。

これは地球に昔からいた人類(ノンマルト)が海底に逃げ延びて生きていたんだけど、その基地をウルトラ警備隊が「こいつらは侵略者だ!」って破壊しちゃう。でもM78星雲では地球人のことをノンマルトと呼んでいた。つまり「我々、地球人こそ、じつは地球の侵略者なんじゃないか?」という深~い話なんですよ。

『ウルトラセブン』は考えさせられるものが多いんだけど、子どもの頃は正直、難しすぎた! わかりやすい『ウルトラマン』のほうが好きでした(笑)。

最近でいえば、『ウルトラマンティガ』も素晴らしい! これが2位。子どもの頃、『ウルトラマン』で育ったクリエーターがいまや作り手に回ってる。昔の感動をいま子どもたちにきちんと与えてるって部分に感心しますね(しみじみと)。

そういう意味で、3位は同じくリメイクだけど映画『ガメラ』の新3部作。普通の映画ファンも絶賛していたけど、特撮技術もホントに凄かったから。

よく「ガメラ派か? ゴジラ派か?」なんて言いますけど子どもの頃はガメラもゴジラも関係ない! 大人になって観直して「特撮が荒い」とか「ストーリーがチャチ」とか言う人もいるけど子どもの頃は口を開けて観てましたから。だって、ギロンって怪獣なんて頭がまんま包丁だよ! どんなデザインなんだよって(笑)。それでも「ガメラが斬られちゃう!」なんて本気で心配してましたもん。

それで4位はゴジラ映画の第9作目『怪獣総進撃』(68年公開)。じつは僕はこの頃のゴジラの造形が一番なじみがあるんです。ただよーく注意してほしいんですけど……第8作目の『怪獣島の決戦 ゴジラの息子』(67年公開)のゴジラとは微妙に違うんです! (キッパリ)。目がクリッとしてるけど、ちょっと厳しい顔つきで。そのへんは複雑なんです(笑)。

いまでこそ初期のゴジラが評価が高いですけど、僕が子どもの頃に慣れ親しんだゴジラは『怪獣総進撃』のときのゴジラ。このタイプが4年ぐらい続くんですけど、そのゴジラが出ている作品はどれも思い出深いですから。

5位は僕の一番好きな怪獣・ゴモラが出てくる『ウルトラマン』の「怪獣殿下」(26、27話)。これは前後編になってて、武田製薬のタイアップで特別に大阪ロケを敢行してるんです。

ゴモラが好きなのは火を吐かないし、光線もない。しっぽで暴れ回るだけなのに強いところ。大事なのは「どれだけウルトラマンを苦しめたのか?」がポイントですから。

そういう意味ではゼットンも強いけど……あ、前田(日明)さんは「ゼットンを倒すために俺は格闘家になる!」ってなったんだよね。意味はわからないけど、前田さんらしい話だよね(笑)。

フィギュアの祭典に、素顔で自作怪獣を出店!!

僕は自分がヒーローになりたい、って願望はとくになかったし、特撮番組に出たいという気持ちもないんです。

着ぐるみが怪獣として生きてるのは映像の中だから。作るほうが好きだし、造形スタッフとして加われるなら加わってみたいなという気持ちはありますけど。

いまは趣味が高じて、『ワンダーフェスティバル』(以下、『ワンフェス』)っていうフィギュアの祭典にも普通に素顔で出店してます(笑)。この前は35センチくらいのヒドラ(『ウルトラマン』の怪獣)を出しました。で、来年の2月の『ワンフェス』には、60センチある初代ゴジラの原型を出す予定なんですよ! (と鼻息荒く)。

お客さんは僕のことを知ってる人も知らない人もいるんですけど、名前じゃあ売れない世界。逆に名前がなくても出来がよけりゃあ売れますしシビアですよ。

ただ仲間内で作ってるだけだから、「これで儲けよう」という気持ちはない。特撮好きな人は、とにかく『ワンフェス』に来て俺の怪獣を見てほしい、と。ライガーはいないけど、中の人はいるから(笑)。

1

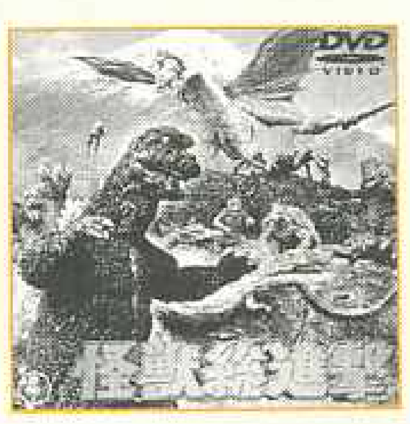

『ウルトラセブン』42話「ノンマルトの使者」
※『ウルトラマンセブンvol.11』(バンダイ)に収録

2


『ウルトラマンティガ』
(バンダイ)

3


映画『ガメラ』新3部作
写真は『ガメラ 大怪獣空中決戦』(大映)

4


映画『怪獣総進撃』
(東宝)

5


『ウルトラマン』
26話「怪獣殿下:前編」、27話「怪獣殿下:後編」
※『ウルトラマンvol.11』(バンダイ)に収録

12・31『大晦日ハッスル祭り』開催！ テレビ東京系で全国放送決定!!

よみがえれ!! プロレス、ゴールデンタイム伝説!!



『ハッスル』の“いま”が丸ごとわかる大特集！
乗り遅れるな、プロレス復興の狼煙はあがった！

すでに大々的に報じられているとおり、大晦日に『ハッスル』がイベントを開催、さらにその模様がゴールデンタイムで放送される。旗揚げからまもなく丸4年を迎える『ハッスル』が、日本人が最もテレビを観るといわれる大晦日に殴り込みをかける。地盤沈下が激しいプロレス界の中で、『ハッスル』はプロレスの未来を背負って反撃の狼煙をあげた。ファイティング・オペラの“いま”を濃縮還元大特集！

構成／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫
写真提供／ハッスルエンターテインメント



われる!! 「目標視聴率は二桁」

（近藤正人テレビ東京スポーツ局長）

プロレスが真剣に勝負する!!

大みそか 年忘れKYORAKUスペシャル ハッスル祭り2007 大晦日に開催決定!!

土曜深夜のレギュラー放送『どハッスル!!』も高視聴率を叩きだしているテレビ東京が大英断を下した。『ハッスル』の大晦日イベントをゴールデンタイムに放送するのだ。かつてゴールデンタイムで放送されていた頃のプロレスのパワーを『ハッスル』がよみがえらせることはできるのか!?

構成／坂井ノブ　撮影／菊池茂夫



ハッスル大晦日特集

『PRIDE』が〝消滅〟したことで、ぽっかりと大きな穴が開いてしまったかと思われた2007年の大晦日。そこに『ハッスル』が巨大な爆弾を投下した。プロレス史上に類を見ない「大晦日のゴールデンタイムに2時間枠で地上波放送する」というメガトン級の爆弾である。

これは11月5日、テレビ東京・天王洲スタジオで行なわれた記者会見でハッスルエンターテインメント社長・山口日昇氏の口から、正式に発表された。

プロレスがゴールデンタイムから撤退してからというもの、地上波放送におけるプロレス中継は縮小の一途をたどってきた。最後のゴールデンタイムは03年1月の『W－1』、さらにテレビ東京でのプロレス中継は90年10月のSWS以来だというから、今回の『ハッスル』中継が、いかに大きな意味を持つかおわかりいただけるだろう。プロレスが一矢報いる絶好のチャンスが訪れたのだ！

大晦日の夜、『紅白歌合戦』と『Dynamite!!』の裏という時間帯に『ハッスル』で勝負をかけることになったテレビ東京の近藤正人スポーツ局局長からは「目標視聴率は、心の中では二桁を目指したいなというふうに思っております」と具体的な数字まで飛びだした。

ちなみに、テレビ東京の大晦日は夕方から『年忘れにっぽんの歌』、23時30分からは『ジルベスターコンサート』が放送される。『ハッスル』のファイティング・オペラと合わせて「歌もの三部作」（近藤局長）で勝負をかけるという。素敵だなぁ、テレ東。

もちろん、これはギャグではない。テレ東は真剣だ。「歌もの三部作で『なんとか歌合戦』にも勝てるのではないかと確信しております。ここに、大げさに言いますと宣戦布告です！」（近藤局長）と『ハッスル』に寄せる期待は大きい。

そんな大きな期待を背負ってプロレスのゴールデンタイム復帰に闘志を燃やす選手たちも真剣そのもの。

「ゴールデン、大晦日ということで、どぎつい下ネタはセイ！　と言われてますんで、言動はもちろん、腰を振りすぎてポロリしないように気をつけて頑張りたいと思います」（HG）

「プロレスの復興に向けて頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします」（天龍）

「僕らが『ハッスル』で天下を獲る日が近づいてきているなと凄く実感してます。『紅白歌合戦』、『Dynamite!!』に負けないように、天下を獲るように精一杯頑張ります」（坂田）

「世界中のいろいろな国を回って感じたことなんですが、プロレスというスポーツがエンターテインメント化して、より楽しいものになっていくということが地球規模で起こっています。『ハッスル』がスポーツ・エンターテインメント化するのは地球の意思が僕らをプッシュしているのかなと僕は本気で思います」（TAJIRI）

「『ハッスル』と〜、テレビ東京さんとRGは〜　♪一生、一緒にいてくれや〜、見てくれや才能も全部ふくめて♪　オッケ〜イ！　YOYOYOYO!!（踊りな

がらコケる」（RG）

どこが真剣なんだよ？　と思った方は『ハッスル』を観たことがない人だろう。『ハッスル』は、どんなときでもふざけたことを真剣にやり続けてきた。その真剣にふざけてきたことが大晦日に通用するのか？　これは非常に興味深い。

プロレスという言葉をあえて使わずファイティング・オペラと言い続けてきたのも、「プロレス」という言葉が持つ負のイメージを切り捨てて、プロレスの可能性を極限まで拡大していこうという試みだった。「プロレスである」とは口に出さなくても、『ハッスル』はプロレス界を背負って大晦日という戦場に立つ。だからこそ髙田延彦は嫌々ながら因縁深い『週刊プロレス』のインタビューを受けて、「こんな雑誌の表紙になりたいくない」とぼやきつつ『ハッスル』の大晦日をアピールしたのだろう。誰もがこの大晦日のビッグイベントを成功させるため真剣に向き合っているのだ。

テレビ東京系で夜9時30分から2時間枠で全国ネット放送決定



世の中で最も人々がテレビを観る日に初のゴールデンタイム進出！

『ハッスル』の真価が問

ちなみに、この会見に登場した髙田総統は「私は、この『ハッスル祭り』を一度限りの打ち上げ花火にするつもりは毛頭ない。毎年の恒例行事として、『紅白歌合戦』に代わる、日本の大晦日の新たな風物詩として育てていく強い気持ちで取り組む」と、この世紀のビッグイベントに強い決意を表明している。

興味深い発言は記者会見後の囲み取材でも飛びだした。まず同日、大阪で会見を行なっていた谷川貞治K－1イベントプロデューサーがボブ・サップの出場について「大晦日に『ハッスル』に出るのであれば契約違反」と口火を切った。

大晦日の同時間帯にTBSで放送される『Dynamite!!』を開催するFEGとしては、裏番組という敵に塩を送るような真似は容認できない。その発言を聞いた山口社長は「サップとFEGのあいだで解決すべき問題。『ハッスル』とFEG、『ハッスル』とサップのあいだにはなんの問題もない」と反論。さらに「谷川さんは島田二等兵と仲が悪いと聞いている。大晦日にわだかまりを清算してほしいですね」と、逆にオファーまで出す始末！　かつて『ハッスル』では島田二等兵vs中村カントクという因縁マッチが行なわれたこともある。敵の多い島田二等兵の相手としては不足はないだろうが……。

ちなみにFEGの契約選手である曙の出場については山口社長も慎重な姿勢だが「出てもらえると思ってます」と期待を寄せている。最近は脱・モンスター路線を掲げる谷川Pが、曙を出場させるのかどうか？　これからの交渉次第。格闘技の枠内で魅力を発揮しづらい曙とサップを『Dynamite!!』に出場させたり、どこでも試合をさせないという選択は大きな損失だろう。

大晦日という舞台は、『ハッスル』がプロレスの総力を結集して挑む真剣勝負の場である。団体が細分化しすぎて業界全体が地盤沈下した結果、プロレスはゴールデンタイムから撤退した。大晦日ぐらいは業界の力を結集して最高の舞台を作り出せないものだろうか。

近藤局長に「貴様なかなかいい仕事をするじゃないか。大晦日の演出も、マッチメイクも君たちに任せてやってもいいぞ」と総統。近藤局長も「総統、ありがたき幸せでございます」と応じた。



大仰天か　年忘れKYORAKUスペシャル　ハッスル祭り2007

12月31日（月）さいたまスーパーアリーナ
11:30開場／13:00開演（予定）

［料金］※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP／10,000円　S／5,000円　こどもS／2,500円
A／3,000円　こどもA／1,500円　年末特別ペアシート／9,000円

※1／こども料金の区分は1歳から小学生以下
（こどもS・こどもAについては一部扱ってない店舗もあります）
※2／特別年末ペアシートはS2席を1セットとして特別価格で販売します。
ハッスルエンターテインメントのみで販売します

［チケット発売］11月25日（日）10:00～

［問い合わせ］ハッスルエンターテインメント
TEL.03-5464-1731　http://www.hustlehustle.com/

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

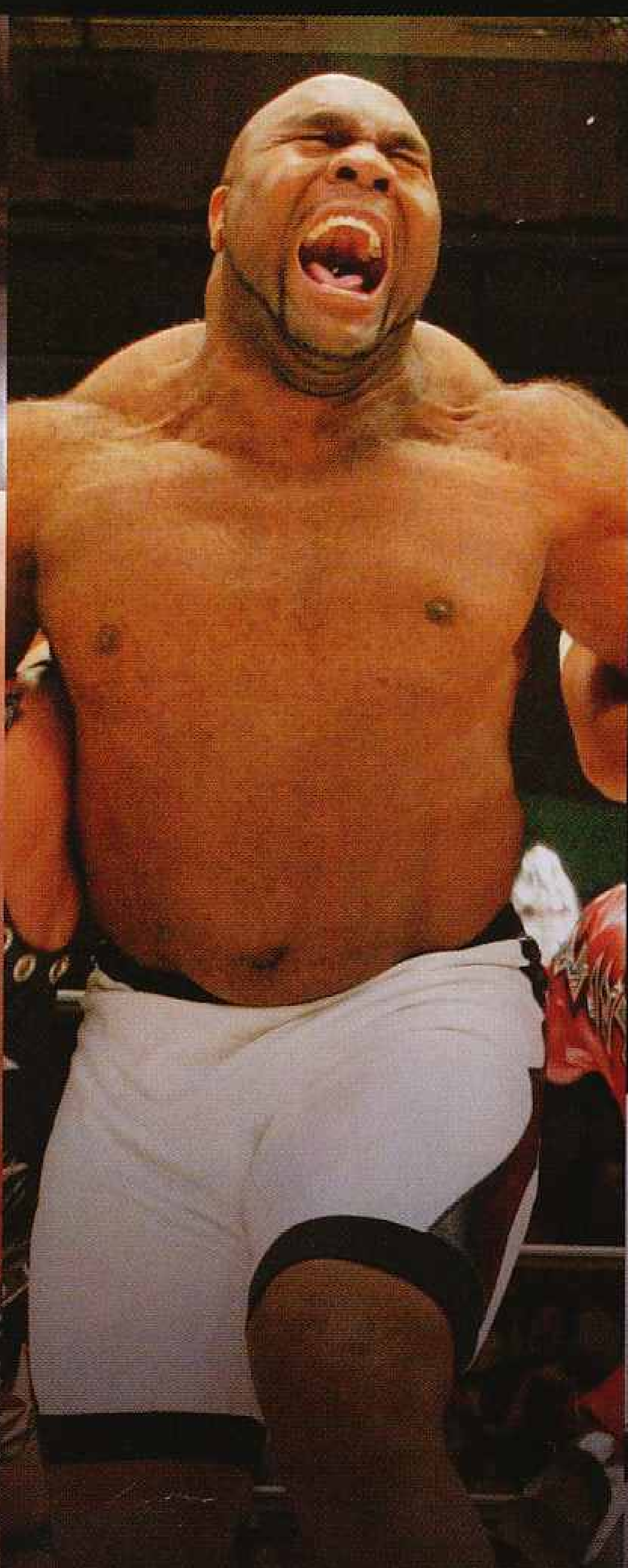
大晦日は『ハッスル』で年越し！

［放送スケジュール］
12月31日（月）21:30～23:30
テレビ東京系全国ネットで放送！

ッスル・マニア2007』は総力戦だ!!

ければ大晦日は語れない






高田総統の闘う化身
ザ・エスペランサー vs 坂田 亘
小池の旦那

高田総統の闘う化身として06年6月のフジテレビ・ショック直後に登場。いままで2試合を闘ってTAJIRI、HGを完全にKOしている。レーザービターン!を受けたインリン様の娘ニューリン様は死にかけた。どんな攻撃でもダメージを受けない。現時点では、どう考えても『ハッスル』における“最強”。レアキャラ中のレアキャラを観て鳥肌立てろ!!

「ハッスル・レジスタンス」というかっこいい肩書きが、いつのまにか「小池の旦那」に変わってしまった坂田。天下を獲ると口にしてきたが、『ハッスル』における殿上人とついに激突することになった。鉄骨をも叩き折るレーザービターン!の使い手であるエスペランサーを攻略する秘策はあるのか!?　大注目の一戦だ。

暗黒肉弾魔神
ボブ・サップ vs HG
ハードゲイ

K-1や総合格闘技のイメージが強いサップだが、プロレスのリングでもいくつか名勝負を残しているのだ。中西学とのパワー合戦、つぼ原人とのバラエティ合戦など。プロレスのスキルよりも、フィジカルとキャラの強さで試合を押しきるサップがHGを相手にどんな試合を行なうのか。非常に興味深い。『ハッスル』に適応できるのか!?

6月の『ハッスル・エイド』で天龍源一郎にフォール勝ちする前後からHGには貫禄とオーラが漂い始めた。決して国民的知名度を誇る芸能人だからという理由だけで『ハッスル』のメインを張っているわけではないことは、その試合を観れば一目瞭然だろう。パワーと抜群のキャラはあるがスキルのないサップ相手に試合の主導権を握れるか?

大晦日の『ハッスル祭り』はテレビ東京が演出とマッチメイクを手がけることになり、通常のストーリーラインを超えたところで行なわれる“お祭り”ということになりそうだ。

その1ヵ月前、11月25日に横浜アリーナで開催される『ハッスル・マニア2007』は3月からスタートしたハッスル第2章の総決算となるカードがズラリと並んだ年間最大のビッグマッチとなる。

上の写真の顔ぶれを見ればわかるとおり、『ハッスル1』のときにリング上にいた主役級の選手はほとんどいなくなってしまった。あのときスーツ姿のまま小川直也に投げられた髙田本部長は姿を消し、髙田総統の闘う化身であるザ・エスペランサーがリング上に転生している。

『ハッスル』のリングでは、キャラクターが凄まじいスピードであっという間に消費されてしまう。観客の高いニーズに応えられないキャラ、変化に適応できないキャラはどんどんふるいにかけられて脱落していくのだ。それは、この豪華絢爛なメンバーが再びリング上に揃うという保証はどこにもないということでもある。もちろん、大晦日にはこれ以上のメンバーが揃う可能性もあるのだが、11月7日の時点ではボノとサップの出場は不透明だ。

『PRIDE』がなくなってから「ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ、ダンヘン、桜庭、吉田……、あんなメンバーが一つの会場で闘ってた。なんて凄い時代だったんだろう……」としみじみ思うことがある。人は失なってからでないと、その重要さに気がつかないのかもしれない。

べつに『ハッスル』が消えてなくなるとか、買収されるとか、そういうことを言いたいわけではなくて、いま目の前にある

出し惜しみなし!! 11.25『ハッス

ハッスル・マニアを観なけ

今後の大会スケジュール

KYORAKU PRESENTS

ハッスル・ハウス Vol.31

東京・後楽園ホール　11月22日(木) 18:00開場／19:00開演

[チケット料金] ※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP／10,000円　スタンドS／7,000円
スタンドA／5,000円　スタンドB／3,000円

KYORAKU PRESENTS

ハッスル・マニア 2007 ファイティング・オペラ

神奈川・横浜アリーナ　11月25日(日) 15:30開場／17:00開演

[そのほかの対戦カード]
ケロロ軍曹 vs スコット・ノートン
海川ひとみ&ザ・グレート・サスケ vs ジャイアント・バボ&島田二等兵

[出場予定選手]
"モンスターK" 川田利明、"ファイアー・モンスター" 大谷晋二郎、
アン・ジョー司令長官、TAJIRI、崔領二、KUSHIDA、＼(^o^)／チエ、
キンターマン&クロダーマン、ほか

[チケット料金] ※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP／20,000円（特典＝ハッスルグッズ付き）
RRS／10,000円　花道シート／1 SOLD OUT 円　S／5,000円　※1 子ども料金あり
ケロロ軍曹応援シート／4,000円（特典＝スペシャルグッズ付き）　A／3,000円
※1）Sのみ小学生以下は2,500円。ハッスルエンターテインメントにて受付

KYORAKU PRESENTS

ハッスル・ハウス 〜クリスマスSP 2007〜

東京・後楽園ホール　12月25日(火) 18:00開場／19:00開演

[チケット料金] ※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP／10,000円　スタンドS／7,000円
スタンドA／5,000円　スタンドB／3,000円

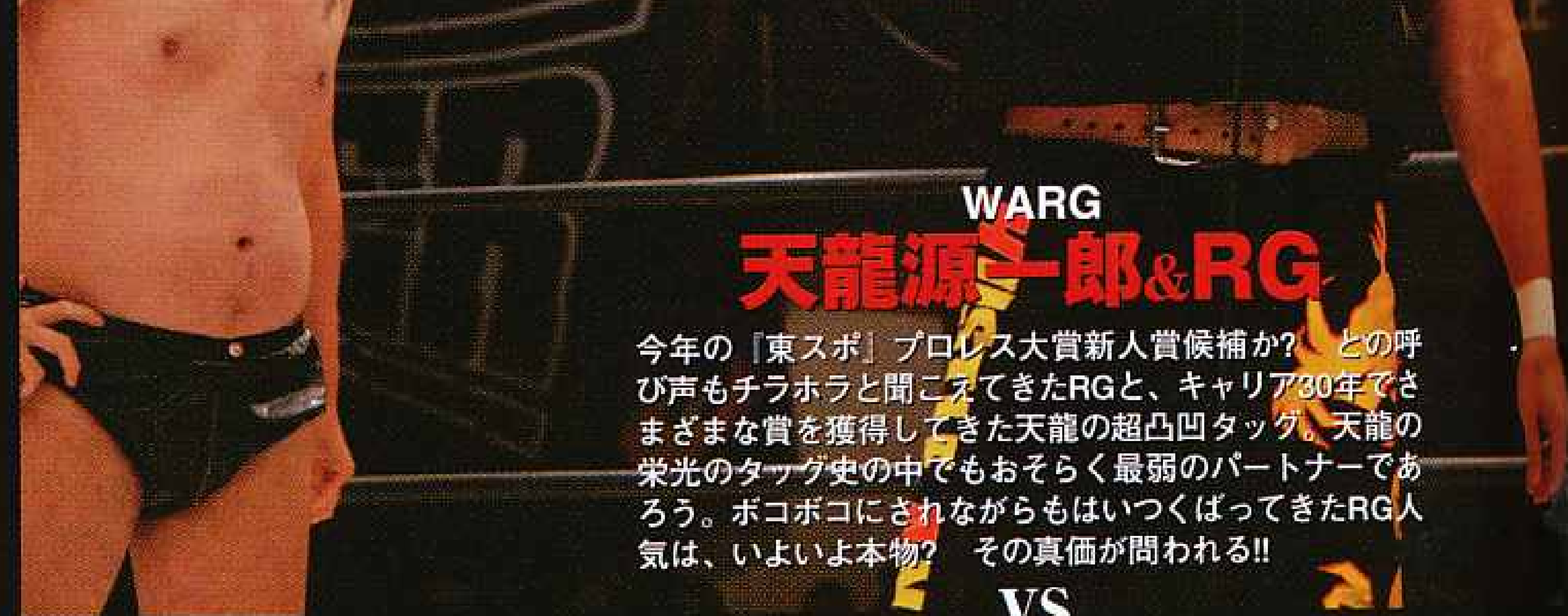
ハッスル地上波放送スケジュール

ハッスル・マニア 2007 ど直前SP!!
11月17日(土)
16:00〜17:15
(テレビ東京系列・全国5局ネットで放送)

KYORAKU PRESENTS
ハッスル・マニア 2007 ファイティング・オペラ
12月2日(日)
16:00〜17:15
(テレビ東京系列・全国6局ネットで放送)

11月シリーズの2大会はPPVで生中継も行なわれます。
詳しくはhttp://www.ppvj.co.jp/をご覧ください。

[問い合わせ]
ハッスルエンターテインメント　TEL.03-5464-1731



WARG
天龍源一郎&RG
今年の『東スポ』プロレス大賞新人賞候補か？　との呼び声もチラホラと聞こえてきたRGと、キャリア30年でさまざまな賞を獲得してきた天龍の超凸凹タッグ。天龍の栄光のタッグ史の中でもおそらく最弱のパートナーであろう。ボコボコにされながらもはいつくばってきたRG人気は、いよいよ本物？　その真価が問われる!!


VS

親子タッグ
インリン様&モンスター・ボノ
抜群の適応能力で早くも『ハッスル』に溶け込んだボノちゃんと、ママの"おかあさんといっしょ"タッグ。ボノの素晴らしさは一度、試合を観ていただければわかると思うが、とにかく感情表現が豊か!　インリン様からあふれんばかりの母性を感じる昨今。おそらく「本物の親子です」と紹介れても気づかないほど違和感がない。



この豪華なカードは、いましか楽しめないよ、ということである。いつまでも、あると思うな、親と『ハッスル』！
とにかく、大晦日の『ハッスル祭り』開催で、より大きなステージに上がる『ハッスル』の凄まじい勢いを体感するには絶好のチャンスである。さらにつけ加えるならば、ザ・エスペランサーの強さ、恐ろしさは何度も体感できるものではない。必見である。ついに始まったプロレスの逆襲を『ハッスル・マニア』で目撃せよ！
（文／坂井ノブ）

プロレスが真剣に勝負する!!
ハッスル大晦日特集



驚異のデコボコタッグが
ハッスルを熱くする!!

PRO-HUSTLING
WRESTLE AND RG

WARG

ミスター・プロレスと自称ハッスルの神の子が激突!

天龍源一郎×RG

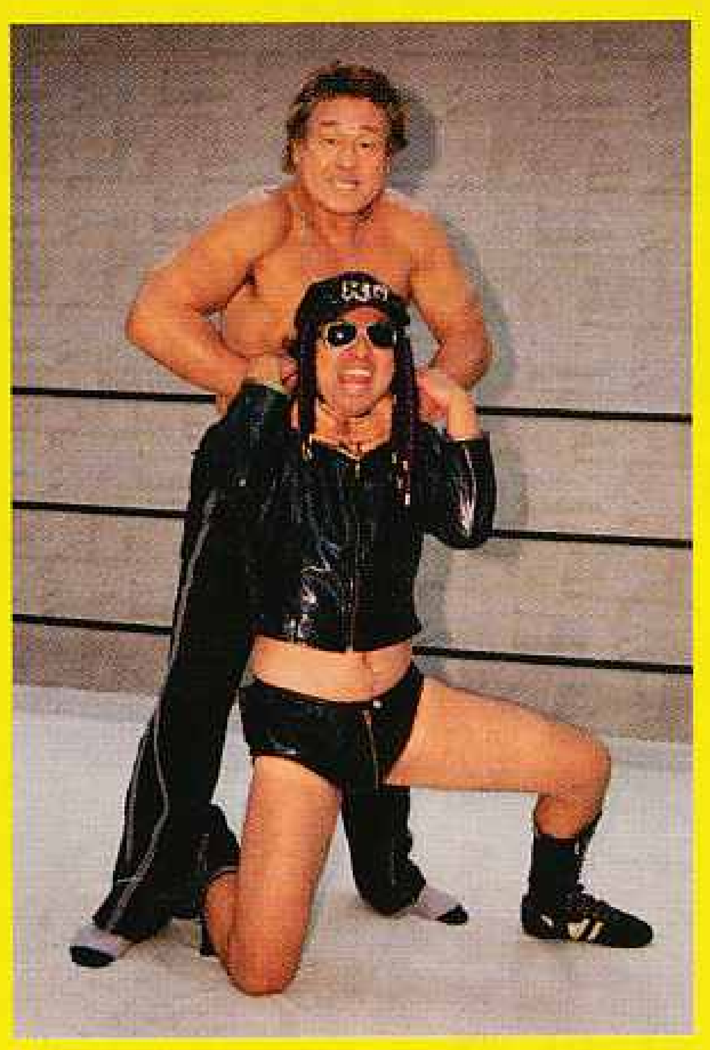
SPECIAL HUSTLE対談



ハッスル大晦日特集

かつて存在した天龍の革命的プロレス団体WARにRGの名前をひっかけたタッグチーム、それがWARGだ。レスラー生活30年を誇るプロレス界の超大物と、相方に寄生して『ハッスル』に潜り込んだ超小物というアンバランスなコンビだが、なぜか息はピッタリ?

聞き手/小松伸太郎(THE PEHLWANS)　撮影/山口比佐夫



「さらに」と言ってくれる?「さらに観客動員が増える」と。低いみたいじゃねえか!(天龍)

大晦日はドーンと観客動員と認知度が増えるチャンスじゃないかと思います(RG)

—さて、今日は話題沸騰のWARGのお二人に、タップリとお話をお聞きしたいと思います!

天龍　それよりさ、俺にとっちゃあ、『kamipro』のインタビューを受けることは青天の霹靂だよ。しかもRGと二人で……。(困った顔で)どう答えていいかわからないよ。

—それはどういう意味ですか?(笑)。

RG　いい意味での青天の霹靂ですよね?

天龍　いや、よくないよ! 俺が知っている頃の『kamipro』はこんなんじゃなかったよ。

—どの頃の『kamipro』ですか?(笑)。

天龍　それは皆さんのほうがよく知っているよ。

—意味深ですね(笑)。では、さっそくですけど、天龍さんは初めてRGさんが『ハッスル』に出たときはどう思われました?

天龍　ナメてるなって思ったよ(キッパリ)。

—やっぱりそうでしたか(笑)。

天龍　でもね、ナメてるなと思う反面、『ハッスル』の新しいものをファンに提供していくというコンセプトが耳に入っていましたから、それをファンに伝える突破口になるのかなって思いましたけどね。子どもたちが彼を観て、素直に受け入れているわけでしょ? 従来のプロレスっていうと、イスで殴ったりとか、血が流れたりとかっていうのが、冒頭に出てくる言葉だったけど、彼らがいることによって、それが取っ払われたっていう気はしましたよね。(RGを指さして)とくにこういうバカがいることによって。

RG　ヨゥ! どういうバカですか!?

天龍　バカじゃなくて、バカなことをやっているヤツね。バカなわけじゃないじゃん? 古田(敦也)と同じ大学(立命館大学)を出てんだから。

RG　あ、ありがとうございます……。

—ほめられてるのか、けなされているのかよくわかりませんね(笑)。で、一方のRGさんは天龍さんと同じリングに上がってるというのはどういうお気持ちですか?

RG　本当に夢が続いているような感じなんですけども……。

天龍　(話をさえぎって)おい! 普段どおりしゃべれよ!

RG　(ビビりながら)ふ、普段どおりですよ!

天龍　コイツの言っていることは信用がおけない!(キッパリ)。

RG　信用してくださいよ! でも、いままでは確かに控室で挨拶とかしても、まだ認められてないなっていう感じはしたんですよ。それがあるとき、凄く遠くからペットボトルが飛んできたことがあったんですね(笑)。

—控室でですか?

RG　はい。凄く遠くから的確なコントロールで僕の顔にバカーンと当たって。それで僕も『ハッスル』の一員として認められたんだなって思いましたよ。それが凄く嬉しかったです。

—天龍さん、そのことは覚えています?

天龍　いや、覚えてない(キッパリ)。

RG　覚えてないんですか……!?

天龍　もう50回くらい投げてますからね。

—投げ込んでますね(笑)。

天龍　まあ、さっきの話の補足をします

インリンは嫌がってるけど、僕がやります！（RG）
ああそう。じゃあ、枕をポンと投げてあげるよ（天龍）

とね、台風のときに浜松で大会があったんですよ。それで、誰かが冗談半分か知らないけど、「RG、こんな状況で客入りも悪そうだから、浜松駅に行って、呼び込みやってこい！」って言ったんですね。そうしたら、こいつが本当に呼び込みに行ったんですよ。それで、「あ、マジメでいいとこあるな」って。そこから仲間意識が出たんだよね。

——それは知られざるエピソードですね！

天龍 「ああ、コイツ見どころがあるんだな」って思ったんですよ、一瞬。

RG い、一瞬？

天龍 帰りには忘れていたよ（ニヤリ）。

——ワッハハハハ！

天龍 でも、そういうのを見て、一生懸命な気持ちはあるんだなって、認識させられましたよね。そっから受身を取ったり、殴られたりっていうのを健気に耐えているのも見てきましたからね。「一生懸命やってるな」っていうのが僕の中に入ってきましたね。それはHGも一緒ですよ。

RG （自信たっぷりな表情で）聞きましたか？　聞きましたかぁ⁉

——聞きましたよ（笑）。

天龍 だって、「嫌です」って断れば済むことなのに、それを行ったたっていうのはね、よっぽど頭悪いなって思ったよ。

RG ヨゥ！　ほめてるんじゃないんですか⁉

天龍 売れない芸人は使い勝手があるわって思ったよ（ニヤリ）。

——ただのパシリみたいですね（笑）。ということで、次は『ハッスル・マニア』という大舞台で、WARGのお二人はインリン様＆モンスター・ボノと対戦されます。天龍さんはインリン様についてはどう思われてますか？

撮影／平工幸雄



天龍のパートナーといえばジャンボ鶴田、スタン・ハンセン、阿修羅原（写真）など、RGと比べるのは失礼なスーパースターばかり。

天龍 口が達者な女ですよね。

——口が達者な女（笑）。

RG ちなみにタイプではないですか？

天龍 （あきれながら）タイプなわけないじゃ～ん、あんなジュウシマツみたいな女。

RG ジュウシマツ！　ちょっと、書いておいてください、ジュウシマツって！

——はいはい、わかりました（笑）。では、RGさんはどうなんですか？

RG たぶんね、僕のことを本当に嫌っているんですよ、生理的にマジで。だから、格好いいと思わせて、最終的には惚れさせたいと思ってます（キッパリ）。で、僕は結構、タイプだったんですよ。

——ジュウシマツみたいな女が（笑）。

天龍 おまえはホトトギスだからな。

——「鳴かぬなら、殺してしまえ、ホトトギス」ですか？

RG ヨゥ！　でも、タイプだったから、ガチで嫌がられているのを見ると、さらに燃え上がってくるんですよ！

——じゃあ、天龍さんのアシストを受けて、惚れさせよう、と！

RG はい！　インリンとは僕がやりますよ！

天龍 ああ、そう。じゃあ、おまえとインリンがやっているときに、枕をポンと投げてあげるよ。

——何をさせる気ですか（笑）。

RG （いやらしい表情になって）ちょっと、エッチなほうも期待していてください！

天龍 おまえ、これは『kami·pro』だよ？　そんなこと言っちゃダメだよ。

RG 『kami·pro』だからいいんですよ！

天龍 （あきれながら）昔を知らないから恐ろしいよ。鬼みたいだった人が優しくなってさ、昔を知らない若いヤツがチャチャを入れてるのを見て、「おいおい、大丈夫かよ」って思うのと一緒だよ（笑）。

——『kami·pro』にどんなイメージ持たれているんですか（笑）。で、一方のモンスター・ボノについてはいかがですか？天龍さんも肌を合わされましたけど。

天龍 まあ、いままでいろんなレスラーと闘ったけど、凄い馬力がありますよね。一発突っぱられて、コーナーに吹っ飛んじゃったからね。たぶん、パワーファイターと言われているレスラーの10倍以上のパワーはありますね。

——10倍ですか！

天龍 そういう意味ではまた新たに闘志というか、燃えさせられるものはありますよ。だって、いままで「パワーファイターの天龍」って言われたのが吹っ飛ばされたわけだからさ。そうするとごはんが食えなくなっちゃうし、『ハッスル』なんかは待ってましたとばかりにリストラしようとするから（笑）。

RG 大丈夫です！　天龍さんは大丈夫です！

——で、すでにシングルで一度、圧殺されているRGさんはいかがですか？

RG 身体の上に乗っかられたときは、本当に感じたことのない痛みが走りましたね。第一、表情だけで怖いですからね。あれ、どうやったら勝てるんだろう……？

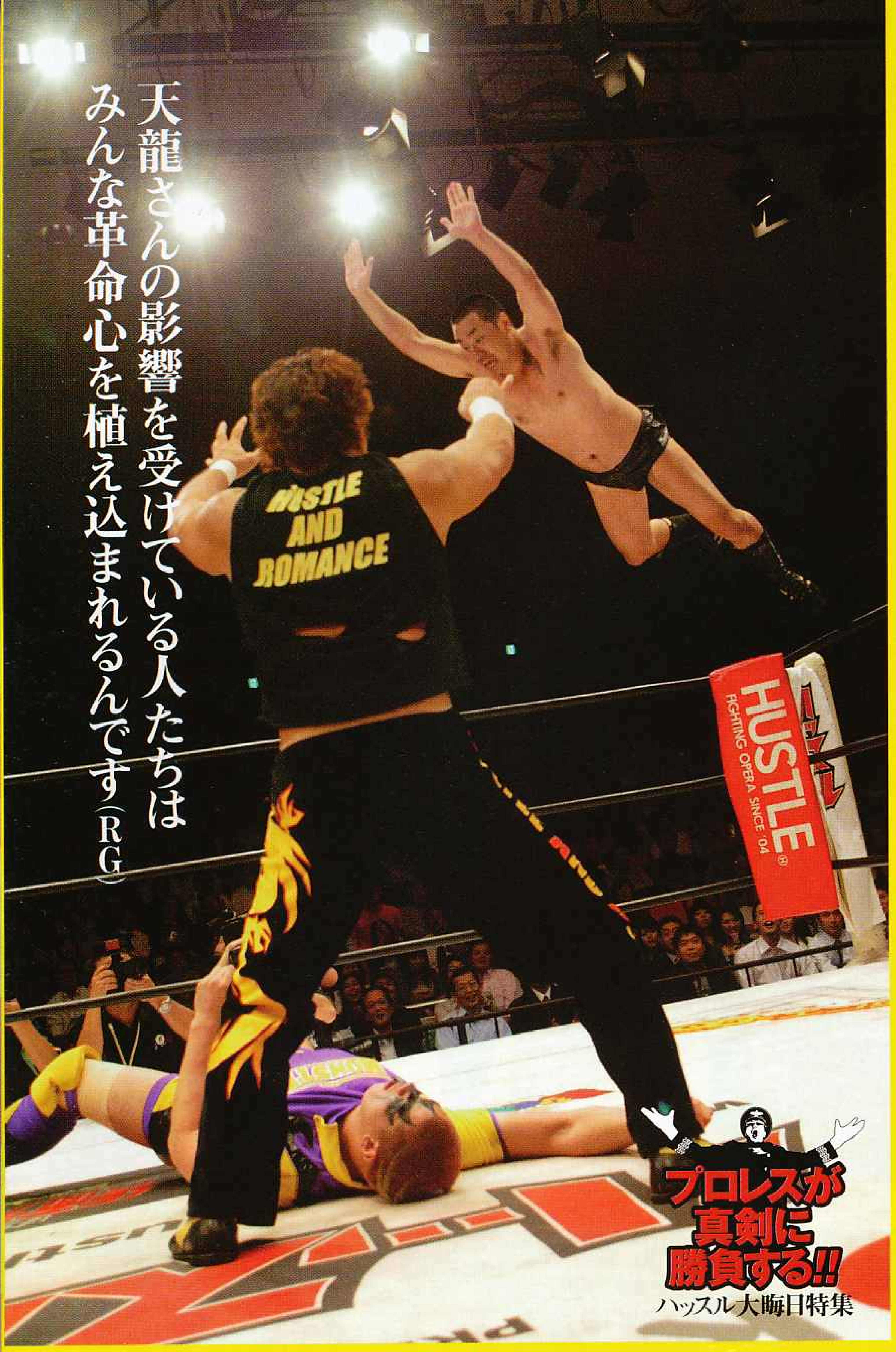
——そこはWARGのコンビネーションで！

天龍 そりゃあな、二人でブレーンバス



今年7月14日の浜松大会では台風が直撃。人がまばらな駅前をサンドイッチマンで練り歩いたRGと中村カントク。

天龍さんの影響を受けている人たちはみんな革命心を植え込まれるんです（RG）



ターやりますよ！

――おお！ 持ち上げますか！

RG 持ち上げます、持ち上げます！

天龍 RGだって、得意のトップロープからのボディプレスやらないと収まりつかねえよな？

RG そうですよ！

天龍 たとえば、俺がボノに河津落としをやって、そこにRGが飛ぶとかね。

RG 河津落としからのRGプレス……、う〜ん、ありえます！

――ありえますか（笑）。では、すでに対策も練られている、と？

天龍 これからですよ。コイツ、すぐに忘れちゃうから。だって、サンドイッチラリアットして、てめえが吹っ飛んでんだよ？（あきれた表情で）ひどいよ……。もう、足手まとい以外の何物でもない（キッパリ）。

RG いや、今度はちゃんとやりますよ！

天龍 俺の理想はね、俺が"53歳"にいくときに、ボノの足にしがみついたRGごと持ち上げること。それができたら、俺もカッコいいな、と！

――RGさんごと持ち上げますか！

天龍 おお！ 持ち上げたボノの足の先にRGがいる、と。最高だよ！ 次の日、『東スポ』の一面になるな。（RGのほうを向いて）頼むよ？

RG 聞きましたか？（自信満々に）その技出しますよ！

天龍 技じゃねえだろう（笑）。

――しがみついているだけじゃないですか（笑）。まあ、とにかく『ハッスル・マニア』でのWARGのご活躍を楽しみにしています！

天龍 『ハッスル・マニア』といえば、今回はボブ・サップも来るじゃないですか？ だから、ラインナップはOKっていうことですよね。キャンパスにどんな絵を描けるのかなっていう楽しみはあるし、あとは組み合わせですよ。ハチャメチャの中の楽しさみたいなのはありますよね。そうしたら、RGはいらないと思うけど。

RG いる！ いる！ 認めてください！

天龍 （無視して）そういう意味では夢を語るぶんにはおもしろいところですよ、『ハッスル』は。

――夢といえば、RGvsボノのシングルマッチなんて考えられなかったですもんね。

天龍 本当だよ！ あんなんでお客が来るとは思わないよ！

RG あんなんってなんですか！

天龍 従来のプロレス団体でRGvsボノなんてやったら、「ふざけんな！」って、うっちゃって終わりですよ。でも、そういうカードで購買心を煽って、観に行こうというお客を集めたということは凄いことですよ。だから、そこで一生懸命に積み重ねたことが、次につながっているんだと思うし。

RG 本当にふざけてませんからね！ じつは、ちょっと前の『kamipro』で小佐野（景浩）さんが「天龍源一郎はいまだに革命し続けている」って書かれていたんですけど、それが僕の心に響いているんですよ。天龍さんの影響を受けている人たちって、みんな革命心みたいなのを植え込まれているなと思うんですよね。だから、おこがましいけど、僕もその中に入ったのかなっていう気がしますね。

――小佐野さんといえば、『ハッスル・エイド』で天龍さんがHGさんに負けたことにかなりショックを受けたらしいんですよ。それで、先ほどRGさんが言われた原稿を書かれたんですけど、それは従来のファンも同様で、ショックを受けたみたいなんですね。天龍さんは、そういうファンの反応についてはどう思われますか？

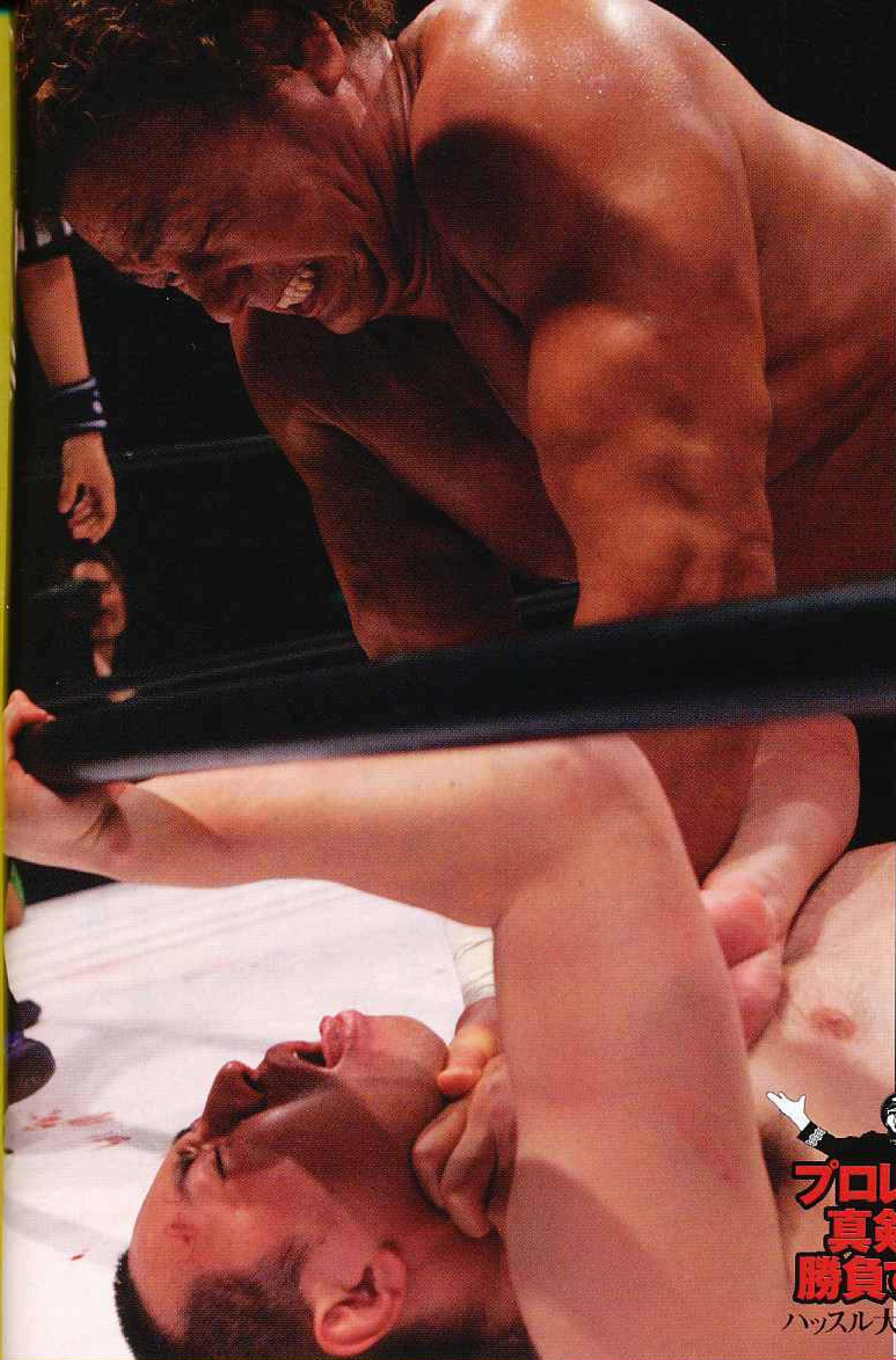
天龍 それは何回も話し尽くしているよ。メトロノームでたとえると、片っ方に昔やってた激しいプロレスがあって、もう一方に『ハッスル』とかがあるとすると、俺のメトロノームの針は、激しいほうのプロレスはもう満杯なんですよ。

――充分に満喫したってことですか？

天龍 そうです。いまは逆に針を傾けて、一生懸命やっているだけなんですよ。だから、激しいプロレスを観ていたファンからは「天龍はプロレスを冒涜した」とか言われるけど、そっちは充分にやったから、今度はこっち側の新しいものを観てくれっていうのが僕の考えですね。それにね、50人のファンが去っていったら、『ハッスル』を観てくれたファンが50人増えていると思っているんですよ。俺はね、間口をドンドン広げているつもりだから。

――確かに天龍ファンの間口は広がってますよ！

天龍 だから、間口を広げていくことに





天龍とRGは今年4月にシングルとタッグで激突。天龍の猛攻に果敢に立ち向かうが、天龍はそれをさらに厳しく叩き潰す。RGは泣き叫びながら闘い抜いた。

よって、生き抜いているというのが僕の実感なんですよ。生きているっていうんじゃなくて、生き抜いている。

――生き抜いている！

天龍　うん。自分で考えて、プロデュースして、自分を生き延びさせていくっていうのが、生き抜いていくっていうこと。同じ間口で、好きな人だけ集めて生きているっていうのは、ただ惰性で生きているっていうことなんだよね。新しいことにチャレンジして、批評されて、ファンが減っていくけど、それでも生き抜いていくっていう人のほうが凄いと思うし、好きだから。だって、簡単だよ？　嫌だったら辞めればいいんだもん。でも、辞めたくないんだったら、一生懸命頑張るしかないし、やる限りは一生懸命やって上にいくしかないですよ。っていうのが、俺の信念かな（照笑い）。

RG　聞きましたかぁ！　これがうちの師匠ですよおぉぉ！

――いや、素晴らしいお話です！　師匠のお話はいかがですか？

RG　初めて明確に言葉で伝わりましたけど、僕らはいつも天龍さんの姿を見て、これを感じているわけです。いいですか？　今日、あなたたちも革命の種をまかれたってことですから、皆さんも革命心を胸に抱いて頑張ってください！

――わかりました（笑）。ところで、髙田総統についてはどのように思われてますか？

天龍　いまの話と一緒ですよ。『PRIDE』の人とは別の人なんだけど、ある種の勇気はいったと思うよね。だから、吹っ切れてると思うんだよね。吹っ切れてるから、また新しい総統っていう理不尽なキャラクターが出てきて、また間口が広がっていると思うんですよ。それが人間の味っていうもんだよ！

――人間の味！

天龍　だって、20歳の頃の人間が50歳になっても同じっていうのは狭いと思うよね。「いい味出てきたね」っていうのが人間味ってもんだよ。髙田総統はいまはドンドンそうなりつつあると思うよ？　だから、それに惹かれて人が集まってきている……、とHGが言ってました（笑）。

RG　いやいや、HGは言ってない！

天龍　そこでRGって言ってほしかったんだろ？（笑）。RGって言うと、話が落ちないからね。

RG　落ちるでしょう！

天龍　俺の言っていることに真実味がなくなっちまうから（笑）。

――やっぱり信用されてないんだな（笑）。さて、話は変わりますけど、ついに『ハッスル』が大晦日に進出します！　地上波放送もあります！　大晦日といえば格闘技が主流なんですけど、天龍さんはいかが思われますか？

天龍　俺は、さすが『いい旅夢気分』をやってるテレビ東京は、いいところに目をつけているなと思いますね！　独自路線でやっているテレビ東京らしい、いいチョイスだと思いますよ。逆にさっきの話じゃないけど、いまは「格闘技、格闘技」って言われているから、こういう『ハッスル』のほうが除夜の鐘を聞きながら、のんびり過ごせる感じになっていうのがあるしね。そこには芸人さんの力も必要だし、キャラクターのある髙田総統とか、川田とかね、あれはなんて言ってるの？　〝へそ曲がり川田〟って言ってるの？

――モンスターKです（笑）。

天龍　ああ、モンスターK？（笑）。まあ、

ああいうキャラクターが活きる舞台だと思うんだよね。たぶん凄くマッチしていると思いますよ。21時30分からの放送でしょ？　その大英断には拍手を贈りますよ。俺の車のナンバーも1212にします。

――12チャンネルの12ですね（笑）。

天龍　で、RGさんはいかがですか？（妙にかしこまって）。

RG　なんで、司会になっているんですか（笑）。でも、テレ東さんの『やりすぎコージー』という番組でRGというキャラクターも生まれましたし、何か少しでもご恩返しができれば、と。僕はテレ東で生まれ、テレ東で育ったようなものなので。

――初めて聞きました（笑）。

天龍　とりあえずオープニングはDJ OZMAの格好で出ていかないとな（笑）。

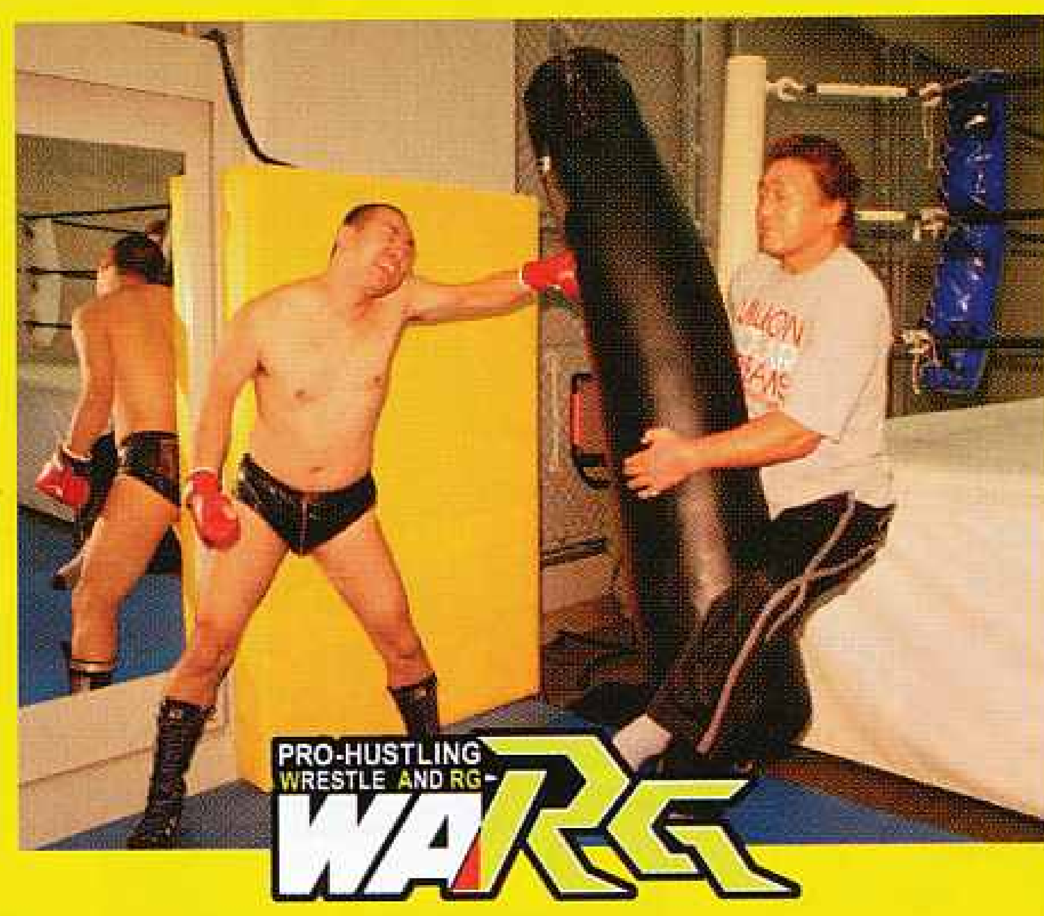
RG　紅白に当ててね（笑）。テレ東さんにやれと言われれば、DJ OZMAでもなんでもやりますよ、ボディスーツでもなんでも！

天龍　（あきれた顔で）DJ OZMAって言っている時点で、向こうの宣伝しているよ。もう、失敗だよ。

RG　ワー！　それ、天龍さんが言ったんじゃないですか！

天龍　口から出まかせ（笑）。

RG　危うく口車に乗るところだった（笑）。でも、テレ東さんのためならなんでもやりますぐらいの勢いです、はい！



あーるじー■1974年6月8日、熊本県出身。立命館大学時代に学生プロレスにて活躍。同志社大学で同じく学生プロで活躍していたHGとお笑いコンビ・レイザーラモンを結成。HGのブレイクを受けて参戦した『ハッスル』では、その凄まじい受けっぷりで評価が急上昇。周囲の期待に反し、メインイベンターをたびたび務めるほどまでに成長した。177cm、74kg。

てんりゅう・げんいちろう■1950年2月2日、福井県出身。全日本で三冠ヘビー級など数々の王座を戴冠。SWS移籍を経てWARを旗揚げ。馬場、猪木の二人からピンフォールを奪った唯一の日本人でありながら『ハッスル』ではハードゲイコスチュームに身を包むなど、固定観念にとらわれることなく、プロレスの地平線を切り拓いている。189cm、120kg。

――しかも大晦日のあの時間帯ですからね。

天龍　敵に不足なしって感じですよ！

RG　いままでは格闘技同士の闘いだったわけですからね。

天龍　でも、視聴者には選択肢ができていいんじゃないですか？　格闘技だって、みんなが観たいと思って観ているわけじゃないからね。そういう人にも『ハッスル』は楽しんで観てもらえると思いますよ。

RG　いままでは『ハッスル』を観せるまでに時間がかかっていたんですけど、大晦日は一番観てもらいやすい時間なので、ドーンと観客動員数と認知度が増えるチャンスじゃないかと思います。

天龍　「さらに」と言ってくれる？　「さらに観客動員数と認知度が増える」と。全然、低いみたいじゃねえか！（あきれた顔で）これがRGがいま一つ伸びきれないところなんだよな。言葉に語弊がある。

RG　弟子の悪いところをわかってくれている師匠です（笑）。

――わかりました！　では、息の合ったWARGで大晦日まで突っ走ってください！

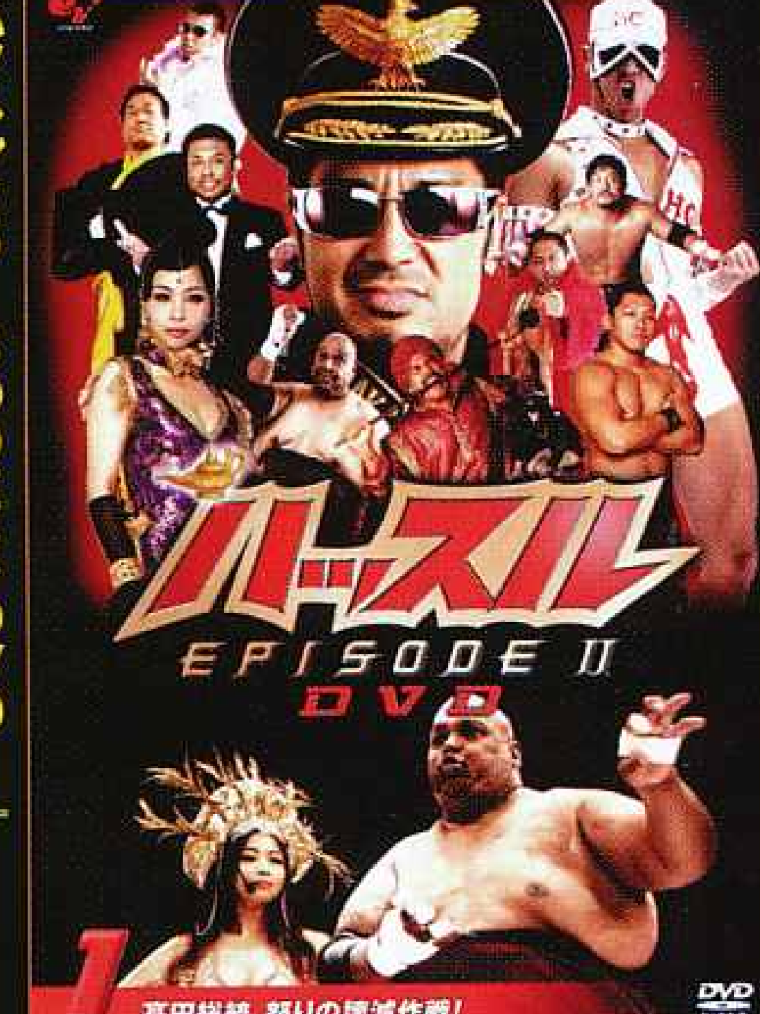
天龍　でも、俺にとっては『kamipro』から取材が来たのは本当に青天の霹靂だったよ。

――最後まで天龍さんの『kamipro』へのイメージは謎だなぁ（笑）。

【07年11月1日／都内・ハッスル道場にて収録】

（大晦日中継は）さすが『いい旅夢気分』をやってるテレビ東京だけに、いいところに目をつけてる（天龍）

ハッスルの2007年を凝縮した新DVDシリーズがついに発進！『ハッスル EPISODE Ⅱ DVD1』11月28日にビターン！と発売



『ハッスル EPISODE Ⅱ DVD 1』
標準価格／4800円＋税
発売日／07年11月28日　発売元／エンターブレイン

髙田総統が今年2月に『ハッスル』を買収したことでいきなり幕を開けたハッスル EPISODE Ⅱ。髙田総統がすべての権力を掌握して、中立だったGMのポストを廃止！　ハッスル軍も事実上の解体に追い込まれ、すべては髙田モンスター軍の支配下に置かれるというドラスティックな転換が行なわれた。このDVD『ハッスルEPISODE Ⅱ DVD 1』には、そんなハッスル第2章の幕開けともいうべき3～5月のナンバーシリーズとハッスル・ハウスの模様がギッシリと収められている。

髙田総統によって小川直也が買収され、TAJIRIがインリン様のイン乳を飲んで洗脳され、大谷が自分の毛髪が薄いのはハッスル軍のせいだと信じ込まされて裏切った。ハッスル軍はボロボロの状態に追い込まれて『ハッスル・エイド』を迎えようとしていた。

このDVDには『ハッスル・エイド』の模様は収録されていないが（『ハッスルEPISODE Ⅱ DVD 2』に収録）、最も厳しい時期の『ハッスル』が収録されている。

3月に再スタートを切った『ハッスル』は地上波放送が決まらず、『エイド』に向けて新たな芸能人も決まらず、セレブ小川の去就も決まらずという厳しい台所事情で『ハッスル』全体が苦しんでいた時期である。そこで素晴らしい活躍をしたのがコンビ結成10年目のHG＆RGのレイザーラモンだった。とくに、4月の『ハッスル22』大阪府立体育会館大会でのHG＆RG vs 天龍源一郎＆川田利明は、天龍の本気度MAXのグーパンチでRGの顔面がみるみるうちに変型し、HGの胸板が逆水平チョップでみるみるうちに変色する『ハッスル』では非常に珍しい壮絶な内容で、試合終了後はバックステージも涙の洪水となった。

芸能人でありながらメインを張る彼らが、「『ハッスル』を背負う」という覚悟を見せつけた記念碑的な試合である。

『ハッスル』が大晦日にたどり着くまでの苦闘の歴史をおさらいするには最適の内容なので、『ハッスル祭り』の前に必ず観ておきたい一枚だ。（文／坂井ノブ）



妄想爆発!! 暴投もあり!!

「中2男子目線でメチャクチャやります!」

『ハッスル』地上波レギュラー番組が高視聴率獲得!!
総合演出・香川春太郎が語る『どハッスル!!』の作り方

プロレスが真剣に勝負する!!
ハッスル大晦日特集

『ハッスル』の地上波レギュラー放送『どハッスル!!』が快進撃! バラエティ的手法により、既存のプロレス番組と一線を画す構成となっている同番組の総合演出を務めるのは、これまで『進め!電波少年』などを手がけてきた香川氏。『ハッスル』をテレビ番組に変換させるその技に迫る!!

文／佐藤譲　撮影／山口比佐夫　写真提供／ハッスルエンターテインメント

第1回＝東京ダイナマイトを招き、ハッスルに対するダメ出しバトル。
第2回＝髙田総統を秋葉原のメイド喫茶でいじりまくり。
第3回＝RGを鍛える名目で、小林聡、青木真也、木戸修が登場。RGを徹底的に（相撲的に）かわいがる。
第4回＝タイガー・ジェット・シンとアブドーラ・ザ・ブッチャーを招聘して、芸人ドッキリを敢行。
第5回＝天龍源一郎と桜新町を散歩。名付けて「アド街ック天龍」。

番組の大半はMCであるケンドーコバヤシを中心に、ハッスラーをいじくる爆笑バラエティ。試合に至っては番組全体の1割5分程度。土曜深夜、テレビ東京で放映を開始した『どハッスル!!』は、いわゆる試合を中心にした既存の「プロレス番組」の枠から大きくはみ出たコンテンツだ。

「佐藤大輔と行った坂田亘選手の店で（ハッスルエンターテインメント代表の）山口さんに偶然会ったんです。それからしばらくして山口さんに誘われました。僕ね、プロレス大好きなんです。だから、好きすぎかつ敷居が高すぎて仕事にしづらいっていうのがありました。ただ『ハッスル』がデザインする、プロレスを突き抜けてる世界観には新鮮な魅力を感じます」

『ハッスル』についてなかなかに率直な印象を語るのは『どハッスル!!』で総合演出を担当する香川春太郎氏。そして氏は番組に参加する経緯をさらに振り返る。

「それで『ハッスル』ならなんでもありかなと思って、タブーとかないなら、おもしろそうだからいいかなって、喜んで受けさせてもらったんです」

そして香川氏は『進め！電波少年』などを手がけ、鍛え上げたバラエティ的手法

会場と違って、テレビは向こう向いてるヤツの首根っこをつかんで振り向かせる作業が必要

を発揮し、冒頭の企画を次々と敢行。そして結果、番組はスタート以来順調な視聴率の伸びを記録している。番組の基本テーマを香川氏は熱っぽく次のように語る。

「『中2男子目線のプロレスLOVE』です！　思いついたアイデアはとりあえずやろう、みたいな。で、毎回全力疾走！　ただし暴走もあり、と（笑）。僕はプロレスと格闘技は一緒だと思ってます。だから『どハッスル!!』は、『ハッスル』そしてプロレス・格闘技界にとっての遠心力になりたい！　そのためにはまず、中2男子目線が必要だと思うんです。妄想爆発みたいな！」

その一方で、『どハッスル!!』は試合の放送の割合も少なく、『ハッスル』そのものとはかなり切り離されたバラエティ番組だ。『ハッスル』にはもともと、テレビの構成作家が入っているが、彼らと『どハッスル!!』の演出として加わった香川氏とのあいだに対立はなかったのだろうか。

「冗談じゃない、対立はありませんよぉ！　深夜番組である『どハッスル!!』のスタッフはかけもちで仕事をやってる人が多く、作家をはじめとする一部のスタッフは『ハッスル』のイベントもやっているから忙しい。にも関わらず彼らは『ハッスル』が地上波で放送できる喜びに満ち溢れている、素晴らしいスタッフです。もちろん『その企画はテレビでやってもつまんない』ってシビアな話はします。しかしそれはプロとして普通に健全な発言です」

では、『どハッスル!!』におけるプロレスとバラエティのバランスを香川氏はどのように考えているのだろうか。

「それはレシピをバラすことになるんで秘密。要は中2男子にウケればいいっていうイメージだけ。ただし、番組を通じて全編試合という回もやりますよ。でもそれはケンコバが、番組ならではのオリジナルの解説を入れるというかたちですね。ケンコバという芸人は間違いなく本物。だから芸人ケンコバを100パーセントのかたちで見せてあげられたら番組は絶対おもしろくなるんですよ。それがプロレスLOVEと同じくらい重要な柱になってます。とにかく『ハッスル』をストレートに表現する番組作りはとても難しい。試合会場という空間なら、好きでお金を払って観に来てくれるお客さんは、まず笑ってくれる。でも、テレビは……猪木さんじゃないけど、向こう向いてるヤツの首根っこをつかんでこっち振り向かせるような作業が必要だから」

そして、あらゆる手を駆使して視聴者を振り向かせながら『どハッスル!!』はプロレス心をくすぐるスパイスやメッセージを随所に織り込んでいく。

RGの特訓の際にはゴッチ式トレーニングで逝去した神にリスペクトを捧げ、髙田総統には『PRIDE』の話題をガチで振り、青木真也には関節技の奥深さを遺憾なく発揮させる。

「単純に『青木を出せないかな？』みたいな気持ちがあったんです。あと、髙田総統はあのキャラでほかのバラエティ番組にもっと出ればいいのになぁ」

ハプニング、勢い、スリリングさ、驚き、笑い。これら『どハッスル!!』の中にあるさまざまな要素、それはもともとプロレスに内包されていたものだ。

そして、だからこそ作り手の創作意欲を刺激してやまない『ハッスル』。その素材を最大限に活かすために、スタッフはあらん限りの情熱を番組作りに注ぎ込む。

「『ハッスル』って、プロレスにまだ可能性っていうか地力があることを信じているから立ち上げられたと思うんですよ。だから、会場とテレビという違いはあっても『ハッスル』と『どハッスル!!』のスピリットは同じです。あと深夜番組って2、3本まとめ撮りっていうパターンが多いけど、『どハッスル!!』って週に1本収録なの。昔の『8時だヨ！全員集合』みたいにスタッフ全員がまるまる1週間とりかかる、みたいなね。だからもうお金の問題じゃないんですよね、みんな。そういう環境があるのが一番嬉しいし、凄いと思いますよ。とくに、いま忙しいケンコバのスケジュールを、週一で切ってくれる吉本（興行）さんには大感謝です」



10月6日の番組放送開始以来、尻上がりに視聴率を伸ばしている『どハッスル!!』。RGを強化するという名目で、小林聡、青木深夜、木戸修という豪華キャスティングを揃えた第3回は2パーセントを突破。深夜2時50分スタートという時間帯での、この記録はテレビ東京では10年以上ぶりとのことだ。

ちなみに香川氏は現在の『どハッスル!!』を「総合格闘技に移行するための、KOKルール以前のリングスのような段階」と形容し、まだまだ実験中だと語る。

「ケンコバも言ったけど、団体の枠を飛び越えて番組を作りたいですね。それを許してくれるのが『ハッスル』だと思ってるんで。あとは山口さんに『それは困る』って言われるぐらいまでメチャクチャやってろうかなって思ってますよ（笑）」

90年代からプロレスの見方が多様化の一途にあるのは周知のとおり。にも関わらずそうした観る側のニーズに応える幅を持った番組は、これまで『リングの魂』くらいだった。『どハッスル!!』はいまの時代が求めた必然の産物とも言えるのかもしれない。

観客を喜怒哀楽のワンダーランドへ誘うのがプロレス。ならば、テレビというリングにおいてもプロレスはその魅力を発揮するべきだ。そのために香川氏をはじめとする全スタッフはあらゆる手段を講じて器を作り、観る側のアンテナを刺激していく。プロレス魂を持ったブラウン管の魔術師たちが手がける最高のエンターテインメント『どハッスル!!』。その痛快な暴走を見逃すな！

「僕、個人的に一番やりたい企画があるんですけど、○○館長を……（以下、自粛）。大暴走かな？」

【07年10月29日／ハッスルエンターテインメントにて収録】

どハッスル!!
（テレビ東京系列）
毎週土曜日
26時50分～27時20分
司会／ケンドー・コバヤシ、折原みか





生後初！

噂の"親子"が運命のご対面!!

"訳あり"な二人が"生後初"のご対面！　武藤と曙といえば、以前は全日本プロレスで師弟関係にあった仲だが、片や『ハッスル』の世界では、よくよく考えると二人の"変身"した姿であるグレート・ムタとモンスター・ボノはじつはインリン様を妻&母に持つ親子関係にある！　リング上ではまだ一度も会ったことのない二人だが、本誌が先取りして"代理人"の二人を直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ♂
試合写真／山口比佐夫、平工幸雄

プロレスが真剣に勝負する!!
ハッスル大晦日特集

――今日は、プロレスの師弟関係であり、『ハッスル』の世界では"親子"でもあるという不思議な関係のお二人にお越しいただきました！

曙　フッフッフ。（武藤に向かって）パパさん、よろしくお願いします。

武藤　なんかへんな感じだよなあ！（笑）。

――本当なら、今日は（ザ・グレート・）カブキさんのお店でインタビューを収録させてもらおうと思ったんですけど、残念ながらお店がランチタイムで忙しいらしくて。

武藤　それだったら"3世代"勢揃いだったのにな！

曙　なんで3世代なんですか？

武藤　アメリカだと、ムタのパパがカブキさんってことになってるんだよ。

曙　そうなんですか。じゃあ、ボノちゃんのおじいちゃんなんですね（笑）。

――そういうことです（笑）。では、さっそく始めさせていただきますが、まず武藤さん。インリン様から卵が産まれて、孵化して誕生したのがボノちゃんだったと聞いて最初どう思われました？

武藤　まあ……、いいんじゃない。グレート・ムタも認知するって言ってたよ（笑）。

――認知してましたか（笑）。

曙　フッフッフッ。インリン様、身体、大丈夫なのかね。こんなに大きいのが生まれて（笑）。

――卵自体はそんなに大きくなかったんで大丈夫だとは思いますけど（笑）。でも、まさかこんな血縁関係がムタに生まれるなんて思いもしませんでしたよね。

武藤　そういう意味じゃ、子どもっていうのは過保護に育ててもよくないんでね。全日本プロレスを卒業して、新たな環境を自分で切り開いてるのはいいんじゃない。やっぱ荒波もあるだろうけど。



「それならインリン様も入れて6人タッグマッチでもやるか！」（武藤）

「Dynamite!!は一試合ぐらいプロレスの試合があってもいいんじゃないの？」（曙）

武藤敬司×曙

曙　でも、最初は嫌がってましたよ、ボノちゃん。

——ダハハハハ！　嫌がってましたか（笑）。

曙　嫌がってたというか、まだボクにはそこまで余裕がなかったんですよね。プロレスラーとしての曙がまだ完成していないのに、新しいことに挑戦するっていうのは、ちょっと厳しいのかなって……。

武藤　っていうかさ、オレ、見たことないんだよね、ボノちゃん。本来の曙とどう違うの？　闘う型が違うの？

曙　要は、赤ちゃんなんですよ、ボノちゃんは。で、チューチュー（おしゃぶり）しながら、ニコニコ笑顔で手を叩いたりして喜んだりして……。（恥ずかしそうに）

——これが本当にかわいいんですよ（笑）。でも、殴られたりしておしゃぶりが口からはずれちゃうと、見違えるように凶暴になるんですよね。

武藤　へえ～（真剣な表情で）。

——おしゃぶりが飛んだあとの、その変わりようがまた素晴らしいんですよ。表情から動きから、何から何まで！

武藤　それを一瞬で切り替えるのって大変だろうねえ。



ザ・グレート・カブキの息子としてアメリカのWCWで人気を不動のものにしたのが、ボノちゃんの父であるグレート・ムタ。カブキが引退を表明した際、ムタが「パパと一緒に仕事がしたい」とコメントしたことにより、98年8月、カブキとムタの"親子タッグ"が実現している。はたしてムタとボノは!?

——でも、そういう感性みたいなものが研ぎ澄まされてるんですよ、ボノちゃんは。

曙　フッフッフッ、照れるよ（笑）。でも、そうやって皆さんに言っていただけることで、いっそう向上心が出ますね。でも、逆に「バブー」とか言っておしゃぶりまでくわえてるのに、それで何も言われなかったら「何をやってるんだろう、オレは……」ってなっちゃいますよ。

——確かにそこまでやっておいて無反応は寂しいですね（笑）。

曙　そうやってお客さんとかに反応してもらえると、もっともっと上を目指してやりたいなっていう気持ちになります。

武藤　それってさあ、赤ちゃんなんでしょ？　究極は「オギャー、オギャー」って言いながら小便ぶっかけるってのもいいんじゃない？（笑）

曙　ファッファッファッファ！　そこまではさすがにできないっすよ（笑）。

——しかし、横綱はプロレスのリングに上がるようになって、まだ2年ほどしか経ってないんですよね。

曙　最初、ムトさんのところでプロレスを始めて、全部が全部ではないにしても、半分ぐらいはプロレスってものを吸収させてもらったと思うんですよね。あとはムトさんに教えられたものを生かして、舞台を探しながら闘うつもりですけど。

——とくに最近の弾けっぷりは素晴らしいですよ。アクションも表情も。

武藤　まあ、プロレスっていうのはその場その場のいろんなカルチャーだからさ。いろんなものを吸収できてていいんじゃない。

——でも、そんな横綱のプロレスラーとしての才能を一番最初に見出したのは武藤さんですよね。武藤さんは横綱のどんなところに可能性を感じてたんですか？

巡業ではやっぱ曙のネームはデカイ！コンビニに行ったって全部タダなんだから!!（武藤）



武藤　やっぱ存在感だね。オレらってさ、要は人に見られてる"見せ物"だから。そういう認識を持ってやってないと、お客さんに夢も提供できないんだよね。そういう意味では彼にはもの凄い存在感があるし、並のプロレスラーにはない卓越したものを持っているよ。

——日本中どこに行っても一目で曙さんってわかりますかもんね（笑）。最初に全日本で巡業に連れていったのもよかったんでしょうね。

武藤　あれは楽しかったねえ（しみじみ）。

——横綱はプロレスを始めた最初の頃の巡業っていうのはやっぱり意味が大きかったですか？

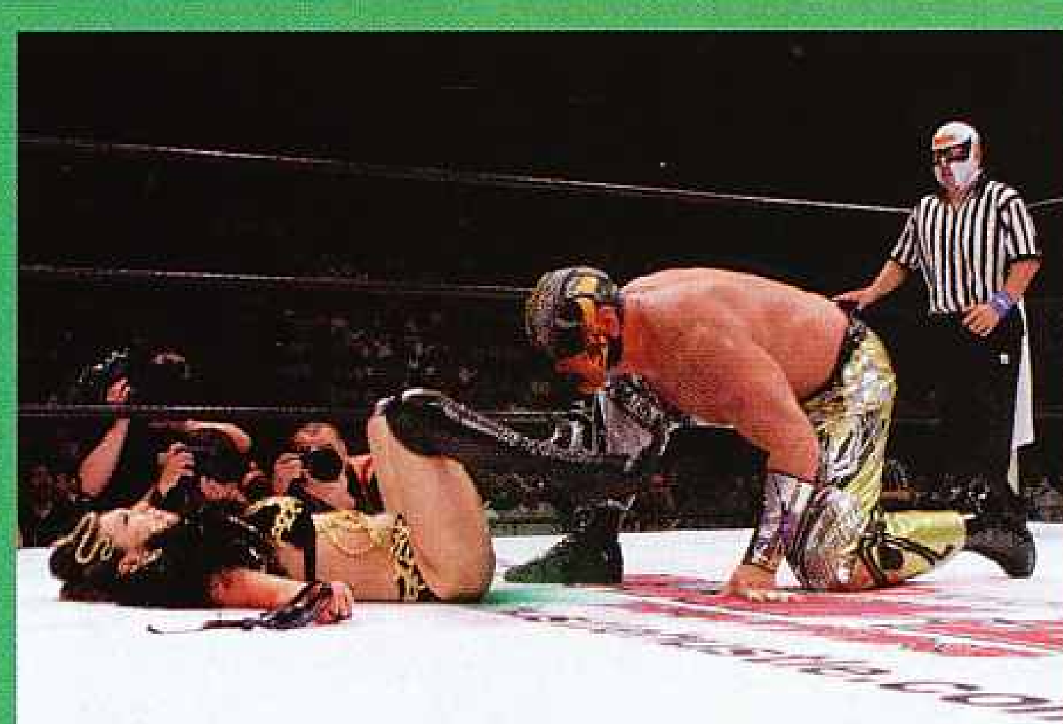
曙　もちろんですよお！　プロレスってやっぱり闘う相手がいて初めてできるものじゃないですか。試合のときだけ会って馴染もうとしても、なかなか気持ちは伝わらないものですよ。でも、団体で巡業回ると、やっぱり気持ちが通ってきますよ。それに、もともとボクは大相撲からプロレスの世界に来てるから、巡業が嫌だとかも思わなかったですしね。

ムタの毒霧からボノちゃんの誕生までをフラッシュバック！



インリン様失神

ムタの毒霧を股間に浴びたインリン様は、緑色に染まった股間を見るやいなや、ただならぬ声で絶叫し、そのまま失神。急きょ、担架で運ばれる事態となった……。



グレート・ムタ毒霧噴射

6.17『ハッスル・エイド2007』にてRGが魔法のランプから復活させたのは、なんとグレート・ムタだった。ムタはインリン様のM字固めを切り返すと、股間めがけて毒霧を噴射!!



でっかいボクが生まれてインリン様、身体、大丈夫かね？

――確かに、相撲時代はイヤというほど地方を回りますもんね。

曙　巡業する仲間には、若い人から大先輩までいろいろな人がいるんで、やっぱり必死になって吸収しようとしましたよ。その気持ちがなければ、いまの曙はないだろうと思います。……あ、でもムトさんが巡業中に「ファ●ク！　ファ●ク！」ってよく言ってた意味が、今回の新日本の巡業でわかりました（笑）。

――今回というと、新日本のタッグリーグ戦で回ったときですか？

曙　もう、頭のてっぺんから足の先まで、身体がイタくてイタくて（つらい表情で）。そうすると「ファ●ク！」って叫びたくなるんですよね（笑）。

武藤　ワハハハハ！　でも、巡業ではやっぱ曙っていうネームはデカイよ！　オレなんかより全然デカイ!!　だってよお、コンビニに買い物に行ったって、曙はタダにしてもらえるんだぜ！

――横綱だけタダ!!

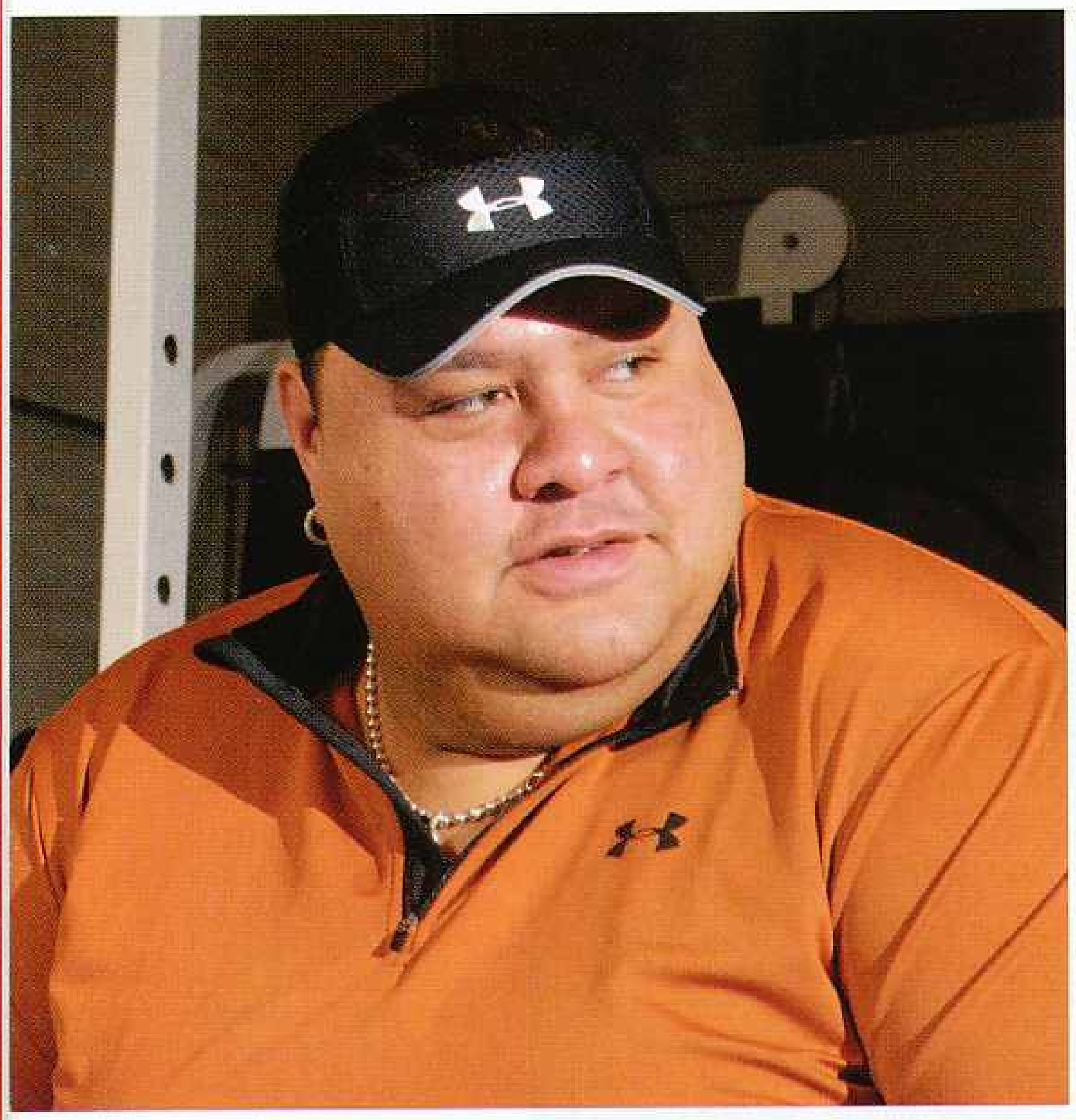
武藤　レジのおばちゃんなんかも曙見ただけでビックリしちゃってさあ、「持っていっていいですから」って言うんだよな！

曙　フッフッフッフ、ありましたねえ。そんなことも（笑）。

――地方に行けば行くほど、来てもらえるだけで嬉しいというのがあるんでしょうね（笑）。

武藤　相撲っていったら、やっぱりNHKの世界だしな。それにNHKって地方に行くほど影響力があるからね。だって、お歳を召した方から子どもまでいろんなジェネレーションが観てるわけじゃない。凄いよ、横綱は！

――それにしてもタダは驚きですねえ。そういうことは昔からあったんですか？



曙　現役で相撲をやってたときはマゲも浴衣も着ているから、わかりやすかったと思いますけど、なんでいまになっても？って思いますけどね。

――いやいや、そのビジュアルでも充分にわかりますよ！（笑）。そういう意味では、プロレスラーとして魅力は最初からもの凄く抜きん出てたんですね。

武藤　そうだな。まあ、プロレスラーとしてというより、人間として魅力があったってことだよね。

――それで、プロレスの師匠であり、"変身"の師匠である武藤さんにうかがいたいんですが、ムタに変身するというのはいったいどんな気持ちなんですか？

武藤　う～ん、『ハッスル』に出たときは、けっこう地で闘ったかな。っていうか、べつに変える必要ねえもんなあ、オレ。たださ、ムタが作られる過程では、やっぱり武藤敬司は相当に悩んで作ってるからね。

――ムタは武藤さんがアメリカ修業時代に誕生したんですよね。

武藤　最初、アメリカに渡ったときはベビーフェイスで闘ったりしてたんだけど、

現役の力士時代はマゲも浴衣も着てたから でも、なんでいまになってもわかるの？（曙）

これじゃ武藤敬司は何も変わらないってことで、2試合目か3試合目にヒールに転向して作っていったからね。でもまあ、本来ムタはアメリカからの輸入なんだけど、"アメリカでの武藤敬司"をやっていれば、それがムタだったんだよね。ただ、日本では武藤敬司ってすでに存在するから、ムタは変化をつけざるをえないよな。

――いまや、武藤敬司とムタはまったくの別人格になってますよね（笑）。

武藤　やっぱり商売になる以上、二重に儲けなくちゃな！（笑）。でも、一昨日アメリカから帰ってきたばっかりなんだけど、アメリカのビジネスも日本みたいになってきたなって思ったんだよ。

――日本みたい、というのはシステムがということですか？

武藤　所属選手を抱えるんじゃなくてさ、プロモーターがその都度、フリーの野郎集めて興行やるっていう繰り返しになってるなって。こういう興行システムだとネームバリューのあるヤツしか呼ばれないじゃない。まさにそんなふうになってるんだよ。

――ああ、日本でいうと、（佐々木）健介さんとか鈴木みのるさんのような人が重宝されてるということですね。

武藤　そう、そう。まあ、今回はオレもそんな役割で向こうに呼ばれて行ってきたんだけど、あらためて自分がやってきた過程がよかったなあと思えたよね。

――では、横綱はいま自分のキャラクターを作っている段階ということですかね？

曙　ボクの場合はムトさんのようにそんな余裕はないですね。いまは与えられたものを必死にやるだけしかできないです。

――武藤さんがアメリカに行って、アメリカでの武藤敬司を作っているように、横綱は『ハッスル』でのボノを作り上げて



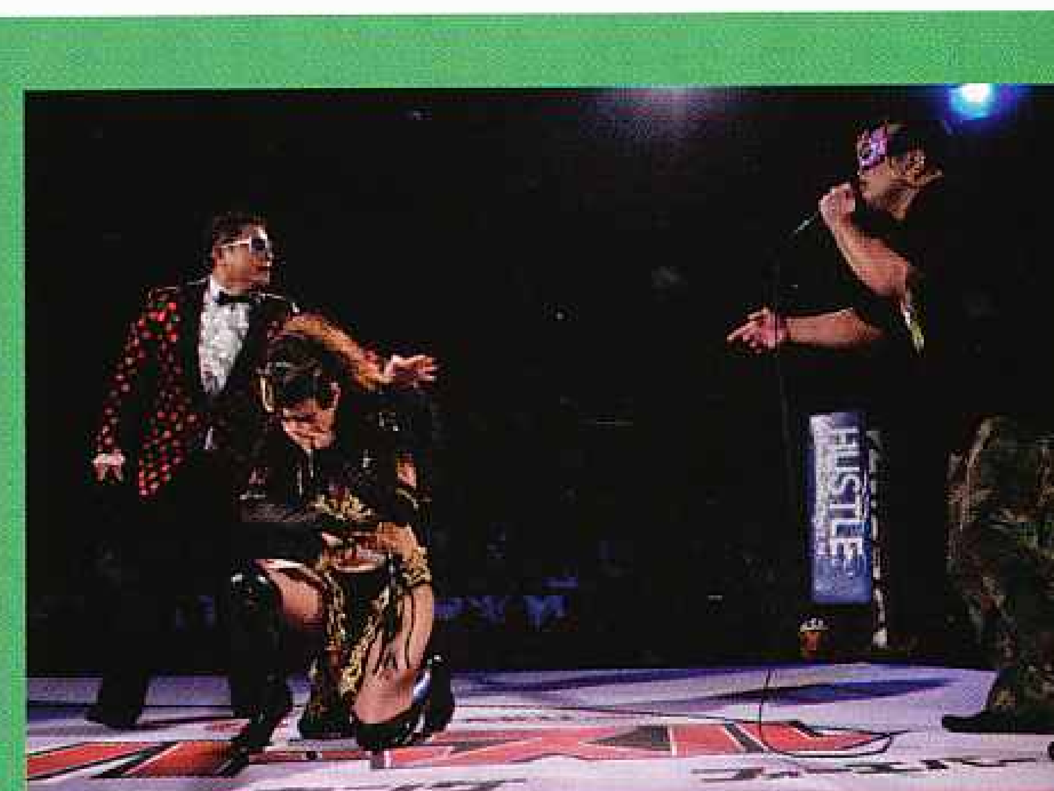
モンスター・ボノちゃん誕生

卵から産まれたのは、モンスター・ボノだった!!　8.18『ハッスル25』でめでたくご生誕となったボノは、卵の大きさを無視した巨体を堂々披露。ハッスル軍を恐怖のどん底へと陥れたのだった。



イン珠生誕

1ヵ月後の8.5『ハッスル・ハウスvol.27』にて、早くもインリン様の卵誕生！　毒霧のせいなのか、今回の卵は不気味な緑色。いったいどんな"魔物"が誕生するのかと思いきや……！



インリン様、ご懐卵と判明

その後、7.11『ハッスル・ハウスvol.26』にて元気に姿を現わしたインリン様だったが、なんとリング上でつわりの症状！　なんと、2度目のご懐卵が判明した。

いるという？

曙　そうですね。でも、たぶんムトさんのほうが大変だったと思います（笑）。

——でも、別キャラがあるにせよないにせよ、プロレスラーって、やっぱりそのプロレスラー像になりきるというのは大事なことですよね。たとえば、猪木さんだったら猪木寛至からアントニオ猪木になる瞬間ってあるわけじゃないですか。

武藤　ただ、プロレスが衰退した一つの要因は、そのプロレスラーになるための壁が凄く低くなったよね。だって、最近は普通の人がリングに上がってレスリングしている光景が多いじゃん！　普通の人だったら、空中回転3回ぐらいやらないと、非日常にならねぇぜ！

——なるほど。確かに100キロ以上ある武藤さんがムーンサルトをやるから、意味があるわけですもんね。

武藤　普通の人みたいなのが、ありきたりのプロレスやっても非日常になってないんだよね、その空間は。

——それがプロレスが地盤沈下を起こしてる原因になってるということですね。

曙　いやあ、でも、ムトさんが言ってることわかりますよ。最初『ハッスル』に上がって、RGにボロクソ言われて、ボク、マジギレしましたもん。『ハッスル』でボク、ボノってなってるじゃないですか。でも〝曙〟のことをRGにボロクソ言われて、「オレは曙じゃない！　違うって言ってるだろが!!」って（笑）。

——ダハハハハ！　よりによってRGにマジギレしてるっていうのもおもしろいですけど（笑）。

武藤　その点さ、『ハッスル』は普通の世界じゃないじゃない。そういうところだと、オレも認めざるをえない部分ってやっぱりあるんだよ。芸人って普通じゃねえし、やっぱりしぶとさは超一流っていうかさ。

——インリン様なんかもリングに上がると見違えますもんね。武藤さんも対談されたときと、リング上のインリン様とまったくイメージが違ったんじゃないですか？

武藤　プロレスの技術はさることながら、やっぱり一コマ一コマの表情だとかは、普通のレスラーより全然上にいますよ。でも、そういうものはボノもでき上がってると思うんだよね。逆に普通のレスラーのほうが機械的な動きしかできないんじゃない？　道場が作り上げたオートマチックな動きみたいなさ。

——確かに、表情だったり身のこなしみたいなのは、お客さんのいない道場じゃ学べないかもしれませんよね。その点では、武藤さん自身はそういう感性は世界中をくまなく回って身につけてこられたものでもありますよね。

武藤　そう、そう。常に客は違うからね。同じことやったって違うお客だから、いちいち表現するものが違うんだよ。

——じゃあ、横綱がいまいろんな団体に上がっているというのは非常にいいことですね。

曙　ぜんぶお客のタイプが違いますね。新日本プロレスと『ハッスル』も違うし、全日本プロレスもやっぱり違いますよ。

——そうすると、それぞれお客さんの目線を意識した闘い方をしてるということですか？

曙　そこが難しいところなんですよね。ボクはそんな器用なプロレスラーではないんですけど、試合をやって、それがお客さんに伝わるか伝わらないかですよね。ボクはトップロープから飛んだりとかできないですから、やっぱり表情を変えたりとかそういうことを一生懸命やってますけど。

——トップロープから飛んでる横綱はみたいですけどね（笑）。

曙　フッフッフッフ。一応、やってみたいとは思ってるんですよ（笑）。

武藤　マジで!?　そりゃ、やっべえなあ！（笑）。

——横綱はジミー・スヌーカに憧れてるぐらいですからね（笑）。でも、試合を観てると、横綱はそんなにたくさん技を出しているわけじゃないですけど、インパクトは凄く大きいんですよ。

曙　まあ、身体が大きいからですね。だから試合では小柄な人に技をたくさん出してもらって、自分は一回か二回、ドーンっていう技を出すのがいいのかなって。そういうところでボクは必要とされているのかなと思いますね。





このボノちゃんの素晴らしい変貌ぶりを見よ！　おしゃぶりをくわえると驚くほどかわいいボノちゃんだが、一旦はずれるとこの形相！　この表現力に曙の並々ならぬプロレスラー魂を感じないではいられないのだ!!

——えーっと、そういえば武藤さんも最近はあんまりたくさん技を出してませんよね。いろんな技を出してるようには見えはするんですけど、よくよく観てると……。

武藤　（開き直って）ワハハハハ！　そんなこと、言わんといてよ！（笑）。

——でも、大物になればなるほど逆に技が少なくなっていくイメージってありますよね？（笑）。

武藤　まあ、意味のある技と、意味のない技が存在するからね。

——ちなみに横綱はいまフラッシングエルボーとかをやってますけど……。

武藤　（さえぎって）フラッシングエルボーなんかただのエルボードロップなのに、すげえ無駄な動きしてるだけじゃねえかな！

——ダハハハハ！　自分からそれを言ったら元も子もない！（笑）。

武藤　でもさあ、あの無駄がいいんだよな！　プロレスっていうのは。無駄をどうモノにするかが勝負なんだよ。

曙　いやあ、勉強になりますね！

——でも、話をしてて思うのは、横綱は凄くプロレスに対して前向きというか凄くポジティブに捉えてますよね。

武藤　それはそうだろうよ！　プロレスというのはアメリカからの文化だからな。そういう点では、横綱はプロレスに対して凄く豊かな環境で育ってるんだよ。アメリカ人として生まれ育ったのに、一方では相撲の世界にいたわけじゃない。相撲の縦社会も知っているわけだし、両極端なアメリカのスタイルも知っていて、両方ができるわけだから、それで、現実にそこを生きているわけだから。

——それは大きな武器ですよね。武藤さんがアメリカに現地の感覚を学びに行ったのと同じような感じですよね。

武藤　そう！　そう！

——本当にインターナショナルなレスラーになれる可能性があるわけですけど、横綱はいろんな国に行ってみたいとかそう

いう願望はあるんですか？

曙　いやあ、日本で育てられたから、なんとか日本で頑張りたいですね。けど、チャンスがあれば勉強したいし、やってみたいとは思います。

武藤　あ！　いま思い出したけど、そういやさ、ボブ・サップも『ハッスル』に上がってるんだよね？　サップはどういうキャラクターなの？

――ボブ・サップは本人のまま登場してますね。

武藤　変わらないの？　ボブ・サップも誰かから生まれてくればおもしろかったのに。ボノと一緒に「バブー、バブー」からやらせればよかったのによお！

――一応、「ボブー」とか言ってて、ちょっとボノちゃんもライバル視してるんですよ。

曙　え？　あれ、「バブー」じゃないの？　ま、どっちでもいいけどね。でもボノちゃん、高田総統には「ライバルはサップじゃないんだよ！」って怒られたりしてるんですよね（笑）。

――だから、一応同じモンスター軍ではあるんですけど、なぜか敵視しているという設定になってるみたいです（笑）。

武藤　へえ～。同じ高田モンスター軍なんだ。まあでも、『ハッスル』はいつでもチーム変更できるからな！（キッパリ）。

――ダハハハハ！　そんな『ハッスル』ですが、11月、ボノちゃんはかなりのビッグマッチを控えていますね！

武藤　エッ、どこでやんの!?

曙　『ハッスル・マニア2007』を横浜アリーナで。ママと組んで天龍&RG組と闘います！（笑）。



うわ～、いいよなあ～。オレだってママと組みたいよ！（武藤）

『ハッスル・マニア』ではママと組んで天龍&RG組と闘うんですよ（曙）

あけぼの■1969年5月8日、米国ハワイ州出身。大相撲時代は第64代横綱として通算11回の優勝記録を持つ。引退後はK-1、『Dynamite!!』のリングに登場し、05年8月には『WRESTLE-1』でプロレスデビュー。その後、武藤を師と仰ぎ全日本で修行。また『ハッスル』ではインリン様の息子であるモンスター・ボノとして大暴れしている。203cm、200kg。

むとう・けいじ■1962年12月23日、山梨県出身。84年に新日本プロレスに入門し、同年10月蝶野正洋戦でデビュー。海外遠征時にグレート・ムタを誕生させ、人気を不動のものに。帰国後は、橋本真也、蝶野らとともに闘魂三銃士を結成し、またまた一大ブームを巻き起こす。02年には全日本プロレスに移籍し、社長に就任。188cm、110kg。

武藤　うわ～、いいよなあ～。オレだってママと組みたいよ！

――そういえば、ムタとインリン様はあのときは敵同士でしたからね。

武藤　しかもさあ、いま別居中じゃない！　別居中って言い方もおかしいか。まあ、一夜限りの出来事でボノが生まれちゃったからさあ！

――ゆきずりの関係なわけですね（笑）。でも、一度はファミリーで闘う姿を観てみたいですけどね。その際にはおじいちゃんのカブキさんをセコンドとして据えて。

武藤　おっ！　いいねえ！　おもしろいねえ、それ！

曙　でもそれ、『Dynamite!!』でやってみたいですね（笑）。ボク、『Dynamite!!』には一試合ぐらいプロレスの試合があってもいいと思うんですよ！

武藤　ワハハハハ！　そりゃそうだよ！（笑）。じゃあ、インリン様を入れて、6人タッグマッチでもやるか！

――それ、谷川さんならやりかねないですよ（笑）。

武藤　でも、そうなると、対戦相手がいないよなぁ。

曙　やっぱりどこかのファミリーと闘いたいですね。

武藤　健介ファミリー！　……かあ？

――でもいいですし、坂田と栄子でもいいかもしれませんし。

武藤　ああ、なるほどな！

――でも、アメリカで生まれたムタっていうキャラクターが物語としてどんどん一人歩きしていくというか、広がりを持っていくのはおもしろいですね。

武藤　いいね！　横綱もこれから二つの人生を歩んでいけるんじゃない？

曙　曙とボノちゃん？　まあ、とにかくボクは必死になって完成させたいなって思ってるだけです。じゃないと、やる意味もないですし。

――そういう意味では親方の武藤さんから見て、横綱がもうひとランク上のプロレスラーとして成長するにはどういったことが必要だと思いますか？

武藤　もう正直な話さ、『巨人の星』じゃないけど、成長した段階では親と子ってすでにライバルだからね。もう、こうなってくると、どちらがファンに夢を与えられるレスラーになるかという勝負だからさ！

曙　そんなもん、できるわけないじゃないですか！（笑）。

――偉大な親を持つと大変ですね（笑）。

武藤　あとは確実に曙もしくはボノを観たいというファンをいかに増やしていくかってことだね！

――（曙を見て）だそうです（笑）。

曙　きついっすねえ～（苦笑）。

――ダハハハハ！　ではぜひ、近い将来、この親子タッグ、あるいはインリン様も入れて家族タッグが観られるよう期待してます！

【07年10月31日／都内某所で収録】

11・25ハッスル・マニア&12・31ハッスル祭りを

大晦日はTBSと勝負だ！

観にこいや!!



髙田延彦

髙田モンスター軍・髙田総統の友人

『ハッスル』を一回も欠かすことなく会場で〝観戦〟しているという髙田延彦氏。〝全知全能〟なハッスルの支配者である髙田総統の〝友人〟であることから、『ハッスル』を熱く語らせたら右に出るものはいないと言われている。出役に最も近い立場から、11・25『ハッスル・マニア』そして大晦日の『ハッスル祭り』についての展望をうかがってみた。

聞き手／坂井ノブ　撮影／梅木麗子　試合写真／山口比佐夫　スタイリング／水口卓磨

——それでは本部長……、じゃなかった！　髙田さん、今日はよろしくお願いします。

髙田　気をつけてよ！　『PRIDE』がああなった以上、私はもうPRIDE統括本部長を名乗れないからね。なんなら髙田道場にも本部長というポストを作ろうか。髙田道場の代表取締役兼統括本部長……、そしたら髙田統括本部長になるだろ。

——いいですね！　やっぱり「髙田社長」と呼ばれるのは、しっくりきませんか？

髙田　しっくりこないね。……『kami pro』のインタビューは常にこういうくだらない会話から入るんだよね？

——はい（笑）。髙田さんの親しみやすさを伝えていきたいと思いますので。

髙田　でも、普段の私はそんなに明るくないだろ？

——いや、明るいですよ。何をおっしゃるんですか（笑）。

髙田　そう？

——とくに『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』（以下、『DKC』）のときは最高に輝いてますよ。

髙田　うまいこと言ってくれるね。

——念のため読者に説明すると『DKC』は子どもたちに格闘技の楽しさを味わってもらおうと髙田道場が主催しているイベントなんですよね。午前の部と午後の部のあいだの昼休みに、『ハッスル』とMMAのエキシビションマッチが行なわれているんです。そこで『ハッスル』のエキシビションマッチの最中に、髙田モンスター軍の鬼蜘蛛が髙田さんに襲いかかった。それに対して髙田さんがローキックと「ワガママなヒザ小僧」と呼ばれたヒザ蹴りで反撃するというシーンがありましたけど、あれはプロレス・ファンには涙もののシーンですよ。もちろん、子どもたちも大喜びでしたけど。

髙田　いま近所の怖いおじさんやおばさんがいなくなって、子どもの周囲に怒ってくれる人が少なくなったでしょ。べつの意味で怖い人は街中にいっぱいいるけどさ。

——いわゆる〝危ない人〟ですね。

髙田　あるいは最近、リアリティを持ったオバケみたいなものがなくなってる。怖い何かと向き合うという体験をしないで育つ子が多いんだよ。そういう中で、私の息子たちもあの場にいたんだけど、鬼蜘蛛のインパクトが非常に強かったみたいで「あの人、悪い人、怖い人！」ってずっと言ってたんだよ。

——かわいいですねぇ（笑）。

髙田　うん。一つそういう小さなインパクトを子どもたちの中に差し込むことによって、それが教育の一環になるんだよ。言うことを聞かない子どもたちに対して「悪さをしたら鬼蜘蛛が来るよ」「蜘蛛の糸でパーッとやられちゃうよ」と言ったら、「怖い、もうやらない」ってなるかもしれない。小さなことでもいいから、子どもたちにいい方向に影響を与えたいという考えで始めたことなんだよね。これからもあの時間は有効に使っていきたいと思ってる。

——次は12月にも開催されますよね。

髙田　いまからアイデアを練って、ご当地ものも仕込んでるよ。

——楽しみにしてます！　さて、その怖い鬼蜘蛛が活躍する『ハッスル』の地上波レギュラー放送がついに10月から始まりました。

髙田　ようやくだね。

——髙田さんは「（07年に）本気印のテレビがつかなきゃダメだよね。たぶん、そこが限界線だろうね」と、昨年12月にインタビューさせていただいたときにおっしゃってました。『ハッスル』のスタッフもそういう覚悟で4年目に臨んでいたと思うんですが、紆余曲折を経て正式決定するまでの心境はいかがでしたか？

髙田　旗揚げの時点で『『ハッスル』をスタートするためには何がなんでも必要だ』っていうものの中にテレビが核として入っていたんだ。

——核でしたか。

髙田　最初に『ハッスル』が放った空気感に対する世間のリアクションというのは極めて冷たいものだった。でも、私はこの方向性が間違ってるとは思わなかった。これをとにかく熱くしていこうということで逆にスタッフは一致団結したんだよ。熱くしていく作業の中で、いつかテレビの地上波放送をつかんでいこうというね。やがて一度は地上波決定というビッグニュースがあったんだけどね……。

——そうですね。ちょうど旗揚げから2年半の時点でした。

髙田　あそこで一旦、テレビの話が消滅



10月14日に行なわれた『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』の模様。髙田延彦のローキックがうなる！　昔からのファンなら感涙間違いなしの場面だ。次回の『DKC』（12月9日開催）も申し込み多数につき受け付け終了。大人気なのだ。

したけれども、我々のやってきたことは間違ってなかったんだ、と。いままでやってきたことを信じて、それほど傷を引きずることなく、これからも一生懸命やっていこうというスイッチに切り替わった。しかし、地上波放送がなくなった影響からくるダメージがボディブローのように効いてきた。たとえば、タレントさんが出られなかったりと、いろいろなことがやりにくい状態で、3年を経過したあたりからジリジリしてきたね。気持ちだけでは組織やイベントを続けていくことは不可能。「そろそろ地上波が決まりそうだよ」とか「いい話が聞こえてきたよ」って選手にアナウンスしても、それがなかなか具体的に見えてこないっていうジレンマもあった。制限のない待ち時間というのかな、そんな状況だから券売も悪くなっていく。「嫌な空気になってきたな」と危機感を感じるようになった。強くね。今年に入っても「6月には!」「8月には!」「10月には!」と願い続けながら踏んばってきた。最終的には非常にいいかたちになってくれたけど、私の気持ちの中ではギリギリだったね。

――3ヵ月単位でテレビ業界が改編していく中で、もうすぐ丸4年というタイミングでしたよね。

髙田　10月を逃したら、また手ぶらの状態でワンクール（3ヵ月）耐えなきゃいけない。非常につらくてきわどいワンクールになったと思うよ。そういう状況でもみんなくさることなく、いい作品をしっかり生み出してきたし、ストーリーに関しても地道にキッチリと手抜きをせずに作り出してきた。あたりまえの話だけど、その結果の積み重ねがあっていまの地上波放送にたどり着いたんだと思うよ。

――月1～2回の中継番組と週1回の『どハッスル!!』が放送中ですね。『どハッスル!!』はバラエティ的なアプローチですけど、ご覧になりました?

髙田　まだ観てない。

――髙田総統も出てらっしゃいましたけど（笑）。

髙田　あ、そう?

――秋葉原の路上に総統とアン・ジョー司令長官と島田二等兵がいるという、衝撃的な映像が流れたんですが、一般の人の日にはどう映るんでしょうね。

髙田　どう観えるんだろう?

――『ハッスル』ファンにとってはあたりまえの光景でも、一般視聴者には相当におかしなことやってるなというふうに映ってるとは思うんですけど。

髙田　いまはおかしなことでも、それが半年、1年後には銀座あたりを総統があの格好で買い物していても「あ、総統だ!」となるかもしれない。それが地上波の強さだよ。みんなそうなることを願ってる。

――非常識が常識に切り替わっていくわけですね。

髙田　うん！　地上波放送という大きな武器で、その現実をこれから手に入れなきゃいけないよ。我々は一つ一つのイベントを……、我々というか出役の皆さんは、ね。

――は、はい（笑）。

髙田　私は出てないから。出役の皆さんは一つ一つのイベントの完成度を上げるために、自分に与えられた仕事をパーフェクトにこなしていくということだよ。あとは徐々にそのリバウンドがいろんなかたちで返ってくるはず。もう勝負は始まってるし、『ハッスル』はある意味、いま本章に入ったんじゃないかな。

横綱も、総合格闘技で負けた経験も、ボノが『ハッスル』にたどり着くまでのプロローグ



――助走の期間は終わった、と。

髙田　助走をしっかりしなければ、大きなジャンプはできない。この3年半以上の成果がすべて助走となってね、やっといま踏み台へおもいっきり踏み込んで、蹴り上げて飛び立ったっていう瞬間だよ。

――そして、なんと大晦日に『ハッスル祭り』を開催することも決定しました。テレビ東京で当日のゴールデンタイムのオンエアも決定です！

髙田　凄い加速力だね。ボンヤリしていたら追いつけないくらい『ハッスル』は成長している。

――信じられない展開です（笑）。

髙田　スタッフからすれば嬉しいのと同時に怖さも含んだ現実だろうね。

――といいますと?

髙田　11月の『ハッスル・マニア』から大晦日につないでいく。当然、大晦日のイベント会場にはライブで『ハッスル』を観たことがない人も来る。そしてテレビを観てる人たちが、『ハッスル』というイベントに対してどういう評価をしてくれるのか。少し怖いけどおおいに楽しみだね。こういうビッグチャンスで勝負ができるエンターテインメントはなかなかほかにはない。こんな素晴らしいチャンスを手にしたんだから。『ハッスル』がいままでやってきた得意技を前面に打ち出すのと同時に、いまだからできる新たな挑戦を仕掛けるチャンスだよね。

プロレスが真剣に勝負する!!
ハッスル大晦日特集

――03年には大晦日に格闘技の番組が3つあるという状況もありましたけど。

高田　異常な事態だったよね。

――今年はTBSで『Dynamite!!』をやって、テレビ東京で『ハッスル』をやるわけですが、この二つが似たように見えるけどまったく違うものだということを視聴者がどこまで認識してくれるかも興味深いですよね。去年までの大晦日とは、高田さんの中では感覚的に違った迎え方になりますか？

高田　どうかな……、総統が『ハッスル』というイベントに参加を決めた大きなポイントになったのは『PRIDE』と勝負できるソフトに育てられるのか？　ということだった。すでに当時の『PRIDE』はとてつもなく巨大な生き物だったからね。『PRIDE』と勝負ができるだけのクオリティと夢、そして尊敬が『ハッスル』の世界観の中に作り出せるのか？　もしも、『PRIDE』が順調に走ってきていれば8チャンネルで『PRIDE』を、12チャンネルで『ハッスル』があり、それで勝負だよ。それが6チャンネルであっても同じこと。大晦日のゴールデンタイムに『ハッスル』が放送されるのであれば、それは基本的に全局と勝負するということだし、ましてやリングを舞台に闘いをテーマにしたエンターテインメントだ。TBSが同時間帯の競争相手の一つだったら、それを凌駕するような作品を作り上げるだけだよ。そのために『ハッスル』は生まれたんだからね。

――そうですね。ましてや大晦日の地上波放送でプロレスで勝負するというのは過去になかったことです。

高田　従来の旧態依然としたプロレススタイルの中継が、今後プライムタイムやゴールデンタイムに上がってくるのは不可能だと思うよ。『ハッスル』はいわゆるプロレス中継とは一線を画した、新たなジャンルとしてそれなりの評価をもらってるニュー・コンテンツらしいからね。要するに『ハッスル』がいままでやってきたこと、これからの可能性を見てもらった上で、このような大きなチャンスを手にすることができたと思うんだよ。



高田総統とインリン様とモンスター・ボノが一列に並ぶ！　出役のさまざまなバックボーンが溶け合って『ハッスル』の不思議な空間は醸成されるのだ。

――11月の『ハッスル・マニア』、そして大晦日の『ハッスル祭り』を前に新たな選手が増えてきましたよね。

高田　ここ最近で最大の収穫はモンスター・ボノだよ。

――いいですよねぇ（笑）。

高田　ボノの人生は、横綱も、総合格闘技で負けた経験も、ボノとして『ハッスル』にたどり着くまでのプロローグにすぎなかったんじゃないのか。彼は『ハッスル』に来るためにいままで修行をしてきたんだよ。

――それは凄まじい仮説ですね（笑）。

高田　安生洋二にしてもヒクソン（・グレイシー）の道場に行ったり、チャンプア（・ゲッソンリット）やハイアン（・グレイシー）とやったり、イスラエルで一本取ったのにまた試合をやらされたり、人生いろいろあったけど、すべては『ハッスル』に来るためのプロローグにすぎなかったんだよ。2年ぐらい前かな、そのことを私の中で確認したのは。

――確認しましたか（笑）。

高田　気持ちよく確認したね（笑）。「そうだったのか。長いプロローグだったな」と。これは理屈じゃないんだよ。私はそう感じたんだ。ボノにしても『ハッスル』の世界観に入っても違和感がまったくない。まるで『ハッスル』が闘ってるような、『ハッスル』がそこにいるような印象を受けたよ。

――『ハッスル』がそこにいる！（笑）。最高の賛辞ですね。

高田　それはほかの選手にも言えることだよ。みんなが各々『ハッスル』の要素を持ってるけど、ボノのようにわずか2〜3回の登場で、あれだけ『ハッスル』の空間が似合ってしまう男はいままで観たことない。ボノは『ハッスル』にもう一つ足りなかったゴージャス感を表現できる出役だよ。インリンとボノが大阪で二人で入場したとき、あのツーショットは、最盛期のWWEのゴージャス感を超えた光を観せてくれたよ。パフォーマンスもハッスラーだね。わびさびも持っている。すべては彼がプロローグの中で丹念に磨いてきたんだね。

――ちなみに高田総統は高田総統になるために生まれてきたんですかね？

高田　違うよ！　高田総統は生まれたときから高田総統だもん！

――あ、そうでしたね。

高田　おまえがその質問してどうする！

――す、すみません。

高田　総統は「オギャー！」と生まれたときから総統なんだよ。で、もちろんベビー服はいまの服装と同じデザインだよ。誤解しないように。

――失礼しました。話を戻しましょうか……、10月にはいきなりボブ・サップもやってきました。

高田　あと2〜3回は観てみたいね。ボノ同様、知名度は全国区だからね。しっかりと『ハッスル』に適合できれば大きな武器になるね。

――高田総統もおっしゃってましたけど、かなり選手層が厚くなってきてますよね。

高田　いままで『ハッスル』のイベントは何回ぐらいやったかな？

――かれこれ60回ぐらいやってますね。

高田　最初はなんて言われてた？

――「プロレスを壊した」とか「プロレスを貶めるな」と言われ続けましたよね。

高田　まあ、「もう少し待ってなさい」という感じだな。

――だいぶイメージが変わりましたよね。そんな現在の『ハッスル』を牽引しているハッスルエンターテインメント株式会社代表取締役・山口日昇社長についてはどのような印象をお持ちですか？

高田　ハッスルエンターテインメントが立ち上がるときに、「次に『ハッスル』を引っぱっていくのは山口日昇じゃなきゃできない」という思いが私の中にあってね、「山ちゃんがやらないなら俺も毎回観

にこない」と言ったんだ。

——観にこない！（笑）。

高田　何かおかしい？

——いや、『ハッスル』にとっては非常に重要な問題ですよ。

高田　そうなの？　とにかく、彼はこの業界を知り尽くしてるし、プロレスとそれ以外の融合可能なパズルのピースを持ってきて『ハッスル』の中にバランスよくはめ込むセンスもある。『ハッスル』を手のつけられない巨大なモンスターに作り上げるという志がなかったらやる意味がないっていう当初からの考え方も私と同じだったしね。最高のタイミングで彼が真ん中に立ってくれたよ。彼が真摯に『ハッスル』をいい状態へ押し上げようと行なってきた作業が、地上波に結びついてるし、大晦日のゴールデンタイムの放映に結びついてると思う。あとはやっぱり酒が好きっていうのがいいね。一緒に飲み明かすことができることで、いろんなものを共有できるよ。

——ひょっとして、それが最も重要だったりしますか？（笑）。

高田　当然だよ。いままで言ったことは単なる補足、一緒に一杯やることが一番のメインかもしれないよ（キッパリ）。

——わかりました（笑）。ところで、『PRIDE』があぁいったかたちで事実上の消滅をしてしまいましたが、新しく立ち上がった日本総合格闘技協会の動きに注目はされてますか？

高田　業界の秩序維持や発展のためには、非常に大事な作業だと思うよ。

——選手や関係者が大晦日に向かっていろいろと動き始めてますけど、高田さんは静観してる状態ですか？

高田　それは私が何かを期待して待っているということ？　何も待ってないよ。思わせぶりな部分は一切なく現時点ではまったくの白紙状態だね。PRIDE FC WORLD WIDEの正式声明文によって、私自身が自己の意識で完結させた部分が大きい。

——あのリリースによって？

高田　うん。ずっとこの業界に軸足を置いて生きてきた……、いまは、ふと自分の足元を見たら軸足がその業界の外にあるのよ。それに対しての違和感がまったくないんだよね。身体の一部と意識の一部を格闘技の空気に触れていたいという欲求は、いまは皆無なんだよ。地上波放送打ち切りから1年半。時間をかけて徐々にいまの気持ちにさせられたようだね。

——わかりました。当面のモチベーションといえば大晦日と『ハッスル・マニア』の視察に……。

高田　（さえぎって）観戦だよ。以前まではPRIDE統括本部長として視察していたけど、これからはファンとして純粋に観戦するよ。

——『ハッスル・マニア』と『ハッスル祭り』を読者にアピールするとなると、どんな言葉になりますかね？

高田　「観にこいや!!」で、いいんじゃない。

——シンプルですね！

高田　シンプルな気持ちで観てもらいたいね。これから来るよ、『ハッスル』が。

——わかりました。今日はありがとうございました！

【07年11月5日／都内・ラフォーレ東京にて収録】



TBSが同時間帯の競争相手の一つならば、それを凌駕するような作品を作り上げるだけだよ

たかだ・のぶひこ■1962年4月12日、神奈川県出身。新日本プロレスでデビュー後、UWF、UWFインターナショナルを経て『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーと対戦。日本の総合格闘技界の礎となる。02年に現役引退してからはテレビの解説などで活躍。最近では『ズバリ言うわよ』『笑っていいとも！』『チューボーですよ』など、さまざまなバラエティ番組に出演するだけでなく、08年放送のNHKの朝の連続テレビ小説『瞳』にも出演決定！　幅広く活躍中。

プロレス探検隊、今回は決死のミッション!?

茨城県に出没する“虎”を退治せよ!?!!



元『週刊ゴング』編集長、現『Gリング』統括プロデューサーの金沢“GK”克彦と元『SRS・DX』編集部の小松伸太郎。プロレスマスコミでも最も命知らずなことで知られるツートップが、プロレス界に残された数少ない“謎”に鋭くメスを入れる冒険企画「GKスペシャル・プロレス探検隊」。今回は、なぜか「茨城県内に虎が出没するので、プロレス探検隊に退治してほしいんです」という本誌の読者を名乗る匿名電話で緊急出動!! 茨城で虎？　そんな話は聞いたことないぞ!?　単なるデマか都市伝説じゃないの？　とにかく、真相をプロレス探検隊に確かめてきてもらおうじゃないか！



GK探検ファイル
No.008

本文構成／小松伸太郎（THE PEHLWANS）
撮影／山口比佐夫



GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。現『Gリング』統括プロデューサー。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なう一方、探検隊を結成し体当たりで取材に挑んでいる。

小松隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。“受け”の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。

GKスペシャル プロレス探検隊



「俺はまだ死ぬわけにはいかない。虎の調査はおまえに任せたぞ！」と嫌がる小松隊員に言い聞かせ、強引に帽子を授けた。鬼である。



小松隊員のブラインドを突いたGK隊長が取材班の車に小松隊員を押し込んでドアを閉める!! いつもは冷静なGK隊長、まさかのご乱心!?



虎退治とあって、アニメ『一休さん』を参考に縄で縛ろうと荒れ狂う小松隊員。対照的にどこかソワソワしているGK隊長だったが……。

10月某日
16:00
東京・六本木
いざ、出発！

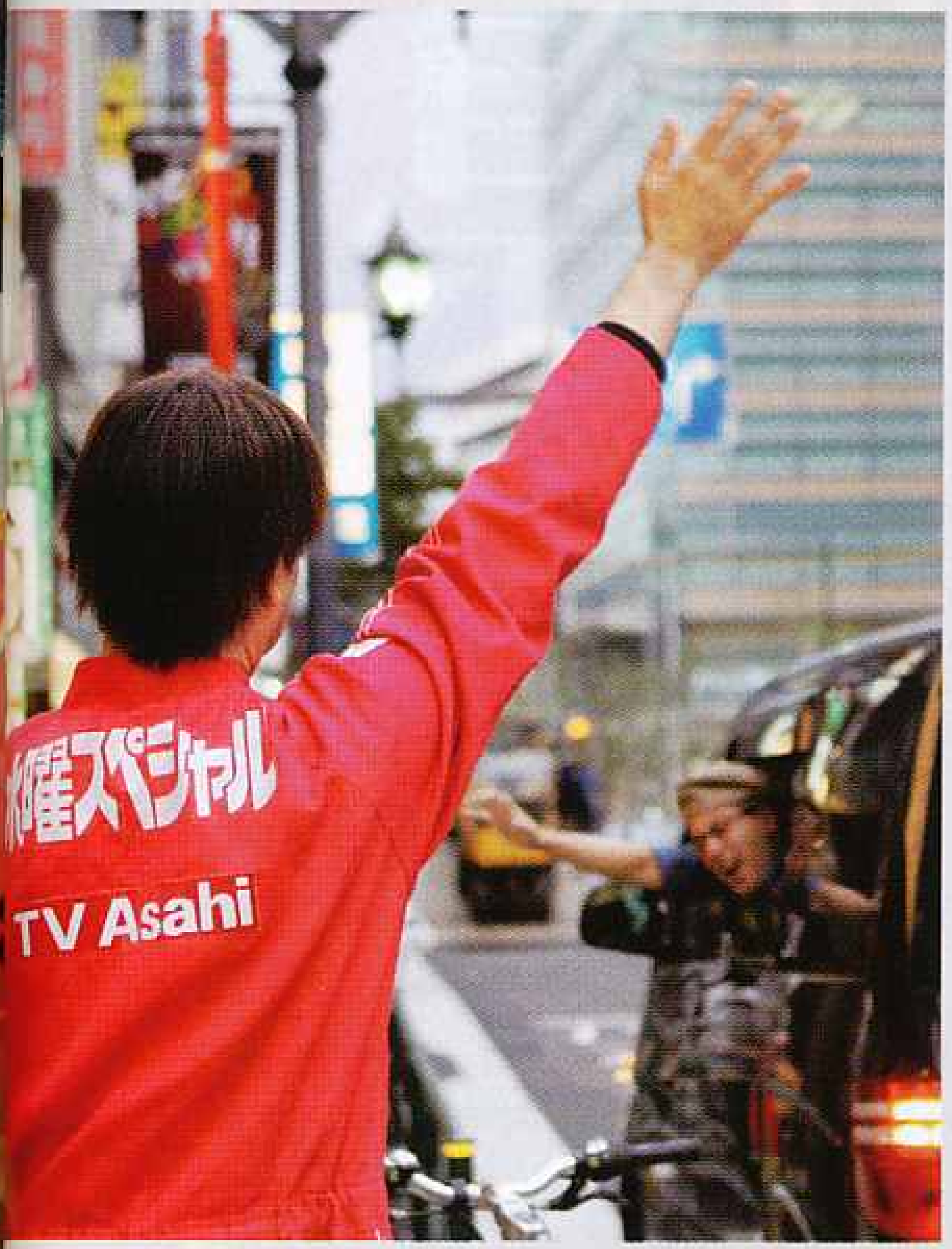


探検隊史上初の波乱が発生 GK隊長、突然バックレ!? 小松隊員が単身、茨城へ!!

いつものように意気揚々と探検に向かうGK隊長と小松隊員。今回の探検のテーマを聞き「虎退治？」と一瞬、耳を疑った両者だったが小松隊員は非常にモチベーションが高い。だが、GK隊長はなぜか涼しげな表情だ。そして事件は突然、発生した。なんとGK隊長が小松隊員を無理やり車に押し込んでしまったのだ。

「俺は虎との闘いに命を懸けてる場合じゃない。俺がいま死んだら『Gリング』の統括プロデューサーは誰がやる!? 小松隊員、今回は貴様だけで行くのだ！」そう熱く語りかけると、おもむろに隊長キャップを小松隊員に被せたのだった。

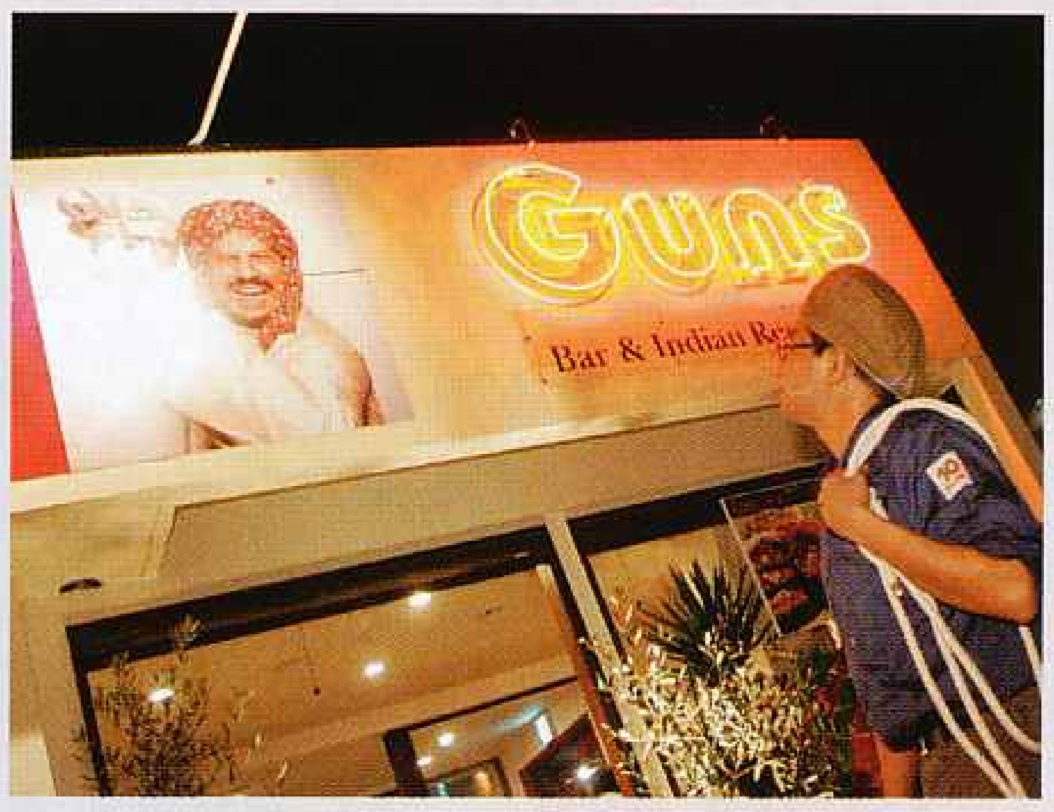
どんどん小さくなる小松隊員に手を振りながら、GK隊長は背中で泣いていた。ライオンは我が子を千尋の谷に落とすというが、今回の命懸けの探検に小松隊員というヤングライオンを突き落としたGK隊長の胸に去来するものはなんだったのか？ これが新日本イズムなのか？ それは誰にもわからない。ただ、GK隊長は車を見送ると、サッとつなぎを脱ぎ捨てて六本木の雑踏の中へと消えていったのだった……。



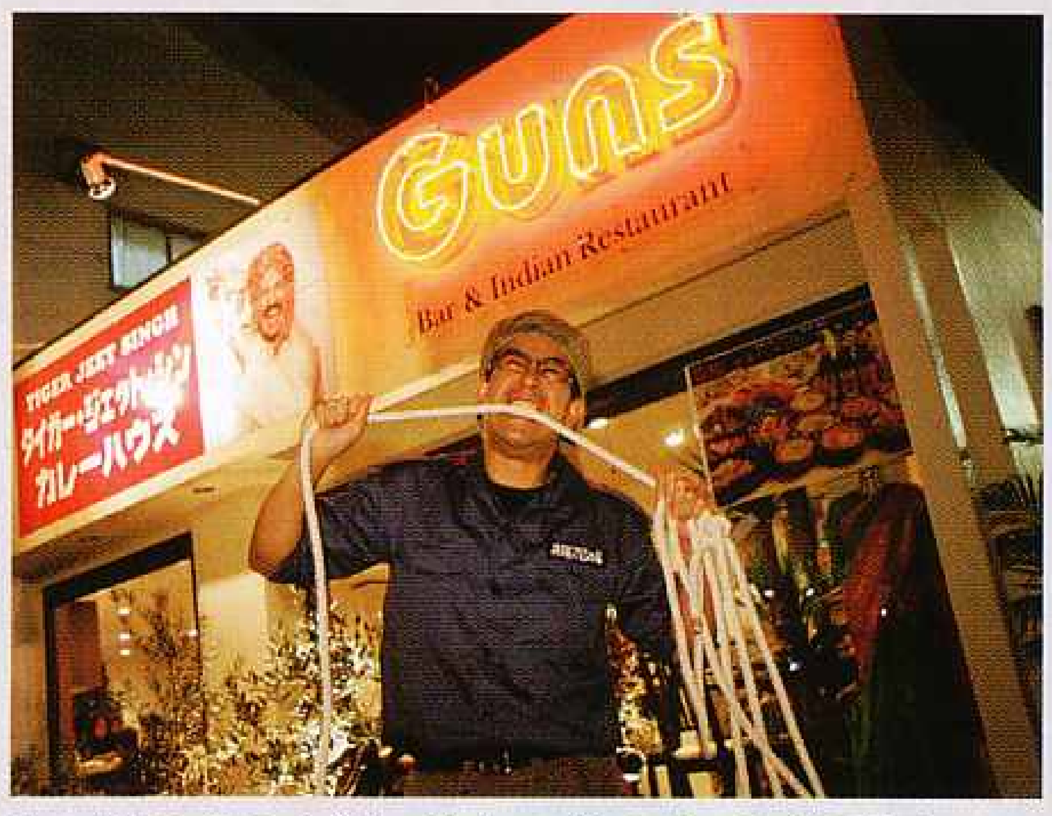
泣き叫ぶ小松隊員を温かく見つめるGK隊長。力強く手を振り、「生きて帰ってこいよ～」と絶叫するが、その背中は泣いていた。



店長を呼び出して「さあ、虎を出してみてください。私が退治してみせましょう」と得意げな小松隊員。まるで『一休さん』のとんち話だ。



あたりを見回しても虎はいない。あるのは『タイガー・ジェット・シン カレーハウス』の看板のみ。まさか、これが虎ってことか……!?



約3時間のドライブ中、泣きっぱなしだった小松隊員。あたりもすっかり暗くなり心細さMAXだが、あえて虚勢を張っているのだ。

10月某日
19:00
茨城・つくば市
ついに到着！



まるでアニメ『一休さん』 〝虎〟とは看板のタイガー・ジェット・シンだった!?

行く先も知らされぬまま、取材班の車に乗り込んだ小松隊員だったが、その車中では心細かったのだろう。ずっと泣きじゃくっていたのだった。高速道路を快調に飛ばす車の中で小松隊員は必死にモチベーションを高めていた。

「今回、隊長が僕を一人で行かせるのはきっと大きな意味があるはず。僕はその期待に応えるんだ！」決意を固めた小松隊員の表情から迷いが消えた。

約3時間のドライブを終え、車はとある飲食店の前に停まった。そこは茨城県つくば市。あたりは闇に包まれているが、看板だけがギラギラと輝いている。ゴクリとツバを飲み込んだ小松隊員の目の前に現われたのは、一匹の〝虎〟だった。

そう、虎は虎でも〝インドの狂虎〟タイガー・ジェット・シンである。だが、動く気配はない。それもそのはず、シンの看板だったのだから。

「虎って、このことだったのか？」

読者から寄せられた通報は単なるイタズラだったのか……。緊張感から解放された小松隊員は、調子に乗って店長の倉留ラジェシュさんを呼び出して「私は虎を退治しに来ました。さあ、この看板から虎を出してください」と言ったのだった。まるで『一休さん』のとんち話のように。

しかし、店長は「はい、わかりました」と言い残して店へと戻っていったのだった。それがまさか、あんな大惨事の序曲になろうとは、小松隊員は知るよしもなかった。

10月某日
19:30
茨城・つくば市
虎が出現！





店長が裏に下がり、やがて静寂が訪れる。看板を見つめる小松隊員に、"虎"が音もなく忍び寄る！　絶体絶命の大ピンチだ。危ない、小松隊員！



興奮状態の虎……、というかタイガー・ジェット・シンの猛攻に一瞬でKOされた小松隊員。しかし、シンは攻撃の手を緩めない。虎退治は失敗に終わった。



「ハタリハタマタッ！」小松隊員が気がついた瞬間には、すでに手遅れだった。あっという間にサーベルの餌食に。つくば市の夜空に小松隊員の悲鳴がこだまする!!

「虎よ、さあ出てこい！」

看板に向かって語りかける小松隊員。看板を見ているため、周囲の異変にまったく気がついていない。ドリフなら「志村、うしろ！うしろ！」状態だが、そんなことを言ってくれる気の利いたオーディエンスはもちろんいない。

店長が本当に連れてきてしまった"インドの狂虎"タイガー・ジェット・シンはサーベルを構えて小松隊員に気づかれないように、そーっと近づいていく。このへんは野生の本能というか、狩りの習性だろう。そして、射程圏内に入った途端に「ハタリハタマタッ！」と雄叫びをあげてサーベルで一撃！　暗闇とネオンの光と加害者と被害者のコントラストが絶妙すぎて、まるで殺人事件のような決定的瞬間である（写真右下）。

「ギョエ〜！」

声にならない悲鳴をあげて倒れ込む小松隊員。『一休さん』はとんちで窮地を切り抜けたが、これはまぎれもない現実である。"虎"が目の前に飛び出して、自分に襲いかかってきているのだ。これ以上やられては命が危ない……、そう感じた小松隊員は逃げようと試みるが、その背後からシンはサーベルで首を絞めあげる！

インリン様にお仕置きされたり、GBHにシメられたり、シュートボクシングの宍戸大樹にシゴかれたり、武富士ダンサーズやラッキィ池田や長州小力にダンスを習ったり……、いままでの探検が走馬燈のように小松隊員の脳裏をかけめぐる。数々の危険をくぐり抜けてきたが、今回ばかりは絶体絶命か!?　遠くなる意識の中で、小松隊員は「お父さん、お母さん、そしてGK隊長、いままで本当にありがとうご、ざい、ま、し……、た」と最期のお別れをしていた。

しかし、ここでシンが急に手を緩めた！　咳き込む小松隊員に、シンは「貴様、カレーは好きか!?　ハッ!?」と詰め寄ってくる。

「もちろんです！」即答した小松隊員は九死に一生を得たのだった。



10月某日
20:00
茨城・つくば市
虎を取材

タイガー・ジェットシン カレーを語る!!

カレー屋の前でタイガー・ジェット・シンに急襲されながら九死に一生を得た小松隊員を待っていたのは、シンのカレー・トーク！　GK隊長が不在の今回、小松隊員はシンの機嫌を損ねずに、無事生還することはできるのだろうか!?　生きるか死ぬかの瀬戸際を歩き続けてきた探検隊だが、いよいよ今回でその命運も尽きてしまうのだろうか!?　小松隊員が一世一代の最凶インタビューに挑む！

シン　ヘイ！　日本のコマツとやら、ユーはじつに幸運な男だ！

小松　こ、幸運!?　すでに隊長には裏切られ、シンさんから暴行を受けていますが……（涙）。

シン　（まったく聞かずに）ハッ！　今日はタイガー様がオーナーを務める『タイガー・ジェット・シン　カレーハウス』の開店祝いで、とても機嫌がいい！　だから、特別にこのカレー屋の話を聞かせてやろう。光栄に思え！

小松　ラ、ラジャーです……。

シン　（勝手に話し始めて）まず、言っておくが、このタイガー様はホテル経営をはじめとして、さまざまな事業を手がけている。しか〜し、今回のカレー屋のような外食産業は初めてだ！　いわばこのタイガー様にとっても、インドの密林のような未知の領域だったんだ。ところが！

小松　と、ところが？

シン　この店の風景を見ろ！　ユーの目には何が映っている？

小松　大勢のお客様が楽しそうにカレーを食べてる風景ですが……。

シン　そのとおりだ！　つまり、このタイガー様はすでにこの事業を成功さ

せてしまったのだ、ハッ！　地元のつくば市民はもちろん、日本全国のタイガーファンがこのカレー屋に押し寄せてきている！

小松　に、日本全国からつくば市に!?　ところで、カレーといえば、ミスター・シンの母国インドが本場だと思うのですが、やはりこだわりがあるのでしょうか？

シン　ハッ、愚問だな。店で提供する食べ物はすべて俺様が試食し、口に合わないものは「すぐに変えろ！」という指示も下している。しか～も！

小松　しか～も？

シン　このタイガー様は健康にも気を使っている。だから、ここのカレーは非常に身体にいい！

小松　つまり、ここのカレーを食べればミスター・シンのように強くなれると？

シン　良いところに気がついた、コマツよ！　辛いものを食べると身体は強くなるし、頭はカーッとなる！　エネルギーが湧いてくるんだ。だから、タイガー様は世界中を旅しているときでもカレーを欠かさない。カレーはパワーの源なのだ！　しかも、この店のカレーを食べると、どうなるか？　答えは一つしかない！

小松　ど、どうなるんですか？

シン　スーパーパワーがつく！　ハタリハタマタッ！

小松　（小声で）なるほど、凶暴性の源はカレーということか……。

俺様のパワーの源はカレーだ！食べるとスーパーパワーがつく！

シン　ヘイ、何か言ったか？

小松　い、いえ、何も！

シン　驚くのはまだ早い！　何を隠そう、ここのコックは五つ星レストランからスカウトしてきた超一流のコックなのだ！

小松　五つ星レストランのコック！　素晴らしいですね！

シン　イエス！　超一流のタイガー様が雇う人間は、超一流の人間でなければならない！　しかし、俺様が気にくわなかったら、即クビだ！

小松　な、なんと厳しい！

シン　ハッ！　あたりまえだ。タイガー様の辞書に「妥協」という文字はない！　このタイガー様が提供するもの、それはすべてファーストクラス！　ナンバルワン、ナンバルワン！

小松　ナンバーワンですね？

シン　ナンバルワンだ！　そして、この店ではナンバルワンのタイガー様がいつも食べているメニューを特別に提供している。

小松　（興奮して）ス、スペシャルメニューですか!?

シン　そうだ！　その名もタイガー・ジェット・シン・スペシャル！　ハタリハタマタッ！

小松　そのまんま！（笑）。

シン　（無視して）スペシャルなカレー、タンドリーチキン、シシカバブー……、いずれもタイガー様の舌を満足させてきたものばかりが、これでもかとばかりに皿に盛られてくる！

小松　う～ん、パワフル！　そういえば、タイガーさんのライバル、アントニオ猪木さんも『アントニオ猪木酒場』という居酒屋チェーンを出しているんですよ。

シン　（険しい顔つきになって）な～に!?　イノ～キがなんだって？

小松　あ、いや、居酒屋チェーンをやられていると……。

シン　こ～の愚か者ッ！　ユーは真実が見えてな～い！（ドンドンと机を叩く）。



こちらはこのお店のメニューだ。ご覧のように「タイガー・ジェット・シン・スペシャル」は本当に存在する。実際、このあとカレーをごちそうになった小松隊員は、あまりのうまさにほっぺたが落下したらしい。ハタリハタマタッ！

小松　アワワ……、な、なぜですか？

シン　イノ～キは金儲けのためにチープな居酒屋をやっているだけだろう？　このタイガー様はほかにも、もっとたくさんのビジネスをやっている！　タイガー様にとって、このカレー屋はホビーだ！　金儲けなど一切考えてない！　日本の庶民にも、タイガー様がいつも食べているおいしいカレーを食べてほしい。そういう優雅な気持ちでやっているんだ！

小松　し、失礼しました……ミスター・シン。

シン　イノ～キのビジネスはすべて失敗しているだろ？　イノ～キはリングでもビジネスでも、そして人生でもこのタイガー様に敗れた敗北者だ。ハッ！　ちなみにタイガー様はカナダで全室スイートルームのホテルを経営している。そのうちタイガー様のホテルで、イノ～キをベッドメイキングにでも雇ってやろう（ニヤリ）。

小松　な、なんたる暴言！　これは隊長に報告せねば！

シン　イノ～キの話はもういい！　（睨みつけながら）それよりも、このカレー屋をちゃんとマガジンで宣伝するんだろうな？　もし、それを怠ったら、ユーの身体は虎の食べるカレーの具となるだろう！　ハタリハタマタ～ッ！

小松　ヒエ～！　ラ、ラジャーです、ミスター・シン！

【07年10月13日／茨城・つくば市「タイガー・ジェット・シン カレーハウス」にて収録】



金沢"GK"克彦隊長の探検レポート

「獅子は我が子を千尋の谷に落とす」とは、あの星一徹（巨人の星）が常々口にしていた言葉。「虎だ、虎だ、おまえは虎になるのだ！」はアニメ『タイガーマスク』の冒頭に流れる一言（※この場合、関係ないか？）。小松隊員よ、キミは星飛雄馬なのだよ。いつか父（隊長）を乗り越えて、満天の夜空に輝く"探検隊の星"をつかむのだ。小松よ、よくぞ頑張った！（※いやあ別件の仕事が先に入っててよかったあ。シンだけは苦手なんだよなあ……）。



小松伸太郎隊員の探検レポート

つくば市まで強制連行されるわ、人前でシンに暴行されるわ、さんざんな一日でした。しかも、お客さんからは「テレビ朝日？」って聞かれるし……。前々回、探検したプチシルマの加畑社長も「テレ朝が取材に来たのか？」って、色めきたってたらしいから、紛らわしいことこの上ないですね。この探検服は。まあ、肝心のカレー料理は文句なしにおいしいので（とくにタンドリーチキンは絶品！）、つくば市まで足を延ばす価値はありますよ！



タイガー・ジェット・シン カレーハウスの正式店名は「Guns Bar&Indian Restaurant」

【場所】茨城県つくば市天久保1-8-9 第2松見ビル1F
【TEL】029-859-6677
タイガー・ジェット・シンの甥っ子さんが経営している。タイガー様いわく「ファミリー・ビジネスだ！　ハッ！」とのこと。本場のカレーを味わってみろ！

暮れ〜の元気なご挨拶〜♪

大晦日格闘大戦、開戦秒読み!!

も〜いくつ寝ると〜、大晦日〜♪

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定致します。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますので、ご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は12月21日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦気になる年末年始イベントは?（その理由）⑧好きなレスラー&格闘家グッズ

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「大晦日は大食い対決?」係まで

※締切は12月20日（木）当日消印有効

kamipro 117 応募券 ハイ! 菅澤です

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

HERO'S





2 名様

HERO'S "ICON" Tシャツ

ホワイト／¥4,410（税込）

その名もズバリ『HERO'S』の"ICON"Tシャツは「僕は死にましぇ〜ん!」とばかりに、フロントには「HERO'S NEVER DIE」というストレートなメッセージ入り! 人気商品を2名様にプレゼント!



1 名様

『HERO'S KOREA 2007』大会パンフレット

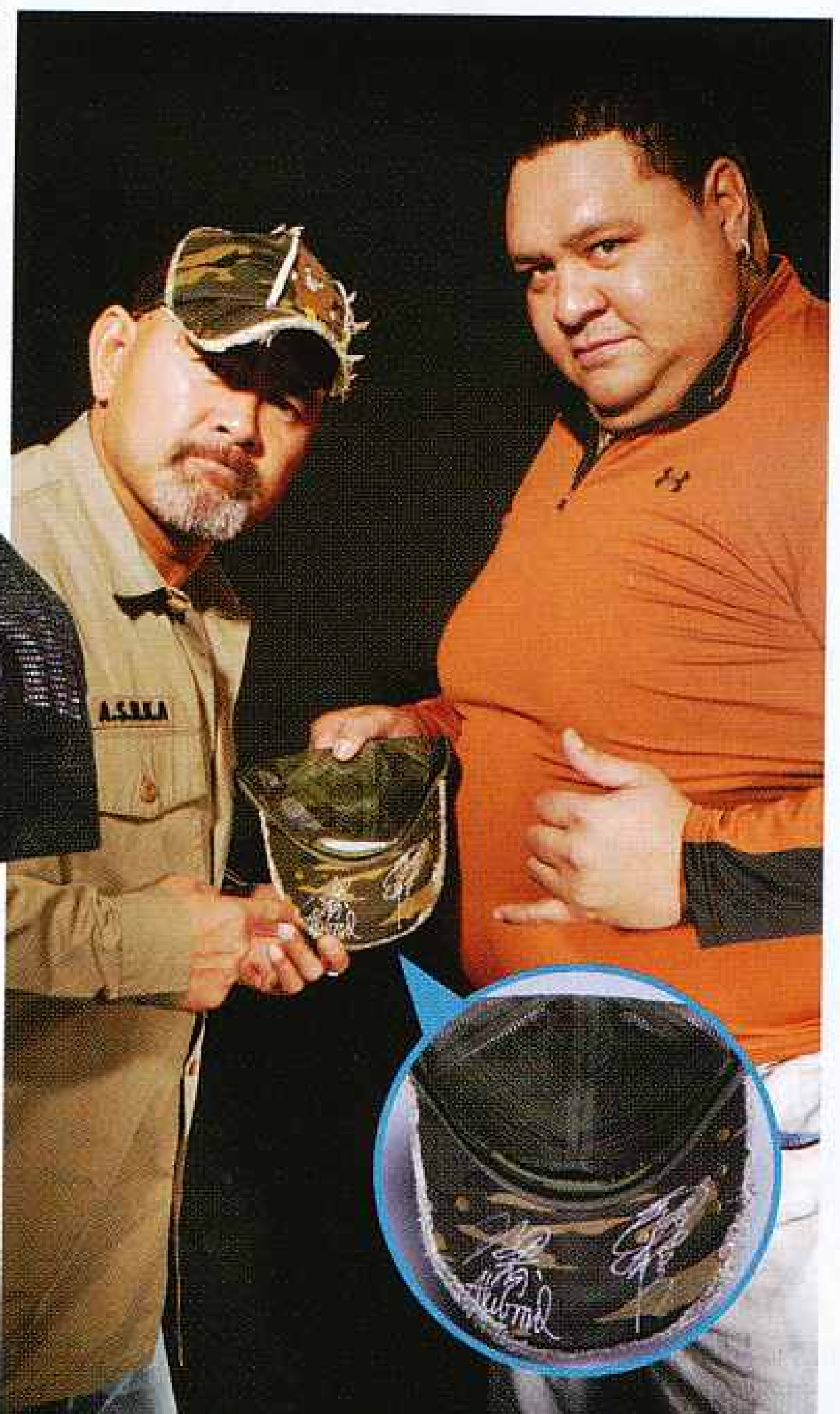
"恐怖の魔王"秋山成勲が復帰戦で衝撃のKO勝ちを収めた10.28『HERO'S KOREA 2007』。パンフレットの表紙は韓国で絶大な人気を誇る秋山とデニス・カーン。もちろん全文ハングルの貴重な逸品だ。

FEG■http://www.k-1.co.jp/

ALL JAPAN

1 名様

サイン入り





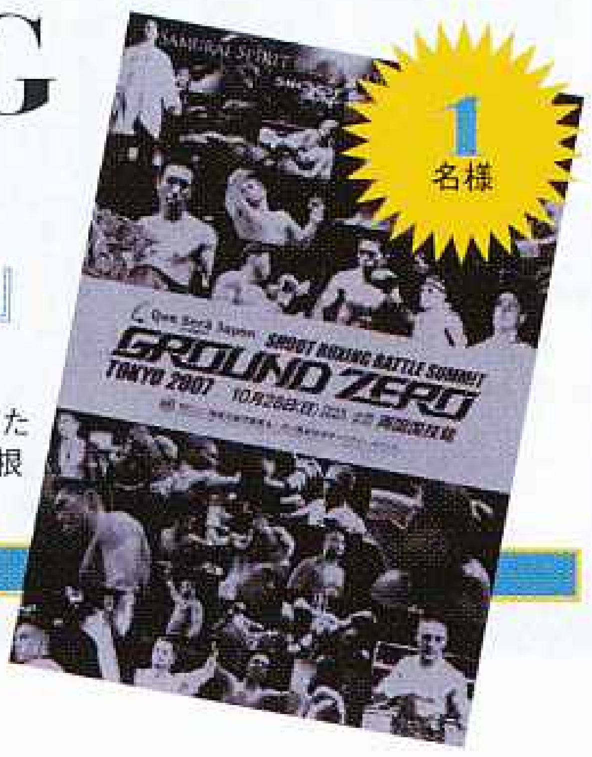
武藤敬司&曙サイン入り武藤ベアー迷彩CAP

¥3,675（税込）

父と子がついに感動の初対面!? インリン様との関係も気になる武藤敬司と曙の対談実現を記念して、親子揃って（?）の貴重なサイン入り"武藤ベアーCAP"の迷彩カラーを1名様にプレゼント!

全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

SHOOT BOXING



1 名様

シュートボクシング『GROUND ZERO TOKYO 2007』大会パンフレット

桜井"マッハ"速人、ギルバート・アイブルら元PRIDEファイターの参戦に沸いたシュートボクシング両国大会の公式パンフレットが到着! シーザー会長と関根勤氏の対談や、ラウンドガールのグラビアも掲載など充実の内容!

シュートボクシング■http://www.shootboxing.org/

REVERSAL



シュートボクセスタジアムジャンパー

ブラック／¥31,290（税込）

ヴァンダレイが去っても、シュートボクセは「ヤルゥ!」。木枯らし吹き荒れる季節を前にreversalから、ショーグンもお気に入りという豪華なシュートボクセのスタジャンを大放出!

各 1 名様



スカルグラップリングTシャツ

ホワイト／¥5,040（税込）

ドクロ状のシルエットに浮かびあがる柔術家同士の壮絶な決闘、そしてマシンガン! ひと目見たら忘れられないインパクトあふれるreversalの人気Tシャツ。白地のシンプルデザインで、どんなときにも闘う魂をどうぞ。



EL REVERSAL Tシャツ

ホワイト／¥4,200（税込）

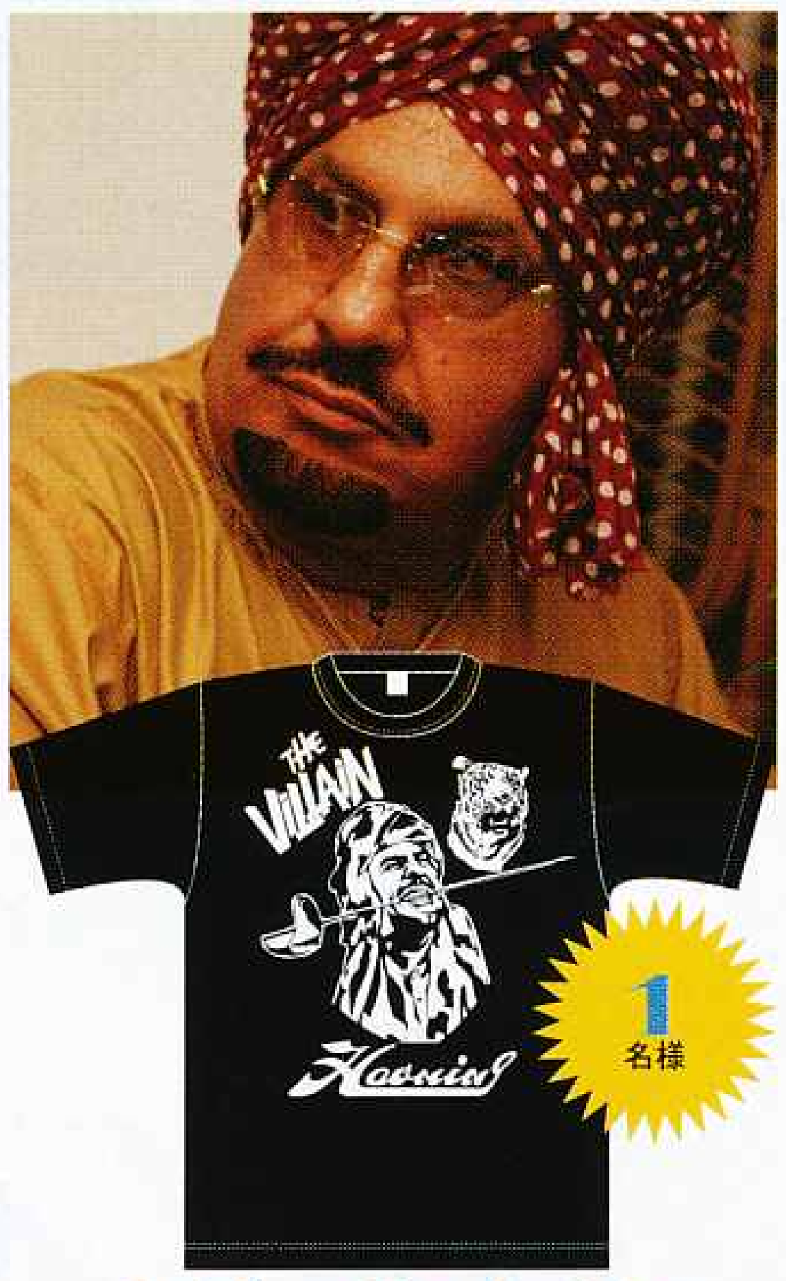
reversalが生んだ覆面、EL REVERSALマスクがTシャツに進化を遂げた。鮮やかな赤と青の2色で力強く彩られたマスクが神秘の力を感じさせるデザイン。さりげなくラメ加工も施されたreversalの自信作だ。

reversal■http://www.rvddw.com/

HUSTLE



1名様



1名様

\(^o^)/（バンザイ・チエ）Tシャツ

ホワイト×ネイビー／¥3,990（税込）

青木真也も「とっても気になる」ハッスル軍の天然少女\(^o^)/チエのTシャツが登場。ホワイト×ネイビーのさわやかな色合いに、チエのシルエットが浮かびあがる。HUSTLEロゴもプリントされた清純派の1枚。

タイガー・ジェット・シン ひび割れTシャツ

ブラック／¥4,200（税込）

絶対に近寄らないで下さい！ 今号の『プロレス探検隊』では小松隊員を血祭りにあげた"インドの狂虎"タイガー・ジェット・シン。見境なしに暴れ回る狂気に満ちたシンの表情をバッチリ収めた危険なTシャツが到着！

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

TAKADA DOJO

2名様





ダイヤモンドキッズ カレッジTシャツ

チビッ子たちも出てこいや～！ プロ選手たちも講師を務める髙田道場主催の『ダイヤモンドキッズカレッジ』。10月には五味隆典も登場するなど注目度満点のイベントの公式Tシャツをご提供！

髙田道場■http://www.takada-dojo.com/

NEW JAPAN









各1名様

キング・オブ・スポーツ クラシック半袖Tシャツ

ホワイト×レッド／¥2,500（税込）

プロレスTシャツといえばやっぱりこれ！ 誰もが知ってる定番中の定番、ライオンマーク入りのキング・オブ・スポーツクラシックTシャツの完全復刻版が再生産！ 28年の歳月を越えて、いまなお新しい古典的な名作です。

ライガーTシャツ

レッド／¥3,000（税込）

本誌No.115、No.116での船木誠勝との対談も大好評！ 今月は『なんでもランキング』にも登場して特撮作品への深い愛を披露してくれた獣神サンダー・ライガー。真紅の怒りに燃える新作Tシャツを1名様にご提供！

アイアム キレてないって！ Tシャツ

ホワイト×ブラック／¥3,000（税込）

新日マットで猛威をふるう"レジェンド"の新作Tシャツは、なんと蝶野&越中&長州の名ゼリフ「アイム、チョーノ！」「キレてないですよ」「やってやるって！」が一枚に合体だ、オラ！ 1名様にプレゼントだって！ タココラ!!

越中「風が吹くって！」Tシャツ

ホワイト／¥3,000（税込）

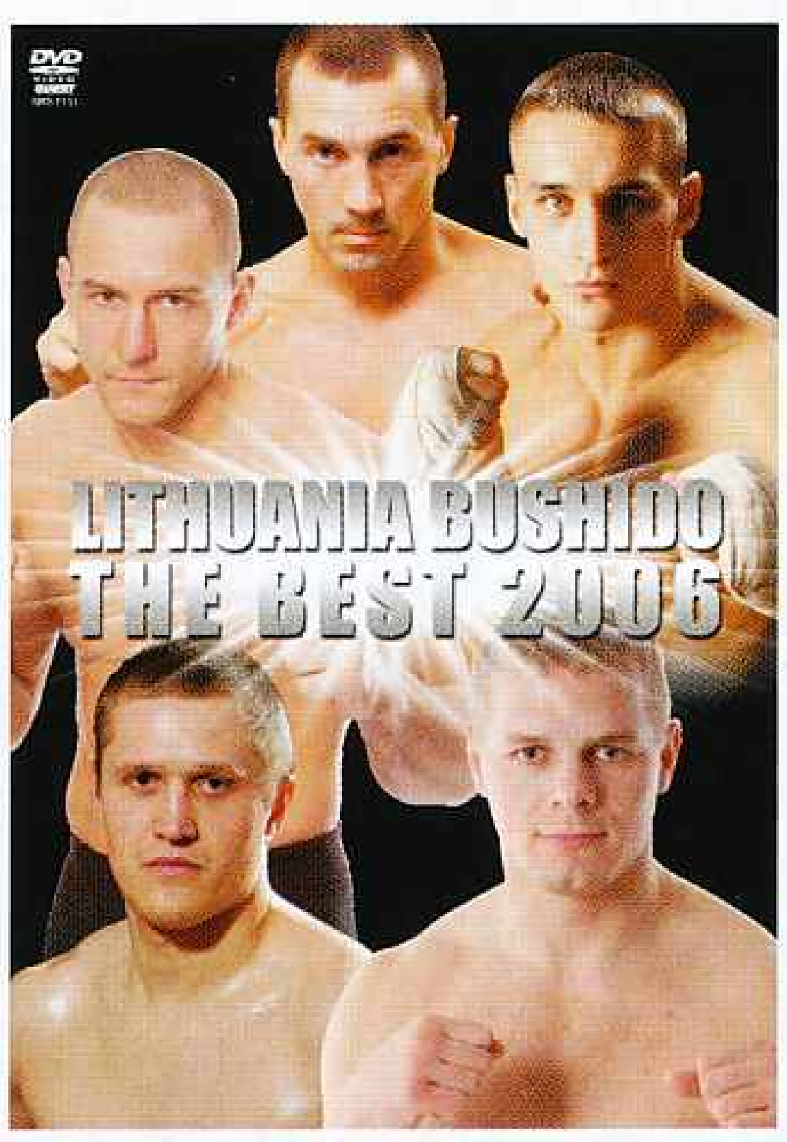
まだまだやってやるって！ 24年ぶりのメキシコ遠征を満喫している我らが"サムライ"越中詩郎の名言「風が吹くって！」を、ド迫力の越中イラストでTシャツ化！ 超大型台風なみに破壊力抜群の一枚だって！

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/ 闘魂SHOP■http://shop.njpw.co.jp/

QUEST

各1名様





『全日本キック THE 20th ANNIVERSARY ~another side~』

400分／¥10,500（税込）

全日本キック20周年記念総集編DVD。魔裟斗、小林聡、立嶋篤史、前田健作らキックボクシング史を彩る名選手のファイトを多数収録。キックファン感涙の永久保存版。

『リトアニアBUSHIDO THE BEST 2006』

120分／¥5,880（税込）

桜庭をKO寸前に追い込んだスミルノヴァスをはじめ、強豪を数多く輩出する北欧の格闘イベント『リトアニアBUSHIDO』。名プロデューサー・ドナタス氏選出の名勝負を堪能せよ！

QUEST■http://www.queststation.com/

G-RING

1名様



真壁刀義サイン入り『G-RING』

大都社／¥980（税込）

本誌『プロレス探検隊』でも大活躍の"GK隊長"こと金沢克彦氏が統括プロデューサーを務める"ゴングの魂"を継ぐ雑誌『G-RING』。表紙を飾った"暴走キングコング"こと、真壁刀義のサイン入りで1名様に提供。

株式会社大都社■http: //www.daitosha.jp/

PANCRACE



光留塾Tシャツ

イエロー／¥3,150（税込）

その変態レベルがますます上昇中！ 10月のパンクラス有明大会直前会見ではメイド服姿でエリカ様ネタまで披露してしまった、"アキバ系パンクラシスト"佐藤光留の公式Tシャツが到着。



各1名様

曹達也×沖縄Tシャツ

ホワイト／¥3,675（税込）

ゴーヤにシーサー、琉球舞踊。南国テイストあふれるTシャツがパンクラスから登場！ 沖縄の「闘心」ジム所属でパンクラスを主戦場に活躍している期待の若手、曹達也選手をフィーチャーしたトロピカルな雰囲気の新作だ。

パンクラス■http://www.pancrae.co.jp/

kamipro 紙のプロレス

No.117
2007年11月30日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（家族サービス@シーパラのため非番）

真っ黒
上杉コミッショナー

見習い
菅澤です

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（調教師）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

モテ男
ぷにかわ入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"半ぎっくり腰"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

©みのもけんじ



NEXT ISSUE

長南亮、郷野聡寛登場の11.17『UFC78』詳報、ショック死寸前な大晦日情報満載の
kamipro Special 2008 WINTERは
11月30日（金）発売予定!!

狂乱の大晦日決戦ド直前!!
2007年を締めくくる本誌No.118は
12月20日（木）発売予定!!

※ 地域によっては多少発売日が遅れます。



Fighter's Shop
BULL TERRIER
www.b-j-j.com
T-Shirts
Gloves
Outers
Jiu-jitsu Gi Fogo Model
Rush Guards & Combat Shorts
Jiu-jitsu Gi B-Fire Model
Jiu-jitsu Gi Star Model
Check here!!
www.b-j-j.com
www.btfightgear.com
Mobile
ファイターズショップ ブルテリア URL http://www.b-j-j.com　携帯サイト http://www.b-j-j.com/cgi-bin/i/index.cgi　〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町 1782-1-1F　TEL053-421-2534　FAX 053-421-2542

kamipro 2007 117 力を持って"夢の続き"の幕は開く! 皆さん、戦争が始まります!!

2007年11月30日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社



9784757738843

定価：本体838円＋税

雑誌 61955-57 Ⓗ2008.3

Printed in Japan 図書印刷

ISBN978-4-7577-3884-3
C9476 ¥838E

1929476008381

enterbrain